

Novell ZENworks® Server Management

6.5

www.novell.com

2004年2月11日

インストールガイド



Novell®

法的通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っていません。また本書の商品性および特定の目的への適合性について、いかなる默示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っていません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる默示の保証も否認し、排除します。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、Novell 製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

米国輸出規制または当該国の法律を含む（これに限られません）該当する法律や規制に違反して、この製品を輸出または再輸出することはできません。

Copyright © 1999-2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このガイドに記載されている製品で具体的に示されているテクノロジに関する知的所有権を有しています。特に、これらの知的所有権には、Novell Legal Web サイト (<http://www.novell.com/company/legal/patents/>) に記載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国および他の国における 1 つまたは複数のその他の特許または係属特許のアプリケーションを含んでいます（ただし、これらに限定されません）。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U. S. A.

www.novell.com

Novell ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド

2004 年 2 月 11 日

オンラインドキュメント： この製品およびその他の Novell 製品のオンラインドキュメントやアップデート版入手するには、www.novell.com/documentation を参照してください。

Novell の商標

ConsoleOne は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。
eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。
IPX は、米国 Novell, Inc. の商標です。
LANalyzer は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。
LANalyzer Agent は、米国 Novell, Inc. の商標です。
NCP は、米国 Novell, Inc. の商標です。
NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。
NetExplorer は、米国 Novell, Inc. の商標です。
NetWare は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。
NetWare Loadable Module は、米国 Novell, Inc. の商標です。
NetWare Management Agent は、米国 Novell, Inc. の商標です。
NLM は、米国 Novell, Inc. の商標です。
Novell は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。
Novell Certificate Server は、米国 Novell, Inc. の商標です。
Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。
Novell Cluster Services は、米国 Novell, Inc. の商標です。
Novell Technical Services は、米国 Novell, Inc. のサービスマークです。
SUSE は、ノベルの傘下である SUSE LINUX AG. の登録商標です。
ZENworks は、米国 Novell Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Third-Party Materials

すべてのサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	13
パート I 概要	
1 ZENworks Server Managementについて	17
Policy-Enabled Server Management	17
Policy and Distribution Servicesにおけるサーバの役割	18
Server Inventoryにおけるサーバの役割	19
Remote Managementにおけるサーバの役割	21
[Management and Monitoring Services]	22
Management Site Services	23
Server Management Agent	24
管理コンソール	24
Traffic Analysis Agent	24
Advanced Trending Agent	24
パート II 準備	
2 必要な情報	27
Policy-Enabled Server ManagementをNetWareおよびWindowsサーバにインストールするための情報	28
Policy and Distribution ServicesをLinuxおよびSolarisサーバにインストールするための情報	28
3 前提条件	31
インストールユーザの権利	31
Novell eDirectoryの要件	32
プラットフォームごとのeDirectoryの最低要件	32
eDirectoryのバージョンの確認	33
NetWareサーバでのeDirectoryのアップグレード	33
WindowsサーバでのeDirectoryのアップグレード	34
LinuxまたはSolarisサーバでのeDirectoryのインストールまたはアップグレード	34
eDirectoryコンテナの要件	35
ZENworksオブジェクトのコンテナ	35
ZENworksコンテナの作成	37
DNSの要件	38
4 インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件	39
一般的なワークステーションの要件	39
インストール固有のコンピュータの要件	40
管理固有のワークステーションの要件	41
ConsoleOne 1.3.6のインストール	42
5 サーバの要件	43
Policy-Enabled Server Management	44
一般的なサーバの要件	44
NetWareサーバの要件	45
Windowsサーバの要件	46
LinuxおよびSolarisサーバの要件	48

役割固有のサーバの要件	50
[Management and Monitoring Services]	53
一般的なサーバの要件	53
NetWare サーバの要件	53
Windows サーバの要件	54
Linux サーバの要件	55
役割固有のサーバの要件	56
パート III インストール	
6 Policy-Enabled Server Management のインストール	61
NetWare および Windows へのインストール	61
Policy-Enabled Server Management	61
Policy and Distribution Services の Web ベースの管理	90
Linux および Solaris へのインストール	95
インストール後の作業	98
Policy and Distribution Services	98
Server Inventory	103
7 Management and Monitoring Services のインストール	111
NetWare および Windows へのインストール	111
サーバソフトウェアのインストール	111
ConsoleOne スナップインのインストール	114
インストール後の作業	114
Linux へのインストール	115
Linux 上での SNMP Service の設定	117
パート IV アップグレード	
8 概要	121
ZENworks for Servers 2 からのアップグレード	121
Policy and Distribution Services、Remote Management、および Management and Monitoring Services	121
Server Inventory	122
ZENworks for Servers 3.x からのアップグレード	123
アップグレードの順序	123
アップグレード方法	124
アップグレード手順	124
ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップグレード	125
9 変更点と新機能	127
ZENworks 6.5 Server Management の最初のリリース	127
一般的な変更点	127
Policy and Distribution Services	132
Server Inventory	137
Remote Management	139
[Management and Monitoring Services]	140
ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1	145
管理対象デバイスの新しいプラットフォームのサポート	145
統合 Support Pack のサポート	146
Policy and Distribution Services	146
Server Inventory	147
Remote Management	149
[Management and Monitoring Services]	149
10 ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1	151
ウィザードまたはスクリプトを使用した SP1 へのアップグレード	151
アップグレードの概念と問題点	152

アップグレードするサーバの選択	154
NetWare および Windows サーバでの Policy-Enabled Server Management のアップグレード	155
Linux および Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のアップグレード	170
NetWare サーバ上での Management and Monitoring Services のアップグレード	172
Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード	176
アップグレードの概念と問題点	176
アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト	178
Server Software Package を使用した Policy and Distribution Services のアップグレード	178
Server Software Package を使用した Server Inventory のアップグレード	183
Server Software Package による Remote Management のアップグレード	185
11 Policy and Distribution Services	189
プログラム CD を使用したアップグレード	190
アップグレードの概念と問題点	191
アップグレードの準備	194
NetWare サーバおよび Windows サーバのアップグレード	195
Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード	217
Server Software Package を使用したアップグレード	221
アップグレードの概念と問題点	221
Server Software Package によるアップグレードの準備	225
Server Software Package によるアップグレード	226
12 Server Inventory	231
アップグレードを実行する前に確認すべき事項	232
Inventory Server	232
Inventory Agent	233
管理コンソール	233
Program CD を使用した Server Inventory コンポーネントのアップグレード	234
アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業	234
Program CD を使用したインベントリデータベースのアップグレード	236
Program CD を使用したインベントリサーバのアップグレード	238
Program CD を使用した Inventory Agent のアップグレード	240
Program CD を使用した Server Inventory ConsoleOne スナップインのアップグレード	241
データベース移行後の作業	241
Server Software Package を使用した Server Inventory コンポーネントのアップグレード	242
アップグレードの準備	243
ソフトウェアパッケージを使用したインベントリサーバのアップグレード	244
ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent のアップグレード	248
ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent の再インストール	249
13 Remote Management	251
プログラム CD を使用したアップグレード	251
Server Software Package を使用したアップグレード	252
ソフトウェアパッケージの自動インストール	252
ソフトウェアパッケージの手動インストール	253
インストールログファイル	254
14 [Management and Monitoring Services]	255
プログラム CD を使用したアップグレード	255
Management and Monitoring Services のアップグレード要件への合致	255
アップグレード実行前の確認事項	256
Management and Monitoring Services のアップグレード	256
Server Software Package を使用したアップグレード	259
ソフトウェアパッケージの自動インストール	259
ソフトウェアパッケージの手動インストール	261
インストールログファイル	264

15 ManageWise 2.7 からのアップグレード	265
ManageWise 2.7 および ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services コンポーネントの概要	265
ManageWise 2.7 のコンポーネント	265
ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services のコンポーネント	266
ManageWise 2.7 からのアップグレード	266
ManageWise 2.7 サーバから ZENworks 6.5 サイトサーバへのアップグレード	266
ManageWise 2.7 コンソールの ZENworks 6.5 コンソールへのアップグレード	266
ManageWise 2.7 Server Management Agent のアップグレード	267
ManageWise 2.7 Traffic Analysis Agent のアップグレード	267
ManageWise 2.7 の段階的なアップグレード	267
パート V 相互運用性	
16 Policy and Distributions Services の相互運用性	271
バージョン間の相互運用性	271
ZENworks for Servers 2 との相互運用性	271
ZENworks for Servers 3.x との相互運用性	271
ツリー間の Distribution	272
認識されない新機能	272
インストールとアップグレードを同時に実行する場合の問題点	272
17 インベントリの相互運用性	273
ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性	274
同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と	
ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性	274
複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と	
ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性	274
複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と	
ZENworks for Servers 3.0.2 間の相互運用性	281
ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、	
および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性	281
ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、	
および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性	282
ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、	
および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性	283
18 Remote Management の相互運用性	285
19 他の製品との相互運用性	287
Remote Management	287
Novell Clustering Services	287
Nterprise Branch Office	287
パート VI アンインストール	
20 Policy and Distribution Services のアンインストール	291
eDirectory オブジェクトのアンインストール	291
NetWare サーバのソフトウェアのアンインストール	292
Windows サーバのソフトウェアのアンインストール	294
Linux サーバおよび Solaris サーバのソフトウェアのアンインストール	296
ConsoleOne からのスナップインのアンインストール	296
Web コンポーネントのアンインストール	298
iManager 2.0.2	298
iManager 2.5	298

21 Server Inventory のアンインストール	299
Server Inventory の eDirectory オブジェクトのアンインストール	299
データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール	300
Sybase インベントリデータベースのアンインストール	300
NetWare サーバからのアンインストール	301
Windows サーバからのアンインストール	301
Sybase エンジンのアンインストール	302
NetWare サーバからのアンインストール	302
Windows サーバからのアンインストール	302
Inventory Agent のアンインストール	303
NetWare サーバからのアンインストール	303
Windows サーバからのアンインストール	304
インベントリサーバソフトウェアのアンインストール	304
NetWare サーバからのアンインストール	304
Windows サーバからのアンインストール	305
XML プロキシサーバのアンインストール	306
NetWare サーバからのアンインストール	306
Windows サーバからのアンインストール	307
ConsoleOne からの Server Inventory スナップインのアンインストール	307
22 Remote Management のアンインストール	309
Windows 管理対象サーバの Remote Management Agent のアンインストール	309
ConsoleOne からの Remote Management Server スナップインのアンインストール	310
23 Management and Monitoring Services のアンインストール	311
Management Site Services のアンインストール	311
Traffic Analysis Agent のアンインストール	312
NetWare サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール	312
Windows 2000/2003 サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール	313
Management Agent のアンインストール	313
NetWare サーバからの Server Management Agent のアンインストール	313
Windows サーバからの Windows 2000/2003 版 Management Agent のアンインストール	314
NetWare Advanced Trending Agent のアンインストール	314
Windows 2000/2003 Advanced Trending Agent のアンインストール	314
Linux Agent のアンインストール	314
パート VII 付録	
A 90 日間限定評価ライセンスのアップグレード	317
B Server Management Services の起動と停止	319
NetWare サーバ	319
Policy and Distribution Services	319
Server Inventory	320
[Management and Monitoring Services]	320
Windows サーバ	322
Policy and Distribution Services	322
Server Inventory	323
[Management and Monitoring Services]	323
Linux サーバまたは Solaris サーバ	325
Policy and Distribution Services	325
[Management and Monitoring Services]	325

C DNS 名の確実な解決	327
DNS の用語について	327
DNS 名におけるアンダースコア文字の使用	328
DNS 機能のテスト	328
DNS に関する Windows ワークステーションのテストと設定	328
DNS に関する NetWare サーバのテストと設定	329
DNS に関する Windows サーバのテストと設定	330
DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバのテストと設定	331
D Windows SNMP サービスのインストールと設定	333
E クラスタ環境での ZENworks Server Management	335
Novell Cluster Services および ZENworks Server Management の概要	335
クラスタレディモードとクラスタアウェアモード	336
クラスタリングの基本事項	336
クラスタリングのシステム要件への適合	337
ZENworks Server Management コンポーネントで使用するための共有ボリュームのクラスタ有効化	337
Novell Cluster Services のインストール	339
クラスタへの Policy and Distribution Services および Server Inventory のインストール	339
クラスタでの ZENworks の使用に関する問題	340
インストールの前に	340
インストール手順	341
Server Inventory の設定	343
クラスタでの Server Inventory のアンインストールと再インストール	343
クラスタへの Management and Monitoring Services のインストール	351
F セキュリティ保護されていない接続のための追加セキュリティのインストール	353
インストールの前提条件の充足	353
インストールに関する情報の収集	354
サーバ間通信セキュリティのインストール	355
サーバ間通信セキュリティの有効化	362
サーバ間通信セキュリティを有効にするための Text File Changes ポリシーの作成	363
Text File Changes ポリシーの配布	364
G インストールに関するエラーメッセージ	365
Novell eDirectory スキーマの拡張エラー	365
NetWare サーバおよび Windows サーバにおける Policy and Distribution Services のインストールエラー	365
Linux サーバまたは Solaris サーバにおける Policy and Distribution Services のインストールエラー	369
Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストールエラー	375
Server Inventory のインストールエラー	375
Remote Management のインストールエラー	410
Management and Monitoring Services のインストールエラー	413
H XMLRPC のライセンス契約	415
HELMA のライセンス	415
John Wilson のライセンス	416
Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス	416
I Java 2 Runtime Environment のライセンス契約	419
J UCD-SNMP および NET-SNMP のライセンス契約	421
CMU/UCD の著作権に関する通知 (BSD)	421
Networks Associates Technology, Inc の著作権に関する通知 (BSD)	422
Cambridge Broadband Ltd. の著作権に関する通知 (BSD)	422
K 正規表現の実装に関するライセンス契約	423

L ドキュメントの更新	425
2004年2月11日	425
準備	426
インストール	426
アップグレード	426
相互運用性	427
アンインストール	427
付録	427
2004年11月24日	428
アップグレード	428
相互運用性	428
2004年9月2日	428
準備	429
インストール	429
付録	429
2004年7月28日	430

このガイドについて

このガイドでは、Novell® ZENworks® 6.5 Server Management のインストール方法について説明します。このガイドはネットワーク管理者を対象としており、次の章で構成されています。

- ◆ 15 ページの「概要」
- ◆ 25 ページの「準備」
- ◆ 59 ページの「インストール」
- ◆ 119 ページの「アップグレード」
- ◆ 269 ページの「相互運用性」
- ◆ 289 ページの「アンインストール」
- ◆ 315 ページの「付録」

表記規則

Novell のマニュアルでは、大なり記号 (>) を使用して、手順説明の個々の操作や、相互参照パスの項目を区切れます。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標であることを示します。

プラットフォームによってバックスラッシュで表記する場合とスラッシュで表記する場合があるパス名は、バックスラッシュで表記します。Linux* など、スラッシュを使う必要があるプラットフォームを使用しているユーザは、必要に応じてスラッシュを使用してください。

ご意見の宛先

本マニュアルや本製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下にある「ご意見の宛先」機能を使うか、www.novell.com/documentation/feedback.html を使ってご意見をお寄せください。

ドキュメントの更新

このガイドの詳しい更新内容については、425 ページの付録 L、「ドキュメントの更新」を参照してください。

このガイドの最新バージョンについては、ZENworks 6.5 Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) を参照してください。

関連ドキュメント

ZENworks 6.5 Server Management の設定および管理に関する最新の情報については、『*ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>)』を参照してください。



概要

この章には次の情報が記載されています。

- ◆ 1 章 17 ページの「ZENworks Server Managementについて」

1

ZENworks Server Managementについて

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management は、マルチプラットフォームの全社的なネットワークに構築された多数のサーバを管理するための統合システムです。Server Management は複数のコンポーネントで構成されており、これらのコンポーネントはそれぞれのネットワーク管理ニーズに応じて、一緒に使用したり、個別に使用したりすることができます。

このガイドの最新バージョンについては、Web の『*ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド* (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>)』を参照してください。

アップグレードについては、119 ページの「**アップグレード**」を参照してください。

ZENworks 6.5 Server Management 用の Support Pack 1 (SP1) がリリースされています。詳細については、10 章 151 ページの「**ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1**」を参照してください。

インストールする Server Management コンポーネントを決定するには、次の節を参照してください。

- ◆ 17 ページの「**Policy-Enabled Server Management**」
- ◆ 22 ページの「**[Management and Monitoring Services]**」

Policy-Enabled Server Management

ZENworks Server Management を使って、ネットワークサーバを管理することができます。

コンポーネント	説明 (Description)
Policy and Distribution Services	Policy and Distribution Services は、特定の条件に基づいた、サーバに関する詳しい設定および動作を定義するポリシーを確立して、NetWare®、Windows*、Linux*、および Solaris* サーバにおける設定と動作の一貫性を保証します。Policy and Distribution Services を使用すると、新しいソフトウェアやアップデートされたソフトウェア、個別の実行可能ファイル、データベース、ドキュメント、テキストファイルなどを、ネットワーク上の任意のサーバに自動的に配布してインストールすることができます。
Server Inventory	Server Inventory は、ネットワーク上の任意の場所に存在するインベントリ対象 NetWare サーバおよび Windows サーバから、すべてのハードウェアおよびソフトウェアに関する全記録を収集します。ConsoleOne® から、一元化されたインベントリデータベースにアクセスすることにより、インベントリ情報に関するレポートを照会、表示、または生成できます。大規模なネットワークの場合、複数のサーバにまたがってインベントリ情報をロールアップすることができます。

コンポーネント	【説明 (Description)】
Remote Management	Remote Management により、まるでサーバのコンソールから操作しているように、ConsoleOne を使ってネットワーク内の任意の場所に存在する NetWare サーバおよび Windows サーバを制御できます。各管理対象サーバにインストールされた Remote Management Agent により、Remote Management セッションのセキュリティが確保されます。

Linux 環境のみの方は、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) で「Linux Management」を参照してください。

インストールするポリシー対応サーバ管理コンポーネントを決定する際には、次の節を参照してください。

- ◆ 18 ページの「Policy and Distribution Services におけるサーバの役割」
- ◆ 19 ページの「Server Inventory におけるサーバの役割」
- ◆ 21 ページの「Remote Management におけるサーバの役割」

Policy and Distribution Services におけるサーバの役割

Policy and Distribution Services オブジェクトは一度に 1 つのツリーにしかインストールできませんが、インストールプログラムを一度実行するだけで、ネットワーク内のすべての NetWare サーバおよび Windows サーバに Policy and Distribution Services ソフトウェアをインストールすることができます。したがって、インストール時に各サーバの役割を設定することができます。

サーバが Novell eDirectory™ ツリーを採用しているか、Microsoft* ドメインを採用しているかに関わらず、Policy and Distribution Services ソフトウェアを任意の NetWare サーバまたは Windows サーバにインストールすることもできます。これは、インストール時にツリーとドメインの両方を参照できるためです。

ツリーまたはドメインに属していないサーバについても、そのサーバに *ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を挿入して、Policy and Distribution Services ソフトウェアをインストールすることができます。

サーバの役割を定義する 2 つの Tiered Electronic Distribution オブジェクトが存在します。選択した役割に応じて、サーバにインストールされるソフトウェアが決定されます。オブジェクトには、Distributors、Databases、および Subscribers があります。次の節では、それぞれの役割について説明します。

Distributor サーバと Database

Distributor サーバは、配布タスクのほとんどを実行します。Distributor サーバは、ソフトウェアとポリシーパッケージをコンパイルして、他のサーバに配布します。

Policy and Distribution Services をインストールする最初のステップとして、サーバの最低要件を満たすサーバを 1 台選択し、それを Distributor サーバとします。これは、NetWare サーバまたは Windows サーバのいずれかです (45 ページの「NetWare サーバの要件」または 46 ページの「Windows サーバの要件」を参照してください)。

このサーバを必ずしも Distributor として使用する必要はありません。これは、このサーバ自体に Subsciber ソフトウェアもインストールできるためです。したがって、初めてインストールする場合、サーバとしての最低要件を満たしていれば、任意のサーバを選択することができます。

この最初の Distributor で作成した Distribution の割り当てを別の Distributor に変更するには、ConsoleOne で Distribution オブジェクトを右クリックして、[Assign New Distributor] を選択します。ただし、再割り当てを行う Distribution に関するすべてのファイルを最初の Distributor から新しい Distributor のファイルシステムにあらかじめコピーしておく必要があります。

関連情報については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Distributor オブジェクトの削除と Distribution への影響*」を参照してください。

Subscriber サーバ

Subscriber サーバは、ポリシー ソフトウェアの配布を受信します。各サーバに Subscriber ソフトウェアをインストールすることにより、ネットワーク内のサーバを管理することができます。

Policy and Distribution Services の管理対象に含めるすべてのサーバを記録します。これらの各サーバに対して Subscriber ソフトウェアをインストールする必要があります。

大規模なネットワークまたは複雑なネットワークの場合、Subscriber ソフトウェアを一度ではなく、少しずつサーバグループにインストールしていくことをお勧めします。たとえば、Policy and Distribution Services を段階的にロールアウトすることができます。

Subscriber ソフトウェアをサーバに段階的にインストールするには、サーバのインストールグループを決定します。この『*インストールガイド*』の指示に従って、サーバの最初のグループにインストールします。

次に他のサーバグループにインストールするには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*インストール後の設定*」を参照してください。

Server Inventory におけるサーバの役割

Server Inventory を使用すると、ネットワーク内の NetWare サーバおよび Windows サーバに関する全ハードウェア / ソフトウェアインベントリ情報を収集することができます。ネットワーク管理者は、一元化されたデータベースを使用して、このインベントリ情報を Novell ConsoleOne で照会、表示、またはレポートできます。大規模ネットワークの場合は、サーバ間でインベントリ情報をロールアップすることもできます。

次の節では、Server Inventory のコンポーネントについて説明します。

- **管理コンソール**：ZENworks Server Management Server Inventory ConsoleOne スナップインがインストールされた Novell ConsoleOne を実行している Windows ワークステーションまたはサーバ。管理コンソールは、ネットワークを管理するためのインターフェースになります。

管理コンソールのシステム要件に関する詳細については、「*39 ページの「インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件」*」を参照してください。

- **インベントリ対象サーバ**：スキャンの対象になるサーバ。そのハードウェアおよびソフトウェアのデータスキャン後、中央リポジトリにデータが保存されます。サーバの全ハードウェア / ソフトウェアインベントリを収集するには、対象になるサーバに Inventory Agent をインストールする必要があります。

インベントリ対象サーバを指定して、各サーバの識別名 (DN) を確認します。

重要: Windows サーバの場合は、サーバの DNS ショートネームとサーバ名を同じにする必要があります。Windows サーバの名前がその DNS ショート名と一致していない場合、一致するよう Windows サーバ名を変更してから Server Inventory のインストールを実行するか、Server Inventory のインストールにこうしたサーバを選択しないようにします。

インベントリ対象サーバのシステム要件に関する詳細については、「39 ページの「[インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件](#)」」を参照してください。

- **インベントリサーバ:** Inventory Service を実行するサーバ。インベントリサーバは、インベントリ対象サーバのグループからインベントリデータを収集し、そのデータをインベントリデータベースにロードします。インベントリサーバのインベントリを収集する場合には、インベントリサーバに Inventory Agent をインストールする必要があります。

インベントリサーバとして設定するサーバを指定します。

- **データベースサーバ:** インベントリデータベースが実行しているサーバ。このデータベースは、インベントリサーバでも、他のサーバでも実行できます。

インベントリデータベースは、インベントリの対象になる全サーバのインベントリデータを保持するレポジトリです。

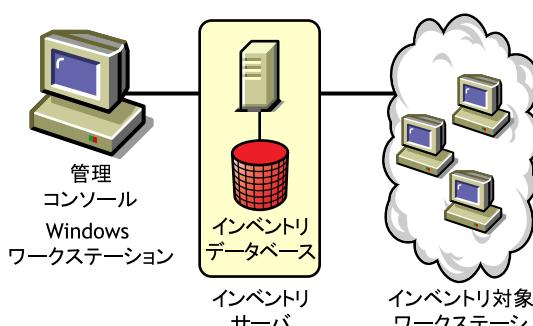
インストール時に、データベースファイルの保存先になるサーバを指定する必要があります。指定したサーバに、インベントリデータベースおよび関連データベースファイルがインストールされます。データベースは、インベントリサーバとして選択したサーバにも、他のサーバにもインストールできます。

Sybase データベースがインストールされ、サーバ上ですでに実行されている場合は、インストールプログラムの処理を続行する前に、Sybase のプロンプトで「**Q**」と入力してデータベースプロセスを終了します。

- **XMLプロキシサーバ:** スキャンデータをファイアウォール外のInventoryサーバに送信またはロールアップする場合は、XML Proxy Service を実行できるように NetWare サーバまたは Windows サーバを設定する必要があります。

ZENworks Server Management インストールプログラムの実行中に、XML Proxy Service を実行するサーバを指定する必要があります。

この『インストールガイド』では、ZENworks Server Management の Server Inventory に関する理解を深めるため、パイロットシステムの設定に焦点を当てています。次の図で示すようにパイロットシステムは、管理コンソール、インベントリサーバ、Sybase* を実行しているインベントリデータベース、および 1 台以上のインベントリ対象サーバで構成されます。



このセットアップには次の特徴があります。

- ・インベントリサーバとインベントリ対象サーバが同じ Novell eDirectory ツリーに存在します。
- ・インベントリサーバとインベントリ対象サーバが接続されています。
- ・インベントリサーバには、インベントリデータベースが接続されています。

インベントリスキャンサイクルは次のとおりです。

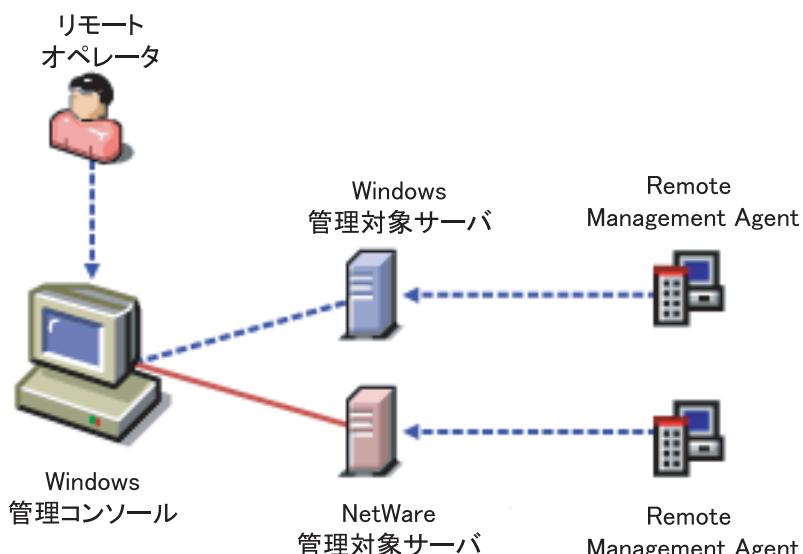
1. Inventory Scanner は、スキャンスケジュールに従ってインベントリ対象サーバから収集したハードウェアおよびソフトウェア情報をインベントリサーバに送信します。
2. インベントリサーバは、そのインベントリ情報をインベントリデータベースに保存します。
3. 管理コンソールで、[レポート中] > [概要] などのインベントリツールを使用してインベントリデータベースのインベントリ情報を参照および取得することができます。

作業環境に Server Inventory をインストールする前に、企業のインベントリサーバのツリー構造を計画して決定する必要があります。ネットワークおよび情報の要件に基づいて、インベントリの配置を決定しておく必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Server Inventory*」を参照してください。

Remote Management におけるサーバの役割

ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management により、リモートにある NetWare 5.1/6/6.5 サーバまたは Windows 2000/2003 サーバを、ご自分のコンピュータから制御および管理することができます。クライアントコンピュータのある場所に出来かける必要がある問題が発生しても、Remote Management を使用すれば、リモートから診断して解決することができます。

次の図に示すように、ZENworks Server Management の Remote Management セットアップは、1 台以上のリモートサーバ（管理対象サーバと呼ばれる）と、その管理に使用する Windows コンピュータ（管理コンソールと呼ばれる）で構成されます。



次の節では、Remote Management のコンポーネントについて説明します。

管理コンソール

ZENworks Server Management Remote Management ConsoleOne スナップインがインストールされた Novell ConsoleOne を実行している Windows ワークステーションまたはサーバ。管理コンソールは、ネットワークを管理するためのインターフェースになります。

リモートオペレータは、サーバをリモートから表示、制御、および管理できるユーザのことです。

管理者とは Remote Management をインストールする権利のある人のことです。管理者もリモートオペレータですが、すべてのリモートオペレータが管理者というわけではありません。

Management Server

Novell eDirectory と ZENworks Server Management Distributor コンポーネントがインストールされたサーバ。eDirectory と Distributor コンポーネントをインストールする必要があるのは、ポリシー対応 Remote Management が必要になる場合にだけです。管理サーバを管理対象サーバに設定することができます。

管理対象サーバ

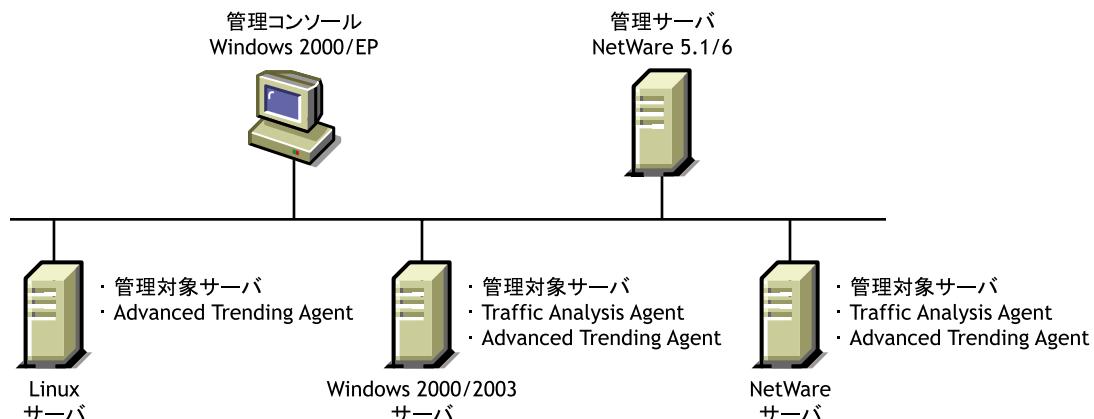
リモートからの制御または表示の対象になる NetWare 5.1/6.5 サーバまたは Windows 2000/2003 サーバ。リモートからサーバを表示または制御するには、そのサーバに ZENworks Server Management の Remote Management Agent をインストールする必要があります。

[Management and Monitoring Services]

Novell ZENworks Server Management の Management and Monitoring Services コンポーネントを使用することにより、業界標準テクノロジに基づいて、異種ネットワーク環境の監視、管理、およびレポートを実行できます。

コンポーネント	【説明 (Description)】
Management Site Services	Management Site Services には、自動ネットワーク検出、ネットワークトポジマッピング、アラーム管理、役割ベースの管理、統計レポート生成、および MIB ツールが含まれています。
Traffic Analysis Agent	Traffic Analysis Agent は、NetWare サーバおよび Windows サーバについて、ネットワークトラフィックの監視、データのキャプチャ、および監視対象になるネットワークセグメント / ノード / デバイスの統計情報の収集を実行します。収集されたデータの確認および分析に役立つツールが含まれています。
Server Management Agent	Server Management Agent により、NetWare、Windows、および Linux サーバ向けの SNMP ベース Management Agent が提供されます。こうした SNMP ベースのエージェントは、サーバのアラームやイベントに関する情報のほか、リアルタイムのサーバパフォーマンスデータを提供します。Server Management を使用すると、トレンド分析、グラフ化、および障害の管理などのタスクを実行できます。
Advanced Trending Agent	Advanced Trending Agent は、SNMP エージェントによって計測されるパラメータが MIB 変数により定義されており、単なる設定済み MIB 変数ではない場合に、そのパラメータのトレンドデータ（履歴データ）を収集および格納します。

次の図は、ZENworks Server Management のコンポーネントがどのようにしてインストールされるのかを示しています。



次の節では、Management and Monitoring Services のコンポーネントについて説明します。

- ◆ [23 ページの「Management Site Services」](#)
- ◆ [24 ページの「Server Management Agent」](#)
- ◆ [24 ページの「管理コンソール」](#)
- ◆ [24 ページの「Traffic Analysis Agent」](#)
- ◆ [24 ページの「Advanced Trending Agent」](#)

Management Site Services

Management Site Services には次の機能があります。

- ◆ アラーム管理
- ◆ データベース管理
- ◆ MIB ツール管理
- ◆ Monitoring Services
- ◆ ネットワーク検出
- ◆ レポート機能
- ◆ Role-Based Services
- ◆ トポロジマッピング
- ◆ View Builder
- ◆ サービスの統合ビュー
- ◆ Database Object Editor

Server Management Agent

管理対象に含まれるすべての NetWare、Windows、または Linux サーバを監視します。

管理コンソール

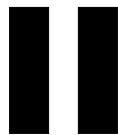
Windows の Novell ConsoleOne は、ネットワークを管理するためのインターフェースを提供します。

Traffic Analysis Agent

Ethernet、トーカンリング、または FDDI (Fiber Distributed Data Interface) ネットワークセグメントのすべてのトラフィックを監視します。このエージェントは、NetWare および Windows で利用できます。セグメントのネットワークトラフィックを監視するには、1 つのセグメントにつき 1 つの Traffic Analysis Agent が必要になります。

Advanced Trending Agent

MIB 変数によって定義されている場合、SNMP エージェントが計測したすべてのパラメータのトレンドデータ（履歴データ）を収集して保存します。このエージェントは、NetWare、Windows、および Linux で利用できます。



準備

Novell® ZENworks® Server Management を正しくインストールするには、次の情報を理解および使用して、インストールの要件を満たし、ソフトウェアをインストールする必要があります。

- ◆ ZENworks オブジェクトの Novell eDirectory™ ツリー
- ◆ ZENworks オブジェクトを作成するツリーコンテナ
- ◆ ネットワークサーバのプラットフォーム
- ◆ ターゲットサーバのハードウェアおよびソフトウェアの要件
- ◆ インストーラおよびインストールコンピュータの要件
- ◆ 管理ワークステーションの要件

次の節では、ネットワークに Server Management ソフトウェアをインストールするための準備に必要なこれらの情報を収集および使用する方法について説明します。

- ◆ [2 章 27 ページの「必要な情報」](#)
- ◆ [3 章 31 ページの「前提条件」](#)
- ◆ [4 章 39 ページの「インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件」](#)
- ◆ [5 章 43 ページの「サーバの要件」](#)

2 必要な情報

Server Management のどのコンポーネントをインストールする場合も、次の情報が必要です。

必要な情報	説明
eDirectory ツリー名	ZENworks オブジェクトの作成および管理に必要なツリーは 1 つだけです。ネットワークに複数の eDirectory ツリーがある場合は、ZENworks 用に使用するツリーを決定します。 ZENworks オブジェクト専用の「ZENworks」ツリーを作成すると、管理が容易になります。ZENworks にスキーマ拡張が必要になった場合は、この専用ツリーに対してのみ適用する必要があります。専用の ZENworks ツリーの詳細については、32 ページの「 Novell eDirectory の要件 」および『 <i>ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド</i> 』の「 ZENworks ツリーの使用 」を参照してください。
ネットワークに eDirectory がインストールされていない場合 (NetWare サーバ以外の場合)、eDirectory をインストールする Windows、Linux、または Solaris サーバを決定します。	
インストールコンピュータ	NetWare サーバや Windows サーバにインストールするには、Windows ワークステーションまたは Windows サーバを使用するかどうかを決定します。インストールコンピュータは、39 ページの「 インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件 」に示されている最低要件を満たしている必要があるので、使用するインストールコンピュータを指定する必要があります。
サーバプラットフォーム	これは、Server Management のコンポーネントをインストールするサーバです。サポートされるプラットフォームには、NetWare、Windows、Linux、および Solaris (コンポーネントによって異なる) があります。 特定のサーバプラットフォームで、どの Server Management コンポーネントがサポートされるかについては、43 ページの「 サーバの要件 」の表を参照してください。
ターゲットサーバ	Server Management コンポーネントのインストール先のサーバと、各サーバにインストールするコンポーネントを指定します。詳細については、15 ページの「 概要 」を参照してください。
データベース	データベースのインストール場所を決定する際に役立つ情報については、18 ページの「 Policy and Distribution Services におけるサーバの役割 」、19 ページの「 Server Inventory におけるサーバの役割 」、および 22 ページの「 [Management and Monitoring Services] 」を参照してください。

次の節では、コンポーネント固有の必要な情報と、各コンポーネントのインストール方法について説明します。

- ◆ 28 ページの「Policy-Enabled Server ManagementをNetWareおよびWindowsサーバにインストールするための情報」
- ◆ 28 ページの「Policy and Distribution ServicesをLinuxおよびSolarisサーバにインストールするための情報」

Policy-Enabled Server Management を NetWare および Windows サーバにインストールするための情報

インストールプログラムを実行するには、次の情報が必要です。

必要な情報	説明
ZENworks オブジェクト用の eDirectory コンテナ	ZENworks オブジェクトを効率的に管理できるようにコンテナを作成することをお勧めします。推奨するコンテナについては、35 ページの「eDirectory コンテナの要件」で説明します。コンテナを作成する手順については、37 ページの「ZENworks コンテナの作成」で説明します。
Distributor サーバ	Distributor ソフトウェアをインストールするために最低 1 台のサーバが必要です。Distributor のインストール場所を決定する際に役立つ情報については、18 ページの「Policy and Distribution Services におけるサーバの役割」を参照してください。

Policy and Distribution Services を Linux および Solaris サーバにインストールするための情報

インストールスクリプトを実行するには、次の情報が必要です。

必要な情報	説明
サーバの DNS 名	インストールスクリプトは、Distributor および Subscriber オブジェクトを作成する eDirectory ツリーのレプリカを保持するサーバの認証を得ることができます。このサーバとして、Linux、Solaris、NetWare、または Windows サーバを指定できます。インストールスクリプトがネットワーク内のサーバを識別できるように、サーバの完全修飾 DNS ホスト名または IP アドレスのいずれかがわかつている必要があります。例： Server1.Servers.novell.com
ユーザ名	インストールスクリプトが eDirectory サーバの認証を得るには、ツリーに対して Admin 相当の権利を持つユーザの完全識別ユーザ名およびパスワードがわかつている必要があります。例： admin.novell

必要な情報	説明
オブジェクトコンテキスト	インストールスクリプトで Distributor および Subscriber オブジェクトを作成する eDirectory コンテキストを決定する必要があります。使用できるのは既存のコンテナだけです。したがって、インストールスクリプトを実行する前にコンテナを作成する必要があります。例： Distributors.ZENworks.Novell Linux.Subscribers.ZENworks.Novell Solaris.Subscribers.ZENworks.Novell Policy and Distribution Services を NetWare または Windows サーバにすでにインストールしている場合、eDirectory ツリーに Distributor および Subscriber オブジェクト用の必要なコンテナがすでに存在している可能性があります。
Distributor オブジェクト名	Policy and Distribution Services をインストールしている Linux または Solaris サーバが Distributor として機能する場合、一意の Distributor オブジェクト名を選択する必要があります。選択した名前には、Linux または Solaris サーバの識別情報が含まれている必要があります。例： Distributor-Linux-01
Subscriber オブジェクト名	Policy and Distribution Services をインストールしている Linux または Solaris サーバが Subscriber として機能する場合、一意の Subscriber オブジェクト名を選択する必要があります。選択した名前には、Linux または Solaris サーバの識別情報が含まれている必要があります。例： Subscriber-Solaris-02
データベースオブジェクトの DN	インストールしている Distributor でデータベースに書き込む場合は、次のようなデータベースオブジェクトの DN がわかっている必要があります。 database.novell

インストール時にオブジェクト名を指定する場合、オブジェクト名と共にオブジェクトのコンテキストを含める必要があります。例：

`Distributor-Linux-01.Distributors.ZENworks.Novell`

重要：オブジェクト名やオブジェクトコンテキストに 2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

3 前提条件

この節では、ZENworks Server Management ソフトウェアのインストールを開始する前に満たしている必要がある一般的な要件を示します。

- ◆ 31 ページの「インストールユーザの権利」
- ◆ 32 ページの「Novell eDirectory の要件」
- ◆ 35 ページの「eDirectory コンテナの要件」
- ◆ 38 ページの「DNS の要件」

この節に示されている一般的な ZENworks Server Management のインストールの要件を満たしたら、43 ページの「サーバの要件」に進みます。

インストールユーザの権利

ZENworks Server Management のコンポーネントをインストールするユーザのネットワークアカウントには、インストールを実行するために次の権利が必要です。

- eDirectory スキーマを拡張するツリーのルートに対するスーパーバイザ権
スキーマの拡張は、インストールする ZENworks Server Management コンポーネントの数に関係なく、1回だけ実行する必要があります。複数のツリーがある場合、スキーマを拡張する必要があるのは、ZENworks オブジェクトをインストールするツリーだけです。
- インストール時に Distributor をルートのトラスティにするツリーのルートに対するスーパーバイザ権
ZENworks オブジェクトを作成すると、ツリーのルートにトラスティが追加されます。ただし、インストールユーザがインストール時にツリーのルートに対して十分な権利を持っていなかった場合、インストール後に手動でトラスティを追加できます。
- ZENworks オブジェクトを作成するコンテナでの読み込み権と作成権
- ZENworks Server Management コンポーネントをインストールするすべての NetWare サーバに対するファイル権利
- ZENworks Server Management コンポーネントをインストールするすべての Windows サーバに対する管理者権限
- Novell ConsoleOne®にZENworks Server Management サンプルをインストールするすべての Windows ワークステーションに対する管理者権限

Novell eDirectory の要件

Server Management は、eDirectory オブジェクトを使用して管理されます。したがって、Server Management を使用するには、ネットワーク内に eDirectory がインストールされている必要があります。ネットワークに NetWare がインストールされている場合は、eDirectory を利用できます。

ネットワークに複数の eDirectory ツリーが存在する場合は、ZENworks Server Management オブジェクトの管理に使用するツリーを決定します。このオブジェクトは、Server Management のインストール時に選択したツリーに作成されます。

ZENworks オブジェクトのインストールと管理専用の「ZENworks」ツリーを作成すると、管理が容易になります。専用の ZENworks ツリーの使用に関する詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「*ZENworks ツリーの使用*」を参照してください。

重要：Desktop Management が専用の ZENworks ツリーにインストールされている場合に、Desktop Application Distribution を作成するのであれば、Server Management にも同じ専用の ZENworks ツリーを使用する必要があります。

NetWare 以外のネットワークを使用している場合は、1 台の Windows、Linux、または Solaris サーバにのみ eDirectory をインストールする必要があります。

eDirectory の要件を満たすために、次の作業を行います。

- ◆ 32 ページの「*プラットフォームごとの eDirectory の最低要件*」
- ◆ 33 ページの「*eDirectory のバージョンの確認*」
- ◆ 33 ページの「*NetWare サーバでの eDirectory のアップグレード*」
- ◆ 34 ページの「*Windows サーバでの eDirectory のアップグレード*」
- ◆ 34 ページの「*Linux または Solaris サーバでの eDirectory のインストールまたはアップグレード*」

プラットフォームごとの eDirectory の最低要件

eDirectory の要件を満たす必要がある場合、Server Management で必要なバージョンはプラットフォームおよびインストールされている eDirectory のバージョンによって異なります。

サポートされている NetWare、Windows 2000、Linux、および Solaris のすべてのサーバプラットフォームについて、サポートされるバージョンは次のとおりです。

- ◆ eDirectory 8.6.x がインストールされている場合：バージョン 8.6.2 だけがサポートされます。
- ◆ eDirectory 8.7.x がインストールされている場合：バージョン 8.7.1 および 8.7.3 以降だけがサポートされます。

バージョン 8.7.3 for Windows は、*ZENworks 6.5 Companion 1 CD* にあります。

Windows Server 2003 サーバ (Windows 中心のネットワーク環境など) について、そのプラットフォームに eDirectory をインストールする場合、Server Management がそのサーバ上で機能するには、バージョン 8.7.3 以降である必要があります。

eDirectory のバージョンの確認

eDirectory がインストールされているかどうかおよびインストールされているバージョンを調べるには

- ◆ 33 ページの「NetWare での確認」
- ◆ 33 ページの「Windows での確認」
- ◆ 33 ページの「Linux および Solaris での確認」

NetWare での確認

1 NetWare サーバのコンソールのプロンプトで、次のように入力します。

```
version  
または  
modules ds
```

eDirectory のバージョンがその他の情報と共に表示されます。

Windows での確認

- 1 Windows サーバで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [プログラムの追加と削除] を選択します。
- 3 スクロールして Novell eDirectory のエントリを表示すると、そのバージョンが表示されます。

Linux および Solaris での確認

1 Linux サーバまたは Solaris サーバで、ndssstat を実行します。

ndssstat ユーティリティにより、eDirectory ツリー名、完全に識別されたサーバ名、および eDirectory バージョンなど、eDirectory サーバに関連する情報が表示されます。次の例の eDirectory 8.7.1 は製品バージョン（マーケティング文字列）を示し、10510.65 はバイナリバージョン（内部ビルド番号）を示します。

```
osg-dt-srv17:/>ndssstat  
Tree Name:SNMP-HPUX-RASH  
Server Name:.CN=osg-dt-srv17.O=novell.T=SNMP-HPUX-RASH.  
Binary Version:10510.65  
Root Most Entry Depth:0  
Product Version:NDS/Unix - NDS eDirectory v8.7.1 [DS]
```

ndssstat を実行する方法については、ndssstat の man ページ (ndssstat.1m) を参照してください。

NetWare サーバでの eDirectory のアップグレード

NetWare サーバにバージョン 8.6.2 または 8.7.1 以降がインストールされていない場合、NetWare サーバをバージョン 8.7.1 または 8.7.3 にアップグレードする手順については、eDirectory のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation>) を参照してください。

Windows サーバでの eDirectory のアップグレード

Windows 2000/2003 サーバに必要なバージョン 8.6.2、8.7.1、または 8.7.3 以降がインストールされていない場合、次のように eDirectory をインストールまたはアップグレードする必要があります。

1 Novell eDirectory のライセンスが必要です。必要なファイルは、eDirectory 8.7.x 評価ライセンスとして、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード Web サイト](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) (http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) からダウンロードできます。ZENworks 6.5 Companion 1 CD に収められている Novell eDirectory 8.7.3 for Windows にはライセンスウィザードが含まれており、インストール時にこれらのファイルが必要になります。

eDirectory の購入またはアップグレードの詳細については、[Novell eDirectory](http://www.novell.com/products/nds) (<http://www.novell.com/products/nds>) を参照してください。

2 メインインストールメニューで、[Companion Programs and Files] > [Novell eDirectory for Windows 2K] の順にクリックします。ZENworks 6.5 Companion 1 CD のロードを要求するメッセージが表示され、eDirectory インストールファイルの圧縮解凍に進みます。

重要: 抽出先 (デフォルトでは c:\docume~1\admini~1\locals~1\temp) を受け入れるように指示するメッセージが表示されたときに、この\temp ディレクトリに多くのファイルが存在している場合があります。したがって、eDirectory をインストールするための setup.exe ファイルを容易に見つけることができるよう、\Temp\edirInstall などのパスを追加します。

3 インストールプログラムの指示に従います。

ステップ 1 でダウンロードした評価ライセンスを要求するメッセージが表示されます。

4 インベントリサーバに eDirectory の一部として Novell Certificate ServerTM および LDAP をインストールする必要がある場合、操作手順については [Novell Product Documentation](http://www.novell.com/documentation) (<http://www.novell.com/documentation>) を参照してください。

Linux または Solaris サーバでの eDirectory のインストールまたはアップグレード

Windows 2000/2003 サーバに必要なバージョン 8.6.2、8.7.1、または 8.7.3 以降がインストールされていない場合、次のように eDirectory をインストールまたはアップグレードする必要があります。

1 [eDirectory Documentation Web サイト](http://www.novell.com/documenatation/edir873/index.html) (<http://www.novell.com/documenatation/edir873/index.html>) にアクセスします。

2 [インストールガイド] の見出しの下で、次の項目をクリックします。

Installing or Upgrading Novell eDirectory on Linux

または

Installing or Upgrading Novell eDirectory on Solaris

3 表示される手順に従います。

eDirectory コンテナの要件

ZENworks Server Management はディレクトリに対応しており、インストール時に eDirectory ツリー内に ZENworks Server Management の eDirectory オブジェクトが作成され、このオブジェクトを使用して Server Management を構成および管理できます。

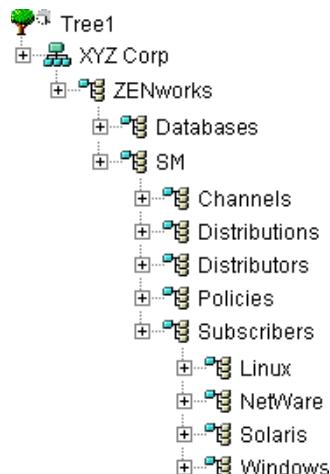
Server Management オブジェクトをインストールするためのデフォルトのコンテナは、サーバのオブジェクトが存在しているコンテナです。ただし、デフォルトのコンテナ以外のコンテナを使用できる場合は、デフォルトのコンテナを使用しないことをお勧めします。専用の ZENworks ツリーを使用する場合、そのツリーには NCP オブジェクトを保持できないので、コンテキストを選択する必要があります。

インストールを開始する前に、特定の ZENworks オブジェクトコンテナを作成します。次の節では、この作業について説明します。

- ◆ 35 ページの「ZENworks オブジェクトのコンテナ」
- ◆ 37 ページの「ZENworks コンテナの作成」

ZENworks オブジェクトのコンテナ

管理を容易にするために、すべての ZENworks オブジェクトを次のようなコンテナに配置することをお勧めします。



これらのコンテナの多くは Policy and Distribution Services にのみ適用されます。たとえば、Server Management は SM コンテナ、Desktop Management は DM コンテナ、HandHeld Management は HM コンテナをそれぞれ使用しますが、すべての ZENworks 製品は Databases コンテナを使用することができます。

[Standalone Pre-configure] オプションを使用して Server Inventory または Management and Monitoring Services をインストールしている場合は、Server Package オブジェクト用の場所が必要です。前の図に示されている Policies コンテナをお勧めします。

ZENworks ツリーを使用しない限り、その他の Server Inventory または Management and Monitoring Services のオブジェクトはすべて自動的にサーバの NCP サーバオブジェクトと同じコンテナに配置されます。その場合は、NCP サーバオブジェクトが存在するサーバのツリー内のコンテキストが表示されます。ただし、同じコンテキストが ZENworks ツリー内に存在しない場合、プログラムではそのような eDirectory コンテキストを作成しないため、コンテキストを変更する必要があります。

ツリー内の ZENworks オブジェクトの配置場所に関するその他の問題については、次の節を参照してください。

- ◆ 36 ページの「ZENworks コンテナの場所」
- ◆ 36 ページの「オペレーティングシステム固有のコンテナ」
- ◆ 36 ページの「専用の ZENworks ツリー」

ZENworks コンテナの場所

専用の ZENworks ツリーを使用していない場合、ZENworks コンテナはツリーのできる限り上位に配置する必要があります。これは、ツリーのルートから、ユーザ定義のポリシーを配置する場所までのフルパスが 64 文字に制限されているからです。ユーザ定義ポリシーの保存場所までのパスが長いと、ポリシーネームに数文字しか使用できなくなる場合があります。

図の中で、SM は Server Management を表します。他の ZENworks 製品も同様の略語を使用します。たとえば、DM は Desktop Management、HM は Handhelds Management を表します。このような短い略語によって、64 文字の中で使用する文字数を最小限にすることができます。

専用の ZENworks ツリーを使用すると ZENworks OU が必要でないため、文字数の削減に役立ちます。

オペレーティングシステム固有のコンテナ

特定のコンテナに関連付けることができる Service Location Package (Tiered Electronic Distribution ポリシーを含む) は 1 つだけです。Subscriber (および Distributor) オブジェクトの属性についてデフォルトのオペレーティングシステム固有の値を定義できるように複数の Tiered Electronic Distribution ポリシーを設定するには、プラットフォーム固有の Tiered Electronic Distribution ポリシーを適用できるように Subscriber オブジェクトをグループ化する必要があります。

したがって、図のように、Subscriber オブジェクトをオペレーティングシステム固有のコンテナに配置することをお勧めします。

専用の ZENworks ツリー

NCP サーバオブジェクトは専用の ZENworks ツリーには存在しません。専用の ZENworks ツリーの構成例を次に示します。



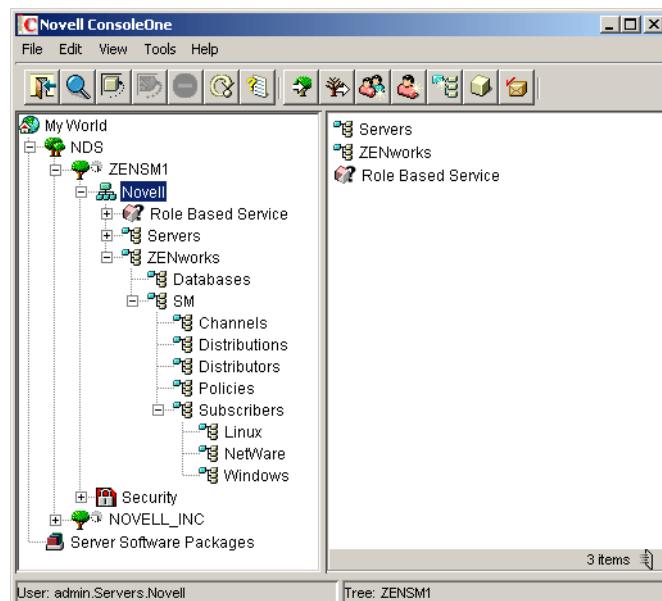
ZENworks オブジェクト専用のツリーには次の特長があります。

- ◆ ツリー内に存在するオブジェクトが少ない場合の管理が強化される。
- ◆ 新しい ZENworks スキーマ拡張を運用ツリーに適用する必要がない。
- ◆ ZENworks OU が不要であるうえに、ツリーが ZENworks_Boston のように名前の一部に ZENworks を持つことができるため、下位のすべてを 1 レベル上に移動できる。
- ◆ ZENworks コンテナを除外することで、65 文字の制限内でさらに 7 文字を使用できるため、ZENworks オブジェクト名をわかりやすくするなどに利用できる。

ZENworks コンテナの作成

専用の ZENworks ツリーを使用する場合は、先にツリーを作成してから次の手順を実行する必要があります。

- 1 ワークステーションにインストールされたコピーから ConsoleOne を起動します。
- 2 ConsoleOne で、Server Management オブジェクトを作成するツリーを選択します。



- 3 Server Management コンテナを作成するコンテキストを右クリックし、[New] > [Object] の順にクリックします。
この場所は、ツリー内のできる限り上位にします。
- 4 [Organizational Unit] を選択し、[OK] をクリックします。
- 5 (省略可能) コンテナ名として ZENworks を指定し、[OK] をクリックします。
重要: オブジェクト名に 2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。
- 6 ZENworks コンテナ（または、**ステップ 2** の例に示す「Novell」などの親組織）を右クリックし、[New] > [Object] を順にクリックします。
- 7 **ステップ 2** で示したのと同じ名前と配置で OU を作成します。
- 8 38 ページの「DNS の要件」に進みます。

DNS の要件

NetWareだけの環境に ZENworks Server Management をインストールする場合、DNS 名は必須ではありません。ただし、ネットワーク内に 1 台でも Server Management ソフトウェアをインストールする Windows、Linux、または Solaris サーバが存在する場合は、DNS が必須になります。

Management and Monitoring Services では、DNS は必要ありません。

DNS が必要で、Server Management ソフトウェア (Policy and Distribution Services、Server Inventory、および Remote Management のみ) をインストールする Windows、Linux、または Solaris サーバで DNS が使用されていない場合、その設定については、[327 ページの付録 C、「DNS 名の確実な解決」](#)を参照してください。

ネットワークで DNS が使用されている場合、ZENworks Server Management コンポーネントをインストールするすべてのサーバのホスト名の正引きおよび逆引き解決を実行できる DNS ネームサーバが必要です。これについては、[327 ページの付録 C、「DNS 名の確実な解決」](#)も参照してください。

4

インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件

要件には、インストールコンピュータと管理コンピュータの両方に共通であるものと、コンピュータの役割に固有なものがあります。

- ◆ 39 ページの「一般的なワークステーションの要件」
- ◆ 40 ページの「インストール固有のコンピュータの要件」
- ◆ 41 ページの「管理固有のワークステーションの要件」

ワークステーションの要件が満たされたら、43 ページの「サーバの要件」に進みます。

一般的なワークステーションの要件

次の要件は、インストールワークステーションと管理ワークステーションの両方で満たされている必要があります。

- Pentium* III プロセッサ以降
他の Pentium 互換プロセッサを含みます。
- 最低256MBのRAM。仮想メモリ（スワップスペース）対応（管理ワークステーションでは RAM の容量が大きいほど ConsoleOne のパフォーマンスが向上します）
- Novell Client™ 4.90 Support Pack 1a
ワークステーションの現在のバージョンを調べるには、システムトレイで [NetWare Services] を右クリックし、[Novell Client Properties] をクリックします。

インストールするには :ZENworks 6.5 Companion ICD を挿入し、メインインストールメニューで、[Companion Programs and Files] > [Novell Client] の順にクリックします。CD に収められている Novell Software Downloads Web サイトへのリンクを使用して、実行可能ファイル入手できます。

または

Novell Software Downloads (<http://download.novell.com>) から Windows 用の最新の Novell Client をダウンロードします。

- (省略可能) Internet Explorer 5.5 SP2以降。インストール時に製品の Readme (HTML ファイル) を表示し、インストール後に Web にある Novell のマニュアルを表示するに必要
Internet Explorer のバージョンを調べるには、[ヘルプ] をクリックし、[バージョン情報] をクリックします。

ConsoleOne と Novell iManager の要件を満たす Internet Explorer のバージョンは 2 つあります。

- ◆ Internet Explorer 5.5
- ◆ Internet Explorer 6

ダウンロードするには、[Internet Explorer \(http://www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/default.asp\)](http://www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/default.asp) を参照してください。

□ eDirectory オブジェクト名の拡張文字を作成および表示するための自動文字エンコーディング

Internet Explorer で、[表示] > [エンコード] の順にクリックし、[自動選択] を選択します。

□ (省略可能) Adobe* Acrobat Reader* 5.0.5 以降。ZENworks 6.5 Server Management Program CD に収められている『ZENworks 6.5 Server Management インストールガイド』や、Web サイトで入手した PDF 形式の Novell 製品のマニュアルを表示するために必要

Reader をインストールするには :ZENworks 6.5 Companion 2 CD を挿入し、最初のインストールメニューで、[Documentation]、[Adobe Acrobat Reader] の順にクリックします。これによって、自動的に CD からインストールファイルが実行されます。

□ ConsoleOne 1.3.6 以降。インストール前に eDirectory に ZENworks 固有のコンテナを作成し、インストール後に Server Management を管理するために必要

インストール処理中に複数のワークステーションに ZENworks Server Management 用の ConsoleOne スナップインをインストールし、これらの各ワークステーションから ZENworks Server Management を管理できます。そのためには、スナップインをインストールする各ワークステーションに ZENworks 6.5 Companion 1 CD から ConsoleOne をインストールしておく必要があります。

ConsoleOne のインストールについては、42 ページの「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」を参照してください。

□ ConsoleOne をローカルワークステーションにインストールするために 70MB の空きディスク容量

インストール固有のコンピュータの要件

Server Management をインストールするには、インストールコンピュータ（ワークステーションまたはサーバ）からターゲット eDirectory ツリーにアクセスする必要があります。さらに、次の最低要件が満たされている必要があります。

- Windows 2000 (Professional SP4 または Server SP4)、Windows Server 2003 (Standard または Enterprise Editions)、または Windows XP Professional SP1a
- Installation Wizard に対応するために最低 1024 x 768 に設定された Windows 表示領域
- DNS ネームサーバへのアクセス

詳細については、327 ページの付録 C、「DNS 名の確実な解決」を参照してください。

管理固有のワークステーションの要件

ZENworks Server Management では、eDirectory 内の ZENworks オブジェクトの管理に ConsoleOne を使用します。インストール後、ConsoleOne を実行して ZENworks Server Management を管理するワークステーションは、次の最低要件を満たしている必要があります。

- Windows 2000 Professional SP4 または Windows XP Professional SP1a

Novell Client 4.9 がインストールされている場合は、Windows サーバ (2000/2003) を管理ワークステーションとして使用することもできます。

重要：ZENworks Server Management では、サーバのコンソールを使用してその NetWare サーバにインストールされた ConsoleOne のインスタンスを実行することはサポートしていません。サーバにインストールされた ConsoleOne を使用するには、ワークステーションのドライブをそのサーバにマップし、ワークステーションから ConsoleOne を実行する必要があります。

- (省略可能) NetWare、Windows、Linux、または Solaris¹ サーバにインストールされた iManager 2.0.2、2.5、またはそれ以降へのアクセス

¹ZENworks 6.5 SP1 の場合、Solaris サーバには Server Management スナップインはサポートされていません。

ConsoleOne に加えて、iManager を使用して Policy and Distribution Services で使用される Tiered Electronic Distribution オブジェクトを管理できます。プラグインをインストールする手順については、90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」を参照してください。

警告：以前のバージョンの iManager を、ZENworks 6.5 Server Management と共に使用することはできません。

段階的なアップグレードを計画している場合は、そのようなサーバの管理を継続するために、ZENworks for Servers 3.x の管理に使用している古いバージョンの iManager を保持しておく必要があります。同じコンピュータに 2 つの異なるバージョンの iManager をインストールすることはできないので、iManager 2.x をインストールする場合は別のコンピュータを選択します。

iManager を Windows コンピュータにインストールするには : ZENworks 6.5 Companion 1 CD を挿入し、メインインストールメニューで、[Companion Programs and Files] > [Novell iManager] の順にクリックします。これによって、自動的に CD からインストールファイルが実行されます。

重要：Windows Server 2003 コンピュータの場合、iManager 2.0.2 または 2.5 が機能するには eDirectory 8.7.3 が必要です。ただし、eDirectory をこの Windows コンピュータにインストールする必要はありません。eDirectory は、iManager がアクセスできるネットワーク上の場所にインストールすれば使用できます。

iManager をその他のプラットフォームにインストールするには

- ◆ NetWare 6 の場合は、ZENworks 6.5 Companion 1 CD から iManager 2.0.2 をインストールできます。¥Novell iManager¥iMan_202_NW60_Standalone.exe を参照し、NetWare 6 にインストールするためのインストールプログラムを実行します。このファイルは、Novell ダウンロード Web サイトでも入手できます。
- ◆ NetWare 6.5 の場合は、NetWare 6.5 を Support Pack 1 (SP1) 以降にアップグレードすることによってのみ、iManager 2.0.2 をインストールできます。
- ◆ Linux または Solaris の場合は、iManager のインストールファイルを [Novell Product Downloads \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からダウンロードする必要があります。

- (Remote Management のみ) IP プロトコルスタック

ConsoleOne 1.3.6 のインストール

ZENworks Server Management は、主に ConsoleOne を使用して管理するので、ZENworks Server Management をインストールする前に、最低 1 台のワークステーションまたはサーバに ConsoleOne 1.3.6 をインストールしておく必要があります。ConsoleOne で現在のバージョンを確認するには、[Help] をクリックし、[About ConsoleOne] をクリックします。

ConsoleOne をインストールするには

- 1 *ZENworks 6.5 Companion 1 CD* を挿入し、メインインストールメニューで、[Companion Programs and Files] > [Novell ConsoleOne] の順にクリックします。

これによって、*ZENworks 6.5 Companion 1 CD* から実行可能ファイルが実行され、[WinZip Self-Extractor] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [Setup] をクリックします。

ファイルが抽出されると、インストールプログラムが起動します。

- 3 [Next] をクリックしてインストールを開始します。

- 4 使用許諾契約を確認し、[Accept] をクリックします。

- 5 ConsoleOne をインストールする場所を参照して選択し、[Next] を 2 回クリックします。

- ◆ NetWare サーバでは、sys:\$public\$mgmt を選択します。

- ◆ Windows サーバまたはワークステーションでは、c:\$novell を選択します。

以前のバージョンの ZENworks Server Management 用に使用しているワークステーションに古いバージョンの ConsoleOne がインストールされている場合は、別のパスを指定できます。たとえば、¥1.2 ディレクトリを ¥1.3 や ¥1.3.6 に変更します。

- 6 英語以外にインストールする言語を選択し、[Next] を 2 回クリックします。

- 7 インストールされる製品の概要を確認した後、[Finish] をクリックします。

オブジェクトが分析され、インストールが実行されます。

- 8 インストールが完了したら、[Close] をクリックします。

- 9 ConsoleOne で Server Management にアクセスするために使用する各コンピュータについて、この手順を繰り返します。

重要: ZENworks Server Management では、NetWare サーバにインストールされた ConsoleOne のインスタンスから、NetWare のグラフィカルコンソールで ConsoleOne を実行することはサポートしていません。NetWare サーバにインストールされた ConsoleOne を使用するには、ワークステーションのドライブをそのサーバにマップし、ワークステーションから ConsoleOne を実行する必要があります。ただし、ワークステーションから直接 ConsoleOne を実行する場合よりも実行速度は遅くなります。

5

サーバの要件

ZENworks Server Management ソフトウェアコンポーネントは、最低限のサポート / サービスパックがインストールされた次のサーバプラットフォームでサポートされています。

ソフトウェアをインストールするためにサポートされているサーバプラットフォーム	Policy and Distribution Services	Server Inventory	Remote Management	Management and Monitoring Services
NetWare 5.1 SP6、SP7、または SP8 ⁴	Yes	Yes ¹	Yes	Yes
NetWare 6 SP4 または SP5	Yes	Yes	Yes	Yes
NetWare 6.5 SP1a、SP2、または SP3 ⁴	Yes	Yes	Yes	Yes
Linux ²	Yes	No	No	Yes ³
Solaris 9	Yes	No	No	No
Windows 2000 SP4	Yes	Yes	Yes	Yes
Windows Server 2003	Yes	Yes	Yes	Yes

¹ Inventory Agent に対してのみ。

² 次のものが含まれます。

SUSE® LINUX Enterprise Server 8
SUSE LINUX Enterprise Server 9
SUSE LINUX Standard Server 8
SUSE LINUX Standard Server 9
Red Hat* Advanced Server 2.1
Red Hat Enterprise Server 2.1
Red Hat Enterprise Linux AS 3
Red Hat Enterprise Linux ES 3

³ Server Management Agent および Advanced Trending Agent に対してのみ。

⁴ SP8 for NetWare 5.1 または SP3 for NetWare 6.5 は、Support Pack 1 (SP1) のみでサポートされます。

さらに、ZENworks 6.5 Server Management 用 SP1 がインストールされている場合、次のオペレーティングシステムがサポートされます。

Novell Open Enterprise Server (OES)。ただし、管理対象サーバ専用
Citrix* Metaframe

SP1 の詳細については、10 章 151 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」を参照してください。

サーバの要件は、次の見出しの下でプラットフォームごとに示されています。

- ◆ 44 ページの「Policy-Enabled Server Management」
- ◆ 53 ページの「[Management and Monitoring Services]」

Policy-Enabled Server Management

この節では、Policy and Distribution Services、Server Inventory、および Remote Management の最低限のサーバ要件について説明します。

- ◆ 44 ページの「一般的なサーバの要件」
- ◆ 45 ページの「NetWare サーバの要件」
- ◆ 46 ページの「Windows サーバの要件」
- ◆ 48 ページの「Linux および Solaris サーバの要件」
- ◆ 50 ページの「役割固有のサーバの要件」

一般的なサーバの要件

一般的な要件については、次の節を参照してください。

- ◆ 44 ページの「混在 eDirectory 環境」
- ◆ 45 ページの「NetWare Support Pack」
- ◆ 45 ページの「Windows Service Pack」

混在 eDirectory 環境

ZENworks Server Management は、混在 eDirectory 環境で実行できます。たとえば、ネットワークに eDirectory 8.x と NDS® 6.x または 7.x の両方がインストールされている場合があります。

ZENworks Server Management では、製品のインストール時にツリーにオブジェクトを配置できるように、eDirectory 8.6.2 または 8.7.1 以降が必要です。eDirectory はマスタレプリカと共にネットワーク内の任意の場所にインストールされている必要がありますが、ZENworks Server Management ソフトウェアをインストールするサーバにインストールする必要はありません。

Server Management サーバの要件は、(NCP サーバオブジェクトが存在するパーティションの) eDirectory マスタレプリカがインストールされているサーバと通信できることだけです。したがって、Server Management をインストールする各サーバに eDirectory をインストールする必要はありません。

NetWare Support Pack

NetWare サーバ上の現在の Support Pack のバージョンを調べるには、サーバコンソールのプロンプトで

version

と入力します。

Support Pack は、[Novell サポート \(http://support-j.novell.co.jp/\)](http://support-j.novell.co.jp/) からダウンロードできます。

Windows Service Pack

Windows サーバ上の Service Pack のレベルを調べるには、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

Service Pack は、[Microsoft \(http://www.microsoft.com/japan/\)](http://www.microsoft.com/japan/) の Web サイトからダウンロードできます。

NetWare サーバの要件

Policy and Distribution Services および Server Inventory を使用する場合の、一般的な NetWare の最低要件は次のとおりです。

要件	Policy and Distribution Services	Inventory Server	Inventory Agent Server
Novell eDirectory	8.6.2 または 8.7.1 ¹	8.6.2 または 8.7.1	8.6.2 または 8.7.1
Policy and Distribution データベースファイルの キャッシュ	32MB	該当なし	該当なし
空きディスク容量	35MB (Policy and Distribution Services の ファイル)	50MB (Inventory とデータベース)、25MB (Inventory のみ)	該当なし
ConsoleOne スナップイン用 のディスク容量	70MB	70MB	該当なし
データベースファイルの場所	sys: 以外の任意のボリューム	sys: 以外の任意のボリューム	該当なし
IP Address	該当なし	有効な IP アドレスおよび IP Services がインストールさ れていること	有効なアドレス
Subscriber	該当なし	該当なし	オブジェクトおよびソフト ウェアのみ (Server Inventory、Inventory Agent、および Remote Management)
			詳細については、61 ページ の「NetWare および Windows へのインストール」を参照し てください。

要件	Policy and Distribution Services	Inventory Server	Inventory Agent Server
サーバのCPUのタイプ	Pentium III ² Policy and Distribution Services の効率性を向上させるには、プロセッサの速度を向上させるよりも、RAMの容量を増やすことが重要です。	Pentium III	Pentium III

¹ 詳細については、32 ページの「Novell eDirectory の要件」を参照してください。

² この要件で Pentium と記述されている箇所は、すべての Pentium 互換プロセッサが含まれます。

Policy and Distribution Services および Server Inventory を使用する場合の、プラットフォーム固有の NetWare の最低要件は次のとおりです。

要件	Policy and Distribution Services	Server Inventory
NetWare 5.1: Support Pack のバージョン	5	5 ¹
NetWare 6: Support Pack のバージョン	4	4
NetWare 6.5: Support Pack のバージョン	1a	1a
NetWare 5.1: サーバの RAM	Policy/Distribution: 384MB。 Policy and Distribution Services の展開の規模が大きい場合は 512MB を推奨	384MB。 512MB を推奨
NetWare 6/6.5: サーバの RAM	512MB	512MB

¹ Inventory Agent に対してのみ。

Windows サーバの要件

次の要件は、すべての Windows のバージョンに該当します。

- ◆ **Samba:** Policy and Distribution Services を Samba サーバにインストールすることはできません。
- ◆ **DNS:** すべてのターゲット Windows サーバには、完全修飾 DNS 名が必要です。 詳細については、38 ページの「DNS の要件」を参照してください。
- 重要:** Windows サーバの場合は、サーバの DNS ショートネームとサーバ名を同じにする必要があります。 Windows サーバの名前がその DNS ショートネームと一致していない場合、一致するよう Windows サーバ名を変更してから Server Inventory のインストールを実行するか、Server Inventory のインストールにこのようなサーバを選択しないようにします。
- ◆ **Windows 中心のネットワーク環境:** eDirectory 8.7.1 を、Distributor サーバなど、最低 1 台の Windows 2000 サーバにインストールしている場合、Windows 中心のネットワークで Policy and Distribution Services を実行できます。 eDirectory を Windows Server 2003 サーバにインストールするには、eDirectory 8.7.3 が必要です。

eDirectory を Windows サーバにインストールすることによって、Windows 中心のネットワークで ZENworks eDirectory オブジェクトを管理できます。eDirectory は、ネットワーク内のすべての Windows サーバに必要であるわけではなく、1 台のサーバにのみ必要になります。

- ♦ **ローカルWindows サーバへのインストール:** Windows 2000/2003 サーバにローカルにインストールするには、そのサーバで必須の Novell Client が実行されている必要があります。Novell Client が実行されていない場合、Windows のそのインスタンスではインストールプログラムは実行されません。

ただし、ローカルにではありませんが、Novell Client が実行されていない Windows サーバにインストールすることはできます。Novell Client が実行されているワークステーションでインストールプログラムを実行し、[Server Selection] ページで、クライアントが実行されていない Windows サーバを参照して選択することによって、この Windows サーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールできます。

- ♦ **混在ネットワーク環境:** ZENworks Server Management は、混在 eDirectory 環境で実行できます。たとえば、ネットワークに eDirectory 8.x と NDS 6.x または 7.x の両方がインストールされている場合があります。

ZENworks Server Management では、製品のインストール時にツリーにオブジェクトを配置できるように、eDirectory 8.6.2 または 8.7.1 以降が必要です。

eDirectory はマスタレプリカと共にネットワーク内の任意の場所にインストールされている必要がありますが、ZENworks Server Management ソフトウェアをインストールするサーバにインストールする必要はありません。

Server Management サーバの要件は、(NCP サーバオブジェクトが存在するパーティションの)eDirectory マスタレプリカがインストールされているサーバと通信できることだけです。したがって、Server Management をインストールする各サーバに eDirectory をインストールする必要はありません。

Policy and Distribution Services および Server Inventory を使用する場合の、一般的な Windows の最低要件は次のとおりです。

要件	Policy and Distribution Services	Server Inventory
サーバの CPU のタイプ	Pentium III	Pentium III
サーバの RAM	512MB	512MB
空きディスク容量	35MB	50MB (Inventory とデータベース)、 25MB (Inventory のみ)
ConsoleOne スナップイン用のディスク容量	50MB	50MB
eDirectory	該当なし	該当なし
Subscriber	該当なし	オブジェクトおよびソフトウェアのみ (Server Inventory、Inventory Agent、 および Remote Management)
		詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Server Management コンポーネントのプラットフォーム固有の最低要件は次のとおりです。

要件	Policy and Distribution Services	Server Inventory
Windows 2000 Service Pack のバージョン ¹	4	4

¹ Windows Server 2003 の場合はサービスパックは必要ありません。

Linux および Solaris サーバの要件

インストールスクリプトを実行するには、次の要件を満たす必要があります。

- ◆ 48 ページの「ハードウェアおよびソフトウェア要件」
- ◆ 49 ページの「サーバのアクセス性の要件」
- ◆ 50 ページの「管理の要件」

ハードウェアおよびソフトウェア要件

Policy and Distribution Services を Linux または Solaris サーバにインストール場合のシステムの最低要件は次のとおりです。Server Inventory および Remote Management は、Linux または Solaris にはインストールできません。

要件	Linux	Solaris
OS のバージョン (Operating System Version)	サポートされる Distribution: SUSE LINUX Enterprise Server 8 SUSE LINUX Enterprise Server 9 SUSE LINUX Standard Server 8 SUSE LINUX Standard Server 9 Red Hat Advanced Server 2.1 Red Hat Enterprise Server 2.1 Red Hat Enterprise Linux AS 3 Red Hat Enterprise Linux ES 3	9 (リリースレベルは、 <code>uname -r</code> コマンドで表示されます)
コンピュータのタイプ	IBM* 互換 PC	Sun* Microsystems
サポートされるプロセッサ	Intel* for Linux	SPARC* for Solaris
サーバの RAM	最低 128MB 256MB を推奨	最低 256MB
サーバの CPU のタイプ	200MHz Pentium 以上	該当なし
Policy and Distribution Services のファイル用の空きディスク容量	150MB	195MB

重要: Policy and Distribution Services をインストールする Linux または Solaris サーバのホスト名は、DNS ショートネームと同じである必要があります。

サーバのアクセス性の要件

tednode.properties 環境設定ファイルを編集すると、Linux および Solaris サーバに Policy and Distribution Services をインストールするために使用されるインストールスクリプト (95 ページの「Linux および Solaris へのインストール」を参照) で、次のいずれかの場所 (システムの検索順序によって異なる) から取得されたローカル Linux または Solaris サーバの完全修飾 DNS ホスト名が表示されます。

- ◆ DNS (Domain Name System)
- ◆ NIS (Network Information Service)
- ◆ Linux または Solaris サーバ上の /etc/hosts ファイル

インストールスクリプトによって、表示されている情報の確認を求めるメッセージが表示されます。

1 DNS エントリが正しい場合は、「**y**」と入力し、<Enter> キーを押します。

または

DNS エントリが正しくない場合は、「**n**」と入力し、<Enter> キーを押します。正しい完全修飾 DNS ホスト名を入力し、<Enter> キーを押します。「**y**」と入力して変更された DNS ホスト名を確認し、<Enter> キーを押します。

重要: DNS 情報が正しくない場合、Policy and Distribution Services はそのサーバ上で正しく機能しません。

正しい DNS エントリを指定した後、user_Name パラメータで指定したユーザに対応するパスワードを入力するよう求めるメッセージが表示されます。

2 インストールスクリプトは、次のファイルにアクションのログを記録します。

/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-pds-install.log

インストールが正常に完了しなかった場合、このログファイルを出力できます。インストールエラーの検索については、365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」を参照してください。問題を解決し、正しくインストールを実行します。

管理の要件

Policy and Distribution Services をインストールする Linux または Solaris サーバでサーバの要件を満たすことに加えて、ネットワーク内で次の要件を満たす必要があります。

- Novell eDirectory 8.6.2 または 8.7.1 以降が、ネットワーク内の最低 1 台のサーバ (NetWare、Windows、Linux、または Solaris) で実行されている必要があります。これは、Linux または Solaris サーバ用に作成される Distributor および Subscriber オブジェクトをインストールおよび管理するために必要です。
詳細については、[32 ページの「Novell eDirectory の要件」](#)を参照してください。
- Server Management データベースをサポートするために、ネットワーク内に最低 1 台の NetWare または Windows サーバが必要です。現在、Server Management データベースは Linux または Solaris サーバでは作成できません。このデータベースは省略可能ですが、履歴レポーティングや複数のサーバに配布されたポリシーに関するレポーティングのために推奨されています。
Server Management データベースには、レポーティング用のログメッセージが格納され、Distribution 処理の成功と失敗やポリシーのステータスの詳細が記録されます。このデータベースを保存するサーバは、[43 ページの「サーバの要件」](#)に示されているシステムの要件を満たしている必要があります。
- Linux または Solaris サーバで ConsoleOne を使用して Policy and Distribution Services を管理するには、Windows ワークステーションにバージョン 1.3.6 がインストールされている必要があります。ConsoleOne は ZENworks Server Management を管理するために必要です。ConsoleOne のインストールについては、[42 ページの「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」](#)を参照してください。
- Linux または Solaris サーバで iManager を使用して Policy and Distribution Services を管理するには、バージョン 2.0.2 か 2.5 を、Windows または NetWare サーバにインストールして Windows ワークステーションからアクセスできるようにするか、または iManager を実行できる Linux サーバにインストールする必要があります。iManager は省略可能ですが、[Tiered Distribution] ビューを使用して Distribution を管理するために使用することをお勧めします。
iManager のインストールの詳細については、[41 ページの「管理固有のワークステーションの要件」](#)を参照してください。

役割固有のサーバの要件

一部のサーバでは、Server Management の役割に固有の追加の設定が必要になる場合があります。

- ◆ [51 ページの「Inventory Database サーバ」](#)
- ◆ [52 ページの「Remote Management サーバ」](#)

Inventory Database サーバ

Inventory Database サーバ固有の最低要件は次のとおりです。

コンポーネント	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
データベースの要件	<p>インベントリデータベースのインストールを選択すると、Sybase が自動的にインストールされます。</p> <p>次のプラットフォーム上の Sybase ASA 8.0.2:</p> <ul style="list-style-type: none">◆ NetWare 6 SP3◆ NetWare 6.5◆ Windows 2000 Server SP4◆ Windows 2003 Standard Edition◆ Windows 2003 Enterprise Edition <p>Oracle* を Sybase の代わりに使用することもできます。</p> <p>Windows 2000 Server SP4 上の Oracle 8.1.7</p> <p>次のプラットフォーム上の Oracle 9i リリース 2:</p> <ul style="list-style-type: none">◆ Windows 2000 Server SP4◆ Windows 2003 Standard Edition◆ Windows 2003 Enterprise Edition <p>MS SQL を Sybase の代わりに使用することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ MS SQL バージョン 2000 SP3a
RAM の要件	<ul style="list-style-type: none">◆ データベースに関する推奨最小メモリ容量は 512MB で、最小キャッシュサイズは 128MB◆ ルートサーバレベルでは最低でも 768MB のメモリ容量が必要であり、1GB 以上が推奨される。キャッシュサイズには 256MB が必要
ハードディスクの要件	<ul style="list-style-type: none">◆ 10,000 台のサーバが含まれる環境の最下位レベルのサーバで推奨される最小ハードディスク容量は 5GB。◆ 最上位レベルのサーバ (ルートサーバ) に必要な最低ハードディスク容量: 20GB。◆ 接続するサーバ数に応じて、必要になるハードディスク容量は 1GB から 25GB の間で異なる。

重要: Inventory データベースファイルは、NetWare サーバの NFS マウントされたボリュームにインストールしないでください。

Remote Management サーバ

Remote Management サーバについては、基本的な ZENworks Server Management のインストールの要件に加えて、Remote Management のすべての機能を実行するために次の要件を満たしている必要があります。

要件	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
Management Server	5 章 43 ページの「 サーバの要件 」を参照してください。
管理対象サーバ	<ul style="list-style-type: none">◆ NetWare 5.1/6/6.5◆ Windows 2000/2003◆ Windows がインストールされているドライブに2MBのハードディスク空き容量◆ Internet Explorer 5.x◆ ポリシーエンフォーサをインストールする場合は、管理対象サーバに必要なサポートパック（必要な JVM* を含む）および Policy and Distribution Services をインストールしておく必要があります。

Remote Management は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD からインストールすることをお勧めします。ただし、CD の構造をハードドライブにコピーする必要がある場合、ハードドライブのルートと最初の CD ディレクトリ間のパスには、8.3 形式の DOS ファイル名規則に準拠するディレクトリ名だけを使用することができます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは動作しません。

ZENworks Server Management Remote Management をインストールする前に、必ず次の作業を行ってください。

管理サーバの決定と準備

管理サーバを決定した後、次の作業を行う必要があります。

- Windows 2000/2003 サーバ用のポリシー対応 Remote Management セッションを設定する場合、管理サーバに Distributor をインストールしていることを確認します。Distributor をインストールする方法については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

管理対象サーバの決定と準備

Remote Management の対象になるサーバを決定した後、次の作業を行う必要があります。

- NetWare クライアントに同梱されている Remote Management コンポーネントをインストールしていた場合は、そのコンポーネントをアンインストールしたことを確認します。
- Server Remote Management ポリシーを使用することによって、Windows 2000/2003 サーバ用に Remote Management を設定する場合、管理対象サーバに Subscriber がインストールされていることを確認します。Subscriber をインストールする方法については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

重要：Windows サーバの場合は、サーバの DNS ショートネームとサーバ名を同じにする必要があります。Windows サーバの名前がその DNS ショートネームと一致していない場合、一致するよう Windows サーバ名を変更してから Remote Management のインストールを実行するか、Remote Management のインストールにこのようなサーバを選択しないようにします。

[Management and Monitoring Services]

この節では、Management and Monitoring Services の最低限のサーバ要件について説明します。

- ◆ 53 ページの「一般的なサーバの要件」
- ◆ 53 ページの「NetWare サーバの要件」
- ◆ 54 ページの「Windows サーバの要件」
- ◆ 55 ページの「Linux サーバの要件」
- ◆ 56 ページの「役割固有のサーバの要件」

一般的なサーバの要件

ZENworks Server Management は、混在 eDirectory 環境で実行できます。たとえば、ネットワークに eDirectory 8.x と NDS 6.x または 7.x の両方がインストールされている場合があります。

ZENworks Server Management では、製品のインストール時にツリーにオブジェクトを配置できるように、eDirectory 8.6.2 または 8.7.1 以降が必要です。eDirectory は読み書き可能レプリカと共に ZENworks Server Management ソフトウェアをインストールするサーバにインストールする必要があります。

NetWare サーバの要件

Management and Monitoring Services を使用する場合の、一般的な NetWare の最低要件は次のとおりです。

要件	Management Server	Server Management Agent Server	Traffic Analysis Agent Server	Advanced Trending Agent Server
Novell eDirectory	8 以降	該当なし	該当なし	該当なし
空きディスク容量	170MB の空きディスク容量。検出 / アラームデータ用に追加のディスク容量が必要になる場合があります	1MB。トレンド情報用に追加のディスク容量	1.5MB。トレンド情報用に追加のディスク容量	1.5MB。トレンド情報用に追加のディスク容量
ConsoleOne スナップイン用のディスク容量 (サーバにインストールする場合)	50MB	該当なし	該当なし	該当なし
IP Address	スタティック	有効な IP/IPX* アドレス	有効な IP/IPX アドレス	有効な IP アドレス (IPX はサポートされていません)
サーバの CPU のタイプ	Pentium III	OS の要件を満たすプロセッサ	OS の要件を満たすプロセッサ	OS の要件を満たすプロセッサ

Management and Monitoring Services を使用する場合の、プラットフォーム固有の NetWare の最低要件は次のとおりです。

要件	Management Server	Server Management Agent Server	Traffic Analysis Agent Server	Advanced Trending Agent Server
NetWare 5.1:Support Pack のバージョン	6	5	5	5
NetWare 6:Support Pack のバージョン	3	2	2	2
NetWare 6.5:Support Pack のバージョン	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
NetWare 5.1: サーバの RAM	384MB	128MB	128MB	128MB
NetWare 6: サーバの RAM	512MB	256MB	256MB	256MB
NetWare 6.5: サーバの RAM	1 GB	512MB	512MB	512MB
NetWare 6.5 OES	該当なし	512MB	512MB	512MB

Windows サーバの要件

DNS: すべてのターゲット Windows サーバには、完全修飾 DNS 名が必要です。 詳細については、[38 ページの「DNS の要件」](#)を参照してください。

Management and Monitoring Services を使用する場合の、一般的な Windows の最低要件は次のとおりです。

Windows 2000 または Windows Server 2003 の要件	Management and Monitoring Services:Server Management Agent Server	Management and Monitoring Services:Traffic Analysis Agent Server	Management and Monitoring Services:Advanced Trending Agent Server
サーバの CPU のタイプ	250MHz Pentium	250MHz Pentium	250MHz Pentium
空きディスク容量	2.5MB およびトレンド情報用の追加のディスク容量	2.5MB およびトレンド情報用の追加のディスク容量	2.5MB およびトレンド情報用の追加のディスク容量
IP Address	有効な IP/IPX	有効な IP/IPX	有効な IP アドレス (IPX はサポートされていません)

Management and Monitoring Services を使用する場合の、プラットフォーム固有の最低要件は次のとおりです。

Windows 2000 または Windows Server 2003 の要件	Management and Monitoring Services:Server Management Agent Server	Management and Monitoring Services:Traffic Analysis Agent Server	Management and Monitoring Services:Advanced Trending Agent
Service Pack のバージョン ¹	3 以降	3 以降	3 以降
Novell eDirectory	該当なし	該当なし	該当なし
サーバの RAM	128MB	128MB	128MB

¹ Windows Server 2003 の場合はサービスパックは必要ありません。

Linux サーバの要件

Management and Monitoring Services は Solaris ではサポートされていません。

要件	Linux
OS のバージョン (Operating System Version)	サポートされる Distribution: SUSE LINUX Enterprise Server 8 SUSE LINUX Enterprise Server 9 SUSE LINUX Standard Server 8 SUSE LINUX Standard Server 9 Red Hat Advanced Server 2.1 Red Hat Enterprise Server 2.1 Red Hat Enterprise Linux AS 3 Red Hat Enterprise Linux ES 3
	Perl パッケージ v5.6.1 以降がインストールされている必要があります。
コンピュータのタイプ	IBM 互換 PC
サポートされるプロセッサ	Intel for Linux
サーバの RAM	最低 128MB 256MB を推奨
サーバの CPU のタイプ	200MHz Pentium 以上
Management and Monitoring Services のファイル用の空きディスク容量	10MB
Management and Monitoring Services 用の SNMP パッケージ	net-snmp rpm パッケージバージョン 5.0.6 以降がインストールされ、dlmod オプションをサポートしている必要があります。 または ucd-snmp (ucdsnmp) rpm パッケージバージョン 4.2.6 以降がインストールされ、dlmod オプションをサポートしている必要があります。
	注: デバイスにインストールされている snmp エージェントが dlmod オプションをサポートしている必要があります。確認するには、次のように入力します。 snmpd -H 2>&1 grep dlmod
	空白行が返される場合は、dlmod オプションはサポートされていません。dlmod オプションをサポートしているバージョンの SNMP の入手方法については、購入元に確認してください。

Management and Monitoring Services をインストールする Linux サーバ以外に、ネットワーク内の任意の場所で次の要件が満たされている必要があります。

- Linux サーバで ConsoleOne を使用して Management and Monitoring Services を管理するには、Windows ワークステーションにバージョン 1.3.6 がインストールされている必要があります。ConsoleOne は ZENworks Server Management を管理するためには必要です。ConsoleOne のインストールについては、42 ページの「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」を参照してください。

役割固有のサーバの要件

Management and Monitoring Services ソフトウェアのインストールを開始する前に、ターゲット管理サーバ、管理対象サーバ、管理コンソール、および Traffic Analysis Agent を準備する必要があります。各システムの準備の詳細については、次の節を参照してください。

Management and Monitoring Services サーバの最低要件および準備は次のとおりです。

- ◆ 56 ページの「Management Server」
- ◆ 57 ページの「管理対象サーバ」
- ◆ 57 ページの「Traffic Analysis Agent」
- ◆ 57 ページの「Advanced Trending Agent」

Management Server

Management and Monitoring Services ソフトウェアをインストールする前に、次の点を確認する必要があります。

- ◆ 管理サーバおよび管理対象サーバをインストールする Windows 2000/XP にアクセスできることを確認します。
- ◆ ツリーのすべてのレプリカが同期していることを確認します。レプリカが同期していない場合、ZENworks eDirectory オブジェクトをインストールするときにエラーが発生する可能性があります。使用するサーバ上に eDirectory ツリーの読み書き可能レプリカが必要です。
- ◆ sys:¥etc¥hosts ファイルに、ホスト名を IP アドレスにマップする適切なエントリがあることを確認します。
- ◆ インストールを円滑に進めるためにコンソールで実行しているすべてのアプリケーションを終了します。
- ◆ (推奨手順) ZENworks データベースをインストールするサーバで Sybase が実行されていないことを確認します。

注: サーバに Management and Monitoring Services や Policy and Distribution Services をインストールすると、自動的に Sybase が起動されます。Policy and Distribution Services がすでにインストールされているサーバに Management and Monitoring Services をインストールする場合、サーバで Policy and Distribution Services を停止し、Sybase を終了してから、他のサービスをインストールする必要があります。Sybase を終了するには、サーバコンソールを表示し、Sybase の画面で「q」と入力します。

管理対象サーバ

Management and Monitoring Services ソフトウェアをインストールする前に、次の点を確認する必要があります。

- ◆ 管理するすべてのNetWareおよびWindows 2000/2003を含むツリーで認証を受けます。
ヒント：すべての管理対象サーバにドライブをマップする必要はありませんが、管理対象サーバに対して Admin 相当の権利が必要になります。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合は、Management Agent をインストールする前に、任意のドライブに共有ディレクトリを作成して、すべての権限を共有に割り当てます。
デフォルトでは、C\$ や D\$ などの Windows 管理共有を Management Agent のインストール用に使用することはできません。エージェントのインストール用の共有を手動で作成する必要があります。
- ◆ Windows 2000/2003 の場合は、SNMP サービスをインストールして設定します。詳細については、[333 ページの付録 D、「Windows SNMP サービスのインストールと設定」](#)を参照してください。

Traffic Analysis Agent

このソフトウェアをインストールする前に、次の作業を行う必要があります。

- ◆ 適切な容量の空きディスク領域を割り当てます。1 年間のトレンドデータをキャプチャするには、監視するイーサネットアダプタごとにサーバ上に最低 25MB の空きディスク容量が必要です。さらに、監視する FDDI リングアダプタまたはトーケンリングアダプタごとにサーバ上に最低 50MB の空きディスク容量が必要です。
- ◆ NetWare に無差別モードの LAN ドライバを、または Windows 2000/2003 に無差別モードの NDISLAN ドライバをインストールします。
- ◆ Windows 2000/2003 の場合は、エージェントによって監視されるネットワークセグメントに TCP/IP をバインドします。
- ◆ Windows 2000/2003 の場合は、SNMP サービスをインストールして設定します。詳細については、[333 ページの付録 D、「Windows SNMP サービスのインストールと設定」](#)を参照してください。

Advanced Trending Agent

Management and Monitoring Services ソフトウェアをインストールする前に、次の点を確認する必要があります。

- ◆ 管理するすべてのNetWareおよびWindows 2000/2003サーバを含むツリーで認証を受けます。
ヒント：すべての管理対象サーバにドライブをマップする必要はありませんが、管理対象サーバに対して Admin 相当の権利が必要になります。
- ◆ 適切な空きディスク容量を割り当てます。たとえば、1 年間のトレンドデータをキャプチャするには、サーバ上に最低 50MB の空きディスク容量が必要です。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合は、Management Agent をインストールする前に、ドライブに共有ボリュームを作成します。
- ◆ Windows 2000/2003 の場合は、SNMP サービスをインストールして設定します。詳細については、[333 ページの付録 D、「Windows SNMP サービスのインストールと設定」](#)を参照してください。



インストール

次の各章では、Novell® ZENworks® 6.5 Server Management のさまざまなコンポーネントをインストールする手順について説明します。

- ◆ [6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)

Policy-Enabled Server Management (Policy and Distribution Services、Server Inventory、および Remote Management) は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD から実行されるグラフィカルインターフェースを使用して、NetWare® サーバおよび Windows* サーバにインストールできます。

Policy and Distribution Services は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD に収められているスクリプトを使用して、Linux* サーバおよび Solaris* サーバにもインストールできます。Server Inventory および Remote Management は、Inventory データベースを除き、Linux や Solaris にはインストールされません。

- ◆ [7 章 111 ページの「Management and Monitoring Services のインストール」](#)

Management and Monitoring Services は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD から実行されるグラフィカルインターフェースを使用して、NetWare サーバおよび Windows サーバにインストールできます。

Management and Monitoring Services は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD に収められているスクリプトを使用して、Linux サーバおよび Solaris サーバにもインストールできます。

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の間の相互運用性に関する問題については、[269 ページの「相互運用性」](#)を参照してください。

Server Management を再インストールする場合、GUI インストールプログラム (NetWare および Windows サーバの場合) を使用することができます。再インストールに関する情報は、インストール手順で触れます。インストールスクリプト (Linux および Solaris サーバの場合) または GUI アップグレードプログラム (NetWare および Windows サーバで Policy and Distribution Services を使用する場合。詳細については、[11 章 189 ページの「Policy and Distribution Services」](#)を参照) を使って再インストールすることもできます。

6

Policy-Enabled Server Management のインストール

この章では、Novell® ZENworks® Policy-Enabled Server Management (Policy and Distribution Services、Server Inventory、および Remote Management) を、古いバージョンの ZENworks がインストールされていない次のプラットフォームにインストールする手順について説明します。

- ◆ 61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」
- ◆ 95 ページの「Linux および Solaris へのインストール」
- ◆ 98 ページの「インストール後の作業」

以前のバージョンの ZENworks for Servers がいずれかのサーバにインストールされている場合は、そのサーバをアップグレードする必要があります。手順については、119 ページの「アップグレード」を参照してください。

オペレーティングシステムが混在する環境の場合は、最初に NetWare® および Windows サーバにインストールしてください。

NetWare および Windows へのインストール

次の節では、Policy-Enabled Server Management を NetWare または Windows サーバにインストールする手順について説明します。

- ◆ 61 ページの「Policy-Enabled Server Management」
- ◆ 90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」

Policy-Enabled Server Management

Policy-Enabled Server Management をインストールするには、次の作業を順に行います。

1. 62 ページの「インストール前のチェックリスト」
2. 64 ページの「インストールプログラムの起動」
3. 64 ページの「スキーマの拡張」
4. 68 ページの「Policy-Enabled Server Management」
5. 71 ページの「オブジェクトを作成する eDirectory ツリー」
6. 72 ページの「サーバの選択」
7. 77 ページの「[File Installation Locations and Options]」
8. 79 ページの「[Distributor Object Properties]」
9. 81 ページの「[Subscriber Object Properties]」
10. 82 ページの「[Database Settings]」

11. 84 ページの「[Inventory Standalone Configuration]」
12. 85 ページの「[Inventory Proxy Service Configuration]」
13. 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
14. 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
15. 88 ページの「[Installation Summary]」
16. 89 ページの「Policy and Distributions Services エージェントがロードされていることの確認」

インストール前のチェックリスト

インストール処理を開始する前に、次の作業が完了していることを確認します。

- Readme でインストールに関する最新情報を確認します。

Readme_servers.html は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の ¥readmes¥en ディレクトリに存在します。この html ファイルには、インストールプログラムのメニューオプションからもアクセスできます。

- 25 ページの「準備」に示されているインストールの要件をすべて満たしていることを確認します。
- *Program* CD の代わりにハードドライブからインストールするには、CD の構造をインストールコンピュータのハードドライブにコピーします。

Server Management は、*Program* CD からインストールすることをお勧めします。

重要：*Program* CD の構造をインストールコンピュータのハードドライブにコピーする場合、ハードドライブのルートから CD の最初のディレクトリまでのパスには、8.3 形式の DOS のファイル命名規則に準拠したディレクトリ名のみ使用できます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは動作しません。

- Server Inventory を再インストールしている場合、次のタスクを実行してから再インストールを行う必要があります。

1. Server Inventory の再インストールが必要なサーバを指定します。

2. Inventory Service を停止します。

- ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**sys:\system\invstop.ncf**」と入力します。

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、**sys:\system\invstop.ncf** ファイルで **Unload dbsrv8.nlm** 行をコメント化します。

- ◆ Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Inventory Service] を選択して [停止] をクリックします。

3. インベントリデータベースを停止します。

- ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。

- ◆ Windows 2000/2003 の場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。

4. 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、**java.nlm** をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

重要：このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Server Management のインストール中、すべての Java プロセスが停止できることを確認します。

- クラスタにインストールする場合は、手動で各クラスタノード上の Java をアンロードする必要があります。通常、インストールプログラムは自動的に Java をアンロードしますが、自動的にアンロードされるのは仮想サーバが存在するノード上の Java のみであるからです。各クラスタノード上の Java をアンロードするには、サーバのコマンドラインで、「 **Java -exit** 」と入力します。
- Novell ConsoleOne® のインスタンスが、ワークステーションからマップされたドライブを通じてターゲットサーバ上で実行されている場合や、インストールコンピュータから実行されている場合は、これらの ConsoleOne のインスタンスを終了してからインストールプログラムを実行します。
ConsoleOne がインストールコンピュータ上のマップされたドライブを通じてターゲットサーバ上で実行されている場合や、インストールコンピュータから実行されている場合は、ConsoleOne 用の ZENworks Server Management スナップインを、これらの場所にインストールできません。
- Server Management をインストールするために使用するワークステーションで、Server Management ソフトウェアをインストールするすべての eDirectory ツリーにログインしていない場合は、ログインします。

認証：インストール時にログインしたツリー内のすべてのターゲット NetWare サーバで自動的に認証され、Server Management ソフトウェアのインストール先としてこれらのサーバを選択できます。

スキーマの拡張：これらのツリーのいずれかで ZENworks Server Management のスキーマを拡張します。ターゲットサーバが存在している場所に関係なく、ターゲットサーバに関連付けられた Distributor または Subscriber オブジェクトは、スキーマを拡張したツリー内に作成されます。

インベントリツリー：Inventory ソフトウェアをインストールする前に、Inventory サーバまたは Inventory データベースコンポーネントをインストールしようとするサーバを含む eDirectory ツリーで、ZENworks Server Management スキーマが拡張されていることを確認します。

Proxy Service と他の Server Inventory または Policy and Distribution Services コンポーネントを別の eDirectory ツリーに存在する別のサーバにインストールする場合は、他の Server Inventory または Policy and Distribution コンポーネントをインストールするサーバを含むツリーにログインします。

- ソフトウェアを Windows サーバにインストールする場合は、そのサーバまたはサーバを含むドメインで認証を受けていることを確認します。
これによって、Distributor および Subscriber ソフトウェアのインストール先として Windows サーバを選択できるようになります。ただし、インストールを開始する前に Windows サーバにログインしていない場合は、インストール時にインストール先の Windows サーバを選択する [Add Server] ダイアログボックスでユーザ名とパスワードを使用して認証を受けることができます。

- Windows サーバにソフトウェアをインストールする場合、各 Windows サーバで [サービス] ウィンドウを閉じていることを確認します。

インストールプログラムにより、すべての ZENworks Server Management サービスが自動的に停止します。ただし、サーバへのインストール中に [サービス] ウィンドウが開いたままになっている場合、Server Management のサービスを登録することができません。

- インベントリサーバコンポーネントをインストールする場合は、インベントリサーバのインストール先サーバの名前とサーバが存在するツリーの名前が「#」を含まないことを確認します。

64 ページの「[インストールプログラムの起動](#)」に進みます。

インストールプログラムの起動

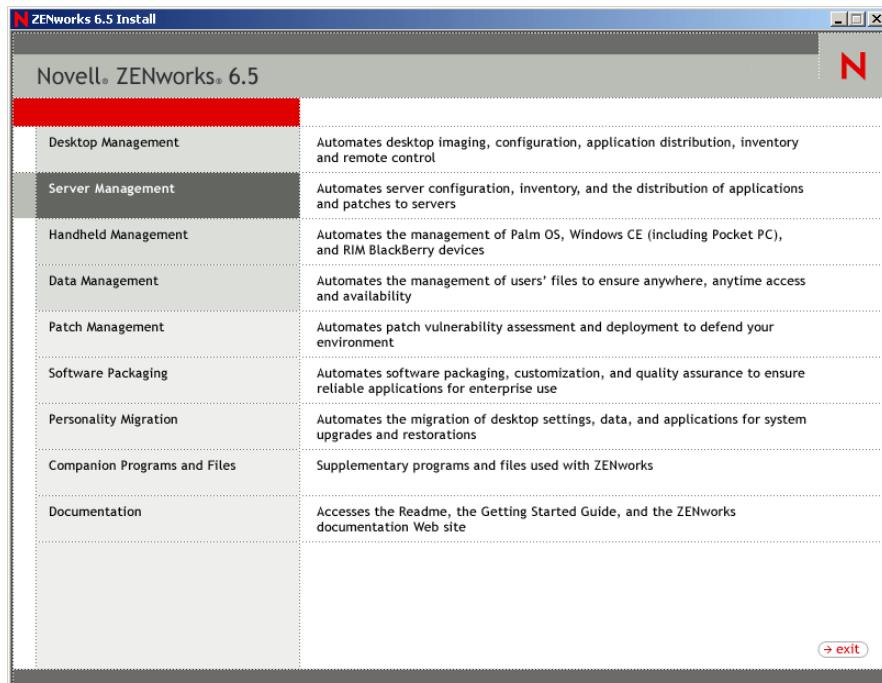
- 1 次のいずれかの方法でメインインストールメニューを表示します。

- 1a *ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の内容をハードドライブにコピーした場合は、ハードドライブから *winsetup.exe* を実行します。

重要: *Program* CD の構造をインストールコンピュータのハードドライブにコピーした場合、ハードドライブのルートから CD の最初のディレクトリまでのパスには、8.3 形式の DOS のファイル命名規則に準拠したディレクトリ名のみ使用できます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは動作しません。

- 1b インストールコンピュータで、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を挿入します。

メインメニューが表示されます。CD の挿入後、メインメニューが自動的に表示されない場合は、CD のルートにある *winsetup.exe* を実行します。



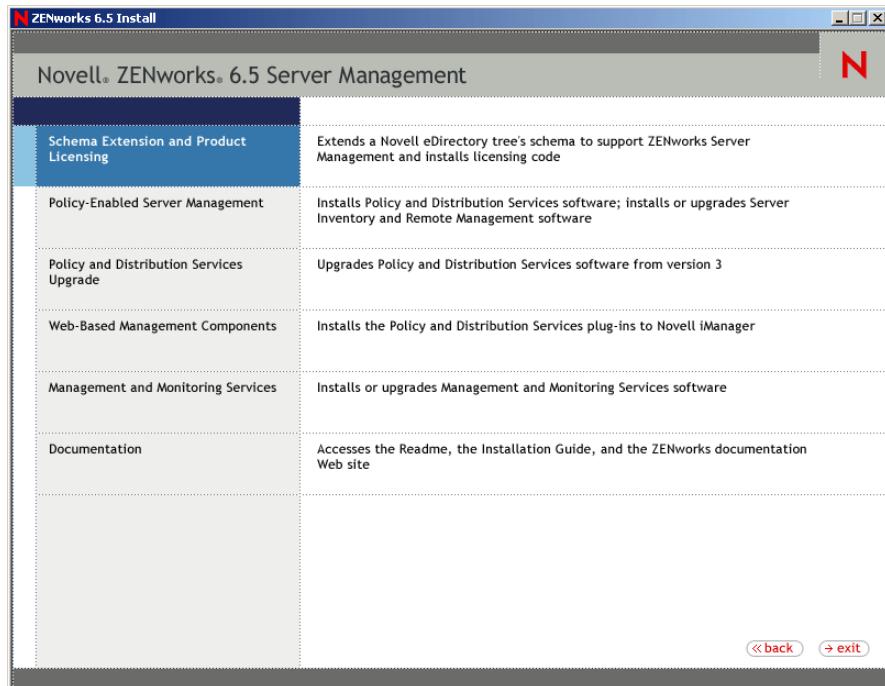
- 2 [Server Management] オプションを選択します。

- 3 64 ページの「[スキーマの拡張](#)」に進みます。

スキーマの拡張

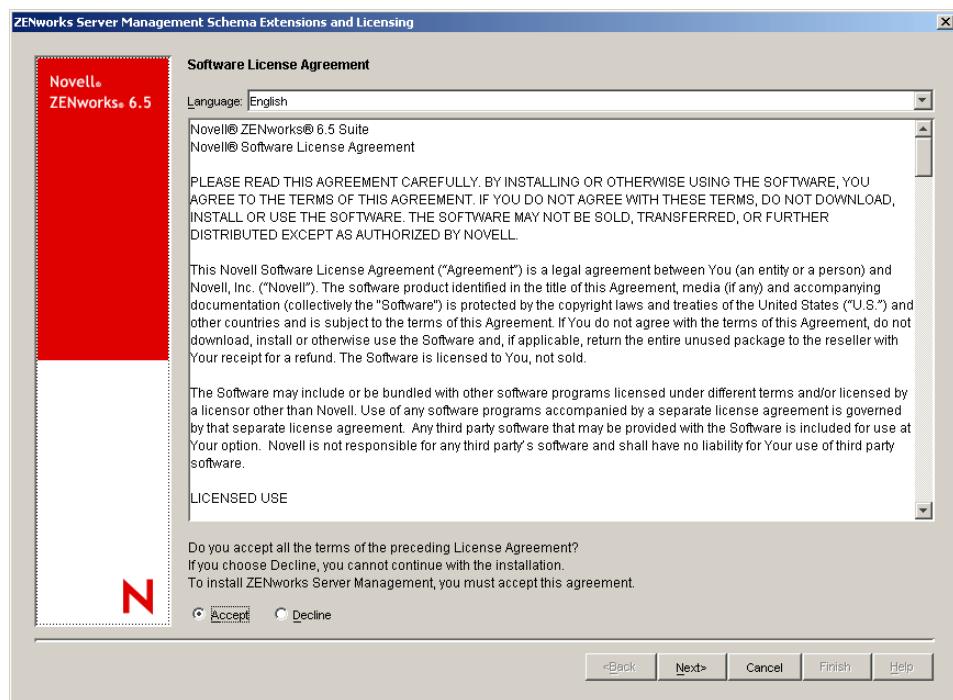
ZENworks オブジェクトを作成する eDirectory ツリー上でスキーマを拡張する必要があります。

このメニュー オプションは、*ZENworks* オブジェクトを作成したツリーを指定し、ライセンスコードを入力することによって、90 日間限定評価ライセンスを完全なライセンスに更新する場合にも使用できます。

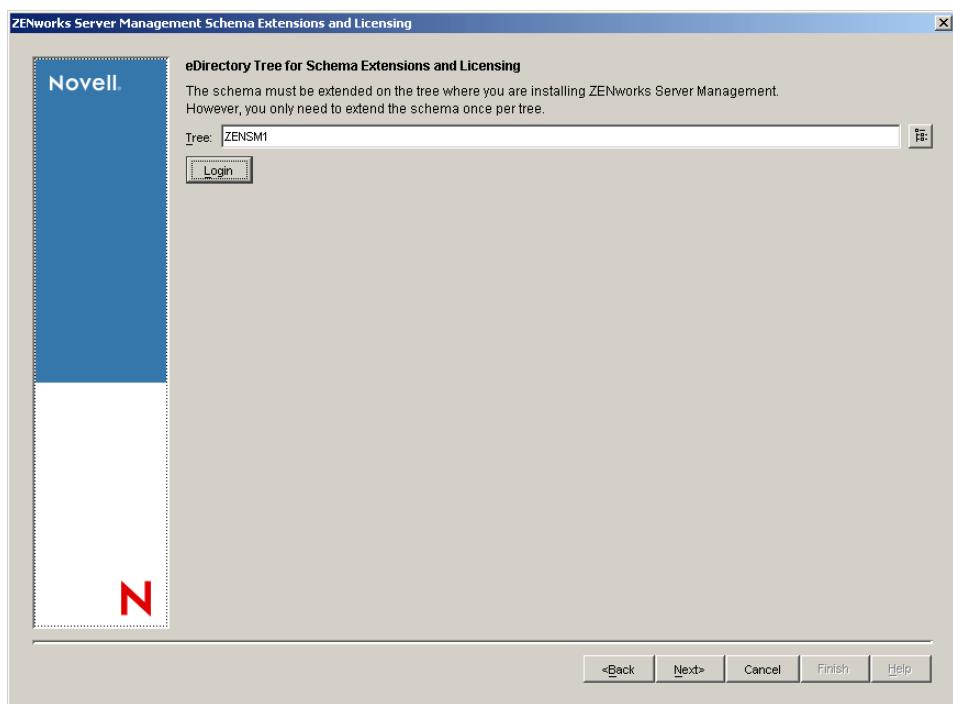


スキーマを拡張するには

- 1 [Server Management] オプションを選択し、[ZENworks Server Management] メニューを表示します。
- 2 ZENworks Server Management オブジェクト用にスキーマを拡張するには、[Schema Extensions and Product Licensing] をクリックし、[ZENworks License Agreement] ページを表示します。



3 ソフトウェア使用許諾契約に合意する場合は、[Accept]、[Next] の順にクリックして、[eDirectory Tree for Creating Objects] ページを表示します。合意しない場合は、[Decline]、[Cancel] の順にクリックして終了します。

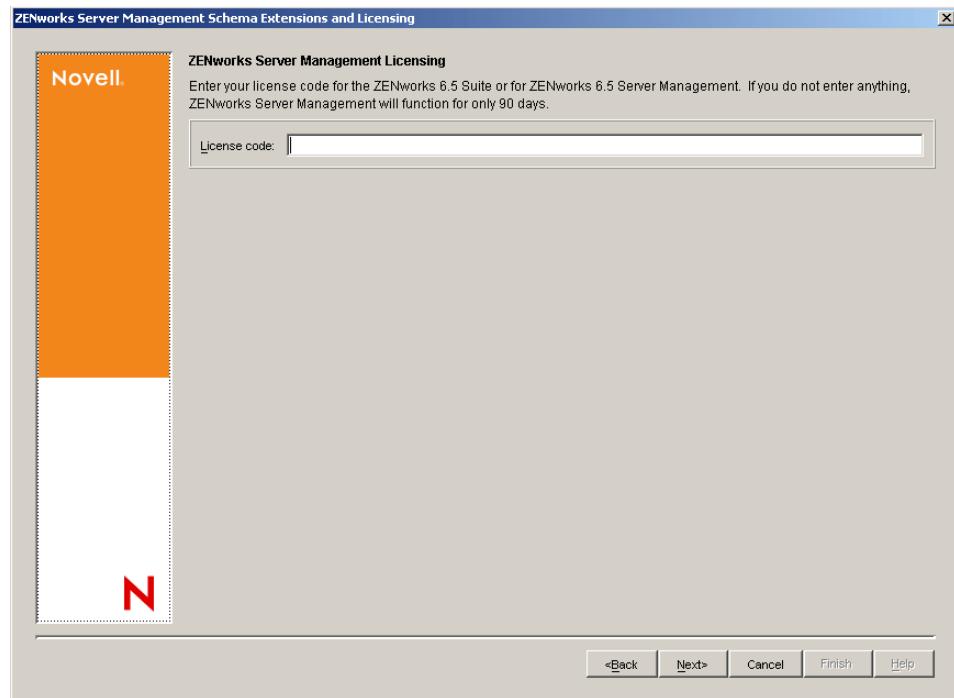


4 ZENworks オブジェクトを作成したツリーを選択し、[OK] をクリックして [ZENworks Server Management Licensing] ページを表示します。

まだ認証されていない場合は、[Login] ボタンを使ってログインすることができます。

ZENworks Server Management のスキーマ拡張は、ツリーに対して一度だけ実行する必要があります。複数のツリーが存在する場合、ZENworks オブジェクトをインストールしようとしているツリーについてのみスキーマを拡張する必要があります。

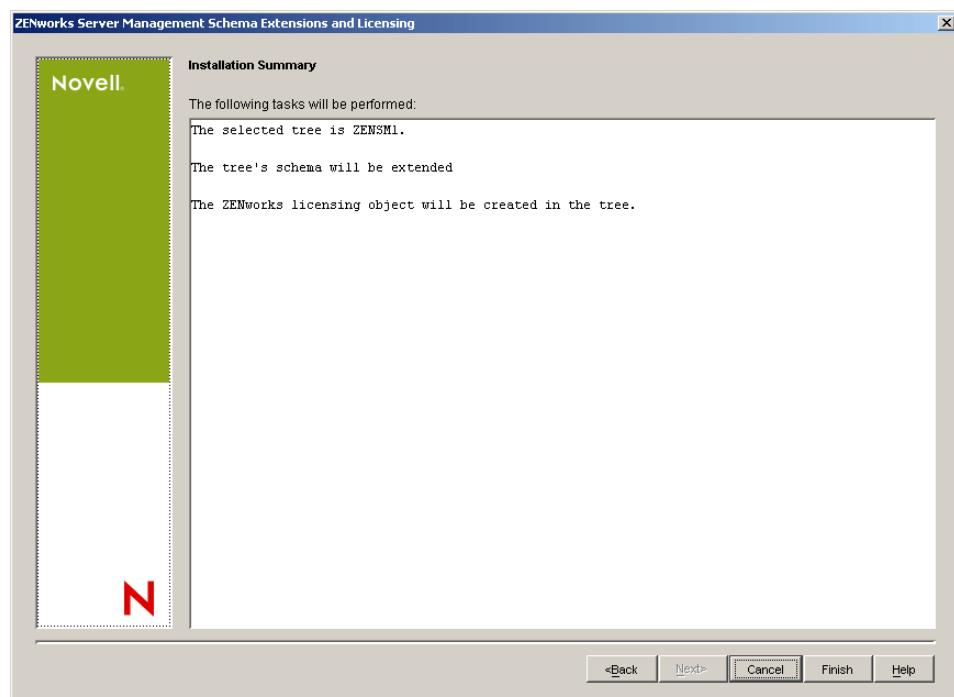
すべての ZENworks Server Management コンポーネント (Policy and Distribution Services、Server Inventory、Remote Management、および Management and Monitoring Services) のスキーマ拡張は、スキーマを拡張すると同時にインストールされます。



5 ライセンスコードを入力するか、フィールドを空のまま [Next] をクリックして [Summary] ページを表示します。

フィールドを空のままにした場合、90 日間限定評価ライセンスが有効になります。後でこのページに戻って、ライセンスコードを入力することができます。

製品を購入した場合は、購入時にライセンスコードを受け取っているはずです。

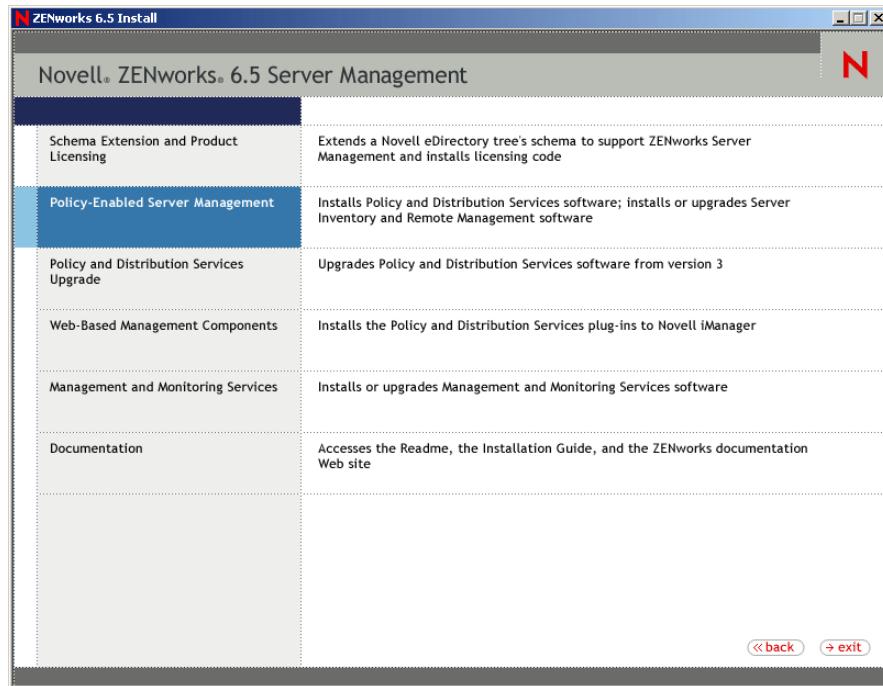


6 スキーマを拡張するには、[Finish] をクリックします。

スキーマ拡張プロセスが完了したら、メインのインストールメニューが表示されます。

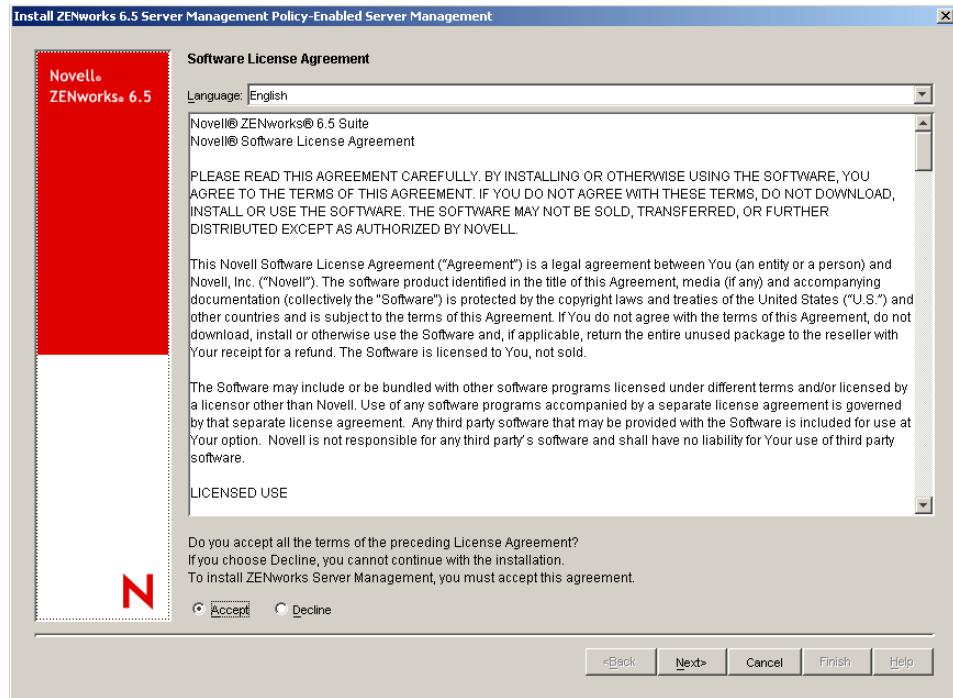
7 68 ページの「Policy-Enabled Server Management」に進みます。

Policy-Enabled Server Management

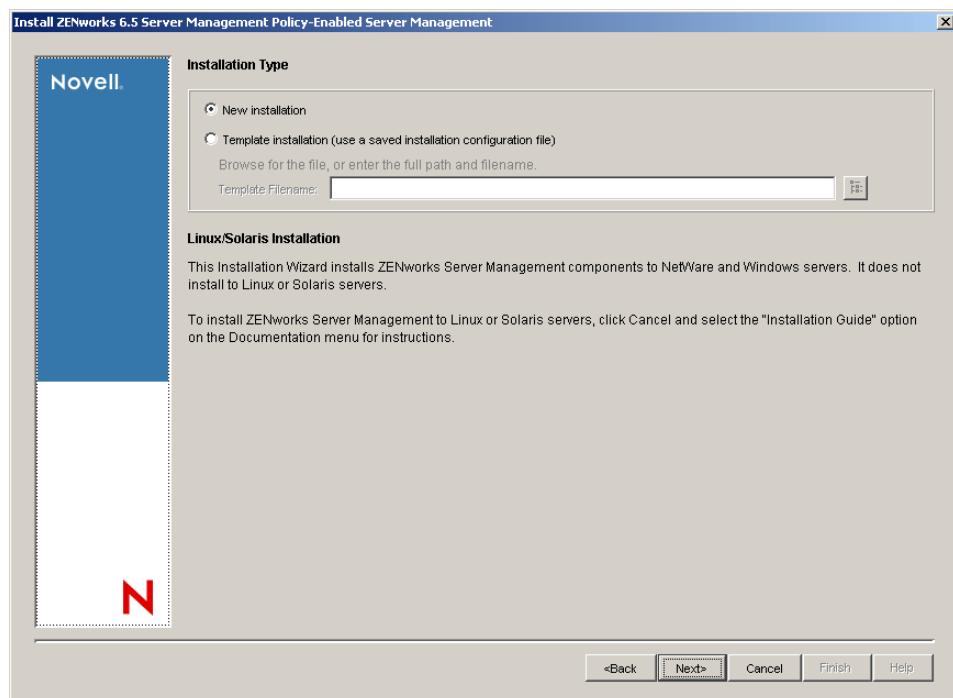


1 [Policy-Enabled Server Management] をクリックして、インストールプログラムを起動します。

プログラムがロードすると、最初のインストールページとして [License Agreement] ページが表示されます。



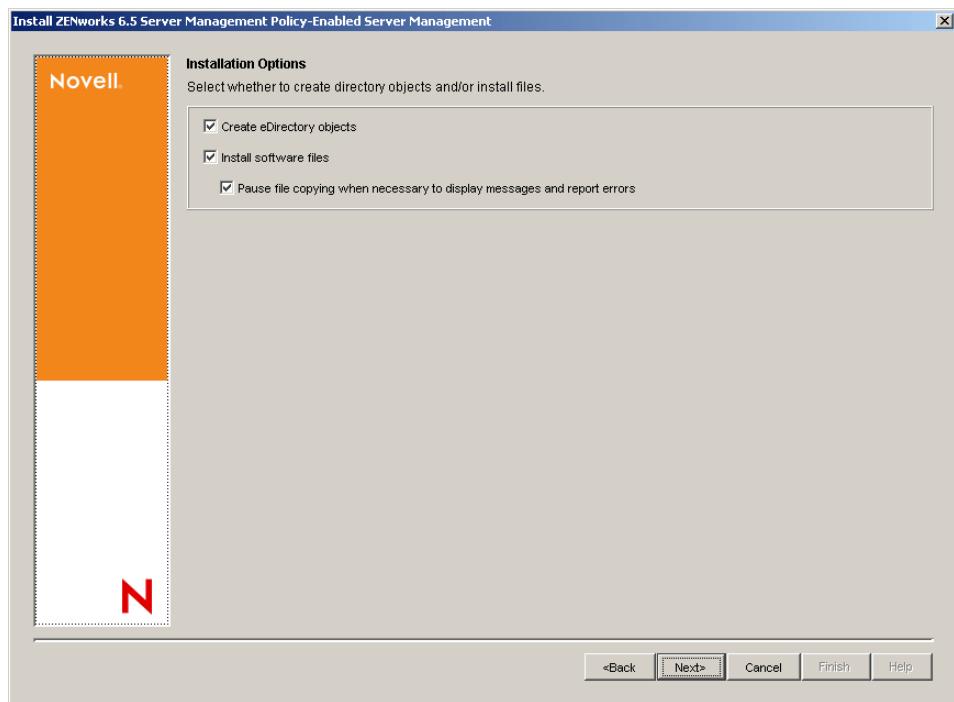
2 ソフトウェア使用許諾契約に合意する場合は、[Accept]、[Next] の順にクリックして、[Installation Type] ページを表示します。合意しない場合は、[Decline]、[Cancel] の順にクリックして終了します。



3 [Installation Type] ページで、[Next] をクリックして新規インストールを実行し、[Installation Options] ページを表示します。

または

保存されたインストール設定ファイルからインストールするには、[Template Installation] をクリックし、パスとファイル名を参照するか指定して、[Next] をクリックします。



4 [Installation Options] ページで、デフォルト値を変更せずに [Next] をクリックして、[eDirectory Tree for Creating Objects] ページを表示します。または、オプションを設定して [Next] をクリックします。

- ◆ **[Create eDirectory Objects] :**
 - ◆ 初めてインストールする場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
 - ◆ Distributor ソフトウェアを再インストールする場合は、このチェックボックスをオンにします。これは、Distributor の eDirectory オブジェクトを作成し直すために必要です。
 - ◆ 追加の Subscriber をインストールする場合は、このチェックボックスをオンにします。これによって、Subscriber の eDirectory オブジェクトが作成され、Subscriber ソフトウェアがインストールされ、信頼されるツリーが次のインストールページで選択するツリーとして割り当てられます。
 - ◆ すでに Subscriber オブジェクトが作成されているサーバなどに、Subscriber ソフトウェアを再インストールするだけの場合は、このチェックボックスをオフにします。
 - ◆ Microsoft ドメイン内の Windows サーバなど、eDirectory ツリー内にサーバオブジェクトを持たないサーバに Subscriber ソフトウェアをインストールするだけの場合は、このチェックボックスをオフにします。信頼されるツリーは後のインストールページで指定できます。

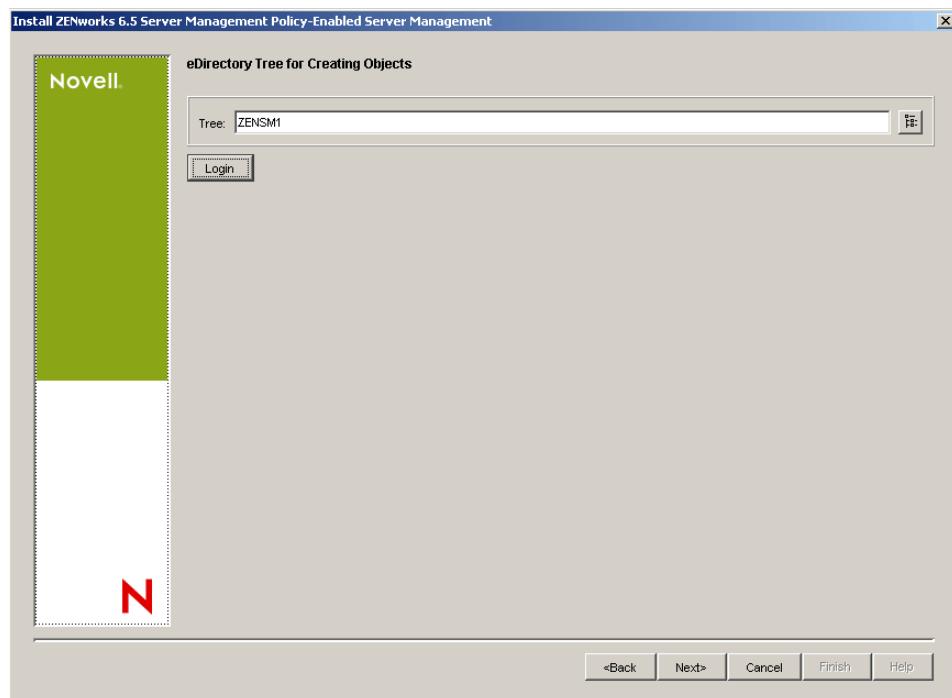
- ◆ ConsoleOne スナップイン、Inventory Agent、または Proxy Service を個別にインストールする場合は、[Create eDirectory Objects] チェックボックスをオフにします。これらのアイテムをインストールするために、eDirectory ツリーにアクセスする必要はありません。
- ◆ インベントリサーバ / データベースをインストールまたは再インストールする場合、[Create eDirectory Objects] チェックボックスをオンにする必要があります。
- ◆ **[Install Software Files]** : Distributor ソフトウェアや Subscriber ソフトウェアをインストールするには、このチェックボックスをオンにする必要があります。eDirectory オブジェクトだけをインストールする場合は、このチェックボックスをオフにします。Inventory サーバ / データベースをインストールまたは再インストールする場合、[Install Software Files] チェックボックスをオンにする必要があります。
- ◆ **[Pause File Copying When Necessary to Display Messages and Report Errors]** : デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。無人インストールを使用する（およびインストールログを後で確認する）場合は、このチェックボックスをオフにします。

5 次の手順に進みます。

- ◆ [71 ページの「オブジェクトを作成する eDirectory ツリー」。](#) [Create eDirectory Objects] チェックボックスをオンにした場合。
- ◆ [72 ページの「サーバの選択」。](#) [Create eDirectory Objects] チェックボックスをオフにした場合。

オブジェクトを作成する eDirectory ツリー

このページは、[Installation Options] ページで [Create eDirectory Objects] オプションを選択した場合にのみ表示されます。



1 ターゲットツリーを参照し、[OK] をクリックした後、[Next] をクリックして [Server Selection] ページを表示します。

これは、インストール時に ZENworks オブジェクトが作成されるツリーです。

このインストールページは、ZENworks Server Management オブジェクトのインストールを選択した場合にのみ表示されます。

このツリーは、次のインストールページで選択するすべての Subscriber サーバの信頼されるツリーに自動的に設定されます。信頼されるツリーは、Subscriber が設定の更新を受信する場所です。

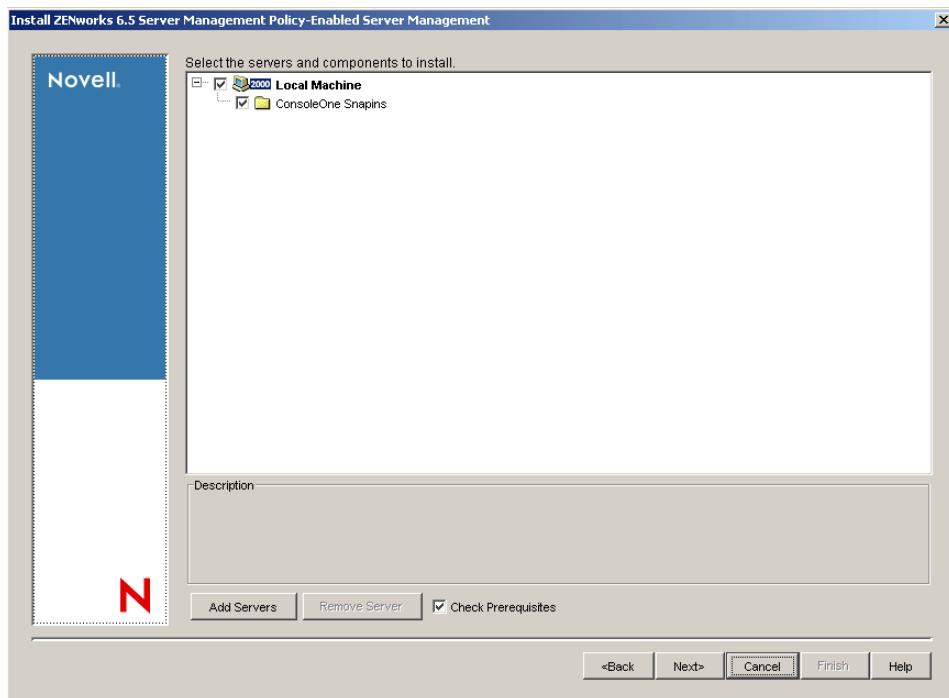
重要： [Installation Options] ページで [Create eDirectory Objects] チェックボックスをオンにした場合、NetWare および Windows サーバの両方について、[eDirectory Tree for Creating Objects] ページで指定したツリーに eDirectory Subscriber オブジェクトが作成されます。ただし、このチェックボックスをオフにした場合は、[File Installation Paths and Options] ページで各 Subscriber の信頼されるツリーを指定する必要があります。

[File Installation Paths and Options] ページでは、オブジェクトのセットごとに異なる設定を作成できます。したがって、インストールパスや信頼されるツリーが異なるオブジェクトを選択できます。

信頼されるツリーの詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「[Subscriber ソフトウェアの設定と信頼されるツリー](#)」を参照してください。

2 72 ページの「サーバの選択」に進みます。

サーバの選択



1 インストールコンピュータに ConsoleOne をインストールした場合は、[Server Selection] ページで、[Local Machine] の [ConsoleOne Snap-ins] チェックボックスをオンにします。

[Local Machine] は、インストールの実行に使用する Windows コンピュータ、または ZENworks Server Management をローカルにインストールする Windows コンピュータを意味します。

ワークステーション：ローカルコンピュータがWindows 2000/XP ワークステーションである場合、インストールできるのはPolicy and Distribution Services、Server Inventory、およびRemote Management のZENworks Server Management ConsoleOne スナップインだけです。

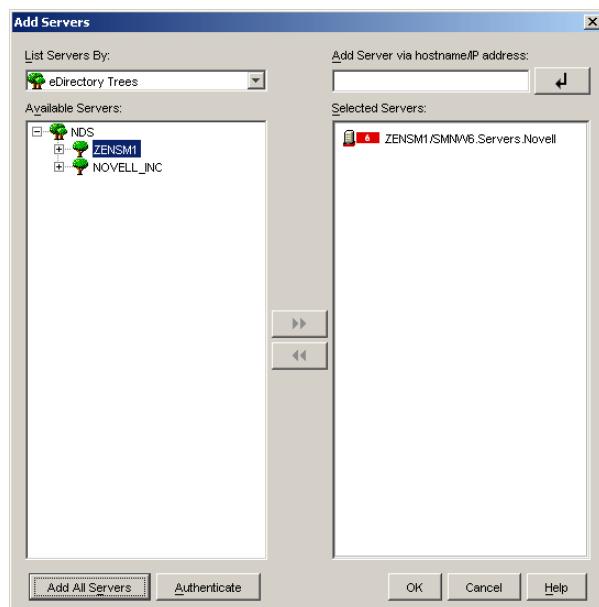
サーバ：ローカルコンピュータがWindows 2000 サーバである場合 (eDirectory がインストールされているかどうかに関係なく)、次のアイテムをインストールできます。

- ◆ Policy and Distribution Services、Server Inventory、およびRemote Management のZENworks Server Management ConsoleOne スナップイン
- ◆ Remote Management Agent
- ◆ Inventory Agent
- ◆ Inventory Proxy Service
- ◆ Inventory database (インベントリデータベース)

重要：eDirectory がインストールされていないサーバにInventory データベースをインストールすることを選択した場合、データベースオブジェクトは自動的に作成されません。データベースオブジェクトを手動で作成する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Sybase インベントリデータベースのセットアップ*」を参照してください。

Inventory サーバは、eDirectory がインストールされている Windows サーバにのみインストールできます。

2 [Server Selection] ページで、[Add Servers] をクリックして [Add Servers] ダイアログボックスを表示します。



[Add Servers] ダイアログボックスの使用方法の詳細については、[Help] ボタンをクリックしてください。

3 Server Management ソフトウェアを印するサーバを参照し、[OK] をクリックします。

重要: このフィールドを使用してクラスタオブジェクトを追加することはできません。クラスタオブジェクトを追加しようとすると、「Unknown Host」というエラーが表示されます。クラスタオブジェクトを追加するには、オブジェクトを参照し、[Available Servers] ボックスに追加します。

選択したサーバは、サーバ選択ページの [Local Machine] オプションの下に表示されます。

[Add Servers] ダイアログボックス: [Add Servers] オプションをクリックすると [Add Servers] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、ドロップダウンボックスから NetWare ツリーまたは Microsoft ドメインを選択することによって、NetWare サーバと Windows サーバの両方を参照できます。サーバは個別に選択することも、<Ctrl> キーや <Shift> キーを使用して複数選択することもできます。eDirectory コンテナ、Windows ワークグループ、および Microsoft ドメインを選択することによって、サーバのグループも選択できます。

Novell Client が実行されていない（そのためにローカルにインストールできない）Windows サーバにインストールするには、クライアントがインストールされていない Windows サーバを参照して選択することによって、ZENworks 6.5 Server Management をインストールできます。

Inventory サーバは、eDirectory がインストールされている Windows サーバにのみインストールできます。

eDirectory がインストールされていないサーバに Inventory データベースをインストールすることは選択できますが、データベースオブジェクトは自動的に作成されません。データベースオブジェクトを手動で作成する必要があります。データベースオブジェクトを手動で作成する方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』を参照してください。

すべての NetWare サーバと Windows サーバを選択していることを確認した後、[Add Servers] ダイアログボックスを閉じます。

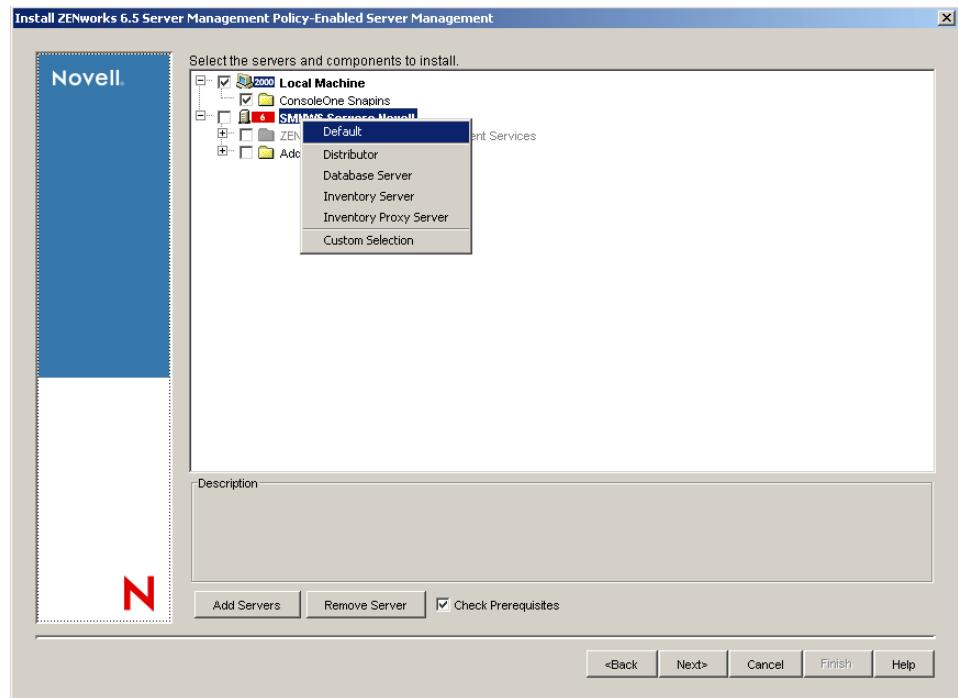
ConsoleOne スナップインをインストールするワークステーションも参照します。これらの各ワークステーションに ConsoleOne をインストールしておく必要があります。

External Subscriber: インストールプログラムは、Subscriber オブジェクトを配置するための eDirectory コンテキストを必要とします。eDirectory オブジェクトを持たない Windows サーバを Microsoft ドメインから追加する場合、別のインストールページで、Subscriber オブジェクトを作成し Windows サーバに関連付けることができる eDirectory コンテキストを参照して選択するよう求めるメッセージが表示されます。

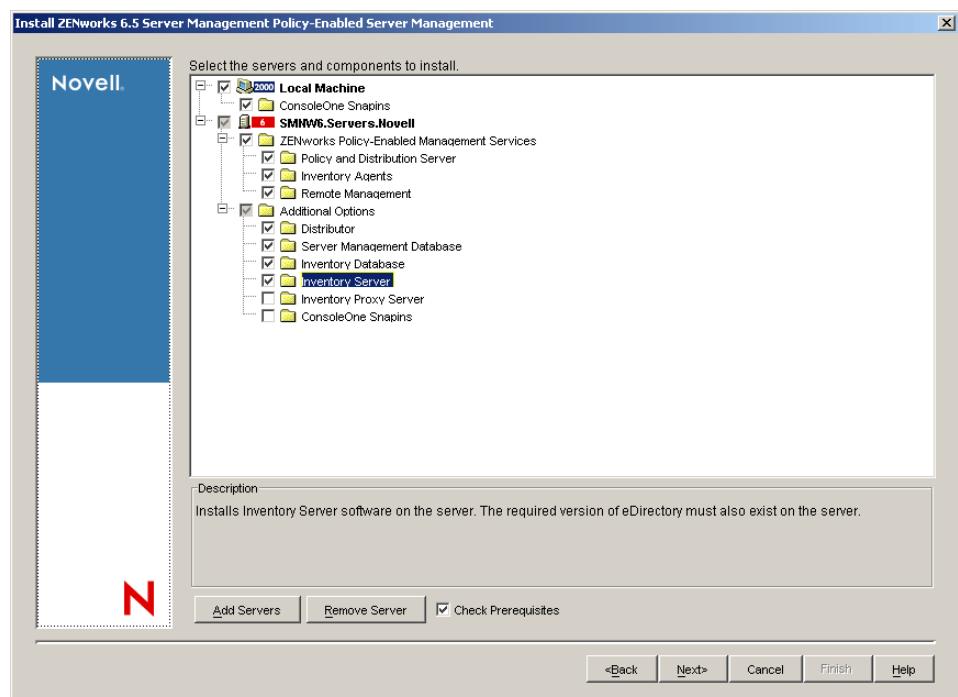
ただし、この Windows サーバを External Subscriber としてのみ使用する場合は、ここで Subscriber オブジェクトおよびソフトウェアをインストールしないでください。代わりに、後で (Subscriber オブジェクトを持たない) そのコンピュータに Subscriber ソフトウェアをローカルにインストールし、ConsoleOne で External Subscriber オブジェクトを作成できます。External Subscriber の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「External Subscriber」を参照してください。

4 このページに一覧表示されている各サーバを設定します。

ヒント: 1つまたは複数のサーバの特定の役割または役割のセットを簡単に設定するには、サーバを選択し、選択したサーバを右クリックしてサーバの役割を選択します。その役割に適用されるオプションは自動的に選択されます。他の役割についてもこの手順を繰り返します。



一覧表示されている各サーバについて、次のオプションを選択できます。



[ZENworks Policy-Enabled Management Services]

デフォルトでは、次の3つのオプションはすべて選択されています。Inventory Agent をインストールする場合は、Policy and Distribution Server もインストールすることを選択する必要があります。

- ◆ **[Policy and Distribution Server]** : Subscriber にする各サーバについて、このチェックボックスをオンにします。
- ◆ **[Inventory Agents]** : インベントリを実行する各サーバについて、このチェックボックスをオンにします。
- ◆ **[Remote Management]** : リモート管理する各サーバについて、このチェックボックスをオンにします。

[Additional Options]

インストールプログラムによって、これらのオプションがターゲットサーバにすでにインストールされているかどうかが検出され、インストールされているオプションのラベルは淡色表示されます。このチェックボックスをオンにして、コンポーネントを再インストールすることもできます。

- ◆ **Distributor:** Subscriber サービスはすべてのターゲットサーバに自動的にインストールされます。サーバを Distributor にするには、このチェックボックスをオンにします。
- ◆ **[Server Management Database]** : これは、Distributor がログを記録する Policy and Distribution Services データベースです。データベースのログの記録によるネットワークトラフィックを最小限に抑えるには、このデータベースを Distributor と同じサーバにインストールしてください。

重要: インストールプログラムを実行するたびに複数のサーバにデータベースをインストールできますが、サーバごとにインストールできるデータベースは1つだけです。[Database Settings] ページで、インストールされる各データベースを個別に設定できます。[Database Logging] ページで、インストールするデータベースの中で、初期のログの記録に使用するデータベースを指定します。

- ◆ **[Inventory Database]:** Sybase 上で実行される Inventory データベースをインストールするサーバについて、このチェックボックスをオンにします。

重要: Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の手順に従ってください。

- ◆ **[Inventory Server]** : Inventory Service を実行するサーバについて、このチェックボックスをオンにします。

選択したサーバに ZENworks for Desktops 4.0.1 以前の Workstation Inventory コンポーネントがインストールされている場合は、そのコンポーネントを ZENworks 6.5 Desktop Management にアップグレードする必要があります。

警告: ツリー内に存在しないサーバにインストールすることを選択した場合でも、ツリーにログインし、eDirectory オブジェクトを作成することを選択していた場合は、インストールプログラムによってこのツリー内に eDirectory オブジェクトが作成されます。

- ◆ **[Inventory Proxy Server]** : XML Proxy サーバをインストールして設定するサーバについて、このチェックボックスをオンにします。

スキャンデータをファイアウォール外の Inventory サーバに送信またはロールアップする場合は、XML Proxy Service を実行できるように NetWare サーバまたは Windows サーバを設定する必要があります。

- ◆ [ConsoleOne Snap-ins] : ConsoleOne をインストールしたすべてのサーバについて、[ConsoleOne Snap-ins] チェックボックスをオンにします。

重要: ZENworks Server Management では、サーバのコンソールを使用してその NetWare サーバにインストールされた ConsoleOne のインスタンスを実行することはサポートしていません。サーバにインストールされた ConsoleOne を使用するには、ワークステーションのドライブをそのサーバにマップし、ワークステーションから ConsoleOne を実行する必要があります。

サーバのグループを選択し、そのグループを右クリックすることによって、選択したグループに同じオプションを設定できます。これによって、[Custom Selection] ダイアログボックスが表示されます。

- 5 選択したサーバの設定が完了したら、[Next] をクリックして [File Installation Paths and Options] ページを表示します。

無効な DNS 名がある場合、IP アドレスを使用してインストールを続行するかどうかを確認するエラーメッセージが表示されます。DNS 名の問題を解決するか、影響を受けるサーバの IP アドレスを使用して続行します。DNS の設定については、[327 ページの付録 C、「DNS 名の確実な解決」](#)を参照してください。

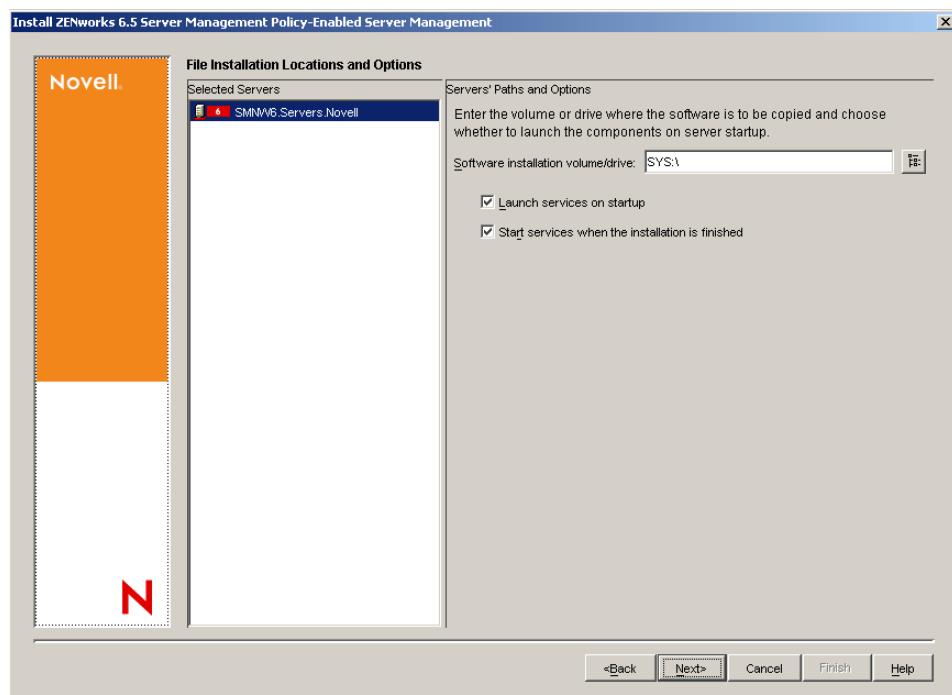
重要: 1) インストール時に、ZENworks Server Management は.ncf ファイルのインストールパスの情報を更新します。NetWare では、Windows のコードページではなく DOS のコードページを使用するので、パスに 2 バイト文字や拡張文字は使用できません。これらの文字を使用した場合、.ncf ファイルは実行されません。したがって、NetWare ボリューム名を含め、インストールパスには 2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

2) IP アドレスだけを使用して続行する場合、Server Management を使用するには、これらのサーバのサーバオブジェクトプロパティの [Other] タブで正しい DNS ホスト名を手動で入力する必要があります。

- 6 [77 ページの「\[File Installation Locations and Options\]」](#)に進みます。

[File Installation Locations and Options]

このページは、1 つまたは複数のサーバについて [ZENworks Policy-Enabled Management Services] オプションを選択した場合にのみ表示されます。これには、Policy and Distribution Services、Server Inventory、および Remote Management が含まれます。



1 [File Installation Paths and Options] ページでデフォルト値を変更せずに [Next] をクリックして、[Distributor Object Properties] ページを表示します。パスの先頭を別のボリュームやドライブに変更すると、それ以降インストールプログラムで表示されるパスはすべて自動的に変更されます。

重要: NetWare ボリューム名など、インストールパスでは、2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

このページの各フィールドはサーバごとに設定できます。サーバごとに設定を変更することも、複数のサーバを選択してそのすべての設定を同じように変更することもできます。たとえば、すべての NetWare サーバについてインストールボリュームを同じにすることができます。

[Trusted Tree]: ZENworks Server Management の eDirectory オブジェクトをインストールすることを選択しなかった場合、[Trusted Tree] フィールドには何も表示されませんが入力する必要があります。

Subscriber ソフトウェアを別のツリーで Microsoft ドメインのサーバにインストールする場合で、Distributor のツリーに Subscriber オブジェクトを作成しない場合は、Subscriber サーバの信頼されるツリーを指定する必要があります。

信頼されるツリーには 2 つの目的があります。

- ◆ Tiered Electronic Distribution の設定情報を Subscriber に配布できる Distributor を検索すること
- ◆ ポリシーを受け入れるツリーを指定すること

Subscriber ソフトウェアのみ（オブジェクトはインストールしない）のインストール時に、Subscriber サーバの信頼されるツリーとして識別されるツリーを選択していない場合、ポリシーは通常ツリー内のオブジェクトを指定するので、Policy Package Distribution を抽出して Subscriber サーバに適用できません。

[Launch Policy and Distribution Services on Startup]: サーバの起動時に自動的に Policy and Distribution Services を起動するように、インストールプログラムで起動プロセスを設定するには、このチェックボックスをオンのままにします。

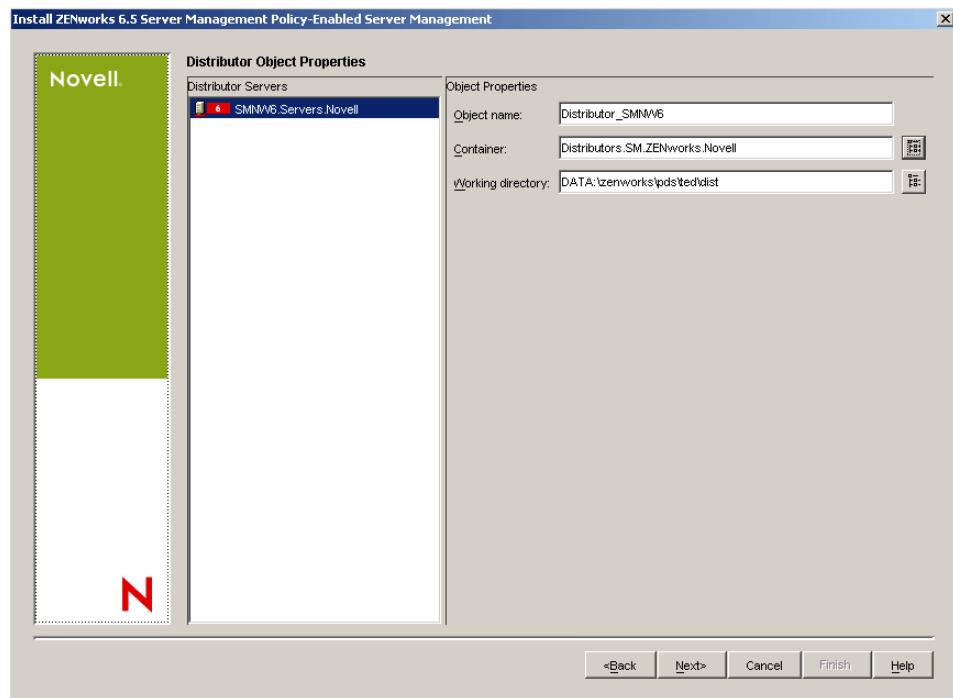
[Start Services When the Installation Is Finished]: Subscriber のパスワードはサービスの開始時にリセットされるので、このチェックボックスはオンのままにします。

2 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 79 ページの「[Distributor Object Properties]」
- ◆ 81 ページの「[Subscriber Object Properties]」
- ◆ 82 ページの「[Database Settings]」
- ◆ 84 ページの「[Inventory Standalone Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Inventory Proxy Service Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Distributor Object Properties]

このページは、1つまたは複数のサーバについて [ZENworks Policy-Enabled Management Services] オプションを選択した場合にのみ表示されます。



Distributor のデフォルトの設定を、個別に変更したり、左側のペインに表示されている複数の Distributor を選択してグループ単位で変更したりできます。

Distributor のデフォルトの設定を変更するには

1 左側のペインで Distributor を選択し、必要に応じて次のフィールドを編集します。

- ◆ **[Object Name]** : デフォルトの Distributor オブジェクト名にはサーバの名前が含まれます。

重要: オブジェクト名に 2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

Distributor オブジェクト名を変更する場合は、そのオブジェクトが Distributor であるという情報を含め、サーバの ID を名前に残すことをお勧めします。

各 Distributor オブジェクトの名前を変更するには、**ステップ 1** を繰り返す必要があります。複数の Distributor に同じ名前を付けることはできないからです。

- ◆ **[Container]** : デフォルト値は、Distributor サーバの NCP サーバオブジェクトの場所です。

Distributor オブジェクト用に作成したコンテナを使用することをお勧めします。

Windows サーバに eDirectory がインストールされていない場合、そのサーバのデフォルトのコンテナオブジェクトは表示されません。Distributor オブジェクト用のコンテナを選択する必要があります。

- ◆ [Working Directory] : NetWare サーバの場合、デフォルトの作業ディレクトリは sys: ボリュームにあります。

ディレクトリ名など、デフォルトのパスの一部を変更し、そのエントリがサーバ上に存在しない場合は、最初にその新しいパスを使用する必要があるときには、Distributor によって新しいパスが作成されます。

NetWare サーバのデフォルトのボリュームは sys: です。この Distributor について、サイズの大きい Distribution が複数作成されることや、大きな Distribution の多くのリビジョンが作成されることが予想されるために、作業ディレクトリが非常に大きくなる可能性がある場合は、別のボリュームを指定することをお勧めします。多くの Distributor については、sys: ボリュームを使用できます。

2 各 Distributor または Distributor のセットごとに、**ステップ 1** を繰り返します。

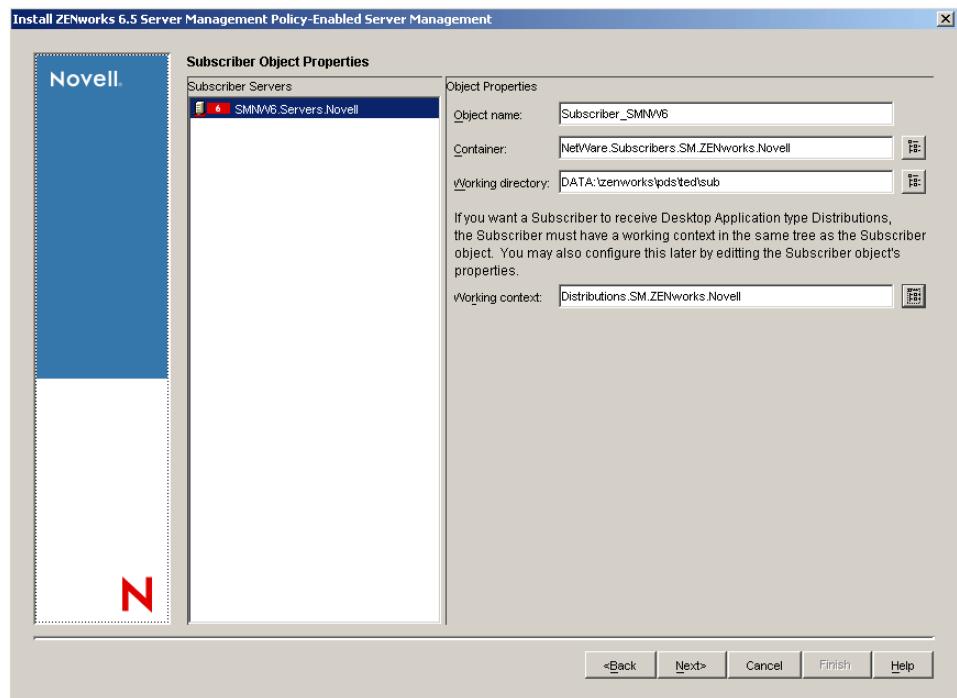
3 [Next] をクリックして [Subscriber Object Properties] ページを表示します。

4 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 81 ページの「[Subscriber Object Properties]」
- ◆ 82 ページの「[Database Settings]」
- ◆ 84 ページの「[Inventory Standalone Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Inventory Proxy Service Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Subscriber Object Properties]

このページは、1つまたは複数のサーバについて [ZENworks Policy-Enabled Management Services] オプションを選択した場合にのみ表示されます。



Subscriber のデフォルトの設定を、個別に変更したり、左側のペインに表示されている複数の Subscriber を選択してグループ単位で変更したりできます。

Subscriber のデフォルトの設定を変更するには

1 左側のペインで Subscriber を選択し、必要に応じて次のフィールドを編集します。

- ◆ **[Object Name]**：デフォルトの Subscriber オブジェクト名にはサーバの名前が含まれます。

重要：オブジェクト名に 2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

Subscriber オブジェクト名を変更する場合は、そのオブジェクトが Subscriber であるという情報を含め、サーバの ID を名前に残すことをお勧めします。

各 Subscriber オブジェクトの名前を変更するには、**ステップ 1** を繰り返す必要があります。複数の Subscriber に同じ名前を付けることはできないからです。

- ◆ **[Container]**：デフォルト値は、Subscriber サーバの NCP サーバオブジェクトの場所です。

Subscriber オブジェクト用にコンテナを作成した場合は、そのコンテナを使用することをお勧めします。

同じ種類のオペレーティングシステムのすべての Subscriber サーバで、同じコンテキストを使用する必要があります。たとえば、すべての NetWare Subscriber サーバのオブジェクトを NetWare コンテナに配置し、すべての Windows Subscriber サーバのオブジェクトを Windows コンテナに配置します。

Windows サーバに eDirectory がインストールされていない場合、そのサーバのデフォルトのコンテナオブジェクトは表示されません。Subscriber オブジェクト用のコンテナを選択する必要があります。

- ◆ **[Working Directory]** : NetWare サーバの場合、デフォルトの作業ディレクトリは sys: ボリュームにあります。
ディレクトリ名など、デフォルトのパスの一部を変更し、そのエントリがサーバ上に存在しない場合は、最初にその新しいパスを使用する必要があるとき、Subscriber によって新しいパスが作成されます。
- ◆ **[Working Context]**: Subscriber が Desktop Application Distribution を受信することが予想される場合は、関連するオブジェクトを格納する場所を参照します。
Desktop Application Distribution を受信する Subscriber の作業コンテキストを後で ConsoleOne で追加できます。

2 各 Subscriber または Subscriber のセットごとに、**ステップ 1** を繰り返します。

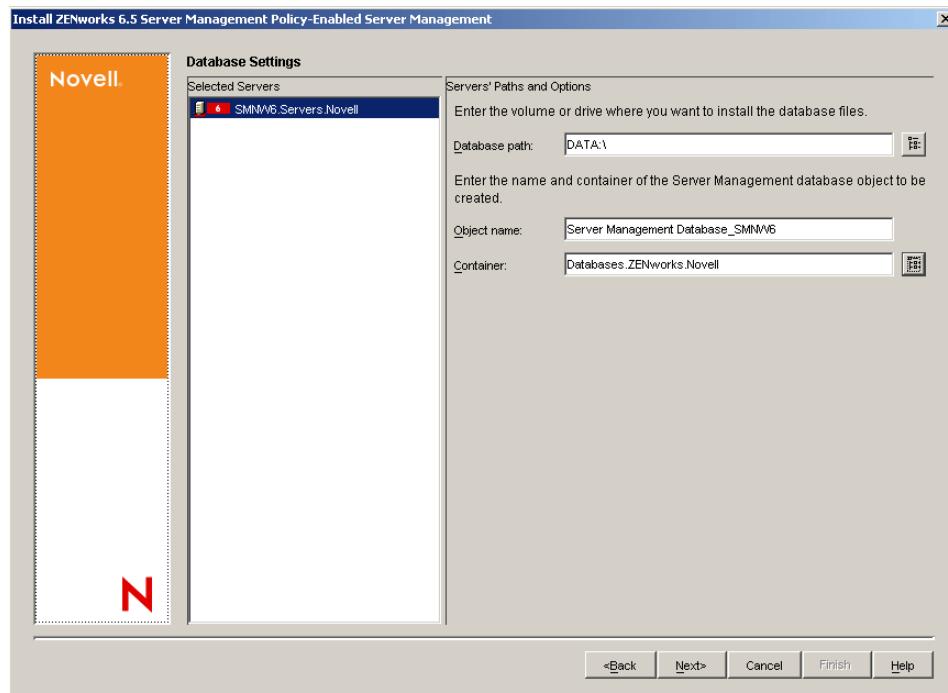
3 [Next] をクリックして [Database Settings] ページを表示します。

4 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 82 ページの「[Database Settings]」
- ◆ 84 ページの「[Inventory Standalone Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Inventory Proxy Service Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Database Settings]

このページは、サーバに Policy and Distribution Services データベース（[Server Management Database] オプション）または Server Inventory データベース（[Inventory Database] オプション）をインストールすることを選択した場合にのみ表示されます。



1 [Next] をクリックしてデフォルト値を受け入れるか、またはインストールする各データベースについて、該当するフィールドを編集します。

ヒント：複数のデータベースを選択して、それぞれに同じ情報を指定できます。

[Database Path] : NetWare サーバのデフォルト値は sys:、Windows サーバのデフォルト値は C: であり、これらの設定は変更できます。

重要：NetWare サーバ上の Server Management データベースについては、データベースファイルが非常に大きくなる場合があるため、sys: を別の NetWare ボリュームに変更することをお勧めします。

[Object Name] : デフォルトの名前は Server Management Database_*server_name* で、この名前は変更できます。ただし、すべてのデータベースオブジェクトについて同じコンテナを選択した場合は、それぞれ一意のオブジェクト名である必要があります。

Server Inventory データベースについて、データベースオブジェクトは作成されません。

[Container] : デフォルトのコンテナは、サーバの NCP サーバオブジェクトが存在する場所です。[35 ページの「eDirectory コンテナの要件」](#)でデータベースオブジェクト用に作成したコンテナを使用することをお勧めします。

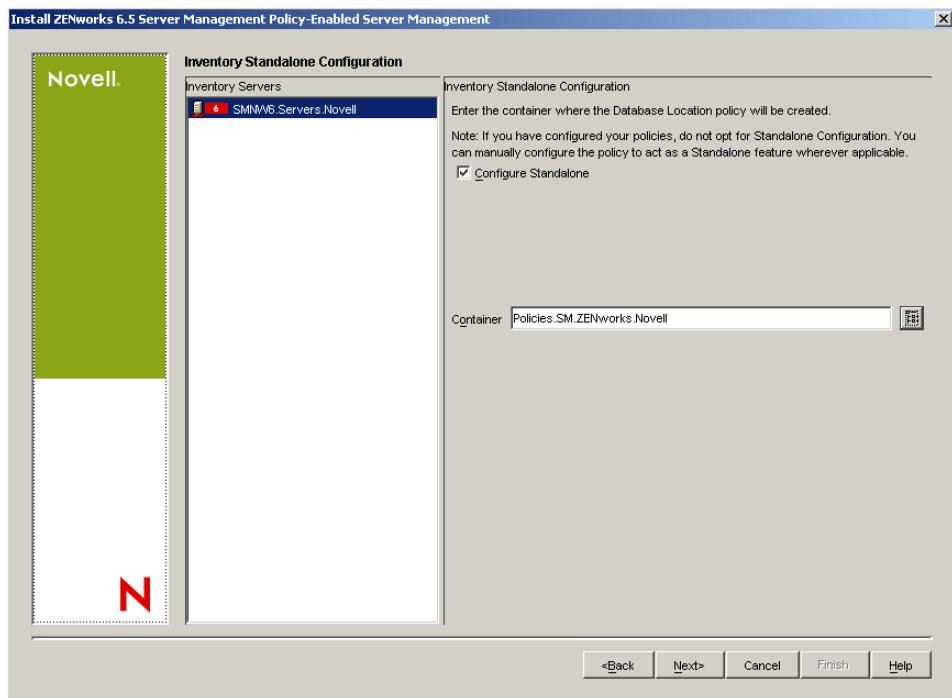
管理を容易にするために、すべてのデータベースオブジェクトを同じコンテナに配置することもお勧めします。

2 [Next] をクリックし、次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ [84 ページの「\[Inventory Standalone Configuration\]」](#)
- ◆ [85 ページの「\[Inventory Proxy Service Configuration\]」](#)
- ◆ [85 ページの「\[Remote Management Configuration\]」](#)
- ◆ [87 ページの「\[Policy and Distribution Services Database Logging\]」](#)
- ◆ [88 ページの「\[Installation Summary\]」](#)

[Inventory Standalone Configuration]

このページは、Inventory Server と Inventory Database を同じサーバにインストールすることを選択した場合にのみ表示されます。



1 自動的に Server Package を作成し、Inventory Services を開始するには、[Configure Standalone] チェックボックスをオンにします。

左側のペインで 1 つまたは複数の Inventory サーバを選択し、同じ設定にすることができます。

重要：これらのサーバの Server Package ポリシーをすでに設定している場合は、[Configure Standalone] チェックボックスをオンにしないでください。可能であれば、スタンドアロン機能として動作するようにポリシーを手動で設定できます。

2 Server Package オブジェクトのコンテナを指定するには、コンテナを参照して選択します。

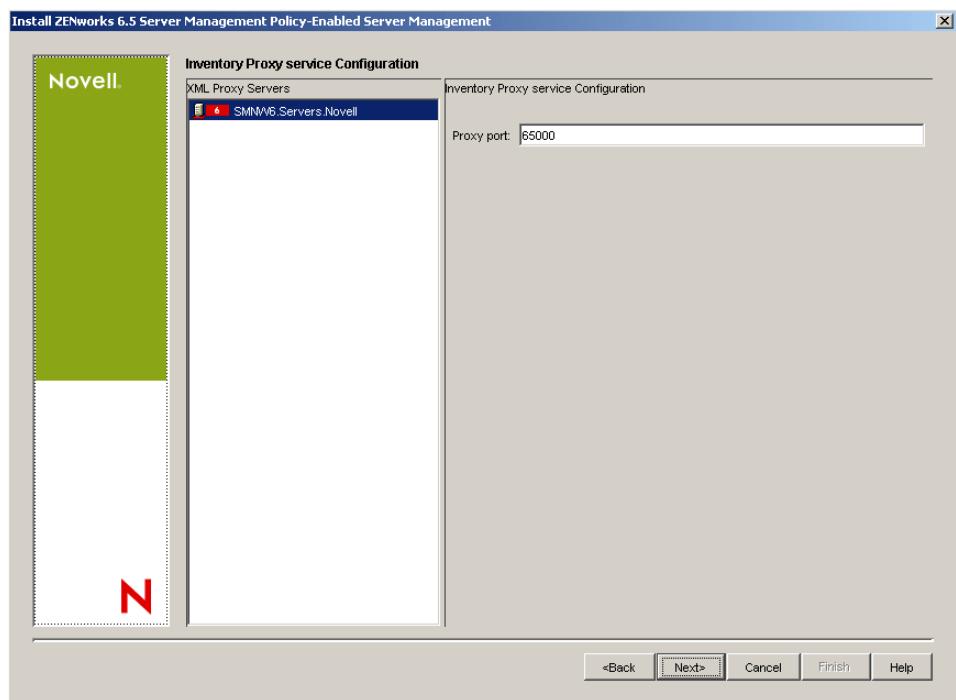
左側のペインで 1 つまたは複数の Inventory サーバを選択し、Server Package の作成用に同じコンテナを割り当てることができます。

3 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 85 ページの「[Inventory Proxy Service Configuration]」
- ◆ 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Inventory Proxy Service Configuration]

このページは、1つまたは複数のサーバについて [Inventory Proxy Server] オプションを選択した場合にのみ表示されます。



1 デフォルトのポート 65000 を使用しない場合、Inventory Proxy サービスのポート番号を設定するには、[Proxy Port] フィールドでポート番号を指定します。

左側のペインで 1つまたは複数の Inventory Proxy サーバを選択し、同じポート番号を割り当てることができます。

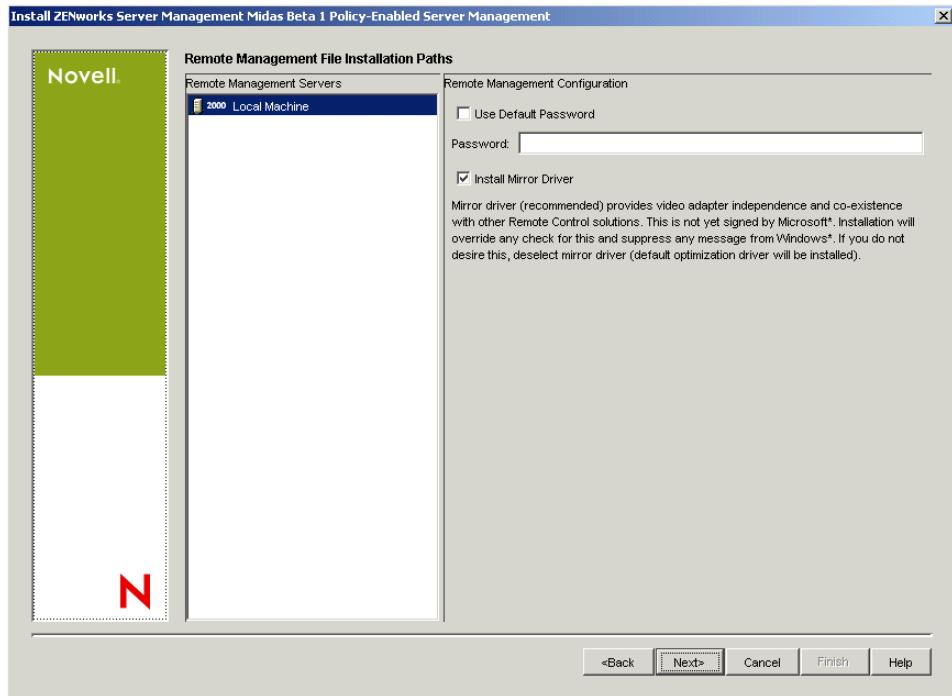
0 から 65535 までの値を指定する必要があります。指定するポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認します。

2 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 85 ページの「[Remote Management Configuration]」
- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Remote Management Configuration]

このページは、1つまたは複数の Windows サーバについて [Remote Management] オプションを選択した場合にのみ表示されます。



このダイアログボックスを使用して、Remote Management Agent のパスワードを設定し、管理対象サーバに Mirror Driver をインストールします。デフォルトのパスワードを使用することも、パスワードを指定することもできます。

- 1 Remote Management Agent のデフォルトのパスワードを設定するには、[Use Default Password] チェックボックスをオンにします。デフォルトのパスワードは novell です。
- 2 デフォルトのパスワード以外のパスワードを使用するには、[Password] フィールドで別のパスワードを指定します。

このパスワードは、管理対象サーバとの Remote Management セッションを確立するために使用されます。

10 文字以内の ASCII (非拡張) 文字を使用してパスワードを作成します。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。また、空欄にすることはできません。パスワードを指定せずに作業を進めることはできますが、サーバとの Remote Control セッションを確立することはできません。

警告： ZENworks 6.5 Remote Management Agent の以前のインストールがコンピュータ上で検出され、パスワードが設定されている場合、[Password] フィールドは表示されません。

- 3 Mirror Driver は、ターゲットサーバが Windows 2000/2003 サーバである場合にのみインストールできます。Mirror Driver によって、ビデオアダプタの独立性と他の Remote Control ソリューションとの共存が実現されます。このチェックボックスをオンにすると、InstallShield はビデオドライバのチェックを無効にし、Windows のメッセージを抑制します。このドライバを使用しない場合は、チェックボックスをオフにします (最適化は無効になります)。

注： Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。

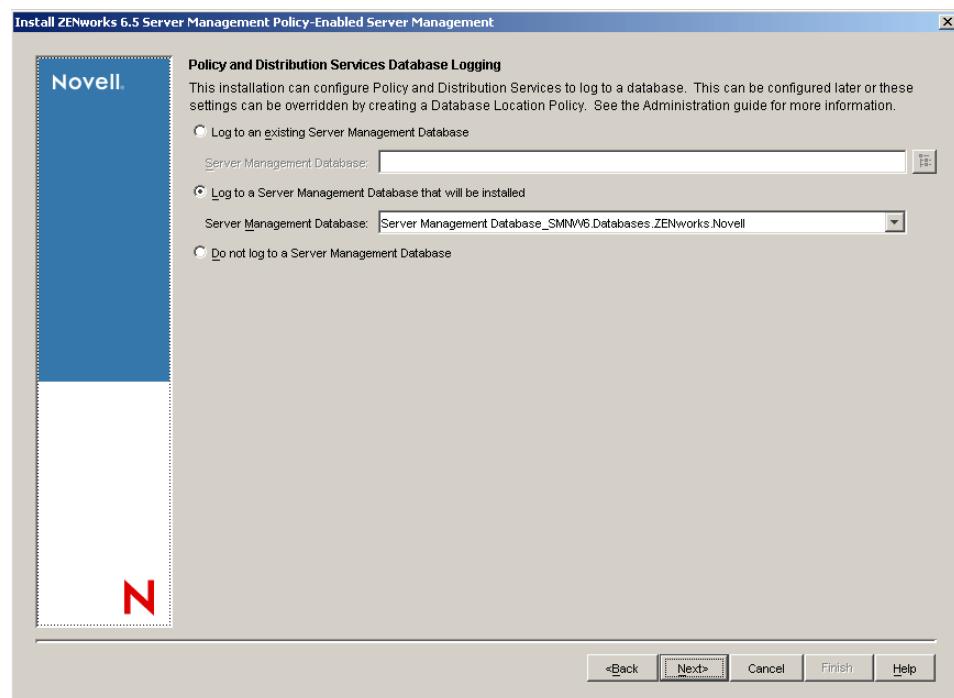
- 4 次に表示されるインストールページに該当する節に進みます。

- ◆ 87 ページの「[Policy and Distribution Services Database Logging]」
- ◆ 88 ページの「[Installation Summary]」

[Policy and Distribution Services Database Logging]

このページは、Policy and Distribution Services データベース（[Server Management Database] オプション）をサーバにインストールすることを選択した場合にのみ表示されます。

このページによって、ZENworks データベースポリシー（Service Location Package に含まれる）を設定する必要がなくなり、Server Management をインストール後、すぐにデータベースにログの記録を開始できます。インストール後の作業を容易にするために、インストールされている他のデータベースのそれぞれについて、データベースが Distributor で使用できるように Service Location Package を設定することによって、データベースを設定できます。



1 前のインストールページで設定した Server Management データベースのログの記録を指定するには、次のいずれかを選択します。

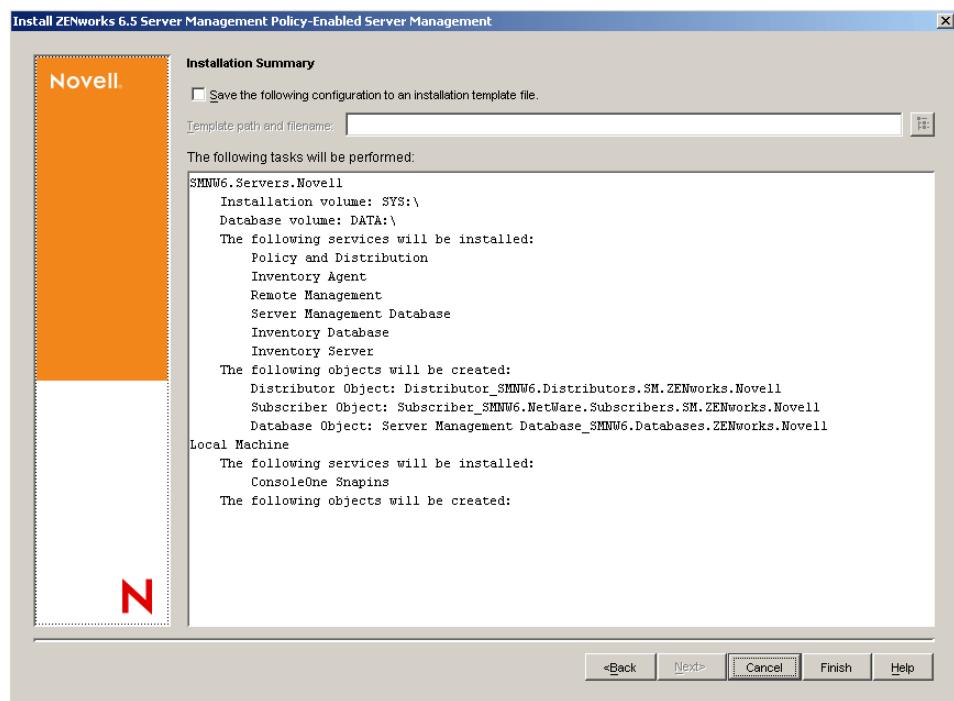
[Log to an Existing Server Management Database]：データベースオブジェクトを参照して選択することによって、インストール中のデータベースのいずれかにログを記録するのではなく、ログの記録用に既存のデータベースファイルを選択します。

[Log to a Server Management Database That Will Be Installed]：前のインストールページで設定したデータベースオブジェクトのいずれかが表示されます。ただし、下向き矢印をクリックして、インストール中の別のデータベースオブジェクトを選択できます。

[Do Not Log to a Server Management Database]：前のインストールページでデータベースを設定している場合でも、ここでデータベースにログを記録しないことを選択できます。

2 [Next] をクリックし、88 ページの「[Installation Summary]」に進みます。

[Installation Summary]



- 1 後で使用するために現在のインストールの設定を保存するには、[Save the Following Configuration] チェックボックスをオンにして、テンプレートファイルのパスとファイル名を指定します。

ヒント： このテンプレートファイルを使用して、ZENworks Server Management のインストールを繰り返すことができます。これによって、再び情報を入力したり、サーバを選択したりする時間を節約できます。テンプレートを使用してインストールを再実行する場合、テンプレートによって設定されているフィールドや選択済みのサーバを変更できます。

- 2 [Installation Summary] ページで、[Finish] をクリックするとインストール処理が開始されます。

概要で設定の誤りや抜けを見つけた場合は、[Back] をクリックして設定を変更できます。

- 3 インストールプログラムが終了したら、インストールログファイルを調べて、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。

このログファイルは、インストールコンピュータ上の、Windows の環境設定で指定された一時ディレクトリにあります。例：

c:\temp_resnnn.txt

nnnは、新しいインストールログが作成されるたびに順に大きくなります。

インストール時にエラーメッセージが表示された場合は、[365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」](#)を参照してください。

- 4 必要に応じて、インストールプログラムを再実行します。

インストールに失敗したコンポーネントだけを選択します。

重要： 再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

- 5 ソフトウェアのインストールが正常に終了したら、[Exit] をクリックしてメインインストールプログラムを終了します。
この時点では、Server Management オブジェクトが作成され、ソフトウェアがインストールされ、Server Management エージェントが起動されています。
- 6 ZENworks のプロセスが実行されていることを確認するには、89 ページの「Policy and Distributions Services エージェントがロードされていることの確認」に進みます。

Policy and Distributions Services エージェントがロードされていることの確認

Policy and Distributions Services エージェントがターゲットサーバで実行されていることを確認するには

- ◆ 89 ページの「NetWare サーバでの確認」
- ◆ 90 ページの「Windows サーバでの確認」

NetWare サーバでの確認

ZENworks Server Management が NetWare サーバで正しく実行されているかどうかを確認するには

- 1 対象になるサーバのコンソールで <Ctrl>+<Esc> を押し、ロードされたソフトウェアプログラムを表示します。

例：

Sybase データベース

ZENworks (Policy and Distribution Services がインストールされている場合)

ZENworks Inventory Service

ZENworks Web Server (Inventory Server または Inventory Proxy Service だけがインストールされている場合)

- 2 ZENworks アイテムが表示されない場合は、次のファイルを確認します。

... \zenworks\pds\zfs-startup.log

このファイルには、エージェントが起動されなかった理由が記録されます。この情報を参考にして、ZENworks Server Management をサーバに再インストールします。

このファイルは、起動時の問題に関するログを記録するためにのみ使用されます。

- 3 各 NetWare サーバについて、ステップ 1 とステップ 2 を繰り返します。

- 4 必要に応じて、インストールプログラムを再実行します。64 ページの「インストールプログラムの起動」を参照してください。

- 5 次の該当する節に進みます。

- ◆ Windows サーバにインストールしている場合は、90 ページの「Windows サーバでの確認」に進みます。
- ◆ iManager 用の Policy and Distribution Services プラグインをインストールするには、90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」に進みます。
- ◆ または、98 ページの「インストール後の作業」に進みます。

Windows サーバでの確認

ZENworks Server Management が Windows サーバで正しく実行されているかどうかを確認するには

- 1 対象になるサーバで [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、次のサービスが実行しているかどうかを確認します。

Novell Inventory Service

Novell Database - Sybase

Novell ZENworks Service Manager

- 2 サービスが表示されない場合、次の手順を実行します。

- 2a [サービス] ウィンドウを閉じます。

- 2b [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

`zenworks\pds\bin\dservices.bat`

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが停止し、これらのサービスの登録が取り消されます。この操作は、サービスを登録できるよう、クリーンな状態を確保するために実行されます。

- 2c [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

`zenworks\pds\bin\sservices.bat`

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが登録されます。

- 2d [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、サービスを開始します。

- 3 各 Windows サーバに対して、**ステップ 1** と **ステップ 2** を実行します。

- 4 必要に応じて、インストールプログラムを再実行します。[64 ページの「インストールプログラムの起動」](#)を参照してください。

- 5 次の該当する節に進みます。

- ◆ iManager 用の Policy and Distribution Services プラグインをインストールするには、[90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」](#)に進みます。
- ◆ または、[98 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。

Policy and Distribution Services の Web ベースの管理

ConsoleOne 1.3.6 に加えて、Novell iManager 2.0.2 を使用することによって、Tiered Electronic Distribution 管理およびエージェントの監視作業が容易になります。iManager によって、サポートされているバージョンの Internet Explorer が利用できる任意の場所から Policy and Distribution Services のタスクを実行できます。

iManager を使用することによって、次のことができます。

- ◆ Tiered Electronic Distribution オブジェクト (Distributor、Subscriber、Distribution、Channel、Subscriber Group、およびExternal Subscriber) を作成、変更、および削除します。
- ◆ 配布システムをグラフィカルに表示し、Distribution が通過する親 Subscriber の数に関係なく、Distributor からエンドノードの Subscriber まで、Distribution を容易に追跡できるようにします。これによって、各サーバにアクセスしてログファイルを読む必要がなくなります。

- ◆ ブラウザベースのコンソールの表示。このコンソールは Remote Web Console と呼ばれ、システム内の Distributor Agent および Policy/Package Agent ごとに表示されます。Remote Web Console から、エージェントの設定を確認したり、エージェントのアクティビティを監視したり、多くのエージェントの機能を制御したりできます。たとえば、Distributor、Subscriber、または Policy Package に対するアクションを今すぐ強制的に実行したり、Distribution、Subscriber、および Policy Package のステータスを監視したりできます。

重要: Linux または Solaris サーバに iManager をインストールした場合は、GUI のインストールプログラムを使用して、Linux または Solaris サーバ上の iManager に Policy and Distribution Services プラグインをインストールできます。

Novell iManager 2.0.2 をインストールする方法については、41 ページの「**管理固有のワークステーションの要件**」を参照してください。

iManager 用の Policy and Distribution Services プラグインをインストールするには

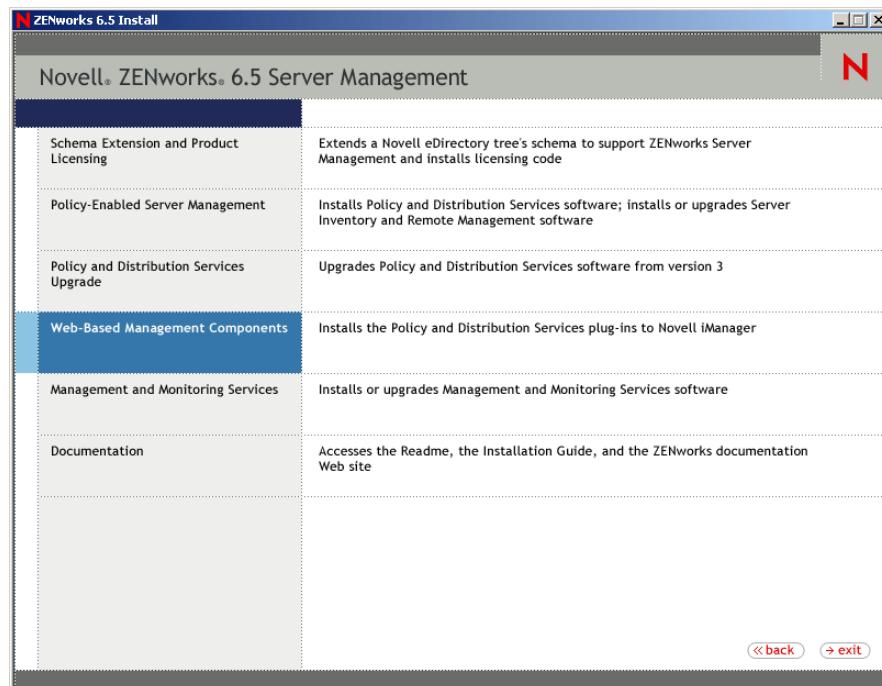
- 1 次のいずれかの方法でメインインストールメニューを表示します。

- ◆ *ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の内容をハードドライブにコピーした場合は、ハードドライブから *winsetup.exe* を実行します。

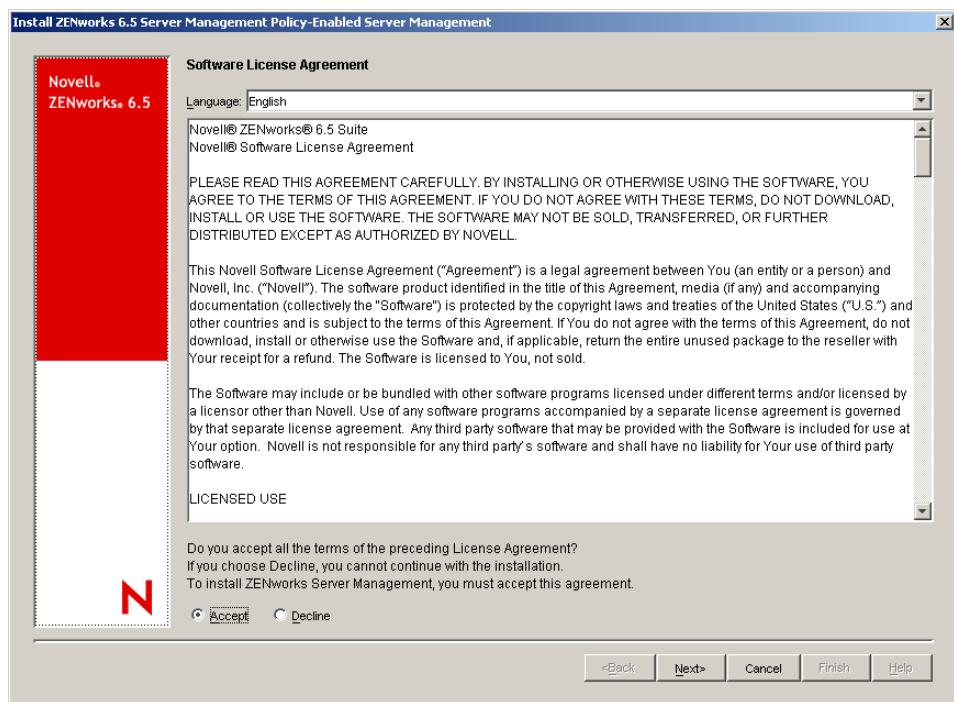
Program CD の構造をインストールコンピュータのハードドライブにコピーした場合、ハードドライブのルートから CD の最初のディレクトリまでのパスには、8.3 形式の DOS のファイル命名規則に準拠したディレクトリ名のみ使用できます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは動作しません。

- ◆ インストールコンピュータで、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を挿入します。

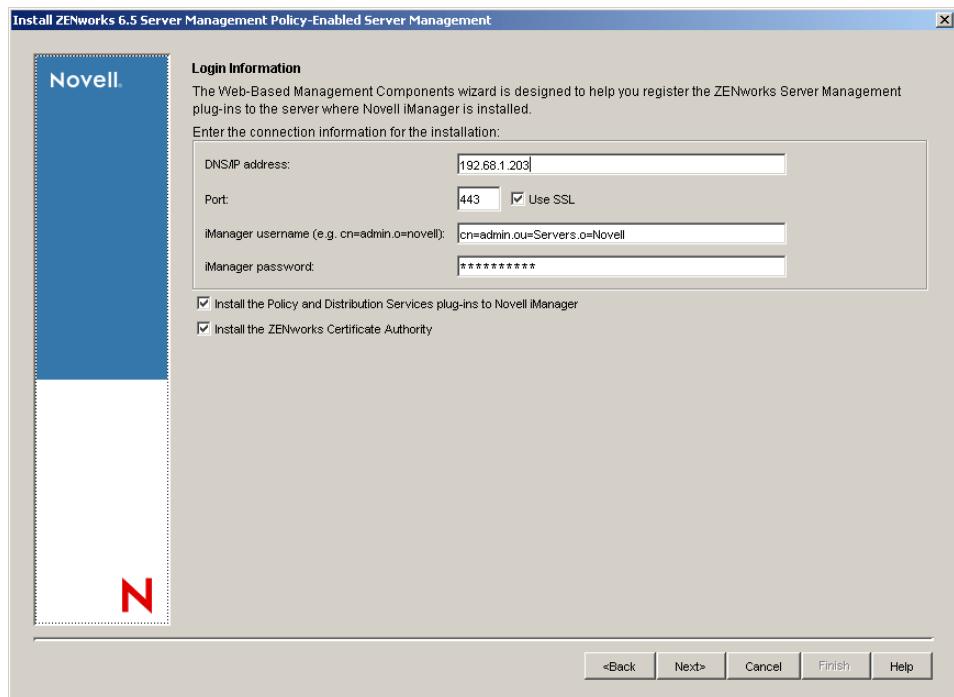
起動ページが表示されます。CD を挿入しても自動的に起動ページが表示されない場合は、CD のルートにある *winsetup.exe* を実行します。



2 [Web-Based Management Components] をクリックして、[License Agreement] ページを表示します。



3 [Accept] をクリックして使用許諾契約に同意し、[Next] をクリックして [Login Information] ページを表示します。



4 次のフィールドに情報を入力します。

[DNS/IP Address] : iManager がインストールされているサーバのアドレスを指定します。

[Port] : iManager と通信するときに使用するポート番号を指定します。SSL を使用する場合は、通常 443 です。SSL を使用しない場合は、8080 を使用します。

[Use SSL] : デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっていません。SSL を使用するように iManager を設定している場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。

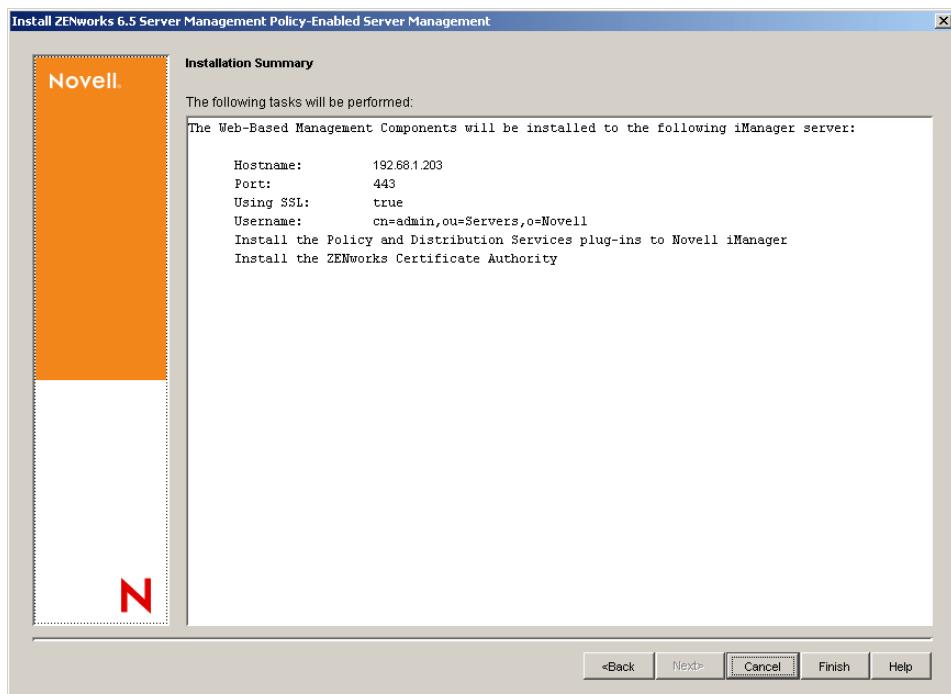
[iManager Username] : iManager に対する権利を持つユーザの iManager (完全識別) ログイン名を指定します。このユーザ名は指定された形式 (cn=admin, o=novell など) で入力する必要があります。このユーザ名で認証を得ることができない場合、インストールを続行できません。

[iManager Password] : インストールプログラムを実行するユーザの iManager パスワードを指定します。

[Install the Policy and Distribution Services Plug-ins to Novell iManager] : Remote Web Console および Tiered Electronic Distribution プラグインを iManager にインストールし、これらのコンポーネントを Web ブラウザから管理できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[Install the ZENworks Certificate Authority] : サーバ間通信のセキュリティのために ZENworks 認証局サーブレットをインストールするには、このチェックボックスをオンにします。これによって、セキュリティで保護されたネットワークの外部から受信したデータが信頼されるソースから送信されたものであり、途中で改竄されておらず、受信したデータは他のコンピュータでも信頼できることが保証されます。これは、署名付きのセキュリティ証明書とデジタル署名を使用することによって実現されます。

5 [Next] をクリックして [Summary] ページを表示します。



このインストールの概要は、選択した Web コンポーネントが Tomcat インストールディレクトリにインストールされることを示しています。

- 6 [終了 (Finish)] をクリックします。
- 7 インストールが完了したら、[Yes] をクリックしてインストールログファイルを表示します。

ログファイルにエラーが記録されている場合は、参考のために印刷できます。エラーメッセージの検索については、[365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」](#)を参照してください。エラーを解決して、インストールの手順を繰り返します。

iManager での ZENworks Server Management の役割も設定する必要があります。この役割の情報は eDirectory に格納されるからです。

Novell Certificate Signer を再インストールするには、『[Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド](#)』の手順に従ってください。

- 8 iManager プラグインを正しくインストールした後、ログファイルを閉じます。
- 9 iManager で新しいプラグインを認識するには、Tomcat を停止し、Tomcat を再開します。

- ◆ **NetWare**

停止 : tc4stop.ncf

開始 : tomcat4.ncf

- ◆ **Windows:**

[サービス] ウィンドウで、Tomcat サービスを開始または停止します。

- ◆ **Linux**

再開 : /etc/init.d/tomcat4 restart

または

停止 : /etc/init.d/tomcat4 stop

開始 : /etc/init.d/tomcat4 start

- 10 次の該当する節に進みます。

- ◆ Linux または Solaris サーバにインストールする場合は、[95 ページの「Linux および Solaris へのインストール」](#)に進みます。
- ◆ Linux または Solaris サーバにインストールしない場合は、[98 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。
- ◆ アップグレード中にこの作業を実行した場合は、[211 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」](#)に戻ります。

Linux および Solaris へのインストール

この節では、Linux または Solaris サーバに Novell ZENworks Server Management をインストールする手順について説明します。

Policy and Distribution Services コンポーネントは、Linux および Solaris プラットフォームでサポートされています。ただし、Server Inventory および Remote Management コンポーネントはサポートされていません。

ネットワークに NetWare サーバや Windows サーバも含まれている場合は、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」で説明されているように、最初にこれらのいずれかのプラットフォームに Policy and Distribution Services をインストールするのが最も簡単です。これは、データベースファイルを NetWare または Windows サーバ上で作成する必要があるからです。このデータベースには、レポーティング用のログメッセージが格納され、配布処理の成功と失敗の詳細が記録されます。必要に応じて、Policy and Distribution Services ソフトウェアを Linux または Solaris サーバに最初にインストールし、後で NetWare または Windows サーバ上でデータベースを作成できます。

Linux または Solaris バージョンのソフトウェアを 1 台の Linux または Solaris サーバにインストールするには、ZENworks 6.5 Server Management Program CD に収められているインストールスクリプトを使用します。このスクリプトによって、必要な ZENworks オブジェクトが Novell eDirectory™ に作成されます。Linux のみまたは Solaris のみの環境での eDirectory のインストールまたはアップグレードについては、34 ページの「Linux または Solaris サーバでの eDirectory のインストールまたはアップグレード」を参照してください。

このスクリプトを実行する最も簡単な方法は、Policy and Distribution Services をインストールする Linux または Solaris サーバの CD ドライブに Program CD を挿入する方法です。サーバからサーバへの物理的な移動を省くインストールソリューションは、Linux または Solaris 管理者が自由に決定できます。

Policy-Enabled Server Management をインストールする Linux または Solaris サーバは、Distributor、Subscriber、またはその両方として機能することができます。

- ◆ **Distributor:** Distributor Agent は、Distribution を収集し、Subscriber サーバに送信します。Distribution は、ポリシー、新規または更新されたソフトウェア、個々の実行可能ファイル、データベース、ドキュメント、テキストファイルなどで構成されます。
- ◆ **Subscriber:** Policy/Package Agent は、Distribution を受信し、抽出します。次に、Policy/Package Agent が、ポリシーの適用、ソフトウェアのインストール、ファイルの更新などを実行します。

Policy and Distribution Services をインストールする Linux または Solaris サーバで、
1 root としてログインします。

2 Linux または Solaris サーバで X ウィンドウを実行している場合、XTerm ウィンドウを開きます。

3 ZENworks 6.5 Server Management Program CD をサーバの CD ドライブに挿入します。
4 Readme でインストールに関する最新情報を確認します。

Readme_servers.html が ZENworks 6.5 Server Management Program CD の
¥readmes¥en ディレクトリに存在します。

5 Policy and Distribution Services のインストールスクリプトを実行するには、[XTerm] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 次のいずれかのコマンドを入力します。

Red Hat Linux: /mnt/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-install

SUSE LINUX: /media/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-install

platform は Linux または Solaris のいずれかです。

- ◆ Policy and Distribution Services のインストールスクリプトが保存されているディレクトリに移動します。

cd /device_directory/ZfS/TedPol/platform

device_directory は CD デバイスのマウントポイントを表し、*platform* は Linux または Solaris のいずれかです。

次のように入力します。

./zfs-pds-install

6 <Enter> キーを押して使用許諾契約を表示し、<Spacebar> キーを押して使用許諾契約をスクロールします。次に「**y**」と入力して <Enter> キーを押し、使用許諾契約に同意します。

このスクリプトは、j2re および novell-zen-zfs RPM ファイルからソフトウェアをインストールします。

7 Server Management を設定するには、表示されるプロンプトに応答します。

28 ページの「Policy and Distribution Services を Linux および Solaris サーバにインストールするための情報」で収集した情報は、ここで必要になります。

括弧に囲まれてコロンの前に表示される情報は、<Enter> キーを押すと使用されるデフォルト値を表します。ただし、表示されているデフォルト値が正しくない場合は、<Enter> キーを押す前に独自の情報を指定できます。

ヒント: [XTerm] ウィンドウを使用している場合は、十分な幅で表示して、作成するエントリが 1 行に収まるようにする必要があります。エントリが折り返して表示され、そのエントリを <Backspace> キーを使って変更する必要がある場合、<Backspace> キーで消去できるのは折り返された行の先頭までです。この場合、入力した情報が適切なエントリではないときには、<Enter> キーを押してもう一度スクリプトプロンプトを表示します。

7a eDirectory ツリーのレプリカが存在するサーバの DNS 名を指定します。例：

smnw6.novell.com

7b ツリーのルートに対して管理者の権利を持つユーザの DN を入力します。例：

admin.servers.novell

7c 管理者ユーザのパスワードを入力します。

パスワードを入力しても、文字の入力を示すものは何も表示されません。

正しいユーザ名とパスワードを入力した場合は、「Authentication successful」というメッセージとツリーの名前が表示されます。

8 括弧内に正しい DNS 名が表示されている場合は、<Enter> キーを押して受け入れます。

または

正しい名前が表示されていない場合は、正しい DNS 名を入力してから <Enter> キーを押します。

DNS が正しく設定されている場合、このスクリプトを実行している Linux または Solaris サーバの DNS 名が括弧内に表示されます。たとえば、SMLX1.provo.novell.com のように表示されます。

9 このサーバを Distributor として使用する場合は、「y」と入力し、<Enter> キーを押します。

9a Distributor オブジェクトの名前を入力します。例：

```
Distributor_SMLX1
```

9b Distributor オブジェクトを作成できる既存の eDirectory コンテナを入力します。例：

```
Distributors.SM.ZENworks.Novell
```

10 Subscriber オブジェクトの名前を入力します。例：

```
Subscriber_SMLX1
```

11 Subscriber オブジェクトを作成できる既存の eDirectory コンテナを入力します。例：

```
Linux.Subscribers.SM.ZENworks.Novell  
または  
Solaris.Subscribers.SM.ZENworks.Novell
```

サーバは、そのプラットフォームの名前が付けられたコンテナに保存します。詳細については、[32 ページの「Novell eDirectory の要件」](#)を参照してください。

12 ネットワークにすでに ZENworks データベースがインストールされており、このサーバでデータベースにログを記録する場合は、次のようなデータベースオブジェクトの DN を入力します。

```
Server Management Database_SMNW6.Databases.ZENworks.Novell
```

13 Policy and Distribution Services エージェントを起動する方法およびサービスが開始されない場合に再設定する方法については、表示される情報を確認します。

14 エージェントが実行されていることを確認するには、次のように入力します。

```
/etc/init.d/novell-zfs status
```

次のエージェントが表示されます。

```
Novell ZENworks Server Management
```

エージェントが起動しない場合は、/var/opt/novell/log/zenworks ディレクトリにある zfs-startup.log ファイルを確認します。

15 インストールに成功したら、各 Linux サーバでこの手順を繰り返します。

16 Linux サーバに Policy and Distribution Services を正しくインストールしたら、[98 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。

インストール後の作業

Novell ZENworks Server Management ソフトウェアを、NetWare、Windows、Linux、および Solaris サーバにインストールした後、インストール処理では自動化できない作業があり、これらの作業を行ってインストールを完了する必要があります。次の各節では、これらの作業の詳細について説明します。

最初の節では、すべての Server Management コンポーネントについて行う必要がある作業について説明します。他の 4 つの節はコンポーネントごとに分けられ、インストールできるコンポーネントごとに示されています。

インストールした Server Management コンポーネントについて、次の各節で説明されている必要な作業を行います。

- ◆ [98 ページの「Policy and Distribution Services」](#)
- ◆ [103 ページの「Server Inventory」](#)

Policy and Distribution Services

次の作業は、Policy and Distribution Services コンポーネントに特有の作業です。

- ◆ [99 ページの「NetWare 5.1 サーバ上での Novell Servlet Gateway の再起動」](#)

Server Management をインストールしたサーバで Novell Servlet Gateway を実行している場合は、このゲートウェイの Java プロセスを手動で再起動する必要があります。

- ◆ [99 ページの「Policy and Distribution データベースの作成」](#)

Linux または Solaris Distributor サーバにレポーティング機能を提供するには、次の手順に従って NetWare または Windows サーバ上でデータベースを作成します。

- ◆ [101 ページの「複数のネットワークアドレスを持つサーバでの Policy and Distribution Services エージェントの設定」](#)

Policy and Distribution Services エージェントをインストールしたサーバがネットワーク上で複数のネットワークアドレスを持つ場合は、この手順に従います。

- ◆ [102 ページの「ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Packages のバージョン 6.5 への変換」](#)

ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Packages を維持する場合は、Server Software Packages をバージョン 6.5 に変換する必要があります。この手順に従います。

- ◆ [102 ページの「Policy and Distribution Services の使用」](#)

この節では、Policy and Distribution Services によって実行できるその他の処理について紹介します。

NetWare 5.1 サーバ上での Novell Servlet Gateway の再起動

インストールプログラムは、ZENworks Server Management をインストールする前に、すべての Java プロセスを停止します。Server Management のインストールが完了した後、インストールプログラムはインストール前に停止したすべての Java アプリケーションを自動的に再起動しようとします。状況によって、インストールプログラムで再起動できない Java プロセスがあります。

NetWare 5.1 サーバでは、Novell Servlet Gateway アプリケーションをインストールプログラムで自動的に再起動することはできません。ZENworks をインストールした NetWare 5.1 サーバでこの Java プロセスを実行している場合は、手動でこのプロセスを再起動する必要があります。

Policy and Distribution データベースの作成

Policy and Distribution データベースには、レポーティング用のログメッセージが格納され、Distribution 処理の成功と失敗やポリシーのステータスの詳細が記録されます。現在、このデータベースファイルは Linux または Solaris サーバでは作成できません。したがって、データベースのログの記録を Linux または Solaris Distributor ごと、または Policy/Package Agent ごとに行うには、NetWare または Windows サーバにデータベースをインストールする必要があります。

Linux または Solaris Distributor が存在する eDirectory ツリーに Database オブジェクトを持つデータベースをインストールしていなかった場合、Linux および Solaris サーバのログをデータベースに記録するには、Windows を実行するインストールコンピュータで次の操作を行います。

- 1 Distributor および Subscriber オブジェクトを作成した eDirectory ツリーにまだログインしていない場合は、ログインします。
- 2 ZENworks 6.5 Server Management Program CD を挿入します。
インストールプログラムの最初のウィンドウが表示されます。CD を挿入しても自動的にこのウィンドウが表示されない場合は、CD のルートにある `winsetup.exe` を実行します。
- 3 [Server Management] をクリックし、次に [Policy-Enabled Server Management] を選択します。
- 4 使用許諾契約に同意し、[Next] をクリックします。
デフォルトでは、[New Installation] が選択されています。
- 5 [Next] をクリックします。
デフォルトでは、[Policy and Distribution Services] が選択されています。
- 6 [Next] をクリックします。
デフォルトでは、[Create eDirectory Objects] および [Install Software Files] オプションが選択されています。
- 7 [Next] をクリックします。
- 8 ZENworks Database オブジェクトを作成する eDirectory ツリーを選択し、[OK] をクリックし、[Next] をクリックします。
- 9 [Server Selection] ダイアログボックスで、[Add Servers] をクリックします。

10 Policy and Distribution データベースを作成する NetWare または Windows サーバに対応する eDirectory オブジェクトがある場合は、eDirectory ツリーを参照し、サーバオブジェクトを選択します。

または

Microsoft ドメインの Windows サーバの場合は、[List Servers By] ドロップダウンリストで、[Microsoft Domain] をクリックしてドメインを展開し、サーバを選択します。

11 選択したサーバを [Available Servers] ボックスから [Selected Servers] ボックスに移動し、[OK] をクリックします。

12 [Server Selection] ダイアログボックスに戻り、選択したサーバの行で、[Database] 列をマークし、[Next] をクリックします。

13 次のフィールドに情報を入力します。

[Database Path] : Policy and Distribution データベースのサイズは非常に大きくなる可能性があることを考慮します。

- NetWare では、デフォルトのデータベースパスは sys:¥zenworks です。sys: 以外のボリュームを使用するようにデータベースを変更する必要があります。
- Windows では、デフォルトのデータベースパスは c:¥zenworks です。これが適切な場所であるかどうかは、C: ドライブのサイズとサーバ上の他のドライブの空き容量によって決まります。

[オブジェクト名] : デフォルトのオブジェクト名は ZENworks Database です。複数のデータベースをインストールする予定がある場合は、この名前を変更できます。

[Container] : ZENworks Database オブジェクトを作成するコンテナオブジェクトを参照して選択します。他の Tiered Electronic Distribution オブジェクトと共に配置することも、サーバオブジェクトと同じコンテナに配置することもできます。

14 [Next] をクリックします。

インストールの概要に、インストールされるデータベースファイルと、データベース用に作成される eDirectory オブジェクトが一覧表示されます。

15 [終了 (Finish)] をクリックします。

16 インストールが完了したら、[View Log File] をクリックして、インストールプログラムによって行われた処理を確認します。

インストールログファイルにエラーが記録されている場合は、参考のために印刷できます。インストールエラーの検索については、[365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」](#)を参照してください。問題を解決して、正しくインストールの手順を繰り返します。

17 ログファイルを閉じて、インストールプログラムを終了します。

複数のネットワークアドレスを持つサーバでの Policy and Distribution Services エージェントの設定

Policy and Distribution Services エージェントをインストールしたサーバがネットワーク上で複数のネットワークアドレスを持つ場合は、エージェントを起動する前に、追加の設定が必要です。この状況が発生するのは、サーバが次のいずれかまたは両方の特性を持つ場合です。

- ◆ 複数の NIC
- ◆ 複数の DNS ホスト名

DNS の前方および逆引き参照が正しく行われるようにするには、該当する各サーバの設定ファイルを編集する必要があります。次の手順は、サポートされているすべてのプラットフォームのサーバに適用されます。

- 1 テキストエディタで次のファイルを開きます。

Installation_path\zenworks\zfs-startup.xml

- 2 次のクラスを検索します。

`<Class>com.novell.application.zenworks.ted.TED</Class>`

- 3 このクラスの下に記述されている次のパラメータを編集します。

`<Parameter Name="Hosts" />`

このパラメータが存在しない場合は、パラメータを作成してパラメータリストに挿入します。

ホストの DNS ホスト名または IP アドレスを指定します。例：

`<Parameter Name="Hosts">192.68.1.203</Parameter>`

終了`</Parameter>`コードが追加され、"Hosts" 名の後に終了`>`文字が追加されていることに注目してください。DNS ホスト名と IP アドレスは、上記のようにこれらのコードの間に指定します。

サーバの NIC カードにバインドされているホストを記述してはいけません。

複数のホストを記述する場合は、DNS ホスト名および IP アドレスのリストをセミコロン`(;)`で区切る必要があります。例：

`<Parameter Name="Hosts">`
192.68.1.203;192.68.1.204;server001.provo.novell.com
`</Parameter>`

リスト内では DNS ホスト名と IP アドレスを混在させることができます。

- 4 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

複数の NIC がある場合、ネットワークアクセスのためのプライマリホストカードとして使用されるカードがサーバによって認識されない場合があります。プライマリホストとして適切な NIC が認識されるようにするためには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

Installation_path\zenworks\zfs-startup.xml

- 2 次のクラスを検索します。

`<Class>com.novell.application.zenworks.ted.TED</Class>`

3 このクラスの下に記述されている次のパラメータを編集します。

```
<Parameter Name="PrimaryHost" />
```

このパラメータが存在しない場合は、パラメータを作成してパラメータリストに挿入します。

適切な NIC カードの IP アドレスを指定します。次に例を示します。

```
<Parameter Name="PrimaryHost">192.68.1.203</Parameter>
```

終了</Parameter>コードが追加され、“PrimaryHost”名の後に終了>文字が追加されていることに注目してください。IP アドレスは、このようにコードの間に指定します。

PrimaryHost パラメータに DNS ホスト名が記述されている場合は、これを IP アドレスに変更します。

4 変更を保存し、テキストエディタを終了します。

ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Packages のバージョン 6.5 への変換

ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Packages を ZENworks 6.5 で維持する場合は、ZENworks 6.5 Server Management のインストール後にバージョン 6.5 に変換する必要があります。手順については、[Novell のサポート Web サイト \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2962260.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2962260.htm) を参照してください。

Policy and Distribution Services の使用

Policy and Distribution Services を最大限に活用するために、配布システムとサーバポリシーをさらに設定するには、次の操作を行います。

- ◆ サーバポリシーを含め、必要な Distribution の決定
- ◆ Distribution および関連する Channel の決定
- ◆ 他の Distributor が必要であるかどうかの決定
- ◆ 他の Distributor のインストール
- ◆ 各 Distributor のルーティング階層の作成
- ◆ 必要な親 Subscriber の設定
- ◆ Subscriber と Distribution Channel の関連付け
- ◆ Distribution の送信

これらの操作を行うには、Policy and Distribution Services について理解し、必要な Distribution を識別し、使用する配布システムを計画する必要があります。計画の度合いは、ネットワークの規模や複雑さ、および Distribution のサイズや頻度によって異なります。

Policy and Distribution Services の理解、配布システムの設定方法、サーバポリシーの設定、および Distribution の新規作成については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「インストール後の設定」を参照してください。

Server Inventory

次の作業は、Server Inventory コンポーネントに特有の作業です。Inventory サーバで Server Inventory サービスを開始する前に、これらの作業を示されている順序で実行する必要があります。

1. 103 ページの「ポリシーパッケージの作成」
2. 105 ページの「Tiered Electronic Distribution オブジェクトの作成および設定」
3. 105 ページの「Server Inventory 用の Distribution オブジェクトの作成」
4. (任意選択) 105 ページの「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」
5. 106 ページの「サーバに対するポリシーの設定」
6. 110 ページの「Distributor オブジェクトと Subscriber オブジェクトの設定」
7. (任意選択) 110 ページの「ODBC ドライバのインストール」
8. 110 ページの「Inventory Service の開始」

ポリシーパッケージの作成

Server Inventory では、サーバポリシーを保持するためのポリシーパッケージが eDirectory ツリーに必要です。このサーバポリシーは、後で設定して有効にすることができます。

ポリシーパッケージは、オブジェクトタイプ別にグループ化されたポリシーのコレクションが含まれている eDirectory オブジェクトです。ポリシーパッケージを保持する部門 (OU) を作成する必要があります。

この OU を配置する場所を決定するときは、次の点に考慮してください。

- ◆ ツリー内にパーティションがあるかどうか
- ◆ eDirectory 内の完全識別名の 256 文字までの制限
- ◆ ポリシーパッケージを見つけるための検索ポリシー

Server Inventory の場合は、2 つのコンテナを作成します。1 つは Tiered Electronic Distribution オブジェクト用で、もう 1 つは Server Inventory ポリシーパッケージ用です。

コンテナを作成するには

- 1 ConsoleOne で、ポリシーパッケージ用のコンテナを配置するコンテナを右クリックします。
- 2 [New]、[Object]、[Organizational Unit] の順にクリックし、[OK] をクリックします。
- 3 コンテナに Policies などの名前を付けて、[OK] をクリックします。

重要: WAN を介してアクセスされるパーティションがある場合は、Policy/Package Agents がロードされるように、Policy Package オブジェクトをサーバと同じパーティションに配置してください。また、検索ポリシーで、サーバオブジェクトが存在するパーティション以外のパーティションを検索する必要がないようにしてください。

作成する Policy Package オブジェクトを決定するには、必要なポリシーを最初に決定します。

Server Inventory の場合、次のポリシーパッケージを作成する必要があります。

- ◆ Service Location Package または Server Package
- ◆ 配布されたサーバパッケージ (Distributed Server Package)

Policy Package オブジェクトを作成するには、次の節の手順を参照してください。

- ◆ 104 ページの「Service Location Package の作成」
- ◆ 104 ページの「Server Package の作成」
- ◆ 105 ページの「Distributed Server Package の作成」

Service Location Package の作成

Service Location Package は、データベース場所ポリシーを有効にし、データベースオブジェクトを、Inventory Service オブジェクトが配置されるコンテナに関連付けるために必要です。

- 1 ポリシーパッケージのコンテナを右クリックし、[New]、[Policy Package] の順にクリックします。
Policy Package ウィザードが表示されます。
- 2 [Policy Package] リストで、[Service Location Package] を選択し、[Next] をクリックします。
- 3 Service Location Package の名前を指定します。
- 4 [Next] をクリックし、[Finish] をクリックします。

Server Package の作成

Server Package は、データベース場所ポリシーを有効にし、データベースオブジェクトを、Inventory サーバの Inventory Service オブジェクトに関連付けるために必要です。

重要: インストール時に [Inventory Standalone Pre-Configuration] を設定することを選択した場合は、インストールプログラムによって自動的に Server Package が作成されます。

Server Package を作成するには

- 1 ポリシーパッケージのコンテナを右クリックし、[New]、[Policy Package] の順にクリックします。
Policy Package ウィザードが表示されます。
- 2 [Policy Package] リストで、[Server Package] を選択し、[Next] をクリックします。
- 3 Server Package の名前を指定します。
- 4 [Next] をクリックし、[Finish] をクリックします。

Distributed Server Package の作成

Distributed Server Package は、Server Inventory ポリシーをインベントリ対象サーバに配布するために必要です。

- 1 ポリシーパッケージのコンテナを右クリックし、[New]、[Policy Package] の順にクリックします。
Policy Package ウィザードが表示されます。
- 2 [Policy Packages] リストで、[Distributed Server Package] を選択し、[Next] をクリックします。
- 3 Distributed Server Package の名前を指定します。
- 4 [Next] をクリックし、[Finish] をクリックします。

Tiered Electronic Distribution オブジェクトの作成および設定

Server Inventory の場合、次の Tiered Electronic Distribution オブジェクトを作成および設定する必要があります。

- ◆ TED Distribution
- ◆ TED Channel

Tiered Electronic Distribution オブジェクトの作成および設定方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**Tiered Electronic Distribution**」を参照してください。

Server Inventory 用の Distribution オブジェクトの作成

Server Inventory ポリシーを配布するための Distribution オブジェクトを設定する必要があります。

- 1 ConsoleOne で、Distribution オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [Type] タブをクリックします。
- 3 [Select Type] ドロップダウンリストから [Policy Package] を選択します。
- 4 [追加 (Add)] をクリックします。
- 5 Server Inventory ポリシーを含む Distributed Server Package を選択します。
- 6 [Schedule] タブをクリックします。
- 7 スケジュールを変更します。
- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定

CIFS をデフォルトのコンポーネントとして持つ NetWare サーバに Sybase をインストールする場合は、Inventory database_server_name オブジェクトのサーバ IP アドレスまたは DNS 名が、Sybase のインストール後に正しく設定されない場合があります。データベースオブジェクトを正しく設定する：

- 1 ConsoleOne を開き、インベントリデータベースオブジェクトをダブルクリックします。
- 2 データベースオブジェクトの [ZENworks データベース] ページで、インベントリデータベースをインストールするサーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

サーバに対するポリシーの設定

スタンドアロンサーバのシナリオでは、単一のサーバが Inventory サーバおよびデータベースサーバとして機能します。インベントリデータをロールアップする必要はありません。

スタンドアロンサーバのインベントリを設定するには

- 1 106 ページの「データベース場所ポリシーの設定」の手順を完了します。
- 2 108 ページの「Server Inventory ポリシーの設定」の手順を完了します。

重要: Server Management のインストール時に Inventory Server と Inventory Database (Sybase) をインストールすることを選択した場合、[Inventory Standalone Configuration] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [Configure Standalone] チェックボックスをオンにすると、インストールプログラムによって、自動的に Server Package が作成され、Server Package 内のデータベース場所ポリシーが設定され、Inventory Services が開始されます。Server Management のインストールが完了したときに、Server Inventory ポリシーだけを作成する必要があります。

Server Inventory ポリシーを設定すると、NetWare サーバ上で自動的に Inventory サービスが開始されます。Windows 2000/2003 サーバでは、ポリシーを設定した後、コンピュータを手動で再起動する必要があります。再起動後、Inventory サービスが自動的に開始されます。

運用環境に配備される Server Inventory で必要なポリシーを調べるには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

必要なポリシーを設定した後、Inventory サービスを手動で開始する必要があります。

データベース場所ポリシーの設定

データベース場所ポリシーには、Inventory データベースの場所が含まれています。Database オブジェクトを、Service Location Package を使用して Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナに、または Server Package を使用して Inventory サーバに関連付けることができます。

注: Service Location Package および Server Package を設定する場合、Server Package の設定は Service Location Package の設定よりも優先されます。

Database オブジェクトを Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナに関連付けるには

- 1 ConsoleOne で、Service Location Package を右クリックし、[Properties] をクリックして [Policies] ページを表示します。
- 2 [Enabled] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3 [Properties] をクリックして [Inventory Management] ページを表示します。
- 4 インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database_server_name) を参照して選択し、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory のインストールされた Windows 2000/2003 サーバにインストールする場合を除いて、Server Inventory のインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースオブジェクトを手動で作成する場合は、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。 詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [Associations] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
- 7 Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

Database オブジェクトを Inventory サーバに関連付けるには

- 1 ConsoleOne で、サーバパッケージを右クリックし、[Properties] をクリックして [Policies] ページを表示します。
- 2 [Enabled] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3 [Properties] をクリックして [Inventory Management] ページを表示します。
- 4 インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database_server_name) を参照して選択し、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory のインストールされた Windows 2000/2003 サーバにインストールする場合を除いて、Server Inventory のインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースオブジェクトを手動で作成する場合は、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。 詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。 詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Server Inventory」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [Associations] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
- 7 Inventory サーバオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

Server Inventory ポリシーの設定

Server Inventory ポリシーには、インベントリデータの送信先の Inventory サーバの IP アドレスまたは DNS 名が含まれています。このポリシーには、関連付けられたインベントリ対象サーバのインベントリスキャンのスケジュールも含まれています。各インベントリ対象サーバについて、Server Inventory ポリシーを設定する必要があります。

Server Inventory ポリシーパッケージを設定するには

- 1 ConsoleOne で、Distributed Server Package を右クリックし、[Properties] をクリックして [Policies] タブを表示します。
- 2 [Policies] をクリックし、インベントリ対象サーバのオペレーティングシステムに応じて、[NetWare] または [Windows] をクリックします。
- 3 [Enabled] 列の下にある Server Inventory ポリシーのチェックボックスを選択します。
- 4 [Properties] をクリックして [Server Inventory Policy] ページを表示します。
- 5 [General] タブで、次の項目を設定します。
 - 5a Inventory Service オブジェクトの DN を参照して選択します。

この設定によって、Scanner がサーバのスキャンデータをこの Inventory サーバに送信することを指定します。
 - 5b Inventory サーバの DNS 名または IP アドレスを選択します。
 - 5c ファイアウォールを経由して Inventory サーバにロールアップが行われる場合は、プロキシサーバの IP アドレスとポート番号を指定します。
- 6 (省略可能) インベントリ対象サーバのインベントリスキャンをカスタマイズします。
 - 6a インベントリ対象サーバのハードウェアスキャンをカスタマイズするには、[Hardware Scan] タブをクリックし、次の設定を行います。

[Enable DMI Scan] : インベントリ対象 Windows サーバの DMI スキャンを含めます。

[Enable WMI Scan] : インベントリ対象 Windows サーバの WMI スキャンを含めます。
 - 6b Novell ZENworks for Servers 3.0 または ZENworks for Servers 3.0.2 がインストールされているインベントリ対象サーバのソフトウェアスキャンをカスタマイズするには、[Software Scan] タブをクリックして、次の設定を行います。

重要: ZENworks 6.5 Server Management がインストールされているインベントリ対象サーバの設定は行わないでください。

[Enable Software Scan] : Inventory ポリシーに関連付けられたインベントリ対象 Windows サーバのソフトウェアスキャンを有効にします。スキャンプログラムは、インベントリ対象サーバのソフトウェア情報を収集し、Inventory データベースに格納します。

[Custom Scan Editor] : インベントリ対象 Windows サーバでスキャンするアプリケーションの詳細のリストをカスタマイズできます。Inventory scanner は、カスタムスキャンエディタに示されるアプリケーションの詳細情報をスキャンします。

たとえば、カスタムスキャンエディタで次の詳細を指定します。ベンダ名 =Microsoft; 製品名 =Microsoft Office; 製品バージョン =10.0; ファイル名 =winword.exe; ファイルサイズ =1 MB。Inventory Scanner は、インベントリ対象サーバでサイズが 1MB である winword.exe ファイルをスキャンします。このファイルが見つかった場合、Inventory データベースに "winword.exe;1 MB" について "Microsoft;Microsoft Office;10.0" が格納されます。

[Product Identification Number] : インベントリ対象サーバにインストールされた Microsoft アプリケーションの製品識別番号をスキャンできるようにします。

6c [Configuration Editor] タブをクリックし、必要に応じて、次の .ini ファイルの設定を変更します。

- ◆ **Asset Information:** DMI からベンダ固有の情報をスキャンします。アセット情報の設定方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「DMI を使ったベンダ固有の資産情報のスキャン」を参照してください。

- ◆ **Zipped Names:** Jaz* および Zip* ドライブのハードウェアスキャンをカスタマイズします。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Jaz および Zip ドライブベンダのハードウェアスキャン情報のカスタマイズ」を参照してください。

- ◆ **SWRules:** Novell ZENworks for Servers 3.0 または ZENworks for Servers 3.0.2 がインストールされたインベントリ対象 Windows サーバで SWRules ファイルを設定します。ZENworks 6.5 Server Management がインストールされているインベントリ対象サーバの設定は行わないでください。

SWRules オプションは、ベンダおよび製品のソフトウェアスキャン情報をカスタマイズします。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「ZENworks for Servers 3.X インベントリ対象サーバのスキャン対象ソフトウェアインベントリ情報のカスタマイズ」を参照してください。

- ◆ **HWRules:** モニタの公称サイズをカスタマイズします。HWRules .ini ファイルの設定方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「モニタのサイズに関するハードウェア情報のカスタマイズ」を参照してください。

7 [Policy Schedule] タブをクリックします。

8 スケジュールを変更し、[Apply]、[Close] の順にクリックします。

9 Distributed Server Package のプロパティページで、[Distribution] タブをクリックし、[Add] をクリックします。

10 Distribution オブジェクトを参照して追加し、[OK] をクリックします。

11 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

12 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクト (Inventory Service_server_name) を右クリックし、[Properties] をクリックし、[Inventory Service Object Properties] タブをクリックします。

13 [Enable Scan of Machines] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK] をクリックします。

この設定によって、選択した Inventory サーバに関連付けられたインベントリ対象サーバについてスキャンが選択されます。

Distributor オブジェクトと Subscriber オブジェクトの設定

Distributor および Subscriber オブジェクトを設定するには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Tiered Electronic Distribution」を参照してください。

インベントリ対象サーバが別の eDirectory ツリーにある場合や、Windows サーバに eDirectory がインストールされていない場合、他のツリー内のインベントリ対象サーバに存在する Subscriber に Distribution を送信するには、External Subscriber オブジェクトを作成して設定する必要があります。External Subscriber の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「External Subscriber」を参照してください。

ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。ODBC ドライバは、インベントリレポートを起動したときに自動的にコンピュータに設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

- Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥database drivers ディレクトリを開きます。
- ¥database drivers ディレクトリに収録されている ODBCreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle 8i インベントリデータベースの場合、Oracle 8i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロール パネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを Microsoft サイト (<http://microsoft.com/data/download.htm>) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

Inventory Service の開始

- NetWare サーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで「**startinv**」と入力します。
- Windows サーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Inventory Service] を選択して [開始] をクリックします。

7

Management and Monitoring Servicesのインストール

この章では、Novell® ZENworks® Management and Monitoring Services を、古いバージョンの ZENworks がインストールされていない次のプラットフォームにインストールする手順について説明します。

- ◆ 111 ページの「NetWare および Windows へのインストール」
- ◆ 115 ページの「Linux へのインストール」

NetWare および Windows へのインストール

この節では、Novell ZENworks Server Management の Management and Monitoring Services コンポーネントを NetWare® および Windows サーバにインストールする手順について説明します。

Management and Monitoring Services の理解および計画のための詳細や、高度な設定や管理については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「Management and Monitoring Services」を参照してください。

インストールの手順の詳細については、次のトピックを参照してください。

- ◆ 111 ページの「サーバソフトウェアのインストール」
- ◆ 114 ページの「ConsoleOne スナップインのインストール」
- ◆ 114 ページの「インストール後の作業」

サーバソフトウェアのインストール

- 1 管理者または同等の権利を使用してターゲット管理サーバおよびターゲット管理サーバを含むコンテナにログインしていない場合は、ログインします。
- 2 (推奨手順) データベースがインストールされるサーバで Sybase が実行されている場合は、Sybase エンジンを終了します。Sybase を終了するには、サーバコンソールを表示し、Sybase の画面で「q」と入力します。
- 3 ZENworks 6.5 Server Management Program CD を挿入します。

起動ページが表示されます。CD を挿入しても自動的に起動ページが表示されない場合は、CD のルートにある winsetup.exe を実行することによって起動できます。

重要: Program CD の構造をインストールコンピュータのハードドライブにコピーした場合、ハードドライブのルートから CD の最初のディレクトリまでのパスには、8.3 形式の DOS のファイル命名規則に準拠したディレクトリ名のみ使用できます。パス内に長いディレクトリ名が存在する場合、インストールプログラムは動作しません。

4 まだスキーマを拡張していない場合は、スキーマを拡張します。

ZENworks オブジェクトを作成する eDirectory ツリー上でスキーマを拡張する必要があります。スキーマの拡張方法については、64 ページの「スキーマの拡張」を参照してください。

5 [Management and Monitoring Services] > [Site Management Services and Agents] の順にクリックします。

ワークステーションでドライブをマップした後、ターゲット管理サーバを再起動すると、インストールでマップしたドライブを認識できなくなる場合があります。NetWare 接続からツリーを接続解除し、マップされたドライブを接続解除し、ボリュームをもう一度マップします。

ターゲット管理サーバの sys: ボリュームにはインストールしないことをお勧めします。

6 [Welcome] 画面で [Next] をクリックします。

7 ソフトウェア使用許諾契約の内容に同意する場合は、[Yes] をクリックします。同意しない場合は、[No] をクリックし、[Exit Setup] をクリックして終了します。

8 次の表に示されている適切な ZENworks Server Management コンポーネントを選択します。

重要: ターゲットサーバに対して管理者または同等の権利が必要です。ZENworks エージェントをインストールするすべての Windows 2000/2003 サーバに共有フォルダを作成します。

サーバコンポーネント	インストール先
Management Site Services	管理サーバ
Server Management Agent	管理対象のすべての NetWare および Windows サーバ
Traffic Analysis Agent	1 セグメントあたり 1 つのサーバ (NetWare または Windows 2000/2003)
Advanced Trending Agent	管理対象のすべての NetWare および Windows サーバ

9 [Next] をクリックします。

10 管理サイトサーバになる NetWare サーバを選択し、ソフトウェアのインストール先の場所 (ボリュームおよびパス) を指定し、[Next] をクリックします。

11 スキーマの拡張時にライセンスコードを入力していなかった場合は、ライセンスコードを入力し、[Next] をクリックします。

12 データベースファイルパスを指定します。

重要: 選択したサーバに 4GB 以上の RAM が搭載されている場合、次のエラーメッセージが表示される可能性があります。“Management Site Server requires a minimum of 512 MB of RAM for proper functioning. The server you have selected does not have 512 MB of RAM.” このエラーメッセージは無視してください。

13 Management and Monitoring Services を初めてインストールしている場合は、空のデータベースファイルのコピーを指定するオプションを選択します。

Management and Monitoring Services Novell ConsoleOne® スナップインを Management Site Server ConsoleOne にコピーする場合は、ConsoleOne スナップインを Management Site Server にコピーするオプションを選択します。

14 検出パラメータをデフォルトの設定以外に再設定する (PUBLIC 以外の SNMP コミュニティ名を使用するなど) 必要がない場合は、自動検出処理およびバックエンドサービスを開始します。

14a 自動検出プロセスを開始するには、[Start the Autodiscovery Process] を選択します。

14b バックエンドサービスを開始するには、[Start the Backend Services on the Server] を選択します。

15 サービスロケータオブジェクトの名前を指定し、コンテキストを指定します。その他の管理オブジェクトも、このコンテキスト内に作成する必要があります。複数の管理サイトを使用する場合は、容易にアクセスできるコンテキストを指定します。デフォルトの名前およびコンテキストは、[ステップ 10](#) で選択した管理サーバに基づいて表示されます。

16 [Next] をクリックします。

17 [ステップ 8](#) で Server Management Agent、Traffic Analysis Agent、または Advanced Trending Agent だけをインストールすることを選択した場合は、サイトサーバを選択するか、IP アドレスを指定する必要があります。これらは、トラップの送信先を更新するために使用されます。

18 NetWare および Windows 2000/2003 サーバ、各サーバにインストールするエージェント、およびソフトウェアのインストール先フォルダを選択し、[Next] をクリックします。

19 前の手順で選択した項目のサマリリストを確認します。設定を変更するには、[Back] をクリックします。設定を変更しない場合は、[Finish] をクリックしてインストールを開始します。

NetWare 管理対象サーバの場合、ZENworks のエージェントは自動的に開始されます。Windows 2000/2003 上の管理対象サーバについては、エージェントをインストールした後、Windows 2000/2003 を再起動する必要があります。

重要: 1) Advanced Trending Agent を NetWare サーバにインストールすることを選択した場合は、インストールが完了した後、NetWare サーバを再起動する必要があります。サーバを再起動するには、コマンドプロンプトで「**restart server**」と入力します。

2) Management and Monitoring Services のいずれかのエージェントを、管理サイトサーバである NetWare サーバにインストールすることを選択した場合は、インストールが完了した後、この管理サイトサーバを再起動する必要があります。サーバを再起動するには、コマンドプロンプトで「**restart server**」と入力します。

20 インストール時にすべてのバックエンドサービスおよび自動検出処理を開始しないことを選択した場合は、インストールが完了した後、バックエンドサービスと自動検出処理を手動で開始する必要があります。サービスを手動で開始するには、コマンドプロンプトで「**startmms**」と入力します。

21 次の該当する節に進みます。

- ◆ Management and Monitoring Services 用の ConsoleOne スナップインをインストールするには、[114 ページの「ConsoleOne スナップインのインストール」](#)に進みます。
- ◆ または、[114 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。

ConsoleOne スナップインのインストール

管理サーバ上のデータにアクセスするために複数の管理コンソールをインストールできます。Windows 2000/XP ワークステーションに管理コンソールをインストールするには、そのワークステーションに対して管理者の権利が必要です。

ZENworks Server Management ConsoleOne ソフトウェアをインストールするには

- 1 リモートサーバにインストールする場合は、管理者または管理者相当の権利を持つユーザとしてログインする必要があります。
- 2 *ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を挿入します。
CD を挿入しても自動的に起動ページが表示されない場合は、CD のルートにある *winsetup.exe* を実行することによって起動できます。
- 3 [Management and Monitoring Services] > [Site Management ConsoleOne Snap-ins] の順にクリックします。
- 4 スナップインのインストール先フォルダを指定するか、[Next] をクリックしてデフォルトのインストール先フォルダを受け入れます。
スナップインのファイルがインストールされます。
- 5 *Readme* ファイルを表示することを選択し、[Finish] をクリックします。
- 6 114 ページの「**インストール後の作業**」に進みます。

インストール後の作業

Novell ZENworks Management and Monitoring Services ソフトウェアを NetWare、Windows、および Linux サーバにインストールした後、次の作業を実行する必要があります。

- ◆ 114 ページの「**管理コンソールの起動**」
- ◆ 115 ページの「**ODBC ドライバのインストール**」

管理コンソールの起動

管理サーバを起動した後、管理コンソールを使用してネットワークを管理および監視できるようになります。

管理コンソールを起動するには

- 1 管理サーバを含む eDirectory ツリーにログインします。
- 2 ConsoleOne を起動するには、Windows の [スタート] メニューで [ZFS Program Group] の [ZFS Console] をクリックします。
- 3 Management and Monitoring Services を起動し、[ZFS Sites] をクリックして、ネットワークの管理を開始します。

ヒント：インストール時に自動検出処理とバックエンドサービスを開始していなかった場合は、検出処理を完了するまで、サイトを展開したり、[Atlas] ビューを使用したりすることはできません。

NetWare でサービスを手動で開始するには、コマンドプロンプトに「**startmms**」と入力します。

- 4 サイトを展開し、[Atlas]、[Atlas View] の順にクリックします。

または

+ 記号をクリックしてビューを展開します。

ODBC ドライバのインストール

Management and Monitoring Services のレポートを実行する前に、ConsoleOne を実行しているコンピュータに対して、Sybase 向けの適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認する必要があります。ODBC ドライバは、レポートを起動したときに自動的にコンピュータに設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

- 1 *Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD の ¥database drivers ディレクトリを開きます。
- 2 ¥database drivers ディレクトリに収録されている ODBCreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。
- 3 Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロール パネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを [Microsoft サイト \(http://microsoft.com/data/download.htm\)](http://microsoft.com/data/download.htm) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

Linux へのインストール

この節では、Linux サーバに Management and Monitoring Services の次のエージェントをインストールする手順について説明します。Server Management Agent と Advance Trending Agent。

Management and Monitoring Services のエージェントを Linux サーバにインストールするには、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD に収められている Linux インストールスクリプトを使用します。このインストールスクリプトは、1 台の Linux サーバにインストールするために使用します。

この節では、Linux サーバに Management and Monitoring Services のエージェントをインストールする基本的な手順について説明します。この処理を開始する前に、実装について完全に理解し、計画する必要があります。

Management and Monitoring Services インストールスクリプトを使用して、次のエージェントを 1 台の Linux サーバにインストールできます。

- ◆ **Linux Management Agent:** Linux サーバを管理および監視します。これには、障害管理やパフォーマンス管理が含まれます。
- ◆ **Advanced Trending Agent:** SNMP 変数のトレンドデータを収集します。これには、しきい値の設定や SNMP トランプの生成が含まれます。

インストールの手順で示されているすべての例では、大文字と小文字が区別されます。インストールの手順に書かれているとおりに値をコピーしてください。

Management and Monitoring Services のエージェントを Linux にインストールした後、Linux コンピュータ上で SNMP サービスを設定する必要があります。詳細については、117 ページの「Linux 上での SNMP Service の設定」を参照してください。

Management and Monitoring Services のエージェントをインストールする Linux サーバで、次の操作を行います。

- 1 root としてログインします。
- 2 ZENworks 6.5 Server Management Program CD を CD ドライブに挿入します。

自動マウントが行われない場合は、手動で CD ドライブをマウントします。

- 3 Readme でインストールに関する最新情報を確認します。

製品の Readme は、*Program* CD の ¥document¥en ディレクトリにあります。

- 4 X Windows を実行している場合は、Linux サーバのコンソールで [XTerm] ウィンドウを開きます。

- 5 サーバプロンプトで、Management and Monitoring Services のインストールスクリプトが存在するディレクトリに移動します。

```
cd /device_directory/ZfS/SvrMgmt/mms/Linux
```

device_directory は CD デバイスのマウントポイントを表し、*platform* は Linux です。

インストールスクリプトには次の名前が付けられています。

```
MMS_Linux_Install.pl
```

注： この手順の例で使用されているフォントは、この節では大文字と小文字が区別されるテキストを表すために使用されており、例に示されているとおりに入力する必要があります。

- 6 Management and Monitoring Services のインストールスクリプトを実行するには、次のように入力します。

```
./MMS_Linux_Install.pl
```

- 7 [Welcome] ページが表示されます。<Enter> キーを押して次のページを表示します。

- 8 <Enter> キーを押して使用許諾契約を表示し、<Spacebar> キーを押して使用許諾契約をスクロールします。次に「**y**」と入力して<Enter> キーを押し、使用許諾契約に同意します。

- 9 いずれかの数値を、空白またはカンマで区切って入力し、インストールする対象を指定します。

```
1 Linux Management Agent  
2 Advanced Trending Agent  
3 両方
```

たとえば、「**3**」と入力し、<Enter> キーを押します。

選択したオプションに基づいて、Linux Management Agent、Advanced Trending Agent、またはその両方がインストールされます。

- 10 選択した項目を確認するには、「**y**」と入力し、<Enter> キーを押します。

インストールスクリプトは RPM (Red Hat Package Manager) を使用して、プログラムファイルをインストールします。インストールの進捗状況がページに表示されます。

11 ステップ 9 で Advanced Trending Agent をインストールすることを選択した場合は、インストールの最後に、トラップを送信する必要があるサーバの IP アドレスとコミュニティ文字列を指定し、「q」と入力して終了します。複数のトラップターゲットを追加することもできます。

snmpd マスタエージェントによって使用される snmpd.conf ファイルを編集することによって、トラップターゲットを手動で追加できます。ConsoleOne からのアラームを管理するには、サイトサーバになる送信先コンピュータの IP アドレスを指定する必要があります。複数の IP アドレスを指定することもできます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Management and Monitoring Services」を参照してください。

Linux Management Agent の場合は、手動で設定ファイルを編集する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』を参照してください。

12 <Enter> キーを押して続行します。

13 ログファイルを参照して、インストールの成功または失敗のステータスを確認します。

このインストールスクリプトは、すべてのアクションのログを /var/opt/novell/zenworks/log/zfs-mms-install.log ファイルに記録します。Management and Monitoring Services が Linux サーバに正しくインストールされているかどうかを確認するには、このログファイルを開きます。

特定のエラーを解決するために 365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」を参照することもできます。

14 インストールに成功したら、各 Linux サーバでこの手順を繰り返します。

Management and Monitoring Services のエージェントを Linux サーバにインストールした後、インストールスクリプトは自動的に Linux Management Agent および Advanced Trending Agent を起動します。ただし、エージェントは手動で起動および停止できます。詳細については、326 ページの「Linux サーバでのエージェントの起動」または 326 ページの「Linux サーバでのエージェントの停止」を参照してください。

Linux 上での SNMP Service の設定

Linux コンピュータ上の Management and Monitoring Services のエージェントにアクセスするには、Linux コンピュータで SNMP Service を設定する必要があります。

Linux 上の SNMP サービスは、/etc/snmp/ ディレクトリにある snmpd.conf ファイルから読み込んだ設定を使用します。サービスの設定を変更するには、この設定ファイルを直接編集します。サービスに設定の変更を反映させるには、snmpd.conf ファイルを編集した後、SNMP サービスを再起動します。

Linux 上で SNMP サービスを設定し、Management and Monitoring Services のエージェントで必要な OID にアクセスできるようにするには、snmpd.conf ファイルに次の行を追加します。設定の詳細については、man snmpd.conf マニュアルページを参照してください。

ローカルホストおよびサイトサーバの MIB ツリー内のすべての OID に対する読み込みアクセスを提供するには、snmpd.conf ファイルに次の行を追加します。

```
rocommunity <read_community> localhost .1
rocommunity <read_community> <site_server_IP address> .1
```

サイトサーバに対する書き込みアクセスを提供するには、snmpd.conf ファイルに次の行を追加します。

```
view mmsWriteView included .1.3.6.1.4.1.23.2.102
view mmsWriteView included .1.3.6.1.2.1.16.18
com2sec mmsWriteUser <site_server_IP address> <write_community>
group mmsWriteGroup v1 mmsWriteUser
group mmsWriteGroup v2 mmsWriteUser
access mmsWriteGroup "" any noauth exact none mmsWriteView none
```

注：<read_community>を Linux コンピュータ上で検出するには、NetExplorer™ の NXPCON で指定する必要があります。

このビューを表示するには、[Property Page] の [SNMP Properties] タブで、<read_community>および<write_community>を指定する必要があります。

IV

アップグレード

以前のバージョンの ZENworks for Servers (2 または 3. x) から Novell® ZENworks® 6.5 Server Management にアップグレードしたり、バージョン 6.5 に Support Pack 1 (SP1) を適用することができます。

以降の節では、最初にアップグレードの概要を説明した後、ZENworks 6.5 Server Management の新機能について説明します。次に SP1 にアップグレードする方法について説明し、残りの節でコンポーネントごとのアップグレード方法について説明します。

- ◆ [8 章 121 ページの「概要」](#)
- ◆ [9 章 127 ページの「変更点と新機能」](#)
- ◆ [10 章 151 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」](#)
- ◆ [11 章 189 ページの「Policy and Distribution Services」](#)
- ◆ [12 章 231 ページの「Server Inventory」](#)
- ◆ [13 章 251 ページの「Remote Management」](#)
- ◆ [14 章 255 ページの「\[Management and Monitoring Services\]」](#)
- ◆ [15 章 265 ページの「ManageWise 2.7 からのアップグレード」](#)

ヒント：Policy and Distribution Services の場合、GUI アップグレードプログラムを使ってソフトウェアを再インストールすることができます。[Objects to Upgrade] ページのプラットフォームオプションで [Version 6.5.0] オプションのみを選択し、ソフトウェアを再インストールするサーバを選択します。ただしオブジェクトは、GUI インストールプログラムを使用した場合にのみ再インストールすることができます (61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照)。

8

概要

Novell® ZENworks® for Servers 2 または 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする方法または Support Pack 1 (SP1) を適用する方法については、次の節を参照してください。

- ◆ 121 ページの「ZENworks for Servers 2 からのアップグレード」
- ◆ 123 ページの「ZENworks for Servers 3.x からのアップグレード」
- ◆ 125 ページの「ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップグレード」

ZENworks for Servers 2 からのアップグレード

ZENworks for Servers 2 が ZENworks 6.5 Server Management と同じネットワークにインストールされている場合、この 2 つの ZENworks バージョン間には相互運用性がありません。つまり、バージョン 2 からバージョン 6.5 への段階的なアップグレードが実行できないため、バージョン 6.5 のサーバとバージョン 2 のサーバ間では相互運用性を維持することができません。詳細については、271 ページの「ZENworks for Servers 2 との相互運用性」を参照してください。

ZENworks for Servers 2 から ZENworks 6.5 Server Management へのアップグレードは、次の節で説明するように、間接的にのみ実行できます。

- ◆ 121 ページの「Policy and Distribution Services、Remote Management、および Management and Monitoring Services」
- ◆ 122 ページの「Server Inventory」

Policy and Distribution Services、Remote Management、および Management and Monitoring Services

これらの ZENworks for Servers 2 のコンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには、次の 2 つの方法があります。

- ◆ バージョン 2 をアンインストールする：バージョン 2 をアンインストールした後、ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。ZENworks for Servers 2 から ZENworks 6.5 Server Management に直接アップグレードすることはできません。

バージョン 2 のアンインストールに関する詳細については、*ZENworks for Servers 2 Documentation Web サイト* (<http://www.novell.com/documentation/lg/zfs2/index.html>) を参照してください。「Policy and Distribution Services」の「Uninstalling ZENworks for Servers Policy and Distribution Services」をクリックし、「Management and Monitoring Services」の「Uninstalling the Management Site Services and Agents」をクリックします。

- ◆ まずバージョン 3.0.2 にアップグレードする： 次に、このセクションの手順を実行してバージョン 3.0.2 から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードします。

バージョン 3.0.2 へのアップグレードに関する手順については、[ZENworks for Servers 3.0.2 Documentation Web サイト](http://www.novell.com/documentation/lgs/zfs302/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/lgs/zfs302/index.html>) を参照してください。「Installation」の「Upgrading ZENworks for Servers 2」をクリックします。

ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Package を ZENworks 6.5 でも使用する場合、ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした後に、この Server Software Package をバージョン 6.5 に変換する必要があります。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「古いバージョンの Server Software Package の ZENworks 6.5 Server Management への変換」を参照してください。

123 ページの「ZENworks for Servers 3.x からのアップグレード」に進みます。

Server Inventory

ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 の完全なアンインストールを希望しない場合は、Server Inventory を ZENworks 6.5 にアップグレードする前に次の作業を行います。

- ◆ 既存の ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 サーバを管理する場合は、既存の ZENworks for Servers ConsoleOne のバックアップを作成します。
- ◆ ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 のインベントリデータベースのバックアップを作成します。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の新しい Server Inventory 機能を理解します。詳細については、137 ページの「Server Inventory」を参照してください。
- ◆ 推奨されている ZENworks 6.5 Server Inventory のシステム要件が満たされていることを確認します。詳細については、5 章 43 ページの「サーバの要件」を参照してください。
- ◆ 25 ページの「準備」の手順を確認します。

ZENworks 6.5 Server Inventory のインストールプログラムは、既存の ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 のインベントリサーバと、ZENworks 6.5 への ConsoleOne スナップインを自動的にアップグレードします。ZENworks 6.5 Server Inventory に関する詳細については、61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。

重要：既存の ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 のインベントリデータベースは、ZENworks 6.5 インベントリデータベースに移行できません。

ZENworks 6.5 Inventory Agent がインベントリ対象サーバにインストールされると、既存の ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 の Inventory Agent がアンインストールされます。既存の ZENworks for Servers の Inventory Agent がアンインストールされない場合は、手動でアンインストールする必要があります。

ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 の Inventory Agent を手動で Netware サーバからアンインストールするには

- 1 INVSCAN.NLM をアンロードします。
- 2 SYS:¥SYSTEM から次のファイルを削除します。

INVSCAN.NLM
INVSCAN.INI
SCANNER.NCF

3 SYS:¥SYSTEM¥AUTOEXEC.NCF で、次の行を削除します。

sys:\system\scanner.ncf

ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 の Inventory Agent を手動で Windows NT/2000 サーバからアンインストールするには

1 ZENworks for Servers 2 または ZENworks for Servers 2 SP1 の Inventory Agent サービスを停止します。

Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[ZFS Inventory] を選択して [停止] をクリックします。

Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[ZFS Inventory] を選択して [停止] をクリックします。

2 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥ZfS_Inventory レジストリエントリの ImagePath キーの値を記録します。ImagePath キーには、Inventory Agent インストールディレクトリが含まれています。

3 Image Path キーで指定された Inventory Agent のインストールディレクトリを削除します。

4 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥ZfS_Inventory レジストリエントリを削除します。

ZENworks 6.5 Server Inventory のインストール後に、98 ページの「インストール後の作業」の手順を実行します。

ZENworks for Servers 3.x からのアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする方法については、次の節を参照してください。

- ◆ 123 ページの「アップグレードの順序」
- ◆ 124 ページの「アップグレード方法」
- ◆ 124 ページの「アップグレード手順」

アップグレードの順序

ZENworks for Servers 3.x のコンポーネントは、個別に ZENworks 6.5 Server Management のコンポーネントにアップグレードする必要があります。次に示すアップグレード順序を推奨します。

1. スキーマを拡張します（コンポーネントをアップグレードする前に実行する必要があります）。
2. Policy and Distribution Services をアップグレードします。
3. Server Inventory をアップグレードします（まず Policy and Distribution Services をアップグレードする必要があります）。
4. Remote Management をアップグレードします。
5. Management and Monitoring Services をアップグレードします。

アップグレード方法

ZENworks for Servers 3.x のコンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには 2 つの方法があります。

- **GUI アップグレード ウィザード**： NetWare および Windows サーバをお使いの場合、 *Novell ZENworks 6.5 Server Management Program* CD から実行可能な ウィザード の多様なオプションを使って、 Server Management の各コンポーネントをアップグレードすることができます。

Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトをアップグレードするには、すべてのプラットフォームでこの方法を使用する必要があります。

Linux および Solaris サーバの Policy and Distribution Services コンポーネントの場合、 Distributor のアップグレードは、スクリプトを使って実行されます。このスクリプトは、既存の ZENworks for Servers のバージョンを検出し、アップグレードオプションを提供します。Linux または Solaris の Distributor サーバの Distributor オブジェクトは、まず GUI アップグレードプログラムを使用してアップグレードする必要があります。

- **Server Software Package**： *Novell ZENworks 6.5 Companion 2* CD で利用可能な .cpk ファイルを使うと、サポートの対象になるそれぞれのオペレーティングシステムの Server Management の各コンポーネントをアップグレードすることができます (Linux および Solaris サーバの Distributor オブジェクトは除く)。この方法では、アップグレードする Subscriber サーバに送信されるソフトウェアパッケージの Distribution を作成する作業だけが必要になります。

この方法では、 Subscriber オブジェクトはアップグレードされません。

Subscriber オブジェクトをアップグレードするには、 GUI アップグレードプログラムを使用する必要があります。

重要： サーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする際、サーバにインストールされているすべての ZENworks for Servers 3.x コンポーネントをアップグレードする必要があります。たとえば、 ZENworks for Servers 3.x Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 Policy and Distribution Services にアップグレードしたが、既存の ZENworks 3.0.2 Server Inventory をバージョン 6.5 にアップグレードしなかった場合、 Server Inventory をバージョン 6.5 にアップグレードしない限り、このサーバで Server Inventory は機能しません。

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の間の相互運用性に関する問題については、 [269 ページの「相互運用性」](#) を参照してください。

ZENworks 6.5 の変更点と新機能については、 [127 ページの「ZENworks 6.5 Server Management の最初のリリース」](#) を参照してください。

アップグレード手順

アップグレードに関連する次の節に進みます。

- [11 章 189 ページの「Policy and Distribution Services」](#)
- [12 章 231 ページの「Server Inventory」](#)
- [13 章 251 ページの「Remote Management」](#)
- [14 章 255 ページの「\[Management and Monitoring Services\]」](#)
- [15 章 265 ページの「ManageWise 2.7 からのアップグレード」](#)

ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップグレード

ZENworks 6.5 Policy-Enabled Server Management コンポーネントを SP1 にアップグレードする方法には、次の 3 つがあります。

- ◆ **GUI ウィザード**： NetWare および Windows サーバの場合、SP1 ダウンロードから実行するインストールプログラムのさまざまなメニューおよびオプションを使用すると、Server Management の各コンポーネント (Policy and Distribution Services、Server Inventory、Remote Management、および Management and Monitoring Services) をアップグレードするためのウィザードにアクセスできます。
- ◆ **[Script]**： Policy and Distribution Services コンポーネントに関してのみ、SP1 ダウンロードに含まれるスクリプトを使用して、Linux および Solaris サーバを SP1 にアップグレードできます。
- ◆ **Server Software Package**： ダウンロードファイルで利用可能な .cpk ファイルを使用して、サポートの対象になるそれぞれのオペレーティングシステムの Policy-Enabled Server Management コンポーネントをアップグレードすることができます。この方法では、SP1 にアップグレードする Subscriber サーバに送信されるソフトウェアパッケージの Distribution を作成する作業だけが必要になります。

Server Software Package を使って Management and Monitoring Services をアップグレードすることはできません。

SP1 では、Novell eDirectory™ オブジェクトはアップグレードされません。

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の間の相互運用性に関する問題については、[269 ページの「相互運用性」](#)を参照してください。

SP1 の変更点と新機能については、[145 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」](#)を参照してください。

SP1 にアップグレードするには、[10 章 151 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」](#)を参照してください。

9

変更点と新機能

次の節では、Novell® ZENworks® 6.5 Server Management における変更点と新機能について説明します。

- ◆ 127 ページの「ZENworks 6.5 Server Management の最初のリリース」
- ◆ 145 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」

ZENworks 6.5 Server Management の最初のリリース

次の節では、ZENworks 6.5 Server Management および ZENworks for Servers 3.0.2 の間のソフトウェアの変更について説明します。

- ◆ 127 ページの「一般的な変更点」
- ◆ 132 ページの「Policy and Distribution Services」
- ◆ 137 ページの「Server Inventory」
- ◆ 139 ページの「Remote Management」
- ◆ 140 ページの「[Management and Monitoring Services]」

詳細については、59 ページの「インストール」を参照してください。

一般的な変更点

次の節では、Server Management に関する一般的な変更点について説明します。

- ◆ 127 ページの「サポートの対象になるプラットフォームのアップデート」
- ◆ 128 ページの「ConsoleOne ツールのメニューの再構成」
- ◆ 131 ページの「Linux および Solaris サーバのアップグレードに使用される新しいファイルシステム標準」
- ◆ 132 ページの「ZENworks データベース用の新しい Sybase バージョン」
- ◆ 132 ページの「ZENworks データベースオブジェクトの新規デフォルト名」

サポートの対象になるプラットフォームのアップデート

Novell ZENworks 6.5 Server Management は次のプラットフォームをサポートします。

- NetWare® 5.1 SP5、SP6、および SP7
- NetWare 6 SP4 および SP5
- NetWare 6.5 SP1a および SP2
- SUSE® LINUX Enterprise Server 8 および 9
- SUSE LINUX Standard Server 8 および 9
- Red Hat Advanced Server 2.1

Red Hat Enterprise Server 2.1
Red Hat Enterprise Linux* AS 3
Red Hat Enterprise Linux ES 3
Solaris* 9 (Policy and Distribution Services のみ)
Windows* 2000 SP4 および Windows Server 2003 (Standard または Enterprise Edition)

詳細については、5章43ページの「サーバの要件」を参照してください。

通常、次のプラットフォームは、ZENworks 6.5 Server Management ではサポートされません。

NetWare 4.x
NetWare 5.0
Windows NT*4

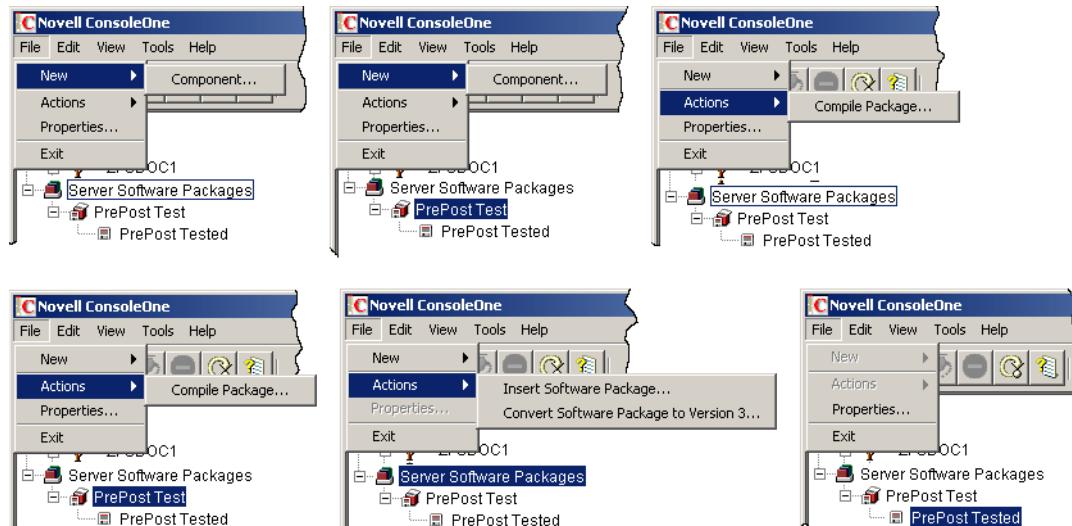
詳細については、5章43ページの「サーバの要件」を参照してください。

ConsoleOne ツールのメニューの再構成

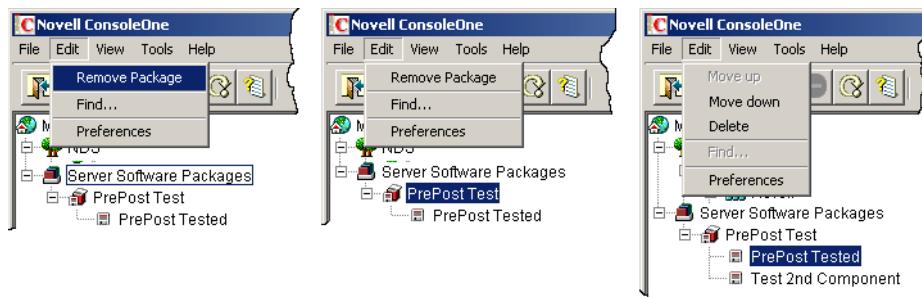
使いやすさを向上させるため、Novell ConsoleOne® の各種メニュー オプションの位置が再構成されました。ただし、ZENworks 6.5 eDirectory オブジェクトを右クリックしたときに表示されるオプションは、ZENworks for Servers 3.x のオプションと同じです。

次の図は、メニュー オプションの新しい構成を示しています。ZENworks Server Management に固有のメニュー オプションだけが表示されています。

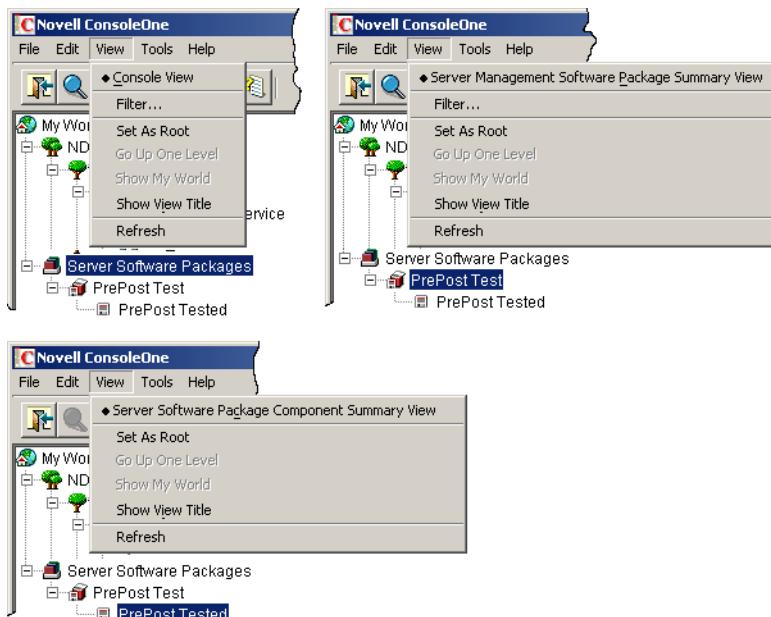
[File] メニューからいくつかのオプションが削除され、次のようになりました。



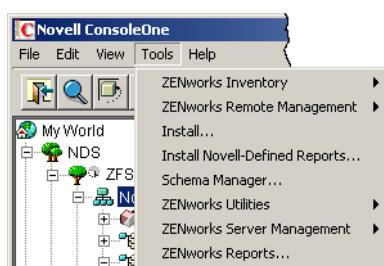
[Edit] メニューには、次のオプションが含まれます。



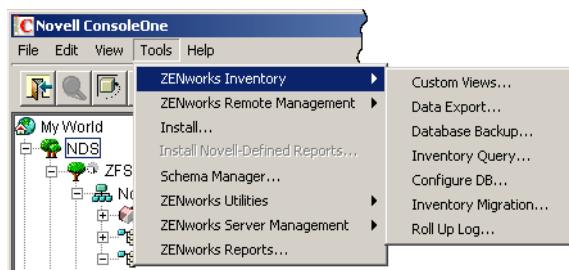
[View] メニューには、次のオプションが含まれます。



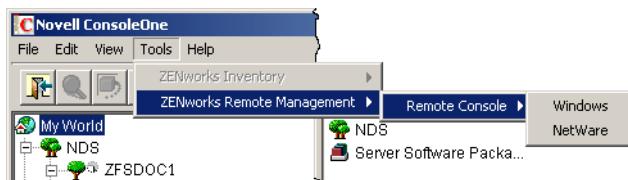
[Tools] メニューが拡張され、次のオプションを含むようになりました。



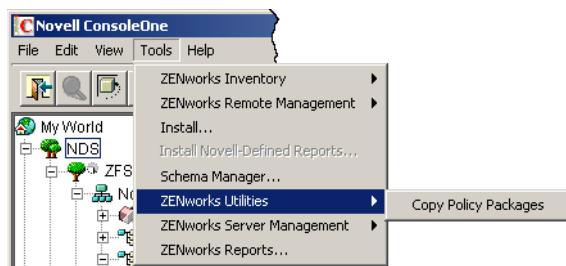
[Tools] > [ZENworks Inventory] の順にクリックすると、次のオプションが表示されます。



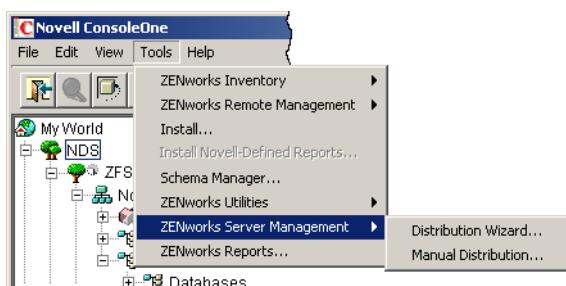
[Tools] > [ZENworks Remote Management] の順にクリックすると、次のオプションが表示されます。



[Tools] > [ZENworks Utilities] の順にクリックすると、次のオプションが表示されます。



[Tools] > [ZENworks Server Management] の順にクリックすると、次のオプションが表示されます。



Linux および Solaris サーバのアップグレードに使用される新しいファイルシステム標準

Linux ファイルシステム標準に準拠するよう、ZENworks 6.5 Server Management の Policy and Distribution Services のファイル構造が変更されました。

次の節で、パスとファイル名の変更について説明します。

- ◆ 131 ページの「サービススクリプト」
- ◆ 131 ページの「ログファイル」
- ◆ 131 ページの「作業ディレクトリ」
- ◆ 132 ページの「セキュリティディレクトリ」

サービススクリプト

バージョン 6.5 では、Policy and Distribution Services の開始と停止を実行するスクリプトのファイル名が変更されました。

旧	/etc/init.d/zfs
新	/etc/init.d/novell-zfs

ログファイル

バージョン 6.5 では、ログファイルのデフォルトの保存場所およびファイル名が変更されました。ただし、アップグレードを実行している場合、ログファイルは以前の場所に保存されます。

以前のインストール先	/var/log/ZFSInstall.log
新しいインストール先	/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-pds-install.log
以前の Distributor の保存場所	/usr/ZENworks/PDS/ted/dist/log
新しい Distributor の保存場所	/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-pds-ted.log
以前の Subscriber の保存場所	/usr/ZENworks/PDS/ted/sub/log
新しい Subscriber の保存場所	/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-pds-ted.log
以前の Policy/Package Agent の保存場所	/usr/ZENworks/PDS/smanager/ZFSINIT.LOG
新しい Policy/Package Agent の保存場所	/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-startup.log

作業ディレクトリ

バージョン 6.5 では、デフォルトの作業ディレクトリが変更されました。ただし、アップグレードを実行している場合、作業ディレクトリは変更されません。

以前の Distributor の保存場所	/usr/ZENworks/PDS/ted/working/dist
新しい Distributor の保存場所	/var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/dist
以前の Subscriber の保存場所	/usr/ZENworks/PDS/ted/working/sub
新しい Subscriber の保存場所	/var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/sub

セキュリティディレクトリ

セキュリティディレクトリの場所が変更されました。セキュリティディレクトリは、暗号化のため、または Distribution を受け取るのに Subscriber が信頼できる Distributor を確立するため、手動で Distributor の証明書をコピーする場所です。

旧	/usr/ZENworks/PDS/ted/security
新	/var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/security

ZENworks データベース用の新しい Sybase バージョン

グラフィカルアップグレードプログラムを使用して、ZENworks for Servers 3.x から Policy and Distribution Services をアップグレードすると、Sybase エンジンがバージョン 8.0.2 以外の場合は、そのバージョンにアップグレードされます。

ZENworks 6.5 Companion 2 CD の .cpk ファイルを使って ZENworks for Servers 3.x から Policy and Distribution Services をアップグレードした場合も、Sybase 8.0.2 にアップグレードされます。

zfslog.db ファイルが ZENworks for Servers 3.x に存在する場合、このファイルは置換されません。存在しない場合は、アップグレード時に新しいファイルがインストールされます。

ZENworks データベースオブジェクトの新規デフォルト名

インストール中に提供されるデフォルトのデータベースオブジェクト名について、以前の名前と新規の名前を次の表に示します。

以前のデータベース名	新しいデータベース名
ZENworks Database	Server Management Database_ <i>server_name</i>
<i>server_name</i> _Inventory Database	Inventory Database_ <i>server_name</i>

ConsoleOne でデータベースオブジェクトを作成した場合に、デフォルトの名前が指定されることはありません。

これらのデータベースによって使用されるポリシーのポリシー名は変更されません。

Policy and Distribution Services

ZENworks 6.5 Server Management の Policy and Distribution Services は、次に示す新機能および機能拡張を提供します。

- ◆ 133 ページの「新たに統合された起動ファイル」
- ◆ 133 ページの「Linux/Solaris 用の新しい設定ユーティリティ」
- ◆ 133 ページの「新たに統合されたログファイル」
- ◆ 134 ページの「新しいサーバポリシー :Prohibited File」
- ◆ 134 ページの「Tiered Electronic Distribution の新機能」

新たに統合された起動ファイル

これまで、Policy and Distribution Services の各プロセスを個別に起動するのに、zfs.ncf、ted.ncf、および zws.ncf ファイルが使用されていました。バージョン 6.5 では、これらのファイルは ZENworks Server Management という名前の 1 つのサービスに統合されています。

すべての Policy and Distribution Services プロセスを起動するには

- ◆ [NetWare] : サーバのコマンドプロンプトに「**zfs**」と入力します。
- ◆ [Windows] : Novell ZENworks Service Manager という名前の Windows サービスを開始します。
- ◆ Linux または Solaris: 端末で「**/etc/init.d/novell-zfs start**」と入力します。

詳細については、319 ページの付録 B、「Server Management Services の起動と停止」を参照してください。

zfs.ncf、ted.ncf、および zws.ncf ファイルに存在していた起動オプションは、zfs-startup.xml および zfsversion.ncf ファイルに収録されています。これらの新しいファイルは、次の場所に存在します。

- ◆ [NetWare] : \$zenworks\$zfs-startup.xml および \$zenworks\$zfsversion.ncf
- ◆ [Windows] : \$zenworks\$zfs-startup.xml および \$zenworks\$pdsv\$bin\$zfsservice.cfg
- ◆ Linux または Solaris: /opt/novell/zenworks/bin/zfs-pds および /opt/novell/bin/zfs-pds-version

Server Management の NetWare コンソールプロンプトのデフォルトは次のとおりです。

ZENworks Server Management >

プロセスが統合されたため、TED コンソールプロンプトは NetWare サーバから削除されました。

Linux/Solaris 用の新しい設定ユーティリティ

Linux および Solaris サーバ用の新しいユーティリティが用意されています。

/opt/novell/bin/zfs-pds-configure

このユーティリティには次の機能があります。

- ◆ インストールした Distributor および Subscriber を再設定できます。
- ◆ 破損した Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトとコードをすぐに再インストールできます。

新たに統合されたログファイル

すべてのプラットフォームについて、

defaultLog.txt
zfsinit.log

の 2 つのログファイルは次のファイルに置き換えられました。

zfs-startup.log

Tiered Electronic Distribution が起動し、その設定を読み取った後、すべての配布関連のログは `ted.log` ファイルに記録されます。

ZENworks Server Management のポリシーがログファイルを指定した状態で定義されている場合、Policy/Package Agent は、そのポリシーを読み取った後、指定されたファイルにログの記録を開始します。この時点で `zfs-startup.log` に記録される内容はすべて ZENworks Web Server のメッセージです。

データベースのログは、引き続き `zfslog.log` ファイルに記録されます。

新しいサーバポリシー :Prohibited File

Server Management には、Distributed Server Package 用の新しいポリシーである Prohibited File ポリシーが用意されています。この新しいポリシーにより、指定されたボリューム / ドライブまたはディレクトリからの未承認ファイルの削除または移動を監視して強制実行することができます。たとえば、.jpg、.mp3、および.avi ファイルをサーバから自動的に削除することができます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Prohibited File」を参照してください。

Tiered Electronic Distribution の新機能

- ◆ 134 ページの「スケーラビリティ」
- ◆ 134 ページの「シンボリックリンクの FTP サポート」
- ◆ 135 ページの「特殊文字の処理」
- ◆ 135 ページの「[Maximum Concurrent Distributions] の値の変更」
- ◆ 135 ページの「Subscriber の抽出スケジュールに優先する新しいオプション」
- ◆ 135 ページの「File Distribution のディレクトリ同期の細分性」
- ◆ 135 ページの「File Distribution の前後の処理」
- ◆ 136 ページの「一時的な Distribution ファイルのクリーンアップ」
- ◆ 136 ページの「Distribution オブジェクトの削除 - 一時ファイルの自動削除」
- ◆ 136 ページの「他の Distributor への Distribution の再割り当て」
- ◆ 136 ページの「新しい Distribution のタイプ :MSI パッケージ」
- ◆ 136 ページの「Desktop Application Distribution の機能拡張」

スケーラビリティ

Server Management は、50,000 以上のファイルエントリを含む総容量 4GB のボリュームなど、多数のファイルを含む大容量の Distribution を効率的に処理（送信 / 受信 / 抽出）できます。

シンボリックリンクの FTP サポート

Server Management は、シンボリックリンクファイルの取得をサポートするようになりました。この結果、Linux または Solaris 環境で、他の環境では無効になると想定される FTP ファイルを受信できるようになりました。

特殊文字の処理

サポートするプラットフォーム間における構文の違い（特定のプラットフォームでは無効になる文字など）を処理できるようになりました。Distributor サーバのプラットフォームにかかわらず、エージェントは無効な文字について、すべてのファイルを適切に収集します。Subscriber サーバは、Distribution パッケージ内のファイルに無効な文字が含まれているかどうかを検出し、抽出時にこれらのファイルを無視するかスキップします。スキップされたファイルはログに記録されます。これまで Distribution 全体を抽出することができず、したがってこうした Distribution はインストールできませんでした。

NetWare および Windows では認識されない文字を、Linux および Solaris でファイル名およびディレクトリ名として使用することができます。

[Maximum Concurrent Distributions] の値の変更

[Maximum Concurrent Distributions] フィールドのデフォルト値が、空フィールド（無制限）から 5 に変更されました。また、1 から 10 までの値だけを利用できるよう制限が設けられました。この変更は、Distributor サーバが大量の大容量 Distribution を同時に構築しようとしたときに発生するメモリ不足やロックアップを防ぐ目的で実施されました。

Subscriber の抽出スケジュールに優先する新しいオプション

すべての種類の Distribution に対し、[Schedule] タブに [Extract Immediately Upon Receipt] という名前の新しいオプションが追加されました。このオプションにより、Subscriber の通常のスケジュールに従うのではなく、即座に抽出する必要がある Distribution（たとえば、ウイルスパターンを提供する Distribution など）については、Subscriber の抽出スケジュールを無視することができます。

この新しいオプションを使用すると、送信および抽出スケジュールに優先することができます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*”Distribution の作成”*」の手順 7 を参照してください。

File Distribution のディレクトリ同期の細分性

File Distribution のディレクトリ同期の細分性が向上しました。この結果、File Distribution のすべてのディレクトリレベルで同期を指定して、”指定したディレクトリから下に存在するディレクトリ” の同期を実行することが可能になりました。これにより、以前のバージョンの ZENworks for Servers に比べ、柔軟性が高まり、実現可能な環境設定の範囲も広がります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*File Distribution のディレクトリ同期の細分性*」を参照してください。

File Distribution の前後の処理

前後の処理アクションは、ZENworks 6.5 Server Management の Distribution の新機能であり、Distribution に実行論理を適用します。この Distribution のタイプで前後のアクションを実行できるメリットは、これらのアクションを実行するのに Server Software Packages を使用する必要がなくなる点です。

前後の処理アクションは、Policy Package および Desktop Application タイプの Distribution では利用できません。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Distribution の前後の処理*」を参照してください。

一時的な Distribution ファイルのクリーンアップ

一時的な Distribution ファイルによって使用されるディスク容量を減らすために、これらのファイルを自動的にクリーンアップするようになりました。以前は、Subscriber サーバが Distribution を抽出した後、distfile.ted ファイルが Subscriber サーバの作業ディレクトリに残されていました。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「一時的な Distribution ファイルのクリーンアップ」を参照してください。

Distribution オブジェクトの削除 - 一時ファイルの自動削除

以前は、Distribution オブジェクトまたは Channel オブジェクトを削除したり、Channel から Distribution や Subscriber を削除したり、何らかの方法で 1 つまたは複数の Distribution と 1 つまたは複数の Subscriber の関連付けを解除した場合、Distribution の一時ファイルが Subscriber サーバに残されるため、こうしたファイルを検索して手動で削除し、ディスクの空き容量を増やす必要がありました。

バージョン 6.5 では、Distributor が更新を実行すると、削除済み（削除されたか、Channel から削除）の Distribution の一時ファイルが Subscriber から自動的に削除され、ディスク容量を解放します。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Distribution オブジェクトの削除 - 一時ファイルの自動削除」を参照してください。

他の Distributor への Distribution の再割り当て

単一の Distributor を使って多数の Distribution を処理できます。この結果、Distributor のサーバでパフォーマンスの低下が生じることがあります。バージョン 6.5 では、1 つの Distributor から別の Distributor に Distribution の割り当てを変更する機能が用意されており、Distribution を再作成することなく作業負荷を調整することができます。1 つ以上の Distribution を選択し、その割り当てを他の Distributor に変更することができます。

ConsoleOne で Distributor オブジェクトを削除する場合、その Distributor がサービスを提供する Distribution の割り当てを変更するかどうかを確認するメッセージが表示されます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「他の Distributor への Distribution の再割り当て」を参照してください。

新しい Distribution のタイプ : MSI パッケージ

ZENworks 6.5 では新しい Distribution のタイプとして MSI パッケージが追加されました。これにより、MSI (Microsoft Software Installer) パッケージを Windows サーバに配布することができます。この結果、MSI エンジンを使用して、MSI Distribution 内の Windows ソフトウェアがインストールされます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Distribution の作成」の手順 6 を参照してください。

Desktop Application Distribution の機能拡張

ZENworks 6.5 では Desktop Application Distribution の機能が拡張されました。

- ◆ **Windows サーバでの eDirectory の必要性を削除** : Desktop Application Distribution を処理するために、eDirectory を Windows サーバにインストールする必要がなくなりました。これまででは、サーバでアプリケーションオブジェクトを作成するには、eDirectory をインストールする必要がありました。

- ◆ アプリケーションの効率性が向上：これまでには、一般的な依存先アプリケーション（Microsoft Officeなど）を共有するアプリケーションを含んだDistributionを送信すると、依存先アプリケーションがDistributionファイルに複数回追加され、ファイルサイズが不必要に増大する要因になっていました。新しいバージョンでは、チェーンアプリケーションを含むDesktop Application Distributionオブジェクトの環境設定には、Distributionファイル内に同じ依存先アプリケーションの複数のインスタンスは含まれません。
- ◆ Distributionの再構築に関するオプションを追加：[Rebuild Only If Application Version Numbers Changed] オプションの詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「Desktop Application Distribution の作成」の手順 6b を参照してください。
- ◆ ソースパスのマップされたドライブに対するサポートを追加：[Keep the Same Source Paths for the Replicated Objects] オプションの詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「Desktop Application Distribution の作成」の手順 6d を参照してください。
- ◆ 配布の遅延を短縮：Distributionが1つであるか、複数であるかに関係なく、同時に複数のアプリケーションが配布される場合に備えて、60秒間の遅延が組み込まれていましたが、新規作成されたアプリケーションオブジェクトのディレクトリの同期を30秒間の遅延で実行できるようになりました。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「Desktop Application Distribution の作成」の最後に記載されている「重要」を参照してください。

Server Inventory

ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ 137 ページの「ソフトウェアデータのインベントリスキャンにおける機能拡張」
- ◆ 138 ページの「新規インベントリレポート」
- ◆ 138 ページの「Oracle 9iにおけるインベントリデータベースのサポート」
- ◆ 138 ページの「ハードウェアデータのインベントリスキャンに関する新しい機能拡張」
- ◆ 138 ページの「インベントリデータの XML ファイルへのエクスポート」
- ◆ 139 ページの「eDirectory オブジェクトに対するわかりやすい新規命名法」

ソフトウェアデータのインベントリスキャンにおける機能拡張

Inventory Scanner に対して次に示す機能拡張が実行されました。この結果、より効果的、効率的にスキャンプロセスを制御することができます。

- ◆ 次のソフトウェアインベントリ情報のスキャンをサポートします。
 - ◆ Windows オペレーティングシステムとその修正プログラム
 - ◆ Internet Explorer とその修正プログラム
 - ◆ Windows Media Player とその修正プログラム
 - ◆ Outlook Express とその修正プログラム
 - ◆ Novell Client32™ およびインストールされたコンポーネント
 - ◆ ZENworks スイートおよびインストールされたコンポーネント

- ◆ Microsoft* Office およびインストールされたアプリケーション
- ◆ Symantec* Antivirus Corporate Edition および McAfee* Antivirus などのウイルス対策製品
- ◆ Symantec Antivirus Corporate Edition および McAfee Antivirus などのウイルス対策製品のウイルス定義日およびバージョン
- ◆ Windows の [アプリケーションの追加と削除] および MSI データベースで一覧表示される製品のスキャンをサポートします。
- ◆ ソフトウェアのタイトルのディクショナリを含んでおり、インストールされたソフトウェアに関する、より正確なレポートを提供します。
- ◆ ソフトウェアスキャンの範囲を制御するルールを提供します。
- ◆ 設定済みのファイル拡張子が使用する総ディスク容量のレポートを作成します。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**ZENworks 6.5 インベントリ対象サーバでスキャンするソフトウェアインベントリ情報のカスタマイズ**」を参照してください。

新規インベントリレポート

Server Inventory は、新しいソフトウェアインベントリレポートを提供します。

ZENworks for Servers 3.0.2 に同梱されていたインベントリレポートと ZENworks 6.5 Server Management で提供される新しいレポートが再編されています。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**インベントリレポートの種類**」を参照してください。

Oracle 9i におけるインベントリデータベースのサポート

ZENworks 6.5 では、ネットワーク内にセットアップされた Oracle 9i 用にインベントリデータベースを設定することができます。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**Oracle 9i インベントリデータベースのセットアップ**」を参照してください。

ハードウェアデータのインベントリスキャンに関する新しい機能拡張

Server Inventory で、モニタとシステム本体のスキャンもサポートされるようになりました。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**モニタのサイズに関するハードウェア情報のカスタマイズ**」を参照してください。

インベントリデータの XML ファイルへのエクスポート

Server Inventory により、Data Export ツールを使って、インベントリデータをインベントリデータベースから XML(.xml) ファイルにエクスポートすることができます。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**インベントリ情報のエクスポート**」を参照してください。

eDirectory オブジェクトに対するわかりやすい新規命名法

次の eDirectory オブジェクトの命名法が変更されました。

- ◆ ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトの名前は *server_name_InvService* ではなく *Inventory Service_server_name* として表示されます。
- ◆ ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクト名は、*server_name_Invdatabase* ではなく *Inventory database_server_name* として表示されます。

Remote Management

ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ 139 ページの「ミラードライバ」
- ◆ 139 ページの「エージェント側で開始される接続」
- ◆ 139 ページの「サイズの調整」
- ◆ 140 ページの「エージェントに対するマウス動作のブロック」
- ◆ 140 ページの「256 色のカラーパレットの強制適用」
- ◆ 140 ページの「セッションの暗号化」

ミラードライバ

ミラードライバは、ビデオアダプタの独立性と他のリモートコントロールソリューションとの共存を提供します。ミラードライバのインストールを選択すると、インストールプログラムにより、ビデオドライバのチェックが無効になり、すべての Windows メッセージが表示されなくなります。ZENworks 6.5 Server Management のインストール中にこのオプションを表示できます。ミラードライバをインストールしない場合、この選択を解除することができます。この場合、最適化は無効になります。ミラードライバにより、Remote Management のパフォーマンスが向上します。

エージェント側で開始される接続

この機能により、管理対象コンピュータのユーザに対して、リモートコントロール / リモートビューのリモートオペレータにリクエストを送信するオプションが提供されます。この機能は、管理対象サーバがプライベートネットワーク内に存在し、管理コンソールから直接アクセスできない場合に特に有効です。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Remote Management Agent からの Remote Management セッションの起動」を参照してください。

サイズの調整

この機能により、スクロールバーを非表示にして、[Remote Management] ウィンドウを画面の大きさに合わせて表示することができます。ツールバーの  をクリックします。<Ctrl>+<Alt>+<G> キーを使用することもできます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Windows サーバの Remote Management」を参照してください。

エージェントに対するマウス動作のブロック

これは、[Control Parameters] ダイアログボックスで利用できる新しいオプションです。このオプションを選択すると、エージェントに対するすべてのマウス動作をブロックできます。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Windows サーバの Remote Management」を参照してください。

256 色のカラーパレットの強制適用

Remote Management Agent は、Remote Management セッション中、管理対象サーバに対して 256 色のカラーパレットを強制適用します。これによって、低速リンクでの Remote Management のパフォーマンスが向上します。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Windows サーバの Remote Management」を参照してください。

セッションの暗号化

セッションの暗号化機能により、管理コンソールと Remote Management Agent 間で安全なリモートセッションが確立します。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Windows サーバの Remote Management」を参照してください。

[Management and Monitoring Services]

ZENworks 6.5 Server Management の Management and Monitoring Services は、次に示す新機能および機能拡張を提供します。

- ◆ 141 ページの「Management and Monitoring Services for Linux」
- ◆ 141 ページの「パケットキャプチャユーティリティ」
- ◆ 141 ページの「Database Object Editor の新しいユーザインターフェース」
- ◆ 141 ページの「ノードへの実装済み MIB の追加」
- ◆ 141 ページの「ConsoleOne からのアラームテンプレートの削除」
- ◆ 141 ページの「アラーム処理の印刷」
- ◆ 142 ページの「ファイルへのアラーム処理のエクスポート」
- ◆ 142 ページの「Alarm Manager のパフォーマンスの向上」
- ◆ 142 ページの「Microsoft Excel へのアラームテンプレートのコピー」
- ◆ 142 ページの「ポートへの SMTP 電子メール通知の送信」
- ◆ 142 ページの「ポートへの SNMP トラップの転送」
- ◆ 142 ページの「アラーム処理の重要度と状態の変更」
- ◆ 142 ページの「一般的なトラップの処理」
- ◆ 142 ページの「SNMP MIB Compiler」
- ◆ 143 ページの「SNMP MIB Browser」
- ◆ 143 ページの「Remote Ping (リモート Ping)」
- ◆ 143 ページの「カスタムイベントログタイプからのイベント収集」
- ◆ 143 ページの「Nttrap.ini ファイルにおける否定のフィルタ条件の指定」

- ◆ 143 ページの「サイトに関する Available Trap Information レポート」
- ◆ 144 ページの「アンナンバードリンクの使用」
- ◆ 144 ページの「Discovery Console」
- ◆ 144 ページの「Advanced Trending Agent」
- ◆ 144 ページの「Novell ConsoleOne のビューへの複数ビューの表示」
- ◆ 144 ページの「ノード名の順序」
- ◆ 144 ページの「View Builder」
- ◆ 145 ページの「カスタムマップ」
- ◆ 145 ページの「ノードの RMON レベルおよび RMON_II レベルにおける新しいビュー」
- ◆ 145 ページの「Management Site Server のステータス」

Management and Monitoring Services for Linux

ZENworks Server Management for Linux の Management and Monitoring Services コンポーネントは、ネットワーク上の Linux サーバを一元管理する機能を提供します。

パケットキャプチャユーティリティ

Atlas ネームスペース内のすべてのレベルから、パケットキャプチャ機能を利用できるようになりました。検出されたすべての RMON エージェントからのパケットをキャプチャできます。パケットキャプチャ設定の詳細は、後で使用できるよう履歴情報として保存されます。

Database Object Editor の新しいユーザインターフェース

Database Object Editor に新しいユーザインターフェースが導入され、データベースを手動で簡単に更新できるようになりました。

ノードへの実装済み MIB の追加

Database Object Editor を使って、MIB をノードに追加できるようになりました。ノードで検出されていない MIB を、[Available MIBs] リストの中から追加することができます。

ConsoleOne からのアラームテンプレートの削除

ConsoleOne を使用して、[Alarm Templates] リストからアラームテンプレートを削除できます。削除したテンプレートに対応するアラームは、Alarm Manager によって処理されません。

アラーム処理の印刷

この機能により、アラームテンプレートを印刷することができます。

ファイルへのアラーム処理のエクスポート

アラーム処理情報を次のファイル形式にエクスポートできます。

- ◆ カンマ区切り (.csv)
- ◆ HTML (.html)
- ◆ タブ区切り (*.txt)
- ◆ 空白区切り (*.txt)

Alarm Manager のパフォーマンスの向上

Alarm Manager を使って、アラームデータベース内の最大 500,000 のアラームを処理できるようになりました。[Active Alarms] ビューおよび [Alarm History] ビューの機能が拡張され、アラームデータベースから大量のアラームを取得することができます。

Microsoft Excel へのアラームテンプレートのコピー

Microsoft Excel シートにアラームテンプレートをコピーできます。

ポートへの SMTP 電子メール通知の送信

デフォルトポート以外のポートで稼働している SMTP サーバに SMTP 電子メール通知を送信することができます。

ポートへの SNMP トランプの転送

デフォルトポート以外のポートで稼働しているすべての SNMP Trap Listener に対し SNMP トランプを転送できます。

アラーム処理の重要度と状態の変更

アラームテンプレートの重要度および状態を変更できるようになりました。アラームテンプレートのすべての新規受信アラームは、指定した重要度または状態を反映します。

一般的なトランプの処理

以前のバージョンの Management and Monitoring Services では、Alarm Manager は、MIB-2 で定義された 6 個の一般的なトランプをドロップしました。新しいバージョンの Alarm Manager では、こうした 6 個の一般的なトランプがドロップされることはありません。これらのアラームはアラームテンプレートに存在しており、ユーザはこうしたアラームの処理を設定することができます。

SNMP MIB Compiler

SNMP MIB Compiler で実行された機能拡張は次のとおりです。

- ◆ サイトサーバの MIB Pool に、RFC が含まれるようになりました。この RFC は、サードパーティベンダーにより広範囲にわたって使用されます。
- ◆ MIB Pool に、Novell GroupWise®、Novell BorderManager®、Novell eDirectory™、Novell Gateways、および Novell VPN などの Novell 専用 MIB が含まれるようになりました。
- ◆ コンパイル中に生成されたエラーコードに関するオンラインヘルプを [SNMP Compiler Results] ウィンドウから利用できるようになりました。このヘルプを利用して、こうしたエラーコードに関するすべてのトラブルシューティング情報を確認することができます。したがって、問題を即座に解決することが可能になります。

- ◆ [SNMP Compiler Results] ウィンドウでエラーテキストが赤色で強調表示されるようになったため、エラーを認識しやすくなりました。
- ◆ MIB Compiler は、MIB 定義内の軽微なエラーを無視するようになりました。これにより、MIB Compiler はより多くの MIB をコンパイルすることができます。
- ◆ すべての MIB の種類、カテゴリ、生成タイプ (TCG) が一意である必要はなくなりました。SNMP MIB Compiler は、TCG が同一であるすべてのトラップをキャプチャします。
- ◆ SNMP MIB Compiler は、アラーム管理システムと連携して機能するようになりました、MIB Pool 内で利用可能なトラップ情報と同期した状態でアラーム情報を保持できます。
- ◆ SNMP MIB Compiler による MIB のコンパイル速度が向上しました。

SNMP MIB Browser

SNMP MIB Browser で実行された機能拡張は次のとおりです。

- ◆ スカラオブジェクト、テーブルとテーブルエントリオブジェクト、列オブジェクト、および MAXACCESS 値などについて新しいアイコンが採用され、認識しやすくなりました。
- ◆ 検索ユーティリティにより、MIB ツリー内で MIB 変数を検索できるようになりました。MIB 変数または MIB OID に基づいて検索することができます。

Remote Ping (リモート Ping)

以前のバージョンの Management and Monitoring Services の Polling オプションは、セグメントを選択した後に、[View] > [Polling] の順に選択すると表示されました。このオプションが [Atlas] レベルでも表示されるようになりました。任意のアトラスを選択して、[View] > [Polling] の順にクリックします。このオプションを使用すると、[Monitor Services] タブを使って追加したすべてのサービスのステータスを表示することができます。

カスタムイベントログタイプからのイベント収集

Server Management Agent for Windows は、Windows イベントログからイベントを収集し、こうしたイベントをトラップに変換します。変換されたトラップはサイトサーバに転送されます。

Nttrap.ini ファイルにおける否定のフィルタ条件の指定

Server Management Agent for Windows を使って、否定の条件を指定できるようになりました。

サイトに関する Available Trap Information レポート

Available Trap Information レポートには、サイトサーバで現在使用できる SNMP トラップの情報が一覧表示されます。このレポートはサイトサーバに関してコンパイルされた MIB に基づいて生成され、次の情報が示されます。

- ◆ 合計トラップ数
- ◆ アラームのカテゴリ
- ◆ アラームの重要度
- ◆ アラームタイプ
- ◆ トラップの OID
- ◆ トラップの説明

アンナンバードリンクの使用

この機能を使って、Atlas ネームスペースのアンナンバードリンクを検出して表示することができます。

Database Object Editor の [Unnumbered Links] タブを使用して、IP ルータのアンナンバードリンクを追加、変更、または削除できます。アンナンバードリンクには、インターフェースタイプと、接続されたルータが含まれます。作成および設定したすべてのアンナンバードリンクは、Atlas またはConsoleOne に表示されます。

Discovery Console

Discovery Console では、ConsoleOne を使用して IP アドレスのセットを検出する要求を送信できます。ホストアドレスのリスト、サブネット上のすべてのホスト、アドレス範囲、または正規表現形式のアドレスを検出できます。Discovery Console では、送信済みの要求のステータスを確認したり、要求を削除したりできます。

Advanced Trending Agent

Advanced Trending Agent は、SNMP エージェントによって計測されるパラメータが MIB 変数により定義されており、単なる設定済み MIB 変数ではない場合に、そのパラメータのトレンドデータ（履歴データ）を収集および格納するアプリケーションです。

Advanced Trending Agent の機能は、NetWare、Windows、およびLinux プラットフォームで利用できます。

Advanced Trending Agent は、設定済みの MIB 変数のサンプルを定期的に収集して格納します。収集されたデータは SNMP インタフェースを通じて表示されます。このデータを使用して、パラメータの長期的なトレンドグラフを表示できます。

環境設定ファイルを使って Advanced Trending Agent を構成することができます。Advanced Trending Agent には、更新のために設定ファイルを読み込むコマンドラインユーティリティが含まれています。このユーティリティは収集されたデータをリセットし、新しいデータの収集を開始します。Advanced Trending Agent でパラメータのしきい値を設定し、値がしきい値を超えた場合にトラップを生成することもできます。

Novell ConsoleOne のビューへの複数ビューの表示

[View in a New Window] オプションにより、複数の表形式ビュー、トレンドビュー、および混合ビューを、Novell ConsoleOne のビューウィンドウに表示できます。

ノード名の順序

検出サイクルが進行し、より多くの情報が検出されると、マップに表示される名前が変更される場合があります。名前の情報ソースに応じて、異なる優先度が名前に与えられています。名前が検出されない場合は、ノードの IP/IPX アドレスがノード名として表示されます。

View Builder

View Builder は、SNMP MIB を計測したエージェントからの情報およびエージェントによって管理サイトサーバに送信されたトラップを表示するビューを作成できるメカニズムを提供します。View Builder を使用して、ConsoleOne で使用できるビュー以外のビューを作成できます。これらのビューは、テキスト、表、およびグラフとして表示できます。

カスタムマップ

カスタムマップでは、カスタムアトラスとカスタムコンテナを作成および削除でき、ノードをコンテナにグループ化できます。アトラスのオブジェクトの階層を作成することもできます。アトラスには、カスタムコンテナを配置できます。カスタムコンテナ内にノードやサブコンテナを作成することもできます。ただし、ノードは [Atlas] の下に直接配置することはできません。

ノードの RMON レベルおよび RMON_II レベルにおける新しいビュー

次のビューは、RMON レベル ([Node] > [Services] > [RMON]) でも表示されます。

- ◆ Segment Dashboard
- ◆ Stations
- ◆ Segment Trends
- ◆ Monitor Nodes for Inactivity

RMON_II サービスレベル ([Node] > [Services] > [RMON_II]) で次のビューを表示できるようになりました。

- ◆ Protocol Distribution

Management Site Server のステータス

Management Site Server で現在実行中のすべての Management and Monitoring Services のステータスを表示できます。

ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1

次の節では、Support Pack 1 (SP1) のソフトウェアの変更について説明します。

- ◆ 145 ページの「管理対象デバイスの新しいプラットフォームのサポート」
- ◆ 146 ページの「統合 Support Pack のサポート」
- ◆ 146 ページの「Policy and Distribution Services」
- ◆ 147 ページの「Server Inventory」
- ◆ 149 ページの「Remote Management」
- ◆ 149 ページの「[Management and Monitoring Services]」

管理対象デバイスの新しいプラットフォームのサポート

- ◆ SP1 へのアップデートを行うと、すべての ZENworks 6.5 Server Management コンポーネントで Novell Open Enterprise Server® (OES) がサポートされるようになります。OES の詳細については、Novell Open Enterprise Server の Web サイト (<http://www.novell.com/products/openenterpriserver/index.html>) を参照してください。
- ◆ SP1 では、Citrix Metaframe Presentation Server 3 が実行されている Windows サーバ上への ZENworks 6.5 Server Management エージェントのインストールがサポートされます。

統合 Support Pack のサポート

ZENworks 6.5 Server Management SP1 は、Novell CSP11 および CSP12 と互換性があります。

Policy and Distribution Services

ZENworks 6.5 Server Management SP1 の Policy and Distribution Services は、次に示す新機能および機能拡張を提供します。

- ◆ 146 ページの「Novell iManager 2.5 のサポート」
- ◆ 146 ページの「Distributor からの複数バージョンサポート」
- ◆ 146 ページの「サブディレクトリを含める」
- ◆ 147 ページの「Distribution の関連付けの複製」
- ◆ 147 ページの「MSI 3 のサポート」
- ◆ 147 ページの「最大リビジョン通知」
- ◆ 147 ページの「iManager での抽出エラーのドリルダウン」
- ◆ 147 ページの「iManager での手動による Distribution の抽出」
- ◆ 147 ページの「手動配布ウィザード」
- ◆ 147 ページの「MIB 定義の追加」

Novell iManager 2.5 のサポート

ZENworks 6.5 Server Management SP1 プラグインは、次のプラットフォームの iManager 2.5 で動作します。

Linux

NetWare

Windows:

Distributor からの複数バージョンサポート

SP1 にアップデートされた Distributor サーバは、Distribution を次の Subscriber サーバに送信できます。

- ◆ 同様に SP1 にアップデートされた ZENworks 6.5 Subscriber
- ◆ まだ SP1 にアップデートされていない ZENworks 6.5 Subscriber
- ◆ ZENworks for Servers 3.0.2 +IR2 Subscriber (Zfs 3 SP2 +IR2 Subscriber を含む)

サブディレクトリを含める

ZENworks 6.5 Server Management SP1 では、ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 で作成されたアプリケーションオブジェクトで使用できる [Include Subdirectories] チェックボックスがサポートされます。

Distribution の関連付けの複製

[Desktop Application Distribution] プロパティページの新しいチェックボックスを使うと、Distribution が初めて送信されたときだけ関連付けを複製するか、または Distribution の後続のビルドに対して関連付けに変更が加えられるごとに関連付けを複製するかを選択できます。

この新しいオプションは [Always Replicate Association Flags] で、Distribution が作成された後に [Type] タブに表示されます。このオプションは、最初に Desktop Application Distribution ウィザードで設定されます。

MSI 3 のサポート

Desktop Application Distribution では、MSI 3 アプリケーションの配布がサポートされます。

最大リビジョン通知

SMTP を設定すると、Distribution の最大リビジョン数に到達したことを通知する SMTP 電子メールが送信されます。

iManager での抽出エラーのドリルダウン

iManager の Tiered Distribution View のターゲットサーバのポップアップで、抽出エラーに関する詳しい情報が表示されるようになりました。

iManager での手動による Distribution の抽出

iManager で、手動配布ウィザードを使ってインポートされた Distribution を手動で抽出できます。

手動配布ウィザード

手動配布ウィザードを使用する場合は、Distribution のデルタとリビジョンのすべてが Distribution の構築に含まれています。SP1 の直前のバージョンに含まれていたのは最新のデルタだけでした。

MIB 定義の追加

SNMP トラブル用に約 150 の MIB 定義が追加されました。

Server Inventory

ZENworks 6.5 Server Management SP1 の Server Inventory は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ 148 ページの「ソフトウェアディクショナリに対する機能拡張」
- ◆ 148 ページの「新しいアンチウイルス製品のスキャン」
- ◆ 149 ページの「CIM スキーマを使用しないインベントリデータベースからのインベントリ情報の取得」

ソフトウェアディクショナリに対する機能拡張

ZENworks ソフトウェアディクショナリに次の機能拡張が行われました。

- ◆ ソフトウェアディクショナリスナップインに改良が加えられ、より直感的でわかりやすくなりました。
- ◆ ソフトウェアインベントリ情報をスキャンする際に、ZENworks ソフトウェアディクショナリにデフォルトとして設定されているファイルとソフトウェアのデフォルトマッピングルールを Inventory scanner で使用しない場合は、[Ignore Default File-Software Mapping Rules(ファイルとソフトウェアのデフォルトマッピングルールの無視)] オプションを使用することで無効にできるようになりました。
- ◆ ディクショナリコンシューマは、最上位のインベントリサーバに設定されたソフトウェアディクショナリルールをディクショナリ更新ポリシーに基づいてマージできるようになりました。このようなルールは「継承されたルール」と呼ばれます。ルールに対して編集や削除はできません。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「[Server Inventory](#)」を参照してください。

新しいアンチウイルス製品のスキャン

- ◆ **NetWare インベントリ対象サーバの場合** : Inventory scanner は、NetWare インベントリ対象サーバにインストールされた McAfee Netshield* 4.6.x に対して最新のウイルス定義の日付とバージョンに関する情報を収集します。
- ◆ **Windows インベントリ対象サーバの場合** Inventory scanner は、次の製品バージョンについて、インベントリ対象サーバにインストールされている最新のウイルス定義の日付とバージョンに関する情報を収集します。

Symantec AntiVirus Corporate Edition 8.0
Norton AntiVirus Corporate Edition for Windows 7.0
Norton AntiVirus Corporate Edition 7.6.1.0000
Symantec Norton AntiVirus 2000
Symantec Norton Internet Security 2002
Symantec Norton AntiVirus 2003 (9.00)
Symantec Norton AntiVirus 2003 Professional Edition (9.00)
Symantec Norton AntiVirus 2004 (10.00)
Symantec Norton Internet Security 2004 (10.00)
Symantec Norton AntiVirus 2004 Professional (10.00)
Symantec Norton Internet Security 2004 Professional (10.00)
Symantec Norton AntiVirus 2005 Professional (11.00)
Symantec Norton Internet Security 2005 Professional (11.00)
Network Associates McAfee VirusScan 4.0.3 (Windows 9x)
Network Associates McAfee VirusScan NT 4.0.3a (Windows NT)
Network Associates McAfee NetShield 4.5.0
Network Associates McAfee VirusScan 4.5.0
Network Associates McAfee VirusScan 4.5.1
Network Associates McAfee VirusScan (McAfee Security Center) 8.0
Network Associates McAfee VirusScan ASaP
Network Associates McAfee VirusScan Enterprise 7.1
Network Associates McAfee VirusScan Enterprise 8.0

Central Command Vexira AntiVirus Guard for Windows XP (2000 + NT) 2.10
Central Command Vexira AntiVirus Windows 95/98
Central Command Vexira AntiVirus NT/2000 Servers
Central Command Vexira AntiVirus Server Edition (6.26.xx.xx)
Sophos Anti-Virus - Windows NT/2000/XP/2003
Sophos Anti-Virus - Windows 95/98
Trend Micro PC-cillin 2002 (9.x)
Trend Micro PC-cillin 2003 (10.x)
Trend Micro Internet Security 11.x (PC-cillin)
Trend Micro Internet Security 2005 12.x (PC-cillin)
Trend Micro Server Protect 5.xx
Trend Micro OfficeScan 5.xx - Client for Windows NT/2000/XP
Trend Micro OfficeScan 5.xx - Client for Windows 9x

CIM スキーマを使用しないインベントリデータベースからのインベントリ情報の取得

ZENworks 6.5 SP1 Server Management は、CIM スキーマを使用せずにインベントリデータベースからインベントリ情報を取得することを可能にする使いやすいビューを提供します。これらのビューはあらかじめ定義されたデバイス固有のビューで、ZENworks 6.5 Server Management SP1 の Server Inventory コンポーネントをインストールした後に自動的にインベントリデータベース内に作成されます。

詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Server Inventory*」を参照してください。

Remote Management

ZENworks 6.5 Server Management SP1 の Remote Management に関する新機能や機能拡張はありません。バグフィックスに関しては、[ZENworks 6.5 の Web サイト](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。

[Management and Monitoring Services]

ZENworks 6.5 Server Management SP1 の Management and Monitoring Services に関する新機能や機能拡張はありません。バグフィックスに関しては、[ZENworks 6.5 の Web サイト](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。

10

ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management Support Pack 1 (SP1) は、Policy and Distribution Services、Server Inventory、Remote Management、および Management and Monitoring Services をアップグレードします。ただし、アップグレード対象は 3.x ではなく、バージョン 6.5 のみです。バージョン 3.x のアップグレードの詳細については、8 章 121 ページの「概要」を参照してください。

次の節では、これらのコンポーネントを SP1 にアップグレードする方法を説明します。

- ◆ 151 ページの「[ウィザードまたはスクリプトを使用した SP1 へのアップグレード](#)」
- ◆ 176 ページの「[Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード](#)」

ウィザードまたはスクリプトを使用した SP1 へのアップグレード

Policy and Distribution Services の場合、Distributor サーバおよび Subscriber サーバは任意の順序で SP1 にアップグレードできます。

ウィザードまたはスクリプトを使用した SP1 へのアップグレードの場合、2 つのプラットフォームベースオプションが存在します。

- ◆ **NetWare および Windows サーバ**：これらのプラットフォームの場合、ウィザードは、SP1 ダウンロードに含まれる実行可能ファイルから実行されるインストールメニュー オプションから Windows ワークステーション上で実行されます。

Policy and Distribution Services、Server Inventory、Remote Management、および Management and Monitoring Services は、この方法を使用してすべて SP1 にアップグレードできます。

- ◆ **Linux および Solaris サーバ**：こうしたプラットフォームについては、スクリプト ファイルが使用されます。スクリプト ファイルは SP1 ダウンロードに含まれ、アップグレード対象のそれぞれの Linux または Solaris サーバ上でローカルに実行されます。

この方法でアップグレードできるのは、Policy and Distribution Services だけです。

サポートされているすべてのプラットフォーム上の複数の Subscriber サーバに対して自動インストールを実行する場合は、Server Software Package を使ってこうしたサーバをアップグレードすることをお勧めします（176 ページの「[Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード](#)」を参照）。

ウィザードまたはスクリプトを使って ZENworks 6.5 Server Management を SP1 にアップグレードするには

- ◆ 152 ページの「[アップグレードの概念と問題点](#)」
- ◆ 154 ページの「[アップグレードするサーバの選択](#)」

- ◆ 155 ページの「NetWare および Windows サーバでの Policy-Enabled Server Management のアップグレード」
- ◆ 170 ページの「Linux および Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のアップグレード」
- ◆ 172 ページの「NetWare サーバ上での Management and Monitoring Services のアップグレード」

アップグレードの概念と問題点

次の項目を確認することにより、SP1 へのアップグレードの実行内容を把握し、関連する問題点を認識します。

- ◆ 152 ページの「SP1 へのアップグレードで実行されることおよび実行されないこと」
- ◆ 153 ページの「サーバの段階的なアップグレード」
- ◆ 154 ページの「複数ツリーのサーバのアップグレード」
- ◆ 154 ページの「アップグレードに関するクラスタ問題」

SP1 へのアップグレードで実行されることおよび実行されないこと

次の表に、アップグレードアクションと該当する Server Management コンポーネントを示します。「T」は、説明がそのコンポーネントで真であることを示し、「F」は、説明が偽であることを示します。「?」は、説明がそのコンポーネントに該当しないことを示します。

アクション	P	S	R	M
SP1 では、ZENworks for Servers 3.x が ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードされません。SP1 を適用する前に、11 章 189 ページの「Policy and Distribution Services」、12 章 231 ページの「Server Inventory」、13 章 251 ページの「Remote Management」、または 14 章 255 ページの「[Management and Monitoring Services]」の手順を実行する必要があります。	T	T	T	T
ZENworks コンポーネントが以前にインストールされていない場合、SP1 では、ZENworks コンポーネントはインストールされません。	T	T	T	T
SP1 では、Novell eDirectory™ オブジェクトはアップグレードされません。	T	T	T	T
Hot Patch 5 までのすべての ZENworks 6.5 ホットパッチが SP1 に含まれます。	T	?	?	?
GUI ウィザードにより、アップグレード可能なソフトウェアが検出されたサーバ上の ZENworks 6.5 Policy-Enabled Server Management ソフトウェアがアップグレードされます。ZENworks 6.5 がインストールされているインストールパスが使用されます。	T	T	T	T
Linux または Solaris コンピュータ上でスクリプトをローカルに実行することで、ZENworks 6.5 Policy and Distribution Services ソフトウェアが SP1 にアップグレードされます。	T	?	?	?
GUI ウィザードでは、チェックボックスを選択または選択解除できません。ステータスは、アップグレードするコンピュータを選択したときにウィザードによって決定されます。	T	T	T	?
サービスが実行されている場合、ウィザードによってこれらのサービスが自動的に停止および再起動されます。サービスは、アップグレード前と同じ状態に設定されます。	T	F	F	F

アクション	P	S	R	M
ウィザードが起動される前にサービスが実行されていなかった場合、サービスは再起動されません。	T	F	T	F
ウィザードが起動される前にサービスが実行されていなかった場合にサービスを再起動するオプションがあります。	F	F	F	T
ファイルは常にコピーされ、新旧どちらのファイルもアップグレードされたファイルで置換されます。ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。	T	T	T	T
アップグレードしようとしているコンピュータにすでにフックドライバがインストールされている場合、そのフックドライバはアップグレード中にアンインストールされます。	ミ	ミ	T	ミ
ウィザードにより、ConsoleOne® スナップインは、インストールワークステーションとウィザードによって ConsoleOne が検出された任意のターゲットサーバの両方で、ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードされます。ConsoleOne チェックボックスが選択状態で表示されるようにするためにには、スナップインのバージョン 6.5 があらかじめインストールされている必要があります。	T	T	T	T
ウィザードでは、ConsoleOne がインストールされているワークステーションを選択してそこに含まれている Server Management スナップインを更新することはできません。スナップインを更新するためには、スナップインがインストールされているそれぞれのワークステーション上でウィザードを実行する必要があります。	T	T	T	T
ZENworks 6.5 Server Management の iManager 用プラグインは、[Policy-Enabled Server Management] メニューオプションによってアップグレードされません。SP1 ウィザードを終了した後で [Web-Based Management Components] メニューオプションを使ってこの操作を行う必要があります。この操作については、 162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」 で説明します。	T	ミ	ミ	ミ
また、iManager 2.0.2 または 2.5 をインストールしている場合は、 162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」 で説明するタスクを使って、プラグインの初めてのインストールを実行できます。				

注：P = Policy and Distribution Services、S = Server Inventory、R = Remote Management、M = Management and Monitoring Services、T = 真、F = 偽、およびミ = 該当なしを示します。

サーバの段階的なアップグレード

段階的なアップグレードは、Remote Management または Management and Monitoring Services には適用されません。

すべての ZENworks 6.5 サーバを 1 回で SP1 にアップグレードしたり、段階的に（たとえば地域別に）アップグレードできます。

ウィザードは、ファイルをそれぞれのサーバに続けてコピーします。多数の Subscriber が存在する場合、こうした Subscriber をアップグレードするのに要する時間を検討します。アップグレードにかかる時間が長すぎる場合、対象になる Subscriber をグループ化して、一度に 1 つのグループをアップグレードできるようにするか、ソフトウェアパッケージによるアップグレードを使用します。

Linux および Solaris サーバ上の Policy and Distribution Services のアップグレードはスクリプトを使用して一度に 1 つずつローカルに実行されるので、段階的なアップグレードは容易に適用できません。Linux または Solaris サーバのグループの段階的なアップグレードを実行する場合は、Server Software Package の利用を検討してください。

ソフトウェアパッケージを使用したアップグレードの詳細については、[176 ページの「Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード」](#)を参照してください。

複数ツリーのサーバのアップグレード

複数ツリーにまたがるアップグレードは、Remote Management または Management and Monitoring Services には適用されません。

ウィザードでサーバを選択するときは、ZENworks オブジェクトではなく NCP サーバオブジェクトでサーバを選択します。ZENworks サーバが複数のツリーに存在する場合は、それぞれのツリーにログインしてサーバを選択できるようにする必要があります。

また、Server Software Package を使用して、複数のツリーにまたがるサーバをアップグレードすることもできます ([176 ページの「Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード」](#)を参照)。

アップグレードに関するクラスタ問題

クラスタ問題は、Remote Management または Management and Monitoring Services のアップグレードには適用されません。

SP1 のインストールでサーバを選択する場合、仮想サーバのクラスタオブジェクトとクラスタ内のノードサーバの NCP オブジェクトを両方選択できるため、インストールプログラムでは仮想サーバとそのノードの両方をインストールできます。ただし、両方に SP1 をインストールした場合は、zfs.ncf 起動ファイルが 2 つの異なる場所から実行されるため、エラーの原因になります。したがって、SP1 のインストール先を選択する前に、Server Management をクラスタレディ環境とクラスタアウェア環境のいずれにインストールしたかを把握しておく必要があります。

ZENworks サーバがクラスタレディ環境にインストールされる場合

- ◆ SP1 のインストールでは仮想サーバのみを選択する必要があります。
- ◆ SP1 のインストールではクラスタ内の各ノードにファイルをコピーします。
- ◆ SP1 のインストールではクラスタに 1 つの zfs.ncf ファイルを設定します。

ZENworks サーバがクラスタアウェア環境にインストールされる場合

- ◆ SP1 のインストールではノードサーバの NCP オブジェクトのみを選択する必要があります。
- ◆ SP1 のインストールではクラスタ内の各ノードにファイルをコピーします。
- ◆ SP1 のインストールでは各ノードのサーバに zfs.ncf ファイルを設定します。

詳細については、[335 ページの付録 E、「クラスタ環境での ZENworks Server Management」](#)を参照してください。

アップグレードするサーバの選択

- ◆ **段階アップグレードの問題点**： SP1 にアップグレードするサーバを決める場合は、段階的なアップグレードの問題を考慮してください。詳細については、[153 ページの「サーバの段階的なアップグレード」](#)を参照してください。
- ◆ **ウィザードを使用してアップグレードするサーバ**： SP1 ウィザードを実行する場合は、ウィザードを実行してからアップグレード対象のサーバを決定できます。次のどちらかの方法を使用して、NetWare® および Windows サーバを選択できます。
 - ◆ ほんの一部のサーバにのみ ZENworks 6.5 がインストールされていて、ZENworks 6.5 がインストールされているサーバの NCP™ オブジェクト名がわかっている場合は、SP1 ウィザードを実行するときに個別にそのサーバを選択できます。

- ◆ 大多数(またはすべて)のサーバにZENworks 6.5がインストールされている場合は、ツリー内または選択したコンテキストのすべてのサーバを選択します。アップグレードでは、インストールされた ZENworks 6.5 コンポーネントのうちアップグレード可能なコンポーネントのみが [Server Selection] ページに表示されます。
- ◆ **Server Software Packageを使用してアップグレードするサーバ:** Server Software Package を使った方法を使用する場合は、SP1 にアップグレードするサーバを次のように決定します。
 - ◆ ほんの一部のサーバにのみ ZENworks 6.5 がインストールされている場合は、Distribution 用に作成した Channel 内のすべての Subscriber サーバを含めることができます。アップグレードの対象として選択した Subscriber サーバに Distributor ソフトウェアがある場合、そのソフトウェアもアップグレードされます。
 - ◆ 大多数のサーバに ZENworks 6.5 がインストールされていて、これらのサーバを段階的に(たとえば地域別に)アップグレードするには、サーバをグループに分類し、各グループに対して作成した Channel に配置できるようにします。
- ◆ **ソフトウェアパッケージを使用して SP1 にアップグレードする場合は、アップグレード Distribution に対して一意なチャネルを作成し、SP1 にアップグレードする Subscriber を当該 Channel に登録する必要があります。**
- ◆ **スクリプトを使用してアップグレードするサーバ:** Linux または Solaris サーバを SP1 にアップグレードする場合に Server Software Package を使用しない場合は、スクリプトを実行するサーバを指定します。

NetWare および Windows サーバでの Policy-Enabled Server Management のアップグレード

ZENworks 6.5 Policy-Enabled Server Management を SP1 にアップグレードするには、次の作業をこの順序で実行します。

1. 155 ページの「アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト」
2. 157 ページの「SP1 へのアップグレード」
3. 162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」
4. 166 ページの「サービスの起動」
5. 168 ページの「サービスが正常に実行されているかどうかの確認」
6. 168 ページの「サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認」
7. 169 ページの「アップグレードの再実行」
8. 170 ページの「アップグレード後の作業」

アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト

- ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme で SP1 へのアップグレードに関する最新情報を確認します。
- SP1 にアップグレードするサーバ上に ZENworks 6.5 Server Management がインストールされていることを確認します。

- クラスタ化されたサーバのすべてを記録し、そのサーバにZENworksがクラスターディとクラスターアウェアのいずれでインストールされたかを確認します。詳細については、154 ページの「アップグレードに関するクラスタ問題」を参照してください。
- Server Inventory をアップグレードする場合は、次の作業を行う必要があります。
 1. Server Inventory の再インストールが必要なサーバを指定します。
 2. Inventory Service を停止します。
 - ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**sys:\system\invstop.ncf**」と入力します。
Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:\system\invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。
 - ◆ Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。
 3. インベントリデータベースを停止します。
 - ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
 - ◆ Windows 2000/2003 の場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Database - Sybase] を選択し、[停止] をクリックします。
- ConsoleOne のインスタンスが、ワークステーションからマップされたドライブを通じてターゲットサーバ上で実行されている場合や、インストールコンピュータから実行されている場合は、これらの ConsoleOne のインスタンスを終了してからインストールプログラムを実行します。
ConsoleOne がインストールコンピュータ上のマップされたドライブを通じてターゲットサーバ上で実行されている場合や、インストールコンピュータから実行されている場合は、ConsoleOne 用の ZENworks Server Management スナップインはこれらの場所にインストールされません。
- ZENworks 6.5 ソフトウェアを SP1 にアップデートするサーバの NCP サーバオブジェクトを含んでいる eDirectory ツリーにログインします（まだこの操作を行っていない場合）。
インストール時にログインしたツリー内のすべてのターゲット NetWare サーバで自動的に認証され、Server Management ソフトウェアのインストール先としてこれらのサーバを選択できます。
ツリーにログインしていない場合は、アップグレード処理中にサーバオブジェクトを選択できません。
必要に応じて何度でもウィザードを実行できます。
- Windows サーバにソフトウェアをインストールする場合は、サーバに認証されていることを確認してください。
これによって、ドメインから Distributor および Subscriber ソフトウェアのインストール先として Windows サーバを選択できるようになります。ただし、インストールを開始する前に Windows サーバにログインしていない場合は、インストール時にインストール先の Windows サーバを選択する [Add Server] ダイアログボックスでユーザ名とパスワードを使用して認証することができます。

□ Windows サーバにソフトウェアをインストールする場合、各 Windows サーバで [サービス] ウィンドウを閉じていることを確認します。

インストールプログラムにより、すべての ZENworks Server Management サービスが自動的に停止します。ただし、サーバへのインストール中に [サービス] ウィンドウが開いたままになっている場合、Server Management のサービスを登録することができません。

SP1 へのアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management を SP1 にアップグレードするには、次の作業をこの順序で実行します。

- 157 ページの「SP1 ウィザードを起動する」
- 159 ページの「アップグレードするサーバを選択する」
- 161 ページの「SP1 アップグレードの概要を確認する」

SP1 ウィザードを起動する

1 `winsetup.exe` を実行します。

`winsetup.exe` は次の場所にあります。

`download_location\zen65sp1\winsetup.exe`

ただし、`download_location` は、ダウンロードファイルの解凍場所によって異なります。デフォルトは `c:\temp` です。

これにより、SP1 アップグレードメニュー オプションを含む ウィザードが起動されます。

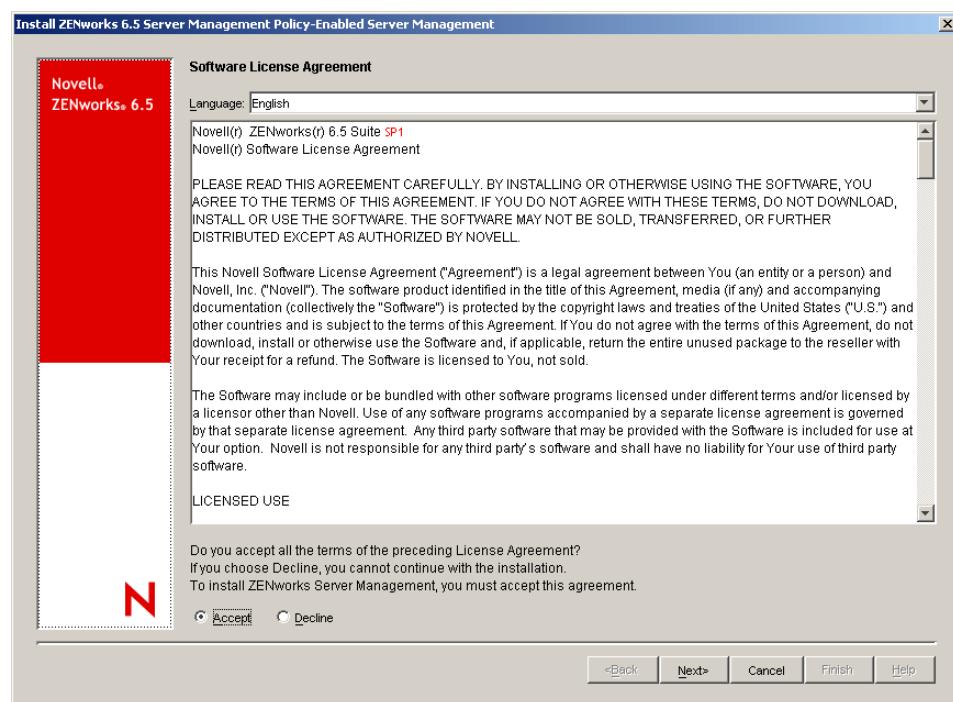
`winsetup.exe` ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。



2 メインメニューで、[Server Management] オプションを選択します。



3 [Policy-Enabled Server Management] を選択してウィザードを起動し、[License Agreement] ページを表示します。

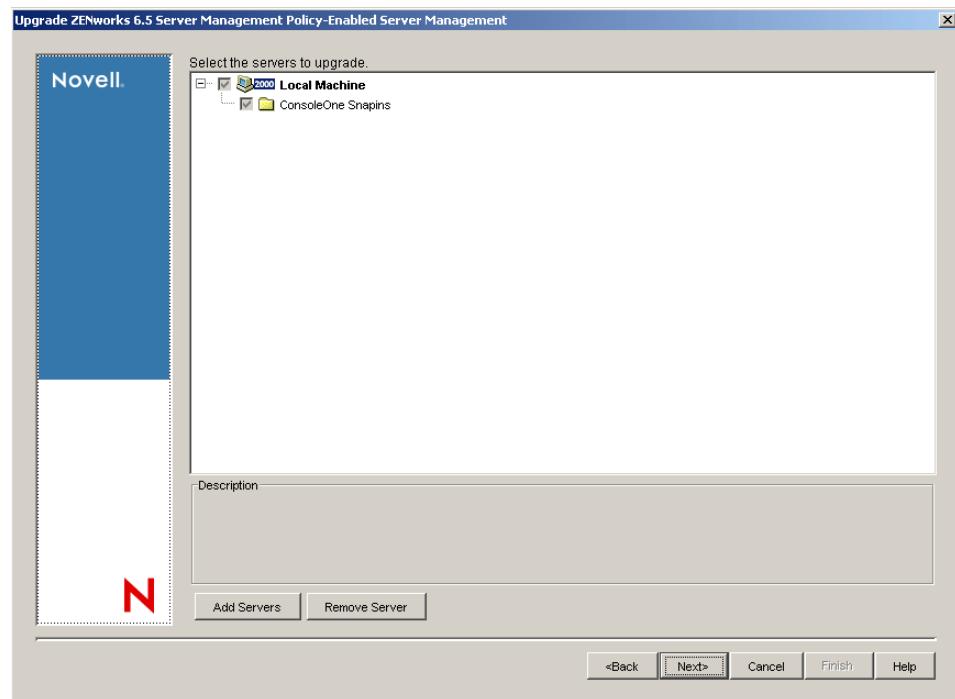


4 ソフトウェア使用許諾契約に同意する場合は、[Accept] をクリックし、[Next] をクリックします。同意しない場合は、[Cancel] をクリックして終了します。

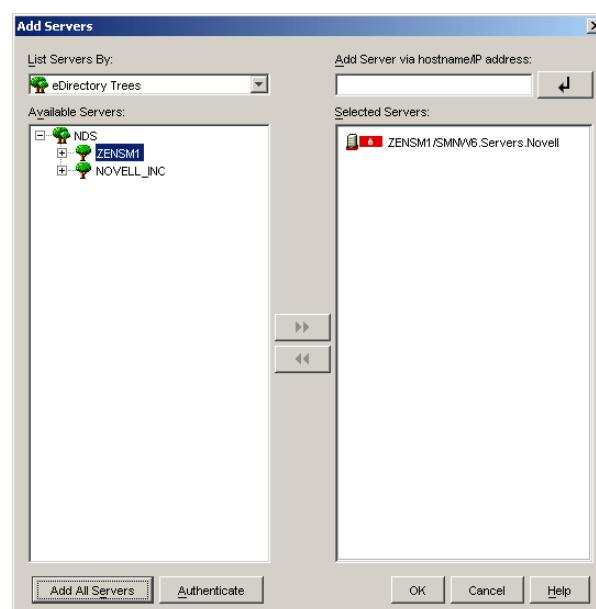
[Server Selection] ページが表示され、[Local Machine] のみが表示されます。ZENworks 6.5 スナップインがコンピュータにインストールされている場合は、[ConsoleOne snap-ins] チェックボックスが有効になります。

5 159 ページの「アップグレードするサーバを選択する」に進みます。

アップグレードするサーバを選択する



1 [Server Selection] ページで、[Add Servers] をクリックして [Add Servers] ダイアログボックスを表示します。



2 SP1 アップグレードをインストールする NCP サーバオブジェクトを参照し、[OK] をクリックします。

NetWare サーバを参照するには、ドロップダウンボックスから [eDirectory Trees] を選択します。Windows サーバを参照するには、ドロップダウンボックスから [Microsoft Domains]（または [Microsoft Active Directory]）を選択します。サーバは次のように選択できます。

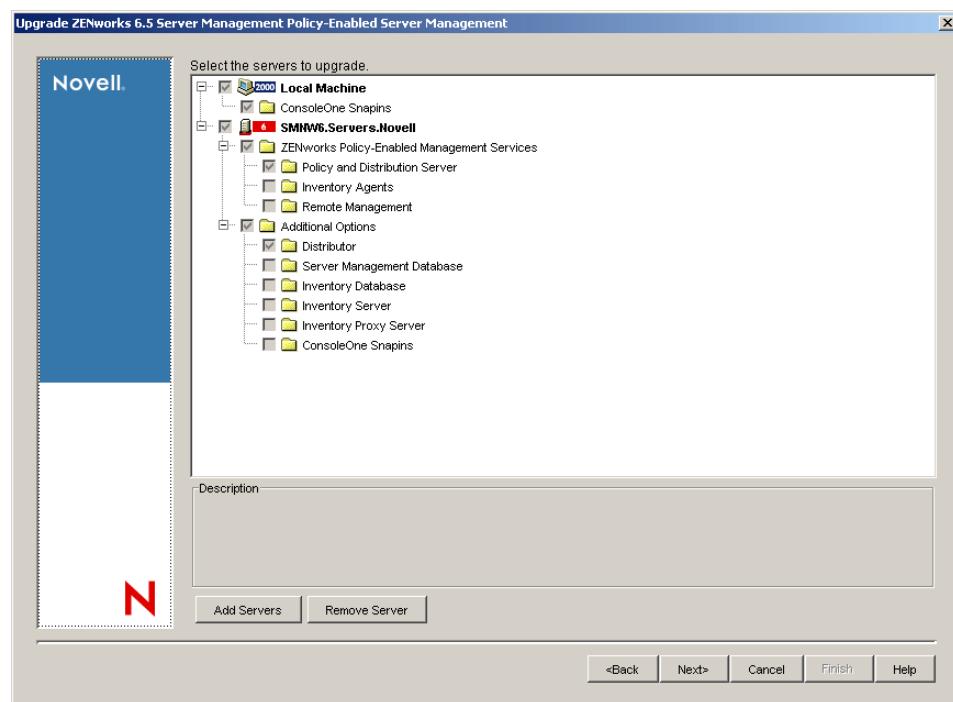
- ◆ サーバは個別に選択することも、<Ctrl> キーや <Shift> キーを使用して複数選択することもできます。
- ◆ グループ内のサーバを選択するには、eDirectory コンテナ、Windows ワークグループ、または Microsoft ドメインを選択し、[Add All Servers] ボタンをクリックします。
- ◆ ツリー内のすべての NetWare サーバを選択するには、ツリーを選択し、[Add All Servers] ボタンをクリックします。

重要: [Add All Servers] を選択すると、[Selected Servers] リストボックスに、アップグレードできないサーバ（ZENworks 6.5 がインストールされていないサーバなど）が表示されます。[OK] をクリックして続行すると、これらのサーバは [Server Selection] ページから除外されます。ただし、表示から除外される各サーバに対してその旨を示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックして続行します。ZENworks 6.5 がインストールされていないサーバを [Selected Servers] リストボックスで確認できる場合は、[OK] をクリックして [Server Selection] ページに移る前に、リストからそのサーバを削除すると処理を短縮できます。

[Add Servers] ダイアログボックスの使用方法の詳細については、[Help] ボタンをクリックしてください。

SP1 にアップグレードするすべての NetWare サーバと Windows サーバを選択していることを確認した後、[Add Servers] ダイアログボックスを閉じます。

選択したサーバは、[Server Selection] ページの [Local Machine] オプションの下に表示されます。



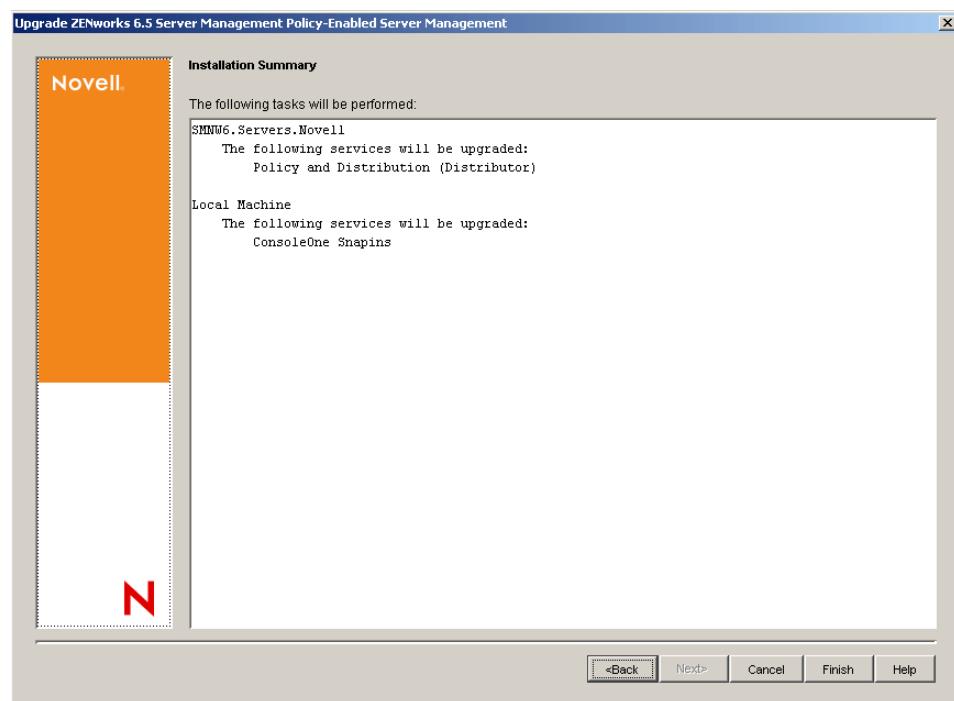
すでにインストールされていて SP1 にアップグレード可能な ZENworks 6.5 Server Management コンポーネントについては、チェックボックスにチェックマークが表示されます。プラス記号をクリックすると、ツリー構造が展開されてコンポーネントが表示されます。

3 仮想サーバのクラスタオブジェクトと各ノードの NCP サーバオブジェクトの両方に SP1 をインストールすることはできません。したがって、両方を選択した場合はいずれか一方を削除し、クラスタ内の 2 つの異なる場所から実行された zfs.ncf が引き起こすエラーを未然に防止する必要があります。

詳細については、154 ページの「アップグレードに関するクラスタ問題」を参照してください。

4 [Next] をクリックし、161 ページの「SP1 アップグレードの概要を確認する」に進みます。

SP1 アップグレードの概要を確認する



1 [Installation Summary] ページで、希望どおりの操作がウィザードによって実行されることを確認します。

[戻る (Back)] をクリックすると、情報を変更できます。

2 [Finish] をクリックして SP1 アップグレード処理を開始します。

3 SP1 ウィザードが終了したら、インストールログファイルを調べて、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。

このログファイルは、インストールコンピュータ上の、Windows の環境設定で指定された一時ディレクトリにあります。例：

Policy and Distribution Services:

%temp%_resnnn.txt

nnn は、新しいログが作成されるたびに順に大きくなります。

Server Inventory:

`%temp%\invrc.log`

- 4 ソフトウェアが正常に SP1 にアップグレードされたら、[Exit] をクリックして ウィザードを終了します。

この段階でソフトウェアは SP1 にアップグレードされています。アップグレードが 実行される前に Server Management サービスが実行されていた場合は、これらの サービスが再起動されます。

アップグレードが実行される前に Server Management サービスが実行されていな かった場合は、これらのサービスを手動で再起動する必要があります。その方法に ついては、次の節で説明します。

- 5 162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」に進みます。

Novell iManager プラグインのアップグレード

この節は、Policy and Distribution Services だけに適用されます。

Novell iManager 2.0.2 または 2.5 がネットワークにインストールされており、 iManager プラグインを ZENworks 6.5 にアップグレードするか、プラグインの初めての インストールを行う場合は、次の手順を実行します。

- 1 `winsetup.exe` を実行します。

`winsetup.exe` は次の場所にあります。

`download_location\zen65sp1\winsetup.exe`

ただし、`download_location` は、ダウンロードファイルの解凍場所によって異なり ます。デフォルトは `c:\temp` です。

これにより、SP1 アップグレードメニュー オプションを含む ウィザードが起動され ます。

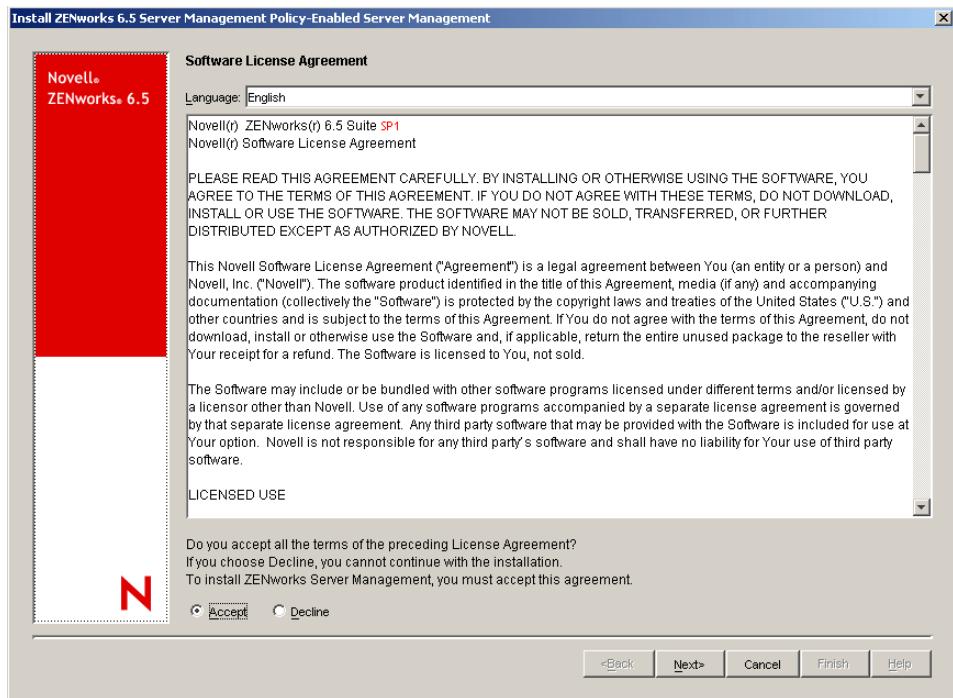
winsetup.exe ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。



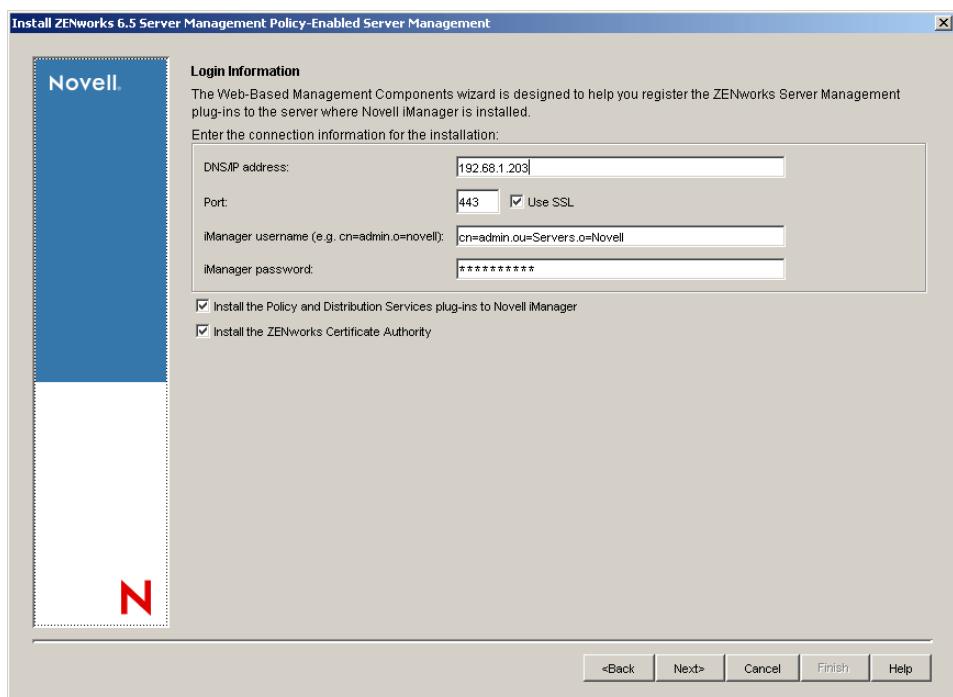
2 メインメニューで、[Server Management] オプションを選択します。



3 [Web-Based Management Components] を選択してウィザードを起動し、[License Agreement] ページを表示します。



4 [Accept] をクリックして使用許諾契約に同意し、[Next] をクリックして [Login Information] ページを表示します。



5 次のフィールドに情報を入力します。

[DNS/IP Address] : iManager がインストールされているサーバのアドレスを指定します。

[Port] : iManager と通信するときに使用するポート番号を指定します。SSL を使用する場合は、通常 443 です。SSL を使用しない場合は、8080 を使用します。

[Use SSL] : デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっていません。SSL を使用するように iManager を設定している場合は、このチェックボックスをオフにする必要があります。

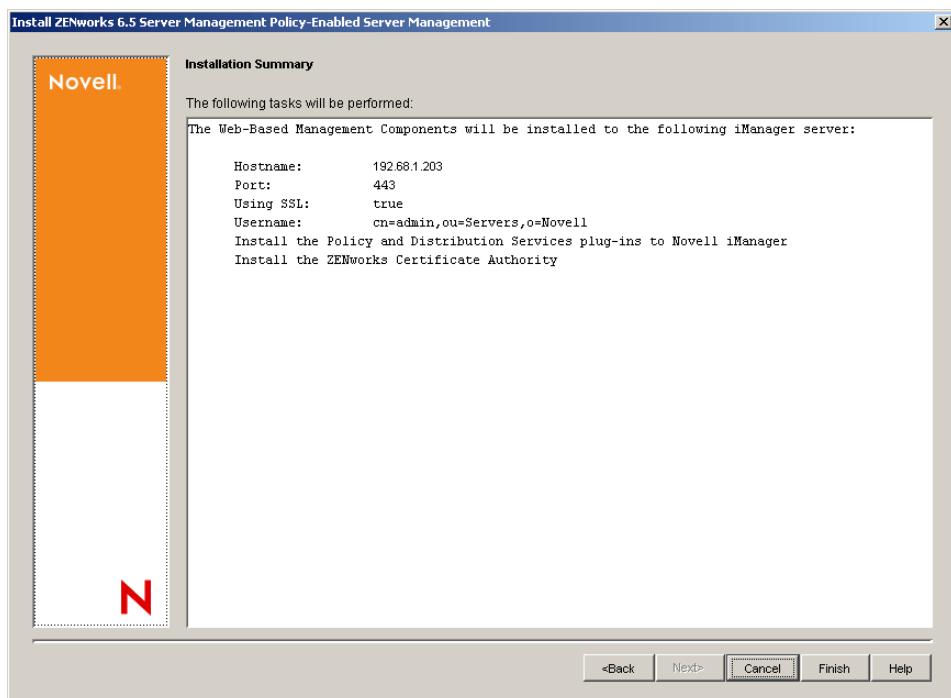
[iManager Username] : iManager に対する権利を持つユーザの iManager (完全識別) ログイン名を指定します。このユーザ名は指定された形式 (cn=admin, o=novell など) で入力する必要があります。このユーザ名で認証を得ることができない場合、インストールを続行できません。

[iManager Password] : ウィザードを実行するユーザの iManager パスワードを指定します。

[Install the Policy and Distribution Services Plug-Ins to Novell iManager] : Remote Web Console および Tiered Electronic Distribution プラグインを iManager にインストールし、これらのコンポーネントを Web ブラウザから管理できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

[Install the ZENworks Certificate Authority] : サーバ間通信のセキュリティのために ZENworks 認証局サーブレットをインストールするには、このチェックボックスをオフにします。これによって、セキュリティで保護されたネットワークの外部から受信したデータが信頼されるソースから送信されたものであり、途中で改竄されておらず、受信したデータは他のコンピュータでも信頼できることが保証されます。これは、署名付きのセキュリティ証明書とデジタル署名を使用することによって実現されます。

6 [Next] をクリックして [Summary] ページを表示します。



このインストールの概要は、選択した Web コンポーネントが Tomcat インストールディレクトリにインストールされることを示しています。

7 [終了 (Finish)] をクリックします。

8 インストールが完了したら、[Yes] をクリックしてインストールログファイルを表示します。

ログファイルにエラーが記録されている場合は、参考のために印刷できます。エラーメッセージの検索については、[365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」](#)を参照してください。エラーを解決して、インストールの手順を繰り返します。

iManager での ZENworks Server Management の役割も設定する必要があります。この役割の情報は eDirectory に格納されるからです。

9 iManager プラグインを正しくアップグレードした後、ログファイルを閉じます。

10 iManager 2.5 にプラグインをインストールした場合は、次の手順を実行します。

10a iManager 2.5 にログインします。

10b インストールまたはアップグレードのプロンプトが表示されたら、新しいプラグインか更新されたプラグインをインストールします。

11 iManager で新しいプラグインを認識するには、Tomcat を停止し、Tomcat を再開します。

- ◆ **NetWare**

停止 : tc4stop.ncf

開始 : tomcat4.ncf

- ◆ **Windows:**

[サービス] ウィンドウで、Tomcat サービスを開始または停止します。

- ◆ **Linux**

再開 : /etc/init.d/tomcat4 restart

または

停止 : /etc/init.d/tomcat4 stop

開始 : /etc/init.d/tomcat4 start

12 [166 ページの「サービスの起動」](#)に進みます。

サービスの起動

SP1 のアップグレード処理でサービスの停止および再起動が自動的に行われなかった場合、またはサーバをアップグレードしたときにサービスが実行されていなかったけれども今回はサービスを実行したい場合は、サービスを起動します。

重要: インベントリサーバをアップグレードした場合は、SP1 のアップグレード後に Inventory Service を手動で開始する必要があります。

◆ [166 ページの「NetWare サーバの場合」](#)

◆ [167 ページの「Windows サーバの場合」](#)

NetWare サーバの場合

Policy and Distribution Services の場合 :

1 サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

zfs

これにより、データベースを含め、すべての Policy and Distribution Services サービスが起動されます。

Server Inventory の場合：

1 サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

startinv

Remote Management の場合：

1 次のいずれかの方法で、RConsoleJ Agent を実行します。

- ◆ ConsoleOne で、リモートコントロールする NetWare サーバオブジェクトを右クリックして [Remote Management] をクリックするか、NetWare サーバオブジェクトをクリックして [Tools] オプションから [ZENworks Remote Management] > [Remote Console] > [NetWare] の順にクリックします。
- ◆ サーバコンソールプロンプトから、「**rconj.ncf**」と入力します。
- ◆ サーバの GUI から、[Novell] > [Programs] > [RConsoleJ] の順にクリックします。

167 ページの「Windows サーバの場合」または 168 ページの「サービスが正常に実行されているかどうかの確認」に進みます。

Windows サーバの場合

Policy and Distribution Services の場合：

1 [コントロール パネル] を開きます。

2 [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

3 Novell ZENworks Service Manager サービスを開始します。

これにより、データベースを含め、すべての Policy and Distribution Services サービスが起動されます。

Inventory Service の場合：

1 [コントロール パネル] を開きます。

2 [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

3 [Novell Inventory Service] を選択し、[開始] をクリックします。

インベントリデータベースの場合：

1 [コントロール パネル] を開きます。[管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

2 [Novell Database - Sybase] を選択し、[停止] をクリックします。

3 [Novell Database - Sybase] を選択し、[開始] をクリックします。

Windows 2000/2003 の管理対象サーバ上で Remote Management の Remote Management Agent を再起動するには：

1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。

2 [Services] をダブルクリックします。

3 [Novell ZENworks Remote Management] をクリックし、[開始] をクリックします。

168 ページの「サービスが正常に実行されているかどうかの確認」に進みます。

サービスが正常に実行されているかどうかの確認

- ◆ 168 ページの「NetWare サーバの場合」
- ◆ 168 ページの「Windows サーバの場合」

NetWare サーバの場合

- 1 各サーバのコンソールで、<Ctrl>+<Esc> を押してサービスを確認します。

Sybase データベース

ZENworks (Policy and Distribution Services がインストールされている場合)

ZENworks Inventory Service

ZENworks Web Server (Inventory Server または Inventory Proxy Service だけがインストールされている場合)

- 2 いずれかのサービスが見つからない場合は、そのコンポーネントが正常に起動されていません。

サービスを起動する方法については、166 ページの「NetWare サーバの場合」を参照してください。

- 3 サービスが正常に起動されていることを確認したら、168 ページの「Windows サーバの場合」または 168 ページの「サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認」に進みます。

Windows サーバの場合

- 1 それぞれの Windows サーバで [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、次のサービスが実行しているかどうかを確認します。

Novell Inventory Service

Novell Database - Sybase

Novell ZENworks Service Manager

- 2 いずれかのサービスが実行されていない場合は、そのコンポーネントが正常に起動されていません。

サービスを起動する方法については、167 ページの「Windows サーバの場合」を参照してください。

- 3 サービスが正常に起動されていることを確認したら、168 ページの「サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認」に進みます。

サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認

- ◆ 168 ページの「iManager の使用」
- ◆ 169 ページの「NetWare サーバの場合」
- ◆ 169 ページの「Windows サーバの場合」

iManager の使用

- 1 iManager にログインします。

- 2 ZENworks Server Management の役割で、[Remote Web Console] を選択します。

- 3 サーバ (NetWare または Windows) を特定して [OK] をクリックします。

IP アドレスと DNS 名のいずれかを入力するか、サーバの ZENworks オブジェクトを参照して選択します。

- 4 [Display] フィールドのドロップダウンリストから [Policy/Package Agent] を選択します。
- 5 [Configuration] タブで、バージョン情報を確認します。
「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」が表示されます。
- 6 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。

NetWare サーバの場合

- 1 NetWare サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zfsversion
```

- 2 現在の Server Management のバージョン情報を表示します。

SP1 が正常に適用されている場合は、次のように表示されるはずです。

```
ZENworks Server Management - Support Pack 1
```

- 3 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。

- 4 バージョンが正しいことを確認したら、169 ページの「Windows サーバの場合」または 169 ページの「アップグレードの再実行」に進みます。

zfsversion コマンドを実行すると、ZENworks .jar ファイルとその日付の一覧が次のファイルに書き込まれます。

```
volume:\zenworkszfsversion.log
```

Windows サーバの場合

- 1 Windows サーバ上で、\$zenworks\$zfsversion.bat を実行します。

zfsversion.log ファイルが \$zenworks ディレクトリに作成されます。

- 2 ログファイルを開き、現在の Server Management のバージョン情報を確認します。

- 3 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。

- 4 バージョンが正しいことを確認したら、169 ページの「アップグレードの再実行」に進みます。

アップグレードの再実行

次の場合は、GUI ウィザードを再び実行する必要があります。

- ◆ 段階的なアップグレードを行っている場合は、157 ページの「SP1 へのアップグレード」で始まるアップグレード手順を繰り返します。
SP1 にアップグレード済みの ZENworks 6.5 サーバは SP1 にアップグレードされていない ZENworks 6.5 サーバといっしょに動作するので、この操作は後で行ってもかまいません。つまり、ZENworks 6.5 Distributor はその Distribution を ZENworks 6.5 SP1 Subscriber に送信できます。
- ◆ ConsoleOne への Server Management スナップインがインストールされているワークステーションがほかにあれば、157 ページの「SP1 へのアップグレード」から始まるアップグレード手順をそれぞれのコンピュータ上で繰り返して SP1 にアップグレードすることができます。サーバを選択する必要はありません。ワークステーション上でこの ConsoleOne アップグレードはいつでも実行できます。

- ◆ Linux または Solaris のサーバを SP1 にアップグレードする場合は、170 ページの「Linux および Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のアップグレード」に進みます。それ以外の場合は、Policy-Enabled Server Management の SP1 へのアップグレードが完了しています。

アップグレード後の作業

ZENworks 6.5 インベントリサーバが ZENworks ソフトウェアディクショナリのアップデートを ZENworks 6.5 SP1 インベントリサーバから受け取った場合は、ZENworks 6.5 インベントリサーバ上で次の作業を行う必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 *Inventory_server_installation_path*\zenworks\inv\server\wminv\lib ディレクトリにある desktopcommonutility.jar のバックアップを作成します。
- 3 ZENworks 6.5 Companion CD の \companion2\zen65patch\inv\server\wminv\lib に含まれている desktopcommonutility.jar を *Inventory_server_installation_path*\zenworks\inv\server\wminv\lib ディレクトリにコピーします。
- 4 Inventory Service を起動します。

Linux および Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のアップグレード

Linux および Solaris サーバのスクリプトにより、ZENworks 6.5 ソフトウェアの存在が検出され、アップグレードするか、インストールするかを確認するメッセージが表示されます。アップグレードオプションの使用を推奨します。このオプションの手順については次で説明します。

スクリプトファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme を参照してください。

アップグレードするには、次の節を参照してください。

- ◆ 170 ページの「アップグレードスクリプトの実行」
- ◆ 171 ページの「サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認」

アップグレードスクリプトの実行

それぞれの Linux および Solaris サーバ上で次の作業を実行して、ZENworks 6.5 Server Management を SP1 にアップグレードします。

- 1 ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme で SP1 へのアップグレードに関する最新情報を確認します。
- 2 root としてログインします。
- 3 Linux または Solaris サーバで X ウィンドウを実行している場合、XTerm ウィンドウを開きます。

4 Policy and Distribution Services のスクリプトを実行するには、XTerm ウィンドウに次のいずれかのコマンドを入力します。

Red Hat Linux: /mnt/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-upgrade

SUSE LINUX: /media/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-upgrade

platform は Linux または Solaris のいずれかです。

5 <Enter> キーを押して使用許諾契約を表示し、<Spacebar> キーを押して使用許諾契約をスクロールします。次に「**y**」と入力して <Enter> キーを押し、使用許諾契約に同意します。

Linux のインストールの場合、サーバのアップグレード中、次のメッセージが表示されます（該当する場合はエラーも含む）。

```
Installing the novell-zen-zfs RPM...
Preparing...#####
1:novell-zen-zfs ##### [100%]
```

エラーメッセージはこの時点で表示されます。エラーメッセージが表示された後、次のメッセージを表示することによりアップグレードは終了します。

```
ZENworks Server Management Policy and Distribution Services has been
restarted.
You may check its status by running:
/etc/init.d/novell-zfs status
You can reconfigure this service by running:
/opt/novell/bin/zfs-pds-configure
```

6 Policy and Distribution Services が実行されていることを確認するには、次のように入力します。

/etc/init.d/novell-zfs status

Linux または Solaris サーバで、Policy and Distribution Services が使用できるようになります。

7 アップグレードする各 ZENworks 6.5 Server Management サーバに対して **ステップ 2** から **ステップ 6** までを繰り返します。

8 171 ページの「サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認」に進みます。

サーバが SP1 に更新されているかどうかの確認

- ◆ 171 ページの「iManager の使用」
- ◆ 172 ページの「Linux サーバの場合」
- ◆ 172 ページの「Solaris サーバの場合」

iManager の使用

1 iManager にログインします。

2 ZENworks Server Management の役割で、[Remote Web Console] を選択します。

3 Linux または Solaris のサーバを特定して [OK] をクリックします。

IP アドレスと DNS 名のいずれかを入力するか、サーバの ZENworks オブジェクトを参照して選択します。

4 [Display] フィールドのドロップダウンリストから [Policy/Package Agent] を選択します。

5 [Configuration] タブで、バージョン情報を確認します。

「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」が表示されます。

6 この手順をアップグレード対象の各 Linux または Solaris のサーバごとに繰り返します。

Linux サーバの場合

1 Linux サーバのコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
rpm -q novell-zen-zfs
```

または

```
rpm -qa / grp novell-zen
```

2 SP1 が正常に適用されている場合は、次のように表示されるはずです。

```
novell-zen-zfs-6.5-1  
novell-zen-zws-6.5-1
```

3 この手順をアップグレード対象の Linux サーバごとに繰り返します。

4 必要な場合は、172 ページの「Solaris サーバの場合」に進みます。

Solaris サーバの場合

1 Solaris サーバのコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
pgkinfo -L novellzfs
```

2 SP1 が正常に適用されている場合は、次のように表示されるはずです。

```
novell-zen-zfs-6.5-1  
novell-zen-zws-6.5-1
```

3 この手順をアップグレード対象の Solaris サーバごとに繰り返します。

NetWare サーバ上での Management and Monitoring Services のアップグレード

Management and Monitoring Services を SP1 にアップグレードするには、次の作業を行います。

- 172 ページの「アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト」
- 173 ページの「SP1 へのアップグレード」
- 175 ページの「ConsoleOne スナップインのアップグレード」

アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト

ZENworks 6.5 Server Management の Management and Monitoring Services コンポーネントのアップグレードを準備するには

- ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme で SP1 へのアップグレードに関する最新情報を確認します。
- 25 ページの「準備」に示されているインストールの要件をすべて満たしていることを確認します。

- ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services Site Server がインストールされていることを確認します。
- Server Management Agent™ (NMA) をアップグレードするには、ZENworks for Servers 6.5 に付属する NMA 6.0.3 がインストールされていることを確認します。
- アップグレードするすべてのNetWare サーバを含むeDirectory ツリーへの認証を取得します。
- サーバコンソールのプロンプトで、「**stopmms**」と入力して、Management and Monitoring Services を停止します。サービスが停止されるまでに時間がかかる場合があります。

”java -show” コマンドを使用して、次の Java サービスが存在していないことを確認します。

```
com.novell.zfs.mms.utility.servicemanager.zfs_mms_LanzSlpDis
com.novell.zfs.mms.utility.servicemanager.zfs_mms_Services
```

SP1 へのアップグレード

- 1 winsetup.exe を実行します。

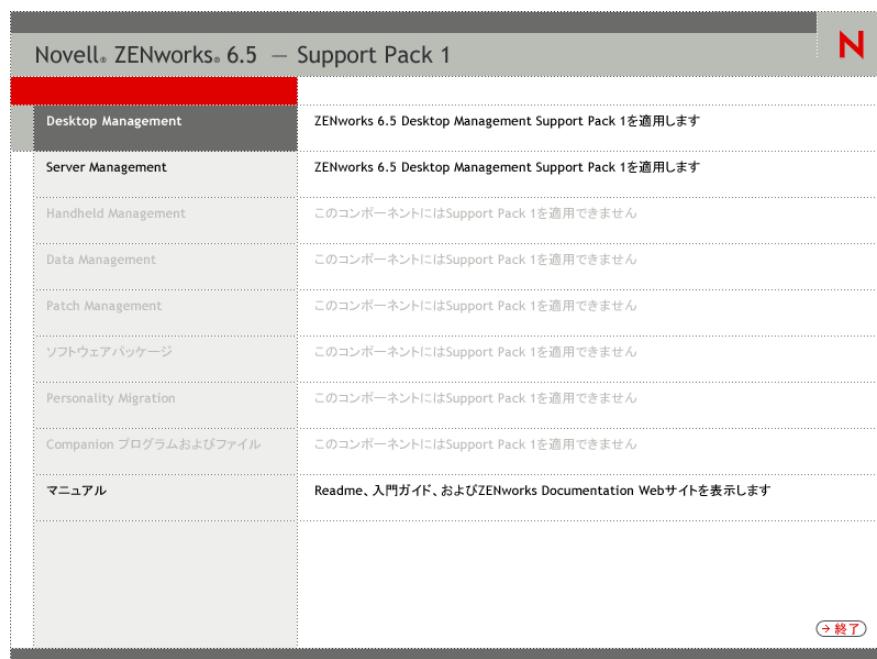
winsetup.exe は次の場所にあります。

```
download_location\zen65sp1\winsetup.exe
```

ただし、*download_location* は、ダウンロードファイルの解凍場所によって異なります。デフォルトは c:\temp です。

これにより、SP1 アップグレードメニュー オプションを含む ウィザードが起動されます。

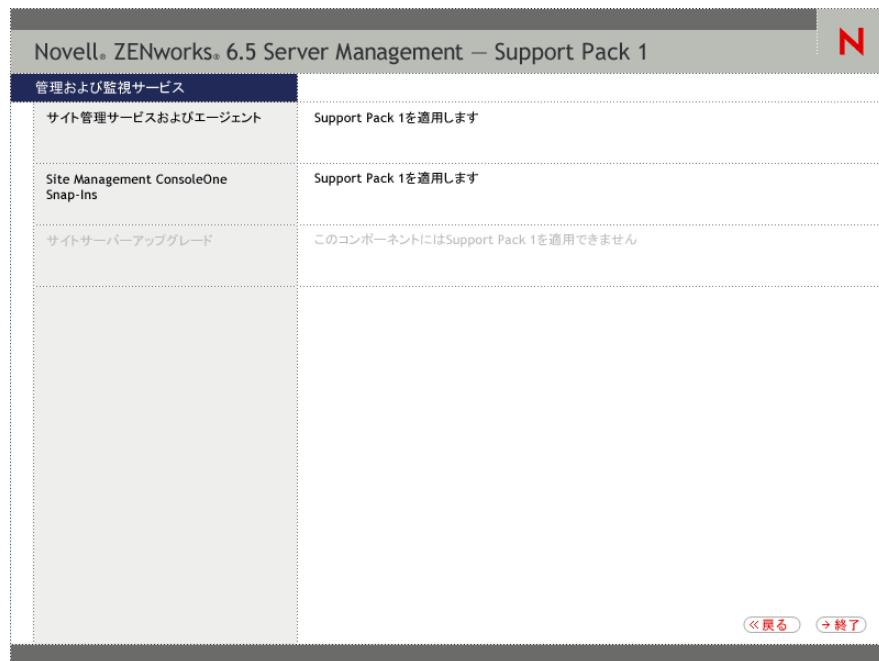
winsetup.exe ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。



2 メインメニューで、[Server Management] オプションを選択します。



3 [Management and Monitoring Services] オプションを選択します。



4 [Site Management Services and Agents] オプションを選択します。

Management and Monitoring Services Upgrade Installation Wizard が起動します。

5 [Next] をクリックして続行します。

6 [Software License Agreement] に目を通して同意した後、[Yes] をクリックしてインストールを続行します。

7 次の表に記載されている中から、適切な ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 コンポーネントを選択します。

サーバコンポーネント	アップグレード対象
Management Site Servers	管理サーバ
Server Management Agent	アップグレードするすべての NetWare サーバ

8 [Next] をクリックします。

9 Management Site Servers のアップグレードを選択した場合、次の手順を完了する必要があります。選択しなかった場合、[ステップ 10](#) に進みます。

9a 管理サイトサーバである NetWare サーバのボリューム名を参照して選択し、[Next] をクリックします。

9b 自動検出プロセスを開始するには、[Start the Auto-Discovery Process] を選択します。

9c バックエンドサービスを開始するには、[Start the Backend Services on the Server] を選択します。

9d ConsoleOne スナップインをコピーするには、[Copy ConsoleOne Snap-ins to the Management Site Server] を選択します。

10 サイトサーバのみのアップグレードを選択した場合は、[ステップ 12](#) に進みます。

11 Server Management Agent のアップグレードを選択した場合は、NetWare サーバおよび各サーバ上でアップグレードするエージェントを選択し、[Next] をクリックします。

12 前の手順で選択した項目のサマリリストを確認します。

設定を変更するには、[Back] をクリックします。

13 [Finish] をクリックして、ZENworks 6.5 Server Management を SP1 にアップグレードします。

14 アップグレード時に、すべてのバックエンドサービスおよび自動検出プロセスを開始しないことを選択した場合、この時点でこれらのバックエンドサービスおよび自動検出プロセスを手動で開始する必要があります。

NetWare 管理対象サーバの場合、ZENworks のエージェントは自動的に開始されます。

15 [175 ページの「ConsoleOne スナップインのアップグレード」](#)に進みます。

ConsoleOne スナップインのアップグレード

管理サーバ上のデータにアクセスするために複数の管理コンソールをインストールできます。Windows 2000/XP ワークステーションに管理コンソールをインストールするには、そのワークステーションに対して管理者の権利が必要です。

ZENworks Server Management ConsoleOne ソフトウェアをアップグレードするには

1 リモートサーバをアップグレードする場合は、管理者または管理者相当の権利を持つユーザとしてログインする必要があります。

2 `winsetup.exe` を実行します。

`winsetup.exe` は次の場所にあります。

`download_location\zen65sp1\winsetup.exe`

ただし、`download_location` は、ダウンロードファイルの解凍場所によって異なります。デフォルトは `c:\temp` です。

これにより、SP1 アップグレードメニュー オプションを含む ウィザードが起動されます。

`winsetup.exe` ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。

3 メインメニューで、[Server Management] オプションを選択します。

4 [Management and Monitoring Services]、[Site Management ConsoleOne Snap-ins] の順に選択します。

5 スナップインのインストール先フォルダを指定するか、[Next] をクリックしてデフォルトのインストール先フォルダを受け入れます。

スナップインのファイルがインストールされます。

6 Readme ファイルを表示することを選択し、[Finish] をクリックします。

Server Software Package を使用した SP1 へのアップグレード

ZENworks 6.5 Subscriber ソフトウェアがインストールされているすべてのサポート対象プラットフォーム (NetWare、Windows、Linux、および Solaris) の Subscriber サーバを、この方法を実行して自動的にアップグレードすることができます。

Server Inventory の場合、この方法では NetWare および Windows サーバ上の Inventory Agent のみがアップグレードされます。Server Software Package を使用して Management and Monitoring Services をアップグレードすることはできません。

- ◆ 176 ページの「アップグレードの概念と問題点」
- ◆ 178 ページの「アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト」
- ◆ 178 ページの「Server Software Package を使用した Policy and Distribution Services のアップグレード」
- ◆ 183 ページの「Server Software Package を使用した Server Inventory のアップグレード」
- ◆ 185 ページの「Server Software Package による Remote Management のアップグレード」

アップグレードの概念と問題点

Server Software Package を使用して ZENworks 6.5 Policy-Enabled Server Management を SP1 にアップグレードする場合は、Software Package Distribution を作成するための、SP1 ダウンロードに含まれる `zsm65sp1_polydist.cpk` アップグレードファイルを使用します。次に、これを SP1 にアップグレードするすべての Subscriber サーバに送信します。

次の項目を確認することにより、アップグレードの実行内容を把握し、関連する問題点を認識します。

- ◆ 177 ページの「Upgrade Server Software Package が実行する項目」
- ◆ 177 ページの「Upgrade Server Software Package が実行しない項目」
- ◆ 178 ページの「複数ツリーのサーバのアップグレード」
- ◆ 178 ページの「段階的なアップグレード」

Upgrade Server Software Package が実行する項目

- ◆ ZENworks 6.5 がインストールされているインストールパスを使用して、ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアを SP1 にアップグレードします。
- ◆ すべてのサポート対象プラットフォーム (NetWare、Windows、Linux、および Solaris) で、サービスを自動的に停止および再起動します。

重要: アップグレード .cpk ファイルを含む Software Package Distribution を Subscriber が受け取って抽出するためには、ZENworks Server Management サービスが実行されている必要があります。Subscriber 上のサービスは、アップグレード時に停止されます。

- ◆ 既存のファイルがアップグレードファイルよりも新しいかまたは古いかに関係なく、常に ZENworks ディレクトリにファイルをコピーします。ただし、ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。
- ◆ ConsoleOne への ZENworks 6.5 スナップインがインストールされている Subscriber サーバ上の ConsoleOne スナップインをアップグレードします。

Upgrade Server Software Package が実行しない項目

- ◆ ZENworks Server Management サービスが実行されていない場合、Software Package Distribution は Subscriber サーバに配布されません。
- ◆ ソフトウェアパッケージは、ソフトウェアがインストールされていなかった ZENworks 6.5 Server Management サーバには新しいソフトウェアをインストールしません。既存のソフトウェアのみが SP1 にアップグレードされます。
- ◆ ソフトウェアパッケージは、ZENworks for Servers 3.x サーバを ZENworks 6.5 にアップグレードしません。
- ◆ ZENworks eDirectory オブジェクトはアップグレードされません。SP1 にはソフトウェアアップデートのみが含まれています。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の ConsoleOne スナップインが、アップグレード中にローカルコンピュータにインストールされることはありません。この操作はウィザードを使用して行う必要があります。この操作については、155 ページの「NetWare および Windows サーバでの Policy-Enabled Server Management のアップグレード」で説明します。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の iManager 用プラグインが、アップグレード中にインストールされることはありません。この操作は、サーバパッケージを使用したアップグレードが完了した後にウィザードのメニューオプションを使用して行う必要があります。この操作については、162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」で説明します。

複数ツリーのサーバのアップグレード

Software Package Distribution は、複数のツリーの Subscriber に送信することができます。したがって Software Package Distribution を使って、複数のツリーに存在する Subscriber サーバをアップグレードすることができます。

段階的なアップグレード

SP1 へのアップグレード方法には、すべての ZENworks 6.5 サーバを .cpk ファイルの 1 つの配布でアップグレードする以外に、Subscriber グループごとに異なる Channel を設定する一方で同じ Distribution を使用することで段階的（たとえば地域別に）にアップグレードする方法があります。

アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト

次の作業を行って、SP1 へのアップグレードの対象となる ZENworks 6.5 サーバの準備が完了していることを確認します。

- ZENworks 6.5 の Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html>) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme で SP1 へのアップグレードに関する最新情報を確認します。
- SP1 にアップグレードするサーバ上に ZENworks 6.5 Server Management がインストールされていることを確認します。
- 25 ページの「準備」に示されているインストールの要件をすべて満たしていることを確認します。
- サーバをアップグレードするための zsm65sp1_polydist.cpk ファイルを含む Software Package Distribution を受け取って抽出するためには、ZENworks サービスが Subscriber サーバ上で実行されている必要があります。これらのサービスはアップグレード時に停止され、アップグレードが完了した後に自動的に再起動されます。

Server Software Package を使用した Policy and Distribution Services のアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management の Tiered Electronic Distribution コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy/Package Agent ソフトウェアを実行しているすべての Subscriber サーバにソフトウェアパッケージを自動的に配布してインストールすることができます。

Server Software Package を使用して SP1 にアップグレードするためには、次の操作を順に実行します。

1. 179 ページの「Server Software Package の作成および送信」
2. 180 ページの「ソフトウェアパッケージが正常にインストールされたかどうかの確認」
3. 181 ページの「サービスが開始しているかどうかの確認」
4. 182 ページの「スナップインおよびプラグインのインストール」
5. 182 ページの「サーバが SP1 にアップグレードされているかどうかの確認」
6. 183 ページの「サーバグループに対する繰り返し処理」

Server Software Package の作成および送信

- 1 ZENworks 6.5 Distributor サーバを選択し、zsm65sp1_polydist.cpk を Distributor のファイルシステムにコピーします。
.cpk ファイルは次の場所に存在します。

```
download_location\zenworks65_sp1\zenworks server management - software pkgs\pds
```

.cpk ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。
- 2 Server Package Distribution を作成するときのために、zsm65sp1_polydist.cpk をコピーした Distributor サーバの場所をメモします。
- 3 ソフトウェアパッケージでアップグレードする Subscriber サーバを特定します。
準備段階でリストを作成している場合は、**ステップ 4** に進みます。
Distributor サーバは、Subscriber がアップグレードされるときに SP1 にアップグレードされます。
- 4 各 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。
Subscriber の抽出スケジュールを設定する場合には注意が必要です。
スケジュールが [Run Immediate] に設定されており、Subscriber が Distributor と同じサーバで実行しているか、Subscriber が親であり、その下位の Subscriber に対して Distribution を転送している場合、アップデートプロセスに Java のアンロードが含まれるため、Distribution を Subscriber に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアンロードされると、Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが実行されるまで一時的に停止します。
Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。
- 5 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成します。
1 つの Distribution オブジェクトにつき、1 つのソフトウェアパッケージだけを設定できます。ソフトウェアを使って、単一の Distribution オブジェクト内で複数のソフトウェアパッケージを選択することができますが、この操作は、zsm65sp1_polydist.cpk の配布時には許可されていません。ソフトウェアパッケージをインストールすると Java のアンロードと再ロードが実行され、これにより、残りのソフトウェアパッケージを単一の Distribution オブジェクトから正常に処理することができなくなる可能性があるためです。
Distribution の構築スケジュールを必ず設定します。
重要：まず、zsm65sp1_polydist.cpk を含んだ Distribution を構築、送信、抽出、およびインストールする必要があります。その後で、他の Server Management コンポーネントをアップグレードするために、別のソフトウェアパッケージを含むこれ以外の Distribution を送信します。

Distribution の作成に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Policy and Distribution Services」を参照してください。

6 この Distribution の Channel をセットアップするには、次の手順を実行します。

6a このソフトウェアパッケージアップグレード専用の Channel を作成します。

6b Channel の送信スケジュールを [Immediate] に設定します。

アップグレードを即座に送信しない場合は、送信スケジュールを [Never] に設定しておき、送信の準備が整った段階で [Immediate] に設定します。

6c Distribution をこの Channel に関連付けて、Distribution が Channel の送信スケジュールに基づいて送信されるようにします。

7 **ステップ 3** で識別した Subscriber を Channel に関連付けます。

8 Distribution を送信します。

たとえば、Distribution を送信して抽出できるよう Distribution を構築するには、Distributor を更新します。手動で Distributor を更新する場合、Distributor の更新スケジュールを設定したり、変更したりする必要はありません。

Distributor を手動で更新するには、ConsoleOne で Distributor オブジェクトを右クリックして、[Refresh Distributor] を選択します。

Distribution の送信に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Policy and Distribution Services」を参照してください。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。この時点で、Subscriber サーバを ZENworks 6.5 SP1 にアップグレードする必要があります。

9 アップグレードソフトウェアパッケージを送信するための Channel を [Inactive] に設定して、この SP1 アップグレードがこれらの Subscriber に再送信されないようにします。

10 [179 ページの「Server Software Package の作成および送信」](#)に進みます。

ソフトウェアパッケージが正常にインストールされたかどうかの確認

1 次に示すいずれかの方法を使って、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。

- ◆ **iManager:** iManager の [Tiered Electronic Distribution] ビューを使用して、インストール済みの全ソフトウェアパッケージの情報を表示します。
- ◆ **レポート:** インストールに Tiered Electronic Distribution を使用する場合、Server Management のレポート機能を使用して、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントのインストールが成功したか、失敗したかを確認します。
- ◆ **ログファイル:** Subscriber サーバに含まれるログファイルを使用して、インストールの成功または失敗を確認します。

ファイルコピーに関連するメッセージ：

NetWare および *volume_or_drive*\temp\zsm651_polydist.cpk\copylog.txt
Windows

一般的なログファイルメッセージ：

NetWare	volume_or_drive\temp\zsm651_polydist.cpk\ntware\upgrade.log
Windows:	volume_or_drive\temp\zsm651_polydist.cpk\upgrade.log

- ◆ **Linux:** 次のコマンドを入力します。

rpm -q novell-zen-zfs

次のように表示されます。

novell-zen-zfs-6.5-1

- ◆ **Solaris:** 次のコマンドを入力します。

pgkinfo -l novlzf

次のように表示されます。

VERSION: 6.5-1

各ソフトウェアパッケージが複数のコンポーネントで構成される場合があります。このとき、一部のコンポーネントのインストールが成功し、残りのコンポーネントのインストールが失敗に終わる可能性があります。たとえば、Distribution を受け取るサーバの 1 つに対してサーバプラットフォームが存在する一方で、そのプラットフォームがソフトウェアパッケージの要件に含まれていない場合があります。したがって、インストールに含まれるソフトウェアパッケージが成功した場合、それは 1 つ以上のコンポーネントが正常にインストールされたことを示します。

いくつかのコンポーネントのインストールに失敗することもありますが、その場合でもソフトウェアパッケージのインストールは依然として成功したように見える可能性があります。そのため、特定のサーバで必要とされるコンポーネントが正常にインストールされているかどうかを検証するため、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントについて、インストールが成功したか、失敗したかを確認することをお勧めします。

2 181 ページの「サービスが開始しているかどうかの確認」に進みます。

サービスが開始しているかどうかの確認

1 NetWare サーバ上で Policy and Distribution Services が実行されていることを確認します。

1a 各ターゲットサーバのコンソールで、<Ctrl>+<Esc> を押してサービスを確認します。

1b 次のサービスがリストに表示されるかどうかを確認します。

Sybase データベース

ZENworks (Policy and Distribution Services がインストールされている場合のみ)

ZENworks Inventory Service

ZENworks Web Server (Inventory Server または Inventory Proxy Service がインストールされている場合のみ)

1c いずれかのサービスが見つからない場合は、そのコンポーネントが正常に起動されていません。

サービスを起動する方法については、166 ページの「NetWare サーバの場合」を参照してください。

1d サービスが正常に起動されていることを確認したら、[ステップ 2](#) に進みます。

2 Windows サーバ上で Policy and Distribution Services が実行されていることを確認します。

2a それぞれの Windows サーバ上で、[コントロール パネル] を開き、[管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

2b 次のサービスが実行されているかどうかを確認します。

Novell Database - Sybase
Novell Inventory Service
Novell ZENworks Service Manager

2c いずれかのサービスが実行されていない場合は、そのコンポーネントが正常に起動されていません。

サービスを起動する方法については、167 ページの「Windows サーバの場合」を参照してください。

2d サービスが正常に起動されていることを確認したら、[ステップ 1](#) に進みます。

3 Policy and Distribution Services が Linux または Solaris サーバ上で実行されていることを確認するには、各サーバの XTerm ウィンドウで次のように入力します。

`/etc/init.d/novell-zfs status`

4 182 ページの「スナップインおよびプラグインのインストール」に進みます。

スナップインおよびプラグインのインストール

1 スナップインの SP1 へのアップグレードが必要な ConsoleOne のインスタンスが存在する場合は、155 ページの「NetWare および Windows サーバでの Policy-Enabled Server Management のアップグレード」の手順を実行してから、[ステップ 2](#) に進みます。

2 Novell iManager 2.0.2 または 2.5 がネットワーク内のサーバにインストールされており、iManager プラグインを SP1 にアップグレードする必要がある場合、162 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」の手順を実行します。

3 182 ページの「サーバが SP1 にアップグレードされているかどうかの確認」に進みます。

サーバが SP1 にアップグレードされているかどうかの確認

- ◆ 182 ページの「iManager の使用」
- ◆ 183 ページの「NetWare サーバの場合」
- ◆ 183 ページの「Windows サーバの場合」

iManager の使用

1 iManager にログインします。

2 ZENworks Server Management の役割で、[Remote Web Console] を選択します。

3 サーバ（サポートされた任意のプラットフォーム）を特定して [OK] をクリックします。

IP アドレスと DNS 名のいずれかを入力するか、サーバの ZENworks オブジェクトを参照して選択します。

4 [Display] フィールドのドロップダウンリストから [Policy/Package Agent] を選択します。

- 5 [Configuration] タブで、バージョン情報を確認します。
「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」が表示されます。
- 6 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。
- 7 バージョンが正しいことを確認したら、183 ページの「サーバグループに対する繰り返し処理」に進みます。

NetWare サーバの場合

- 1 NetWare サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zfsversion
```

- 2 現在の Server Management のバージョン情報を表示します。

SP1 が正常に適用されている場合は、次のように表示されるはずです。

```
ZENworks Server Management - Support Pack 1
```

- 3 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。

- 4 バージョンが正しいことを確認したら、183 ページの「Windows サーバの場合」または 183 ページの「サーバグループに対する繰り返し処理」に進みます。

zfsversion コマンドを実行すると、ZENworks .jar ファイルとその日付の一覧が次のファイルに書き込まれます。

```
volume:\zenworks\zfsversion.log
```

Windows サーバの場合

- 1 Windows サーバ上で、¥zenworks¥zfsversion.bat を実行します。

zfsversion.log ファイルが ¥zenworks ディレクトリに作成されます。

- 2 ログファイルを開き、現在の Server Management のバージョン情報を確認します。

- 3 この手順をアップグレード対象サーバごとに繰り返します。

- 4 バージョンが正しいことを確認したら、183 ページの「サーバグループに対する繰り返し処理」に進みます。

サーバグループに対する繰り返し処理

SP1 にアップグレードする段階的サーバグループのそれぞれに対し、179 ページの「Server Software Package の作成および送信」から 182 ページの「サーバが SP1 にアップグレードされているかどうかの確認」までの作業を繰り返します。

Server Software Package を使用した Server Inventory のアップグレード

Server Inventory の Inventory Agent コンポーネントのアップグレードは、サーバソフトウェアパッケージのみで行います。Inventory Agent の .cpk ファイルは自動的にインストールできます。

重要: 複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。また、サーバに対しインベントリサーバと Inventory Agent の Distribution が、同じ Channel で同時に送信されることのないようにしてください。最初に、インベントリサーバの Distribution を送信し、それが完了した後で、Inventory Agent の Distribution を送信する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアノロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

Distributor サーバと Subscriber サーバで Inventory Agent が実行されている場合は、最初に Distributor サーバ上で実行されている Inventory Agent をアップグレードし、次に Subscriber サーバ上で実行されている Inventory Agent をアップグレードします。

インベントリサーバの .cpk ファイルを自動的にインストールするには

- 1 ZENworks 6.5 Distributor サーバを選択し、zsm651_invagt.cpk を Distributor のファイルシステムにコピーします。

.cpk ファイルは次の場所に存在します。

```
download_location\zenworks65_sp1\zenworks server management - software pkgs\inrvm
```

.cpk ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。

- 2 Server Package Distribution を作成するときのために、zsm651_invagt.cpk をコピーした Distributor サーバの場所をメモします。

- 3 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。

スケジュールが [Run Immediate] に設定されている場合、アップデートプロセスに Java のアップロードが含まれるため、Subscriber を Distribution に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアップロードされると、Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが実行されるまで一時的に停止します。

Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアップロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

- 4 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成します。

1 つの Distribution オブジェクトにつき、1 つのソフトウェアパッケージだけを設定できます。ソフトウェアを使って、単一の Distribution オブジェクト内で複数のソフトウェアパッケージを選択することができますが、この操作は ZENworks 6.5 Server Management のソフトウェアパッケージを配布する場合には許可されていません。ソフトウェアパッケージをインストールすると Java のアップロードと再ロードが実行され、これにより、残りのソフトウェアパッケージを単一の Distribution オブジェクトから正常に処理することができなくなる可能性があるためです。

Distribution の構築スケジュールを必ず設定します。

まず、ZENworks 6.5 Server Management を含んだ Distribution を構築、送信、抽出、およびインストールする必要があります。その後で、ZENworks 6.5 Server Management の他のソフトウェアパッケージを含む Distribution を送信します。

Distribution の作成に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*

』の「Tiered Electronic Distribution」を参照してください。

- 5 Distribution を Channel に関連付けて、Distribution が Channel のスケジュールに基づいて送信されるようにします。

Channel の作成が必要になる場合があります。Channel の送信スケジュールを必ず設定します。

ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージは、インストールプロセスの過程で Java をアンロードおよび再起動します。そのため、各ソフトウェアパッケージを別々に処理する必要があります。複数の ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージを同時に処理した場合（特定の Channel で一度に処理するなど）、Software Package Distribution のインストールに失敗する可能性があります。

6 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel に関連付けます。

7 Distribution を送信します。

たとえば、Distribution を送信して抽出できるよう Distribution を構築するには、Distributor を更新します。Distribution の送信に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Tiered Electronic Distribution*」を参照してください。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

8 次のログファイルを参照して、Inventory Agent の .cpk ファイルのインストールが成功したかどうかを確認します。

- ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk65_invagnt.log
- ◆ Windows サーバの場合 :%windir%cpk65logs¥cpk65_invagnt.log

.cpk ファイルが正常にインストールされた場合、ZENworks サービスが自動的に開始されます。

Server Software Package による Remote Management のアップグレード

次の節では、Remote Management にソフトウェアパッケージをインストールするための詳しい手順を説明します。

- ◆ 185 ページの「ソフトウェアパッケージの自動インストール」
- ◆ 187 ページの「ソフトウェアパッケージの手動インストール」

重要：アップグレードしようとしているコンピュータにすでにフックドライバがインストールされている場合、そのフックドライバはアップグレード中にアンインストールされます。

注：Server Software Package のインストールではパスワードを設定できません。ただし、パスワードがすでにサーバに設定されている場合は、RConJ エージェントがロードされます。

RConJ エージェントを NetWare 6.5 クラスタサーバにロードする場合は、ZENworks 6.5 Server Management アップグレードウィザード、ZENworks 6.5 Server Management SP1 のインストールの順に実行してパスワードを設定する必要があります。

ソフトウェアパッケージの自動インストール

ZENworks 6.5 Server Management の Tiered Electronic Distribution (TED) コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy Package ソフトウェアを実行しているすべてのサーバにソフトウェアパッケージを自動的に配布してアップグレードすることができます。

重要：複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアンロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

自動インストールに必要な次の前提条件がすべて満たされていることを確認してください。

- サーバが ZENworks 6.5 Remote Management の一般的な要件を満たしていること
- Policy and Distribution Services がサーバにインストールされ、ソフトウェアパッケージの Distribution を送信、受信、およびアップグレードできる状態にあること
- Policy and Distribution Services が ZENworks 6.5 Support Pack 1 にアップグレードされていること

Remote Management Agent の .cpk ファイルを自動的にインストールするには

- 1 ZENworks 6.5 Distributor サーバを選択し、zsm651_remmgmt.cpk を Distributor のファイルシステムにコピーします。

.cpk ファイルは次の場所に存在します。

```
download_location\zenworks65_sp1\zenworks server management - software pkgs\infrm
```

.cpk ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の *ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme* を参照してください。

- 2 Server Package Distribution を作成するときのために、zsm651_remmgmt.cpk をコピーした Distributor サーバの場所をメモします。

- 3 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。

- 4 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成し、Distribution の構築スケジュールを設定します。

- 5 Distribution を Channel1 に関連付けて、Distribution が Channel1 のスケジュールに基づいて送信されるようにします。必要に応じて、Channel1 を作成し、Channel1 の送信スケジュールを設定してください。

- 6 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel1 に関連付けます。

- 7 Distribution を送信します。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel1 の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。

さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

- 8 Subscriber サーバに含まれるログファイルを使用して、インストールの成功または失敗を確認します。

いくつかのコンポーネントのインストールに失敗することもありますが、その場合でもソフトウェアパッケージのインストールは依然として成功したように見える可能性があります。そのため、特定のサーバで必要とされるコンポーネントが正常にインストールされているかどうかを検証するため、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントについて、インストールが成功したか、失敗したかを確認することをお勧めします。

ソフトウェアパッケージの手動インストール

ソフトウェアパッケージダウンロードに含まれる Standalone Package プロセッサを使用して、Subscriber ソフトウェアおよび Policy/Package Agent が実行されていないサーバに Remote Management Agent の .cpk ファイルを手動でインストールする必要があります。

手動インストールの前に、次のことを行います。

- ◆ InvRemStandAlonePacPro.zip ファイルへのアクセス権があることを確認します。このファイルには、zsm65_remmgmt.bat (Server Management Agent を Windows サーバにインストールする際に使用) および zsm65_remmgmt.ncf (Server Management Agent を NetWare サーバにインストールする際に使用) が格納されています。
- ◆ アップデートするコンポーネントについて、サーバが ZENworks 6.5 Remote Management の一般的な要件を満たしていることを確認します。
- ◆ Policy and Distribution Services が ZENworks 6.5 Support Pack 1 にアップグレードされていることを確認します。

Remote Management Agent の .cpk ファイルを手動でインストールするには

- 1 InvRemStandAlonePacPro.zip ファイルを次のいずれかの場所に解凍します。

Windows サーバの場合 :c:\

NetWare サーバの場合 :sys:\

これにより、Standalone Package Processor のファイルが、サーバのファイルシステムのルートに、一時ディレクトリを起点として解凍されます。

.zip ファイルを含む SP1 ファイルをダウンロードする方法については、[ZENworks 6.5 の Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks65/index.html) の ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1 Readme を参照してください。

- 2 手動でインストールする .cpk ファイルを、関連する .bat ファイルまたは .ncf ファイルが存在する一時ディレクトリにコピーします。例：

Windows サーバの場合 :c:\temp\zfs65

NetWare サーバの場合 :sys:\temp\zfs65

- 3 ターゲット Windows サーバに JRE 1.3.1 がインストールされていない場合は、JRE をダウンロードしてインストールします。

- 4 JRE 1.3.1 がインストールされた各ターゲット Windows サーバについて、zsm65_remmgmt.cpk に対応する .bat ファイルで、JREROOT 変数パスを JRE_installation_path\JRE\BIN に変更します。

- 5 このバッチファイルで、CPKTEMP 変数にインストールディレクトリの場所を指定します。例：

Windows サーバの場合 :CPKTEMP = c:\temp\zfs65

NetWare サーバの場合 :CPKTEMP = sys:\temp\zfs65

6 エージェントをインストールします。

Windows サーバに zsm651_remmgmt.cpk をインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。 **c:\temp\zfs65\win\zsm65_remmgmt.bat**

NetWare サーバに zsm651_remmgmt.cpk をインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

sys:\temp\zfs65\NetWare\zsm65_remmgmt.ncf

7 インストール中に作成されたログファイルを参照し、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。

次のログファイルには、Remote Management のインストールが成功したかどうかについて、詳しい情報が格納されます。

NetWare sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk65_rmagnt.log

Windows: %windir%¥cpk65logs¥cpk65_rmagnt.log

11

Policy and Distribution Services

この章では、Novell® ZENworks® for Servers 3.x Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする手順について説明します。アップグレード手順には、*Novell ZENworks 6.5 Server Management Program CD* から実行される GUI インストールプログラムのメニュー オプションまたは Linux/Solaris スクリプトを使用する方法と *Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD* に収録されている Server Software Package アップグレード ファイルを使用する方法があります。

重要: ZENworks 6.5 Support Pack 1 (SP1) を直接 ZENworks for Servers 3.x からアップグレードすることはできません。最初にこの節の手順を使って ZENworks 6.5 にアップグレードし、次に [10 章 151 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」](#) の手順を実行します。

アップグレードを実行する前に、[25 ページの「準備」](#) で説明されているすべてのインストール要件を満たす必要があります。

Distribution を暗号化するために ZENworks for Servers 3.x で NICI を使用している場合は、NICI 2.6.4 にアップグレードしてください。ただし、NICI 2.4.6 と NICI 2.6.4 には互換性があるため、NICI 2.4.6 がすでにインストールされている場合、NICI 2.6.4 にアップグレードすることは必須ではありません。NICI および暗号化セキュリティに関する詳細については、[353 ページの付録 F、「セキュリティ保護されていない接続のための追加セキュリティのインストール」](#) を参照してください。

アップグレード方法：

アップグレード項目	サーバプラットフォーム	アップグレード方法	必要性
Distributor オプジェクトおよび Subscriber オプジェクト	NetWare、Windows、Linux、および Solaris	Windows GUI プログラム	必須
Distributor ソフトウェア	NetWare および Windows	Windows GUI プログラム	必須
Distributor ソフトウェア	Linux および Solaris	Linux/Solaris スクリプト	必須
Subscriber ソフトウェア	NetWare および Windows	Windows GUI プログラム	任意選択
Subscriber ソフトウェア	Linux および Solaris	Linux/Solaris スクリプト	任意選択 ¹
Subscriber ソフトウェア	NetWare、Windows、Linux、および Solaris	Server Software Package	任意選択

¹ 1 度に 1 つのサーバでローカルで実行する必要があります。これを回避するには、Server Software Package によるアップグレード方法を使用します。

アップグレードを実行するには、次のいずれかの方法を選択します。

- ◆ [190 ページの「プログラム CD を使用したアップグレード」](#)

この方法では、NetWare サーバおよび Windows サーバ用の Windows GUI プログラム、または Linux サーバおよび Solaris サーバ用のスクリプトのいずれかを使用します。

プログラムによる方法を使用して Subscriber ソフトウェアをアップグレードする場合の利点：

- ◆ アップグレードオプションの手動設定

- ◆ [221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」](#)

この任意選択の方法では、Subscriber サーバ上の ZENworks ソフトウェアを自動的にアップグレードできます。必要な操作は、Software Package Distribution を作成して、アップグレードの対象になる Subscriber サーバに送信するだけです。

重要：Server Software Package では、Distributor オブジェクトまたは Subscriber オブジェクトをアップグレードできません。

Software Package Distribution を使用して Subscriber ソフトウェアをアップグレードする場合の利点：

- ◆ GUI アップグレードプログラムを使用した場合よりも短い時間で多くのサーバをアップグレードできます。
- ◆ 複数のツリーに存在するサーバをアップグレードできます。
- ◆ ネットワーク内の Subscriber サーバを段階的にアップグレードする場合に非常に便利です。
- ◆ GUI アップグレードプログラムを使用して、アクセスできないコンピュータをアップグレードできるようになります。

プログラム CD を使用したアップグレード

この方法を使ったアップグレードの場合、2 つのプラットフォームベースオプションが存在します。

- ◆ **NetWare および Windows サーバ：**これらのプラットフォームの場合、*Novell ZENworks 6.5 Server Management Program CD* を挿入した Windows ワークステーションで GUI インストールプログラムが起動します。インストールメニューからアップグレードオプションを利用することができます。一部のコンポーネントについては、インストールオプションを使ってコンポーネントのアップグレードを実行することもできます。
- ◆ **Linux および Solaris サーバ：**こうしたプラットフォームについては、スクリプトファイルが使用されます。このスクリプトファイルは、*Novell ZENworks 6.5 Server Management Program CD* に収録されており、アップグレードの対象になる各 Linux または Solaris サーバに対しローカルで実行されます。

この方法は、Distributor サーバをアップグレードする場合に実行する必要があります。ただし、複数の Subscriber サーバに対して自動インストールを実行する場合は、Server Software Package を使ってこうしたサーバをアップグレードすることをお勧めします ([221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」](#)を参照)。

Linux および Solaris の Distributor サーバの場合には、GUI アップグレードプログラムによる方法を使って、まず Distributor オブジェクトをアップグレードする必要があります。

Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 にアップグレードするには

- ◆ 191 ページの「アップグレードの概念と問題点」
- ◆ 194 ページの「アップグレードの準備」
- ◆ 195 ページの「NetWare サーバおよび Windows サーバのアップグレード」
- ◆ 217 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード」

アップグレードの概念と問題点

GUI アップグレードプログラムを使用すると、ZENworks for Servers 3.x Tiered Electronic Distribution オブジェクトとサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードすることができます。このプログラムにより、他の ZENworks for Servers コンポーネント (Server Inventory、Remote Management、または Management and Monitoring Services) がアップグレードされることはありません。これらの各コンポーネントには独自のアップグレード方法が存在します。

GUI アップグレードプログラムの機能や、発生する可能性のある問題については、次のトピックを参照してください。

- ◆ 191 ページの「アップグレードプログラムの実行内容」
- ◆ 192 ページの「アップグレードプログラムが実行しない項目」
- ◆ 193 ページの「複数ツリーのサーバのアップグレード」
- ◆ 193 ページの「Distributor の優先的なアップグレード」
- ◆ 193 ページの「段階的なアップグレードおよび相互運用性」
- ◆ 194 ページの「段階的にアップグレードするかどうかの決定」
- ◆ 194 ページの「アップグレードに関するクラスタ問題」

この節の説明を確認したら、194 ページの「アップグレードの準備」に進みます。

アップグレードプログラムの実行内容

- ◆ 選択したツリー内の ZENworks for Servers 3.x Novell eDirectory™ オブジェクトをバージョン 6.5 にアップグレードします。このアップグレードは、Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトに対してのみ実行されます。
- ◆ アップグレードされた各 eDirectory オブジェクトの既存の属性を保持して、再設定の必要性を排除します。
- ◆ すべての作業ディレクトリを保持し、ZENworks for Servers 3.x で作成された Distribution をアップグレードして、バージョン 6.5 で使用できるようにします。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x がインストールされているインストールパスを使って、ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアをアップグレードします。

ファイルは常に ZENworks ディレクトリにコピーされ、新旧どちらのファイルもアップグレードファイルで置換されます。ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。ZENworks ディレクトリ内に存在する新旧いずれのファイルも置換されるのは、バージョン 6.5 のリリース以降に利用可能になったサポートパックのバージョン 3.0.2 ファイルを、それよりも古い日付のバージョン 6.5 ファイルを使って置換することにより、バージョン 6.5 用の適切なファイルをインストールする必要があるためです。

- ◆ Subscriber のアップグレードを選択した場合、ZENworks for Servers 3.x Policy Package Agent は自動的に ZENworks 6.5 Server Management Policy/Package Agent にアップグレードされます。

要約すると、アップグレードプログラムによりオブジェクトがアップグレードされ、Distributor サーバおよび Subscriber サーバにソフトウェアがインストールされます。

アップグレードプログラムが実行しない項目

- ◆ ZENworks for Servers 3.x がインストールされていないサーバにアップグレードプログラムを実行しても、ZENworks 6.5 Server Management がインストールされることはありません。アップグレードプログラムで実行できるのは、既存の ZENworks for Servers 3.x オブジェクトおよびソフトウェアをアップグレードすることだけです。
- ◆ スキーマが自動的に拡張されることはありません。アップグレードする前にこの作業を完了しておく必要があります。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の ConsoleOne® 用スナップインが、アップグレード中にローカルコンピュータにインストールされることはありません。アップグレードプログラムを終了した後、インストールプログラムを使ってこのタスクを実行する必要があります。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の iManager 用プラグインが、アップグレードプログラムによってインストールされることはありません。アップグレードプログラムを終了した後、インストールプログラムのメニュー「オプション」を使ってこのタスクを実行する必要があります。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。
- ◆ ConsoleOne がインストールされているサーバの ConsoleOne スナップインがアップグレードされることはありません。このタスクは、インストールプログラムを使って実行する必要があります。
- ◆ File Distribution の基準は再設定されません。手動で再設定を実行する必要があります。File Distribution の基準が再設定されていない場合、構築または抽出時に "Local class compatibility..." エラーが発生し、Distribution の処理が実行されません。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。

要約すると、ZENworks for Servers 3.x がインストールされていないコンピュータにアップグレードプログラムを実行しても、ZENworks 6.5 Server Management がインストールされることはありません。アップグレードの対象になるサーバを特定するのに ZENworks for Servers オブジェクトが必要になります。

複数ツリーのサーバのアップグレード

アップグレードプログラムは、ツリー内に含まれている、サーバに対応した Distributor オブジェクトまたは Subscriber オブジェクトを使って、アップグレードするサーバを検出します。アップグレードプログラムの実行中、1つのツリーだけを選択できます。したがって、ZENworks for Servers 3.x のオブジェクトが複数のツリーに存在する場合、各ツリーに対し 2 回アップグレードプログラムを実行する必要があります。つまり 1 回は Distributor に対して、もう 1 回は Subscriber に対して実行します。

ただし、Subscriber をアップグレードするのにソフトウェアパッケージを使用する方法を実行した場合 ([221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」を参照](#))、複数のツリーに存在する Subscriber を同時にアップグレードすることができます。

Distributor の優先的なアップグレード

段階的なアップグレードを実行するのか、すべてを一斉にアップグレードするのかにかかわらず、次に示す理由により、まずすべての Distributor をアップグレードしてから、Subscriber をアップグレードすることをお勧めします。

- ◆ バージョン 6.5 Distributor は、バージョン 6.5 Distribution をバージョン 6.5 Subscriber に送信できます。
- ◆ バージョン 6.5 Distributor は、バージョン 6.5 Distribution をバージョン 3.0.2 Subscriber に送信できます。

このタスクを実行するには、ZENworks for Servers 3.0.2 を Interim Release 1 にアップグレードする必要があります。詳細については、[271 ページの「ZENworks for Servers 3.x との相互運用性」を参照してください](#)。

- ◆ バージョン 3.0.2 Distributor は、バージョン 3.0.2 Distribution をバージョン 3.0.2 Subscriber に送信できます。
- ◆ ただし、バージョン 3.0.2 Distributor が、バージョン 3.0.2 Distribution をバージョン 6.5 Subscriber に送信することはできません。

これが、まず Distributor をアップグレードしなければならない主な理由です。 Distribution の送信を実行する Distributor をアップグレードする前に、一部の Subscriber をアップグレードした場合、Distribution のバージョンと Subscriber のバージョンで競合が発生するため Distribution の送信に失敗します。

ZENworks for Servers 3.x Distributor が ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードされた後、Distributor は、Distribution の送信を実行する前に、構築時にその Distribution を ZENworks 6.5 Server Management Distribution に変換します。

段階的なアップグレードおよび相互運用性

さまざまな理由により、ZENworks for Servers 3.x Subscriber オブジェクトを段階的にアップグレードすることが必要になる場合があります。たとえば、サーバの数が多くすぎるため、1回のセッションですべてのサーバをアップグレードできない場合があります。段階的にアップグレードする場合は、相互運用性に関する問題が発生します。

段階的にアップグレードする場合に ZENworks 6.5 Subscribers と ZENworks for Servers 3.0.2 Subscribers との間の相互運用性を維持するには、バージョン 3.0.2 のすべての Subscriber サーバ上に Interim Release 1 をインストールする必要があります。詳細については、[271 ページの「バージョン間の相互運用性」を参照してください](#)。

段階的にアップグレードするかどうかの決定

Subscriber を段階的にアップグレードするかどうかを決定する場合、次の項目について検討します。

- ◆ **Subscriber の数**：多数の Subscriber が存在する場合、1回のセッションでこうした Subscriber をアップグレードするのに要する時間を検討します。アップグレードにかかる時間が長すぎる場合、対象になる Subscriber を複数のグループに選択して、一度に1つのグループをアップグレードできるようにします。
- ◆ **Desktop Application Distribution**：ZENworks for Servers 3.x Desktop Application Distribution が存在する場合は、Desktop Application Distribution を、それを要求する ZENworks for Servers 3.x Subscriber に送信するには、1つの ZENworks for Servers 3.x Distributor を保持する必要があります。

このアップグレードプロセスは次のとおりです。

1. Desktop Application Distribution を送信していた ZENworks for Servers 3.x Distributor をバージョン 6.5 にアップグレードします。
2. Desktop Application Distribution をバージョン 6.5 Distribution として再構築します。ただし、この Distribution はまだ送信できません。
3. アップグレードされた Desktop Application Distribution が必要な、バージョン 3.x Subscriber をアップグレードします。
4. アップグレードした Desktop Application Distribution を送信します。

アップグレードに関するクラスタ問題

アップグレードプログラムは、クラスタを自動的にアップグレードします。

アップグレードの準備

アップグレードの対象になるサーバが、5 章 43 ページの「サーバの要件」で説明されている ZENworks 6.5 Server Management のインストールに関するサーバ要件と同じ要件をすべて満たしている必要があります。

警告：段階的なアップグレードを実行する場合、引き続き ZENworks for Servers 3.0.2 Interim Release 1 を使用するサーバに対しては、ZENworks 6.5 Server Management のいくつかのシステム要件を適用しないよう注意してください。ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするサーバに対してのみ、サーバ要件を適用する必要があります。

ZENworks for Servers 3.x オブジェクトおよびサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには次の項目を理解している必要があります。

- ◆ 195 ページの「アップグレードの対象になるツリー」
- ◆ 195 ページの「アップグレードの対象になる Distributor サーバ」
- ◆ 195 ページの「アップグレードの対象になる Subscriber サーバ」

アップグレードの対象になるツリー

ZENworks for Servers 3.x オブジェクトがインストールされているツリーを確認します。アップグレードを実行する前に、これらのツリーのスキーマを拡張しておく必要があります。ZENworks 6.5 Server Management のスキーマを拡張しても、ZENworks for Servers 3.x のスキーマの拡張が削除されることはありません。ZENworks のスキーマの拡張は累積的に実行されます。

複数のツリーに ZENworks for Servers 3.x をインストールした場合、まず各ツリーの Distributor をアップグレードしてから、アップグレードプログラムまたは .cpk ファイル（このファイルにより、Distribution を使って一度に複数のツリーをアップグレードすることができます）を使ってこうしたツリー内の Subscriber をアップグレードします。

アップグレードの対象になる Distributor サーバ

アップグレードプログラムにより、ツリー内のすべての ZENworks for Servers 3.x Distributor オブジェクトが表示されます。指定したツリー内のすべての Distributor を同時にアップグレードするようにします。

Distributor と Subscriber の両方を含む ZENworks for Servers 3.x サーバの場合、Distributor ソフトウェアのアップグレード時に Subscriber ソフトウェアもアップグレードされます。

アップグレードの対象になる Subscriber サーバ

アップグレードプログラムにより、ツリー内のすべての ZENworks for Servers 3.x Subscriber オブジェクトが表示されます。

ツリー内で段階的なアップグレードを実行する場合、アップグレードの対象になるサーバグループを決定します。詳細については、193 ページの「段階的なアップグレードおよび相互運用性」を参照してください。

195 ページの「NetWare サーバおよび Windows サーバのアップグレード」に進みます。

NetWare サーバおよび Windows サーバのアップグレード

ZENworks for Servers 3.x オブジェクトが複数のツリーにインストールされている場合、各ツリーに対して次のアップグレード手順を実行します。Subscriber を段階的にアップグレードする場合も、各アップグレードで次のアップグレード手順を実行します。

ZENworks for Servers 3.x を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには、次のタスクを順番に実行します。

1. 196 ページの「アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト」
2. 196 ページの「アップグレード手順」
3. 206 ページの「アップグレードの完了」
4. 213 ページの「File Distribution の基準の再設定」
5. 217 ページの「以前のバージョンの Server Software Package の変換」

アップグレードを実行する前に確認するチェックリスト

- アップグレードに関する最新情報を *Readme* ファイルで確認します。
Readme_servers.html は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の ¥readmes¥en ディレクトリに存在します。この *html* ファイルには、インストールプログラムのメニュー・オプションからもアクセスできます。
- アップグレードの対象になるワークステーションが、4 章 39 ページの「インストール・コンピュータと管理ワークステーションの要件」で示した要件を満たしていることを確認します。
重要: 各 *ConsoleOne* インストールの更新を実行していることを確認します。これは、アップグレードプロセスの完了時に *ZENworks 6.5 Server Management* スナップインにアップグレードすることになるためです (207 ページの「*ConsoleOne* スナップインのアップグレード」を参照)。
- 5 章 43 ページの「サーバの要件」で示されているすべてのサーバ要件を満たしていることを確認します。
- まだログインを実行していない場合は、*ZENworks for Servers 3.x* オブジェクトをバージョン 6.5 にアップグレードする *eDirectory* ツリーにログインします。
このツリーにログインしない場合、アップグレードプロセス中に、このツリーを選択することはできません。
同じツリー内にある *Distributor* および *Subscriber* を同時にアップグレードできます。必要に応じて何度もアップグレードプログラムを実行できます。
このツリーのスキーマは、*ZENworks 6.5 Server Management* 用に拡張している必要があります。
- Windows サーバ上にあるソフトウェアをアップグレードする場合、アップグレードの対象になる各 Windows サーバで [サービス] ウィンドウが閉じられていることを確認します。
アップグレードプログラムにより、すべての *ZENworks Server Management* サービスが自動的に停止します。ただし、サーバのアップグレード中に [サービス] ウィンドウが開いたままになっている場合、*Server Management* のサービスを登録することができません。

196 ページの「アップグレード手順」に進みます。

アップグレード手順

ZENworks for Servers 3.x を *ZENworks 6.5 Server Management* にアップグレードするには、次のタスクを順番に実行します。

1. 197 ページの「Distribution Channel の無効化」
2. 197 ページの「スキーマの拡張」
3. 201 ページの「アップグレードプログラムの起動」
4. 203 ページの「アップグレードするオブジェクトの選択」
5. 205 ページの「アップグレードパスとオプションの設定」
6. 206 ページの「Upgrade Summary」

Distribution Channel の無効化

Interim Release 2 にアップグレードする際にバージョン 3.0.2 の File Distribution の基準を再設定した場合は、アップグレード中に Distribution の送信および抽出を実行しないようにするのに Channel1 を無効にする必要があります。ただしこのタスクは必須ではありません。Subscriber で抽出される Distribution を、アップグレードプロセスで中断することができるためです。アップグレートの完了後、中断した箇所をピックアップします。

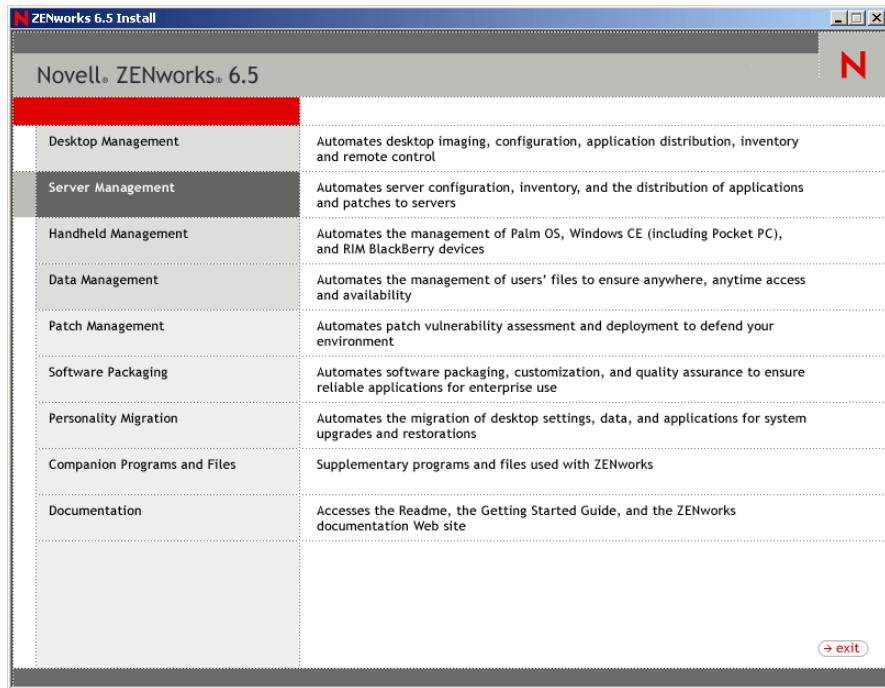
ZENworks for Servers 3.0.2 を Interim Release 2 にアップグレードしなかった場合、File Distribution が示されているすべての Channel を無効にする必要があります。File Distribution の構築時または抽出時に "Local class compatibility..." エラーが発生しないよう、アップグレード後に File Distribution の基準を再設定する必要があります。このエラーが発生した場合、Distribution の処理は実行されません。この状況で配布エラーが発生するのを回避するには、Distributor と Subscriber のアップグレードが完了するまで、両者間で Distribution を送信しないようにします。File Distribution の基準を再設定する手順については、[213 ページの「File Distribution の基準の再設定」](#)で説明しています。

適用可能な Channel1 を無効にするには

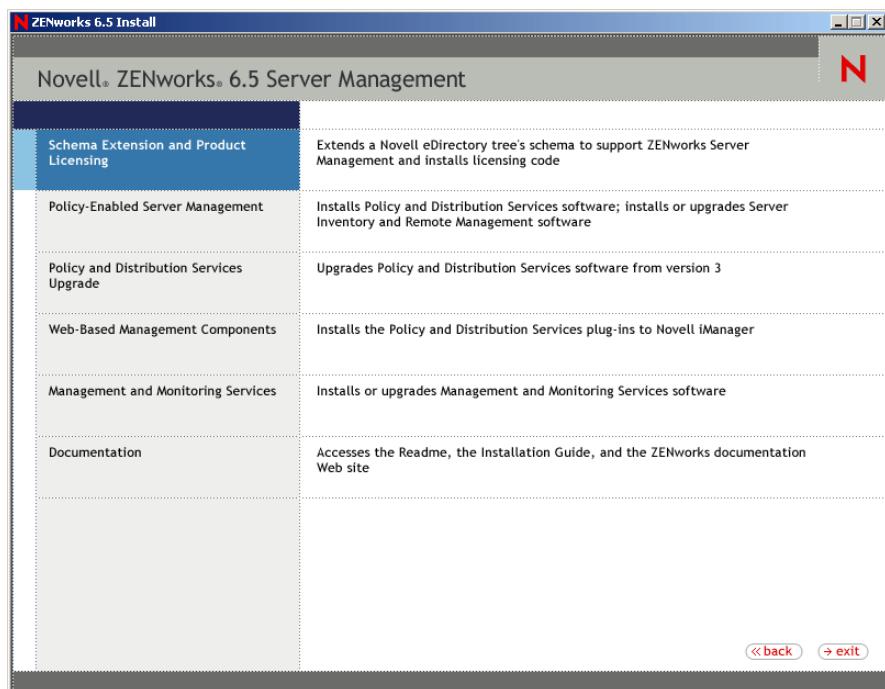
- 1 ConsoleOne で、無効にする必要がある Channel の Channel オブジェクトを複数選択します。
これらのオブジェクトはすべて、File Distribution を示す Channel に該当している必要があります。
- 2 選択したオブジェクトを右クリックし、[Properties of Multiple Objects] をクリックします。
- 3 [Objects to Modify] タブに示されている各 Channel を選択し、[General Settings] タブをクリックします。
- 4 [Active] チェックボックスをクリックして選択を解除し、[OK] をクリックしてプロパティを閉じます。
- 5 ConsoleOne を終了します。
- 6 [197 ページの「スキーマの拡張」](#)に進みます。

スキーマの拡張

- 1 アップグレードするワークステーションに、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を挿入します。
起動画面が表示されます。CD の挿入後、起動画面が自動的に表示されない場合は、CD のルートにある winsetup.exe を実行します。
Policy and Distribution Services は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD を使ってアップグレードすることを推奨します。ただし、CD の構造をハードドライブにコピーする必要がある場合、ハードドライブのルートと最初の CD ディレクトリ間のパスには、8.3 形式の DOS ファイル名規則に準拠するディレクトリ名だけを使用することができます。パス内にロングディレクトリネームが存在する場合、アップグレードプログラムは動作しません。

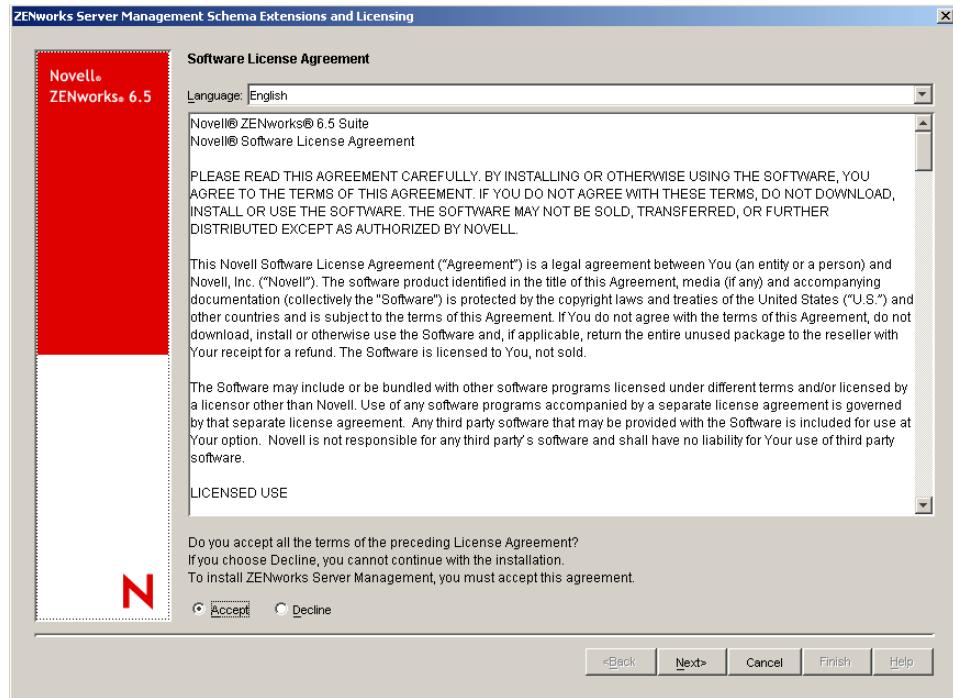


2 [Server Management] を選択します。

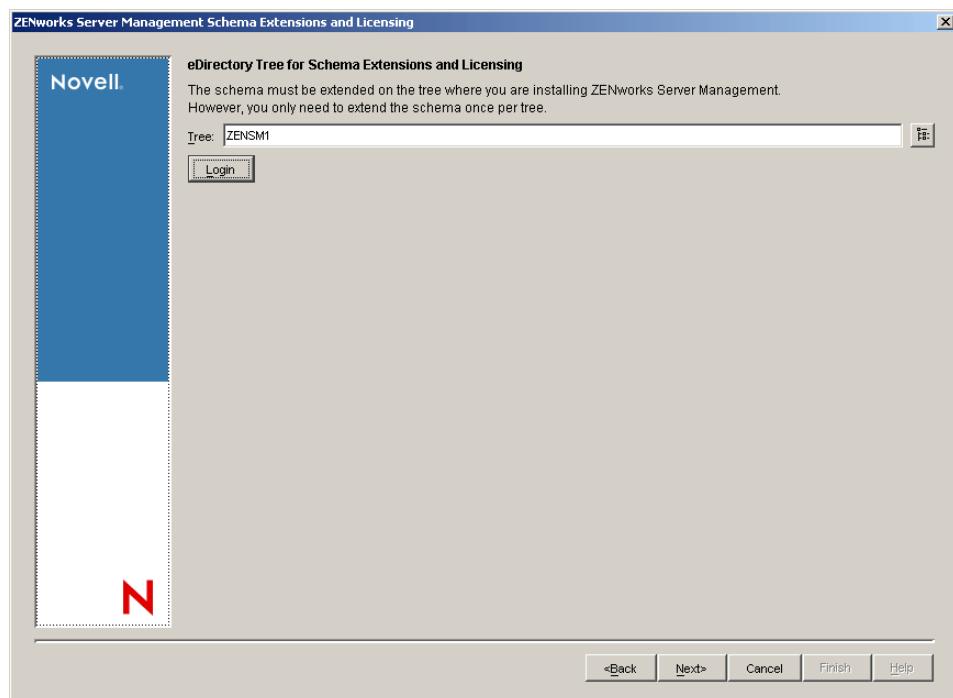


3 バージョン 6.5 のスキーマを拡張していない場合は、[Schema Extension and Product Licensing] を選択します。スキーマを拡張している場合は、次の手順をスキップし 201 ページの「アップグレードプログラムの起動」に進みます。

ZENworks for Servers 3.xを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには、ZENworks オブジェクトのアップデートを実行するツリーでスキーマを拡張する必要があります。



4 ソフトウェア使用許諾契約に合意する場合は、[Accept]、[Next] の順にクリックして、[eDirectory Tree for Creating Objects] ページを表示します。合意しない場合は、[Decline]、[Cancel] の順にクリックして終了します。



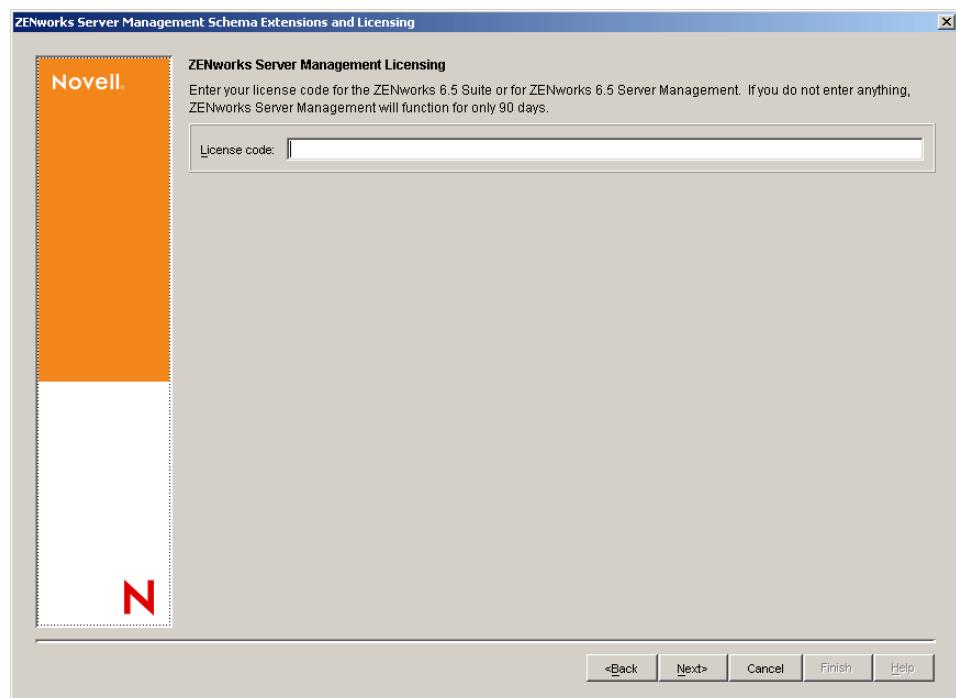
5 ZENworks オブジェクトを作成したツリーを選択し、[OK] をクリックして [ZENworks Server Management Licensing] ページを表示します。

重要: 初めてスキーマの拡張を実行する場合にだけ [Extend Schema] チェックボックスを選択します。製品のライセンスコードを入力するためにだけ [Extend Schema] メニューオプションを実行している場合は、このチェックボックスの選択を解除します。

まだ認証されていない場合は、[Login] ボタンを使ってログインすることができます。

ZENworks Server Management のスキーマ拡張は、ツリーに対して一度だけ実行する必要があります。複数のツリーが存在する場合、ZENworks オブジェクトをインストールしようとしているツリーについてのみスキーマを拡張する必要があります。

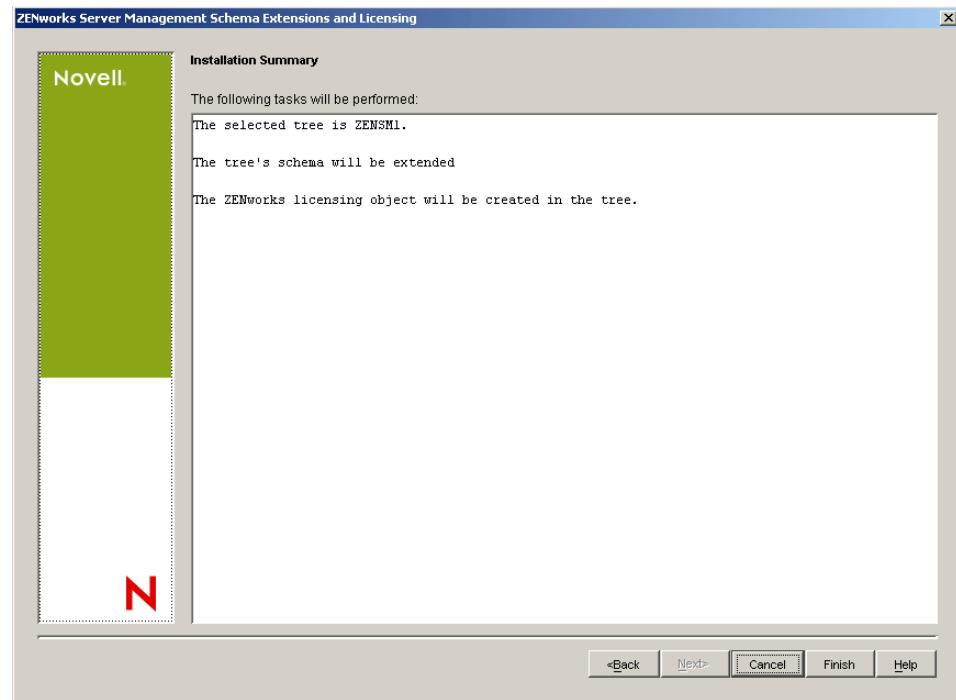
すべての ZENworks Server Management コンポーネント (Policy and Distribution Services、Server Inventory、Remote Management、および Management and Monitoring Services) のスキーマ拡張は、スキーマを拡張すると同時にインストールされます。



6 ライセンスコードを入力するか、フィールドを空のまま [Next] をクリックして [Summary] ページを表示します。

フィールドを空のままにした場合、90 日間限定評価ライセンスが有効になります。後でこのページに戻って、ライセンスコードを入力することができます。

製品を購入した場合は、購入時にライセンスコードを受け取っているはずです。

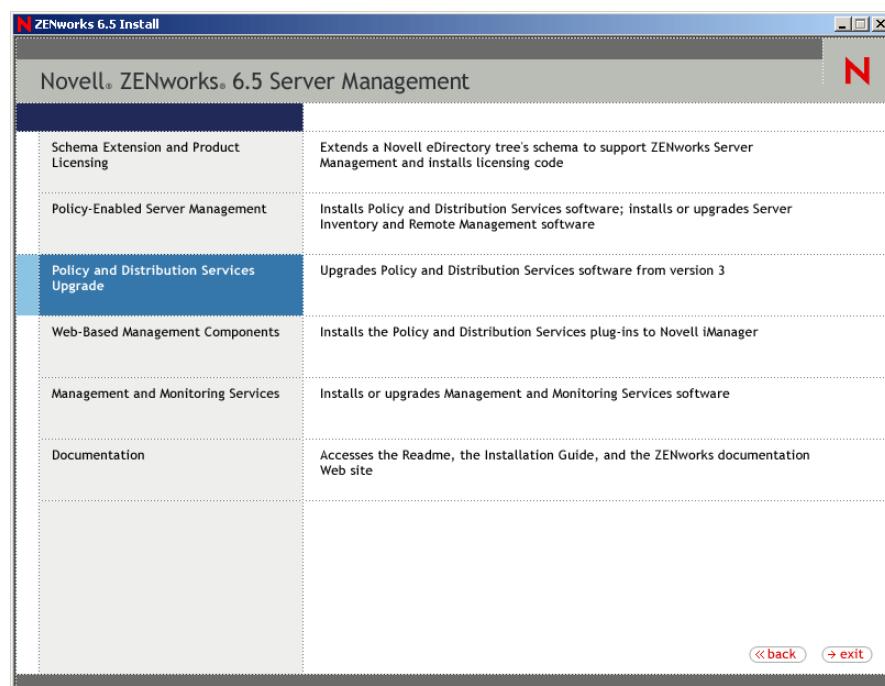


7 スキーマを拡張するには、[Finish] をクリックします。

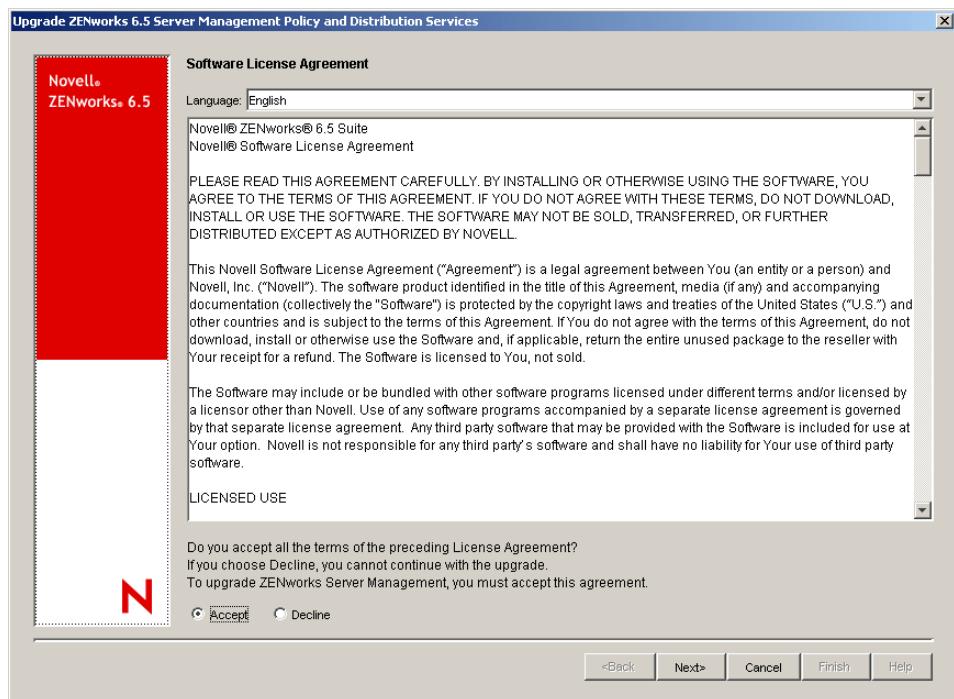
スキーマ拡張プロセスが完了したら、メインのインストールメニューが表示されます。

8 201 ページの「アップグレードプログラムの起動」に進みます。

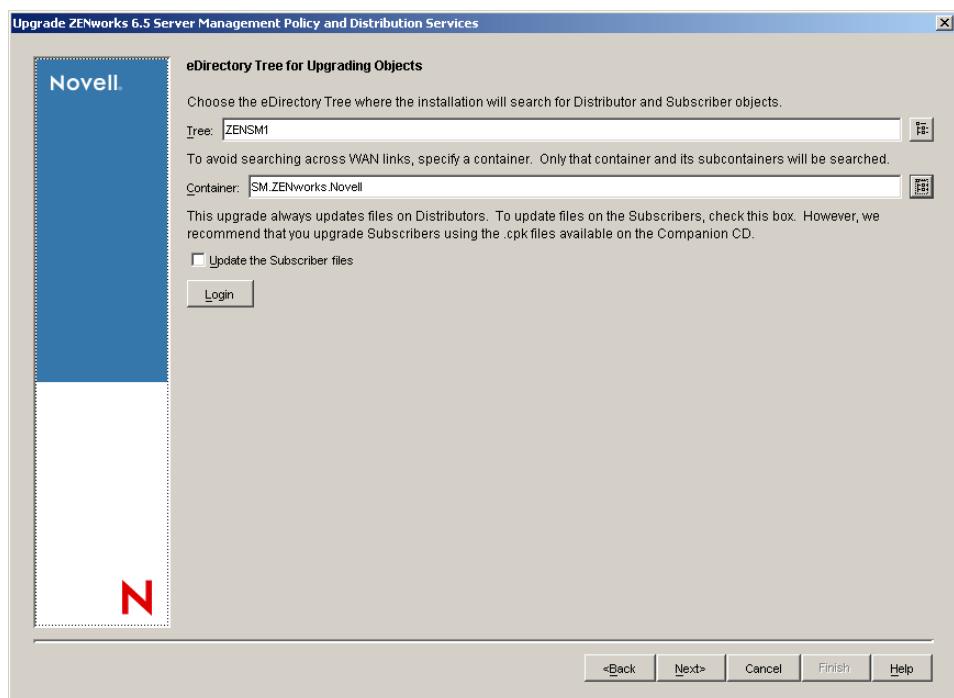
アップグレードプログラムの起動



1 Policy and Distribution Services を選択します。



2 ソフトウェア使用許諾契約に同意する場合は、[Accept] をクリックし、[Next] をクリックします。同意しない場合は、[Cancel] をクリックして終了します。



3 Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトをアップグレードするツリーを選択します。

必要に応じて、[Login] ボタンをクリックして、ツリーにログインすることができます。

4 次の 2 つの環境設定オプションが存在します。

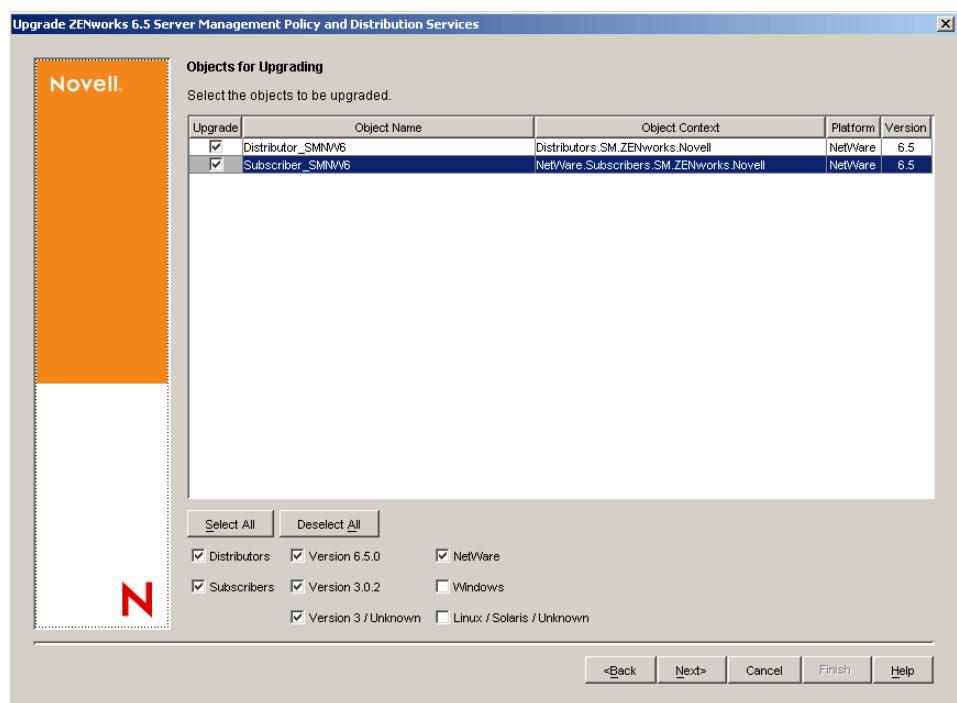
- ◆ [Container] : WAN リンクを使った検索を回避するには、コンテナを指定します。
- インストールプログラムが Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトを検索する場合、ツリー検索プロセスを実行する必要があります。このプロセスを実行すると、完了までに数時間かかる場合があり、ワークステーションが停止しているように見える事態が発生することもあります。コンテナを指定することにより、検索対象を指定したコンテナとそのサブコンテナ内のオブジェクトに限定することができます。
- ◆ [Update the Subscriber Files] : デフォルトでは、[Update the Subscriber Files] チェックボックスは選択されています。

Subscriber ファイルとオブジェクトの両方をアップグレードするには、このボックスを選択します。ただし、Distribution 内の .cpk ファイルを使って Subscriber サーバをアップグレードする場合、このボックスの選択を解除して、Subscriber オブジェクトだけをアップグレードするようにします。

重要: Subscriber オブジェクトは、GUI アップグレードプログラムを使ってアップグレードする必要があります。Subscriber オブジェクトは、.cpk ファイルによってアップグレードされません。

5 [Next] をクリックし、203 ページの「アップグレードするオブジェクトの選択」に進みます。

アップグレードするオブジェクトの選択



サポートされているすべてのプラットフォームに対して、選択されたツリーのすべての ZENworks for Servers 3.x (または不明なバージョン) オブジェクトが表示されます。すべてのチェックボックスオプションは、相互依存関係にあります。組み合わせによって、異なるサーバセットが表示される場合があります。

1 必要に応じて選択項目を設定します。

1a 必要に応じて、次のボックスのいずれか1つまたは両方をチェックします。

- ◆ **[Distributors]** : 最初に Distributor をアップグレードする必要があります。これは、ZENworks 6.5 Server Management Subscriber が、ZENworks for Servers 3.x Distributor から Distribution を受け取ることができないためです。ZENworks for Servers 3 Subscriber は、ZENworks 6.5 Server Management Distributor からは Distribution を受け取ることができますが、Desktop Application Distribution の場合は受け取ることができません。

Distributor だけをアップグレードするには、[Subscribers] チェックボックスをクリックして、すべての Subscriber の選択を解除します。

Distributor をすでにアップグレードしている場合は、[Distributors] チェックボックスをクリックしてすべての Distributor を選択解除します。

- ◆ **[Subscribers]** : 一覧に表示されているすべての Subscriber をアップグレードすることができます。または、Subscriber のグループを異なるタイミングでアップグレードできます。Subscriber の特定のグループだけをアップグレードするには、このタイミングでアップグレードしない Subscriber のチェックボックスの選択を解除します。

サポートされているすべてのプラットフォームでは、この GUI アップグレードプログラムを使用して Subscriber オブジェクトをアップグレードする必要があります。

両方のボックスはデフォルトで選択されています。詳細については、[194 ページの「段階的にアップグレードするかどうかの決定」](#)を参照してください。

1b アップグレードするソフトウェアバージョンを選択します。

- ◆ **[Version 6.5.0]** : このチェックボックスを選択すると、バージョン 6.5 サーバにソフトウェアを再インストールできます。この方法により、インストールプログラムを使った場合よりも、迅速にソフトウェアの再インストールが実行されます。オブジェクトは、GUI インストールプログラムを使用してインストールする必要があります ([61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照)。
- ◆ **[Version 3.0.2]** : このチェックボックスを選択すると、すべての ZENworks for Servers 3.0.2 サーバが表示されます。
- ◆ **[Version 3 / Unknown]** : このチェックボックスを選択すると、ZENworks for Servers 3、3 Support Pack 1、またはその他の不明バージョンがインストールされているサーバが表示されます。

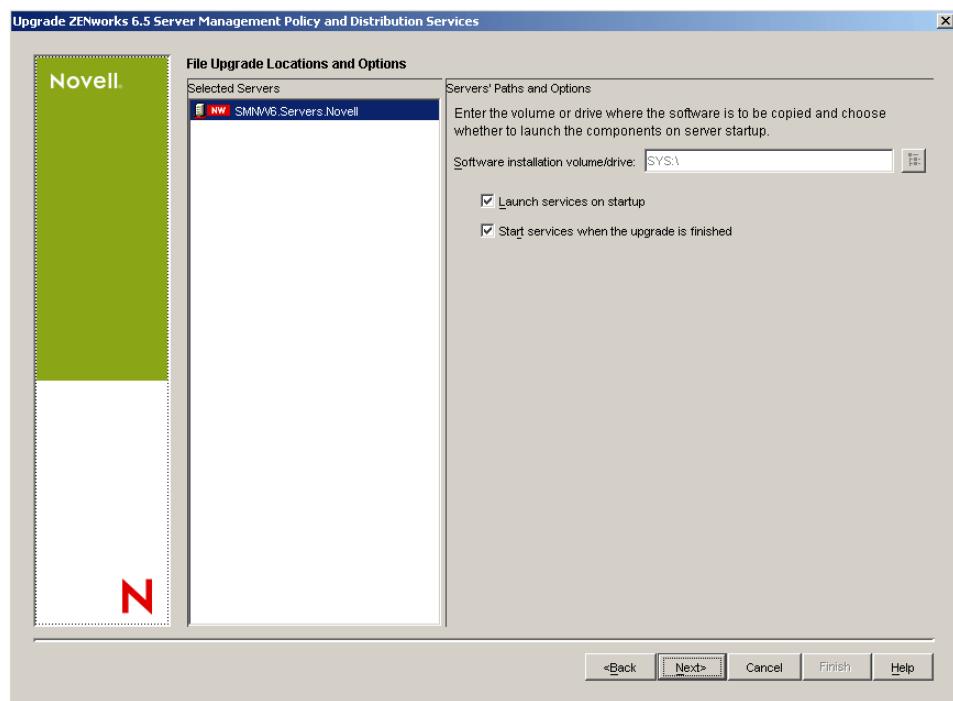
1c アップグレードするサーバプラットフォームを選択します。

- ◆ **[NetWare]** : 他の基準 (Distributor、Subscriber、バージョン) に合致する NetWare サーバだけを表示します。
- ◆ **[Windows]** : 他の基準 (Distributor、Subscriber、バージョン) に合致する Windows サーバだけを表示します。
- ◆ **[Linux / Solaris / Unknown]** : 他の基準 (Distributor、Subscriber、バージョン) に合致する Linux サーバ、Solaris サーバ、またはその他プラットフォームが不明なサーバだけを表示します。

デフォルトではすべてのプラットフォームのボックスが選択されています。リスト内で、サーバはプラットフォーム別に並べ替えられます。

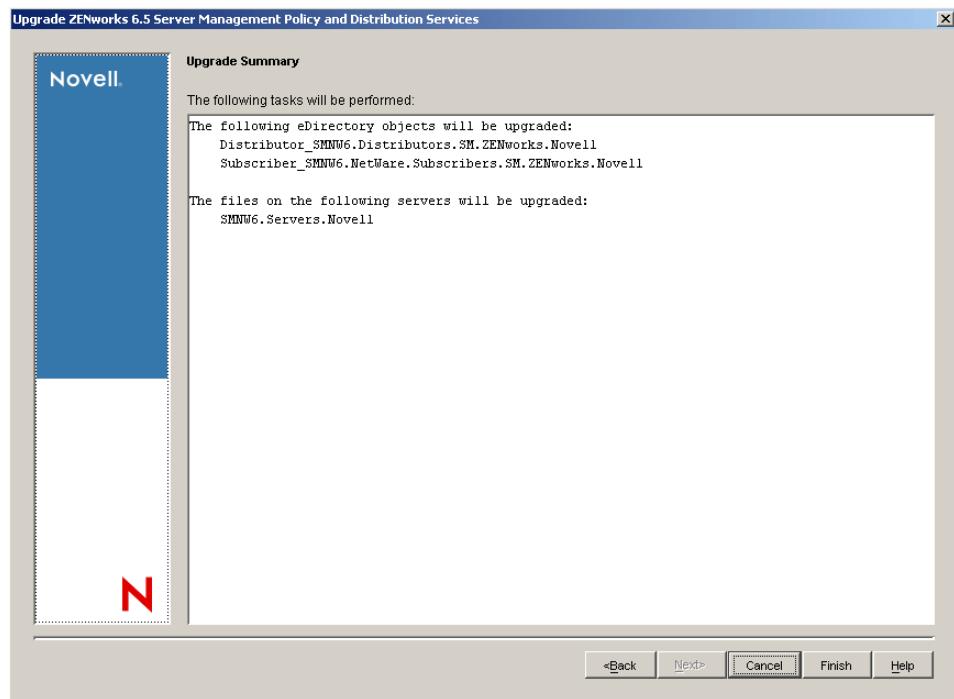
2 [Next] をクリックし、[205 ページの「アップグレードパスとオプションの設定」](#)に進みます。

アップグレードパスとオプションの設定



- 1 [File Upgrade Paths and Options] ページの [Selected Servers] リストで、1つまたは複数のオブジェクトを選択します。
各オブジェクトのサーバが同じインストールパスおよび Server Management ソフトウェアの起動方法を共有しているかどうかに応じて、オブジェクトを個別に選択するか、グループとして選択します。
[Software Installation Volume/Drive] フィールドは表示専用です。以前のインストールパスを検出して表示します。
- 2 選択したオブジェクトのサーバが、起動時に自動的に ZENworks 6.5 Server Management を起動するようにするには、[Launch Policy and Distribution Services On Startup] チェックボックスを選択します（デフォルトで選択されています）。
- 3 アップグレードの完了後に、アップグレードプログラムが自動的に Policy and Distribution Services を起動するようにするには、[Start Services When the Upgrade Is Finished] チェックボックスを選択します（デフォルトで選択されています）。
- 4 選択したオブジェクトの各グループについて、[ステップ 1 からステップ 3 までを実行します。](#)
- 5 [Next] をクリックし、[206 ページの「Upgrade Summary」](#)に進みます。

Upgrade Summary



- 1 [Upgrade Summary] ページで、[Finish] をクリックするとアップグレード処理が開始されます。
- 2 Distributor をアップグレードした後、Subscriber をアップグレードする場合、196 ページの「[アップグレード手順](#)」の手順を繰り返します。
- 3 1 つのツリーをアップグレードした後、他のツリーをアップグレードする場合は、196 ページの「[アップグレード手順](#)」の手順を繰り返します。
- 4 206 ページの「[アップグレードの完了](#)」に進みます。

アップグレードの完了

アップグレードプロセスを完了するには、次のタスクを順番に実行します。

- 1 207 ページの「[ConsoleOne スナップインのアップグレード](#)」
- 2 211 ページの「[Novell iManager プラグインのアップグレード](#)」
- 3 211 ページの「[Policy and Distribution Services の開始](#)」
- 4 212 ページの「[NetWare サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認](#)」
- 5 212 ページの「[Windows サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認](#)」

ConsoleOne スナップインのアップグレード

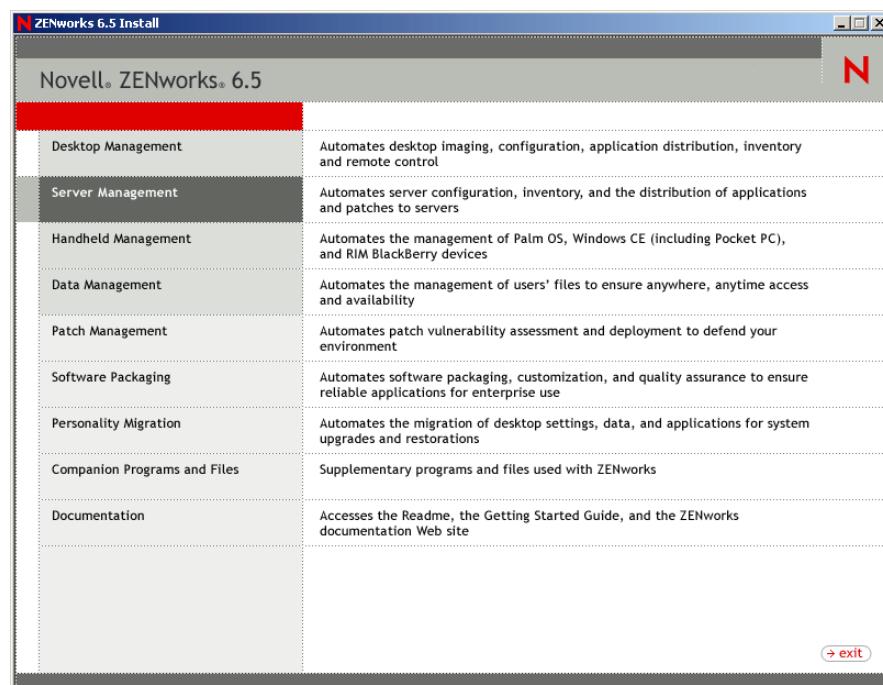
アップグレードで使用したワークステーションのConsoleOneのインスタンスは、アップグレード時にZENworks 6.5 Server Management スナップインにアップグレードしているはずです。しかし、このConsoleOneのインスタンスまたは他のインスタンスのスナップインをアップグレードする必要がある場合は、この節の手順を続行します。その必要がない場合は、211 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」に進みます。

ZENworks 6.5 Companion 1 CD を使って最新バージョンのConsoleOneにすでにアップグレードしていることを確認します(42 ページの「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」を参照)。このタスクは、ZENworks 6.5 Server Management スナップインを、ワークステーションまたはサーバのConsoleOneのインスタンスにインストールする前に実行する必要があります。

ConsoleOneにZENworks 6.5 Server Management スナップインをインストールするには

- 1 ConsoleOne スナップインのバージョンを 6.5 にアップグレードする必要があるワークステーションまたはサーバに、*ZENworks 6.5 Server Management Program CD* を挿入します。

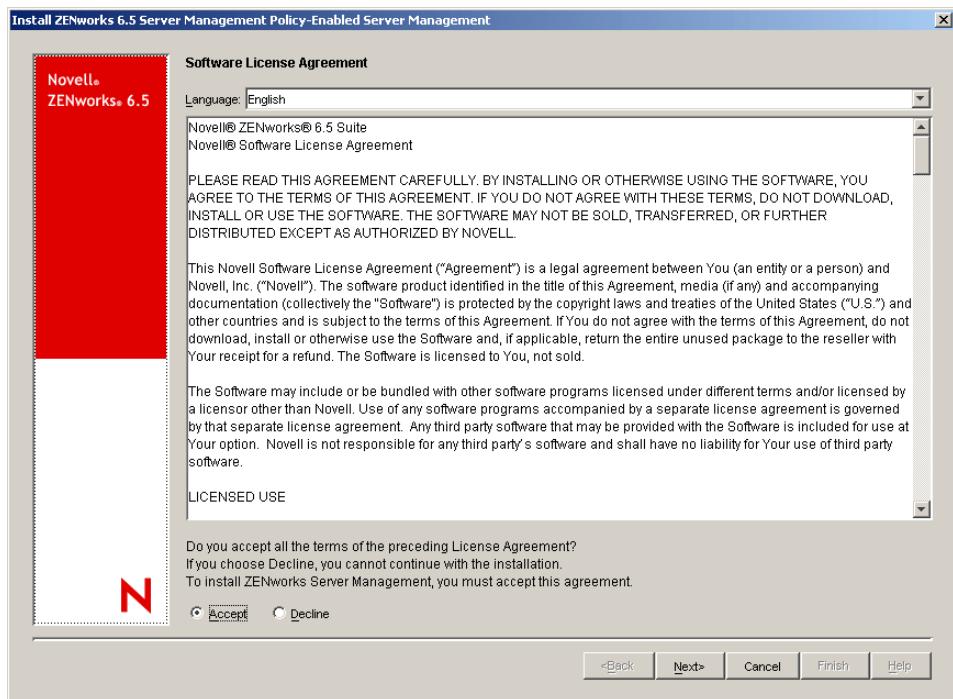
メインメニューが表示されます。CD の挿入後、メインメニューが自動的に表示されない場合は、CD のルートにある *winsetup.exe* を実行します。



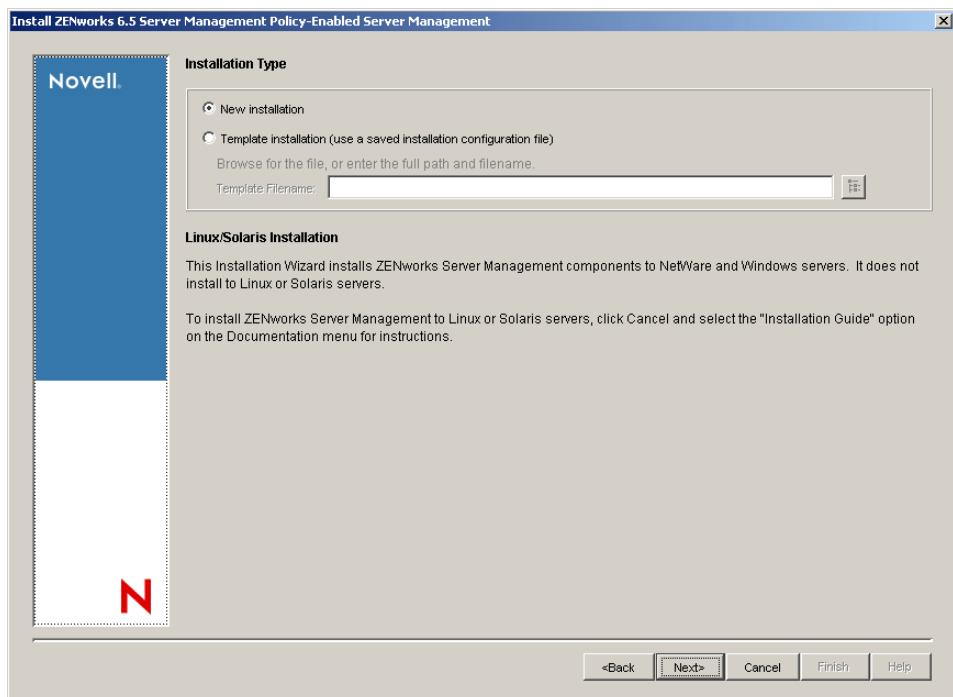
- 2 [Server Management] オプションを選択します。

3 [Policy-Enabled Server Management] をクリックして、インストールプログラムを起動します。

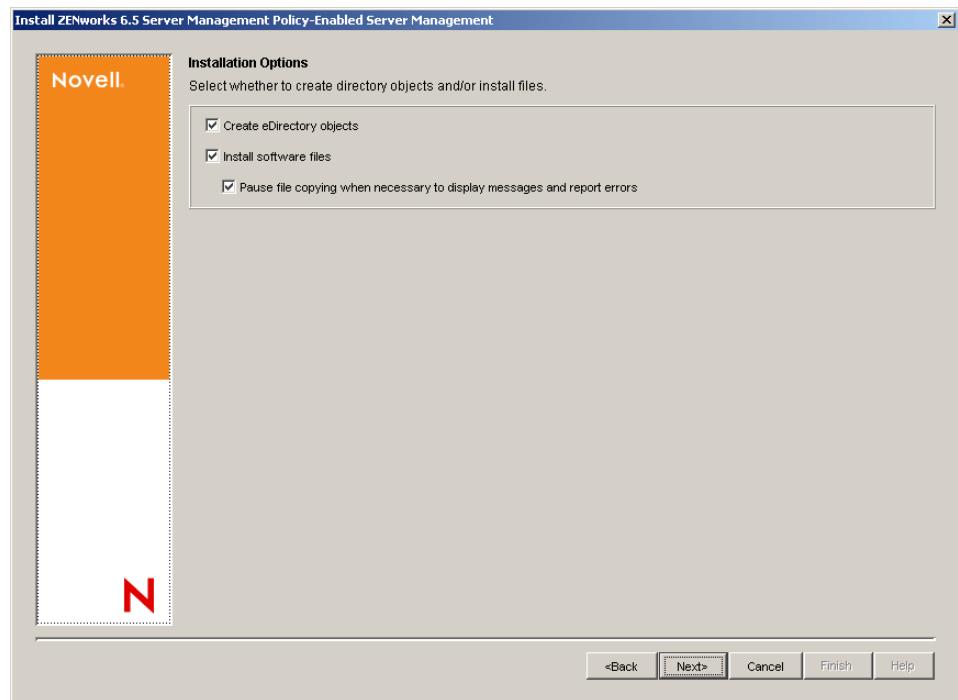
プログラムがロードすると、最初のインストールページとして [License Agreement] ページが表示されます。



4 ソフトウェア使用許諾契約に合意する場合は、[Accept]、[Next] の順にクリックして、[Installation Type] ページを表示します。合意しない場合は、[Decline]、[Cancel] の順にクリックして終了します。



5 [Installation Type] ページで、[Next] をクリックして新規インストールを実行し、[Installation Options] ページを表示します。

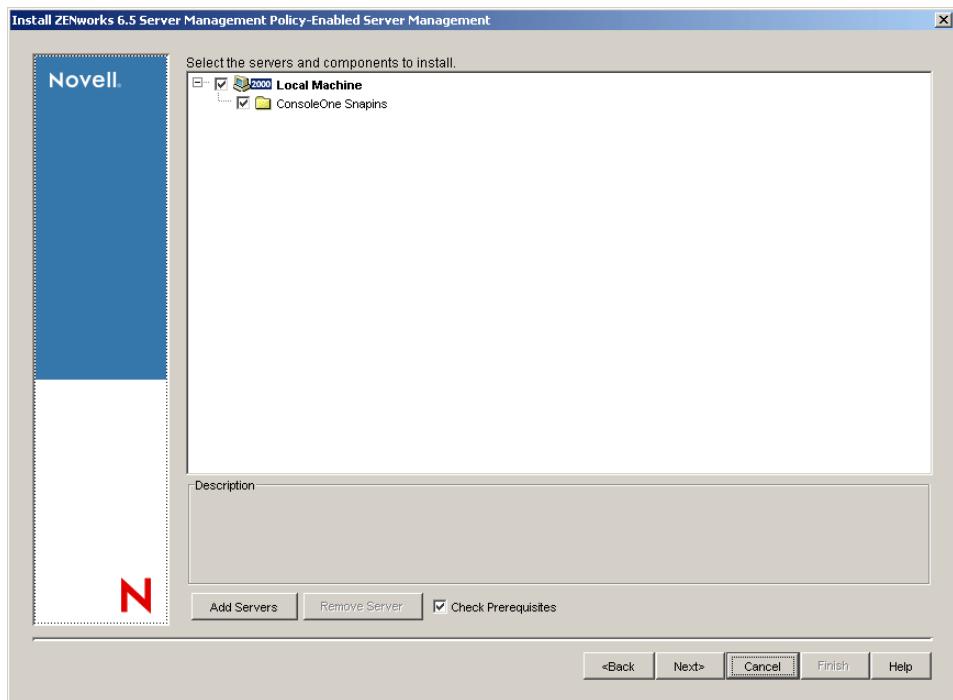


6 [Installation Options] ページで、[Create eDirectory Objects] オプションをクリックしてボックスを選択解除し、[Next] をクリックして [Select the servers and components to install] ページを表示します。

ConsoleOne スナップインをアップグレードするのにツリーにアクセスする必要はありません。

ConsoleOne スナップインをインストールする場合、[Install Software Files] オプションを選択する必要があります。

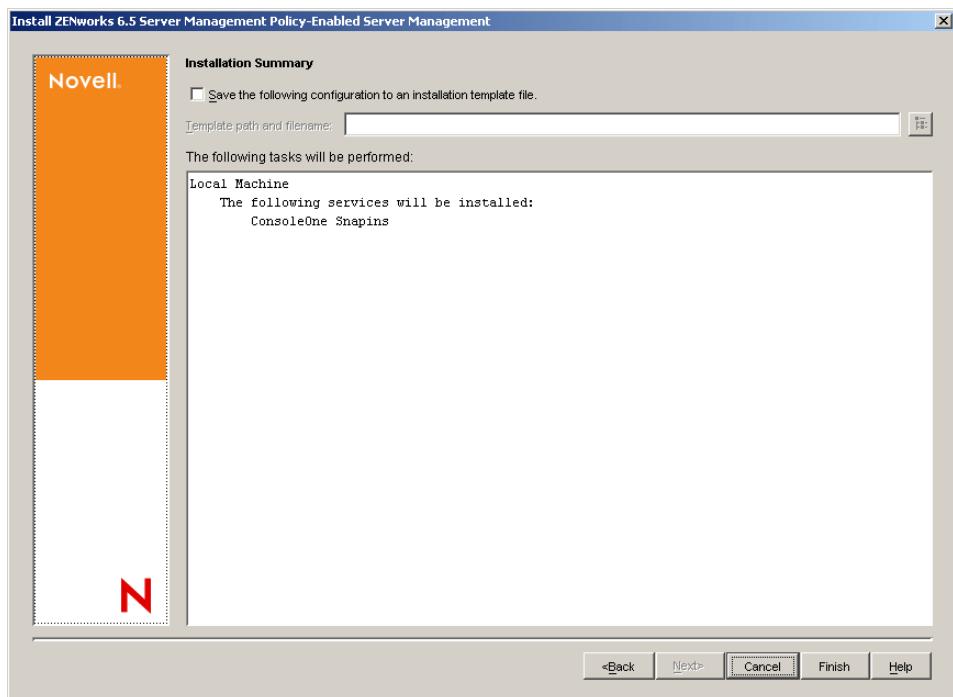
[Pause file copying when necessary to display messages and report errors]
オプションは、必須ではありません。



[Select the servers and components to install] ページで、[Local Machine] オプションの [ConsoleOne Snap-Ins] チェックボックスがオンになります。

7 [Next] をクリックし、[Installation Summary] ページを表示します。

[Local Machine] は、このプログラムが実行されているワークステーションまたはサーバです。



- 8 [Finish] をクリックして、ConsoleOne スナップインをローカルコンピュータにインストールします。
- 9 ConsoleOne スナップインをアップグレードする必要のある各コンピュータに対し、[ステップ 1](#) から [ステップ 8](#) までの手順を実行します。
- 10 GUI インストールプログラムを使ったアップグレードの一環として ConsoleOne スナップインをインストールした場合は、[211 ページの「Novell iManager プラグインのアップグレード」](#)に進みます。
または、ソフトウェアパッケージを使ったアップグレードの一環として ConsoleOne スナップインをインストールした場合は、[Server Software Package によるアップグレードの 229 ページの「ステップ 13」](#)に進みます。

Novell iManager プラグインのアップグレード

ネットワーク内に Novell iManager 2.0.2 をインストールしており、iManager プラグインを ZENworks 6.5 にアップグレードする必要がある場合、[90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」](#)の手順を実行してから、この節の手順を実行してください。

[211 ページの「Policy and Distribution Services の開始」](#)に進みます。

Policy and Distribution Services の開始

アップグレードの完了後に Policy and Distribution Services を自動的に開始するよう選択しなかった場合、ZENworks for Servers 3.x のアップグレードを実行したサーバで Policy and Distribution Services を開始する必要があります。

- 1 ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードしたサーバで、ご自分のプラットフォームに該当する手順を実行します。

サーバプラットフォーム	手順
Windows 2000/2003	<p>各 Windows サーバに対して次の操作を行います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. [コントロール パネル] を開きます。2. Windows 2000/2003 で、[管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。3. Novell ZENworks Service Manager サービスを開始します。 <p>Novell Sybase Database サービスは、インストールプログラムにより自動的に開始されます。</p>
NetWare 5.1 および NetWare 6.x	<p>ZENworks Server Management を起動するには、サーバのコンソールプロンプトで次のコマンドを入力します。</p> <p>sys:\zenworks\pds\smanager\zfs.ncf</p> <p>この方法で ZENworks Server Management を起動し、サーバを再起動した後は、ソフトウェアを起動するのにフルパスを入力する必要はありません。「zfs」とだけ入力します。</p> <p>データベースは、アップグレードプログラムにより自動的に起動します。</p>

- 2 アップグレードした各サーバについて、[ステップ 1](#) を実行します。

3 NetWare サーバをアップグレードした場合、212 ページの「NetWare サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認」に進みます。

Windows サーバだけをアップグレードした場合は、212 ページの「Windows サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認」に進みます。

NetWare サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認

- 1 対象になるサーバのコンソールで <Ctrl>+<Esc> を押し、ロードされたソフトウェアプログラムを表示します。
- 2 ZENworks Server Management のアイテムが表示されない場合、¥zenworks¥zfs-startup. log ファイルを確認します。このファイルには、エージェントが起動しなかった理由に関する説明が含まれています。

この情報を使って、Policy and Distribution Services をサーバに再インストールします。

Zfs-startup. log は、起動に関する問題を記録するためだけに使用されます。

- 3 ASA 8.0.2 アイテムが表示されない場合、¥zenworks¥zfs-startup. log ファイルを確認します。このファイルには、Sybase エンジンデータベースが起動しなかった理由に関する説明が含まれています。

この情報を使って、Server Management データベースをサーバに再インストールします。

- 4 各 NetWare サーバに対してステップ 1 からステップ 3 までを実行します。
- 5 必要に応じてアップグレードプログラムに戻ります (196 ページの「アップグレード手順」を参照)。
- 6 Windows サーバをアップグレードした場合、212 ページの「Windows サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認」に進みます。

File Distribution が存在する場合、基準の再設定が必要になることがあります。その場合には、213 ページの「File Distribution の基準の再設定」に進みます。

Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、217 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード」に進みます。

ソフトウェアパッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」に進みます。

前の条件に当てはまらない場合、NetWare および Windows サーバのアップグレードは完了です。

Windows サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認

- 1 対象になるサーバで [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、次のサービスが実行しているかどうかを確認します。

Novell ZENworks Service Manager

Novell Inventory Service

Novell Database - Sybase

2 サービスが表示されない場合、次の手順を実行します。

2a [サービス] ウィンドウを閉じます。

2b [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

```
zenworks¥pds¥bin¥dservices.bat
```

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが停止し、これらのサービスの登録が取り消されます。この操作は、サービスを登録できるよう、クリーンな状態を確保するために実行されます。

2c [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

```
zenworks¥pds¥bin¥sservices.bat
```

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが登録されます。

2d [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、サービスを開始します。

3 各 Windows サーバに対して、**ステップ 1** と **ステップ 2** を実行します。

4 必要に応じてアップグレードプログラムに戻ります (196 ページの「**アップグレード手順**」を参照)。

5 File Distribution が存在する場合、基準の再設定が必要になることがあります。その場合には、213 ページの「**File Distribution の基準の再設定**」に進みます。

Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、217 ページの「**Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード**」に進みます。

ソフトウェアパッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、221 ページの「**Server Software Package を使用したアップグレード**」に進みます。

前の条件に当てはまらない場合、NetWare および Windows サーバのアップグレードは完了です。

File Distribution の基準の再設定

ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした後、アップグレードされた Distributor および Subscriber ソフトウェアにのみ含まれる新しいコードを組み込むために、ZENworks for Servers 3.x の File Distribution すべてについて、基準を再設定する必要があります。このタスクを実行しない場合、構築時または抽出時に "Local class compatibility..." エラーが表示され、File Distribution は処理に失敗します。

ただし、このアップグレードを実行する前に ZENworks for Servers 3.0.2 を Interim Release 2 にアップグレードした場合、その時点でこれらの Distribution の基準を再設定していることになります。したがって、NetWare と Windows サーバのアップグレードを完了していることになります。

Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、217 ページの「**Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード**」に進みます。ソフトウェアパッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、221 ページの「**Server Software Package を使用したアップグレード**」に進みます。

基準の設定に関する概要

初めて File Distribution が送信されるとき、その Distribution のすべての内容が送信されます。これは、"基準" Distribution と呼ばれます。ネットワークのトラフィック量および再構築に要する時間を最小限に抑えるため、File Distribution は、Distribution 全体ではなく、"デルタ" を送信することができます。デルタとは、Distribution の最後のバージョンと新しいバージョンとの差異で構成されるファイルのことです。

デルタは、ネットワークのトラフィック量および帯域幅の使用率を最小限に抑えるのに役立ちます。頻繁に変更されるが、それほど大きな変更が実行されることのないきわめて大容量の Distribution の場合に特に役立ちます。

Distribution 全体を再構築して送信する前に構築および送信されるデルタの数を、Distribution オブジェクトのプロパティの [General] タブに表示される [Maximum Revisions] フィールドを使って指定することができます。このフィールドのデフォルトの数値は 10 です。

このデフォルト値を使用した場合、次に実行される 9 回のリビジョンはすべてデルタになります。そして 10 回目のリビジョンが新しい基準になり、Distribution 全体が再構築されて送信されます。この結果、この Distribution に関するすべての一時ファイルが Distributor の作業ディレクトリから削除され、新しい基準ファイルによって置換されます。この後も、基準 - デルタのサイクルが繰り返し実行されます。

Distribution の基準の再設定

File Distribution の基準を再設定するには、次の 2 つの方法があります。

- ◆ [Maximum Revisions] フィールドの値を 1 に戻す方法

この値を 1 に戻すことにより、次に File Distribution が構築されたときに新しい基準が作成されます。

- ◆ Distribution のディレクトリを削除する方法

次に Distribution の構築スケジュールが開始したときに、File Distribution の基準が自動的に再設定されます。

いずれの方法でも、次に File Distribution が構築されるときに基準の再設定が実行されます。したがって、基準の再設定を実行するタイミングを短縮するのに、Distribution の再構築の強制実行が必要になる場合があります。

重要: 50 を超える File Distribution が存在する場合、すべての Distribution の基準を一度に再設定しないでください。一度に再設定を実行すると、Distributor で多数の作業を同時に実行することが必要になる場合があります。そして、これらの Distribution の送信スケジュールによっては、同時にすべての新しい基準が送信されるため、ネットワークのトラフィック量が増加することがあります。

Subscriber が、基準の再設定された複数の File Distribution を受信して抽出している場合、Subscriber に大きな負荷がかかることがあります。

File Distribution の基準再設定と送信を同時に実行する場合、10 個から 20 個の Distribution を含んだ小さなグループで実行するよう計画することをお勧めします。

File Distribution の基準を再設定するには、次の 2 つの方法を確認して、最も適した方法を選択します。

- ◆ 215 ページの「[Maximum Revisions] の値を 1 に変更する方法」
- ◆ 216 ページの「Distribution のディレクトリを削除する方法」

[Maximum Revisions] の値を 1 に変更する方法

- 1 ConsoleOne で次の操作を実行します。
 - 1a File Distribution オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
 - 1b [General Settings] タブをクリックします。
 - 1c [Maximum Revisions] フィールドの現在の値を記録する場合は、その値をメモします。

この値は、Distribution ごとに異なる可能性があるため、複数の Distribution オブジェクトを選択してその値を変更することはできません。
 - 1d [Maximum Revisions] の値を 1 に変更します。
 - 1e [OK] をクリックして、Distribution のプロパティを閉じます。
- 2 iManager で、[Run Immediately] に設定されていない各構築スケジュールについて、スケジュールを直ちに開始する場合、次の手順を実行します。これ以外の場合は、**ステップ 3** に進みます。
 - 2a ZENworks Server Management の役割で、[Remote Web Console] をクリックします。
 - 2b **ステップ 1d** で変更した File Distribution の 1 つを所有する Distributor を参照して選択し、[OK] をクリックします。
 - 2c [Distributions] タブの [Build Distribution] をクリックします。
 - 2d 再構築する File Distribution を選択し、[OK] をクリックします。
 - 2e [OK] をクリックして、選択されている Distribution の構築を開始します。

最大リビジョンの値が 1 に設定された各 File Distribution が、新しい基準として再構築されます。
 - 2f 前の手順で、最大リビジョンの値を 1 に変更した File Distribution の 1 つを所有する各 Distributor に対し、**ステップ 2a** から **ステップ 2e** までの手順を実行します。
- 3 File Distribution の再構築後、ConsoleOne で次の操作を実行します。
 - 3a File Distribution オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
 - 3b [General Settings] タブをクリックします。
 - 3c [Maximum Revisions] フィールドの現在の値を記録する場合は、その値をメモします。
 - 3d 最大リビジョンの値を 1 から元の値に戻します。
 - 3e [OK] をクリックして、Distribution のプロパティを閉じます。
 - 3f 各 File Distribution に対して **ステップ 3a** から **ステップ 3e** までの手順を実行します。
 - 3g File Distribution を所有する Distributor オブジェクトを複数選択します。
 - 3h 選択した Distributor オブジェクトを右クリックし、[Refresh Distributors] をクリックします。

File Distribution の基準の再設定が完了しました。この File Distribution は、設定されている Channel スケジュールおよび送信スケジュールに従って送信および抽出されます。

Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、[217 ページ](#) の「Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード」に進みます。ソフトウェア パッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、[221 ページ](#) の「Server Software Package を使用したアップグレード」に進みます。

Distribution のディレクトリを削除する方法

Policy and Distribution Services のアップグレードを完了しました。

- 1 ConsoleOne で、基準を再設定する必要のある File Distribution の 1 つを所有する Distributor の Distributor オブジェクトを右クリックし、[Properties] を選択します。
- 2 [General] > [Settings] タブの順に選択して表示される、Distributor の作業ディレクトリをメモします。
- 3 [Distributions] タブに表示される各 File Distribution の識別名をメモし、Distributor のプロパティを閉じます。
- 4 基準の再設定が必要な File Distribution の 1 つを所有する各 Distributor に対して、[ステップ 1](#) から [ステップ 3](#) までの手順を実行します。
- 5 Distributor の作業ディレクトリに存在する、メモした File Distribution の識別名に合致する全ディレクトリを、ファイル管理アプリケーションを使って削除します。
- 6 削除する必要があるとメモした File Distribution が存在する各 Distributor サーバに対し、[ステップ 5](#) を実行します。
- 7 ConsoleOne でこれらの Distributor を複数選択して右クリックし、[Refresh Distributors] をクリックします。
- 8 [Run Immediately] に設定されていない各構築スケジュールについて、即座にスケジュールを開始する場合には、iManager で次の操作を実行します。
 - 8a ZENworks Server Management の役割で、[Remote Web Console] をクリックします。
 - 8b 基準を再設定する File Distribution の 1 つを所有する Distributor を参照して選択し、[OK] をクリックします。
 - 8c [Distributions] タブの [Build Distribution] をクリックします。
 - 8d 再構築する File Distribution を選択し、[OK] をクリックします。
 - 8e [OK] をクリックして、選択されている Distribution の構築を開始します。
 - 8f 基準を再設定する File Distribution の 1 つを所有する各 Distributor に対して、[ステップ 8a](#) から [ステップ 8e](#) までの手順を実行します。

File Distribution の基準の再設定が完了しました。これらの Distribution の構築スケジュールが次に開始されたときに、新しい基準バージョンが構築されます。その後、これらのバージョンは、設定された Channel スケジュールおよび送信スケジュールに従って送信および抽出されます。

次のいずれかの操作を行います。

- ◆ ZENworks for Servers 2 Server Software Package をバージョン 6.5 に変換する必要がある場合は、217 ページの「以前のバージョンの Server Software Package の変換」に進みます。
- ◆ Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、217 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード」に進みます。
- ◆ ソフトウェアパッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」に進みます。

以前のバージョンの Server Software Package の変換

ZENworks for Servers 2 で作成した Server Software Package を ZENworks 6.5 でも使用する場合、ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした後に、この Server Software Package をバージョン 6.5 に変換する必要があります。手順については、Novell のサポート Web サイト (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2962260.htm>) を参照してください。

ソフトウェアパッケージの変換後、次のいずれかの手順を実行します。

- ◆ Linux または Solaris の Distributor サーバをアップグレードする場合は、217 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード」に進みます。
- ◆ ソフトウェアパッケージを使った Subscriber サーバのアップグレードを計画した場合は、221 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」に進みます。

Linux サーバおよび Solaris サーバのアップグレード

Linux および Solaris の Distributor オブジェクトと Subscriber オブジェクトが存在するツリーで、すでにスキーマが拡張されていることが前提になります。まだ拡張していない場合には、197 ページの「スキーマの拡張」の手順を実行してから、この節の手順を続行してください。

Linux サーバおよび Solaris サーバを ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには次のタスクを実行します。

1. 217 ページの「Linux または Solaris オペレーティングシステムのアップグレード」
2. 219 ページの「Distributor および Subscriber オブジェクトのアップグレード」
3. 219 ページの「Linux および Solaris サーバのアップグレード」

Linux または Solaris オペレーティングシステムのアップグレード

ほとんどの場合、ZENworks for Servers 3.x を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする前に、Linux または Solaris オペレーティングシステムをアップグレードする必要があります。

次の表は、サポートされている Linux および Solaris オペレーティングシステムの該当するバージョンを示しています。

ZENworks for Servers 3.0.2	ZENworks 6.5 Server Management
Red Hat Linux 7.1、7.2、7.3、8、および9	なし
Red Hat Linux Advanced Server 2.1	Red Hat Linux Advanced Server 2.1
Red Hat Linux Enterprise Server 2.1	Red Hat Linux Enterprise Server 2.1
Red Hat Enterprise Linux AS 2	Red Hat Enterprise Linux AS 3
Red Hat Enterprise Linux ES 2	Red Hat Enterprise Linux ES 3
Solaris 8	Solaris 9

Red Hat Linux Advanced Server 2.1 および Red Hat Linux Enterprise Server 2.1 オペレーティングシステムは、ZENworks の両方のバージョンでサポートされています。したがって、Red Hat Linux Advanced Server 2.1 または Red Hat Linux Enterprise Server 2.1 オペレーティングシステムのいずれかに ZENworks for Servers 3.x がインストールされている場合、[219 ページの「Distributor および Subscriber オブジェクトのアップグレード」](#)に進みます。

SUSE LINUX は、ZENworks for Servers 3.x ではサポートされていません。ただし、次に示す Linux オペレーティングシステムは、ZENworks 6.5 Server Management でサポートされています。

SUSE® LINUX Enterprise Server 8 および 9

SUSE LINUX Standard Server 8 および 9

サポートされていない Linux オペレーティングシステムの場合は、代わりに SUSE LINUX のいずれかのバージョンを使用できます。ただし、SUSE LINUX と Red Hat Linux 間ではファイルシステムが異なるため、新たに ZENworks 6.5 Server Management をインストールする必要があります。

Red Hat Linux 7.1、7.2、7.3、8 または 9 を実行するコンピュータの ZENworks for Servers 3.x をアップグレードするには、サポートされている Red Hat オペレーティングシステムにアップグレードする必要があります。

ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードできるよう Linux および Solaris サーバを準備するには

- 1 サポートされていない Linux または Solaris オペレーティングシステムをお使いの場合、ZENworks 6.5 Server Management がサポートしているバージョンにアップグレードします。

警告：Linux または Solaris オペレーティングシステムをアップグレードする際、ZENworks ソフトウェアおよびファイル（特に Distribution ファイル）をアップグレード用に保持できるよう、ファイルシステムを維持することがきわめて重要になります。ファイルシステムを維持しない場合、新たに ZENworks 6.5 Server Management をインストールする必要があります。この場合、バージョン 3.x の Linux または Solaris の Distributor によって所有されていたすべての Distribution は失われます。

- 2 [219 ページの「Distributor および Subscriber オブジェクトのアップグレード」](#)に進みます。

Distributor および Subscriber オブジェクトのアップグレード

まず、GUI アップグレードプログラムを使って Distributor および Subscriber オブジェクトをアップグレードする必要があります。NetWare または Windows プラットフォームを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする際にすでにこのタスクを実行している場合は、219 ページの「Linux および Solaris サーバのアップグレード」に進みます。まだ実行していない場合は、次の操作を実行します。

1 195 ページの「NetWare サーバおよび Windows サーバのアップグレード」で説明されている手順を実行します。ただし、次の作業を追加で実行する必要があります。

- ◆ [eDirectory Tree for Upgrading Objects] ページ：デフォルトでは、[Update the Subscriber Files] チェックボックスは選択されています。オブジェクトだけをアップグレードする必要があるので、このチェックボックスの選択を解除します。
- ◆ [Select the Objects to Upgrade] ページ：アップグレードプログラムは、このページの一番下で選択されているチェックボックスに基づいて、アップグレード候補の一覧を表示します。必要なチェックボックスが選択されていることを確認します。たとえば、[NetWare] および [Windows] のチェックボックスの選択を解除して、[Linux/Solaris/Unknown] チェックボックスが選択されていることを確認します。

ツリー内のすべての Linux および Solaris の Distributor サーバと Subscriber サーバがこのページに表示されます。アップグレードする各 Linux サーバまたは Solaris サーバの [Upgrade] 列に表示されたチェックボックスをクリックします。

- ◆ **段階アップグレードの問題点：**Linux および Solaris サーバの段階的なアップグレードを実行している場合、このタイミングでアップグレードするサーバについてのみ、[Upgrade] 列に表示されるチェックボックスを選択します。

2 219 ページの「Linux および Solaris サーバのアップグレード」に進みます。

Linux および Solaris サーバのアップグレード

Linux および Solaris サーバのスクリプトにより、ZENworks for Servers 3.x ソフトウェアの存在が検出され、アップグレードするか、インストールするかを確認するメッセージが表示されます。アップグレードオプションの使用を推奨します。このオプションの手順については次で説明します。

重要：まず Distributor サーバをアップグレードしてから、Subscriber サーバをアップグレードすることを強くお勧めします。この手順で実行しない場合、バージョン 3.0.2 の Distribution がバージョン 6.5 の Subscriber に送信されることになり、この処理は失敗します。

Linux サーバまたは Solaris サーバをアップグレードするには

- 1 root としてログインします。
- 2 Linux または Solaris サーバで X ウィンドウを実行している場合、XTerm ウィンドウを開きます。
- 3 ZENworks 6.5 Server Management Program CD をサーバの CD-ROM ドライブに挿入します。
- 4 インストールに関する最新情報について記述した readme ファイルを確認します。

Readme_servers.html が ZENworks 6.5 Server Management Program CD の ¥readmes¥en ディレクトリに存在します。

5 Policy and Distribution Services のスクリプトを実行するには、XTerm ウィンドウに次のいずれかのコマンドを入力します。

Red Hat Linux: /mnt/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-install

SUSE LINUX: /media/cdrom/ZfS/TedPol/platform/zfs-pds-install

platform は Linux または Solaris のいずれかです。

6 <Enter> キーを押して使用許諾契約を表示し、<Spacebar> キーを押して使用許諾契約をスクロールします。次に「**y**」と入力して <Enter> キーを押し、使用許諾契約に同意します。

スクリプトが実行され、j2re RPM ファイルまたは PKG ファイルからソフトウェアがインストールされます。

スクリプトにより、以前のバージョンの Policy and Distribution Services がサーバにインストールされていることが検出され、次のメッセージが表示されます。

Would you like to upgrade or reinstall?(u/r)

7 アップグレードするには、「**u**」と入力し、<Enter> キーを押します。

サーバの現在の Policy and Distribution Services の設定を保持する場合には、アップグレードを実行することをお勧めします。これ以降の手順に関する説明は、アップグレードオプションを選択したことを前提としています。

Linux のインストールの場合、サーバのアップグレード中、次のメッセージが表示されます（該当する場合はエラーも含む）。

```
Installing the novell-zen-zfs RPM...
Preparing...#####
1:novell-zen-zfs ##### [100%]
```

エラーメッセージはこの時点で表示されます。エラーメッセージが表示された後、次のメッセージを表示することによりアップグレードは終了します。

```
ZENworks Server Management Policy and Distribution Services has been
restarted.
You may check its status by running:
/etc/init.d/novell-zfs status
You can reconfigure this service by running:
/opt/novell/bin/zfs-pds-configure
```

8 Policy and Distribution Services が実行されていることを確認するには、次のように入力します。

/etc/init.d/novell-zfs status

Linux または Solaris サーバで、Policy and Distribution Services が使用できるようになります。

9 各 Distributor サーバまたは Subscriber サーバに対して、**ステップ 1** から **ステップ 8** までの手順を実行します。

10 Remote Management をアップグレードするには、13 章 251 ページの「**Remote Management**」を参照してください。

Management and Monitoring Services をアップグレードするには、14 章 255 ページの「**Management and Monitoring Services**」を参照してください。

その必要がない場合、Policy and Distribution Services のアップグレード作業は完了です。

Server Software Package を使用したアップグレード

Subscriber ソフトウェアがインストールされているすべてのサポート対象プラットフォーム (NetWare、Windows、Linux、および Solaris) の Subscriber サーバを、この方法を実行して自動的にアップグレードすることができます。

- ◆ 221 ページの「アップグレードの概念と問題点」
- ◆ 225 ページの「Server Software Package によるアップグレードの準備」
- ◆ 226 ページの「Server Software Package によるアップグレード」

アップグレードの概念と問題点

Server Software Package によるアップグレード方法を使用して、ZENworks for Servers 3.0.2 Interim Release 1 Subscriber サーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードできます。Software Package Distribution を作成するための zfs65_polydist.cpk アップグレードファイルは、ZENworks 6.5 Companion 2 CD に収録されています。このファイルを、アップグレードするすべての Subscriber サーバに送信します。

次の項目を確認することにより、アップグレードの実行内容を把握し、関連する問題点を認識します。

- ◆ 221 ページの「Distributor の優先的なアップグレード」
- ◆ 221 ページの「Subscriber オブジェクトの優先的なアップグレード」
- ◆ 222 ページの「Interim Release 2 の要件」
- ◆ 222 ページの「Upgrade Server Software Package が実行する項目」
- ◆ 223 ページの「Upgrade Server Software Package が実行しない項目」
- ◆ 223 ページの「複数ツリーのサーバのアップグレード」
- ◆ 223 ページの「アップグレードに関するクラスタ問題」

Distributor の優先的なアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management Program CD から実行される GUI インストールプログラムの [Policy and Distribution ServicesUpgrade] メニューオプションを使って、まずすべての Distributor サーバをアップグレードする必要があります。

ZENworks for Servers 3.x Distributor が ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードされた後、Distributor は、Distribution の送信を実行する前に、構築時にその Distribution を ZENworks 6.5 Server Management Distribution に変換します。

Subscriber オブジェクトの優先的なアップグレード

Server Software Package によるアップグレード方法では、Subscriber オブジェクトはアップグレードされません。Subscriber オブジェクトをアップグレードするには、最初に GUI アップグレードプログラムを使用する必要があります。

Server Software Package によるアップグレード方法を使用する場合は、次の問題が発生します。

- ◆ アップグレード時に、Subscriber によって使用されているパスワードが、Subscriber オブジェクトと、Subscriber サーバにインストールされている Tiered Electronic Distribution ソフトウェアの両方でリセットされます。

- ◆ GUI アップグレードプログラムを使用して Subscriber オブジェクトを最初にアップグレードする必要があるため、.cpk ファイルを使用して Server Management ソフトウェアがアップグレードされるまで、Subscriber のパスワードが一致しなくなります。

オブジェクトをアップグレードしてからソフトウェアをアップグレードするまでの間、Subscriber のパスワードが一致しないため、次の Server Management の機能は動作しません。

Desktop Application Distribution

信頼されるツリーの使用

これらの機能を使用するには、eDirectory にアクセスする必要があるため、Subscriber のパスワードが必要になります。

したがって、オブジェクトをアップグレードしてからソフトウェアをアップグレードするまでの時間をできるだけ短くするようにアップグレードを計画することをお勧めします。

重要：段階的にアップグレードする場合は、すべての Subscriber オブジェクトを同時にアップグレードしないでください。Subscriber サーバのソフトウェアのアップグレードを計画している Subscriber オブジェクトのみをアップグレードします。

Interim Release 2 の要件

Server Software Package による方法を使用して更新する Subscriber サーバにインストールするには、ZENworks for Servers 3.0.2（または3 SP2）の Interim Release 2 ソフトウェアアップデートが必要です。

手順については、[技術情報 2968433 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm) を参照してください。

Upgrade Server Software Package が実行する項目

- ◆ すべての作業ディレクトリを保持し、ZENworks for Servers 3.x で作成された Distribution をアップグレードして、バージョン 6.5 で使用できるようにします。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x がインストールされているインストールパスを使って、ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアをアップグレードします。

ファイルは常に ZENworks ディレクトリにコピーされ、新旧どちらのファイルもアップグレードファイルで置換されます。ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。ZENworks ディレクトリ内に存在する新旧いずれのファイルも置換されるのは、バージョン 6.5 のリリース以降に利用可能になったサポートパックのバージョン 3.0.2 ファイルを、それよりも古い日付のバージョン 6.5 ファイルを使って置換することにより、バージョン 6.5 用の適切なファイルをインストールする必要があるためです。

- ◆ ZENworks for Servers 3.x Policy Package Agent は、ZENworks 6.5 Server Management Policy/Package Agent に自動的にアップグレードされます。
- ◆ ConsoleOne がインストールされている Subscriber サーバの ConsoleOne® スナップインをアップグレードします。

要約するとソフトウェアパッケージは、オブジェクトをアップグレードして、Software Package Distribution が送信されるすべての Subscriber サーバにソフトウェアをインストールします。

Upgrade Server Software Package が実行しない項目

- ◆ このソフトウェアパッケージを使って Distributor をアップグレードすることはできません。このタスクは、インストールプログラムを使って実行する必要があります。
- ◆ このアップグレードソフトウェアは、ZENworks for Servers 3.x Novell eDirectory™ Subscriber オブジェクトをバージョン 6.5 にアップグレードしません。Subscriber オブジェクトをアップグレードするには、GUI アップグレードプログラムを使用する必要があります。
- ◆ このソフトウェアパッケージが、ZENworks for Servers 3.x のインストールされていないサーバで ZENworks 6.5 Server Management へのアップグレードを実行することはありません。このパッケージは、既存の ZENworks for Servers 3.x Subscriber オブジェクトとソフトウェアのみをアップグレードします。
- ◆ スキーマが自動的に拡張されることはありません。アップグレード.cpk ファイルを含む Software Package Distribution を送信できるよう Distributor をアップグレードするには、GUI インストールプログラムを使用してスキーマの拡張を完了している必要があります。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の ConsoleOne スナップインが、アップグレード中にローカルコンピュータにインストールされることはありません。アップグレードプログラムを終了した後、インストールプログラムを使ってこのタスクを実行する必要があります。Distributor をアップグレードするときに、すでにこのタスクを完了している場合があります。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の iManager 用プラグインが、アップグレード中にインストールされることはありません。アップグレードプログラムを終了した後、インストールプログラムのメニュー オプションを使ってこのタスクを実行する必要があります。Distributor をアップグレードするときに、すでにこのタスクを完了している場合があります。このタスクは、アップグレード手順でカバーされます。

要約すると、ZENworks for Servers 3.x がインストールされていないコンピュータにアップグレードプログラムを実行しても、ZENworks 6.5 Server Management がインストールされることはありません。.cpk アップグレードファイルを含む Software Package Distribution の送信先を特定するのに、ZENworks Subscriber オブジェクトが必要です。

複数ツリーのサーバのアップグレード

Software Package Distribution は、複数のツリーの Subscriber に送信することができます。したがって Software Package Distribution を使って、複数のツリーに存在する Subscriber サーバをアップグレードすることができます。

アップグレードに関するクラスタ問題

zfs65_polydist.cpk を、クラスタ環境にあるサーバにインストールしている場合、sys: ボリュームに書き込む必要があるすべてのファイルを更新できるよう、クラスタ内の各ノードに対して個別に .cpk ファイルをインストールする必要があります。

たとえば、次の情報が判明しています。

- ◆ Subscriber ソフトウェアは、クラスタの共有ボリュームに存在します。
- ◆ クラスタ内の各ノードに存在する sys:¥system¥zenworks.properties などのファイルを更新する必要があります。

- ◆ クラスタの共有ボリュームに存在するほとんどの Server Management ファイルが更新されます。
- ◆ クラスタ内のアクティブなサーバノードは、共有ボリュームから Subscriber ソフトウェアを実行します。
- ◆ 一度に1つのノードだけがSubscriberソフトウェアを実行できます(アクティブにクラスタを代表しているノード)。

クラスタのノードを更新するには、iManager を使用する方法と、Distribution の名前を変更する方法の 2 つの方法が存在します。

- ◆ 224 ページの「iManager を使用した更新」
- ◆ 224 ページの「Distribution の名前変更による更新」

iManager を使用した更新

すべてのクラスタノードを更新するには

- 1 .cpk ファイルを含む Distribution をアクティブなノードのサーバに送信することにより、このサーバを更新します。

この結果、sys:volume にコピーする必要のあるすべてのサポートパックファイルが更新されます。クラスタのボリュームにインストールされる.ncf ファイルなど、Tiered Electronic Distribution とポリシーソフトウェアも更新されます。

ソフトウェアパッケージのインストール中にファイル名と日付がチェックされるため、この.cpk ファイルを繰り返し実行した場合でも、クラスタの共有ボリュームにファイルが再インストールされることはありません。現時点で Subscriber ソフトウェアを実行しているノードだけが更新されます。

- 2 クラスタのフェールオーバー条件を作成するために、現在アクティブなノードのサーバを停止します。

この結果、事前に定義された順番で次にくるノードが Subscriber ソフトウェアを起動し、クラスタを引き継ぎます。

- 3 iManager で、[Zfs/Remote Web Console as the Subscriber] にアクセスし、[Distributions] タブ、> [Received Distributions] タブの順にクリックします。次に、.CPK ファイルを含む Distribution を選択して、[OK] > [Extract] の順にクリックします。

- 4 すべてのノードが更新されるまで、手順 2 から 3 を繰り返し実行します。

- 5 停止していた、クラスタ内の各サーバを再起動します。

プライマリノードのサーバが再び引き継ぐ必要があります。

Distribution の名前変更による更新

別 の方法で、すべてのクラスタノードを更新することができます。

- 1 .cpk ファイルを含む Distribution をアクティブなノードのサーバに送信することにより、このサーバを更新します。

この結果、sys:volume にコピーする必要のあるすべてのサポートパックファイルが更新されます。クラスタのボリュームにインストールされる.NCF ファイルなど、Tiered Electronic Distribution とポリシーソフトウェアも更新されます。

ソフトウェアパッケージのインストール中にファイル名と日付がチェックされるため、この.cpk ファイルを繰り返し実行した場合でも、クラスタの共有ボリュームにファイルが再インストールされることはありません。現時点で Subscriber ソフトウェアを実行しているノードだけが更新されます。

2 クラスタのフェールオーバー条件を作成するために、現在アクティブなノードのサーバを停止します。

この結果、事前に定義された順番で次にくるノードが Subscriber ソフトウェアを起動し、クラスタを引き継ぎます。

3 手順 1 で送信した Distribution の名前を変更します。

Distribution を再送信するときにその名前を変更しない場合、現在のノードが使用しているクラスタボリュームの Subscriber ソフトウェアは、それがすでに受信されている Distribution であり、再度受信して抽出する必要はないと判断します。

4 Distribution を送信します。

この結果、現在のノードがサポートパックで更新されます。

5 クラスタ内のすべての更新が完了するまで、手順 2 から 4 を繰り返します。

6 停止していた、クラスタ内の各サーバを再起動します。

プライマリノードのサーバが再び引き継ぐ必要があります。

Server Software Package によるアップグレードの準備

ZENworks for Servers 3.x サーバをアップグレードするために、次の作業が行われていることを確認します。

- 5 章 43 ページの「サーバの要件」に示されているサーバの要件を満たす。
- グラフィカルインターフェースプログラムオプションを使用して、すべての ZENworks for Servers 3.x Distributors オブジェクトおよびソフトウェアをアップグレードする (190 ページの「プログラム CD を使用したアップグレード」を参照)。
- 各 Subscriber 3.x サーバをバージョン 3.0.2 にアップグレードする (Novell ZENworks for Servers 3.0.2 のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/lg/zfs302/index.html>) を参照)。
- アップグレードされた各 Subscriber 3.0.2 サーバを Interim Release 2 にアップグレードする (技術情報 2968433 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm>) を参照)。
- グラフィカルインターフェースプログラムオプションを使用して、すべての ZENworks for Servers 3.0.2 サーバを Interim Release 1 Subscriber オブジェクトにアップグレードする (190 ページの「プログラム CD を使用したアップグレード」を参照)。
- Windows サーバ上にあるソフトウェアをアップグレードする場合、アップグレードの対象になる各 Windows サーバで [サービス] ウィンドウが閉じられていることを確認します。
ソフトウェアパッケージアップグレードにより、すべての ZENworks Server Management サービスが自動的に停止します。ただし、サーバのアップグレード中に [サービス] ウィンドウが開いたままになっている場合、Server Management のサービスを登録することができません。

Server Software Package によるアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management の Tiered Electronic Distribution コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy/Package Agent ソフトウェアを実行しているすべての Subscriber サーバにソフトウェアパッケージを自動的に配布してインストールすることができます。

Server Software Package (zfs65_polydist.cpk) を使ってアップグレードするには

- 1 ZENworks 6.5 Distributor サーバを選択し、zfs65_polydist.cpk を Distributor のファイルシステムにコピーします。

.cpk ファイルは次の場所に存在します。

ZENworks 6.5 Companion CD 2\zenworks server management - software pkgs\pds

- 2 Server Package Distribution を作成するときのために、zfs65_polydist.cpk をコピーした Distributor サーバの場所をメモします。

- 3 Subscriber をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 3a ソフトウェアパッケージでアップグレードする Subscriber サーバを特定します。

- 3b これらの Subscriber にサービスを提供するすべての Channel が [Inactive] に設定されていることを確認します。

Subscriber サーバがアップグレードされている間、このサーバで Distribution に関する操作を実行しないでください。

これらの Channel は、アップグレードソフトウェアパッケージが送信および抽出された後で、**ステップ 8** で [Active] にリセットします。

- 3c 各 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。

Subscriber の抽出スケジュールを設定する場合には注意が必要です。

スケジュールが [Run Immediate] に設定されており、Subscriber が Distributor と同じサーバで実行しているか、Subscriber が親であり、その下位の Subscriber に対して Distribution を転送している場合、アップデートプロセスに Java のアンロードが含まれるため、Subscriber を Distribution に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアンロードされると、Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが実行されるまで一時的に停止します。

したがって Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

4 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成します。

1つの Distribution オブジェクトにつき、1つのソフトウェアパッケージだけを設定できます。ソフトウェアを使って、単一の Distribution オブジェクト内で複数のソフトウェアパッケージを選択することができますが、この操作は、zfs65_polydist.cpk の配布時には許可されていません。ソフトウェアパッケージをインストールすると Java のアンロードと再ロードが実行され、これにより、残りのソフトウェアパッケージを単一の Distribution オブジェクトから正常に処理することができなくなる可能性があるためです。

Distribution の構築スケジュールを必ず設定します。

重要: まず、zfs65_polydist.cpk を含んだ Distribution を構築、送信、抽出、およびインストールする必要があります。その後で、他の Server Management コンポーネントをアップグレードするために、別のソフトウェアパッケージを含むこれ以外の Distribution を送信します。

Distribution の作成に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Policy and Distribution Services」を参照してください。

5 この Distribution の Channel をセットアップするには、次の手順を実行します。

5a このソフトウェアパッケージアップグレード専用の Channel を作成します。

5b Channel の送信スケジュールを [Immediate] に設定します。

5c Distribution をこの Channel に関連付けて、Distribution が Channel の送信スケジュールに基づいて送信されるようにします。

6 ステップ 3 で指定した Subscriber を Channel と関連付けます。

7 Distribution を送信します。

たとえば、Distribution を送信して抽出できるよう Distribution を構築するには、Distributor を更新します。手動で Distributor を更新する場合、Distributor の更新スケジュールを設定したり、変更したりする必要はありません。

Distributor を手動で更新するには、ConsoleOne で Distributor オブジェクトを右クリックして、[Refresh Distributor] を選択します。

Distribution の送信に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Policy and Distribution Services」を参照してください。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。この時点で、Subscriber サーバを ZENworks 6.5 にアップグレードする必要があります。

8 この Distribution プロセスで [Inactive] に設定した各 Channel を、[Active] にリセットします。

9 アップグレードが再びこれらの Subscribers に送信されることのないように、アップグレードソフトウェアパッケージの送信に使用する Channel を [Inactive] に設定します。

10 次に示すいずれかの方法を使って、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。

- ◆ iManager の [Tiered Electronic Distribution] ビューを使用して、インストール済みの全ソフトウェアパッケージの情報を表示します。
- ◆ インストールに Tiered Electronic Distribution を使用する場合、Server Management のレポート機能を使用して、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントのインストールが成功したか、失敗したかを確認します。
- ◆ Subscriber サーバに含まれる \$zenworks\$zfs-startup.log ファイルを使用して、インストールの成功または失敗を確認します。

各ソフトウェアパッケージが複数のコンポーネントで構成される場合があります。このとき、こうしたコンポーネントの一部のインストールが成功し、残りのインストールが失敗に終わる可能性があります。たとえば、ソフトウェアパッケージの要件に含まれていないサーバプラットフォームが、Distribution を受け取る 1 台のサーバに設定されている場合があります。したがって、インストールに含まれるソフトウェアパッケージが成功した場合、それは 1 つ以上のコンポーネントが正常にインストールされたことを示します。

いくつかのコンポーネントのインストールに失敗することもありますが、その場合でもソフトウェアパッケージのインストールは依然として成功したように見える可能性があります。そのため、特定のサーバで必要とされるコンポーネントが正常にインストールされているかどうかを検証するため、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントについて、インストールが成功したか、失敗したかを確認することをお勧めします。

11 サービスが開始していることを確認します。

11a NetWare サーバに Policy and Distribution Services エージェントがロードされていることの確認

- 1) 対象になるサーバのコンソールで <Ctrl>+<Esc> を押し、ロードされたソフトウェアプログラムを表示します。
- 2) ZENworks Server Management のアイテムが表示されない場合、\$zenworks\$zfs-startup.log ファイルを確認します。このファイルには、エージェントが起動しなかった理由に関する説明が含まれています。この情報を使って、Policy and Distribution Services をサーバに再インストールします。Zfs-startup.log は、起動に関する問題を記録するためだけに使用されます。

ASA 8.0.2 アイテムが表示されない場合、\$zenworks\$zfs-startup.log ファイルを確認します。このファイルには、Sybase エンジンデータベースが起動しなかった理由に関する説明が含まれています。この情報を使って、Server Management データベースをサーバに再インストールします。

- 4) アップグレードされた各 NetWare サーバに対し、必要に応じて 1) から 3) までを実行します。

11b Windows サーバに Policy and Distribution Services のエージェントがロードされていることの確認

- 1) 対象になるサーバで [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、[Novell ZENworks Service Manager] および [Novell Database - Sybase] サービスが実行しているかどうかを確認します。
- 2) これらのサービスが表示されない場合、次の手順を実行します。
 - a) [サービス] ウィンドウを閉じます。
 - b) [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

```
zenworks¥pds¥bin¥dservices.bat
```

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが停止し、これらのサービスの登録が取り消されます。この操作は、サービスを登録できるよう、クリーンな状態を確保するために実行されます。

- c) [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

```
zenworks¥pds¥bin¥sservices.bat
```

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが登録されます。

- d) [コントロール パネル] を開き、[管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックして、サービスを開始します。

- 3) アップグレードされた各 Windows サーバに対し、1) と 2) の手順を実行します。

12 スナップインのアップグレードが必要な ConsoleOne のインスタンスが存在する場合は、[207 ページの「ConsoleOne スナップインのアップグレード」](#)の手順を実行してから、[ステップ 13](#) に進みます。

13 Novell iManager 2.0.2 がネットワーク内のサーバにインストールされており、iManager プラグインを ZENworks 6.5 にアップグレードする必要がある場合、[90 ページの「Policy and Distribution Services の Web ベースの管理」](#)の手順を実行します。

その必要がない場合、Policy and Distribution Services のアップグレード作業は完了です。

12

Server Inventory

ここでは、Novell® ZENworks® for Servers 3.x の Server Inventory コンポーネントを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする手順について説明します。

アップグレードの前に、次の手順を実行します。

- 25 ページの「準備」で示されているインストールの要件がすべて満たされていることを確認します。
- 232 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」に記載されている項目を確認します。

ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management へと Server Inventory をアップグレードするには、次のいずれかの方法を選択します。

- ◆ 234 ページの「Program CDを使用したServer Inventoryコンポーネントのアップグレード」

ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management へと、次の Server Inventory コンポーネントをアップグレードする場合は、この方法を使用します。

- ◆ Inventory database (インベントリデータベース)
- ◆ Inventory server (インベントリサーバ)
- ◆ Inventory Agent
- ◆ Server Inventory ConsoleOne® スナップイン

この方法では、NetWare® および Windows サーバに対して、Windows の GUI プログラムが使用されます。

- ◆ 242 ページの「Server Software Packageを使用したServer Inventoryコンポーネントのアップグレード」

ZENworks for Servers 3.0.2 または ZENworks for Servers 3 SP2 から ZENworks 6.5 Server Management へと、次の Server Inventory コンポーネントを自動的にアップグレードする場合は、この方法を使用します。

- ◆ Inventory server (インベントリサーバ)
- ◆ Inventory Agent

重要: Server Software Package では、Novell eDirectory™ オブジェクトをアップグレードできません。

アップグレードを実行する前に確認すべき事項

Program CD または Server Software Package を使用して Server Inventory を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合は、事前に次の節で説明されている点を確認してください。

- ◆ [232 ページの「Inventory Server」](#)
- ◆ [233 ページの「Inventory Agent」](#)
- ◆ [233 ページの「管理コンソール」](#)

Inventory Server

- ◆ ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバが、インベントリデータを ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバにロールアップすることはできますが、ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバがインベントリデータを ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバにロールアップすることはできません。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory は、同じ Novell eDirectory ツリー上に存在する ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバとの後方互換性をサポートします。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合、上位から下位の順にアップグレードを実行する必要があります。インベントリデータのロールアップを実行する場合、ルートサーバ、中間サーバ、リーフサーバの順にアップグレードします。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバは、そのインベントリデータを ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバに送信できません。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバは、ZENworks for Servers 3.x インベントリ対象サーバの .str ファイルを処理できます。ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent はインベントリデータを ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバに送信することができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバは、ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバの .zip ファイルを処理できます。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバと ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバは、ZENworks 6.5 Server Management に移行された ZENworks for Servers 3.x ロールアップポリシーを使用することができます。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードしても、インベントリサーバの役割が変更されることはありません。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management ConsoleOne スナップインを使って、ZENworks for Servers 3.x と ZENworks 6.5 の両方のインベントリデータおよびインベントリオブジェクト (Inventory Service オブジェクト、データベースオブジェクト、Server Inventory ポリシー、ロールアップポリシー、およびデータベース場所ポリシーなど) を管理することができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Inventory インストールプログラムは、既存の ZENworks for Servers 3.x と ConsoleOne スナップインを自動的に ZENworks 6.5 にアップグレードします。ZENworks 6.5 Server Inventory に関する詳細については、[61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)を参照してください。

- ◆ インベントリサーバを ZENworks 6.5 にアップグレードした後、ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバの SCANDIR およびそのサブディレクトリに含まれる ZENworks for Servers 3.x の .str および .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバと ZENworks 6.5 インベントリサーバが、同じインベントリデータベースに直接インベントリデータを保存しないようにしてください。

Inventory Agent

- ◆ ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent は、インベントリデータを ZENworks 6.5 インベントリサーバに送信することができます。つまり、データを ZENworks 6.5 インベントリデータベースに保存することができます。
- ◆ ZENworks 6.5 Inventory Agent は、インベントリデータを ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバに送信できません。つまり、データを ZENworks for Servers 3.x インベントリデータベースに保存することができません。

インベントリサーバとインベントリデータベースのアップグレードを完了するまで、ZENworks 6.5 Inventory Agent にアップグレードしないでください。

- ◆ ZENworks for Servers 3.x または ZENworks 6.5 Server Management Inventory Agent は、ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードされた ZENworks for Servers 3.x Inventory ポリシーを使用できます。または、新たに作成された ZENworks 6.5 Server Management Inventory ポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent と ZENworks for Servers 3.x Policy and Distribution Services が同じコンピュータにインストールされている状態で、Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合、Inventory Agent も ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります。

管理コンソール

- ◆ ZENworks 6.5 Server Management ConsoleOne スナップインを使って、ZENworks for Servers 3.x と ZENworks 6.5 の両方のインベントリデータおよびインベントリオブジェクト (Inventory Service オブジェクト、データベースオブジェクト、Server Inventory ポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、およびデータベース場所ポリシーなど) を管理することができます。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x ConsoleOne スナップインを使って、ZENworks 6.5 Server Management のインベントリデータおよびインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks for Servers 3.x コンソールと ZENworks 6.5 Server Management コンソールの両方を使って、同じ ZENworks for Servers 3.x インベントリオブジェクトの設定を行わないでください。

Program CD を使用した Server Inventory コンポーネントのアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management の Program CD を使用すると、Inventory Server、Inventory Database、Inventory Agent、ZENworks 6.5 Server Management ConsoleOne スナップインの各 Server Inventory コンポーネントを ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードできます。

ただし、複数の Subscriber サーバに対して自動インストールを実行する場合は、Server Software Package を使ってこうしたサーバをアップグレードすることをお勧めします (242 ページの「[Server Software Package を使用した Server Inventory コンポーネントのアップグレード](#)」を参照)。

Server Inventory を ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには、次のタスクを順番に実行します。

1. 234 ページの「[アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業](#)」で説明されている作業を実行します。
2. 236 ページの「[Program CD を使用したインベントリデータベースのアップグレード](#)」
3. 238 ページの「[Program CD を使用したインベントリサーバのアップグレード](#)」
4. 240 ページの「[Program CD を使用した Inventory Agent のアップグレード](#)」
5. 241 ページの「[Program CD を使用した Server Inventory ConsoleOne スナップインのアップグレード](#)」
6. 241 ページの「[データベース移行後の作業](#)」で説明されている作業を実行します。

アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

232 ページの「[アップグレードを実行する前に確認すべき事項](#)」で説明されている項目を確認した後、Server Inventory コンポーネントを ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする前に、次の手順を実行する必要があります。

1 Inventory Service を停止します。

- ◆ NetWare インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「**sys:\system\invstop.ncf**」と入力します。

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、**sys:\system\invstop.ncf** ファイルで **Unload dbsrv8.nlm** 行をコメント化します。

- ◆ Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Inventory Service] を選択して [停止] をクリックします。

2 インベントリデータベースを停止します。

Sybase インベントリデータベースを停止するには

- ◆ NetWare の場合：Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
- ◆ Windows 2000/2003 の場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。

3 ZENworks Web サーバを停止します。

- ◆ Windows NT の場合：[コントロール パネル] の [サービス] をダブルクリックし、[Novell ZFS Web Server] を選択して [停止] をクリックします。
- ◆ Windows 2000 の場合：[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZFS Web Server] を選択して [停止] をクリックします。

4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

重要：このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Server Management のインストール中、すべての Java プロセスが停止できることを確認します。

5 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。

6 ZENworks for Servers 3.x データベースの確実なバックアップを作成してアーカイブしたことを確認します。

7 インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられたデータベースサーバのアップグレードが完了していることを確認します。

8 ConsoleOne から ZENworks for Servers 3.x データベースにアクセスされていないことを確認します。

9 推奨されている ZENworks 6.5 Server Inventory のシステム要件が満たされていることを確認します。詳細については、[5 章 43 ページの「サーバの要件」](#)を参照してください。

10 Policy and Distribution Services が ZENworks 6.5 にアップグレードされていることを確認します。Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 にアップグレードする方法の詳細については、[11 章 189 ページの「Policy and Distribution Services」](#)を参照してください。

11 キーマが ZENworks 6.5 に移行されていることを確認します。キーマは、ZENworks 6.5 Server Management のインストールプログラムを使用して移行できます。キーマを移行する方法の詳細については、[61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)の 61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」にある 64 ページの「スキーマの拡張」を参照してください。

12 Oracle を実行している ZENworks for Servers 3.x データベースが存在する場合、移行の前に次の作業を実行する必要があります。

12a データベースバッファキャッシュ用の実質的な容量として約 128MB を確保できるよう、*inventory_database_installation_path\init.ora\path\init.ora* の db_block_buffers の値を設定します。

db_block_size の値が 4096 である場合、最低値は 32768 となる必要があります。これにより、インベントリデータベースに対して 128MB のデータベースキャッシュが割り当てられます。db_block_buffers の現在の値が、128MB よりも大きい場合は、値を変更しないでください。

データベースの移行中、Oracle の SGA(Shared Global) メモリを 30 ~ 40% またはそれ以上に設定することを推奨します。

12b インベントリデータベースが稼動していることを確認します。

12c ORA-01555 およびロールバックセグメントに関連した他の問題によりデータベースの移行およびその他データの保存が失敗する場合は、より大きなロールバックセグメントが必要になります。

ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```
connect internal;

alter tablespace rbs add datafile
  'Inventory_database_installation_path\rbs2.ora' size 40M autoextend
  on next 50K maxsize 60M;

alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);

alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);

ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3
  ('Inventory_database_installation_path\log3.ora') SIZE 50M;
```

Program CD を使用したインベントリデータベースのアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management のインストール中に、Sybase のインストールを選択したが、データベースファイルの上書きは選択しなかった場合、サーバインストールプログラムは、既存の ZENworks for Servers 3.x データベースエンジンのみを自動的にアップグレードします。Sybase データベースのアップグレード中、既存のデータベースが移行可能であることを示すメッセージが表示されます。[Yes] を選択した場合、既存のデータベースは、新しい ZENworks 6.5 Server Management データベースファイルによって上書きされます。[No] を選択した場合、Inventory Service が初めて開始されたときにデータベースの移行が実行されます。

重要: すでにサーバソフトウェアパッケージを使って ZENworks for Servers 3 SP2 がインストールされている ZENworks for Server 3 NetWare Inventory サーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした場合、ZENworks for Servers 3 SP2 のインベントリサーバにインストールされたインベントリデータベースが検出されません。その結果、ZENworks 6.5 Server Management のインストール時に [Inventory Database] チェックボックスが自動選択されません。ZENworks 6.5 のインベントリデータベースをインストールするには、Server Management のインストール時に [Inventory Database] チェックボックスを手動で選択する必要があります。

ただし、次の操作を実行する必要があります。

- 1 ZENworks for Servers 3.x Oracle データベースオブジェクトが存在する場合、または Sybase データベースオブジェクトを手動で作成した場合、Inventory Migration ツールを使ってデータベースオブジェクトを手動で移行する必要があります。詳細については、[237 ページの「手動による ZENworks for Servers 3.x データベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。
- 2 Sybase を実行している ZENworks for Servers 3.x データベースが存在する場合、Sybase キャッシュの値 (" -c " パラメータ) を、サーバのメモリの 25% 以上に設定します。
 - ◆ NetWare データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. インベントリデータベースに対する接続をすべて終了します。
 2. Sybase サーバを終了します。
 3. sys:¥system ディレクトリの mgmtdbs.ncf ファイルを開きます。
 4. -c パラメータを変更します。たとえば、-c 128M に変更すると、128MB のキャッシュサイズが設定されます。

5. ファイルを保存します。
6. サーバコンソールから、インベントリデータベースをロードします。
「**MGMTDBS**」と入力します。

- ◆ Windows データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには
 1. Sybase サービスを停止します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
 2. データベースサーバの ...\$dbengine ディレクトリから ntdbconfig.exe ファイルを実行します。ntdbconfig.exe は、Windows NT/2000 サーバで Sybase を使用している ZENworks データベース向けの ZENworks データベース設定ユーティリティです。このユーティリティを使用して、Sybase サービスの再設定を実行することができます。
 3. -c パラメータを変更します。
 4. [OK] をクリックします。
 5. Sybase サービスを再起動します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。

3 MS SQL を実行している ZENworks for Servers 3.x データベースが存在する場合、40% 以上になるようメモリの値を変更します。

重要: Server Management インストールプログラムを実行することにより、複数のインベントリサーバおよびデータベースサーバを同時にアップグレードすることができます。

ただし、既存の ZENworks for Servers 3.x の Server Inventory ポリシー、データベース場所ポリシー、ロールアップポリシーは手動で移行する必要があります。手動でデータベースオブジェクトを作成した場合は、データベースオブジェクトも移行する必要があります。ポリシーの移行方法に関する詳細については、[237 ページの「手動による ZENworks for Servers 3.x データベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

手動による ZENworks for Servers 3.x データベースオブジェクトの移行

- 1 ZENworks 6.5 Server Management Server Inventory スナップインがインストールされた ConsoleOne で、[Tools] > [ZENworks Inventory] > [Inventory Migration] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックして、移行の対象になるデータベースオブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含んだコンテナを参照して選択します。
- 3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。
 - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナのデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。
[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
 - 3b 選択済みのコンテナに含まれる、移行対象のデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search for Database Objects] チェックボックスを選択します。
このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

3c [Find] をクリックします。

指定したコンテキストで検出されたすべての ZENworks for Servers 3.x データベースオブジェクトが、[Report] パネルに表示されます。

4 [Migrate] をクリックします。

5 [Close] をクリックします。

Program CD を使用したインベントリサーバのアップグレード

ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられているデータベースサーバのアップグレードが完了していることを確認します。

ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバのインストール先になるサーバがインストール要件を満たしている場合、ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバをインストールして、ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバをアップグレードすることができます。ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバのインストール方法に関する詳細については、[6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)を参照してください。ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバは、ZENworks for Servers 3.x と同じ役割セットをサポートしています。したがって、ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした場合でも、インベントリサーバの役割は保持されます。

重要: ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバと ZENworks for Servers 3.x データベースが接続している状態で、インベントリサーバかデータベースのいずれか一方のみを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした場合、関連付けられているコンポーネントも ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります (ZENworks for Servers 3.x Inventory Service と ZENworks 6.5 Server Management に準拠するデータベースとの間で情報をやり取りすることはできません。また、3.x データベースオブジェクトと 6.5 Inventory Service との間で情報をやり取りすることもできません)。

複数の ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバが ZENworks for Servers 3.x データベースサーバに接続している状態で、データベースサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合、関連付けられているすべての ZENworks for Servers 3.x インベントリサーバもアップグレードする必要があります。

The ZENworks 6.5 Server Management インストールプログラムは、ZENworks for Servers 3.x Inventory Service オブジェクトだけを自動的に ZENworks 6.5 Server Management に移行します。Inventory Service を開始する前に、ZENworks Inventory Migration ツールを使って、既存の ZENworks for Servers 3.x ポリシーを ZENworks 6.5 Server Management ポリシーに手動で移行する必要があります。詳細については、[238 ページの「手動による ZENworks for Servers 3.XInventory ポリシーの移行」](#)を参照してください。

重要: すでにサーバソフトウェアパッケージを使って ZENworks for Servers 3 SP2 がインストールされている ZENworks for Server 3 NetWare Inventory サーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードした場合、ZENworks for Servers 3 SP2 のインベントリサーバにインストールされた XML プロキシサーバが検出されません。その結果、ZENworks 6.5 Server Management のインストール時に [Inventory Proxy Server] チェックボックスが自動選択されません。ZENworks 6.5 の XML プロキシをインストールするには、Server Management のインストール時に [Inventory Proxy Server] チェックボックスを手動で選択する必要があります。

手動による ZENworks for Servers 3.XInventory ポリシーの移行

- 1 ZENworks 6.5 Server Management Server Inventory スナップインがインストールされた ConsoleOne で、[Tools] > [ZENworks Inventory] > [Inventory Migration] の順にクリックします。
- 2 [Browse] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。

3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。

3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの Inventory Service オブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。

[Search SubContainers] チェックボックスは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。

3b 選択済みのコンテナ内の Inventory Service オブジェクトに関連付けられた Inventory ポリシーを検索する場合は、[Search for Policies] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

3c [Find] をクリックします。

Inventory Service オブジェクトに関連付けられており、指定したコンテキスト内で検出されるすべての ZENworks for Servers 3.x Inventory ポリシーが、[Report] パネルに表示されます。

4 [Migrate] をクリックします。

5 [Close] をクリックします。

ZENworks 6.5 Inventory Agent は、Server Inventory ポリシーの代わりに、プライベートディクショナリと一般ディクショナリからソフトウェアスキャン設定ルールを取得します。ただし、ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent は、ソフトウェア設定については引き続き Server Inventory ポリシーを使用します。

ポリシーの移行後、次の手順を実行します。

1 (条件付き) ZENworks for Servers 3.0.2 Interim Release 2 (IR 2) がインストールされた ZENworks for Servers 3.0.2 NetWare データベースサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合は、次の作業を行う必要があります。

1a sys:¥system¥autoexec.ncf で、次の行を追加します。

```
sys:\system\mgmt dbs.ncf
```

1b データベースサーバを手動で起動します。

2 ZENworks 6.5 Server Management の Inventory Service を開始します。

Inventory Service を開始すると、Upgrade Service により、ZENworks for Servers 3.x データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 6.5 Server Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ (照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート) や Storer でデータベースにアクセスできます。

3 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 6.5 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。ディクショナリ更新ポリシーの作成方法に関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「ディクショナリ更新ポリシーの設定」を参照してください。

Program CD を使用した Inventory Agent のアップグレード

ZENworks 6.5 Inventory Agent がインベントリ対象サーバにインストールされると、既存の ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent はアンインストールされます。既存の ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent がアンインストールされない場合、手動でアンインストールする必要があります。ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent のアンインストールに関する詳細については、次の節を参照してください。

- ◆ 240 ページの「NetWare の ZENworks for Servers 3.X Inventory Agent のアンインストール」
- ◆ 240 ページの「Windows の ZENworks for Servers 3.X Inventory Agent のアンインストール」

NetWare の ZENworks for Servers 3.X Inventory Agent のアンインストール

- 1 サーバのコンソールプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
invagentstop.ncf  
java -exit
```

- 2 sys:¥system から次のファイルを削除します。

```
hwinvsrvc.ini  
invaid.nlm  
invsetup.ini  
mpkscan.nlm  
nwapi.bak  
nwapi.map  
smile.bak  
smile.map  
suppl.bak  
suppl.map
```

- 3 sys:¥java¥bin¥invnatve.nlm を削除します。

Windows の ZENworks for Servers 3.X Inventory Agent のアンインストール

- 1 ZENworks for Servers 3.x Inventory Agent サービスを停止します。

Windows NT のコントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[ZFS Policies] を選択して [停止] をクリックします。

Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[ZFS Policies] を選択して [停止] をクリックします。

- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Novell\ZenWorks レジストリエントリの InvAgentPath キーおよびPDSPPath キーの値を確認します。InvAgentPath キーには Inventory Agent のインストールディレクトリが含まれ、PDSPPath キーには Policy and Distribution Service のインストールディレクトリが含まれます。
- 3 InvAgentPath キーで指定された Inventory Agent のインストールディレクトリを削除します。
- 4 PDSPPath キーで指定されたディレクトリに存在するプラグインディレクトリから invagentnt.jar を削除します。

Program CD を使用した Server Inventory ConsoleOne スナップインのアップグレード

ZENworks 6.5 Server Management ConsoleOne スナップインをインストールするコンピュータがインストールの要件を満たしていれば、Server Inventory ConsoleOne スナップインを、ZENworks 6.5 Server Management インストールプログラムを使って ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 にアップグレードできます。インストール要件の詳細については、4 章 39 ページの「インストールコンピュータと管理ワークステーションの要件」を参照してください。ZENworks 6.5 Server Management ConsoleOne スナップインのインストール方法に関する詳細については、6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」の 61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

データベース移行後の作業

移行が完了し、Storer がファイルを処理できるようになったら、次の手順を実行します。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 インベントリデータベースが Oracle を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。
 - 2a *inventory_database_installation_path\start.sql* ファイルから既存のエントリを削除し、次のエントリを追加します。

```
SET ECHO ON
CONNECT INTERNAL
SET ECHO OFF
STARTUP PFILE=
inventory_database_installation_path\path_to_init.ora\init.ora
SET NUMWIDTH 20
SET CHARWIDTH 40
SET ECHO ON
connect mw_dba;
SET ECHO OFF
alter table cim.t$product cache;
SET ECHO ON
connect internal
SET ECHO OFF
@<path to oracle home directory>/rdbms/admin/dbmspool
call sys.dbms_shared_pool.keep('zenworks.zenpin','P');
EXIT
```

- 2b *Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wm\inv\properties\sql.zip* から oracle\common\oracle_perf.sql および oracle\common\oracle_perf2.sql ファイルを実行して、パフォーマンス向上インデックスをデータベースに追加します。

2c *ZENworks 6.5 Companion 2 CD* の ¥database¥oracle8i¥common ディレクトリから oracle_dbexport_perf.sql を実行します。

インベントリデータベースのパフォーマンスを向上させる方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

3 インベントリデータベースが MS SQL を実行している場合、適切なユーザでログインして、MS SQL Query Analyzer で *Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql1.zip* から次のスクリプトを実行します。

1. CIM としてログインし、mssql_perf_cim.sql を実行します。
2. mw_dba としてログインし、mssql_perf_mw_dba.sql を実行します。
3. zenworks としてログインし、mssql_perf_zenworks.sql を実行します。

インベントリデータベースのパフォーマンスを向上させる方法の詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

4 Inventory Service を開始します。

Server Software Package を使用した Server Inventory コンポーネントのアップグレード

Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD に収録された Server Software Package のアップグレードファイルを使用して、Server Inventory を ZENworks for Servers 3.0.2 または ZENworks for Servers 3 SP2 から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードすることもできます。

この方法では、次の Server Inventory コンポーネントを自動的にアップグレードできます。

- ◆ NetWare 6.0 以降、および Windows 2000 サーバ上のインベントリサーバ
- ◆ NetWare 5.1 SP7 以降および Windows 2000 サーバ上の Inventory Agent

Server Software Package (CPK) を使ってこれらのコンポーネントをアップグレードするには、次の節の操作を順に実行する必要があります。

1. [243 ページの「アップグレードの準備」](#)
2. [244 ページの「ソフトウェアパッケージを使用したインベントリサーバのアップグレード」](#)
3. [248 ページの「ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent のアップグレード」](#)
4. [249 ページの「ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent の再インストール」](#)

アップグレードの準備

232 ページの「[アップグレードを実行する前に確認すべき事項](#)」で説明されている項目を確認した後、ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする前に、次の手順を実行する必要があります。

- 1 ZENworks 6.5 Server Management のインストールプログラムを使用して、スキーマを ZENworks 6.5 に拡張します。

スキーマの拡張方法については、61 ページの「[Policy-Enabled Server Management のインストール](#)」の 64 ページの「[スキーマの拡張](#)」を参照してください。

- 2 Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 にアップグレードします。

Policy and Distribution Services を ZENworks 6.5 にアップグレードする方法に関する詳細については、11 章 189 ページの「[Policy and Distribution Services](#)」を参照してください。

- 3 Server Inventory ConsoleOne スナップインをアップグレードします。

3a Web ブラウザで、[Novell Support Web サイト \(http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp\)](http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp) にアクセスします。

3b [Choose a Product] フィールドで、ドロップダウンリストから [ZENworks Server Management] を選択し、[Submit Search] ボタンをクリックします。

3c [Search Results] セクションの [Download] ボタンをクリックして、スナップインをダウンロードします。

3d ログイン（またはログインを作成）します。

3e zsm65c1snap_inv.zip に対応する [Download] ボタンをクリックします。

3f .zip ファイルをワークステーション上に保存します。

3g ワークステーション上で、この zip ファイルを ConsoleOne のコピーに解凍します。

- 4 ZENworks for Servers 3.0.2 または ZENworks for Servers 3 SP2 の Inventory ポリシーを手動で移行します。

4a ZENworks 6.5 Server Management Server Inventory スナップインがインストールされた ConsoleOne で、[Tools] > [ZENworks Inventory] > [Inventory Migration] の順にクリックします。

4b [Browse] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。

4c 手順 4b でコンテナを選択した場合は、次の操作を行います。

1. 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの Inventory Service オブジェクトを検索する場合は、[Search SubContainers] チェックボックスを選択します。このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。

選択したコンテナ内の Inventory Service オブジェクトに関連付けられた Inventory ポリシーを検索するには、[Search for Policies] チェックボックスを選択します。このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

3. [Find] をクリックします。

Inventory Service オブジェクトに関連付けられ、指定したコンテキスト内で検索された、ZENworks for Servers 3.0.2 または ZENworks for Servers 3 SP2 のすべての Inventory ポリシーが、[Report] パネルに表示されます。

4d [Migrate] をクリックします。

4e [Close] をクリックします。

ZENworks 6.5 Inventory Agent は、Server Inventory ポリシーの代わりに、プライベートディクショナリと一般ディクショナリからソフトウェアスキャン設定ルールを取得します。ただし、ZENworks for Servers 3.0.2 または ZENworks for Servers 3 SP2 の Inventory Agent は、ソフトウェア設定については引き続き Server Inventory ポリシーを使用します。

ソフトウェアパッケージを使用したインベントリサーバのアップグレード

ターゲット Subscriber サーバ上で Policy and Distribution Services が実行されているかどうかに応じて、次のいずれかの方法でインベントリサーバのソフトウェアパッケージをインストールできます。

- ◆ 244 ページの「インベントリサーバの CPK の自動インストール」
- ◆ 246 ページの「インベントリサーバの CPK の手動インストール」

インベントリサーバの CPK の自動インストール

ZENworks 6.5 Server Management の Tiered Electronic Distribution コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy Package ソフトウェアを実行しているすべてのサーバにインベントリサーバの .cpk ファイルを自動的に配布してインストールすることができます。

重要: 複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。また、サーバに対しインベントリサーバと Inventory Agent の Distribution が、同じ Channel で同時に送信されることのないようにしてください。最初に、インベントリサーバの Distribution を送信し、それが完了した後で、Inventory Agent の Distribution を送信する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアンロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

インベントリサーバの .cpk ファイルを自動的にインストールするには

- 1 ZENworks 6.5 Companion CD 24 zenworks server management - software pkgs¥inrvrm に格納されている zsm65_invsrv.cpk を、ソフトウェアパッケージのインストールに使用する Distributor サーバの一時ディレクトリにコピーします。
- 2 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。

スケジュールが [Run Immediate] に設定されている場合、アップデートプロセスに Java のアンロードが含まれるため、Subscriber を Distribution に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアンロードされると、Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが実行されるまで一時的に停止します。

Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

3 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成します。

1つの Distribution オブジェクトにつき、1つのソフトウェアパッケージだけを設定できます。ソフトウェアを使って、単一の Distribution オブジェクト内で複数のソフトウェアパッケージを選択することができますが、この操作は ZENworks 6.5 Server Management のソフトウェアパッケージを配布する場合には許可されていません。ソフトウェアパッケージをインストールすると Java のアンロードと再ロードが実行され、これにより、残りのソフトウェアパッケージを単一の Distribution オブジェクトから正常に処理することができなくなる可能性があるためです。

Distribution の構築スケジュールを必ず設定します。

まず、ZENworks 6.5 Server Management を含んだ Distribution を構築、送信、抽出、およびインストールする必要があります。その後で、ZENworks 6.5 Server Management の他のソフトウェアパッケージを含む Distribution を送信します。

Distribution の作成に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Tiered Electronic Distribution」を参照してください。

4 Distribution を Channel に関連付けて、Distribution が Channel のスケジュールに基づいて送信されるようにします。

Channel の作成が必要になる場合があります。Channel の送信スケジュールを必ず設定します。

ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージは、インストールプロセスの過程で Java をアンロードおよび再起動します。そのため、各ソフトウェアパッケージを別々に処理する必要があります。複数の ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージを同時に処理した場合（特定の Channel で一度に処理するなど）、Software Package Distribution のインストールに失敗する可能性があります。

5 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel に関連付けます。

6 Distribution を送信します。

たとえば、Distribution を送信して抽出できるよう Distribution を構築するには、Distributor を更新します。Distribution の送信に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「Tiered Electronic Distribution」を参照してください。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

7 次のログファイルを参照して、.cpk ファイルのインストールが成功したかどうかを確認します。

- ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk65_invsrv.log、sys:¥etc¥cpk65logs¥invsrv_nw_files.log、およびsys:¥etc¥cpk65logs¥cpk_ndsupdate.log
- ◆ Windows サーバの場合 :%windir%cpk65logs¥cpk65_invsrv.log、%windir%cpk65logs¥invsrv_win_files.log、および%windir%cpk65logs¥cpk_ndsupdate.log

.cpk ファイルが正常にインストールされた場合、Inventory Service が自動的に開始されます。Upgrade Service により、データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 6.5 Server Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間がかかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ（照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート）や Storer でデータベースにアクセスできます。

- 8 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 6.5 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。

ディクショナリ更新ポリシーの作成方法に関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**ディクショナリ更新ポリシーの設定**」を参照してください。

インベントリサーバの CPK の手動インストール

インベントリサーバの .cpk ファイルを、Subscriber ソフトウェアおよび Policy/Package Agent が実行されていないサーバにインストールする場合、ソフトウェアパッケージのダウンロードに含まれる Standalone Package Processor を使用し、インベントリサーバの .cpk ファイルを手動でインストールする必要があります。

Standalone Package Processor は、Policy and Distribution Services エージェントが NetWare でも、Windows サーバでも実行されていない場合に必要となります。ただし、Policy and Distribution Services エージェントが実行されているサーバ上でも使用できます。

重要： 実行中のインストールがある場合、他のソフトウェアパッケージをインストールする前に必ず終わらせてください。前回の処理が完了する前に次のソフトウェアパッケージを処理しようとすると、2つ目のインストールでエラーになります。

次の手順は、インベントリサーバの .cpk ファイルを手動インストールする、すべての NetWare サーバまたは Windows サーバに対して実行する必要があります。

- 1 (条件付き) Windows インベントリサーバ上に .cpk ファイルをインストールする場合、ユーザがインベントリサーバから eDirectory にログインしていないことを確認してください。
- 2 *ZENworks 6.5 Companion CD* の *zenworks server management - software pkgs\invrm* に収録されている *invrem_standalonepacpro.zip* を、ソフトウェアパッケージをインストールする NetWare または Windows インベントリサーバの一時ディレクトリにコピーします。
- 3 *invrem_standalonepacpro.zip* を次の場所に抽出します。
 - ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥
 - ◆ Windows サーバの場合 :c:¥
- 4 *Invrem_standalonepacpro.zip* には、temp を最上位とするディレクトリ構造が格納されています。これにより、Standalone Package Processor のファイルが、サーバのファイルシステムのルートに、一時ディレクトリを起点として解凍されます。
- 5 関連する .bat ファイルまたは .ncf ファイルが存在する一時ディレクトリに *zsm65_invsrv.cpk* をコピーします。例：
 - ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥temp¥zfs65
 - ◆ Windows サーバの場合 :c:¥temp¥zfs65

5 .cpk ファイルを NetWare サーバにインストールする場合、ソフトウェアパッケージに関連付けられた zsm65_invsrv.ncf で、次の変数の値を設定します。

- ◆ envset ZFSHOMEDIR = *Inventory_server_installation_path*
例： envset ZFSHOMEDIR = sys:¥zenworks
- ◆ envset CPKTEMP = *invrem_standalonepacpro.zip* を抽出したパス
例： envset CPKTEMP = sys:¥temp¥zfs65
- ◆ SEARCH ADD *invrem_standalonepacpro.zip* を抽出したパス ¥NETWARE
例： SEARCH ADD sys:¥temp¥zfs65¥netware

6 .cpk ファイルを Windows サーバにインストールする場合、ソフトウェアパッケージに関連付けられた zsm65_invsrv.bat で、次の変数の値を設定します。

- ◆ set ZFSHOMEDIR = *Inventory_server_installation_path*
例： set ZFSHOMEDIR = c:¥zenworks
- ◆ set CPKTEMP = *invrem_standalonepacpro.zip* を抽出したパス
例： set CPKTEMP = c:¥temp¥zfs65

7 インストールするソフトウェアパッケージに関連付けられた .bat ファイルまたは .ncf ファイルを、一時ディレクトリから実行します。

- ◆ NetWare の場合、サーバプロンプトで次のコマンドを入力します。
sys:¥temp¥zfs65¥netware\zsm65_invsrv.ncf
- ◆ Windows の場合、c:¥temp¥zfs65¥win¥zsm65_invsrv.bat を実行します。

8 次のログファイルを参照して、.cpk ファイルのインストールが成功したかどうかを確認します。

- ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk65_invsrv.log、
sys:¥etc¥cpk65logs¥invsrv_nw_files.log、および
sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk_ndsupdate.log
- ◆ Windows サーバの場合 :%windir%¥cpk65logs¥cpk65_invsrv.log、
%windir%¥cpk65logs¥invsrv_win_files.log、および
%windir%¥cpk65logs¥cpk_ndsupdate.log

.cpk ファイルが正常にインストールされた場合、Inventory Service が自動的に開始されます。Upgrade Service により、データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 6.5 Server Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ（照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート）や Storer でデータベースにアクセスできます。

9 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 6.5 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。

ディクショナリ更新ポリシーの作成方法に関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**ディクショナリ更新ポリシーの設定**」を参照してください。

ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent のアップグレード

Inventory Agent の .cpk ファイルは自動的にインストールできます。

重要: 複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。また、サーバに対しインベントリサーバと Inventory Agent の Distribution が、同じ Channel で同時に送信されることのないようにしてください。最初に、インベントリサーバの Distribution を送信し、それが完了した後で、Inventory Agent の Distribution を送信する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアンロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

インベントリサーバの .cpk ファイルを自動的にインストールするには

1 *ZENworks 6.5 Companion CD* の `zenworks server management - software pkgs\invrvm` に格納されている `zsm65_invagn. cpk` を、ソフトウェアパッケージのインストールに使用する Distributor サーバの一時ディレクトリにコピーします。

2 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。

スケジュールが [Run Immediate] に設定されている場合、アップデートプロセスに Java のアンロードが含まれるため、Subscriber を Distribution に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアンロードされると、

Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが実行されるまで一時的に停止します。

Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

3 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成します。

1 つの Distribution オブジェクトにつき、1 つのソフトウェアパッケージだけを設定できます。ソフトウェアを使って、单一の Distribution オブジェクト内で複数のソフトウェアパッケージを選択することができますが、この操作は ZENworks 6.5 Server Management のソフトウェアパッケージを配布する場合には許可されていません。ソフトウェアパッケージをインストールすると Java のアンロードと再ロードが実行され、これにより、残りのソフトウェアパッケージを单一の Distribution オブジェクトから正常に処理することができなくなる可能性があるためです。

Distribution の構築スケジュールを必ず設定します。

まず、ZENworks 6.5 Server Management を含んだ Distribution を構築、送信、抽出、およびインストールする必要があります。その後で、ZENworks 6.5 Server Management の他のソフトウェアパッケージを含む Distribution を送信します。

Distribution の作成に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*

』の「*Tiered Electronic Distribution*」を参照してください。

4 Distribution を Channel に関連付けて、Distribution が Channel のスケジュールに基づいて送信されるようにします。

Channel の作成が必要になる場合があります。Channel の送信スケジュールを必ず設定します。

ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージは、インストールプロセスの過程で Java をアンロードおよび再起動します。そのため、各ソフトウェアパッケージを別々に処理する必要があります。複数の ZENworks 6.5 Server Management ソフトウェアパッケージを同時に処理した場合（特定の Channel で一度に処理するなど）、Software Package Distribution のインストールに失敗する可能性があります。

5 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel に関連付けます。

6 Distribution を送信します。

たとえば、Distribution を送信して抽出できるよう Distribution を構築するには、Distributor を更新します。Distribution の送信に関する詳しい手順については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「*Tiered Electronic Distribution*」を参照してください。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

7 次のログファイルを参照して、Inventory Agent の .cpk ファイルのインストールが成功したかどうかを確認します。

- ◆ NetWare サーバの場合 :sys:¥etc¥cpk65logs¥cpk65_invagnt.log
- ◆ Windows サーバの場合 :%windir%¥cpk65logs¥cpk65_invagnt.log

.cpk ファイルが正常にインストールされた場合、ZENworks サービスが自動的に開始されます。

ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent の再インストール

ZENworks 6.5 Server Management Program CD を使ってインベントリ対象サーバにインストールした ZENworks 6.5 Inventory Agent をソフトウェアパッケージを使って再インストールする場合は、次の手順を実行します。

1 sys:¥system¥zenworks.properties 内の InvAgentPath の値が <volume_name>:¥zenworks¥inv¥agent であることを確認します。

2 248 ページの「*ソフトウェアパッケージを使用した Inventory Agent のアップグレード*」の手順に従います。

13 Remote Management

ここでは、Novell ZENworks 6.5 Server Management Program CD のメニュー オプションまたは Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD に収録された Server Software Package を使用し、Novell® ZENworks® for Servers 3.x Remote Management を ZENworks 6.5 Remote Management にアップグレードする手順について説明します。

アップグレードする前に、[25 ページの「準備」](#)で説明されているすべての要件を満たす必要があります。

次の方法を使ってアップグレードを実行します。

- ◆ [251 ページの「プログラム CD を使用したアップグレード」](#)

このオプションは、アップグレードオプションを手動で選択してアップグレードする場合に役立ちます。このオプションでは、NetWare および Windows に対して GUI アップグレードプログラムを使用します。

- ◆ [252 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」](#)

プログラム CD を使用したアップグレード

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management インストールプログラムは、ZENworks for Servers 3.x Remote Management を自動的にアップグレードします。

Remote Management をバージョン 6.5 にアップグレードするには、バージョン 3.x Remote Management がインストールされたサーバが、[43 ページの「サーバの要件」](#)で説明したサーバに関する最低要件を満たしている必要があります。

Remote Management のインストール方法に関する詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

インストールプログラムを実行する際、次の項目を実行します。

- ◆ 以前のバージョンの Remote Management がインストールされたサーバだけを、アップグレードするサーバとして選択します。
- ◆ 選択されたサーバに対して、[ZENworks Policy-Enabled Management Services] セクションの [Remote Management] チェックボックスのみをオンにします。
- ◆ [Additional Options] セクションのボックスはオンにしないでください。

重要: アップグレードしようとしているコンピュータにすでにフックドライバがインストールされている場合、そのフックドライバはアップグレード中にアンインストールされます。ZENworks 6.5 のインストール中にミラードライバが選択されていない場合、リモートセッションの最適化が無効になります。したがって、リモートセッションのパフォーマンスが低下します。

Server Software Package を使用したアップグレード

次の節では、ソフトウェアパッケージを Remote Management にインストールする詳しい手順およびインストールログファイルについて説明します。

- ◆ 252 ページの「ソフトウェアパッケージの自動インストール」
- ◆ 253 ページの「ソフトウェアパッケージの手動インストール」
- ◆ 254 ページの「インストールログファイル」

重要: アップグレードしようとしているコンピュータにすでにフックドライバがインストールされている場合、そのフックドライバはアップグレード中にアンインストールされます。ZENworks 6.5 のインストール中にミラードライバが選択されていない場合、リモートセッションの最適化が無効になります。したがって、リモートセッションのパフォーマンスが低下します。

ソフトウェアパッケージの自動インストール

ZENworks for Servers 6.5 の Tiered Electronic Distribution(TED) コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy Package ソフトウェアを実行しているすべてのサーバにソフトウェアパッケージを自動的に配布してインストールすることができます。

重要: 複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアンロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

自動インストールに必要な次の前提条件がすべて満たされていることを確認してください。

- ◆ サーバが ZENworks 6.5 Remote Management の一般的な要件を満たしていること
- ◆ Policy and Distribution Services がサーバにインストールされ、ソフトウェアパッケージの Distribution を送信、受信、およびアップグレードできる状態にあること

Remote Management Agent の .cpk ファイルを自動的にインストールするには

- 1 ZENworks Server Management - Software Pkgs ¥ InvRM の .CPK ファイルをコピーします。これらの格納場所をメモしておいてください。この情報は関連する Distribution を作成する際に必要となります。
- 2 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。
- 3 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成し、Distribution の構築スケジュールを設定します。
- 4 Distribution を Channel に関連付けて、Distribution が Channel のスケジュールに基づいて送信されるようにします。必要に応じて、Channel を作成し、Channel の送信スケジュールを設定してください。
- 5 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel に関連付けます。
- 6 Windows サーバ上で、zsm65_remmgmt.cpk ファイルについて、Subscriber オブジェクトのプロパティに対し次のパッケージプロセッサ変数を作成および初期化します。

MIRROR 変数

MIRROR 変数の値を YES に設定した場合、MIRROR ドライバがインストールされます。NO に設定した場合、MIRROR ドライバはインストールされません。

重要：Mirror ドライバ（推奨）は、ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。これは、まだ Microsoft によって署名されていません。インストールでは、署名の確認が無視され、Windows からのメッセージはすべて抑制されます。

External Subscriber の場合は、tednode.properties ファイルに変数を設定します。

7 Distribution を送信します。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

8 Subscriber サーバに格納されたログファイルを参照して、インストールが成功したかどうかを確認します。

いくつかのコンポーネントのインストールに失敗することもありますが、その場合でもソフトウェアパッケージのインストールは依然として成功したように見える可能性があります。そのため、特定のサーバで必要とされるコンポーネントが正常にインストールされているかどうかを検証するため、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントについて、インストールが成功したか、失敗したかを確認することをお勧めします。

ソフトウェアパッケージの手動インストール

Subscriber および Policy/Package Agent が実行されていないサーバに対してパッケージを使用することもできます。

手動インストールの前に、次のことを行います。

- InvRemStandAlonePacPro.zip ファイルへのアクセス権があることを確認します。このファイルには、zsm65_remmgmt.bat (Server Management Agent を Windows サーバにインストールする際に使用) および zsm65_remmgmt.ncf (Server Management Agent を NetWare サーバにインストールする際に使用) が格納されています。
- アップデートするコンポーネントについて、サーバが ZENworks 6.5 Remote Management の一般的な要件を満たしていることを確認します。

Remote Management Agent の .cpk ファイルを手動でインストールするには

1 InvRemStandAlonePacPro.zip ファイルを次のいずれかの場所に解凍します。

Windows サーバの場合 : c:\

NetWare サーバの場合 : sys:\

これにより、Standalone Package Processor のファイルが、サーバのファイルシステムのルートに、一時ディレクトリを起点として解凍されます。

2 手動でインストールする .cpk ファイルを、関連する .bat ファイルまたは .ncf ファイルが存在する一時ディレクトリにコピーします。例：

Windows サーバの場合 : c:\temp\zfs65

NetWare サーバの場合 : sys:\temp\zfs65

3 ターゲット Windows サーバに JRE 1.3.1 がインストールされていない場合は、JRE をダウンロードしてインストールします。

4 JRE 1.3.1 がインストールされた各ターゲット Windows サーバについて、zsm65_remmgmt.cpk に対応する .bat ファイルで、JREROOT 変数パスを *JRE_installation_path\JRE\BIN* に変更します。

5 このバッチファイルで、CPKTEMP 変数にインストールディレクトリの場所を指定します。例：

Windows サーバの場合： CPKTEMP = c:\temp\zfs65

NetWare サーバの場合： CPKTEMP = sys:\temp\zfs65

6 エージェントをインストールします。

Windows サーバに zsm65_remmgmt.cpk をインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

c:\temp\zfs\win\zfs65_mms_mgmtagnt.bat

Windows サーバに zsm65_remmgmt.cpk をインストールするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

sys:\temp\zfs65\zfs65_mms_mgmtagnt.ncf

7 インストール中に作成されたログファイルを参照し、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。

手動インストール時に NCF ファイルおよび BAT ファイルで使用される変数

ここでは、サポートパックソフトウェアパッケージの手動インストール時に、.bat ファイルおよび.ncf ファイルで使用される変数について説明します。

.bat ファイルおよび.ncf ファイルには、ソフトウェアパッケージの項目下に次の変数が指定されています。

zsm65_remmgmt.cpk

Server Management Agent のこのソフトウェアパッケージでは、次の.bat ファイルまたは.ncf ファイルに対応する変数が使用されます。

zsm65_remmgmt.bat

MIRROR 変数

MIRROR 変数の値を YES に設定した場合、MIRROR ドライバがインストールされます。NO に設定した場合、MIRROR ドライバはインストールされません。

重要： Mirror ドライバ（推奨）は、ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。これは、まだ Microsoft によって署名されていません。インストールでは、署名の確認が無視され、Windows からのメッセージはすべて抑制されます。

インストールログファイル

次のログファイルには、Remote Management のインストールが成功したかどうかについて、詳しい情報が格納されます。

Windows の場合：

%WINDIR%\CPK65Logs\Cpk65_Agent.LOG - Install /file changes log

NetWare の場合：

TED_PATH/dist ディレクトリの ted.log ファイル

14 [Management and Monitoring Services]

ここでは、Novell ZENworks 6.5 Server Management Program CD のメニュー オプションまたは Novell ZENworks 6.5 Companion 2 CD に収録された Server Software Package を使用し、Novell® ZENworks® for Servers 3.x Management および Monitoring Services を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするための手順を説明します。

アップグレードする前に、25 ページの「準備」で説明されているすべての要件を満たす必要があります。

次の方法を使ってアップグレードを実行します。

- ◆ 255 ページの「プログラム CD を使用したアップグレード」

このオプションは、アップグレード オプションを手動で選択してアップグレードする場合に役立ちます。このオプションでは、NetWare および Windows に対して GUI アップグレード プログラムを使用します。

- ◆ 259 ページの「Server Software Package を使用したアップグレード」

プログラム CD を使用したアップグレード

ZENworks for Servers 3.x をアップグレードするには、次の節を参照してください。

- ◆ 255 ページの「Management and Monitoring Services のアップグレード要件への合致」
- ◆ 256 ページの「アップグレード実行前の確認事項」
- ◆ 256 ページの「Management and Monitoring Services のアップグレード」

Management and Monitoring Services のアップグレード要件への合致

ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- ◆ Site Server をアップグレードするには、ZENworks for Servers 3.x Site Server がインストールされていることを確認します。
- ◆ Server Management Agent™ (NMA) をアップグレードするには、ZENworks for Servers 3 に同梱されている NMA 6.0、ZENworks for Servers 3 SP1 に同梱されている NMA 6.0.1、または ZENworks for Servers 3 SP2 に同梱されている NMA 6.0.2 がインストールされていることを確認します。
- ◆ Traffic Analysis Agent をアップグレードするには、ZENworks for Servers 3 に同梱されている LANalyzer Agent 1.30、または ZENworks for Servers 3 SP2 に同梱されている LANalyzer Agent 1.30.2 がインストールされていることを確認します。

- ◆ Windows Management Agent (NTMA) をアップグレードするには、NTMA 3、3.0.1、または3.0.2 がインストールされていることを確認します。
- ◆ Windows 版 Traffic Analysis Agent をアップグレードするには、Windows 版 Traffic Analysis Agent 3、3.0.1、または3.0.2 がインストールされていることを確認します。

アップグレード実行前の確認事項

ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする前に、次の項目を確認することをお勧めします。

- ◆ 対象になる Management サーバに対して、管理者およびそれと同等の権限を有していることを確認します。
- ◆ ZENworks for Servers のすべてのサービスを停止していることを確認します。
- ◆ アップグレードしようとしているサーバで、Sybase が実行していないことを確認します。
- ◆ 必須になるサポートパックがインストールされていることを確認します。
- ◆ アップグレードするすべての NetWare および Windows サーバを含むツリーへの認証を取得します。
- ◆ スキーマを拡張します。詳細については、[64 ページの「スキーマの拡張」](#)を参照してください。ただし、ZENworks 6.5 Server Management 用にすでにスキーマを拡張している場合、再び拡張を実行する必要はありません。

Management and Monitoring Services のアップグレード

Management and Monitoring Services をアップグレードするには、次のタスクを順番に実行します。

- ◆ [256 ページの「ZENworks 6.5 Server Management へのアップグレードの準備」](#)
- ◆ [257 ページの「アップグレードプログラムの使用」](#)

ZENworks 6.5 Server Management へのアップグレードの準備

ZENworks for Servers 3.x をアップグレードする準備を実行するには

- 1 アップグレードに関する最新情報を Readme ファイルで確認します。

Readme_servers.html は、*ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の ¥readmes¥en ディレクトリに存在します。この html ファイルには、インストールプログラムのメニュー オプションからもアクセスできます。

- 2 [53 ページの「\[Management and Monitoring Services\]」](#) で示されているすべてのサーバ要件を満たしていることを確認します。
- 3 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします。

たとえば、各 NetWare サーバのコンソールプロンプトに次のとおり入力します。

```
java -exit
```

この結果、サーバ上ですべての ZENworks for Servers ソフトウェアの実行が停止します。

- 4 アップグレードの実行に使用するワークステーションを選択します。
- 5 [257 ページの「アップグレードプログラムの使用」](#) に進みます。

アップグレードプログラムの使用

ZENworks for Servers 3.x を ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードするには

- 1 アップグレードするワークステーションに、*ZENworks 6.5 Server Management Program CD* を挿入します。

起動画面が表示されます。CD の挿入後、起動画面が自動的に表示されない場合は、CD のルートにある *winsetup.exe* を実行します。

重要: アップグレードするワークステーションのハードドライブに *Program CD* の構造をコピーした場合、ハードドライブのルートと最初の CD ディレクトリ間のパスには、8.3 形式の DOS ファイル名規則に準拠するディレクトリ名だけを使用することができます。パス内にロングディレクトリ名が存在する場合、アップグレードプログラムは動作しません。

- 2 [Management and Monitoring Services] をクリックします。

- 3 [Site Server Upgrade] オプションを選択します。

既存バージョンの ZENworks for Servers 3.x を ZENworks 6.5 Servers Management にアップグレードするには、アップグレードオプションだけを選択することをお勧めします。

Management and Monitoring Services Upgrade Installation Wizard が起動します。

- 4 [Next] をクリックして続行します。

- 5 [Software License Agreement] に目を通して同意した後、[Yes] をクリックしてインストールを続行します。

- 6 次の表に記載されている中から、適切な ZENworks 6.5 Server Management コンポーネントを選択します。

重要: 対象になるサーバに対して、管理者または同等の権限を有している必要があります。ZENworks for Servers 3.x のエージェントがインストールされているすべてのサーバの共有フォルダを選択します。まだフォルダを共有していない場合はフォルダを共有します。

サーバコンポーネント	アップグレード対象
Management Site Services	管理サーバ
Server Management Agent	アップグレードするすべての NetWare および Windows サーバ
Traffic Analysis Agent	1 セグメントあたり 1 つのサーバ (NetWare または Windows 2000/2003)
Advanced Trending Agent	すべての NetWare および Windows サーバにインストール

重要: Advanced Trending Agent は ZENworks 6.5 Server Management の新しいエージェントです。[Novell Advanced Trending Agent] チェックボックスをオンにすると、Advanced Trending Agent が、選択されたサーバにインストールされます。

Windows サーバでは、ZENworks for Servers 3.x の Server Management Agent または Traffic Analysis Agent がインストールされている場合にのみ Advanced Trending Agent がインストールされます。

- 7 [Next] をクリックします。
- 8 Management Site Services のアップグレードを選択した場合、次の手順を完了する必要があります。選択しなかった場合、**ステップ 11** に進みます。
 - 8a 管理サイトサーバである NetWare サーバのボリューム名を参照して選択し、[Next] をクリックします。
 - 8b 自動検出プロセスを開始するには、[Start the Autodiscovery Process] を選択します。
 - 8c バックエンドサービスを開始するには、[Start the Backend Services on the Server] を選択します。
 - 8d ConsoleOne スナップインをコピーするには、[Copy ConsoleOne Snap-ins to the Management Site Server] を選択します。
- 9 サイトサーバのみのアップグレードを選択した場合は、**ステップ 11** に進みます。
- 10 **ステップ 8** で Server Management または LANalyzer Agent のアップグレードを選択した場合、次の手順を完了する必要があります。
 - 10a NetWare サーバを選択し、各サーバでアップグレードするエージェントを選択した後、[Next] をクリックします。
 - 10b Windows 2000/2003 サーバを選択し、各サーバでアップグレードするエージェントを選択した後、[Next] をクリックします。
- 11 前の手順で選択した項目のサマリリストを確認します。設定を変更するには、[Back] をクリックします。
- 12 [Finish] をクリックして、ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードします。

アップグレード時に、すべてのバックエンドサービスおよび自動検出プロセスを開始しないことを選択した場合、この時点でこれらのサービスおよびプロセスを手動で開始する必要があります。

NetWare 管理対象サーバの場合、ZENworks のエージェントは自動的に開始されます。Windows 2000/2003 管理対象サーバの場合、エージェントのアップグレード後、SNMP サービスを開始する必要があります。

ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードすると、新しい MIB が ¥MIBPool ディレクトリに追加されます。ただし、移行した Management and Monitoring Services データベースには、新しく追加された MIB は含まれません。データベースにこれらの MIB を含めるには、MIB を手動でコンパイルする必要があります。コンソールユーザは、¥MIBServerPool ディレクトリにある ¥MIBPool ディレクトリから MIB ファイルを選択できます。MIB Compiler は、¥MIBServerPool ディレクトリにある ¥MIBPool ディレクトリに示されたファイルをコンパイルします。

Server Software Package を使用したアップグレード

Server Software Package を使用すると、Management and Monitoring Services の次のエージェントだけをアップグレードできます。アップグレード可能なエージェントは次のとおりです。

- ◆ Server Management Agent
- ◆ Traffic Analysis Agent
- ◆ Advanced Trending Agent

次の節では、ソフトウェアパッケージを Management and Monitoring Services エージェントにインストールする詳しい手順およびインストールログファイルについて説明します。

- ◆ 259 ページの「ソフトウェアパッケージの自動インストール」
- ◆ 261 ページの「ソフトウェアパッケージの手動インストール」
- ◆ 264 ページの「インストールログファイル」

ソフトウェアパッケージの自動インストール

ZENworks for Servers 6.5 の TED コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy Package ソフトウェアを実行しているすべてのサーバにソフトウェアパッケージを自動的に配布してアップグレードすることができます。

重要: 複数のソフトウェアパッケージを同じ Distribution に含めることはできません。各ソフトウェアパッケージについて、別々に Distribution オブジェクトを作成する必要があります。これには、個々のソフトウェアパッケージが NetWare 上で JVM をアンロードし、複数のソフトウェアパッケージが同時に処理されるのを防ぐ意図があります。

Management and Monitoring Services エージェントの .cpk ファイルを自動的にインストールするには

- 1 サーバが ZENworks 6.5 Server Management の一般的な要件を満たし、Policy and Distribution Services がサーバにインストールされていることを確認します。
- 2 ZENworks Server Management - Software Pkgs ¥ MMS の .cpk ファイルをコピーします。これらの格納場所をメモしておいてください。この情報は関連する Distribution を作成する際に必要となります。
- 3 Subscriber の抽出スケジュールを設定します。
- 4 このソフトウェアパッケージの Distribution を作成し、Distribution の構築スケジュールを設定します。
- 5 Distribution を Channel に関連付けて、Distribution が Channel のスケジュールに基づいて送信されるようにします。必要に応じて、Channel を作成し、Channel の送信スケジュールを設定してください。
- 6 このソフトウェアパッケージを受信する Subscriber を Channel に関連付けます。

7 zfs65_mms_mgmgmtagnt.cpk ファイルについて、Subscriber オブジェクトのプロパティに対し、次のパッケージプロセッサ変数を作成および初期化します。

- ◆ NetWare サーバ：

OLDNMAPATH 変数（例：sys:¥zfs_agnt）

機能：旧バージョンのエージェントがインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数（例：127.0.0.1）

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ Windows サーバの場合：

MMSAGENTPATH 変数（例：c:¥zenworks）

機能：エージェントのインストールパスを定義します。

REPLACEHOSTMIB 変数（例：0）

Microsoft* の hostmib 実装を Novell の hostmib 実装に置き換えるかどうかを定義します。置き換える場合は1を、置き換えない場合は0を指定します。

TARGETIP 変数（例：127.0.0.1）

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

8 zfs65_mms_lanzagnt.cpk ファイルについて、Subscriber オブジェクトのプロパティに対し、次のパッケージプロセッサ変数を作成および初期化します。

- ◆ NetWare サーバ：

MMSAGENTPATH 変数（例：sys:¥zfs_agnt）

機能：Traffic Analysis Agent がインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数（例：127.0.0.1）

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ Windows サーバの場合：

MMSAGENTPATH 変数（例：c:¥zenworks）

機能：エージェントのインストールパスを定義します。

GTRENDPATH 変数（例：c:¥winnt）

機能：Gtrend ファイルが保存される、Windows ディレクトリ (c:¥winnt) 下のサブディレクトリを表します。

TARGETIP 変数（例：127.0.0.1）

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

9 zfs65_mms_trendagnt.cpk ファイルについて、Subscriber オブジェクトのプロパティに対し、次のパッケージプロセッサ変数を作成および初期化します。

- ◆ NetWare サーバ：

MMSAGENTPATH 変数（例：sys:¥zfs_agnt）

機能：Advanced Trending Agent がインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数（例：127.0.0.1）

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ Windows サーバの場合：

MMSAGENTPATH 変数 (例： c:\zenworks)

機能： エージェントのインストールパスを定義します。

GTRENDPATH 変数 (例： c:\winnt)

機能： Gtrend ファイルが保存される、Windows ディレクトリ (c:\winnt) 下のサブディレクトリを表します。

TARGETIP 変数 (例： 127.0.0.1)

機能： トランクを送信する IP アドレスを定義します。

10 Distribution を送信します。

Distribution は、Distribution の構築スケジュールが開始したときに自動的に作成され、Channel の送信スケジュールが開始したときに自動的に送信されます。さらに、Distribution は Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。

11 Subscriber サーバに格納されたログファイルを参照して、インストールが成功したかどうかを確認します。

いくつかのコンポーネントのインストールに失敗することもありますが、その場合でもソフトウェアパッケージのインストールは依然として成功したように見える可能性があります。そのため、特定のサーバで必要とされるコンポーネントが正常にインストールされているかどうかを検証するため、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントについて、インストールが成功したか、失敗したかを確認することをお勧めします。

ソフトウェアパッケージの手動インストール

Standalone Package Processor を使用し、Subscriber および Policy/Package Agent が実行されていないサーバに対してソフトウェアパッケージを手動でインストールすることもできます。

次のソフトウェアパッケージは、手動により任意の順序でインストールできます。

- ◆ Server Management Agent (zfs65_mms_mgmgntagnt.cpk)
- ◆ Traffic Analysis Agent (zfs65_mms_lanzagnt.cpk)
- ◆ Advanced Trending Agent (zfs65_mms_trendagnt.cpk)

この 3 つの.zip ファイルから、パッケージ固有の次の.bat ファイルおよび.ncf ファイルを抽出し、Standalone Package Processor を起動します。

- ◆ Server Management Agent:

zfs65_mms_mgmgntagnt.bat。Server Management Agent を Windows サーバにインストールするときに使用します。

zfs65_mms_mgmgntagnt.ncf。Server Management Agent を NetWare サーバにインストールするときに使用します。

- ◆ Traffic Analysis Agent:

zfs65_mms_lanzagnt.bat。Traffic Analysis を Windows サーバにインストールするときに使用します。

zfs65_mms_lanzagnt.ncf。Traffic Analysis を NetWare サーバにインストールするときに使用します。

- ◆ Advanced Trending Agent:

zfs65_mms_trendagnt.bat。Advanced Trending Agent を NetWare サーバにインストールするときに使用します。

zfs65_mms_trendagnt.ncf。Advanced Trending を Windows サーバにインストールするときに使用します。

次の手順は、ソフトウェアパッケージをインストールする、すべての NetWare サーバまたは Windows サーバに対して実行する必要があります。

- 1 アップデートするコンポーネントについて、サーバが ZENworks 6.5 Server Management の一般的な要件を満たしていることを確認します。
- 2 zfs65_mgmtmon_standalonepacpro.zip ファイルを次のいずれかの場所に解凍します。
 - ◆ Windows サーバの場合 : c:\
 - ◆ NetWare サーバの場合 : sys:\これにより、Standalone Package Processor のファイルが、サーバのファイルシステムのルートに、一時ディレクトリを起点として解凍されます。
- 3 手動でインストールする.cpk ファイルを、関連する.bat ファイルまたは.ncf ファイルが存在する一時ディレクトリにコピーします。例：
 - ◆ Windows サーバの場合 : c:\temp\zfs65
 - ◆ NetWare サーバの場合 : sys:\temp\zfs65
- 重要: Linux サーバにインストールすることはできません。
- 4 ターゲット Windows サーバに JRE 1.3.1 がインストールされていない場合は、JRE をダウンロードしてインストールします。
- 5 JRE 1.3.1 がインストールされた各ターゲット Windows サーバについて、zfs65_mms_mgmtagnt.cpk、zfs65_mms_lanzagnt.cpk、または zfs65_mms_trendagnt.cpk.bat ファイルに対応する.bat ファイルで、JRE のパスを *JRE_installation_path\JRE\BIN* に変更します。
- 6 エージェントをインストールします。

zfs65_mms_mgmtagnt.cpk をインストールするには

- ◆ NetWare の場合、コンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

sys:\temp\zfs65\netware\zfs65_mms_mgmtagnt.ncf

- ◆ Windows の場合、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

c:\temp\zfs65\win\zfs65_mms_mgmtagnt.bat

zfs65_mms_lanzagnt.cpk をインストールするには

- ◆ NetWare の場合、コンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

sys:\temp\zfs65\netware\zfs65_mms_lanzagnt.ncf

- ◆ Windows の場合、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

c:\temp\zfs65\win\zfs65_mms_lanzagnt.bat

zfs65_mms_trendagnt.cpk をインストールするには

- ◆ NetWare の場合、コンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

sys:\temp\zfs65\netware\zfs65_mms_trendagnt.ncf

- ◆ Windows の場合、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

c:\temp\zfs65\win\zfs65_mms_trendagnt.bat

7 インストール中に作成されたログファイルを参照し、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。

手動インストール時に NCF ファイルおよび BAT ファイルで使用される変数

ここでは、サポートパックソフトウェアパッケージの手動インストール時に、.bat ファイルおよび.ncf ファイルで使用される変数について説明します。

.bat ファイルおよび.ncf ファイルには、ソフトウェアパッケージの項目下に次の変数が指定されています。

zfs65_mms_mgmtagnt.cpk

Server Management Agent のこのソフトウェアパッケージでは、次の.bat ファイルまたは.ncf ファイルに対応する変数が使用されます。

- ◆ zfs65_mms_mgmtagnt.ncf

OLDNMAPATH 変数 (デフォルト値は sys:¥zfs_agnt)

機能：旧バージョンのエージェントがインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数 (デフォルト値は 127.0.0.1)

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ zfs65_mms_mgmtagnt.bat

MMSAGENTPATH 変数 (デフォルト値は c:¥zenworks)

機能：エージェントの完全インストールパスを定義します。

REPLACEHOSTMIB 変数 (デフォルト値は 0)

Microsoft* の hostmib 実装を Novell の hostmib 実装に置き換えるかどうかを定義します。置き換える場合は 1 を、置き換えない場合は 0 を指定します。

zfs65_mms_lanzagnt.cpk

Management Agent のこのソフトウェアパッケージでは、次の.bat ファイルまたは.ncf ファイルに対応する変数が使用されます。

- ◆ zfs65_mms_lanzagnt.ncf

MMSAGENTPATH 変数 (デフォルト値は sys:¥zfs_agnt)

機能：Traffic Analysis Agent がインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数 (デフォルト値は 127.0.0.1)

機能：トラップを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ zfs65_mms_mgmtagnt.bat

MMSAGENTPATH 変数 (デフォルト値は c:¥zenworks)

機能：エージェントの完全インストールパスを定義します。

GTRENDPATH 変数 (デフォルト値は GTREND)

機能：Gtrend ファイルが保存される、Windows ディレクトリ (c:¥winnt) 下のサブディレクトリを表します。

TARGETIP 変数（デフォルト値は 127.0.0.1）

機能： トランプを送信する IP アドレスを定義します。

zfs65_mms_trendagnt.cpk

Site Management Server のこのソフトウェアパッケージでは、次の .bat ファイルまたは .ncf ファイルに対応する変数が使用されます。

- ◆ zfs65_mms_mgmgtagnt.ncf

MMSAGENTPATH 変数（デフォルト値は sys:¥zfs_agnt）

機能： Advanced Trending Agent がインストールされたパスを定義します。

TARGETIP 変数（デフォルト値は 127.0.0.1）

機能： トランプを送信する IP アドレスを定義します。

- ◆ zfs65_mms_trendagnt.bat

MMSAGENTPATH 変数（デフォルト値は c:¥zenworks）

機能： エージェントの完全インストールパスを定義します。

TARGETIP 変数（デフォルト値は 127.0.0.1）

機能： トランプを送信する IP アドレスを定義します。

インストールログファイル

パッケージプロセッサが zfs65_mms_mgmgtagnt.cpk、zfs65_mms_lanztagnt.cpk、zfs65_mms_trendagnt.cpk について生成するログファイルは、次の場所に格納されます。

- ◆ NetWare サーバ :sys:¥etc¥zfs_mms_agntinstall.log
- ◆ Windows サーバの場合 :c:¥winnt¥zfs_mms_agntinstall.log

15

ManageWise 2.7 からのアップグレード

この章では、ManageWise® 2.7 を ZENworks® 6.5 Management and Monitoring Services にアップグレードする方法について説明します。

ManageWise 2.7 および ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services コンポーネントの概要

ManageWise 2.7 を ZENworks 6.5 にアップグレードする前に、ManageWise 2.7 からのアップグレードに関する適切な計画を策定できるよう、ManageWise 2.7 コンポーネントと ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services コンポーネント間の違いを理解しておく必要があります。この節では、次のコンポーネントについて説明します。

- ◆ 265 ページの「ManageWise 2.7 のコンポーネント」
- ◆ 266 ページの「ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services のコンポーネント」

ManageWise 2.7 のコンポーネント

ManageWise 2.7 のアーキテクチャには次のコンポーネントが含まれます。

- ◆ **ManageWise コンソール**： ManageWise 2.7 コンソールは、Windows® 95、Windows 98、または Windows NT® 4. x ワークステーションで実行するグラフィカルインターフェースです。このコンソールは、ネットワークリソース、サーバ、ルータ、およびワークステーションを管理するためのサービスを提供します。
- ◆ **ManageWise サーバ**： ManageWise 2.7 サーバには、検出を実行するための NLM™ (NetWare® Loadable Module™) が含まれます。
- ◆ **Server Management Agent**： このエージェントは、NetWare および Windows NT サーバで実行します。
- ◆ **Traffic Analysis Agent**： このエージェントは NetWare サーバで実行します。

ZENworks 6.5 Management and Monitoring Services のコンポーネント

ZENworks 6.5 のアーキテクチャには次のコンポーネントが含まれます。

- ◆ **管理サイトサーバ**：このサーバには、すべての検出 NLM ソフトウェアに加え、Alarm Manager、MIB ツール、Atlas Manager、およびリモート Ping などの他のコンポーネントも含まれています。これらのコンポーネントの一部は、ManageWise 2.7 コンソールにも存在します。
- ◆ **ZfS コンソール**：ZENworks 6.5 は、すべてのネットワークリソースを管理する GUI として Novell ConsoleOne® を使用します。
- ◆ **Server Management Agent**：このエージェントは、NetWare、Windows 2000/2003、Linux サーバで実行します。
- ◆ **Traffic Analysis Agent**：ZENworks 6.5 では、Traffic Analysis Agent は NetWare サーバおよび Windows 2000/2003 サーバの両方で実行します。

ManageWise 2.7 からのアップグレード

ManageWise 2.7 のコンポーネントと ZENworks 6.5 のコンポーネントは異なるため、この節では、ManageWise 2.7 の各コンポーネントを ZENworks 6.5 のコンポーネントにアップグレードする方法について説明します。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ [266 ページの「ManageWise 2.7 サーバから ZENworks 6.5 サイトサーバへのアップグレード」](#)
- ◆ [266 ページの「ManageWise 2.7 コンソールの ZENworks 6.5 コンソールへのアップグレード」](#)
- ◆ [267 ページの「ManageWise 2.7 Server Management Agent のアップグレード」](#)
- ◆ [267 ページの「ManageWise 2.7 Traffic Analysis Agent のアップグレード」](#)

ManageWise 2.7 サーバから ZENworks 6.5 サイトサーバへのアップグレード

サーバが ZENworks 6.5 サイトサーバのインストール要件を満たしている場合、ManageWise 2.7 サーバに ZENworks 6.5 サイトサーバをインストールすることができます。ZENworks 6.5 サイトサーバには、すべての検出 NLM ソフトウェアに加え、Alarm Manager、Atlas Manager、MIB ツールなどの他のコンポーネントも含まれています。ZENworks 6.5 サイトサーバにアップグレードした後、ZENworks 6.5 サイトサーバで ManageWise サーバのデータまたは ManageWise コンソールのデータを使用することはできません。ZENworks 6.5 サイトサーバから ManageWise サーバのデータまたは ManageWise コンソールのデータにアクセスすることもできません。再び検出を実行して、サイトサーバを再設定する必要があります。

ManageWise 2.7 コンソールの ZENworks 6.5 コンソールへのアップグレード

ManageWise 2.7 コンソールをアップグレードするには、ZENworks 6.5 用の ConsoleOne スナップインをインストールする必要があります。

ManageWise 2.7 Server Management Agent のアップグレード

ZENworks 6.5 エージェントのインストール先になるサーバがインストール要件を満たしている場合、ZENworks 6.5 Server Management Agent をインストールすることにより、ManageWise 2.7 Server Management Agent をアップグレードできます。

ManageWise 2.7 Traffic Analysis Agent のアップグレード

ZENworks 6.5 の Traffic Analysis Agent は、NetWare サーバおよび Windows 2000/2003 サーバの両方で実行します。ZENworks 6.5 エージェントのインストール先になるサーバがインストール要件を満たしている場合、ZENworks 6.5 Traffic Analysis Agent をインストールしてアップグレードすることができます。

ManageWise 2.7 Traffic Analysis Agent の古いトレンドデータが存在する場合、そのデータを使用するには、ZENworks 6.5 Traffic Analysis Agent にデータを移行する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「トレンドファイルの移行」を参照してください。

ManageWise 2.7 の段階的なアップグレード

段階的な ZENworks 6.5 のインストールを選択することで、ネットワークを管理するために ManageWise 2.7 のセットアップを継続して保持することができます。ManageWise サーバ以外のサーバに ZENworks 6.5 をインストールします。ManageWise サーバおよび ZENworks 6.5 サイトサーバは、同じネットワーク内に共存できますが、同じコンピュータで共存することはできません。ZENworks 6.5 サイトサーバをインストールした後、検出を実行して、ネットワークを設定する必要があります。

ZENworks 6.5 サイトサーバは、既存の ManageWise エージェントと連携して動作することができます。この後の段階でエージェントをアップグレードできます。ただし、sys:¥etc ディレクトリ内の traptarg.cfg ファイルに ZENworks 6.5 サイトサーバの IP アドレスを手動で追加する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「手動での traptarg.cfg ファイルの編集 (NetWare 版 Management Agent のみ)」を参照してください。

Windows 2000/2003 サーバに ManageWise サーバ管理エージェントをインストールしている場合、ZENworks 6.5 エージェントをインストールすることはできません。ManageWise エージェントをアンインストールしてから、ZENworks 6.5 エージェントをインストールする必要があります。

ZENworks 6.5 コンソールのインストール要件が満たされている場合、ZENworks 6.5 管理コンソール (ConsoleOne) と ManageWise コンソールは、同じワークステーション上で共存できます。詳細については、3 章 31 ページの「前提条件」を参照してください。

V

相互運用性

相互運用性とは、2つ以上の製品が同じネットワーク環境（たとえば、同じツリー、同じサーバなど）で相互に対話することを示します。

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management および ZENworks 6.5 Server Management を同じネットワークにインストールすると、ソフトウェア、ファイル、およびアプリケーションの管理や配布を集中的に行ったり、ネットワークの使用状況や健全性を監視したり、ネットワークポリシーを適用したりできます。ただし、Desktop Management および Server Management を同時にアップグレードおよびインストールした場合、Desktop Management と Server Management との間、およびそれぞれの以前のバージョンとの間で相互運用性の問題が発生することがあります。

次の節では、ZENworks 6.5 の相互運用性の問題について説明します。

- ◆ 16 章 271 ページの「Policy and Distributions Services の相互運用性」
- ◆ 17 章 273 ページの「インベントリの相互運用性」
- ◆ 18 章 285 ページの「Remote Management の相互運用性」
- ◆ 19 章 287 ページの「他の製品との相互運用性」

16

Policy and Distributions Services の相互運用性

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management と以前のバージョンの ZENworks for Servers との間の Policy and Distribution Services に関する相互運用性については、次の節を参照してください。

- ◆ 271 ページの「バージョン間の相互運用性」
- ◆ 272 ページの「認識されない新機能」
- ◆ 272 ページの「インストールとアップグレードを同時に実行する場合の問題点」

バージョン間の相互運用性

ZENworks 6.5 Server Management と以前のバージョンの ZENworks for Servers との間のソフトウェアバージョンに関する相互運用性については、次の節を参照してください。

- ◆ 271 ページの「ZENworks for Servers 2との相互運用性」
- ◆ 271 ページの「ZENworks for Servers 3.xとの相互運用性」
- ◆ 272 ページの「ツリー間の Distribution」

ZENworks for Servers 2との相互運用性

ZENworks for Servers 2サーバと ZENworks 6.5 Server Management サーバのバージョンを直接アップグレードすることはサポートされていないため、ZENworks for Servers 2サーバと ZENworks 6.5 Server Management サーバの間には相互運用性がありません。ZENworks for Servers 2 と ZENworks 6.5 Server Management は、同じネットワークで共存できますが、同じサーバで実行できません。

スキーマ拡張は累積的に実行されるため、バージョン 6.5 のスキーマ拡張は ZENworks for Servers 2 コンポーネントによって無視され、ZENworks 6.5 Server Management は使用しなくなったバージョン 2 のスキーマ拡張を無視します。

ZENworks for Servers 3.xとの相互運用性

ZENworks for Servers 3.0.2 Interim Release 1サーバと ZENworks 6.5 Server Management サーバ間では、配布およびポリシーについて相互運用性があります。したがって、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks for Servers 3.xを同時に実行する場合は、段階的にアップグレードを行う前に、すべての ZENworks for Servers 3.x サーバをバージョン 3.0.2 Interim Release 1に更新します。手順については、[技術情報 2968433 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm) を参照してください。

单一のサーバで、ZENworks for Servers 3.x と ZENworks 6.5 Server Management のソフトウェアを同時に実行することはできません。たとえば、ZENworks 6.5 Server Management Distributor と ZENworks for Servers 3.x Subscriber を同一サーバで実行することはできません。

ツリー間の Distribution

ZENworks 6.5 に新しいスキーマ拡張を追加したため、Desktop Application Distributions を ZENworks 6.5 以降の Distributors から ZENworks for Servers 3.0.2 Subscribers に送信することはできません。

認識されない新機能

ZENworks for Servers 3.0.2 Interim Release 1 Subscriber がバージョン 6.5 Distribution を受け取っても、ZENworks 6.5 Server Management の新機能は無視されるだけです。例：

ディレクトリ同期の細分性
Distribution の前後実行アクション
MSI Distribution

ただし、新しいProhibited File ポリシーは、バージョン 6.5 Distributor から送信し、抽出して、バージョン 3.0.2 Interim Release 1 Subscriber に適用できます。

インストールとアップグレードを同時に実行する場合の問題点

ZENworks for Servers 3.x サーバのアップグレード中、まだ ZENworks for Servers がインストールされていない新規サーバも存在する場合、次の操作を実行して、相互運用性の問題が発生するのを回避する必要があります。

1. まず次のいずれかの操作を実行してから、もう一方の操作を実行します。
 - ◆ すべての新規 Distributor サーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。
 - ◆ すべての ZENworks for Servers 3.x Distributor サーバを ZENworks 6.5 にアップグレードします。

最初に Distributor をインストールする方法が簡単です。

2. 次のいずれかの操作を実行してから、もう一方の操作を実行します。
 - ◆ 既存の ZENworks for Servers 3.x Subscriber をバージョン 6.5 にアップグレードします。
 - ◆ 新規 Subscriber サーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。

Subscriber サーバのインストールまたはアップグレードのどちらを先に実行するかは問題ではありません。ただし、Novell ConsoleOne がインストールされているサーバのアップグレードを完了するには、インストールプログラムを使用する必要があります（アップグレードプログラムは、ConsoleOne スナップインのアップグレードを実行しません）。したがって、まずアップグレードしてから、新規 Subscriber サーバへのインストール中に、これら既存の 3.x サーバの ConsoleOne スナップインをアップグレードすることができます。

これらの 2 つの手順を実行すると、すべての Distributor と Subscriber との間に相互運用性が実現されます。

17

インベントリの相互運用性

ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory コンポーネントと同じ環境で、Novell® ZENworks® 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントを実行することを計画している場合は、これらの製品をアップグレードまたはインストールする前に、最初に互換性の問題について理解し、対処方法を考える必要があります。

インベントリの相互運用性に特に適用される前提条件は次のとおりです。

- ◆ インベントリサーバをアップグレードする場合は、インベントリツリーの上位から下位へと展開します。最上位のサーバ（ルートサーバ）からインストールを開始して、次の下位レベルのサーバのインストールに進みます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management を同じコンピュータにインストールしている場合は、ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) にアップグレードしたら、ZENworks 6.5 Server Management も ZENworks 6.5 Server Management SP1 にアップグレードする必要があります。これは逆の場合も同様です。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management は、同じインベントリデータベース (Sybase、Oracle、または MS SQL) を使用できます。インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Server Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management インストールの一部としてインストールする必要はありません。また、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Desktop Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 6.5 Server Management インストールの一部としてインストールする必要があります。
- ◆ Server Inventory および Workstation Inventory を管理するには、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management の両方に対する Novell ConsoleOne® インベントリスナップインをインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象サーバから直接 Server Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Server Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象ワークステーションから直接 Workstation Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Workstation Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールする必要があります。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management のインベントリには次のオブジェクトとポリシーが適用されます。

データベースオブジェクト

Inventory Service オブジェクト

ディクショナリ更新ポリシー

ロールアップポリシー

ZENworks データベースポリシー

インベントリの相互運用性を実現するために、これらの要件が満たされていることを確認します。

インベントリの相互運用性を実現するには、次の節を参照してください。

- ◆ 274 ページの「ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性」
- ◆ 281 ページの「複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks for Servers 3.0.2 間の相互運用性」
- ◆ 281 ページの「ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性」

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性

- ◆ 274 ページの「同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性」
- ◆ 274 ページの「複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性」

同一サーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management とが同一サーバにインストールされている場合、ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントは、ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory コンポーネントとの間でのみ相互運用できます。

ZENworks 6.5 Server Management を、ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要があります。また、ZENworks 6.5 Desktop Management を、ZENworks 6.5 Server Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要があります。

複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management 間の相互運用性

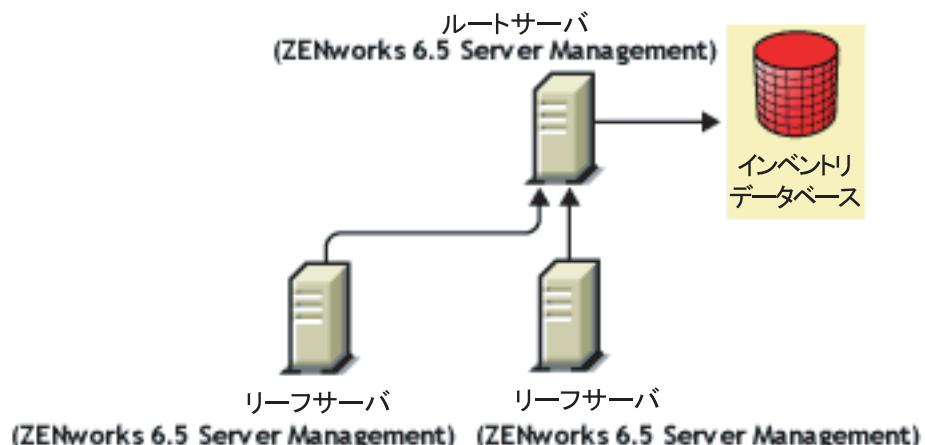
ここでは、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management が同じネットワークの異なるサーバにインストールされている場合の、両者の相互運用性を実現するインストールシナリオについて説明します。

- ◆ 275 ページの「シナリオ1:Server Management環境へのDesktop Managementのインストール」
- ◆ 277 ページの「シナリオ2:Desktop Management環境へのServer Managementのインストール」
- ◆ 279 ページの「シナリオ3: ツリー間でのインベントリのロールアップ」

シナリオ 1:Server Management 環境への Desktop Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのインベントリサーバに ZENworks 6.5 Server Management しかインストールされていません。

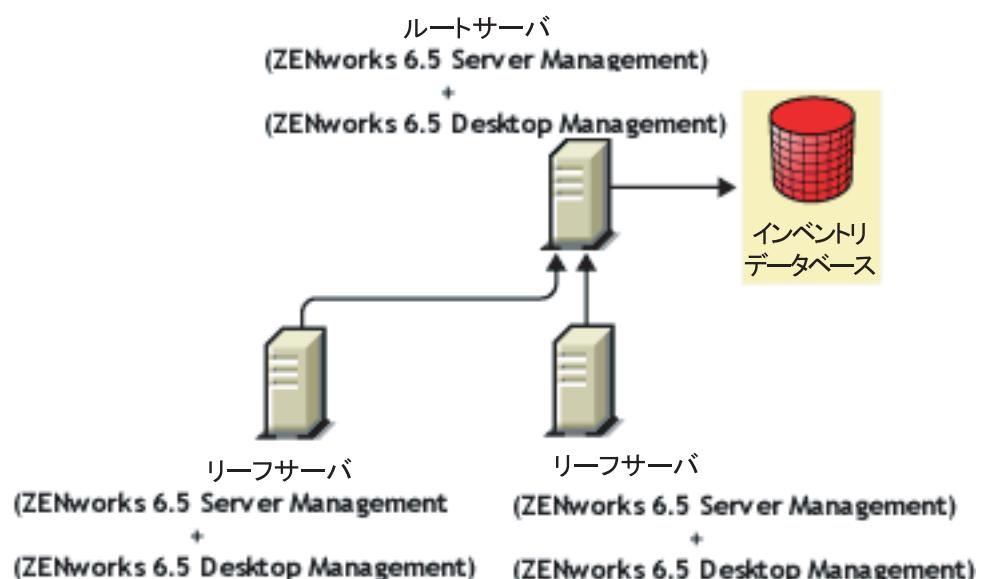
次の図は、この場合の構成例を示しています。



次のいずれかの方法を使用して、ZENworks 6.5 Desktop Management を ZENworks 6.5 Server Management にインストールできます。

- 方法 1: トップダウンインストール方法により、ZENworks 6.5 Desktop Management をすべての ZENworks 6.5 Server Management インベントリサーバにインストールします。常に最上位のインベントリサーバからインストールを開始し、それに続いて次の下位のインベントリサーバでのインストールを実行します。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 6.5 Desktop Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド』の「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。

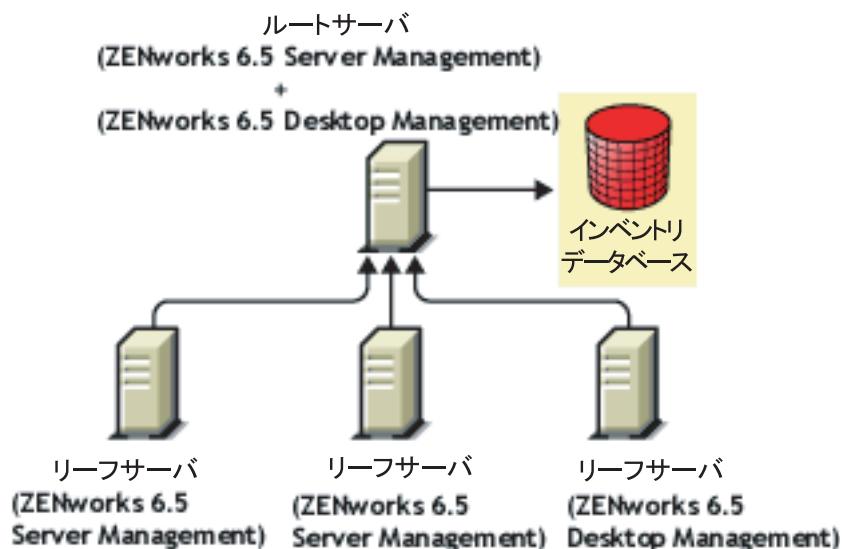


◆ 方法2: 次の作業を順に実行します。

1. ZENworks 6.5 Desktop Management をルートサーバにインストールします。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド』の「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド』の「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

ZENworks 6.5 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。ZENworks 6.5 Server Management および ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

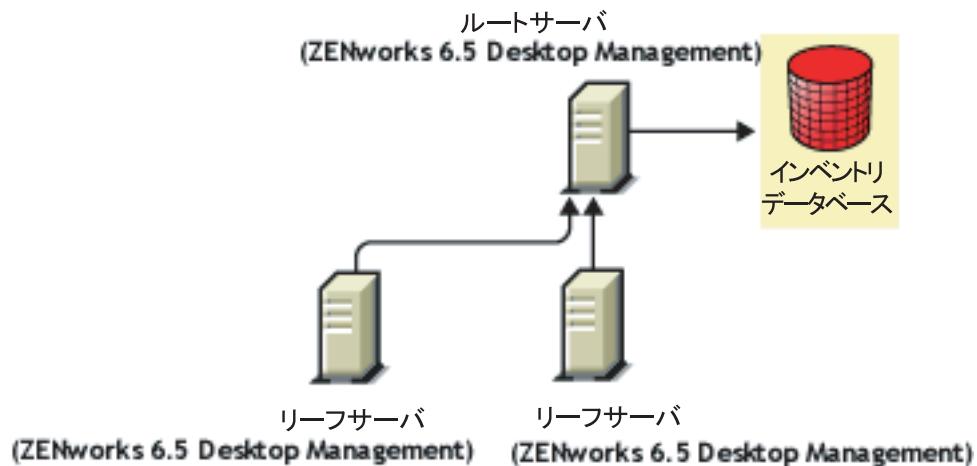
次の図は、この場合の構成例を示しています。



シナリオ 2: Desktop Management 環境への Server Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのインベントリサーバには ZENworks 6.5 Desktop Management しかインストールされていません。

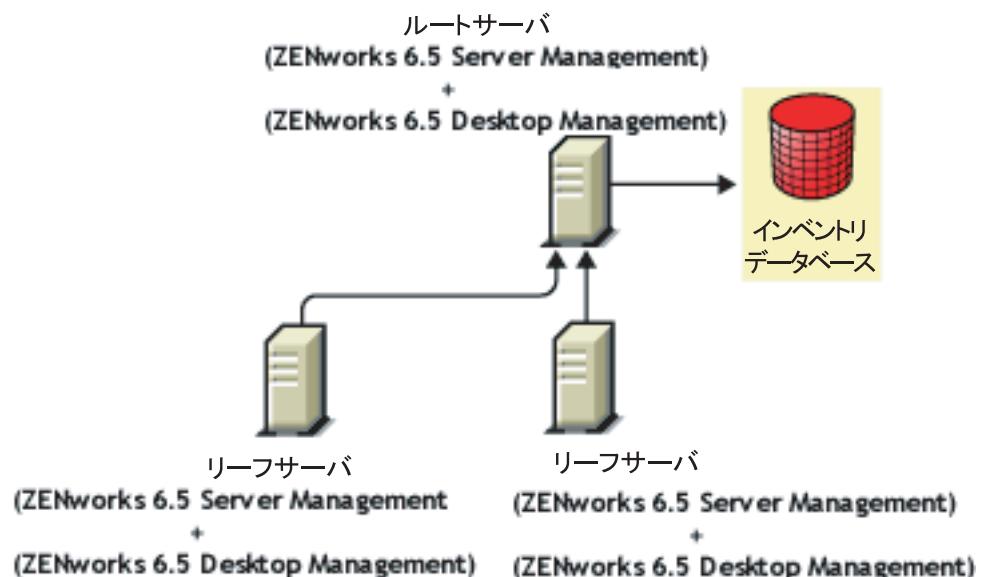
次の図は、この場合の構成例を示しています。



次のいずれかの方法を使用して、ZENworks 6.5 Server Management を ZENworks 6.5 Desktop Management にインストールできます。

- ◆ **方法 1:** トップダウンインストール方法により、ZENworks 6.5 Server Management をすべての ZENworks 6.5 Desktop Management インベントリサーバにインストールします。常に最上位のインベントリサーバからインストールを開始し、それに続いて次の下位のインベントリサーバでのインストールを実行します。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 6.5 Server Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、[6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。

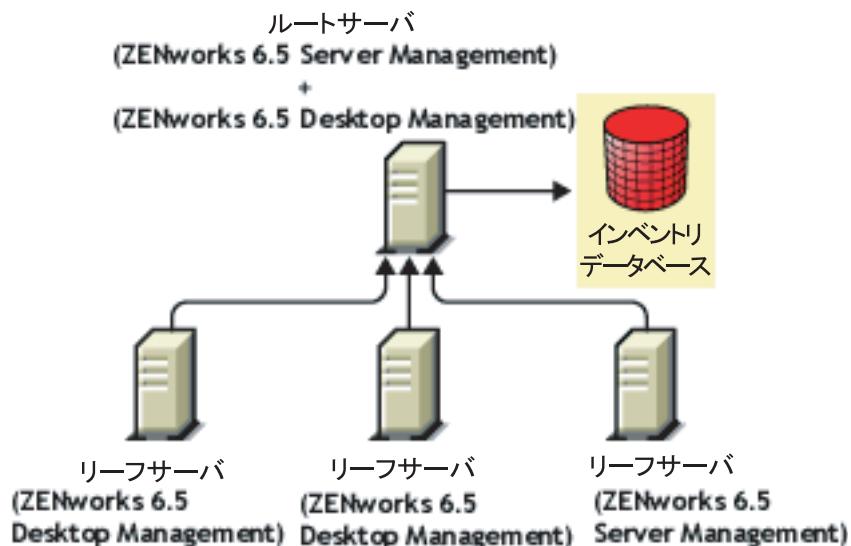


◆ 方法2: 次の作業を順に実行します。

1. ZENworks 6.5 Server Management をルートサーバにインストールします。
ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
2. ZENworks 6.5 Server Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。

ZENworks 6.5 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。ZENworks 6.5 Server Management および ZENworks 6.5 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

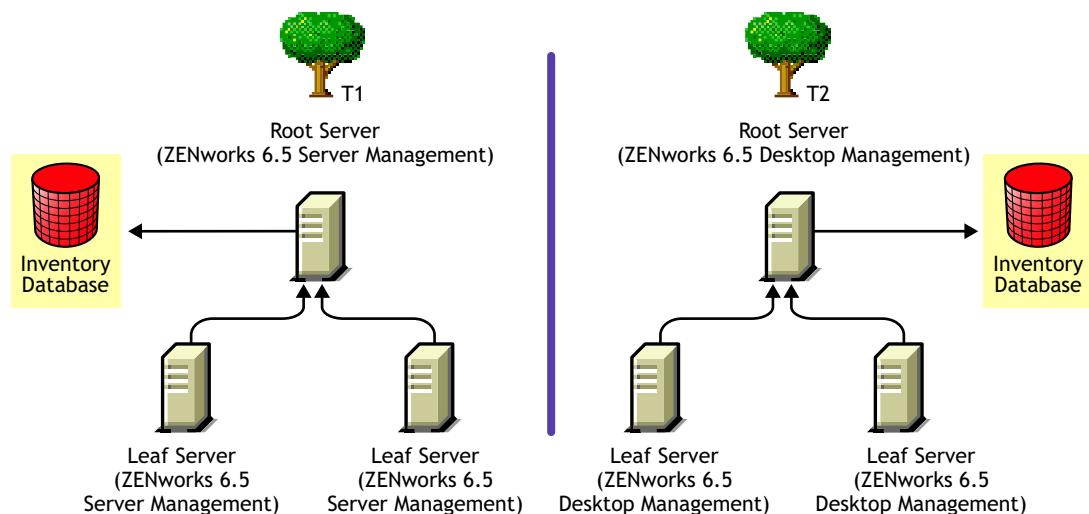
次の図は、この場合の構成例を示しています。



シナリオ 3: ツリー間でのインベントリのロールアップ

このシナリオでは、T1 と T2 の 2 つの eDirectory ツリーが存在します。T1 には ZENworks 6.5 Server Management が、T2 には ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされています。サーバおよびワークステーションの両方のインベントリ情報を受信する 1 台のルートサーバを設定するために、T1 と T2 インベントリツリーをマージする必要があります。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



次に示す 2 つの方法を使って、T1 と T2 をマージすることができます。

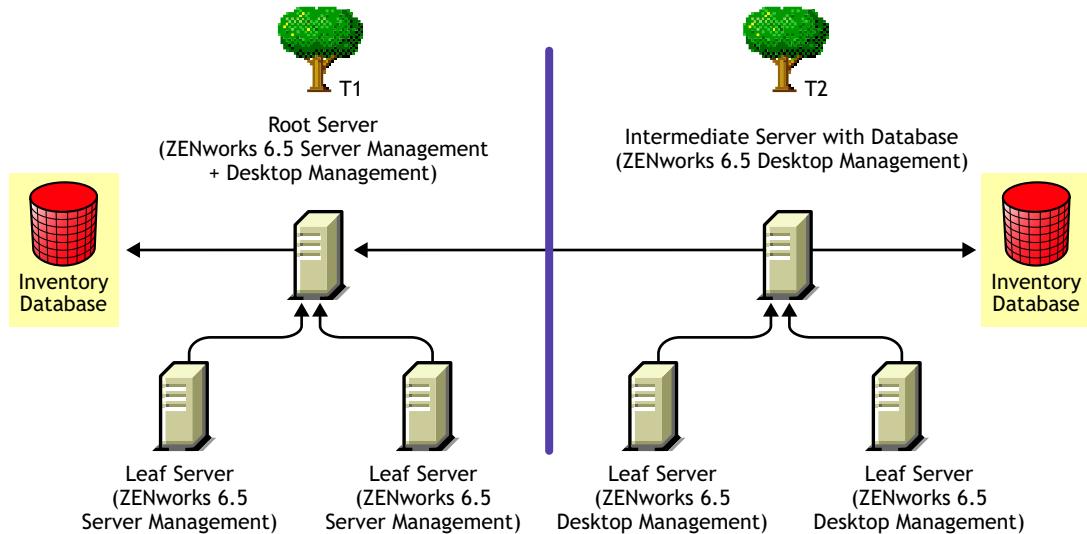
- ◆ [279 ページの「マージする方法 1」](#)
- ◆ [280 ページの「マージする方法 2」](#)

マージする方法 1

次に示す一般的な手順を実行して、T2 のインベントリデータを T1 のインベントリデータにマージすることができます。

1. T1 のルートサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールします。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*』の「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. T2 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T1 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、『*ZENworks 6.5 Desktop Management 管理ガイド*』の「インベントリサーバの役割変更」を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。

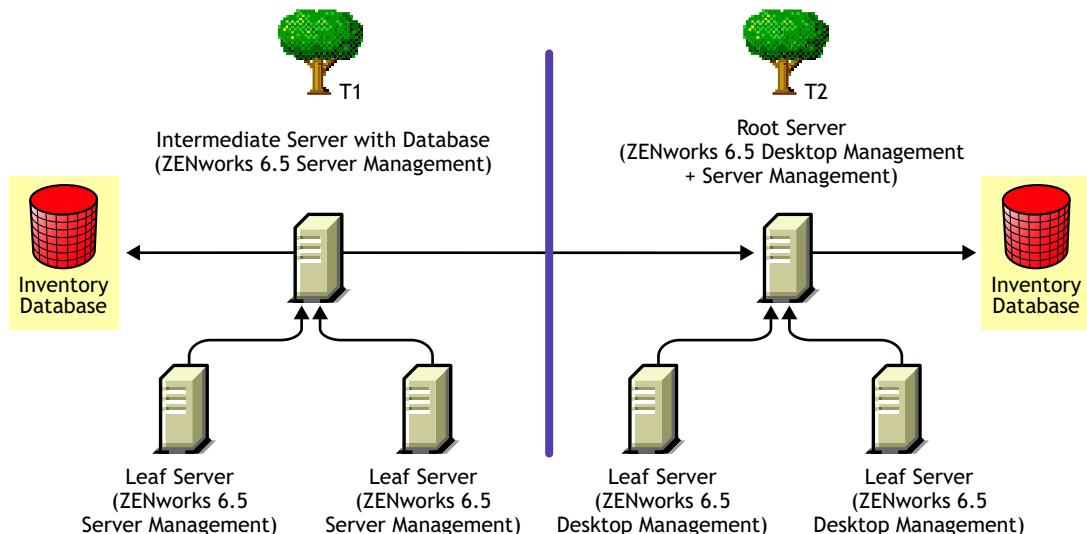


マージする方法 2

次に示す一般的な手順を実行して、T1 のインベントリデータを T2 のインベントリデータにマージすることができます。

1. T2 のルートサーバに ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。詳細については、[6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」](#)を参照してください。
2. T1 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T2 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、[『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』の「インベントリサーバの役割変更」](#)を参照してください。

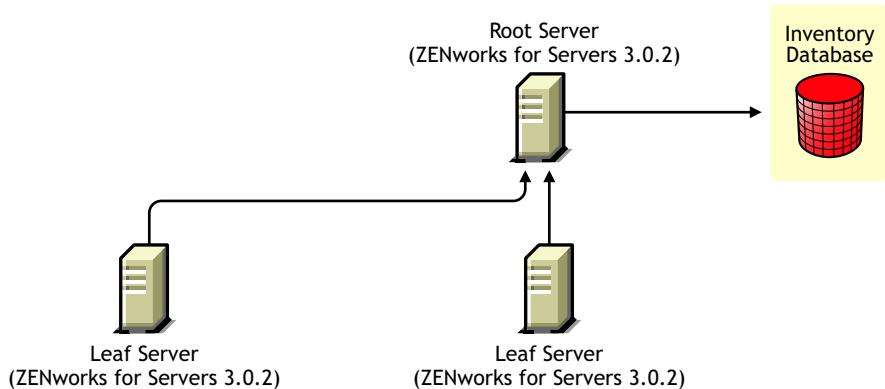
次の図は、この場合の構成例を示しています。



複数のサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks for Servers 3.0.2 間の相互運用性

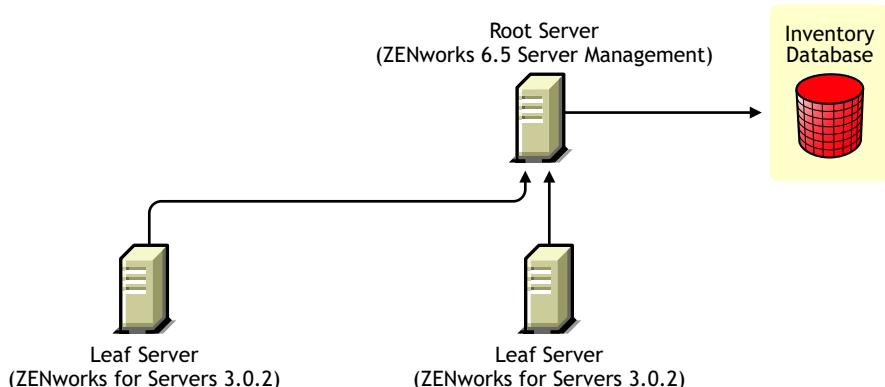
この構成では、ZENworks for Servers 3.0.2 がインストールされた、2台のリーフサーバと 1台のルートサーバが存在します。リーフサーバがルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



複数のインベントリサーバにインストールされた ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks for Servers 3.0.2 間の相互運用性を実現するには、ルートサーバを ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする必要があります。ZENworks 6.5 Server Management のアップグレードに関する詳細については、[12 章 231 ページの「Server Inventory」](#)を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性

- ◆ [282 ページの「ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks が 1台のサーバにインストールされている場合の相互運用性」](#)
- ◆ [283 ページの「ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性」](#)

ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性

ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management のインベントリを同じサーバで実行する特定のサーバに、次の ZENworks バージョンまたは ZENworks バージョンの組み合わせが存在します。

ZENworks for Desktops 4.0.1
ZENworks for Desktops 4.0 SP1b
ZENworks for Servers 3.0.2
ZENworks for Servers 3.0 SP2
ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2
ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0 SP2
ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0.2
ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0 SP2
ZENworks for Desktops 3.2 SP3

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 以外は、最初に ZENworks 6.5 Server Management または ZENworks 6.5 Desktop Management のどちらか一方をアップグレードし、後でもう一方をアップグレードまたはインストールできます。この結果、ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management との間で Inventory を相互運用できるようになります。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 が存在する場合は、次の手順に従ってください。

1. ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールします。
2. ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。

詳細は次のとおりです。

- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*』の「インストール」を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management をアップグレードするには、『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*』の「アップグレード」を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management をインストールするには、6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management をアップグレードするには、119 ページの「アップグレード」を参照してください。

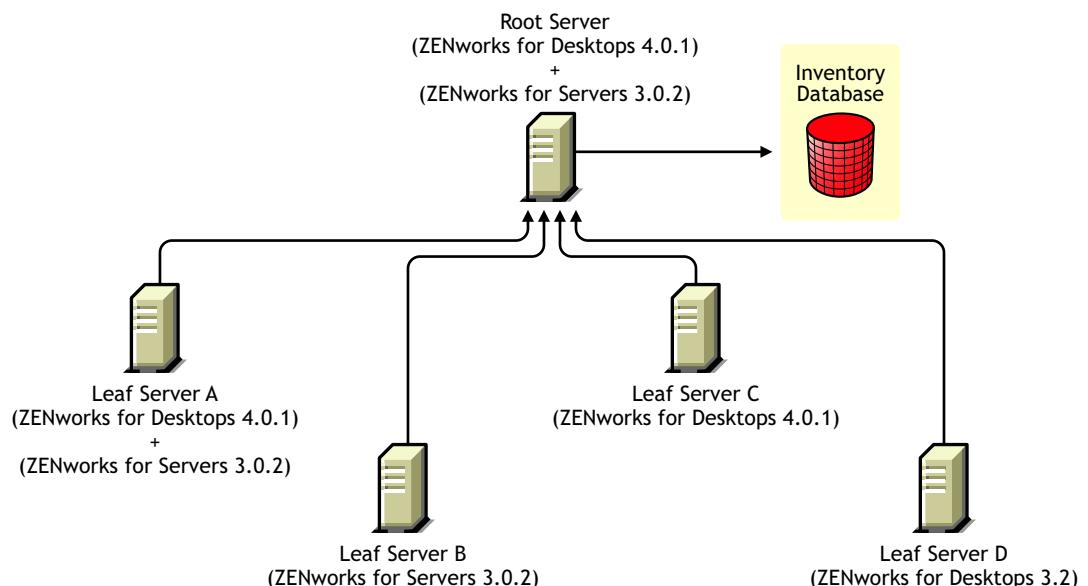
ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性

この構成では、4台のリーフサーバ (A、B、C、D) が存在し、それぞれ、次のバージョンの ZENworks がインストールされています。

リーフサーバ	インストールされている ZENworks のバージョン
リーフサーバ A	ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2
リーフサーバ B	ZENworks for Servers 3.0.2
リーフサーバ C	ZENworks for Desktops 4.0.1
リーフサーバ D	ZENworks for Desktops 3.2

リーフサーバは、ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2 がインストールされたルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



ZENworks 6.5 Server Management、ZENworks Desktop 6.5 Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のインベントリサーバにインストールされている場合、これらのサーバ間の相互運用性は次の手順で実現できます。

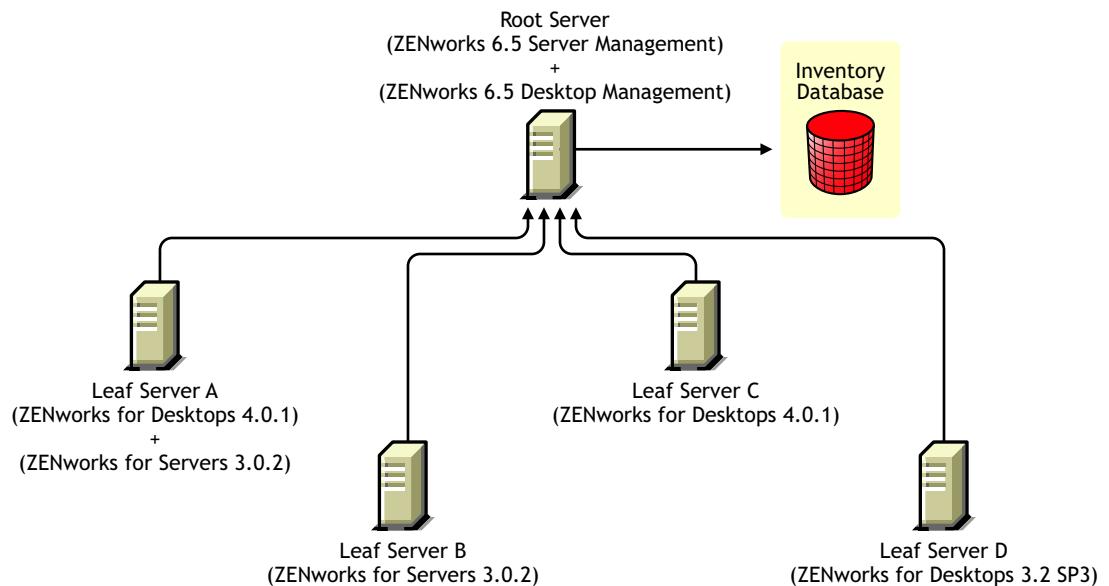
1. ルートサーバに ZENworks 6.5 Desktop Management および ZENworks 6.5 Server Management をインストールします。

ZENworks 6.5 Desktop Management のインストールに関する詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*

』の「インストール」を参照してください。ZENworks 6.5 Server Management のインストールに関する詳細については、6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。

2. リーフサーバ D を ZENworks for Desktops 3.2 から ZENworks for Desktops 3.2 SP3 にアップグレードします。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Desktop Management インストールガイド*』の「アップグレード」を参照してください。

次の図は、この場合の構成例を示しています。



18

Remote Management の相互運用性

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management と ZENworks for Desktops 4.x または ZENworks for Servers 3.x との間には次のような Remote Management の相互運用性が存在します。

- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management コンソールは、ZENworks for Servers 3.x Remote Management Agent のみと相互運用性があります。
- ◆ ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management コンソールと ZENworks for Desktops 4.x Remote Management Agentとの間には認証のパスワードモードのみ相互運用性が存在し、Remote Control 操作および Remote View 操作を実行できます。
- ◆ ZENworks 6.5 Desktop Management の Remote Management コンソールを使用して、ZENworks for Desktops 4.x、ZENworks 6.5 Desktop Management ワークステーション、および ZENworks 6.5 Server Management サーバを管理します。

19

他の製品との相互運用性

- ◆ 287 ページの「Remote Management」
- ◆ 287 ページの「Novell Clustering Services」
- ◆ 287 ページの「Nterprise Branch Office」

Remote Management

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management の Remote Management コンポーネントのインストール時にミラードライバを Windows 2000/2003 にインストールすることを選択した場合、Remote Management コンポーネントは、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品と共に存することができます。

これにより、ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management コンポーネントと同じ環境で、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品を使用できるようになります。

Novell Clustering Services

ZENworks Server Management は、既存の Novell Clustering Services 環境にインストールできます。詳細については、335 ページの付録 E、「クラスタ環境での ZENworks Server Management」を参照してください。

クラスタリングは、ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management ではサポートされていません。

Nterprise Branch Office

ZENworks 6.5 Server Management では、Interim Release 1 が適用された ZENworks for Servers 3.x 以外に、Policy and Distribution Services と Nterprise Branch Office™ 2.0 との間の相互運用性はサポートされていません。ZENworks 6.5 Server Management Distributor は、バージョン 6.5 Distribution を ZENworks for Servers 3.x Interim Release 1 Subscriber に送信できます。

Interim Release 1 の入手とインストールについては、[技術情報 2968433 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchid.cgi?/2968433.htm) を参照してください。

Nterprise Branch Office については、『Novell Nterprise Branch Office Setup Guide』の「[Integrating Nterprise Branch Office with ZENworks Tiered Electronic Distribution \(http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/index.html?page=/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/aigi61a.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/index.html?page=/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/aigi61a.html)」を参照してください。

VI

アンインストール

次の章では、Novell® ZENworks® Server Management ソフトウェアをアンインストールする方法について説明します。

- ◆ 20 章 291 ページの「Policy and Distribution Services のアンインストール」
- ◆ 21 章 299 ページの「Server Inventory のアンインストール」
- ◆ 22 章 309 ページの「Remote Management のアンインストール」
- ◆ 23 章 311 ページの「Management and Monitoring Services のアンインストール」

20

Policy and Distribution Services のアンインストール

Novell® ZENworks® Policy and Distribution Services を自動的にアンインストールすることはできません。手動で ZENworks Server Management ソフトウェア、その Novell eDirectory™ オブジェクト、および Novell ConsoleOne® ファイルを削除する必要があります。

ZENworks Server Management コンポーネントがインストールされたすべてのサーバおよびワークステーションで、オブジェクト、ファイル、および情報を削除する必要があります。

手動で ZENworks Server Management をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 291 ページの「eDirectory オブジェクトのアンインストール」
- 2 292 ページの「NetWare サーバのソフトウェアのアンインストール」
- 3 294 ページの「Windows サーバのソフトウェアのアンインストール」
- 4 296 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのソフトウェアのアンインストール」
- 5 296 ページの「ConsoleOne からのスナップインのアンインストール」
- 6 298 ページの「Web コンポーネントのアンインストール」

eDirectory オブジェクトのアンインストール

ZENworks eDirectory オブジェクトを削除するかどうかはオプションです。

eDirectory オブジェクトを削除しない場合には、作業ディレクトリの場所に関する情報を収集する手順だけを実行します。ソフトウェアを削除するのに、この情報が必要になります。

ZENworks eDirectory オブジェクトを削除するには

- 1 ConsoleOne で、SLP のプロパティパッケージを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 Tiered Electronic Distribution ポリシーが有効になっている場合、そのポリシーを選択して、[Properties] をクリックし、指定されているデフォルトのログファイルおよび作業ディレクトリの場所と名前をメモします。
後でソフトウェアファイルを削除するときに、この情報が必要になります。
- 3 ConsoleOne で、Tiered Electronic Distribution オブジェクトを保持するコンテナを検索します。

3a Tiered Electronic Distribution オブジェクトのプロパティで指定されている、ログファイルと作業ディレクトリの場所と名前をメモします。

後でソフトウェアファイルを削除するときに、この情報が必要になります
(292 ページの「NetWare サーバのソフトウェアのアンインストール」、294 ページの「Windows サーバのソフトウェアのアンインストール」、および 296 ページの「Linux サーバおよび Solaris サーバのソフトウェアのアンインストール」を参照してください)。

3b Tiered Electronic Distribution オブジェクトを右クリックし、[Delete NDS Object] をクリックして、[Yes] をクリックします。

次に示す Tiered Electronic Distribution オブジェクトの中で、存在する各オブジェクトについてこの操作を実行します。

Distributor
Distribution
Channel1
Subscriber
External Subscriber
Subscriber Group

4 ツリー内のすべての Tiered Electronic Distribution オブジェクトに対し、**ステップ 3** を実行します。

5 ZENworks Server Management のポリシーパッケージを保持するコンテナを検索し、すべてのポリシーパッケージオブジェクトを削除します。

6 ツリー内のポリシーパッケージオブジェクトを含むすべてのコンテナオブジェクトに対して、**ステップ 5** を実行します。

7 すべてのパッケージコンポーネントを表示できるよう、Server Software Packages のプラス記号をクリックします。

8 ソフトウェアパッケージを選択します。

8a そのコンポーネントオブジェクトの 1 つを右クリックし、[Delete]、[Yes] の順にクリックします。

8b 選択したパッケージの各コンポーネントについて**ステップ 8a** を実行します。

8c ソフトウェアパッケージオブジェクトを右クリックし、[Remove]、[Yes] の順にクリックします。

9 各ソフトウェアパッケージについて**ステップ 8** を実行します。

10 Server Management データベースを削除する場合は、適切なデータベースオブジェクトを右クリックし、[Delete NDS Object]、[Yes] の順にクリックします。

正しいデータベースオブジェクトを選択していることを確認します。これは、Server Inventory や ZENworks for Desktops などで、他のデータベースオブジェクトが使用されている場合があるためです。

11 ConsoleOne を終了します。

NetWare サーバのソフトウェアのアンインストール

NetWare® サーバから ZENworks Server Management ソフトウェアファイルを削除する必要があります。

ソフトウェアファイルを削除するには

1 サーバコンソールで、すべての ZENworks Server Management Java プロセスをアンロードします (ZENworks Server Management コマンドラインプロンプトで EXIT を使用します)。

2 Sybase プロンプトで、「**q**」と入力してデータベースを停止します。

3 Policy and Distribution データベースファイル (zfslog.db) を削除する場合は、\$database ディレクトリを削除します。

警告：\$database ディレクトリが ZENworks for Desktops、Server Inventory、または Management and Monitoring Services によって使用されている場合は、この \$database ディレクトリを削除しないでください。

4 ファイルマネージャを使用して、\$zenworks\$pds ディレクトリを削除します。

この結果、Distributor、Subscriber、および Server Policies ソフトウェアが削除されます。デフォルトの作業ディレクトリパスを使用していた場合は、Distribution ファイルを含む、すべての作業ディレクトリも削除されます。

警告：\$database ディレクトリが \$pds ディレクトリ内に配置されており、データベースが ZENworks for Desktops、Server Inventory、または Management and Monitoring Services によって使用されている場合は、\$pds ディレクトリを削除しないでください。代わりに、\$pds ディレクトリ以外のすべてのディレクトリを削除します。

前で示したデフォルト以外のインストールパスを使用している場合は、\$pds ディレクトリがどこに配置されているのかを検索するために \$system\$zenworks.properties ファイルを開きます。

5 \$zenworks ディレクトリから zfsversion.class および zfsversion.ncf ファイルを削除します。

警告：\$zenworks ディレクトリは削除しないでください。他の Novell ソフトウェアプログラムが共有している可能性があります。

6 \$system ディレクトリから \$zenworks.properties ファイルを削除します。

警告：ZENworks Desktop Management がインストールされている場合は、zenworks.properties ファイルを削除しないでください。Server Management と Desktop Management はこのファイルを共有します。

7 次の項目を削除します。

- ◆ Server Policies、Server Software Packages、および Tiered Electronic Distribution コンポーネントによって作成されたすべてのログファイル
- ◆ \$zenworks\$pds\$ted ディレクトリ以外の場所に作成されたすべての作業ディレクトリ
- ◆ \$zenworks\$pds\$manager ディレクトリ以外の場所に作成されたすべての作業ディレクトリ

この結果、Distribution を含むすべての作業ファイルが削除されます。事前にこの情報を収集しておく必要があります (291 ページの「eDirectory オブジェクトのアンインストール」のステップ 3a を参照してください)。

8 NetWare レジストリをクリーンアップします。

8a NetWare サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

regedit

8b 次のコマンドを入力します。

cd software\$novell\$zenworks

8c Server Management のコンポーネントが Policy and Distribution Services よりも多くインストールされている場合や Desktop Management もインストールされている場合は、次のコマンドを入力します。

```
rd zfs
del pdspath
del pdfdbpath
```

8d Policy and Distribution Services のみがインストールされている場合は、次のコマンドを入力します。

```
rd zenworks
```

9 ZENworks Server Management がインストールされた各サーバに対し、**ステップ 1** から**ステップ 8** までを実行します。

10 Server Software Packages の .cpk および .spk ファイルを削除するには、これらのファイルを検索して削除します。

Windows サーバのソフトウェアのアンインストール

Windows サーバから ZENworks Server Management ソフトウェアファイルを削除する必要があります。

ソフトウェアファイルを削除するには

1 Windows NT/2000/2003 サーバで REGEDIT を実行し、次のキーを検索します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZENworks
```

次のエントリからインストールパスを確認します。

PDS Path
ZENworks Path
ZWS Path

2 [スタート]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、次のコマンドを入力します。

```
zenworks\pds\bin\dservices.bat
```

このコマンドにより、ZENworks Server Management のサービスが停止し、これらのサービスの登録が取り消されます。この操作は、ZENworks Server Management ディレクトリを削除する前に実行する必要があります。

3 [OK] をクリックします。

4 データベースを停止するには、次の手順を実行します。

サーバプラット フォーム	手順
-----------------	----

Windows NT 4 適用可能な各 Windows NT サーバに対して次の手順を実行します。

1. [コントロール パネル] を開きます。
2. [Services] をダブルクリックします。
3. Novell Sybase Database サービスを停止します。

サーバプラット フォーム	手順
Windows 2000/ 2003	<p>適用可能な各 Windows 2000/2003 サーバに対して次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [コントロール パネル] を開きます。 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。 3. Novell Sybase Database サービスを停止します。

5 ファイルマネージャを使用して、次の項目を削除します。

- ◆ Server Policies、Server Software Packages、および Tiered Electronic Distribution コンポーネントによって作成されたすべてのログファイル
- ◆ ¥zenworks¥pds¥ted ディレクトリ以外の場所に作成されたすべての作業ディレクトリ
- ◆ ¥zenworks¥pds¥smanager ディレクトリ以外の場所に作成されたすべての作業ディレクトリ

この結果、Distribution を含むすべての作業ファイルが削除されます。[291 ページの「eDirectory オブジェクトのアンインストール」のステップ 3a](#) を実行して、事前にこの情報を収集しておく必要があります。

6 Policy and Distribution データベースファイル (zfslog.db) を削除する場合は、¥database ディレクトリを削除します。

警告：¥database ディレクトリが ZENworks for Desktops、Server Inventory、または ZENworks Server Management and Monitoring Services によって使用されている場合は、この ¥database ディレクトリを削除しないでください。

7 ¥zenworks¥pds ディレクトリを削除します。

この結果、Distributor、Subscriber、および Server Policies ソフトウェアが削除されます。

警告：データベースファイルが ¥pds ディレクトリに存在し、Server Inventory、Management and Monitoring Services、または ZENworks for Desktops がこのファイルを使用している場合は、¥pds ディレクトリを削除しないでください。代わりに、¥pds ディレクトリに存在するすべてのディレクトリ (¥database ディレクトリは除く) を削除します。

¥zenworks ディレクトリは削除しないでください。他の Novell ソフトウェアプログラムが共有している可能性があります。

8 Windows レジストリを開き、次の場所にある PDSPPath と ZWSPPath エントリを削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS

警告：ZENworks Server Management のその他のコンポーネントが ZENworks Web Server を使用しているため、そのコンポーネントを削除しない場合は、ZWSPPath エントリを削除しないでください。

9 ZENworks Server Management がインストールされた各サーバに対し、[ステップ 2](#) から [ステップ 8](#) までを実行します。

10 Server Software Packages の .cpk および .spk ファイルを削除するには、これらのファイルを検索して削除します。

Linux サーバおよびSolaris サーバのソフトウェアのアンインストール

Linux サーバまたはSolaris サーバから ZENworks Server Management ソフトウェア ファイルを削除する必要があります。

ソフトウェアファイルを削除するには

- 1 319 ページの付録 B、「Server Management Services の起動と停止」の説明に従つて、Linux または Solaris サーバのすべての Policy and Distribution Services デーモンを停止します。
- 2 ZFSTed パッケージを削除します。

- ♦ Linux の場合 :

```
rpm -e novell-zen-zfs
```

```
rpm -e novell-zen-zws
```

- ♦ Solaris の場合 :

```
pkgrm novell-zen-zfs
```

- 3 手動で zfs 実行可能ファイルを削除します。

```
rm /etc/init.d/novell-zfs
```

- 4 手動で /var/opt/novell/zenworks ディレクトリおよび残りのコンテンツを削除します。

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks
```

この結果、Distribution を含むすべての作業ファイルが削除されます。291 ページの「eDirectory オブジェクトのアンインストール」のステップ 3a を実行して、事前にこの情報を収集しておく必要があります。

- 5 手動で /var/opt/novell/log/zenworks ディレクトリおよび残りのログファイルを削除します。

```
rm -rf /var/opt/novell/log/zenworks
```

- 6 Policy and Distribution Services がインストールされた各 Linux サーバまたは Solaris サーバに対し、ステップ 1 からステップ 5 までを実行します。

- 7 Server Software Packages の .cpk および .spk ファイルを削除するには、これらのファイルを検索して削除します。

ConsoleOne からのスナップインのアンインストール

ZENworks Server Management にConsoleOne スナップインを提供する .jar ファイルを削除する必要があります。

警告 : 他の製品の管理にConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体を削除しないでください。

ZENworks Server Management 用の ConsoleOne スナップインだけを削除するには

- 1 ワークステーションの `c:\novell\consoleone\1.2\` ディレクトリ（パスが異なる場合もあります）内のサブディレクトリから、次のファイルを削除します（サブディレクトリ自体は削除しないでください）。

```
¥lib¥ted¥*. jar
¥lib¥zen¥*. jar
¥resources¥ted¥cpkagentres. jar
¥resources¥ted¥fileagentres. jar
¥resources¥ted¥ftpagentres. jar
¥resources¥ted¥httpagent. jar
¥resources¥ted¥installwizardres. jar
¥resources¥ted¥tedlibres. jar
¥resources¥ted¥tedsnapinsres. jar
¥resources¥rwc¥*. jar
¥snapins¥rwc¥*. jar
¥snapins¥zen¥zenpolicy. jar
¥snapins¥zen¥zenreport. jar
¥snapins¥zen¥zfssnap. jar
¥snapins¥ted¥tedsnapins. jar
¥snapins¥ted¥tednalagent. jar
```

- 2 ConsoleOne がインストールされている各ワークステーションに対して、**ステップ 1** を実行します。

- 3 サーバの `sys:public\mgmt\consoleone\1.2\` ディレクトリ（パスが異なる場合もあります）内のサブディレクトリから次のファイルを削除します（サブディレクトリ自体は削除しないでください）。

```
¥lib¥ted¥*. jar
¥lib¥zen¥*. jar
¥resources¥ted¥cpkagentres. jar
¥resources¥ted¥fileagentres. jar
¥resources¥ted¥ftpagentres. jar
¥resources¥ted¥httpagent. jar
¥resources¥ted¥installwizardres. jar
¥resources¥ted¥tedlibres. jar
¥resources¥ted¥tedsnapinsres. jar
¥resources¥rwc¥*. jar
¥snapins¥rwc¥*. jar
¥snapins¥zen¥zenpolicy. jar
¥snapins¥zen¥zenreport. jar
¥snapins¥zen¥zfssnap. jar
¥snapins¥ted¥tedsnapins. jar
¥snapins¥ted¥tednalagent. jar
```

これらは**ステップ 1** と同じファイルです。

- 4 ConsoleOne がインストールされている各サーバに対して、**ステップ 3** を実行します。

Web コンポーネントのアンインストール

Policy and Distribution Services Web コンポーネントは Tomcat Servlet Gateway に統合されます。適切な手順に従います。

- ◆ 298 ページの「iManager 2.0.2」
- ◆ 298 ページの「iManager 2.5」

iManager 2.0.2

統合されたソフトウェアを、Tomcat インストールから手動で削除する必要があります。

- 1 Tomcat がインストールされているサーバで、Tomcat を停止します。
- 2 Novell iManager™ 用 Policy and Distribution Services プラグインを削除するには、次の項目を削除します。
 - ◆ ディレクトリ：

```
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥portal¥modules¥zfs
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥portal¥modules¥zfsc
¥tomcat¥4¥work¥standalone¥localhost¥nps¥portal¥modules¥zfs
```
 - ◆ ファイル：

```
¥tomcat¥4¥temp¥zfs*. npm
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥packages¥zfs*. npm
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥portal¥modules¥dev¥images¥dir¥zen*. gif
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥portal¥modules¥rwc¥skins¥default¥devices¥default
¥AvailableZFSAgents. jsp
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥portal¥modules¥rwc¥skins¥default¥devices¥default
¥zfs*. jpg
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥web-inf¥lib¥zen*. jar
¥tomcat¥4¥webapps¥nps¥web-inf¥lib¥zfsc. jar
```

- 3 Tomcat を起動します。

- 4 複数のサーバに Policy and Distribution Web コンポーネントをインストールした場合、各 Tomcat インストールに対して、**ステップ 1** から **ステップ 3** までを実行します。

iManager 2.5

iManager 2.5 の NPM 管理機能を使って Server Management プラグインを削除することができます。

- 1 iManager にログインします。
- 2 [Configure] ビューをクリックします。
- 3 [Module Installation] > [Installed Novell Plug-in Modules] の順にクリックします。
- 4 削除する ZENworks プラグインモジュールを選択します。
- 5 [Remove] をクリックします。
- 6 Tomcat を再起動します。

21

Server Inventory のアンインストール

Novell® ZENworks® Server Management の Server Inventory コンポーネントを自動的にアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory™ オブジェクト、およびNovell ConsoleOne® の Server Inventory スナップインファイルを手動で削除する必要があります。

注：インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によってそれぞれ推奨されているアンインストール手順に従ってください。

Server Inventory コンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

インベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。Server Inventory をアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

手動で Server Inventory をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 299 ページの「Server Inventory の eDirectory オブジェクトのアンインストール」
- 2 300 ページの「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」
- 3 300 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」
- 4 302 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」
- 5 303 ページの「Inventory Agent のアンインストール」
- 6 304 ページの「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」
- 7 306 ページの「XML プロキシサーバのアンインストール」
- 8 307 ページの「ConsoleOne からの Server Inventory スナップインのアンインストール」

Server Inventory の eDirectory オブジェクトのアンインストール

ZENworks Server Management Server Inventory の eDirectory オブジェクトを削除するには

- 1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。
 - ◆ NetWare サーバの場合は、コンソールのプロンプトで、「**stopSer ***」と入力します。
 - ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZEN Inventory] を選択して [停止] をクリックします。

2 ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies] の順にクリックします。

ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して、[Properties] をクリックし、[Inventory Management] タブをクリックします。次に、指定したインベントリデータベースのエントリを削除して [OK] をクリックします。

重要：ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。

3 Server Inventory ポリシーを無効にします。

3a 分散サーバパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies]、[General]（または、[NetWare] か [Windows]）タブの順にクリックします。

3b Server Inventory ポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

3c Server Inventory ポリシーを無効にします。

複数のオペレーティングシステムに Server Inventory ポリシーを設定している場合は、[Policies] タブでオペレーティングシステムのオプションを選択し、この手順を繰り返します。

3d [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

4 ロールアップポリシーおよびディクショナリ更新ポリシーが有効になっている場合、これらのポリシーを無効にします。

4a サーバパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies]、[NetWare]（または [Windows]）タブの順にクリックします。

4b ロールアップポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

4c ロールアップポリシーを無効にします。

4d ディクショナリ更新ポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

4e ディクショナリ更新ポリシーを無効にします。

4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

Sybase インベントリデータベースのアンインストール

- ◆ 301 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 301 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「**q**」と入力して Sybase を停止します。
- 2 sys:¥system¥mgmtlbs. ncf から mgmtdb. db へのパスを削除します。
その他のデータベースパスは削除しないようにします。
- 3 sys:¥system¥zenworks. properties の INVDBPATH キーの値を確認します。
- 4 INVDBPATH キーで指定された値から、mgmtdb. log を含むインベントリデータベースファイル (mgmtdb*. db) を削除します。
重要: ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory 情報を含むデータベースファイルは削除しないようにします。
- 5 sys:¥system¥zenworks. properties から INVDBPATH キーを削除します。
- 6 ZFS_INVENTORY_DATABASE_SERVER キーを削除します。
sys:¥system¥zenworks. properties から次のセクションを削除します。

```
[Zfs_Inventory_Database_Server]
Version = 6.5.0.build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```
- 7 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。
Sybase コンソールプロンプトで「**mgmtlbs. ncf**」と入力します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリの DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 2 Sybase を停止します。
 - 2a Windows コントロールパネルで「[管理ツール]」、「[サービス]」の順にダブルクリックします。
 - 2b [Novell Database - Sybase] を選択し、「[停止]」をクリックします。
- 3 mgmtdb. db へのパスを削除します。
 - 3a *DBENGINE_installation_directory*\ntdbconfig. exe を実行します。
 - 3b [NTDBConfig] ダイアログボックスで、mgmtdb. db へのパスを削除し、「[OK]」をクリックします。
 - 3c 他の .db エントリが存在しない場合は、Sybase エンジンを削除して手順 4 に進みます。Sybase エンジンを削除する方法については、[302 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」](#)を参照してください。
- 4 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS レジストリエントリの INVDBPATH キーの値をメモします。
- 5 INVDBPATH キーで指定された値から、mgmtdb. log を含むインベントリデータベースファイル (mgmtdb*. db) を削除します。
重要な ZENworks Desktop Workstation Inventory 情報を含むデータベースファイルは削除しないようにします。

- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから INVDBPATH キーを削除します。
- 7 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFS レジストリエントリからインベントリデータベースサーバキーを削除します。
- 8 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。
 - 8a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 - 8b [Novell Database - Sybase] を選択し、[開始] をクリックします。

Sybase エンジンのアンインストール

Sybase エンジンは、他の ZENworks 製品で使用されていない場合に限り、削除することができます。

- ◆ 302 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 302 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase コマンドプロンプトで「**q**」と入力して、Sybase を停止します。
- 3 sys:¥system¥zenworks.properties の DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。
データベースがデータベースサーバにマウントされている場合、
sys:¥system¥mgmt dbs.ncf ファイルに .db エントリが含まれます。
このファイルに .db エントリが含まれていない場合は、mgmt dbs.ncf を削除します。ファイルに .db エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンの削除を中止してください。
- 5 sys:¥system¥autoexec.ncf から mgmt dbs.ncf エントリを削除します。
- 6 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリを削除します。
- 7 sys:¥system¥zenworks.properties から DBENGINEPATH キーを削除します。

Windows サーバからのアンインストール

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase を停止します。
 - 2a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 - 2b [Novell Database - Sybase] を選択し、[停止] をクリックします。
- 3 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの DBENGINEPATH キーの値をメモします。

4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。

4a `DBENGINE_installation_directory\NtDbConfig.exe` を実行して、.db エントリが含まれているかどうかを確認します。

.db エントリを含んでいる場合は、データベースがデータベースサーバにマウントされていることを示します。この場合、Sybase エンジンの削除を中止してください。

4b データベースがデータベースサーバにマウントされていない場合、.db エントリは含まれません。HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ASANYS_ZENWORKS キーを削除します。

5 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリを削除します。

6 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\ZENWORKS レジストリエントリから DBENGINEPATH キーを削除します。

Inventory Agent のアンインストール

- ◆ 303 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 304 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

1 サーバのコンソールプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
invagentstop.ncf
java -exit
```

2 sys:¥system から次のファイルを削除します。

```
hwinvsrvc.ini
invaid.nlm
invsetup.ini
mpkscan.nlm
nwapi.bak
nwapi.map
smile.bak
smile.map
suppl.bak
suppl.map
```

3 sys:¥java¥bin¥invnatve.nlm を削除します。

4 sys:¥system¥zenworks.properties の ZENworksPath、PDSPPath、および InvAgentPath キーの値をメモします。

5 InvAgentPath キーで指定された Inventory Agent のインストールディレクトリを削除します。

6 PDSPath¥smanager¥plugins ディレクトリから invagentnw.jar を削除します。

7 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\ZENWORKS\ZFS レジストリエントリから Inventory Agent キーを削除します。

8 PDSPath¥smanager¥zfs.ncf で、次のエントリを削除します。

```
load sys:\\java\\bin\\invnatve
```

Windows サーバからのアンインストール

- 1 Inventory Agent サービスを停止します。

Windows NT のコントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[ZFS Policies] を選択して [停止] をクリックします。

Windows 2000 のコントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[ZFS Policies] を選択して [停止] をクリックします。

- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの InvAgentPath キーおよび PDSPath キーの値をメモします。InvAgentPath キーには Inventory Agent のインストールディレクトリが含まれ、PDSPath キーには Policy and Distribution Service のインストールディレクトリが含まれます。
- 3 InvAgentPath キーで指定された Inventory Agent のインストールディレクトリを削除します。
- 4 PDSPath キーで指定されたディレクトリに存在するプラグインディレクトリから invagentnt.jar を削除します。
- 5 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから INVAGENTPATH キーを削除します。
- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFS エントリから Inventory Agent キーを削除します。

インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

- ◆ 304 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 305 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「**StopSer ***」と入力して、Inventory Service Manager を停止します。
- 2 サーバコンソールで「**java -exit**」と入力して、java.nlm をアンロードします。
- 3 sys:Ysystem\zenworks.properties の INVSrvPath キーおよび ZWSPATH キーの値をメモします。
- 4 ZFS_INVENTORY_SERVER キーを削除します。

sys:Ysystem\zenworks.properties から次のセクションを削除します。

```
[Zfs_Inventory_Server]
Version = 6.5.0.Server_Management_product_build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

- 5 *invsrvpath\scandir* ディレクトリを削除します。

- 6 *invsrvpath\server* ディレクトリを削除します。

- 7 sys:Ysystem\autoexec.ncf から次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

8 sys:¥system ディレクトリから次のファイルを削除します。

```
addenums.ncf
dbexport.ncf
debug.properties
dupremove.ncf
enumsmodifier.ncf
invenv.ncf
invenvset.ncf
listser.ncf
startinv.ncf
startser.ncf
startzws.ncf
stopdb.ncf
stopser.ncf
```

9 インベントリサーバに Policy and Distribution Services と XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZWSPATH によって指定されているディレクトリを削除して、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。

9a 次のエントリを sys:¥system¥autoexec.ncf file から削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
ZFS.ncf
```

9b sys:¥system ディレクトリから zwsstart.ncf ファイルを削除します。

9c sys:¥system¥zenworks.properties から ZWSPATH キーを削除します。

9d zws_volume:¥zfs-startup.xml を削除します。

9e zws_volume:¥zenworks¥zfs.ncf を削除します。

10 sys:¥system¥zenworks.properties から INVSVPATH キーを削除します。

Windows サーバからのアンインストール

1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。

1a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。

1b [Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。

1c [Novell ZENworks Service Manager] を選択し、[停止] をクリックします。

2 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELLYZENWORKS レジストリエントリの INVSVPATH キーおよび ZWSPATH キーの値をメモします。

3 invsvrpath¥scandir ディレクトリを削除します。

4 invsvrpath¥server ディレクトリを削除します。

5 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CURRENTCONTROLSET¥SERVICES レジストリエントリから ZENINVENTORY キーを削除します。

6 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELLYZENWORKS¥ZFS レジストリエントリからインベントリサーバキーを削除します。

- 7 インベントリサーバに Policy and Distribution Services および XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
 - 7a *zwspath* ディレクトリを削除します。
 - 7b HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\ZENWORKS レジストリエントリから ZWSPATH キーを削除します。
 - 7c HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ZWSSRV キーを削除します。
- 8 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\ZENWORKS レジストリエントリから INVSVPATH キーを削除します。
- 9 実行した変更を有効にするため、コンピュータを再起動します。

XML プロキシサーバのアンインストール

- ◆ 306 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 307 ページの「Windows サーバからのアンインストール」

NetWare サーバからのアンインストール

Policy and Distribution Services またはインベントリがサーバにインストールされていない場合にサーバから XML プロキシファイルをアンインストールするには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「**java -killzfsexit**」と入力して、java.nlm をアンロードします。
- 2 sys:\system\zenworks.properties ファイルの ZWSPATH の値をメモします。
- 3 sys:\system\zenworks.properties ファイルから次のセクションを削除します。

```
[Zfs_XML_Proxy_Server]
Version=6.5.0.build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

- 4 sys:\system\autoexec.ncf ファイルから、次のエントリを削除します。


```
; ZENworks Inventory Settings
ZFS.ncf
```
- 5 sys:\system ディレクトリから zwsstart.ncf ファイルを削除します。
- 6 sys:\system\zenworks.properties ファイルから \zwspath ディレクトリおよび zwspath エントリを削除します。
- 7 *zws_volume:\zenworks* から zfs-startup.xml および zfs.ncf を削除します。

Windows サーバからのアンインストール

Policy and Distribution Services またはインベントリがサーバにインストールされていない場合にサーバから XML プロキシファイルをアンインストールするには

- 1 ZENworks Web Server を停止します。
 - 1a Windows コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
 - 1b [Novell Zenworks Service Manager] を選択し、[停止] をクリックします。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの ZWSPATH および ZENworks Web Server ボリュームの値をメモします。この値は、\$zwspath ディレクトリを示します。
- 3 zwspath ディレクトリを削除します。
- 4 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFS レジストリエントリからインベントリプロキシ XML サーバキーを削除します。
- 5 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ZWSSRV キーを削除します。
- 6 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから ZWSPATH キーを削除します。
- 7 \$ws_volume:\$zenworks\$zfs-startup.xml を削除します。

ConsoleOne からの Server Inventory スナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne から Server Inventory スナップインだけを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。
- 2 サーバまたはワークステーションの *ConsoleOne_installation_directory\1.2* ディレクトリで、次の操作を実行します。
 - ◆ 次のファイルを削除します。
bin\debug.properties
bin\directoryrights.dll
bin\ntgroups.ini
bin\userreports.ini
help\novellserverinv.hs
lib\zen\classes12.zip
lib\zen\dbexport.jar
lib\zen\dbexportres.jar
lib\zen\jconn2.jar
lib\zen\jdbcdrv.zip
lib\zen\reportingimages.jar

```
lib\zen\smanger.jar  
lib\zen\zenutility.jar  
reporting\export\invxml.dtd  
snapins\zen\dataexportsnapins.jar  
snapins\zen\inventorysnapins.jar  
snapins\zen\jg13.1.0.jar  
snapins\zen\policymigration.jar  
snapins\zen\serversnapins.jar  
snapins\zen\swdictionarysnapins.jar  
snapins\zen\tableutilities.jar  
snapins\zen\tracer.jar
```

- ◆ 次のディレクトリを削除します。

```
help\en\novell_zfs_server_inventory  
reporting\canned\novell_reporting\zeninventory  
reporting\canned\novell_reporting\zeninventory4x
```

- 3 同じワークステーションまたはサーバに Remote Management ConsoleOne スナップインをインストールしていない場合、次の操作を実行します。

- ◆ 次のファイルを削除します。

```
\bin\desktop4.exe  
\bin\desktop4.ini  
\bin\mssql.ini  
\bin\multprot.dll  
\bin\ndsaccess.dll  
\bin\oracle.ini  
\bin\remagent.ini  
\bin\sybase.ini  
\lib\zen\commonsnapins.jar  
\lib\zen\desktop.jar  
\lib\zen\desktop3x.jar  
\lib\zen\desktopcommonutility.jar  
\lib\zen\desktoputil.jar  
\lib\zen\statuslog.jar  
\lib\zen\zeninvimages.jar  
\snapins\zen\serversnapins.jar
```

- ◆ \bin\zen\sybaseproxy ディレクトリを削除します。

- 4 インベントリ ConsoleOne スナップインをインストールする各ワークステーションまたはサーバに対して、**ステップ 1** から **ステップ 3** までの手順を実行します。

22

Remote Management のアンインストール

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management の Remote Management コンポーネントを自動的にアンインストールすることはできません。手動で Novell ConsoleOne® から Remote Management Agent と Remote Management サーバスナップインを削除する必要があります。

手動で Remote Management をアンインストールするには、次のタスクを実行します。

- ◆ 309 ページの「Windows 管理対象サーバの Remote Management Agent のアンインストール」
- ◆ 310 ページの「ConsoleOneからの Remote Management Server スナップインのアンインストール」

Windows 管理対象サーバの Remote Management Agent のアンインストール

- 1 ミラードライバをインストールしている場合、[Mirror Driver] オプションを選択せずに Remote Management を再インストールする必要があります。Remote Management のインストール方法に関する詳細については、6 章 61 ページの「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
- 2 Remote Management Agent を停止します。
 - 2a Windows コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 - 2b [Novell ZFS Remote Management Agent] を選択し、[停止] をクリックします。
- 3 `ZENworks_agent_directory\rmagent` ディレクトリを削除します。
- 4 `ZENworks_agent_directory\pds\smanager\plugins\rmagent.jar` を削除します。
- 5 `\system32` ディレクトリから、`drishti.dll`、`yukti.dll`、`darpan.inf`、および `darpan.dll` の各ファイルを削除します。
- 6 `\system32\drivers` ディレクトリから `darpan.sys` を削除します。
- 7 次のレジストリキーを削除します。
 - ◆ `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZENWORKS\REMOTE MANAGEMENT`
 - ◆ `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZENWORKS\ZFS\REMOTE MANAGEMENT`
 - ◆ `HKEY_LOCAL_MACHINE\System\services\currentcontrolset\blankscr`
 - ◆ `HKEY_LOCAL_MACHINE\System\services\currentcontrolset\remote management`
- 8 管理対象サーバを再起動します。

ConsoleOne からの Remote Management Server スナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne から Remote Management スナップインだけを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションの Remote Management サーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーションの *ConsoleOne_installation_directory*\1.2 ディレクトリで、次の操作を実行します。

- ◆ Server Management および Desktop Management が使用する共通ファイルを削除します。

重要: ご自分のセットアップに ZENworks 6.5 Desktop Management の Remote Management コンソールをインストールしている状態で、Desktop Management の ConsoleOne を使用する場合には、次のファイルを削除しないでください。Server Management をアンインストールした後、query.properties ファイルを編集して、"rmver" 属性の値を "zfd." に変更する必要があります。

```
¥bin¥desktop4.exe  
¥bin¥desktop4.ini  
¥bin¥rmagent.ini  
¥bin¥rmpports.ini  
¥bin¥zencutil.dll  
¥lib¥zen¥desktop.jar  
¥bin¥query.properties  
¥bin¥drishtitype.ini
```

- ◆ 次に示す Server Management 固有のファイルを削除します。

```
¥snapins¥zen¥rmserversnapins.jar  
¥snapins¥zen¥novell_rconsole_ndszfs.jar  
¥snapins¥zen¥novell_rconsole_atlas.jar  
¥lib¥zen¥statuslog.jar
```

- ◆ 次のディレクトリを削除します。

```
¥help¥en¥novell_zfs_rconsole  
¥bin¥zen¥rclaunch
```

重要: ご自分のセットアップに ZENworks 6.5 Desktop Management の Remote Management コンソールをインストールしている状態で、Desktop Management の ConsoleOne を使用する場合には、¥bin¥zen¥rclaunch ディレクトリを削除しないでください。

- 3 Remote Management ConsoleOne スナップインがインストールされている各コンピュータに対して、手順 1 と 2 を実行します。

23

Management and Monitoring Servicesのアンインストール

Novell® ZENworks® Management and Monitoring Services を自動的にアンインストールすることはできません。ZENworks Server Management ソフトウェアおよびその Novell eDirectory™ オブジェクトを手動で削除する必要があります。

Management and Monitoring Services コンポーネントがインストールされたすべてのサーバおよびワークステーションのオブジェクト、ファイル、情報を削除する必要があります。

Management and Monitoring Services を手動でアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [311 ページの「Management Site Services のアンインストール」](#)
- 2 [312 ページの「Traffic Analysis Agent のアンインストール」](#)
- 3 [313 ページの「Management Agent のアンインストール」](#)
- 4 [314 ページの「Linux Agent のアンインストール」](#)

Management Site Services のアンインストール

Management Site Services をアンインストールするには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**stopmms**」と入力して、管理サーバをアンロードします。
- 2 管理サーバコンソールのプロンプトで、Sybase データベースエンジンをアンロードします。

Sybase プロセスに切り替え（たとえば、<Ctrl>+<Esc> を使用）、「**q**」と入力して Sybase データベースエンジンを終了します。

- 3 ZENworks Server Management コンソールで、
`volume:¥zenworks¥mms¥mwserver¥uninstall` フォルダから `uninst.bat` バッチファイルを開きます。
- 4 プロセスが使用中であり、アンインストールが完了しない場合は、管理サーバの `¥zenworks¥mms` フォルダを削除します。

- 5 ZENworks Server Management のコンポーネントを使用する予定がない場合、`sys:¥system¥mgmtlbs. ncf` の次の行を削除します。

`volume:¥ZfS_installation_directory¥MWServer¥db¥mw. db`

または

`mgmtlbs. ncf` が他のデータベースをロードしない場合は、このファイルを削除します。

6 アンインストールを実行しても、MW および netexplor.dat ファイルが削除されることはありません。このデータを使用する予定がない場合は、¥zenworks フォルダを削除します。

Traffic Analysis Agent のアンインストール

この節では、次のタスクについて説明します。

- ◆ 312 ページの「NetWare サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール」
- ◆ 313 ページの「Windows 2000/2003 サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール」

NetWare サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール

他のエージェント用の容量を確保するため、または最新バージョンのエージェントにアップグレードするため、ネットワーク構成に応じて Traffic Analysis Agent for NetWare® ソフトウェアのアンインストールが必要になる場合があります。

ネットワークにインストールされたすべての Traffic Analysis Agents for NetWare を、ZENworks Server Management に同梱された最新バージョンにアップグレードする必要があります。既存のエージェントをアンインストールしてから、新しいエージェントをインストールします。

注：Sys:¥zfs_agnt¥lanz は、Traffic Analysis Agent がインストールされるデフォルトのディレクトリです。

NetWare サーバから Traffic Analysis Agent をアンインストールするには

- 1 コンソールプロンプトで「**ULANZ**」と入力し、Traffic Analysis Agent for NetWare をアンロードします。
- 2 autoexec.ncf ファイルで Traffic Analysis Agent for NetWare ステートメントを検索します。

たとえば、Search で始まるステートメントを検索し、¥zfs_agnt¥lanz ディレクトリと lanz.ncf ファイルを追加します。

- 3 Traffic Analysis Agent for NetWare がインストールされたディレクトリから、すべてのファイルを削除します。
- 4 サーバから GTREND ファイルを削除します。

lanz.ncf ファイルに設定された gtrend.nlmへの引数から、ディレクトリ名を取得します。デフォルトのディレクトリ名は sys:¥gtrend です。

- 5 sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルから、次の行を削除します。

```
search add sys:\Traffic_Analysis_Agent_installation_directory\LANZ
lanz.ncf
```

Windows 2000/2003 サーバからの Traffic Analysis Agent のアンインストール

Windows 2000/2003 サーバから Traffic Analysis Agent をアンインストールすると、トライック分析ツールによって提供されるサービスが停止します。

重要: レジストリを変更する前に、レジストリのバックアップを作成するようにしてください。

Windows 2000/2003 サーバから Traffic Analysis Agent をアンインストールするには

- 1 LANZCON を実行し、[Configure] > [Traffic Analysis Agent Parameters] > [Network Trends] の順に選択して、トレンドディレクトリの名前を取得します。たとえば、¥gtrend ディレクトリを取得します。
- 2 DOS プロンプトで「**NET STOP SNMP**」と入力して、SNMP サービスを停止します。
- 3 [スタート] > [プログラム] > [ZfS] > [Uninstall Traffic Analysis Agent] の順にクリックします。
- 4 手順 1 で確認したトレンドディレクトリを削除します。デフォルトのディレクトリ名は ¥gtrend です。
- 5 [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックして「Regedit」と入力し、REGEDIT を起動します。次に、
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\MANAGEWISE\LANZ-NT エントリを削除します。

Management Agent のアンインストール

この節では、次のタスクについて説明します。

- ◆ [313 ページの「NetWare サーバからの Server Management Agent のアンインストール」](#)
- ◆ [314 ページの「Windows サーバからの Windows 2000/2003 版 Management Agent のアンインストール」](#)
- ◆ [314 ページの「NetWare Advanced Trending Agent のアンインストール」](#)
- ◆ [314 ページの「Windows 2000/2003 Advanced Trending Agent のアンインストール」](#)

NetWare サーバからの Server Management Agent のアンインストール

NMA (NetWare Management Agent™) をアンインストールするには

1 NetWare システムコンソールを使って Server Management Agent をアンロードするには、「**unmma5**」と入力します。

2 sys:¥system¥nma ディレクトリを削除します。

3 sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルを編集し、次の 2 つの行を削除します。

```
search add sys:¥system¥nma  
nma5.ncf
```

Windows サーバからの Windows 2000/2003 版 Management Agent のアンインストール

1 SNMP サービスを停止します。

Windows 2000/2003 サーバの場合：

1. デスクトップメニューから [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] の順にクリックします。
2. 管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. SNMP] を選択し、[停止] をクリックします。

- 2 [マイ コンピュータ] > [プロパティ] > [環境] > [システム環境変数] > [パス] の順に選択し、パスの文字列から `c:\zfs_agnbtagent\bin` を削除します。
- 3 [スタート] > [プログラム] > [ZFS] > [Uninstall Management Agent] の順にクリックします。

NetWare Advanced Trending Agent のアンインストール

1 `advtrend` をアンロードするには、NetWare 5.x/6.x システムコンソールで「**utrend**」と入力します。

2 `install_volume:\install_directory\advtrend` ディレクトリを削除します。

3 `sys:\system\autoexec.ncf` ファイルを編集し、次の 2 つの行を削除します。

```
search add <install_volume>:\<directory>\advtrend  
advtrend.ncf
```

Windows 2000/2003 Advanced Trending Agent のアンインストール

1 SNMP サービスを停止します。

Windows 2000/2003 サーバの場合：

1. デスクトップメニューから [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] の順にクリックします。
2. 管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. SNMP] を選択し、[停止] をクリックします。

- 2 [スタート] > [プログラム] > [ZFS] > [Uninstall Advanced Trending Agent] の順にクリックします。

Linux Agent のアンインストール

Linux サーバ上の Management and Monitoring Services のエージェントをアンインストールするには、Linux サーバから Linux Management Agent および Advanced Trending Agent を個別にアンインストールする必要があります。

1 root としてログインします。

2 Advanced Trending Agent パッケージを削除するには、サーバコンソールのプロンプトで「`rpm -e novell_advtrend`」と入力します。

3 Linux Management Agent パッケージを削除するには、サーバコンソールのプロンプトで「`rpm -e novell_lma`」と入力します。

VII 付録

次の章は、『*Novell® ZENworks® Server Management インストールガイド*』の他の章から参照されます。

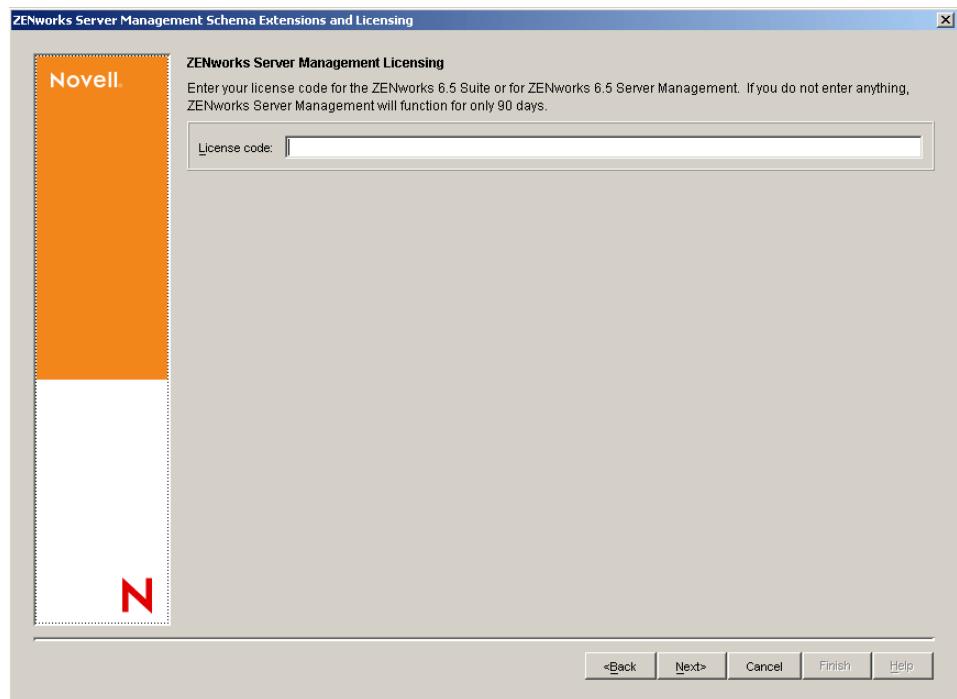
- ◆ 317 ページの付録 A、「90 日間限定評価ライセンスのアップグレード」
- ◆ 319 ページの付録 B、「Server Management Services の起動と停止」
- ◆ 327 ページの付録 C、「DNS 名の確実な解決」
- ◆ 333 ページの付録 D、「Windows SNMP サービスのインストールと設定」
- ◆ 335 ページの付録 E、「クラスタ環境での ZENworks Server Management」
- ◆ 353 ページの付録 F、「セキュリティ保護されていない接続のための追加セキュリティのインストール」
- ◆ 365 ページの付録 G、「インストールに関するエラーメッセージ」
- ◆ 415 ページの付録 H、「XMLRPC のライセンス契約」
- ◆ 419 ページの付録 I、「Java 2 Runtime Environment のライセンス契約」
- ◆ 421 ページの付録 J、「UCD-SNMP および NET-SNMP のライセンス契約」
- ◆ 423 ページの付録 K、「正規表現の実装に関するライセンス契約」
- ◆ 425 ページの付録 L、「ドキュメントの更新」

A

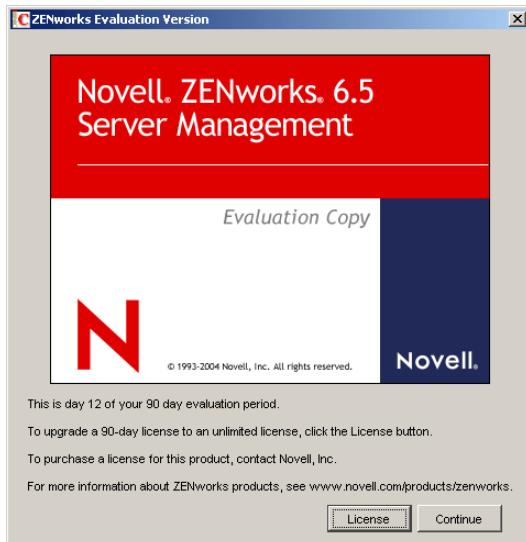
90 日間限定評価ライセンスのアップグレード

Novell® ZENworks® Server Management 製品の購入時に、ライセンスコードが提供されています。ライセンスコードがお手元にない場合は、Novell, Inc. (<http://www.novell.com/licensing>) にお問い合わせください。

スキーマを拡張するときに次のインストールページでライセンスコードを入力しなかつた場合、Server Management のインストール後から 90 日間限定評価ライセンスが有効になります。



90 日間限定評価ライセンスが有効である場合、ZENworks Server Management オブジェクトのプロパティにアクセスしようとすると、24 時間ごとに最初の Novell ConsoleOne® のセッションで次の [ZENworks Evaluation Version] ダイアログボックスが表示されて注意を促します。



このダイアログボックスには、評価期間の残日数が示されます。評価期間が終了すると、オブジェクトのプロパティを表示しても ZENworks Server Management のプロパティは表示されません。

Novell iManager の場合、ブラウザと ConsoleOne とでは評価期間が異なるため、[Continue] ボタンの名前は [Cancel] になります。

90 日間限定評価ライセンスを使用期限のないバージョンにアップグレードするには、次のいずれかの操作を行います。

- ◆ [ZENworks Evaluation Version] ダイアログボックスで、[License] をクリックして、有効なライセンスコードを入力します。
- ◆ 64 ページの「スキーマの拡張」を参照して、ZENworks オブジェクトがあるツリーを特定する手順を確認し、ライセンスコードを入力します。

B

Server Management Services の起動と停止

Novell® ZENworks® Server Management コンポーネントのサービスとエージェントは、個別に起動および停止することができます。サーバプラットフォーム別の手順は次のとおりです。

- ◆ 319 ページの「NetWare サーバ」
- ◆ 322 ページの「Windows サーバ」
- ◆ 325 ページの「Linux サーバまたは Solaris サーバ」

NetWare サーバ

次の Server Management コンポーネントの起動と停止の手順について説明します。

- ◆ 319 ページの「Policy and Distribution Services」
- ◆ 320 ページの「Server Inventory」
- ◆ 320 ページの「[Management and Monitoring Services]」

Policy and Distribution Services

- ◆ 319 ページの「NetWare サーバでの Policy and Distribution Services の起動」
- ◆ 319 ページの「NetWare サーバでの Policy and Distribution Services の停止」
- ◆ 319 ページの「NetWare サーバでの Sybase エンジンの起動」
- ◆ 320 ページの「NetWare サーバでの Sybase エンジンの停止」

NetWare サーバでの Policy and Distribution Services の起動

すべての Policy and Distribution Services プロセスを起動するには、サーバのメインコンソールプロンプトで **zfs.ncf** コマンドを入力します。

NetWare サーバでの Policy and Distribution Services の停止

データベースエンジン以外のすべての Policy and Distribution Services プロセスを停止するには、サーバの ZENworks Server Management コンソールプロンプトで **exit** コマンドを入力します。

NetWare サーバでの Sybase エンジンの起動

Sybase エンジンは、Policy and Distribution Services を起動すると自動的に起動します。

NetWare サーバでの Sybase エンジンの停止

サーバの Sybase 画面で、「**q**」と入力します。

Server Inventory

インベントリサーバで Inventory Service を起動する前に、Policy and Distribution Services コンポーネントとインベントリデータベースが稼動していることを確認します。インベントリデータベースは、製品のインストール後に自動的に起動します。

Inventory Service を起動した後に、Inventory Service が稼動していることを確認します。すべてのサービスを一覧表示するには、インベントリサーバコンソールのプロンプトで「**ListSer ***」と入力します。Inventory Service が稼働していない場合、サーバステータスログをチェックします。サーバステータスログに関する詳細については、『Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド』を参照してください。

- ◆ 320 ページの「NetWare インベントリサーバでの Inventory Service の起動」
- ◆ 320 ページの「NetWare インベントリサーバでの Inventory Service の停止」

NetWare インベントリサーバでの Inventory Service の起動

NetWare インベントリサーバ上で Inventory Service を起動するには、サーバコンソールのプロンプトで「**startinv**」と入力します。

NetWare インベントリサーバでの Inventory Service の停止

- ◆ 1 つの Inventory Service を停止するには、サーバコンソールのプロンプトで「**stopser Inventory_service_name**」と入力します。
- ◆ すべての Inventory Service を停止するには、サーバコンソールのプロンプトで「**stopser ***」と入力します。

[Management and Monitoring Services]

- ◆ 320 ページの「NetWare サーバでのエージェントの起動」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでのエージェントの停止」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Management Site Server の起動」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Management Site Server の停止」

NetWare サーバでのエージェントの起動

- ◆ 320 ページの「NetWare サーバでの Server Management Agent の起動」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Traffic Analysis Agent の起動」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Advanced Trending Agent の起動」

NetWare サーバでの Server Management Agent の起動

NetWare 用の Server Management Agent のインストールプログラムにより、autoexec.ncf ファイルではエージェントのインストール先のパスが変更されます。

Server Management Agent を起動するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**nma5.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Traffic Analysis Agent の起動

NetWare 用の Traffic Analysis Agent のインストールプログラムにより、autoexec.ncf ファイルではエージェントのインストール先のパスが変更されます。

Traffic Analysis Agent を起動するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**lanz.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Advanced Trending Agent の起動

NetWare 用の Advanced Trending Agent のインストールプログラムにより、autoexec.ncf ファイルはエージェントが自動的に起動するように変更されます。

Advanced Trending Agent を起動するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**advtrend.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでのエージェントの停止

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Server Management Agent の停止」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Traffic Analysis Agent の停止」
- ◆ 321 ページの「NetWare サーバでの Advanced Trending Agent の停止」

NetWare サーバでの Server Management Agent の停止

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**unnma5.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Traffic Analysis Agent の停止

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**ulanz.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Advanced Trending Agent の停止

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**utrend.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Management Site Server の起動

NetWare 用の Server Management Agent のインストールプログラムにより、autoexec.ncf ファイルでは Management Site Server のインストール先のパスが変更されます。

NetWare サーバ上で Management Site Server を起動するには、サーバコンソールのプロンプトで「**startmms.ncf**」と入力します。

NetWare サーバでの Management Site Server の停止

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「**stopmms.ncf**」と入力します。

- 2 すべての Management and Monitoring Services および Naming Service を停止するには、「**stopmms -n**」と入力します。

Windows サーバ

次の Server Management コンポーネントの起動と停止の手順について説明します。

- ◆ 322 ページの「Policy and Distribution Services」
- ◆ 323 ページの「Server Inventory」
- ◆ 323 ページの「[Management and Monitoring Services]」

Policy and Distribution Services

- ◆ 322 ページの「Windows サーバでの Policy and Distribution Services の起動」
- ◆ 322 ページの「Windows サーバでの Policy and Distribution Services の停止」
- ◆ 322 ページの「Windows サーバでの Sybase エンジンの起動」
- ◆ 323 ページの「Windows サーバでの Sybase エンジンの停止」

Windows サーバでの Policy and Distribution Services の起動

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell ZENworks Service Manager] を右クリックし、[開始] をクリックします。

Windows サーバでの Policy and Distribution Services の停止

- ◆ 322 ページの「コントロールパネルを使用する方法」
- ◆ 322 ページの「コマンドラインを使用する方法」

コントロールパネルを使用する方法

Windows サーバでこのサービスを停止するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell ZENworks Service Manager] を右クリックし、[停止] をクリックします。

コマンドラインを使用する方法

Windows サーバでこのサービスを停止するには

- 1 [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
- 2 次のコマンドを入力します。
`zenworks\pds\bin\dservices.bat`
- 3 [OK] をクリックします。

Windows サーバでの Sybase エンジンの起動

Sybase エンジンは、Policy and Distribution Services が起動すると自動的に起動します。Sybase エンジンを再起動するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell Database - Sybase] を右クリックし、[開始] をクリックします。

Windows サーバでの Sybase エンジンの停止

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell Database - Sybase] を右クリックし、[停止] をクリックします。

Server Inventory

- ◆ 323 ページの「Windows 2000/2003 インベントリサーバでの Inventory Service の起動」
- ◆ 323 ページの「Windows インベントリサーバでの Inventory Service の停止」

Windows 2000/2003 インベントリサーバでの Inventory Service の起動

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell Inventory Service] を選択し、[開始] をクリックします。

Windows インベントリサーバでの Inventory Service の停止

コンソールプロンプトから Windows 2000/2003 サーバ上のサービスを停止するには

- 1 *installation_directory\inv\server\wminv\bin* ディレクトリに移動します。
- 2 「**StopSer service_name**」と入力します。
service_name は、Inventory Service を示します。

Windows 2000/2003 インベントリサーバで Inventory Service を停止するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール] をダブルクリックします。
- 2 [Services] をダブルクリックします。
- 3 [Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。

Windows 2000/2003 インベントリサーバですべての Inventory Service を停止するには、サーバコンソールのプロンプトに移動して、
inventory_server_installation_directory\inv\server\wminv\bin ディレクトリから **stopser "*"** を実行します。

[Management and Monitoring Services]

- ◆ 324 ページの「Windows サーバでのエージェントの起動」
- ◆ 324 ページの「Windows サーバでのエージェントの停止」

Windows サーバでのエージェントの起動

Management and Monitoring Services エージェントには、Server Management Agent、Traffic Analysis Agent、Advanced Trending Agent などがあります。

SNMP サービスが自動的に起動されるように Windows 2000/2003 を設定した場合、Windows 2000/2003 にインストールされたエージェントは、Windows 2000/2003 の起動時に SNMP サービスを起動します。

SNMP サービスが自動的に開始されるように Windows 2000/2003 を設定しなかった場合は、次のサービスを開始します。

- 1 Windows 2000/2003 の場合は、[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
- 2 [SNMP] を選択し、[開始] をクリックします。

SNMP サービスが起動すると、Server Management Agent、Traffic Analysis Agent、および Advanced Trending Agent も起動します。

Server Management の他のエージェントの起動

Server Management Agent には、Novell Diagnostic Agent、IPX 環境で稼動する Novell Find Agent などがあります。

Novell Diagnostic Agent を起動するには

- 1 コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックします。
- 2 [Novell Diagnostic Agent 3.0] を選択し、[開始] をクリックします。

Novell Find Agent を起動するには

- 1 コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックします。
- 2 [Novell Find Agent 3.0] を選択し、[開始] をクリックします。

Windows サーバでのエージェントの停止

Windows 2000/2003 サーバでこのサービスを停止するには

- 1 Windows 2000/2003 の場合は、[コントロール パネル] で [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
- 2 [SNMP] を選択し、[停止] をクリックします。

SNMP サービスが停止すると、Server Management Agent、Traffic Analysis Agent、および Advanced Trending Agent も停止します。

Server Management の他のエージェントの停止

Novell Diagnostic Agent を停止するには

- 1 コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックします。
- 2 [Novell Diagnostic Agent 3.0] を選択し、[開始] をクリックします。

Novell Find Agent を停止するには

- 1 コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックします。
- 2 [Novell Find Agent 3.0] を選択し、[停止] をクリックします。

Linux サーバまたは Solaris サーバ

次の Server Management コンポーネントの起動と停止の手順について説明します。

- ◆ 325 ページの「Policy and Distribution Services」
- ◆ 325 ページの「[Management and Monitoring Services]」

Policy and Distribution Services

- ◆ 325 ページの「Linux サーバでの Policy and Distribution Services の起動」
- ◆ 325 ページの「Linux サーバでの Policy and Distribution Services の再起動」
- ◆ 325 ページの「Linux サーバでの Policy and Distribution Services の停止」

Linux サーバでの Policy and Distribution Services の起動

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/novell-zfs start**」と入力します。
- 2 Policy and Distribution Services が起動したことを確認するには、「**/etc/init.d/novell-zfs status**」と入力します。

Linux サーバでの Policy and Distribution Services の再起動

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/novell-zfs restart**」と入力します。
このコマンドを発行したときに Policy and Distribution Services が実行中である場合は、停止と再起動の両方が実行されます。
- 2 Policy and Distribution Services が起動したことを確認するには、「**/etc/init.d/novell-zfs status**」と入力します。

Linux サーバでの Policy and Distribution Services の停止

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/novell-zfs stop**」と入力します。
- 2 Policy and Distribution Services が停止したことを確認するには、「**/etc/init.d/novell-zfs status**」と入力します。

[Management and Monitoring Services]

- ◆ 326 ページの「Linux サーバでのエージェントの起動」
- ◆ 326 ページの「Linux サーバでのエージェントの停止」

Linux サーバでのエージェントの起動

インストールスクリプトにより、Linux Management Agent および Advanced Trending Agent が自動的に起動します。ただし、特定のシナリオでは、これらのエージェントを手動で起動する必要がある場合もあります。

The Linux Management Agent は、servinst および novell-log2trapd の 2 つで構成されています。

SNMP サービスを起動すると、servinst および Advanced Trending Agent が自動的に起動します。

servinst を手動で起動するには

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/snmpd start**」と入力します。
- 2 SNMP サービスが起動したことを確認するには、「**/etc/init.d/snmpd status**」と入力します。

novell-log2trapd を手動で起動するには

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/novell-log2trapd start**」と入力します。
- 2 SNMP サービスが起動したことを確認するには、「**/etc/init.d/novell-log2trapd status**」と入力します。

Linux サーバでのエージェントの停止

Linux サーバで Management and Monitoring Services エージェントの停止が必要になることはほとんどありません。

ここでは、特定のシナリオの際にサービスを手動で停止するための手順を説明します。

エージェントを停止するには

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/snmpd stop**」と入力します。

このコマンドを指定すると、snmpd を使用して機能しているすべてのエージェントが停止します。Advanced Trending Agent または servinst をロードしない場合は、snmpd サービスを再起動する前に次の操作を行います。

- 1 `/var/opt/novell/log/zenworks/zfs-mms-advtrend-rpm.` ログファイルで、`Modifying path/*snmpd.conf` という行を検索します。`path` は、環境設定ファイルの完全なパスを示します。
- 2 この行で指定されている環境設定ファイルを開きます。
- 3 `dlmod agentname path` 行をコメント化します。
- 4 `snmpd` サービスを起動します。

novell-log2trapd を手動で停止するには

- 1 サーバコンソールまたは Xterm ウィンドウで、「**/etc/init.d/novell-log2trapd stop**」と入力します。

C

DNS 名の確実な解決

ネットワークで DNS をご使用になっている場合、ネットワーク内のサーバに Novell® ZENworks® Server Management コンポーネントをインストールする際に使用する Windows ワークステーションに対し、DNS 名サーバへのアクセス権を設定する必要があります。Server Management コンポーネントがインストールされるサーバには、DNS の有効なエントリも設定する必要があります。

DNS は Management and Monitoring Services に必須ではありません。

NAT (Network Address Translation) 環境が構築されている場合、Receiver は (Sender へのルートが利用可能かどうかによって) 返信できる場合とできない場合があります。これは、インターネットルータが、宛先 10. x. x. x、172. 16. x. x、または 192. 168. x. x を持つパケットをドロップするためです。

重要: NetWare だけが存在する環境に ZENworks Server Management をインストールする場合、DNS 名は必須とはなりません。ただし、ネットワーク環境内に Windows、Linux、または Solaris サーバが 1 台でも存在する場合は、ZENworks Server Management をインストールするのに DNS が必須になります。

- ◆ 327 ページの「DNS の用語について」
- ◆ 328 ページの「DNS 名におけるアンダースコア文字の使用」
- ◆ 328 ページの「DNS 機能のテスト」

DNS の用語について

DNS で使用する用語の定義については、次の説明を参照してください。

- ◆ **完全なドメイン名 (FQDN):** パス内に、ローカルドメインからルートに至るまでのすべてのドメインリストを含むサーバ名。たとえば、server47.servers.novell.com。
- ◆ **前方参照:** FQDN を IP アドレスに解決します。
- ◆ **逆引き参照:** IP アドレスを FQDN に解決します。
- ◆ **ping:** 指定した FQDN または IP アドレスを解決できるかどうかをテストするために DNS にアクセスする、NetWare、Windows、Linux、または Solaris のコマンド。このコマンドに関する詳細については、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

DNS 名におけるアンダースコア文字の使用

サーバの DNS 名にアンダースコア (_) 文字を使用しないでください。DNS RFC ではアンダースコア文字はサポートされていないため、DNS 名サーバは、アンダースコアを含む名前を解決することができません。サーバの DNS 名にアンダースコア文字が含まれている場合、ZENworks Server Management の一部のコンポーネントは機能しなくなります。

ただし NetWare では、sys:¥etc¥hosts ファイルに IP-to-FQDN 解決が記載されている場合、アンダースコア文字を含む FQDN を解決できます。IP とそれに相当する FQDN がホストファイルに記載されていない場合、逆引き解決は正しく機能しません。

-HOSTS スイッチ（マルチホームコンピュータに必須）を zfs-startup.xml ファイルに挿入する場合は、アンダースコア文字付きの FQDN に解決されるすべてのホスト名または IP アドレスを sys:¥etc¥hosts ファイルに記載する必要があります。

DNS 機能のテスト

次の節を参照することにより、DNS の機能に関するシステムテストを実行して、テスト中に発生する問題を解決することができます。

- ◆ 328 ページの「DNS に関する Windows ワークステーションのテストと設定」
- ◆ 329 ページの「DNS に関する NetWare サーバのテストと設定」
- ◆ 330 ページの「DNS に関する Windows サーバのテストと設定」
- ◆ 331 ページの「DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバのテストと設定」

DNS に関する Windows ワークステーションのテストと設定

DNS にアクセスするには、ワークステーションで DNS 名解決を有効にした後、適正な DNS 名サーバを検索するようワークステーションを設定する必要があります。

- ◆ 328 ページの「Windows ワークステーションの DNS アクセスに関するテスト」
- ◆ 328 ページの「Windows ワークステーションにおける DNS 名解決の有効化」
- ◆ 329 ページの「Windows ワークステーションに対する DNS 名サーバの指定」

Windows ワークステーションの DNS アクセスに関するテスト

ZENworks Server Management コンポーネントがインストールされるサーバに対して、ワークステーションから ping を実行します。IP アドレスではなく、サーバの DNS ホスト名を指定します。サーバが ping コマンドに応答しない場合、ワークステーションが DNS 用に設定されていない可能性があります。328 ページの「Windows ワークステーションにおける DNS 名解決の有効化」に進みます。

Windows ワークステーションにおける DNS 名解決の有効化

ワークステーションで DNS 名を解決できるようにするには、[Novell Client Protocol Preferences] プロパティタブの [プロトコルコンポーネントの設定] リストで DNS を選択する必要があります。

たとえば、Windows 2000 では次の操作を実行します。

- 1 [NetWork Services]（赤の N）を右クリックし、[Novell Client Properties] をクリックします。
- 2 [Protocol Preferences] をクリックし、[Protocol Component Settings] ボックスで DNS が選択されていることを確認し、[OK] をクリックして終了します。

Windows ワークステーションに対する DNS 名サーバの指定

ワークステーションが、[Internet Protocol (TCP/IP) DNS] プロパティタブで指定された DNS 名サーバへのアクセス権を有していない場合、DNS 名の解決は失敗します。

たとえば、Windows 2000 では次の操作を実行します。

- 1 コントロールパネルで、[ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックします。
- 2 [ローカル エリア接続] をダブルクリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 3 コンポーネントリスト内の [インターネット プロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。
[全般] タブで、ワークステーションが DNS 名サーバの IP アドレスを自動的に取得するよう選択することも、1 つ以上の DNS 名サーバの IP アドレスを手動で指定することもできます。その他の DNS 設定オプションについては、[詳細設定] をクリックして、[DNS] をクリックします。
- 4 コンポーネントリスト内の [Novell Client for Windows 2000] を選択し、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [Protocol Preferences] をクリックし、[Protocol Component Settings] ボックスに DNS が表示されていることを確認し、[OK] > [OK] > [Close] の順にクリックしてダイアログボックスを閉じます。

DNS に関する NetWare サーバのテストと設定

NetWare サーバが DNS 用に適切に設定されていることを確認するには、次の節を参照してください。

- ◆ 329 ページの「NetWare での前方参照のテスト」
- ◆ 329 ページの「NetWare での逆引き参照のテスト」
- ◆ 330 ページの「DNS に関する NetWare サーバの設定」

NetWare での前方参照のテスト

NetWare サーバコンソールから、サーバ自身の FQDN に対して ping を実行します。例：

```
ping nwserver47. servers. novell. com
```

ping により IP アドレスが返された場合、前方参照は機能しています。NetWare サーバからの応答がない場合は、330 ページの「DNS に関する NetWare サーバの設定」を参照してください。

NetWare での逆引き参照のテスト

Windows ワークステーションから、NetWare サーバの IP アドレスに対して ping を実行します。例：

```
ping -a 123. 45. 67. 89
```

ping により DNS ホスト名が返された場合、逆引き参照は機能しています。NetWare サーバからの応答がない場合は、330 ページの「DNS に関する NetWare サーバの設定」を参照してください。

DNS に関する NetWare サーバの設定

NetWare サーバで、sys:¥etc¥resolv.cfg ファイルをチェックして、このファイルに含まれる情報が正しいことを確認します。

NetWare における DNS に関する詳細については、[DNS/DHCP Services \(http://www.novell.com/documentation/lg/dns_dhcp/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/dns_dhcp/index.html) を参照してください。

DNS に関する Windows サーバのテストと設定

Windows サーバが DNS 用に適切に設定されていることを確認するには、次の節を参照してください。

- ◆ 330 ページの「Windows でのドメイン設定のテスト」
- ◆ 330 ページの「Windows での前方参照のテスト」
- ◆ 330 ページの「Windows での逆引き参照のテスト」
- ◆ 331 ページの「DNS に関する Windows サーバの設定」

Windows でのドメイン設定のテスト

Windows サーバで、サーバ自体の IP アドレスに対し ping を実行します。例：

```
ping -a 123.45.67.90
```

ping に成功した場合は、このサーバに対応するドメインが正しく設定されています。Windows サーバからの応答がない場合は、331 ページの「DNS に関する Windows サーバの設定」を参照してください。

Windows での前方参照のテスト

Windows サーバ A から、Windows サーバ B の FQDN に対して ping を実行します。例：

```
ping winserver5.servers.novell.com
```

ping により IP アドレスが返された場合、前方参照は機能しています。Windows サーバからの応答がない場合は、331 ページの「DNS に関する Windows サーバの設定」を参照してください。

Windows での逆引き参照のテスト

Windows サーバ B で、Windows サーバ B の IP アドレスに対して ping を実行します。例：

```
ping -a 123.45.67.91
```

または

```
nslookup 123.45.67.91
```

ping により DNS ホスト名が返された場合、逆引き参照は機能しています。Windows サーバからの応答がない場合は、331 ページの「DNS に関する Windows サーバの設定」を参照してください。

DNS に関する Windows サーバの設定

Windows サーバの DNS ショートネームとサーバ名が完全に一致していることを確認します。Windows サーバに DNS サフィックスが設定されていることも確認します。

サーバ名と DNS サフィックスをチェックするには

- 1 [マイ コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ]、[ネットワーク ID] の順にクリックします。

[フル コンピュータ名] フィールドには、サーバ名（たとえば、winserver5）が表示され、すでに DNS サフィックスが設定されている場合には、その後に DNS サフィックス（たとえば、servers.novell.com）が表示されます。

- 2 サーバ名が、サーバの DNS ショートネームと一致しない場合：

- ◆ サーバ名を既存の DNS エントリに合致するよう変更します。[ネットワーク ID] タブの [プロパティ] をクリックし、このサーバの DNS ショートネームに合致するよう [コンピュータ名] フィールドを編集して、[OK] をクリックします。

または

- ◆ 既存のサーバ名に合致するよう DNS エントリを変更します。

- 3 [フル コンピュータ名] フィールドに DNS サフィックスが含まれていない場合：

- 3a [プロパティ]、[詳細] の順にクリックします。

- 3b [プライマリ DNS サフィックス] フィールドで、サーバの DNS サフィックスを指定します。

- 3c [OK] をクリックします。

- 4 Windows サーバを再起動して、新しいサーバ名の情報を有効にします。

- 5 %winnt%\system32\drivers\etc\hosts ファイルをチェックして、このファイルに記載されている情報が正しいことを確認します。

たとえば、127.0.0.1 を示すローカルホストエントリが必要になります。このエントリは、ファシリテータが ZENworks Web Server と通信するのに必要になります。

Windows における DNS の詳細については、DNS 管理ツールの使用に関する Windows オンラインヘルプを参照してください。

DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバのテストと設定

Linux サーバまたは Solaris サーバが DNS 用に適切に設定されていることを確認するには、次の節を参照してください。

- ◆ 332 ページの「Linux サーバまたは Solaris サーバでの前方参照のテスト」
- ◆ 332 ページの「Linux サーバまたは Solaris サーバでの逆引き参照のテスト」
- ◆ 332 ページの「DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバの設定」

Linux サーバまたは Solaris サーバでの前方参照のテスト

Linux サーバまたは Solaris サーバから、サーバ自体の FQDN に対して ping を実行します。例：

```
ping unxserver25.servers.novell.com
```

ping により IP アドレスが返された場合、前方参照は機能しています。Linux サーバまたは Solaris サーバからの応答がない場合は、[332 ページの「DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバの設定」](#)を参照してください。

Linux サーバまたは Solaris サーバでの逆引き参照のテスト

Windows ワークステーションから、Linux サーバまたは Solaris サーバの IP アドレスに対して ping を実行します。例：

```
ping -a 123.45.67.100
```

Linux サーバまたは Solaris サーバからの場合は、次のコマンドを実行します。

```
nslookup 123.45.67.100
```

ping により DNS ホスト名が返された場合、逆引き参照は機能しています。Linux サーバまたは Solaris サーバからの応答がない場合は、[332 ページの「DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバの設定」](#)を参照してください。

DNS に関する Linux サーバまたは Solaris サーバの設定

Linux サーバまたは Solaris サーバの /etc/hosts ファイルに、サーバ自体の適切な IP アドレスおよび FQDN が設定されていることを確認します。ループバックアドレス行 (127.0.0.1) が、サーバの FQDN ではなく、localhost.localdomain を読み取っていることを確認します。

Linux または Solaris における DNS に関する詳細については、ご使用になっているオペレーティングシステムのマニュアルをご参照ください。

D

Windows SNMP サービスのインストールと設定

この章では、Windows 2000/2003 サーバに SNMP サービスをインストールして設定する場合の詳細情報について説明します。

Windows 2000/2003 に SNMP をインストールして設定するには

- 1 SNMP サービスをインストールします。
 - 1a コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
 - 1b [Windows コンポーネントの追加と削除] を開きます。
 - 1c Windows コンポーネントウィザードで、[管理とモニタ ツール] をダブルクリックします。
 - 1d [簡易ネットワーク管理プロトコル] を選択します。
 - 1e [OK] をクリックします。
 - 1f [次へ] をクリックします。

インストール後、SNMP が自動的に開始されます。
- 2 SNMP トラップサービスを自動的に開始するよう設定します。
 - 2a コントロールパネルで、[管理ツール]、[サービス] の順に選択します。
 - 2b [SNMP Trap Service] をクリックし、[開始] をクリックします。
 - 2c [スタートアップの種類] オプションで、[自動] を選択します。
- 3 エージェントがトラップを管理サーバに送信できるよう、トラップのコミュニティ名と送信先アドレスを指定します。
 - 3a コントロールパネルで、[管理ツール] を選択し、[サービス] をクリックします。
 - 3b [SNMP サービス] をダブルクリックします。
 - 3c [Properties] をクリックします。
 - 3d [トラップ] タブをクリックします。
 - 3e [コミュニティ名] ボックスから名前を選択し、[追加] をクリックします。
利用できるコミュニティ名が存在しない場合、[追加] ボタンは使用できません。
 - 3f パブリックコミュニティ名が存在しない場合は、「**public**」と入力します。
 - 3g [追加 (Add)] をクリックします。
 - 3h トラップを受け取る必要のあるワークステーションやサーバのループバック IP アドレスの他に、別の DNS 名と IP アドレスを追加するには [トラップ送信先] ボックスを使用します。
 - 3i [OK] をクリックします。

4 エージェントがすべてのホストからの SNMP パケットを受け付けるよう、SNMP セキュリティオプションのトラップコミュニティ名を設定します。

4a コントロールパネルで、[管理ツール] を選択し、[サービス] をクリックします。

4b [SNMP サービス] をダブルクリックします。

4c [Properties] をクリックします。

4d [セキュリティ] タブをクリックします。

4e [受け付けるコミュニティ名] ボックスの [追加] をクリックします。

4f [コミュニティ名] ボックスから名前を選択するか、「**public**」と入力します。
[受け付けるコミュニティ名] の一覧には、2000/2003 が要求を受け付けるコミュニティ名が表示されます。

4g [追加 (Add)] をクリックします。

4h [すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける] を選択し、[OK] をクリックします。

重要: SNMP サービスのインストール後、Windows サービスパックを再インストールする必要があります。

E

クラスタ環境での ZENworks Server Management

この節は、Novell Cluster Services™のコンテキストに Novell® ZENworks® Server Management コンポーネントを初回インストールする場合を対象にしています。

- ◆ 335 ページの「Novell Cluster ServicesおよびZENworks Server Management の概要」
- ◆ 336 ページの「クラスタレディモードとクラスタアウェアモード」
- ◆ 336 ページの「クラスタリングの基本事項」
- ◆ 339 ページの「クラスタへの Policy and Distribution Services および Server Inventory のインストール」
- ◆ 351 ページの「クラスタへのManagement and Monitoring Services のインストール」

クラスタリングは、ZENworks 6.5 Server Management の Remote Management ではサポートされていません。

Novell Cluster Services および ZENworks Server Management の概要

ZENworks Server Management を Novell Cluster Services 環境に実装する前に、次の情報リソースを参照して、Novell Cluster Services についてよく理解しておく必要があります。

- ◆ AppNote: *An Introduction to Novell Cluster Services* (http://developer.novell.com/research/appnotes/1999/may/01/a990501_.pdf)
- ◆ NetWare 6.5 製品マニュアル: *Novell Cluster Services* (<http://www.novell.com/documentation/ncs65/index.html>)
- ◆ NetWare 6 製品マニュアル: *Novell Cluster Services* (<http://www.novell.com/documentation/ncs6p/index.html>)
- ◆ NetWare 5.1 製品マニュアル: *Novell Cluster Services* (<http://www.novell.com/documentation/ncs/index.html>)

これらの情報リソースを参照すると、クラスタリングには特別な用語が採用されていることがわかります。次の簡単な用語集では、クラスタリングで使用する用語の基本的な定義、およびそれらの用語と ZENworks Server Management コンポーネントのインストールとの関連を示しています。

- ◆ クラスタ: Novell Cluster Services を使用して構成された 2 台から 32 台までの NetWare® サーバのグループ化。これにより、ユーザが使用を妨げられることなく、データの格納場所およびアプリケーションを、あるサーバから別のサーバに転送できるようになります。Novell eDirectory™ のクラスタオブジェクトによって示されます。
- ◆ ノード: クラスタ化されたサーバ、つまり、あるクラスタの一部である単一の NetWare サーバ。

- ◆ **リソース**：クラスタ内のあらゆるノードで正常に機能する IP アドレス、ボリューム、アプリケーション、サービスなど。ZENworks Server Management コンポーネントのインストール先のボリュームは、「ボリュームリソース」と名付けられた、特定の種類のクラスタリソースです。
- ◆ **フェールオーバー**：ノードにエラーが発生した場合に、ユーザが使用を中断しなくても済むように、エラーが発生したノードから正常に機能しているノードにクラスタリソースを移動する処理。たとえば、Distributor を実行しているノードがダウンした場合、Distributor はクラスタ内の 2 番目のノードにフェールオーバーし、重大な中断が発生することなく Distributor は継続して機能します。
- ◆ **フェールバック**：フェールオーバーを発生させた状況が解消された後に、本来のノードにクラスタリソースを戻す処理。たとえば、Traffic Analysis が 2 番目のノードにフェールオーバーする場合、そのクラスタリソースは、問題が解決したときには本来のノードにフェールバックするように設定できます。
- ◆ **共有ディスクシステム**：クラスタ内のノード間で共有する物理ディスクボリュームを格納するハードウェア。
- ◆ **共有ボリューム**：格納されているデータを必要とするすべてのノードからアクセスできる共有ディスクシステム内のボリューム。
- ◆ **クラスタ対応共有ボリューム**：eDirectory で Volume Resource オブジェクトが作成された共有ボリューム。

重要: クラスタを有効にするには、ZENworks Server Management コンポーネントが必要です。

- ◆ **仮想サーバ**：クラスタ対応共有ボリュームが関連付けられる論理サーバ（物理サーバではない）。
- ◆ **ストレージエリアネットワーク (SAN)**：共有ディスクシステムと共有ボリュームを備えたクラスタ化されたノード。

クラスタレディモードとクラスタアウェアモード

ZENworks をクラスタにインストールすると、次の 2 つのクラスタモードのいずれかになります。

- ◆ **クラスタレディ**：ZENworks は、ZENworks のフェールオーバーが許されたクラスタオブジェクトにインストールされます。ZENworks Server Management では 1 つのクラスタは単一のサーバのように取り扱われるため、1 つのクラスタには ZENworks Server Management コンポーネントの 1 つのインスタンスだけをインストールできます。
- ◆ **クラスタアウェア**：ZENworks を個々のノードにインストールできます。ZENworks は、クラスタノードサーバになったサーバ上に存在します。

次の各節はクラスタレディモードにのみ適用されます。

クラスタリングの基本事項

ZENworks Server Management コンポーネントをクラスタ環境にインストールする前に、Novell Cluster Services をインストールして次の準備タスクを実行する必要があります。

- ◆ 337 ページの「クラスタリングのシステム要件への適合」
- ◆ 339 ページの「Novell Cluster Services のインストール」
- ◆ 337 ページの「ZENworks Server Management コンポーネントで使用するための共有ボリュームのクラスタ有効化」

クラスタリングのシステム要件への適合

ZENworks Server Management コンポーネントは、次の要件を満たすクラスタにインストールできます。

- ◆ DNS

使用するネットワーク全体で DNS が確実に機能し、DNS ホスト名と IP アドレスが常に正常に解決される状態である必要があります。

- ◆ NetWare 6.5 SP1a または SP2

または

NetWare 6 SP4 または SP5

または

NetWare 5.1 SP6、SP7、または SP8 (SP1 が ZENworks 6.5 に適用されている場合は SP8)

NetWare 5.1 の場合は、次の追加要件を満たす必要があります。

- ◆ Novell Cluster Services Support Pack 2 または 3 以降

- ◆ ConsoleOne 用の最新の Novell Cluster Services スナップイン®

最新のスナップインは、そのスナップインをサポートするバージョンの ConsoleOne と共に [Novell Software Downloads \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からダウンロードできます。このバージョンには、クラスタに関連するオブジェクト名を変更できる機能が加わっています。

重要: Novell Cluster Services では、同一クラスタ内で複数バージョンの NetWare はサポートされません。

ZENworks Server Management コンポーネントで使用するための共有ボリュームのクラスタ有効化

ZENworks Server Management コンポーネントがインストールされている共有ボリュームのクラスタを有効にする必要があります。

- ◆ 337 ページの「クラスタの有効化について」
- ◆ 338 ページの「共有ボリュームのクラスタ有効化」

クラスタの有効化について

クラスタ対応共有ボリュームの概念を確認するには、使用するバージョンの NetWare の『Novell Cluster Services Overview and Installation』で次の該当箇所を参照してください。

- ◆ NetWare 6.5:[Cluster-Enabling Shared Volumes for Use with ZFS Components \(http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aewf3me.html#aewfggh\)](http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aewf3me.html#aewfggh)
- ◆ NetWare 6:["Cluster Enable Pools and Volumes"](#)
- ◆ NetWare 5.1:["Cluster-Enable Volumes"](#)

ボリュームのクラスタを有効にすると、追加の eDirectory オブジェクトが作成されます。



cluster_name_volume_name(デフォルトのオブジェクト名)

新しいボリュームオブジェクトは、クラスタ対応ボリュームを示します。物理サーバに関する付けられている元のボリュームオブジェクトの名前を変更して仮想サーバに関連付けることにより作成されます。

たとえば、クラスタ名が ZFSCLUSTER で、元のボリューム名が ZFSVOL1 である場合、クラスタ対応ボリュームを示す新しいボリュームオブジェクトの名前は ZFSCLUSTER_ZFSVOL1 になります。



cluster_name_volume_name_SERVER(デフォルトのオブジェクト名)

新しいサーバオブジェクトは、新しいクラスタ対応ボリュームが関連付けられている仮想サーバを示します。

この例の場合、仮想サーバを示す新しいサーバオブジェクトの名前は ZFSCLUSTER_ZFSVOL1_SERVER になります。



volume_name_SERVER.clusternname(デフォルトのオブジェクト名)

新しいボリュームリソースオブジェクトは、クラスタ対応ボリュームのプロパティ情報を格納します。新しいボリュームリソースオブジェクトは、クラスタコンテナオブジェクトに作成されます。

この例の場合、新しいボリュームリソースオブジェクトの名前は ZFSVOL1_SERVER.ZFSCLUSTER になります。

重要: デフォルトのオブジェクト名には、アンダースコア () 文字が含まれています。ただし、DNS ネームサーバは、アンダースコア文字を含むオブジェクト名を解決することができません。[337 ページの「クラスタリングのシステム要件への適合」](#)に記載されている要件を満たしている場合は、ボリュームのクラスタを有効にするときに、必要に応じてこれらのオブジェクトの名前を変更することができます。

共有ボリュームのクラスタ有効化

ZENworks Server Management コンポーネントで使用するために共有ボリュームのクラスタを有効にするには

- 1 使用するバージョンの NetWare の [『Novell Cluster Services Overview and Installation』](#) で次の該当箇所の手順を完了します。
 - ◆ NetWare 6.5:[Cluster-Enabling Shared Volumes for Use with ZFS Components](http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aewf3me.html#aewfgg) (http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aewf3me.html#aewfgg)
 - ◆ NetWare 6:["Cluster Enable Pools and Volumes"](#)
 - ◆ NetWare 5.1:["Cluster-Enable Volumes"](#)
- 2 必要に応じて、クラスタ関連オブジェクトの名前を変更して、デフォルトで含まれているアンダースコア () 文字を削除します。
- 3 ZENworks Server Management コンポーネントで使用するためにクラスタの有効化が必要なその他の共有ボリュームに対して、[ステップ 1](#) および[ステップ 2](#) を繰り返します。
- 4 次の各手順に従い、ZENworks Server Management コンポーネントをクラスタにインストールします。
 - ◆ [339 ページの「クラスタへの Policy and Distribution Services および Server Inventory のインストール」](#)
 - ◆ [351 ページの「クラスタへの Management and Monitoring Services のインストール」](#)

Novell Cluster Services のインストール

使用するバージョンの NetWare の『*NetWare Cluster Services Overview and Installation*』に記載されている次の手順に従って、Novell Cluster Services をインストールします。

- ◆ NetWare 6.5: [Installing ZENworks for Servers in a Clustered Environment \(http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aetx4fj.html#aetx4fj\)](http://www.novell.com/documentation/zfs302/zfs_install/data/aetx4fj.html#aetx4fj)
- ◆ NetWare 6: "Installation and Setup"
- ◆ NetWare 5.1: "Installation and Setup"

インストールには次の処理が含まれています。

- ◆ Novell Cluster Services のハードウェア要件およびソフトウェア要件への適合
- ◆ 共有ディスクシステムのセットアップ
- ◆ eDirectory でクラスタを示すための新規クラスタオブジェクトの作成
- ◆ クラスタへのサーバの追加
- ◆ クラスタ内のすべてのノードへの Novell Cluster Services ソフトウェアのインストール
- ◆ ZENworks Server Management コンポーネントをインストールする共有ボリュームのマウント

Novell Cluster Services をインストールするときは、クラスタに関する次の重要な情報を記録します。ZENworks Server Management コンポーネントをクラスタにインストールするときに、これらの情報が必要になります。

- ◆ クラスタオブジェクトを作成する eDirectory ツリー
- ◆ クラスタオブジェクトの名前
- ◆ クラスタオブジェクトのコンテキスト

クラスタへの Policy and Distribution Services および Server Inventory のインストール

- ◆ 340 ページの「クラスタでの ZENworks の使用に関する問題」
- ◆ 340 ページの「インストールの前に」
- ◆ 341 ページの「インストール手順」
- ◆ 343 ページの「Server Inventory の設定」
- ◆ 343 ページの「クラスタでの Server Inventory のアンインストールと再インストール」

クラスタでの ZENworks の使用に関する問題

利点

- ◆ Novell Cluster Services 環境に Policy and Distribution Services を設定すると、Tiered Electronic Distribution の可用性が高まります。
- ◆ Distributor および Subscriber をクラスタにインストールすると、ポリシーとソフトウェアを送受信できるようになります。
- ◆ クラスタに Inventory Agent をインストールすると、クラスタノードに関するハードウェアおよびソフトウェアインベントリ情報を受信できるようになります。
- ◆ 配布とポリシーに関する情報を保存するために Server Management データベースをクラスタにインストールすると、Distributor Agent や Policy/Package Agent で Distribution 処理情報をログに記録する必要があるときに常にこのデータベースを使用することができます。
- ◆ クラスタにインベントリデータベースをインストールすると、インベントリ情報のアクセスやレポートが必要なときに常にこのデータベースを使用することができます。
- ◆ Policy and Distribution Services の場合のみ、Web コンポーネントをインストールして、クラスタ内のソフトウェアをサポートすることにより、使用するネットワーク全体で、配布処理を常に監視および管理することができます。

欠点

- ◆ Policy and Distribution Services および Inventory Agent をクラスタリソースにインストールした場合は、そのリソースが実行されているクラスタノードしか管理できません。

インストールの前に

Novell ZENworks 6.5 Server Management を Novell Cluster Services 環境にインストールおよび設定する前に、各製品のハードウェア要件およびソフトウェア要件がすべて満たされていることを確認します。

- Novell Cluster Services をインストールする 2 つ以上の NetWare® 6 または NetWare 6.5 サーバ（「ノード」とも呼ばれます）
- クラスタの一部になる NetWare 6 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.6
- クラスタの一部になる NetWare 6.5 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.7
- クラスタ対応が指定された作成済みクラスタボリューム（仮想サーバまたはクラスタサーバと呼ばれます）

クラスタリングの詳細については、Novell Cluster Services のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation>) を参照してください。

インストール手順

このインストールプログラムでは、Distributor、Subscriber、およびPolicy and Distribution データベースのための Policy and Distribution Services ソフトウェアのインストール全般と、Server Inventory ソフトウェアのインストールを実行することができます。

次の各シナリオで、Policy and Distribution Services をクラスタにインストールすることができます。

- ◆ Policy and Distribution Services をクラスタにインストールする。
- ◆ Subscriber ソフトウェアだけをクラスタにインストールし、そのオブジェクトをクラスタオブジェクトと同じツリーにインストールする。
- ◆ Distributor ソフトウェアと Subscriber ソフトウェアの両方をクラスタにインストールし、それらのオブジェクトはクラスタオブジェクトと別のツリーにインストールする。

後の 2 つのシナリオでは、クラスタをオフラインにして ZENworks Server Management を起動する前に、クラスタボリューム上の zfs-startup.xml ファイルを編集して hosts スイッチを追加する必要があります。これについては、次の [ステップ 2](#) で説明しています。

Server Inventory の一部またはすべてのコンポーネントをクラスタノードにインストールすることができます。

Policy and Distribution Services および Server Inventory をクラスタにインストールするには

1 クラスタ特有の次の事項に注意して、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#) の手順に従います。

- ◆ [73 ページのステップ 2](#) で、クラスタ内の特定のサーバではなく、クラスタオブジェクトを選択します。

重要: Policy and Distribution Services では 1 つのクラスタは単一のサーバと同様に見なされるため、1 つのクラスタには Policy and Distribution Services のインスタンスを 1 つだけ (Distributor を 1 つと Subscriber を 1 つ、または Distributor か Subscriber のいずれか 1 つ) インストールすることができます。

クラスタにインストールするときには、クラスタ化されていないサーバを選択することもできます。

- ◆ [80 ページのステップ 2](#) で、クラスタ対応ボリューム上のインストールパスを指定します。

重要: NetWare ボリューム名など、インストールパスでは、2 バイト文字や拡張文字を使用しないでください。

インストールプログラムにより、指定したクラスタ対応ボリュームに Policy and Distribution Services および Server Inventory ソフトウェアがインストールされます。このインストール先から、クラスタ内の任意のノードで Distributor Agent、Policy/Package Agent、および Server Inventory コンポーネントを実行することができます。これらのサーバが実行されているノードがダウンした場合は、同一クラスタ内の別のノードに自動的にフェールオーバーされます。

インストールプログラムにより、クラスタオブジェクトに関連するロードスクリプトおよびアンロードスクリプトも更新され、フェールオーバー / フェールバック処理が実行できるようになります。

重要：ページ障害により、NetWare サーバが異常終了して、所定のフェイルオーバーが起動する場合がありますが、このとき JVM がページ障害を処理し、サーバの異常終了を防ぎます。サーバは引き続き稼働するが、ZENworks が停止した場合にだけフェイルオーバーを確実に実行するには、Java コマンドラインに -neh パラメータを追加する必要があります。これについては、次の **ステップ 3** で説明しています。

2 Subscriber をクラスタにインストール (Subscriber ソフトウェアをクラスタにインストールして、Subscriber オブジェクトをクラスタオブジェクトと同じツリーにインストール) しただけの場合、または Distributor and Subscriber ソフトウェアをクラスタボリュームにインストールして、それらのオブジェクトをクラスタオブジェクトとは別のツリーにインストールした場合は、次の操作を行います。

2a テキストエディタで次のファイルを開きます。

Installation_path\zenworks\zfs-startup.xml

2b 次のクラスを検索します。

`<Class>com.novell.application.zenworks.ted.TED</Class>`

2c このクラスの下に記述されている次のパラメータを編集します。

`<Parameter Name="Hosts" />`

ホストの DNS ホスト名または IP アドレスを指定します。例：

`<Parameter Name="Hosts">192.68.1.203</Parameter>`

終了 `</Parameter>` コードが追加され、"Hosts" 名の後に終了 `>` 文字が追加されていることに注目してください。DNS ホスト名と IP アドレスは、上記のようにこれらのコードの間に指定します。

サーバの NIC カードにバインドされているホストを記述してはいけません。

複数のホストを記述する場合は、DNS ホスト名および IP アドレスのリストをセミコロン (`;`) で区切る必要があります。例：

`<Parameter
Name="Hosts">192.68.1.203;192.68.1.204;server001.provo.novell.com</Parameter>`

リスト内では DNS ホスト名と IP アドレスを混在させることができます。

2d 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

3 この手順は、Inventory Agent では実行しません。

テキストエディタで、¥zenworks¥zfs.ncf ファイルを編集し、次のような行に -neh パラメータを挿入します。

```
java -Xmx384M -envDISPLAY=127.0.0.1:0 -noclassgc -nsac -jszfsexit  
-snZENworks -classpath $tedpath  
com.novell.application.zenworks.loader.ZENLoader  
SYS:\zenworks\zfs-startup.xml
```

次のように変更します。

```
java -neh -Xmx384M -envDISPLAY=127.0.0.1:0 -noclassgc -nsac -jszfsexit  
-snZENworks -classpath $tedpath  
com.novell.application.zenworks.loader.ZENLoader  
SYS:\zenworks\zfs-startup.xml
```

変更を保存し、テキストエディタを終了します。

4 Server Management Agent コンポーネントをはじめて起動するときは、クラスタをオフラインにした後に再度オンラインにします。

この操作により、クラスタリングソフトウェアによって最新のロードスクリプトが読み込まれ、Server Management Agent がロードされます。

5 Server Inventory をクラスタにインストールした場合は、343 ページの「[Server Inventory の設定](#)」に進みます。

Management and Monitoring Services をクラスタにインストールする必要があれば、351 ページの「[クラスタへの Management and Monitoring Services のインストール](#)」に進みます。

Server Inventory の設定

Server Inventory のインストールが終了したら、Server Inventory がクラスタ環境で動作するよう設定する必要があります。必要な設定手順を次に示します。

1 インベントリデータベースオブジェクトを設定します。Server Management をインストールするときに Sybase* を選択した場合は、インストールプログラムにより、データベースオブジェクト (Inventory database_server_name) が作成され、このオブジェクトのプロパティが設定されます。手順 1a と 1b を省略してください。Oracle* または MSSQL を使用している場合は、手順 1a に進んでください。

1a Oracle または MSSQL でインベントリデータベースを管理する場合は、データベースオブジェクトを作成してプロパティを設定してあることを確認します。詳細については、105 ページの「[NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定](#)」を参照してください。

1b データベースオブジェクトをクラスタ環境用に設定するには、ConsoleOne® でデータベースオブジェクトを右クリックし、[Properties]、[ZENworks Database] の順にクリックし、仮想サーバの DN (NCP サーバオブジェクト) を参照して選択するか、仮想サーバの IP アドレスを指定して、[OK] をクリックします。

2 インストール時にスタンダードアロンの設定を選択しなかった場合は、データベースの場所ポリシーを作成するときに、インベントリデータベースを Inventory database_virtual_server_name に設定します。

3 Server Inventory ポリシーを作成するときに、Inventory Service オブジェクト DN を Inventory Service_virtual_server_name に設定します。

4 すべてのロールアップポリシーを設定するには、クラスタサービスの Inventory Service オブジェクト (Inventory Service_virtual_server_name) を選択します。

5 クラスタ環境での Server Inventory のアンインストールおよび再インストールの詳細については、343 ページの「[クラスタでの Server Inventory のアンインストールと再インストール](#)」を参照してください。

Management and Monitoring Services をクラスタにインストールする場合は、351 ページの「[クラスタへの Management and Monitoring Services のインストール](#)」に進んでください。

クラスタでの Server Inventory のアンインストールと再インストール

- ◆ 344 ページの「[クラスタ環境での ZENworks 6.5 Server Inventory のアンインストール](#)」
- ◆ 350 ページの「[クラスタへの Server Inventory の再インストール](#)」

クラスタ環境での ZENworks 6.5 Server Inventory のアンインストール

ZENworks Server Management の Server Inventory コンポーネントを自動的にアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory™ オブジェクト、Inventory Agent、および Novell ConsoleOne® の Server Inventory スナップインファイルを手動で削除する必要があります。

注: インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によってそれぞれ推奨されているアンインストール手順に従ってください。

Server Inventory コンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

インベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。Server Inventory をアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

手動で Server Inventory をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [344 ページの「Server Inventory の eDirectory オブジェクトのアンインストール」](#)
- 2 [345 ページの「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」](#)
- 3 [345 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」](#)
- 4 [346 ページの「Sybase エンジンのアンインストール」](#)
- 5 [346 ページの「Inventory Agent のアンインストール」](#)
- 6 [347 ページの「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」](#)
- 7 [348 ページの「XML プロキシサーバのアンインストール」](#)
- 8 [349 ページの「ConsoleOne からの Server Inventory スナップインのアンインストール」](#)
- 9 [350 ページの「クラスタスクリプトへの変更の適用」](#)

Server Inventory の eDirectory オブジェクトのアンインストール

ZENworks Server Management Server Inventory の eDirectory オブジェクトを削除するには

- 1 NetWare インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで **StopSer *** と入力し、Inventory Service を停止します。
- 2 ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、無効にします。
 - 2a ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies] の順にクリックします。
 - 2b [ZENworks データベース] ポリシーを選択して [プロパティ] をクリックし、[インベントリ管理] タブをクリックします。
 - 2c 指定したインベントリデータベースのエントリを削除し、[OK] をクリックします。

重要: ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。

- 3 Server Inventory ポリシーを無効にします。
 - 3a 分散サーバパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies]、[General] または [NetWare] タブの順にクリックします。

3b Server Inventory ポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

3c Server Inventory ポリシーを無効にします。

複数のオペレーティングシステムに Server Inventory ポリシーを設定している場合は、[Policies] タブでオペレーティングシステムのオプションを選択し、この手順を繰り返します。

3d [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

4 ロールアップポリシーおよびディクショナリ更新ポリシーが有効になっている場合、これらのポリシーを無効にします。

4a サーバパッケージを右クリックし、[Properties]、[Policies]、[NetWare] タブの順にクリックします。

4b ロールアップポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

4c ロールアップポリシーを無効にします。

4d ディクショナリ更新ポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [Reset] ボタンをクリックし、[Yes] をクリックします。

4e ディクショナリ更新ポリシーを無効にします。

4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

Sybase インベントリデータベースのアンインストール

1 Sybase コンソールプロンプトで「**q**」と入力して Sybase を停止します。

2 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥mgmtlbs. ncf から、database_path¥mgmtdb. db エントリを削除します。

重要: その他のデータベースパスは削除しないようにします。

3 任意のクラスタノードで sys:¥system¥zenworks. properties の INVDBPATH キーの値をメモします。

4 INVDBPATH キーで確認した値から、すべてのクラスタノードの mgmtdb. log も含めインベントリデータベースファイル (mgmtdb*. db) を削除します。

重要: ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory 情報を含むデータベースファイルは削除しないようにします。

5 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks. properties から INVDBPATH キーを削除します。

6 ZFS_INVENTORY_DATABASE_SERVER キーを削除します。

すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks. properties から次のセクションを削除します。

[Zfs_Inventory_Database_Server]

```
Version = 6.5.0.Server_Management_product_build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

7 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

Sybase コンソールプロンプトで「**mgmtdbs.ncf**」と入力します。

Sybase エンジンのアンインストール

Sybase エンジンは、他の ZENworks 製品で使用されていない場合に限り、削除することができます。

- 1 Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。
- 2 Sybase コマンドプロンプトで「**q**」と入力して、Sybase を停止します。
- 3 任意のクラスタノードで sys:¥system¥zenworks.properties の DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 4 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。
データベースがデータベースサーバにマウントされている場合、すべてのクラスタノードの sys:¥system¥mgmtdbs.ncf ファイルに .db エントリが含まれます。
ファイルに .db エントリが含まれていない場合は、すべてのクラスタノードから mgmtdbs.ncf を削除します。ファイルに .db エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。
- 5 すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから mgmtdbs.ncf エントリを削除します。
- 6 アンロードスクリプトから dbsrv8.nlm を削除します。
- 7 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリ（手順 3 で確認）を削除します。
- 8 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties から DBENGINEPATH キーを削除します。

Inventory Agent のアンインストール

1 サーバのコンソールプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
invagentstop.ncf
java -exit
```

2 すべてのクラスタノードの sys:¥system から次のファイルを削除します。

```
hwinvsrsrc.ini
invaidd.nlm
invsetup.ini
mpkscan.nlm
nwapi.bak
nwapi.map
smile.bak
smile.map
suppl.bak
suppl.map
```

- 3 すべてのクラスタノードの sys:¥java¥bin¥invnatve. nlm を削除します。
- 4 任意のクラスタノードで sys:¥system¥zenworks. properties の ZENworksPath キー、 PDSPPath キー、および InvAgentPath キーの値をメモします。
- 5 すべてのクラスタノードで、 InvAgentPath キーで指定された Inventory Agent のインストールディレクトリを削除します。
- 6 すべてのクラスタノードの PDSPPath¥smanager¥plugins ディレクトリから invagentnw. jar を削除します。
- 7 すべてのクラスタノードの HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NOVELL¥ZENWORKS¥ZFS レジストリエントリから Inventory Agent キーを削除します。
- 8 すべてのクラスタノードの PDSPPath¥smanager¥zfs. ncf で、次のエントリを削除します。

```
load sys:\\java\\bin\\invnatve
```

インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

- 1 インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで **stopSer *** と入力し、 Inventory Service を停止します。
- 2 サーバコンソールで 「**java -exit**」 と入力して、 java. nlm をアンロードします。
- 3 任意のクラスタノードで sys:¥system¥zenworks. properties の INVSVPATH キーおよび ZWSPATH キーの値をメモします。
- 4 ZFS_INVENTORY_SERVER キーを削除します。

すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks. properties から次のセクションを削除します。

```
[ZFS_Inventory_Server]
Version = 6.5.0.build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

- 5 すべてのクラスタノードの *invsrvpath*¥scandir ディレクトリを削除します。
- 6 すべてのクラスタノードの *invsrvpath*¥server ディレクトリを削除します。
- 7 すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

- 8 アンロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
java -killzenwsinv
java -killzwexit
```

- 9 すべてのクラスタノードの sys:¥system ディレクトリから次のファイルを削除します。

```
addenums.ncf
dbexport.ncf
debug.properties
dupremove.ncf
enumsmodifier.ncf
invenv.ncf
```

```
invenvset.ncf
listser.ncf
startinv.ncf
startser.ncf
startzws.ncf
stopdb.ncf
stopser.ncf
```

10 インベントリサーバに Policy and Distribution Services と XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZWSPATH によって指定されているディレクトリを削除して、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。

10a すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
ZFS.ncf
```

10b すべてのクラスタノードの sys:¥system ディレクトリから zwsstart.ncf を削除します。

10c すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties から ZWSPATH キーを削除します。

10d zws_volume:¥zfs-startup.xml を削除します。

10e zws_volume:¥zenworks¥zfs.ncf を削除します。

11 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties から INVSVPATH キーを削除します。

XML プロキシサーバのアンインストール

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「**java -killzfsexit**」と入力して、java.nlm をアンロードします。
- 2 任意のクラスタノードで sys:¥system¥zenworks.properties の ZWSPATH の値をメモします。
- 3 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties から次のセクションを削除します。

```
[ZFS_XML_Proxy_Server]
Version=6.5.0.Server_Management_product_build_date
Installed_From = Product CD
Support_Pack = 0
```

- 4 すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
ZFS.ncf
```

- 5 すべてのクラスタノードの sys:¥system ディレクトリから zwsstart.ncffile を削除します。

- 6 すべてのクラスタノードの sys:¥system¥zenworks.properties ファイルから ¥zwspath ディレクトリおよび zwspath エントリを削除します。

- 7 すべてのクラスタノードの zws_volume:¥zenworks¥zfs-startup.xml と zws_volume:¥zenworks¥zfs.ncf を削除します。

ConsoleOne からの Server Inventory スナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne から Server Inventory スナップインだけを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーションの *ConsoleOne_installation_directory\1.2 ディレクトリ* で、次の操作を実行します。

- ◆ 次のファイルを削除します。

```
bin\debug.properties
bin\directoryrights.dll
bin\ntgroups.ini
bin\userreports.ini
help\NovellServerInv.hs
lib\Zen\classes12.zip
lib\Zen\dbexport.jar
lib\Zen\dbexportres.jar
lib\Zen\jconn2.jar
lib\Zen\jdbcdrv.zip
lib\Zen\reportingimages.jar
lib\Zen\smanger.jar
lib\Zen\zenutility.jar
reporting\export\invxml.dtd
snapins\Zen\dataexportsnapins.jar
snapins\Zen\inventorysnapins.jar
snapins\Zen\jgl3.1.0.jar
snapins\Zen\policymigration.jar
snapins\Zen\serversnapins.jar
snapins\Zen\swdictionarysnapins.jar
snapins\Zen\tableutilities.jar
snapins\Zen\tracer.jar
```

- ◆ 次のディレクトリを削除します。

```
help\en\Novell_ZFS_Server_Inventory
reporting\canned\Novell_reporting\ZenInventory
reporting\canned\Novell_reporting\ZenInventory4x
```

- 3 同じワークステーションまたはサーバに Remote Management ConsoleOne スナップインをインストールしていない場合、次の操作を実行します。

- ◆ 次のファイルを削除します。

```
\bin\desktop4.exe
\bin\desktop4.ini
\bin\mssql.ini
\bin\multprot.dll
```

¥bin¥ndsaccess.dll
¥bin¥oracle.ini
¥bin¥remagent.ini
¥bin¥sybase.ini
¥lib¥zen¥commonsnapins.jar
¥lib¥zen¥desktop.jar
¥lib¥zen¥desktop3x.jar
¥lib¥zen¥desktopcommonutility.jar
¥lib¥zen¥desktoputil.jar
¥lib¥zen¥statuslog.jar
¥lib¥zen¥zeninvimages.jar
¥snapins¥zen¥serversnapins.jar

- ◆ ¥bin¥zen¥sybaseproxy ディレクトリを削除します。

4 インベントリ ConsoleOne スナップインをインストールする各ワークステーション またはサーバに対して、**ステップ 1** から **ステップ 3** までの手順を実行します。

クラスタスクリプトへの変更の適用

ここまでで行った変更をクラスタスクリプトに適用するには、クラスタをオフラインにした後に再度オンラインにします。

クラスタへの Server Inventory の再インストール

インストールが正常に実行されなかった、または誤ってファイルを削除するなどしてデータ破損が起き、再インストールしなければデータの修復ができないなどの理由で、クラスタ環境のサーバ管理サービスの Server Inventory コンポーネントを再インストールすることが必要な場合があります。

重要: 再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

ここでは、Server Inventory コンポーネントの再インストールに焦点を絞って説明します。

- ◆ 350 ページの「Server Inventory の再インストールの準備」
- ◆ 351 ページの「Server Inventory の再インストール」
- ◆ 351 ページの「Server Inventory の再インストールの確認」

Server Inventory の再インストールの準備

- 1 Server Inventory を再インストールする必要があるサーバを識別します。
- 2 NetWare Sybase コンソールプロンプトで <Q> キーを押して、インベントリデータベースを停止します。
- 3 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします（サーバコンソールで、「**java -exit**」と入力する）。

重要: このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

- 4 再インストール先のサーバがある Novell eDirectory™ ツリーにログインします。
- 5 339 ページの「クラスタへの Policy and Distribution Services および Server Inventory のインストール」に進みます。

Server Inventory の再インストール

ZENworks 6.5 Server Management Server Inventory を以前のインストール上に再インストールする場合は、既存のポリシーおよび scandir ディレクトリが使用されます。

- ◆ 再インストールの際の [ファイルのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、Server Inventory または Remote Management ファイルがそのパスにインストールされます。
- ◆ 再インストールの際の [データベースのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、データベースがそのパスにインストールされます。

Server Inventory の再インストールの確認

- 1 インストールが完了したら、インストールログファイルを参照して、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。
- 2 ファイルがなくなったり、壊れたりした問題を解決するために再インストールした場合は、問題が解決されていることを確認します。

クラスタへの Management and Monitoring Services のインストール

Management and Monitoring Services をクラスタにインストールする前に、Novell Client を使用しているクラスタノードの仮想サーバ名を使用してクラスタボリュームにマッピングできることを確認しておく必要があります。

このインストールプログラムでは、Management and Monitoring Services ソフトウェアのインストール全般を実行することができます。

Management and Monitoring Services をクラスタにインストールするには

- 1 クラスタ特有の次の事項に注意して、111 ページの「NetWare および Windows へのインストール」の手順に従います。

- ◆ 112 ページのステップ 10 で、クラスタ仮想サーバを介して、[Authenticated Tree] オプションからコンポーネントのインストール先ボリュームを選択します。

仮想サーバオブジェクトの DNS エントリがあるはずです。ない場合は、インストール先のクラスタボリュームの仮想サーバオブジェクトに対するエントリが、¥Windows フォルダ内のホストファイルに必要です。

マッピングされたドライブオプションを使用するか、またはクラスタノードサーバを展開することによって、同じクラスタボリュームを選択した場合、このインストールは標準インストールと見なされ、システムファイルがすべてのクラスタノードにコピーされます。したがって、この製品は当該ノードでのみ動作します。

重要：NetWare Management Agent は、クラスタノードサーバの管理に使用されるため、クラスタボリュームにはインストールできません。すべてのノードを管理するには、Netware Management Agent がすべてのノード上に存在する必要があります。

- 2 クラスタへのインストール後に、次の行をクラスタボリュームのロードスクリプトに手動で追加します。

```
sys:¥system¥mmsstart.ncf
```

- 3 次の行をクラスタボリュームのアンロードスクリプトに手動で追加します。

```
sys:¥system¥mmsstop.ncf
```

4 クラスタボリュームのアンロードスクリプトに次の行がこの順序で含まれていることを確認します。

```
sys:¥system¥mmsstop.ncf  
unload dbsrv8.nlm
```

重要: ZENworks 6.5 Server Inventory をクラスタ環境にインストール済みの場合は、unload dbsrv8.nlm エントリの前に sys:¥system¥mmsstop.ncf を追加します。

5 動作する NetExplorer™ の 32 よりボリューム ID が小さいことを確認します。これは、BTRIEVE データベース制限のためです。ボリューム ID を指定するには、ロードスクリプトで次のコマンドを使用します。

```
mount volume_name VOLID = volume_number
```

6 すべてのクラスタノードが同じセグメント上にある場合に限り、Traffic Analysis Agent をクラスタボリュームにインストールする必要があります。インストールしない場合、クラスタノードを変更するときに、エージェントは整合性のある情報を提供しません。

Traffic Analysis Agent または Management Site Server をクラスタ共有ボリュームにインストールする場合は、SYS:¥SYSTEM¥MMSSTART.NCF を共有ボリュームロードスクリプトに、SYS:¥SYSTEM¥MMSSTOP.NCF を共有ボリュームアンロードスクリプトに追加する必要があります。

共有ボリュームがノードにロードされているとき、MMSSTART.NCF ファイルに、Management Site Server がインストールされている場合は Database、Naming Server、Discovery、および Sloader を開始するための情報、Traffic Analysis Agent がクラスタ共有ボリュームにインストールされている場合は Traffic Analysis Agent を開始するための情報が含まれます。共有ボリュームがノードからアンロードされているときは、MMSSTOP.NCF に、Naming Server、Discovery、および Sloader を停止し、Traffic Analysis Agent(インストールされている場合)を停止する情報が含まれます。

Traffic Analysis Agent を共有ボリュームにインストールする場合は、トレンドファイルを作成する場所を次のように追加することにより、¥zfs_agnt\lanz ディレクトリの lanz.ncf ファイルを更新します。

```
load gtrend.nlm ¥dvolume_name:¥directory
```

F

セキュリティ保護されていない接続のための追加セキュリティのインストール

Novell® ZENworks® Server Management では、Policy and Distribution Services のサーバ間通信に XMLRPC(Extensible Markup Language Remote Procedure Call) を使用します。XMLRPC は、オプションで、セキュリティ保護されていない接続でのサーバ間通信に対してセキュリティを提供します。

この節では、この追加セキュリティをインストールして設定する方法について説明します。XMLRPC セキュリティが必要かどうかを判断するには、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**セキュリティ保護されていない接続でのサーバ間通信のセキュリティ**」を参照してください。

Windows サーバ、Linux サーバ、または Solaris サーバでの配布を暗号化する場合は、そのサーバに NICI 2.6.4 をインストールする必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「**NICI 2.6.4 のインストール**」を参照してください。ただし、NICI 2.4.6 がインストール済みである場合は、NICI 2.6.4 にアップグレードするかどうかはオプションです。この 2 つのバージョン間では互換性があります。

XMLRPC セキュリティをインストールして設定するには、次の操作を順に実行します。

- 353 ページの「**インストールの前提条件の充足**」
- 354 ページの「**インストールに関する情報の収集**」
- 355 ページの「**サーバ間通信セキュリティのインストール**」
- 362 ページの「**サーバ間通信セキュリティの有効化**」

インストールの前提条件の充足

サーバ間通信セキュリティをインストールする前に、次のソフトウェア要件を満たす必要があります。これらの前提条件には、ソフトウェアのインストールや設定が含まれる場合があります。

前提条件	説明
ZENworks Server Management	Policy and Distribution Services をインストールして実行している必要があります。
Tomcat	Tomcat 4 をインストールする必要があります。Apache の有無は関係ありません。これにより、サーブレットゲートウェイが提供されます。
ZENworks Web Server (ZENworks Web サーバ)	インストールし、正しく設定して実行する必要があります。 ZENworks Web Server をインストールする方法については、90 ページの「 Policy and Distribution Services の Web ベースの管理 」を参照してください。

前提条件	説明
Novell iManager	インストールし、ネットワーク上で実行する必要があります。 iManager のインストール手順については、41 ページの「 管理固有のワークステーションの要件 」を参照してください。iManager に ZENworks プラグインをインストールする方法については、90 ページの「 Policy and Distribution Services の Web ベースの管理 」を参照してください。
Certificate Authority のインストール	iManager に ZENworks プラグインをインストールする場合は、[Install the ZENworks Certificate Authority] オプションを選択し、追加のサーバ間通信セキュリティのインストール時に、この署名局によってセキュリティ証明書が署名されるようにします。 iManager に ZENworks プラグインをインストールする方法については、90 ページの「 Policy and Distribution Services の Web ベースの管理 」を参照してください。

CSR に署名するには、要求元のクライアントはユーザ名とパスワードを使用して認証する必要があります。通常はクリアテキストでネットワーク送信されるため、この情報をセキュリティ保護するために SSL を使用する必要があります。

354 ページの「[インストールに関する情報の収集](#)」に進みます。

インストールに関する情報の収集

サーバ間通信セキュリティのインストールウィザードを実行する前に、次の情報を把握しておく必要があります。

- iManager を実行しているコンピュータの TCP/IP アドレスまたは DNS 名。
- Certificate Authority が使用するポート。

iManager との通信に使用するポート番号です。SSL を使用する場合、このポート番号は通常は 443 です。SSL を使用しない場合は、Tomcat が Web サーバに統合されていればポート 80 を使用し、Tomcat が統合されていなければポート 8080 を使用します。

- iManager にアクセスするためのユーザ名とパスワード。

これにより、Certificate Authority サーバの署名機能にアクセスできるようになります。認証に失敗した場合、このユーザはサーバ間通信セキュリティのインストールを続行できません。

- サーバ間通信セキュリティの使用対象にするすべてのサーバの TCP/IP アドレスまたは DNS 名。Distribution を暗号化してサーバに送信する場合にのみ、証明書に署名する必要があります。

重要: NetWare® サーバの場合は、DNS 名にアンダースコアを使用できません。単語の区切り文字としてアンダースコアの代わりにダッシュを使用することをお勧めします。

インストールの際に、有効な IP アドレスを取得するには 3 つの方法があります。これらのいずれか 1 つの方法を、DNS 名を取得するために使用することができます。これらのいずれか 1 つまたはすべての方法を、サーバを選択するために使用することができます。次の 3 つの方法があります。

- ◆ [List] : 証明書の署名を必要とするサーバの個別の IP アドレスまたは DNS 名、あるいはサーバの有効な IP アドレスまたは DNS 名を含むファイル名を入力できます。

- ◆ [Wildcard] : ワイルドカード文字を使用してサーバのリストを構築できます。アスタリスク (*) は IP アドレスフィールドの 0 ~ 999 の数値を表します。疑問符 (?) は IP アドレス番号の任意の 1 文字 (0 ~ 9) を表します。
- ◆ [Range] : IP アドレスの範囲を使用してサーバのリストを構築できます。

上の各オプションの詳細については、インストール手順で示します。

重要: サーバ間通信セキュリティのインストールウィザードでは、入力した IP アドレスが有効かどうかは確認されません。このウィザードは、IP アドレスに一致する各コンピュータについて証明書に署名するときに使用するアドレスのリストを構築するだけです。IP アドレスが無効である（使用しているワークステーションからアクセスできない）場合は、その IP アドレスに対してエラーが発行されます。証明書の署名エラーを受け取らないようにするために、どのアドレスが有効かを把握する必要があります。インストールプログラムでは、インストールを中断して接続問題を解決するか、単にエラーをインストールログに書き込んで後で対処するかを選択することができます。

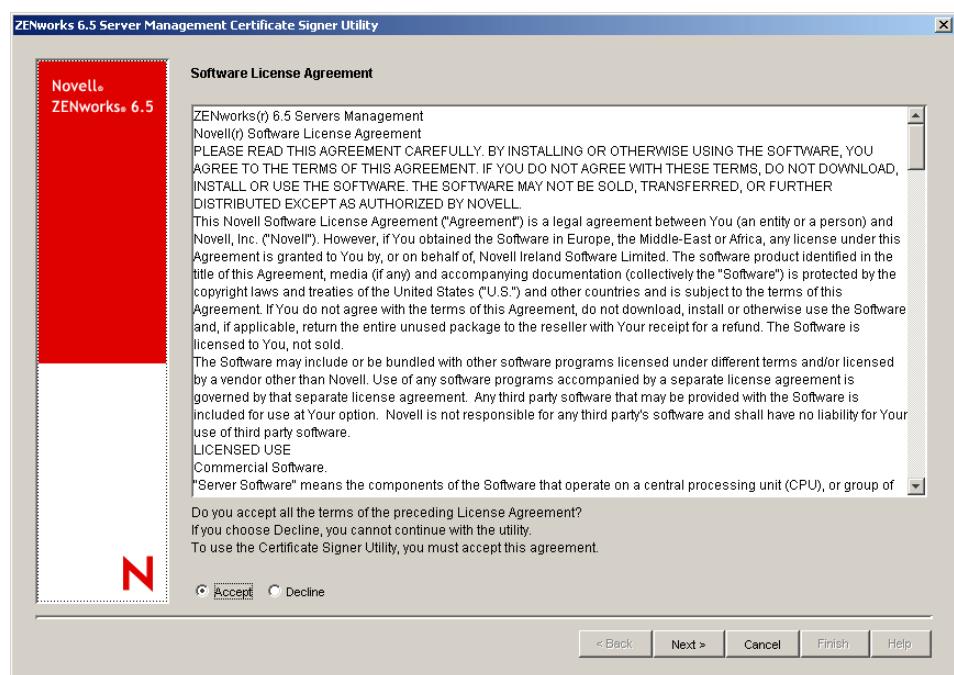
355 ページの「サーバ間通信セキュリティのインストール」に進みます。

サーバ間通信セキュリティのインストール

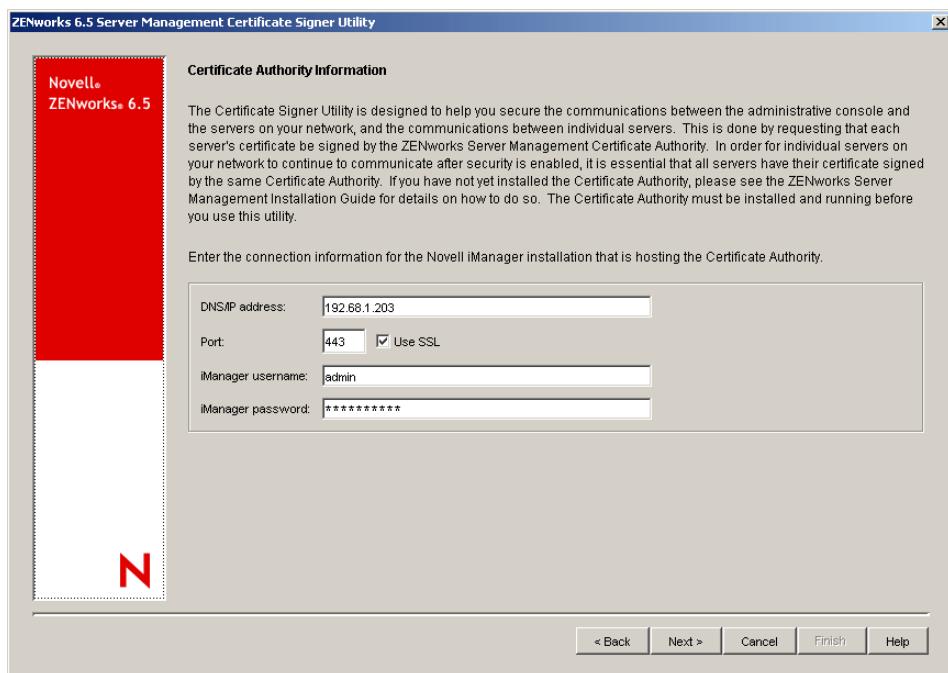
- 前提条件が満たされていること（353 ページの「インストールの前提条件の充足」を参照）、およびインストールに必要な情報が収集されていること（354 ページの「インストールに関する情報の収集」を参照）を確認してください。
- iManager を実行しているサーバで、サーバのメインコンソールプロンプトで「**tomcat4**」と入力し、Tomcat を起動します（起動していない場合）。
- ZENworks 6.5 Server Management Program* CD から次の実行可能ファイルを実行します。

`\zfs\tedpol\sfiles\securityinstall\setup.exe`

これにより、サーバ間通信セキュリティのインストールウィザードが起動します。



4 ソフトウェア使用許諾契約に同意する場合は、[Accept]、[Next] の順にクリックして、[Certificate Authority Information] ページを表示します。



5 収集済みの情報を各フィールドに入力します。

[DNS/IP Address] : ZENworks Certificate Authority が稼動しているサーバ (iManager が稼動しているサーバ) の TCP/IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

重要: NetWare サーバの場合は、DNS 名にアンダースコアを使用できません。単語の区切り文字としてアンダースコアの代わりにダッシュを使用することをお勧めします。

[Port] : iManager との通信に使用するポート番号です。SSL を使用している場合、通常は 443 です。Tomcat が Web サーバと統合されている場合は 80、Tomcat が統合されていない場合は 8080 です。

[Use SSL] : デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。SSL を使用していない場合は、選択を解除します。

[iManager Username] : iManager に対する権利を持つユーザの iManager 名 (コンテキストを除く) を入力します。ユーザ名を認証できない場合、インストールは停止します。ユーザ名とパスワードの組み合わせにより、ユーザは Certificate Authority サーバの署名機能にアクセスできるようになります。

[iManager Password] : iManager に対する権利を持つユーザの iManager パスワードを指定します。

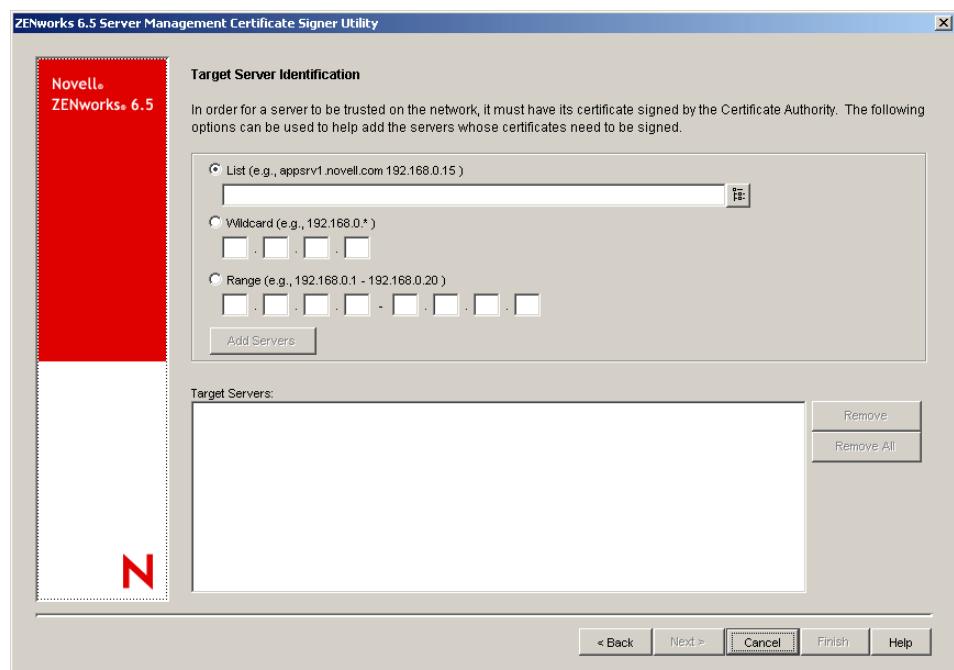
6 [Certificate Authority Information] ページでの入力を終了したら、[Next] をクリックします。

無効な情報を入力した場合、処理を続行することはできません。

次のダイアログボックスが表示される場合があります。



7 このダイアログボックスが表示された場合は、[Yes] をクリックして [Target Server Identification] ページに進みます。

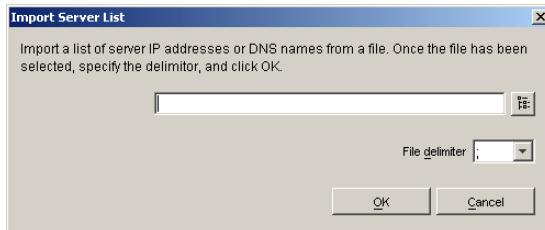


8 ラジオボタンをクリックして、サーバの IP アドレスまたは DNS 名を選択するための次のいずれかの方法を使用します。

- ◆ [List]

このフィールドには、3種類の入力を行うことができます。

- ◆ サーバの IP アドレス
- ◆ サーバの DNS 名
- ◆ サーバの IP アドレスまたは DNS 名の ASCII 区切りファイル



1. 作成済みの IP アドレスまたは DNS 名のリストを含む ASCII 区切りテキストファイルを参照して選択します (354 ページの「インストールに関する情報の収集」を参照)。

2. [File Delimiter] フィールドの下向き矢印ボタンをクリックします。サーバのアドレスを一覧表示するテキストファイルで、次の区切り文字のいずれかを使用することができます。

セミコロン (;)
コロン (:)
カンマ (,)
スラッシュ (/)
円マーク (¥)
パイプ (|)
復帰
改行
タブ

3. 文字を選択します。この文字は、ファイル全体に対して有効である必要があります。

4. [OK] をクリックします。

このテキストファイルに含まれているすべてのアドレスが [Target Servers] リストボックスに追加されます。

重要: NetWare サーバの場合は、DNS 名にアンダースコアを使用できません。単語の区切り文字としてアンダースコアの代わりにダッシュを使用することをお勧めします。

[Target Servers] リストボックスで、ファイルから追加した IP アドレスおよび DNS 名の中で不要なものを削除できます。

- ◆ **[Wildcard]**

すべての IP アドレスフィールドで、複数文字を表すワイルドカード (*) または单一文字を表すワイルドカード (?) を使用することができます。入力するあらゆる数字に完全に一致します。

ワイルドカード*は、フィールド内で単独で使用することができます。0 ~ 255 の任意の数字に一致します。同じフィールドではワイルドカード*とワイルドカード?を同時に使用することはできません。

ワイルドカード?は、数字の代わりに使用することができます。0 ~ 9 の任意の数字に一致します。ただし、?は連続して使用することはできません。たとえば、?3、3?、3?3、?3?、?33、および33?はすべて有効ですが、??3や3??は無効です。

例：

10.1?.10.*

これは、次のような IP アドレスを返します。

```
10.10.10.0 through 10.10.10.255
10.11.10.0 `10.11.10.255
10.12.10.0 `10.12.10.255
10.13.10.0 `10.13.10.255
```

以下同様に続けます。指定された 2 つの 10 は完全に一致し、1? は 10 ~ 19 の任意の数字に一致し、* は 0 ~ 255 の任意の数字に一致します。

[Target Servers] リストボックスで、ワイルドカードを使用して作成したリストから不要な IP アドレスを削除できます。

- ◆ **[Range]**

IP アドレスの範囲を指定します。この方法では、ワイルドカードを使用できません。

指定した範囲内の IP アドレスを持つすべてのサーバをリストに追加できます。

[Target Servers] リストボックスで、範囲を使用して作成したリストから不要な IP アドレスを削除できます。

指定したパターンと一致する IP アドレスを持つすべてのサーバをリストに追加できます。

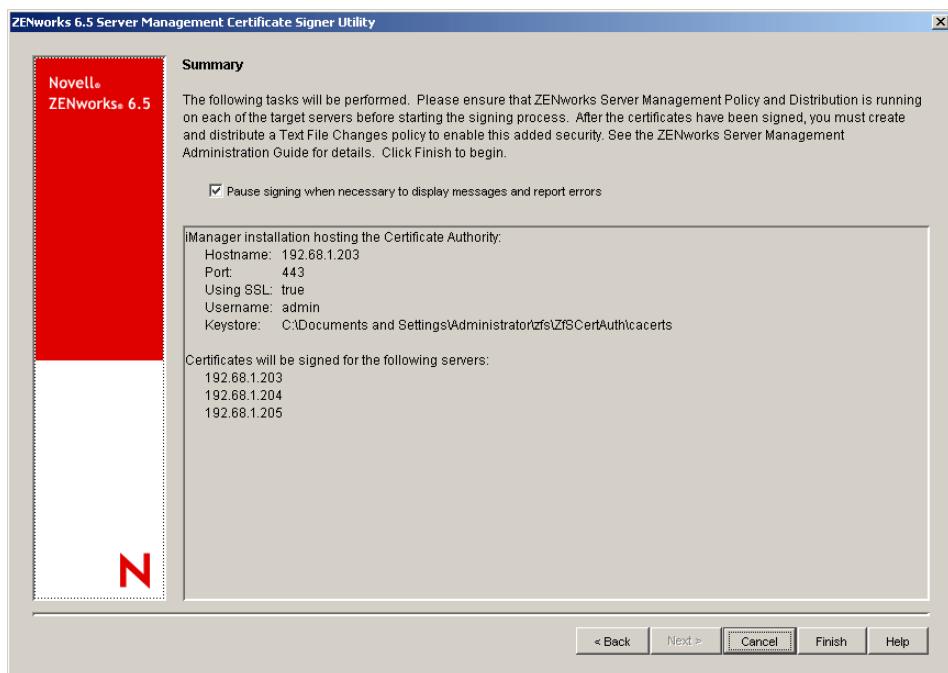
9 [Add Servers] をクリックすると、選択したサーバが [Target Servers] リストボックスに追加されます。

不要な IP アドレスがリストに含まれている場合は、その IP アドレスを選択して [Remove] をクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、削除する複数のアイテムを選択することができます。

10 サーバをリストに追加するために使用するそれぞれの方法について、必要に応じて **ステップ 8** および **ステップ 9** を繰り返します。

これら 3 つの方法を（一度に 1 つずつ）使用して、[Target Servers] リストボックスにサーバを追加できます。

11 サーバの IP アドレスをリストボックスに追加し終わったら、[Next] をクリックし、[Summary] ページを表示します。



12 [Pause Signing When Necessary to Display Messages and Report Errors] チェックボックスを選択し、署名エラーが発生したときに詳細メッセージが表示されるようにします。

このチェックボックスを選択した場合は、エラーが発生したときに処理が一時停止します。そのときに [View Log] ボタンをクリックすると、エラー情報を確認することができます。ログには、正常に実行された処理に関する情報も表示されます。このログは、セキュリティのインストールに使用しているワークステーションのユーザのホームディレクトリ (c:\documents and settings\administrator など) に ¥zfs¥security.txt として保存されます。

13 [Summary] ページで、表示されている IP アドレスと DNS 名が正確であることを確認します。

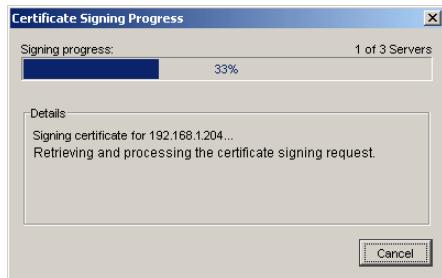
変更する場合は、[Back] をクリックします。

ここで [Cancel] をクリックした場合、[Target Server Identification] ページで収集した情報は保存されません。

エラーが発生したサーバの場合は、情報がログファイルに記載され、そのサーバについてウィザードを再実行することができます。ログファイルを表示するには、[Certificate Signing] ページで [View Log] をクリックします。

14 表示されている各サーバについて証明書への署名を開始するには、[Finish] をクリックします。

署名は、1つのサーバごとに順番に実行されます。署名の進捗状況は、サーバごとに表示されます。



以下、サーバごとに進捗状況が表示されます。

15 Linux サーバまたは Solaris サーバで実行されている iManager のインスタンスで一般的な I/O エラーが発生した場合、iManager のインスタンスで XMLRPC を使用し、インストールプログラムを続行するには、次の操作を行って正しい許可を設定してください。

15a \$security ディレクトリのグループを novlwww に設定するには、iManager が実行されているサーバで次のシェルコマンドを入力します。

```
chown root:novlwww /opt/novell/java/jre/lib/security
```

15b 許可が正しく設定されていることを確認するには、次のように入力します。

```
chmod 775 /opt/novell/java/jre/lib/security
```

証明書署名の処理が続きます。

16 次の 2 つのダイアログボックスのいずれかが、証明書署名の処理中または終了時に表示されます。

- ◆ [Continue] : [Pause Signing When Necessary to Display Messages and Report Errors] オプションを選択している場合に、エラーが発生すると、このダイアログボックスが表示されます。次のオプションを使用できます。

クリックするボタン	結果
Back	前のウィザードページに戻って修正を加え、サーバに移動して問題を解決した後に、[Finish] をクリックして処理を続行することができます。
No	[Certificate Signing] ページに戻ります。このページで [View Log] ボタンをクリックすると、問題があるサーバのエラー情報を確認することができます。
Yes	エラーを記録するだけで、残りの証明書への署名を継続します。

- ◆ [Certificate Signing Progress] : このダイアログボックスは、署名セッションが終了したことを示します。エラーの有無が示されます。次のオプションを使用できます。

クリックするボタン	結果
No	ダイアログボックスとウィザードの両方が終了します。
Yes	<p>[Log] ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、次の操作を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Save] をクリックして、今後使用できるようにログファイルを保存します。ログファイルには、証明書への署名での成功および失敗の両方に関する情報を含む、すべての処理対象コンピュータが記載されます。 ◆ [Close] をクリックして、ダイアログボックスとウィザードの両方を終了します。

重要: すべてのサーバの証明書が署名される前に [Cancel] をクリックすると、署名処理は停止し、終了しません。ただし、それまでに処理済みのすべてのサーバの証明書は、署名されたまま維持されます。

- 17 インストールエラーログを表示することを選択した場合、ログはデフォルトのテキストファイルビューアに表示されます。



すべての証明書の署名が終了すると、この Certificate Authority によって署名された証明書を持つサーバ間では、セキュリティを有効にした後に限り、セキュリティで保護されていない接続を通じて安全に通信することができます。

- 18 セキュリティを有効にするには、362 ページの「[サーバ間通信セキュリティの有効化](#)」に進みます。

サーバ間通信セキュリティの有効化

サーバ間通信セキュリティのインストールウィザードを終了したら、セキュリティを有効にするために使用する Text File Changes ポリシーを作成および配布します。次の操作を実行して、ポリシーを作成および配布します。

- ◆ 363 ページの「[サーバ間通信セキュリティを有効にするためのText File Changesポリシーの作成](#)」
- ◆ 364 ページの「[Text File Changes ポリシーの配布](#)」

サーバ間通信セキュリティを有効にするための Text File Changes ポリシーの作成

ポリシーを作成するには

- 1 ConsoleOne® で、ポリシーパッケージオブジェクトを保存するコンテナを右クリックして [New] をクリックし、[Policy Package] をクリックします。
この操作により、ポリシーパッケージウィザードが起動します。
- 2 [Policy Packages] で、[Distributed Server Package] を選択し、[Next] をクリックします。
- 3 パッケージに名前を付け、[Next] をクリックします。
パッケージには、その目的を示す固有の名前を付けます。
- 4 [Define Additional Properties] をクリックし、[Finish] をクリックします。
- 5 [Policies] > [General] タブの順にクリックし、[Add] をクリックします。
このポリシーは、あらゆるプラットフォームに適用できます。
- 6 [Add Policy] ダイアログボックスで、[Text File Changes] をクリックしてポリシーの名前を入力し、[OK] をクリックします。
この新しいポリシーが有効になり、自動的に選択されます。
- 7 [Properties] をクリックします。
[Text File Policy] タブが表示されます。security=false という行が存在する可能性があるため、セキュリティを false から true に効率的に変更するために、テキストファイルに対して 2 つの変更を加える必要があります。
- 8 [Add] をクリックし、次の操作を行います。
 - 8a [Filename] フィールドに「**sys:\zenworks\zws\zws.properties**」と入力します。
 - 8b デフォルトの "Change #1" というテキストを、わかりやすい変更タグ（たとえば、Delete Security Line）に置き換えます。
 - 8c [Change Mode] フィールドで、[Search File] を選択します。
 - 8d [Search Type] フィールドで、[Entire Line] を選択します。
 - 8e [Search String] フィールドで、「**security=false**」と入力します。
 - 8f [Result Action] フィールドで、[Delete Line] を選択します。
- 9 [Add] ボタンの隣りにあるドロップダウンフィールドの下向き矢印ボタンをクリックし、[Change] を選択して [Add] をクリックし、次の操作を行います。
 - 9a デフォルトの "Change #2" というテキストを、わかりやすい変更タグ（たとえば、Append Security Line）に置き換えます。
 - 9b [Change Mode] フィールドで、[Append to File] を選択します。
 - 9c [New String] フィールドで、「**security=true**」と入力します。
この文字列では大文字と小文字が区別されます。
- 10 [OK] をクリックしてポリシーを保存し、[OK] をクリックします。
- 11 364 ページの「Text File Changes ポリシーの配布」に進みます。

Text File Changes ポリシーの配布

新しいポリシーを配布するには

- 1 ConsoleOne で、使用する TED コンテナを右クリックし、[New] > [Object] の順にクリックして [TED Distribution] を選択し、[OK] をクリックします。
- 2 Distribution の名前を入力します。
Distribution には、その目的を示す固有の名前を付けます。
- 3 Distributor を参照し、[Define Additional Properties] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 4 [Type] タブをクリックし、[Select Type] ドロップダウンボックスで [Policy Package] を選択して、[Add] をクリックします。
- 5 363 ページの「[サーバ間通信セキュリティを有効にするための Text File Changes ポリシーの作成](#)」で作成したポリシーパッケージを参照して [Select] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 6 [Schedule] タブをクリックし、[Schedule Type] フィールドのドロップダウンボックスの矢印をクリックして [Run Immediately] を選択し、[OK] をクリックします。

このスケジュールタイプにより、Subscriber は Distribution を抽出し、ポリシーを受信するとすぐに適用します。

- 7 [Channel] タブをクリックして [Add] をクリックし、Channel を参照して [Select] をクリックし、[OK] をクリックします。
Channel が [Active in the Channels] リストに表示されていることを確認します。
- 8 Distribution の設定を終了したら、[OK] をクリックします。
証明書の解決を要求するメッセージが表示されます。
- 9 [Yes] をクリックして証明書を解決します。

この操作により、Channel を購読している Subscriber に、Distributor からセキュリティ証明書がコピーされます。

重要: Linux Subscriber または Solaris Subscriber があり、使用するワークステーションからそれらのサーバにマッピングされるドライブがない場合は、それらのサーバに対して手動で証明書を解決する必要があります。詳細については、『[Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド](#)』を参照してください。

Text File Changes ポリシーの Distribution が送信および受信され、各対象サーバ上で解凍されると、サーバ間通信セキュリティが有効になります。

G

インストールに関するエラーメッセージ

Novell® ZENworks® 6.5 Server Management のコンポーネントをインストールしているときにインストールを正常に完了することができない場合、エラーメッセージが表示されることがあります。この章では、ZENworks Server Management のコンポーネントをインストールしているときに表示される可能性のあるエラーメッセージを示し、その対処方法について説明します。

インストールしようとしている ZENworks Server Management のコンポーネントを選択してください。

- ◆ 365 ページの「Novell eDirectory スキーマの拡張エラー」
- ◆ 365 ページの「NetWare サーバおよび Windows サーバにおける Policy and Distribution Services のインストールエラー」
- ◆ 369 ページの「LinuxサーバまたはSolarisサーバにおけるPolicy and Distribution Services のインストールエラー」
- ◆ 375 ページの「Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストールエラー」
- ◆ 375 ページの「Server Inventory のインストールエラー」
- ◆ 410 ページの「Remote Management のインストールエラー」
- ◆ 413 ページの「Management and Monitoring Services のインストールエラー」

Novell eDirectory スキーマの拡張エラー

ZENworks Server Management コンポーネントをインストールする前に、Novell eDirectory™ スキーマを拡張して、このコンポーネントが使用する新しいオブジェクトに対応できるようにする必要があります。スキーマを拡張できなかつた場合、インストールプログラムによりエラーメッセージが c:\winnt\zwschema.log ファイルに記録されます。

スキーマを拡張することができない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

NetWare サーバおよび Windows サーバにおける Policy and Distribution Services のインストールエラー

NetWare® サーバまたは Windows サーバで Policy and Distribution Services のインストールに失敗した場合、インストールプログラムによって、c:\temp\resn.log ファイルにエラーメッセージが記録されます。

`A target directory installation_path could not be created
Failed to create object.context in tree:eDirectory_error_code`

Failed to set rights for object_DN in tree: eDirectory_error_code
Setup found no space to copy files on server
Setup found the JVM loaded on the server (NetWare)
The file in installation_directory is read-only
Unable to allocate the memory required to complete the copy file process
Unable to copy the requested file
Unable to open the input file
Unknown cause of error
Unspecified error occurred while copying files

■ A target directory *installation_path* could not be created

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、指定されたインストールディレクトリを作成できません。

可能な起因： 無効なパスを指定しました。

解決法： Policy and Distribution Services をインストールしようとしているプラットフォームに対して、適切なパスを指定したことを確認します。

可能な起因： インストールディレクトリの作成場所に対する適切なアクセス権を持たないユーザとしてログインしています。

解決法： 31 ページの「**インストールユーザの権利**」を参照して、指定された要件を満たすユーザとしてログインしていることを確認します。

■ Failed to create *object.context* in *tree*: eDirectory_error_code

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、Distributor、Subscriber、または ZENworks Database オブジェクトを作成できません。

可能な起因： eDirectory が、インストールプログラムに対して予想したとおりには応答していません。

解決法： Novell eDirectory エラーコード (<http://www.novell.com/documentation/lg/ndsedir/index.html>) で eDirectory のエラーコードを参照してください。

■ Failed to set rights for *object_DN* in *tree*: eDirectory_error_code

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、eDirectory オブジェクトに対する権限を正しく設定できませんでした。

可能な起因： このツリーのルートを変更できる権限を持たないユーザとして、eDirectory にログインしています。

可能な起因： サーバオブジェクトを変更できる権限を持たないユーザとして、eDirectory にログインしています。

解決法： 31 ページの「**インストールユーザの権利**」を参照して、指定された要件を満たすユーザとしてログインしていることを確認します。

解決法： NetWare サーバの場合、Distributor オブジェクトが配置されているツリーに対して認証を実行してから、次のコマンドを使って手動で Distributor オブジェクトにパスワードを設定します。

```
SETPASS distributor_object.context password
```

パスワードにはすべて小文字を使用します。Distributor オブジェクトが、ツリーのルートのトラスティであることを確認します。

可能な起因： Policy and Distribution Services を、きわめて大規模な Novell eDirectory ツリーにインストールしています。インストールプログラムが、1つまたは複数の Subscriber オブジェクトに対して権限を設定できませんでした。

解決法： インストール後、権限が設定されなかった各 Subscriber オブジェクトを、ConsoleOne® で手動でサーバオブジェクトのトラスティに設定します。

解決法： Novell eDirectory エラーコード (<http://www.novell.com/documentation/1gn/dsdir/index.html>) で eDirectory のエラーコードを参照してください。

Setup found no space to copy files on server

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、ZENworks Server Management ソフトウェアのインストール先になるサーバに、インストールを完了するための充分なディスク容量が存在しないことを検出しました。

解決法： インストールしている ZENworks Server Management コンポーネントのシステム要件を確認します。

- ◆ 18 ページの「Policy and Distribution Services Minimum Requirements for Windows Servers」
- ◆ 70 ページの「Meeting Server Inventory Requirements」
- ◆ 88 ページの「Meeting Remote Management Requirements」

解決法： 同じサーバに対して同時に複数のコンポーネントをインストールしている場合、インストールするすべてのコンポーネントで必要になるディスクの空き容量の合計を計算する必要があります。

Schema is not extended on the tree *tree_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Policy and Distribution Services ソフトウェアのインストール中に、インストールプログラムは eDirectory ツリーに Distributor および Subscriber オブジェクトを作成します。インストールを開始する前に、Tiered Electronic Distribution オブジェクトに対応するよう eDirectory スキーマを拡張する必要があります。

可能な起因： 先にスキーマを拡張することなく、Policy and Distribution Services をインストールしようとしています。

解決法： 23 ページの「Installing Policy and Distribution Services」の手順を実行します。

Setup found the JVM loaded on the server (NetWare)

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、ターゲットになる NetWare サーバで Java が実行中であることを検出しました。インストールプログラムは、実行中のプログラムが Java ファイルを使用している場合、サーバの Java ファイルを更新することができません。

解決法： NetWare サーバのコンソールで、「**java -exit**」と入力して Java を停止し、インストールを続行します。

The file in *installation_directory* is read-only

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、読み取り専用に設定されているファイルに同じ名前のファイルを上書きできません。

可能な起因： 前回 Policy and Distribution Services をインストールした後、インストールディレクトリにある 1 つ以上のファイルが読み取り専用に設定されました。

解決法： Windows エクスプローラで、この読み取り専用ファイルを右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[読み取り専用] の選択を解除します。

解決法： 以前のインストールを削除し、再度インストールを開始します。

Unable to allocate the memory required to complete the copy file process

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムを正常に実行するのに必要なメモリ容量が不足しています。

解決法： 他のいくつかのプログラムを終了してワークステーションのメモリを解放し、インストールプログラムが必要なメモリを利用できるようにします。

Unable to copy the requested file

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムが、インストールディレクトリにファイルをコピーできませんでした。

可能な起因： 不明。

解決法： 失敗に終わったインストールを削除し、17 ページの第 2 章「Installing Policy and Distribution Services on NetWare and Windows Servers」に記載されているシステム要件とインストール手順を確認した後、インストールを再度実行します。

Unable to open the input file

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムがコピーしようとしたファイルで問題が発生しました。

可能な起因： ZENworks 6.5 Server Management Program CD が破損しています。

解決法： 使用可能な CD を入手します。

可能な起因： Program CD のコンテンツをネットワーク上にコピーしましたが、そのコピーした内容が何らかの理由によりオリジナルの CD と異なっています。

解決法： もう一度 CD をコピーし、インストールを再度実行します。

Unknown cause of error

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： 具体的なエラーメッセージが提供されていない問題がインストールプログラムで発生しました。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Unspecified error occurred while copying files

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールプログラムによるファイルのコピー中に、具体的なエラーメッセージが提供されていない問題が発生しました。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Linux サーバまたはSolaris サーバにおける Policy and Distribution Services のインストールエラー

Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストールが失敗した場合、インストールスクリプトにより /var/log/ZFSinstall.log ファイルにエラーメッセージが記録されます。

Copy failed file_name
Could not change the access rights of /var/opt/novell/zenworks/zfs/smanager/ZWSSRV.sh
Could not change the access rights of /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV.sh
Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/smanager/ZWSSRV.sh
Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV.sh
Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/xConf
The installation was aborted because the DS object wasn't created
The package ZFSTed has already been installed
The package ZFSTed-0.1-1.i386 failed to install
The RPM ZFSTed-0.1-1.i386 failed to install
The schema needs to be extended on this tree
The subscriber DS object needs to be created manually
Unable to create the shell script /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV.sh
Unable to create the XML configuration file
Unable to open log file
Unable to open the TED configuration file /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/tedconf
You attempted to install to a non-Linux or SunOS platform

Copy failed *file_name*

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトが、1 つのファイルをコピーできませんでした。

可能な起因： 不明。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Could not change the access rights of /var/opt/novell/zenworks/zfs/smanager/ZWSSRV.sh

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、zwssrv.sh ファイルのカスタマイズされたバージョンにアクセス権を設定する必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Could not change the access rights of /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV.sh

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、tedsrv.sh ファイルのカスタマイズされたバージョンにアクセス権を設定する必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/smanager/ZWSSRV.sh

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、zwssrv.sh ファイルのカスタマイズされたバージョンに書き込む必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV.sh

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、 tedsrv.sh ファイルのカスタマイズされたバージョンに書き込む必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」に記載されている手順を実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Could not print to /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/xConf

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、 XML 環境設定ファイルのカスタマイズされたバージョンに書き込む必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」に記載されている手順を実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

The context *container_object* does not exist

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Policy and Distribution Services ソフトウェアをインストールする際、インストールスクリプトは eDirectory ツリーに Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトを作成する必要がありますが、オブジェクトの作成先として指定されたコンテナオブジェクトを検索することができませんでした。

可能な起因： Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルの編集中、 Distributor オブジェクトまたは Subscriber オブジェクトを指定するときに誤ったコンテキスト情報を入力しました。

解決法： インストールスクリプトにより再設定が認められている場合、 Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルで指定したオブジェクトコンテキストを検証します。

解決法： ConsoleOne を使って、このコンテナオブジェクトが存在しないことを検証します。

The installation was aborted because the DS object wasn't created

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Policy and Distribution Services ソフトウェアをインストールする際、インストールスクリプトは eDirectory ツリーに Distributor オブジェクトおよび Subscriber オブジェクトを作成する必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： eDirectory にログインしていないため、インストールスクリプトが eDirectory にアクセスできません。

解決法： eDirectory にログインして、インストールを再開します。

可能な起因： 選択したコンテキストで eDirectory オブジェクトを作成できる権限を持たないユーザとして、eDirectory にログインしています。

解決法： 31 ページの「[インストールユーザの権利](#)」に記載されている権限を確認した後、選択したコンテキストで適切な権限を有するユーザとして eDirectory にログインし、インストールを再開します。

可能な起因： Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルの編集中に、誤ったツリー名を入力しました。

解決法： インストールスクリプトにより再設定が認められている場合、Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルで指定したツリー名を検証します。

可能な起因： Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルの編集中に、ツリーのレプリカを保持するサーバの名前を誤って入力しました。

解決法： インストールスクリプトにより再設定が認められている場合、Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイルで指定したサーバ名を検証します。

可能な起因： ツリーのレプリカを保持するサーバが現在停止しています。

解決法： サーバの管理者にお問い合わせください。

The package ZFSTed has already been installed

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： パッケージは一度だけインストールできます。

可能な起因： パッケージのインストール中に、完全にインストールすることができない問題が発生しました。パッケージが正常に実行できるようパッケージを再インストールして、インストールを完了する必要があります。

可能な起因： 他の何らかの理由により再インストールしようとしています。

解決法： 131 ページの「[Removing the Software on Linux or Solaris Servers](#)」に記載されている手順を実行します。

The package ZFSTed-0.1-1.i386 failed to install

ソース： ZENworks Server Management: Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Solaris の場合、インストールスクリプトは pkgadd コマンドを使用して、プログラムファイルをインストールします。pkgadd コマンドの実行に失敗したため、インストールスクリプトが Solaris のエラーメッセージを返しました。

解決法： Solaris のエラーを解決して、インストールを再度実行します。

The RPM ZFSTed-0.1-1.i386 failed to install

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Linux の場合、インストールスクリプトは RPM(Red Hat Package Manager) を使用して、プログラムファイルをインストールします。RPM の実行に失敗したため、インストールスクリプトが Linux のエラーメッセージを返しました。

解決法： Linux のエラーを解決して、インストールを再度実行します。

The schema needs to be extended on this tree

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Policy and Distribution Services ソフトウェアのインストール中に、インストールスクリプトは eDirectory ツリーに Distributor および Subscriber オブジェクトを作成します。インストールを開始する前に、Tiered Electronic Distribution オブジェクトに対応するよう eDirectory スキーマを拡張する必要があります。

可能な起因： Tiered Electronic Distribution オブジェクトに対する eDirectory スキーマが拡張されていません。

解決法： 54 ページの「Extending the eDirectory Schema for Distributor and Subscriber Objects」に記載されている手順を実行して、インストールを再開します。

The subscriber DS object needs to be created manually

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトが、eDirectory に Linux サーバまたは Solaris サーバ用の Subscriber オブジェクトを作成できませんでした。

解決法： 手動で Subscriber オブジェクトを作成します。ConsoleOne で、Subscriber オブジェクトの作成先になるコンテナを右クリックし、[New] > [Object] の順にクリックして、[TED Subscriber] をダブルクリックし、[OK] をクリックします。必要に応じて Subscriber オブジェクトを設定します。『*Novell ZENworks 6.5 Server Management 管理ガイド*』の「"Subscriber の設定"」を参照してください。

The tree *tree_name* does not have the latest ZENworks Server Management schema extensions

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Policy and Distribution Services ソフトウェアのインストール中に、インストールスクリプトは eDirectory ツリーに Distributor および Subscriber オブジェクトを作成します。インストールを開始する前に、Tiered Electronic Distribution オブジェクトに対応するよう eDirectory スキーマを拡張する必要があります。

解決法： 373 ページの「The schema needs to be extended on this tree」を参照してください。

Unable to create the shell script /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/TEDSRV. sh

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたは Solaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトはインストール時に、tedsrv. sh ファイルのカスタマイズされたバージョンを作成する必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」に記載されている手順を実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Unable to create the XML configuration file

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトは、eDirectory のオブジェクト情報を XML 環境設定ファイル (/var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/xConf) に記録する必要があります。スクリプトは、Policy and Distribution Services eDirectory オブジェクトを作成するプログラムにこの情報を渡します。書き込みを実行することができませんでした。

可能な起因： root としてサーバにログインしていません。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Unable to open log file

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： インストールスクリプトは、インストール情報を /var/opt/novell/log/zenworks/zfs302ninstall.log に書き込む必要がありますが、書き込みを実行することができませんでした。

解決法： 51 ページの第 3 章 「Installing Policy and Distribution Services on Linux or Solaris Servers」 に記載されている手順を実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

Unable to open the TED configuration file /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/tedconf

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： Tiered Electronic Distribution 環境設定ファイル /var/opt/novell/zenworks/zfs/pds/ted/tedconf はインストールスクリプトにより自動的に作成されますが、インストールスクリプトがアクセスする必要があるときに、このファイルが何らかの理由により見つかりません。

解決法： 131 ページの 「Removing the Software on Linux or Solaris Servers」 の指示に従って現在のインストールを削除した後、インストールを再度実行します。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

You attempted to install to a non-Linux or SunOS platform

ソース： ZENworks Server Management: Linux サーバまたはSolaris サーバでの Policy and Distribution Services のインストール。

説明： 53 ページの 「Meeting Policy and Distribution Services Requirements for Linux or Solaris」 に記載されている Linux または Solaris の種類に対してのみ Policy and Distribution Services をインストールすることができます。

解決法： サポートされている Linux または Solaris プラットフォームに対して Policy and Distribution Services をインストールします。

Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストールエラー

Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストールに失敗した場合、インストールプログラムにより、次に示すエラーメッセージが c:\temp\resn.log ファイルに記録されます。

Novell iManager is not installed at directory
Tomcat directory does not exist

Novell iManager is not installed at *directory*

ソース： ZENworks Server Management: Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストール。

説明： Web コンポーネントをインストールする前に、iManager のインストールを完了する必要があります。

可能な起因： まだ iManager をインストールしていません。

解決法： Novell Documentation Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/lgs/imanager15/index.html>) の指示に従ってください。

Tomcat directory does not exist

ソース： ZENworks Server Management: Policy and Distribution Services Web コンポーネントのインストール。

説明： インストールプログラムが、指定されたディレクトリを検索できません。

可能な起因： Tomcat のインストールディレクトリパスを誤って入力しました。

解決法： 入力する代わりにパスを参照します。

Server Inventory のインストールエラー

Server Inventory コンポーネントのインストールが失敗した場合は、インストールプログラムにより次のいずれかのエラーメッセージが、c:\documents および settings\administrator\local settings\temp: にあるログファイルに記録されます。

801: The installation program was unable to rename filename on the server
server_name.Filename may be in use
804: Unable to add the startinv.ncf entry in the filename file on the server
server_name
807: Unable to assign rights to the SCANDIR directory on server server_name
812: Unable to create the password for the Service object
Inventory_Service_object_name
813: Unable to get the volumes on the server server_name
814: An internal error occurred while getting the volumes on the server
server_name
817: An internal error occurred while creating rights for the scandir directory
on the server server_name
819: Unable to create the configuration property file on the server server_name
826: Unable to load the mgmtdbe.ncf file on the server server_name

831: Unable to add the mgmtdbs.ncf entry in the filename on the server server_name

836: The installation program creates a new mgmtdbs.ncf file. The installation program was unable to rename the existing mgmtdbs.ncf file on the server server_name. Rename mgmtdbs.ncf before proceeding with the installation

837: Unable to create the TracerMedia property file on the server server_name

874: Unable to create the Service Manager as a service on Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 server_name

875: Unable to get the path for the shared directory where database is installed on server server_name

876: Unable to create the Sybase service on the Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 server_name

887: An internal error occurred while creating the database object object_name on the server server_name

1051: Unable to write the JRE path to javadir.bat on server server_name

1052: Unable to create the filename file on the server server_name

1053: 共有 share_name のパスをサーバ server_name 上で取得できません

1060: Unable to add the STOPSER * entry in the filename file for the server server_name

1061: Unable to add the UNLOAD DBSRV8.NLM entry in the sys:¥system¥invstop.ncf on the server server_name

1066: Unable to assign public rights to ODBC parameters of the Database object database_object_name

1071: Input-output error occurred while modifying the existing mgmtdbs.ncf for the server server_name

1080: Unable to create Inventory Service object for the server server_name

1081: Unable to assign supervisor privileges to the Service object service_object_name

1082: Unable to assign Inventory Service object as trustee of the NCP server server_name

1084: Unable to initialize zwinstal.dll

1087: Unable to detect the operating system of the workstation where install is running

1088: An internal error occurred while checking for entry in file filename on the server server_name

1089: Unable to get LDAP port number for the server server_name

1091: Unable to create the zwsenv.ncf file on the server server_name

1092: Unable to append entries to the zwssrv.cfg file on the server server_name

1093: Unable to append entries to the zws.properties file on the server server_name

1094: Unable to modify Inventory Service object for the server server_name

1095: Unable to create the invenvset.ncf file on the server server_name

1097: Unable to modify mgmtdbs.ncf on server server_name

1098: Unable to create mgmtdbs.ncf on server server_name

1102: Unable to set the Inventory installation path on server server_name

1104: Unable to set the ZENworks Web Server installation path on server server_name

1105: An input-output error occurred while reading the zenworks.properties file, for the server server_name. The previous installations of the Inventory server could not be detected

1106: Unable to detect a valid database installation on server server_name

1107: The installation path for Inventory components on server server_name is invalid

1118: Unable to create query.properties on the server server_name

1121: Unable to rename the database object old_database_object_name to new_database_object_name, on the server server_name

1122: Unable to modify the database object on the server server_name

1123: Failed to update load and unload scripts on the server server_name

1124: Unable to remove old Inventory entries from the autoexec.ncf file on server server_name

1125: Unable to create the database object database_object_name on the server server_name

1128: Unable to add the Zenworks Web Server entry in file filename, on the server server_name

1129: Unable to set the ZENworks installation path on server server_name

1130: Unable to set the database engine installation path on server server_name

1131: Unable to set the Inventory database installation path on server server_name

1133: Unable to configure SSL on the server server_name

1135: The install path for XML Proxy components on server server_name is invalid

1137: Unable to add Inventory entries to the load script on the server server_name

1138: Unable to add Inventory entries to the unload script on the server server_name

1139: Unable to add database entries to the load script on the server server_name

1140: Unable to add database entries to the unload script on the server server_name

1143: Unable to retrieve the path where Inventory was installed for server server_name

1148: Unable to create ZENworks Web Server as a service on Windows NT/2000 server server_name

1149: Unable to add the ZENworks Web Server path to invenvset.bat on the server server_name

1150: Unable to add ZENworks Web Server entry to the load script on server_name

1151: Unable to add ZENworks Web Server entry to the unload script on server_name

1153: Unable to add Inventory entries to the password.txt file on the server server_name

1154: Unable to add the password.txt file path entry to zws.properties file on the server server_name

1156: Unable to add the SSL entry to filename file on the server server_name

1157: Unable to modify the LDAP Allow Clear Text Password attribute of the LDAP Group object of the server server_name

1160: Unable to replace entry1 with entry2, in the file filename

1161: サーバ server_name でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが検出されました。インストールでは Inventory Service を自動的に開始できません。ポリシーサービスと配布サービスを開始した後、Inventory Service を開始してください

1162: サーバ server_name でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください

1163: Unable to start the ZENworks Web Server on server server_name. 詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

1164: サーバ server_name で Inventory Service を開始できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

1166: Unable to create zwssearch.ncf file on the server server_name

1167: Unable to add a search path to the ZENworks Web Server on server server_name

1168: サーバ server_name 上のレジストリにバージョン情報を書き込めません

1169: ファイル filename (サーバ server_name 上) から以前のインベントリエントリを削除できません

1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server server_name

1171: Unable to add the ZENworks Web Server entries to the file filename, on the server server_name

2701: Unable to create the zwsstart.ncf file on the server server_name

2702: Unable to remove the entries from the load script on the server server_name

2703: Unable to remove the entries from the unload script on server server_name

2704: Unable to append entries to zws.ncf file on the server sever_name

2707: Unable to create dbconfig.properties file on the server server_name

2708: Unable to assign rights to the directory directory_name on server server_name

Error(s) occurred while installing the Inventory Agent on server_name. Reinstall the Inventory Agent

Error(s) occurred while installing the Inventory ConsoleOne components on server_name. Reinstall the Inventory ConsoleOne components

Error(s) occurred while installing the Inventory database on server_name. Reinstall the Inventory database

Error(s) occurred while installing the Inventory server on server_name. Reinstall Inventory server

Error(s) occurred while installing the proxy server on server_name. Reinstall the Proxy server

Some of the Inventory Agent or Inventory Server files are locked during copying files to server_name

Unable to copy the file filename

Unable to find zfssrv.cfg on server_name

Unable to get the install response filename. Install will now exit

Unable to load the DLL DLL_name. The install will exit now

インストール先パスが長すぎます。

share_name 共有を server_name (directory_path) に作成できません

801: The installation program was unable to rename *filename* on the server *server_name*. *Filename* may be in use

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 情報

説明： インストールプログラムでコンピュータ上に以前のインストールが検出されると、ファイル名が変更されます。このエラーは、インストールプログラムがファイルの名前を変更できない場合に発生します。

解決法： 必要な操作はありません。ファイル名を変更せずにインストールプログラムの処理が続行します。

804: Unable to add the startinv.ncf entry in the *filename* file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： NetWare サーバの場合、インストールプログラムにより、次のエントリがインベントリサーバの sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルに追加されます。

```
SEARCH ADD ZEN_web_server_installation_path
ZWS.NCF
SEARCH ADD sys:¥java¥njclv2¥bin
;ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリを autoexec.ncf ファイルに追加できない場合に発生します。

可能な起因： 他のアプリケーションが autoexec.ncf ファイルを使用またはロックしているか、autoexec.ncf ファイルが存在しません。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:¥system ディレクトリに手動で autoexec.ncf ファイルを作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZENworks_web_server_installation_path
ZWS.NCF
SEARCH ADD sys:¥java¥njclv2¥bin
;ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

807: Unable to assign rights to the SCANDIR directory on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが scandir ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。詳細については、31 ページの「インストールユーザの権利」を参照してください。

可能な起因： インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法： Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、40 ページの「[インストール固有のコンピュータの要件](#)」を参照してください。

解決法： ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

812: Unable to create the password for the Service object *Inventory_Service_object_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

813: Unable to get the volumes on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重要

説明： サーバにすでに Sybase がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できない場合に発生します。

解決法： 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

814: An internal error occurred while getting the volumes on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重要

説明： サーバにすでに Sybase がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できない場合に発生します。

解決法： 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

817: An internal error occurred while creating rights for the scandir directory on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは scandir ディレクトリのトラスティとして [Root] を割り当てる、作成権限、削除権限、および書き込み権限を与えます。このエラーは、インストールプログラムがこれらの権利を scandir に割り当てることができなかつたときに発生します。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。詳細については、31 ページの「[インストールユーザの権利](#)」を参照してください。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

819: Unable to create the configuration property file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリで
Inventoryserver_installationpath\zenworks\inv\server\wminv\properties\config.properties ファイルを作成します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object
SingletonPort=65433
StoreRolledupAuditData=false
LDAPServer=DNS_name_of_the_Inventory_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

このエラーは、インストールプログラムが config.properties ファイルを作成できない場合に発生します。

可能な起因： config.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

1 LDAP ポート番号をメモします。

1a ConsoleOne で、NCP™ サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。

1b [Other] タブをクリックします。

1c [Attributes] リストの [LDAP Server] を右クリックし、LDAP サーバオブジェクトの値を読み取ります。

1d [Cancel] をクリックします。

1e ConsoleOne で、LDAP サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。

1f [General] タブの [LDAP Server General] オプションをクリックします。

インストール中に SSL の設定を選択した場合、LDAP ポート番号は SSL ポートの値に、設定を選択しなかった場合は TCP ポートの値になります。

- 2 (条件付き) config.propertiesがない場合は、
Inventoryserver_installationpath\zenworks\inv\server\wminv\properties に手動でファイルを作成します。
- 3 次のエントリを追加します。

```

NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object
SingletonPort=65433
StoreRolledupAuditData=false
LDAPServer=DNS_name_of_the_Inventory_server
LDAPPort=LDAP_port_number

```

826: Unable to load the **mgmtDBs.ncf** file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重要

説明: インストールプログラムが、インストール後に Sybase を起動できません。

解決法: mgmtDBs.ncf ファイルを手動でロードするには、NetWare のコンソールプロンプトで「**sys:\system\mgmtDBs.ncf**」と入力します。

831: Unable to add the **mgmtDBs.ncf** entry in the *filename* on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

可能な起因: 他のアプリケーションが autoexec.ncf ファイルをロックしているか、autoexec.ncf ファイルが存在しません。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:\system ディレクトリに autoexec.ncf ファイルを作成します。

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```

;ZENworks Database Settings
sys:\system\mgmtDBs.ncf

```

836: The installation program creates a new **mgmtDBs.ncf** file. The installation program was unable to rename the existing **mgmtDBs.ncf** file on the server *server_name*. Rename **mgmtDBs.ncf** before proceeding with the installation

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、mgmtDBs.ncf ファイルに変更を加える前に、このファイルのバックアップを試みます。このエラーは、バックアップに失敗した場合に発生します。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「**NetWare および Windows へのインストール**」を参照してください。

837: Unable to create the TracerMedia property file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、tracermedia.properties ファイルを *Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties* ディレクトリに作成します。このエラーは、インストールプログラムがこのファイルの作成に失敗した場合に発生します。

可能な起因： tracemedia.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の内容で *Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties* ディレクトリに tracermedia.properties ファイルを作成します。
com.novell.utility.trace.TraceMediumConsole = ON; INFORMATION
com.novell.utility.trace.TraceMediumFile = ON; ALL; *Inventory_server_logs_path*
com.novell.utility.trace.TraceMediumWindow = OFF; VERBOSE

874: Unable to create the Service Manager as a service on Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、Windows インベントリサーバ上のサービスとして Service Manager を作成しますこのエラーは、このインストールに失敗した場合に発生します。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

875: Unable to get the path for the shared directory where database is installed on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。詳細については、31 ページの「インストールユーザの権利」を参照してください。

876: Unable to create the Sybase service on the Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

887: An internal error occurred while creating the database object *object_name* on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、Sybase のデータベースオブジェクトを作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。このエラーは、インストールプログラムがこのオブジェクトを作成できない場合に発生します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1051: Unable to write the JRE path to *javadir.bat* on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_directory*\zenworks\server\wminv\bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

このエラーは、指定した内容でインストールプログラムが javadir.bat ファイルを作成できなかった場合に発生します。

解決法： javadir.bat ファイルを次のエントリで

Inventory_server_installation_directory\zenworks\server\wminv\bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

1052: Unable to create the *filename* file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、javadir.bat ファイルを次のエントリで *Inventory_server_installation_path*\zenworks\server\wminv\bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=absolute_path_of_sys_share\ZENWORKS\JRE\1.3
```

このエラーは、インストールプログラムが javadir.bat を作成できない場合に発生します。

可能な起因： javadir.bat ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： javadir.bat ファイルを次のエントリで

Inventory_server_installation_path\zenworks\server\wminv\bin ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

1053: 共有 *share_name* のパスをサーバ *server_name* 上で取得できません

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Server Inventory、インベントリデータベース、またはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： コンポーネントがインストールされているパスの取得中にエラーが発生しました。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

1060: Unable to add the STOPSER * entry in the *filename* file for the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、invstop.ncf ファイルにエントリを追加して Inventory Service を停止することができませんでした。

可能な起因： invstop.ncf ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

1 (条件付き) invstop.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:¥system ディレクトリに invstop.ncf ファイルを作成します。

2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
; ZENworks Inventory Settings
;-----Stop Inventory services and the Inventory database-----
StopSer *
```

重要： invstop.ncf ファイルがすでに存在する場合は、データベースエントリ unload dbsrv8.nlm の前に指定のエントリを追加します。

1061: Unable to add the UNLOAD DBSRV8.NLM entry in the sys:¥system¥invstop.ncf on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、invstop.ncf にエントリを追加して Sybase データベースを停止することができません。

可能な起因： invstop.ncf ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： sys:¥system¥invstop.ncf ファイルに次のエントリを追加します。

```
;ZENworks Database Settings
Unload dbsrv8.nlm
```

1066: Unable to assign public rights to ODBC parameters of the Database object *database_object_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 警告

説明: データベースオブジェクトの設定中に内部エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [NDS Rights]、[Trustees of this object]、[Add Trustees] の順にクリックします。
- 3 [Public] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [プロパティの追加] > [zendbODBCConnectionParameters] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [プロパティの追加] > [zendbODBCDriverFileName] > [OK] の順にクリックします。
- 6 [プロパティの追加] > [zendbODBCDataSourceName] > [OK] の順にクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [Apply] > [Close] の順にクリックします。

1071: Input-output error occurred while modifying the existing *mgmtDBs.ncf* for the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムが、既存の *mgmtDBs.ncf* ファイルを変更できません。

可能な起因: 既存の *mgmtDBs.ncf* ファイルを変更しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1080: Unable to create Inventory Service object for the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムが、サーバの Inventory Service オブジェクトを作成できません。

解決法: インベントリサーバを再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1081: Unable to assign supervisor privileges to the Service object *service_object_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムが、スーパーバイザ権利によるそれ自体へのエントリ権限を Inventory Service オブジェクトに割り当てることができません。

解決法: 次の手順を実行して、Inventory Service オブジェクトにスーパーバイザ権を割り当てます。

- 1 ConsoleOne で Inventory Service オブジェクトを右クリックし、[Trustees of this Object] をクリックします。
- 2 [Add Trustee] ボタンをクリックし、[Inventory Service] オブジェクトを選択します。
- 3 [Property] リストから [Entry Rights] を選択します。
- 4 [Rights] リストの [Supervisor] チェックボックスをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

1082: Unable to assign Inventory Service object as trustee of the NCP server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: Inventory Service オブジェクトは、[All Attribute Rights] の読み取りおよび比較権限を持つ、NCP サーバのトラスティに設定されています。

解決法: Inventory Service オブジェクトを NCP サーバのトラスティとして割り当てます。

- 1 ConsoleOne で NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[Trustees of this Object] をクリックします。
- 2 [Add Trustee] ボタンを追加します。
- 3 Inventory Service オブジェクトを選択します。
- 4 [Property] リストから [All Attributes Rights] を選択します。
- 5 [Rights] リストの [Read] および [Compare] チェックボックスをクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

1084: Unable to initialize zwininst.dll

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

解決法: Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1087: Unable to detect the operating system of the workstation where install is running

ソース: ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: ZENworks 6.5 Server Management インストールプログラムで、インストールプログラムが実行されているワークステーションのオペレーティングシステムを検出できません。

解決法: 40 ページの「[インストール固有のコンピュータの要件](#)」で示された要件を満たすワークステーションを使用していることを確認します。

解決法: Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1088: An internal error occurred while checking for entry in file *filename* on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

解決法: Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1089: Unable to get LDAP port number for the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリを
Inventoryserver_installation_directory\zenworks\inv\server\wminv\properties\config.properties ファイルに追加します。

`LDAPPort=LDAP_port_number`

このエラーは、インストールプログラムが LDAP ポート番号を取得できない場合に発生します。

解決法: 次の手順を実行します。

1 LDAP ポート番号をメモします。

1a ConsoleOne で、NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。

1b [Other] タブをクリックします。

1c [Attributes] リストの [LDAP Server] を右クリックし、LDAP サーバオブジェクトの値を読み取ります。

1d [Cancel] をクリックします。

1e ConsoleOne で、LDAP サーバオブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。

1 If [General] タブの [LDAP Server General] オプションをクリックします。

インストール中に SSL の設定を選択した場合、LDAP ポート番号は SSL ポートの値に、設定を選択しなかった場合は TCP ポートの値になります。

2 LDAP ポート番号を

Inventoryserver_installation_directory¥zenworks¥inv¥server¥wminv¥properties¥config.properties ファイルに手動で追加します。

1091: Unable to create the zwsenv.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、zwsenv.ncf ファイルを次のエントリで zws ディレクトリに作成します。

`envset zwsinstallpath=ZWS_installation_path`

このエラーは、インストールプログラムが zwsenv.ncf ファイルを zws ディレクトリに作成できなかった場合に発生します。

解決法： 次の手順を実行します。

1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、

`sys:¥system¥zenworks.properties` ファイル内の ZWSPath キーの値をメモします。

2 zwsenv.ncf ファイルを次のエントリで ZWS ディレクトリに作成します。

`envset zwsinstallpath=ZWS_installation_path`

1092: Unable to append entries to the zwssrv.cfg file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリを

zenworks_web_server_installation_directory¥bin¥zwssrv.cfg ファイルに追加します。

`Computer=Windows_machine_name`

`CLASSPATH=ZWS_installation_directory¥ZenWebServer.jar;`

`ZWS_installation_directory¥xmlrpcext.jar;`

`ZWS_installation_directory¥xmlrpcservlet.jar;`

`ZWS_installation_directory¥jcert.jar;`

`ZWS_installation_directory¥jnet.jar;`

`ZWS_installation_directory¥jdom.jar;`

`ZWS_installation_directory¥jsse.jar;`

`ZWS_installation_directory¥xmlrpc.jar;`

`ZWS_installation_directory¥servlet.jar;`

`ZWS_installation_directory¥xerces.jar;`

`BinDirectory=ZWS_installation_directory¥bin`

`WorkingDirectory=ZWS_installation_directory¥bin`

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリの追加に失敗した場合に発生します。

可能な起因： ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

1 ZENworks Web Server のインストールパスをメモします。

1a REGEDIT を起動します。

1b HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELLY\ZENWORKS で、ZWSPath 属性の値を読み取ります。

2 zenworks_web_server_installation_directory\bin\zwssrv.cfg に次のエントリを追加します。

```
Computer=Windows_machine_name
CLASSPATH=ZWS_installation_directory\ZenWebServer.jar;
ZWS_installation_directory\xmlrpcext.jar;
ZWS_installation_directory\xmlpcservlet.jar;
ZWS_installation_directory\jcert.jar;
ZWS_installation_directory\jnet.jar;
ZWS_installation_directory\jdom.jar;
ZWS_installation_directory\jsse.jar;
ZWS_installation_directory\xmlrpc.jar;
ZWS_installation_directory\servlet.jar;
ZWS_installation_directory\xerces.jar;
BinDirectory=ZWS_installation_directory\bin
WorkingDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

1093: Unable to append entries to the zws.properties file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが zws.properties ファイルを編集できません。

可能な起因： zws.properties ファイルにエントリを追加しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： Server Inventory を再インストールします。 詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1094: Unable to modify Inventory Service object for the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、既存の Inventory Service オブジェクトを変更できません。

解決法： Server Inventory を再インストールします。 詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1095: Unable to create the invenvset.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、 invenvset.ncf ファイルを次の内容で Netware インベントリサーバの sys:\$system ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir= Inventory_server_installation_path
```

```
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

解決法： 次の手順を実行します。

1 インベントリサーバのインストールパスを取得するには、
sys:\$system\$zenworks.properties ファイル内の InvSrvpath キーの値を読み取ります。

2 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、
sys:\$system\$zenworks.properties ファイル内の ZWSPath キーの値を読み取ります。

3 invenvset.ncf ファイルを次のエントリで sys:\$system ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir= Inventory_server_installation_path
```

```
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

1097: Unable to modify mgmt dbs.ncf on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： mgmt dbs.ncf を編集しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。 詳細については、 [61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、 [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1098: Unable to create mgmt dbs.ncf on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： mgmt dbs.ncf ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。 詳細については、 [61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、 [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

1102: Unable to set the Inventory installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： インストールプログラムが、 レジストリでインベントリサーバのインストールパスを更新できませんでした。

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1104: Unable to set the ZENworks Web Server installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： インストールプログラムが、レジストリで ZENworks Web Server のインストールパスを更新できません。

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1105: An input-output error occurred while reading the zenworks.properties file, for the server *server_name*. The previous installations of the Inventory server could not be detected

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 情報

説明： インストールプログラムは、sys:¥system¥zenworks.properties ファイルを読み取つて、インベントリが以前にインストールされているかどうかを検出します。

解決法： 必要な操作はありません。

1106: Unable to detect a valid database installation on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 情報

可能な起因： レジストリからデータベースエンジンの場所を検出できません。

解決法： 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

1107: The installation path for Inventory components on server *server_name* is invalid

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1118: Unable to create query.properties on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 Server Management のインストールプログラムは、query.properties ファイルをエントリ insver=zfs で *ConsoleOne_installation_path*\bin に作成します。 Server Inventory が ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory コンポーネント上にインストールされている場合、insver の値は「both」に変わります。

可能な起因： query.properties ファイルを作成または更新しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： query.properties ファイルがすでに存在する場合は、insver の値が正しいことを確認します。

解決法： query.properties ファイルが存在しない場合は、query.properties ファイルを次の内容で *ConsoleOne_installation_path*\bin ディレクトリに手動で作成します。

- ◆ Server Inventory を新規のセットアップでインストールする場合は、「insver=zfs」と入力します。
- ◆ Server Inventory を ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory コンポーネント上にインストールする場合は、「insver=both」と入力します。

1121: Unable to rename the database object *old_database_object_name* to *new_database_object_name*, on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントを ZENworks for Servers 3.x 上にインストールする場合は、インストールプログラムが ZENworks for Servers 3.x データベースオブジェクトの名前を *server_name*_invDatabase に変更します。このエラーは、インストールプログラムがデータベースの名前を変更できない場合に発生します。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1122: Unable to modify the database object on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、サーバ上の既存のデータベースオブジェクトを変更できません。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1123: Failed to update load and unload scripts on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

説明: インストールプログラムは、NetWare クラスタサーバ用にロードスクリプトおよびアンロードスクリプトにエントリを追加します。このエラーは、インストールプログラムがこうしたスクリプトにエントリを追加できない場合に発生します。

解決法: インストール中に、インベントリサーバまたはデータベースのインストールを選択した場合、選択したコンポーネントを再インストールします。インベントリサーバとデータベースの両方のインストールを選択した場合、両方のコンポーネントを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

1124: Unable to remove old Inventory entries from the autoexec.ncf file on server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重要

説明: インストールプログラムは、次のエントリをサーバ上の sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルから削除します。sybase.ncf、mgmtDBs.ncf、gatherer.ncf、master.ncf、および storer.ncf です。

このエラーは、インストールプログラムが指定のエントリを削除できない場合に発生します。

解決法: 次のエントリを autoexec.ncf から手動で削除します。sybase.ncf、mgmtDBs.ncf、gatherer.ncf、master.ncf、および storer.ncf です。

1125: Unable to create the database object *database_object_name* on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重大

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1128: Unable to add the Zenworks Web Server entry in file *filename*, on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度: 重要

説明: インストールプログラムは、sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルにエントリを追加して、ZENworks Web Server を起動することができませんでした。

解決法: sys:¥system¥autoexec.ncf ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zenworks_web_server_installation_path
zenworks_installation_volume¥zenworks¥zfs.ncf
```

1129: Unable to set the ZENworks installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、レジストリに ZENworks のパスを設定できませんでした。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1130: Unable to set the database engine installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1131: Unable to set the Inventory database installation path on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、レジストリにインベントリデータベースのインストールパスを設定できません。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1133: Unable to configure SSL on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、SSL(Secure Socket Layer) を設定できません。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1135: The install path for XML Proxy components on server *server_name* is invalid

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、XML Proxy Service をインストールする有効なパスを取得できませんでした。

解決法： XML Proxy Service を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1137: Unable to add Inventory entries to the load script on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、ロードスクリプトでデータベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
invclst:¥zenworks¥zfs.ncf
SEARCH ADD SYS:¥JAVA¥NJCLV2¥BIN
;ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトで、データベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
invclst:¥zenworks¥zfs.ncf
SEARCH ADD SYS:¥JAVA¥NJCLV2¥BIN
;ZENworks Inventory Settings
StartInv.ncf
```

1138: Unable to add Inventory entries to the unload script on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、アンロードスクリプトの del secondary ipaddress 行の前に次のエントリを追加します。

```
java -killzenWSInv
delay 8
java -killzfsexit
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリ（存在する場合）の後、および "del secondary ipaddress" エントリの前に追加します。

```
java -killzenWSInv
delay 8
java -killzfsexit
```

1139: Unable to add database entries to the load script on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
;ZENworks Database Settings  
sys:¥system¥mgmt dbs.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトで、インベントリエントリの前に次のエントリを追加します。

```
;ZENworks Database Settings  
sys:¥system¥mgmt dbs.ncf
```

1140: Unable to add database entries to the unload script on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリの後、および"del secondary ipaddress" エントリの前に追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

1143: Unable to retrieve the path where Inventory was installed for server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重要

説明： ZENworks 6.5 Server Management インストールプログラムが、ZENworks の以前のバージョンがインストールされているパスを検出できません。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1148: Unable to create ZENworks Web Server as a service on Windows NT/2000 server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1149: Unable to add the ZENworks Web Server path to invenvset.bat on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、invenvset.bat ファイルを次のエントリで
Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\bin ディレクトリ
に作成します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

このエラーは、インストールプログラムが ZENworks Web Server のインストールパスを
レジストリから取得できない場合に発生します。

解決法： invenvset.bat ファイルに次のエントリを手動で追加します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには

1 REGEDIT を起動します。

2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS で、ZWSPath 属性の値を読み取ります。

1150: Unable to add ZENworks Web Server entry to the load script on *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
invclst:\zenworks\zfs.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプト
に追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
```

```
invclst:\zenworks\zfs.ncf
```

1151: Unable to add ZENworks Web Server entry to the unload script on *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。

```
java -killzfsexit
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリ
プトに追加できない場合に発生します。

解決法： 指定のエントリを、アンロードスクリプトのエントリ del secondary ipaddress の前に
追加します。

1153: Unable to add Inventory entries to the password.txt file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server
Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリで ZENworks Web Server のインストールディレクトリに password.txt ファイルを作成します。

```
inventory=novell
```

可能な起因： password.txt ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) password.txt が存在しない場合は、ZENworks Web Server インストールディレクトリに作成します。

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
inventory=novell
```

1154: Unable to add the password.txt file path entry to zws.properties file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリを ZENworks_Web_Server_installation_directory\zws.properties ファイルに追加します。

```
passwordFile=path_of_password.txt
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリで zws.properties ファイルを作成できなかつた場合に発生します。

可能な起因： zws.properties ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) zws.properties が存在しない場合は、ZENworks Web Server インストールディレクトリに作成します。

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
passwordFile=path_of_password.txt
```

1156: Unable to add the SSL entry to *filename* file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストール時に SSL の設定を選択した場合、インストールプログラムは、 directory.properties ファイルに次のエントリを追加します。

```
ssl=true
```

SSL の設定を選択しなかつた場合は、次のエントリが directory.properties ファイルに追加されます。

```
ssl = false
```

このエラーは、インストールプログラムが directory.properties ファイルに適切なエントリを追加できなかつた場合に発生します。

可能な起因： directory.properties ファイルに適切なエントリを追加するときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 適切なエントリを
inventory_installation_volume\zenworks\inv\server\wminv\properties\directory.properties ファイルに追加します。

1157: Unable to modify the LDAP Allow Clear Text Password attribute of the LDAP Group object of the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、Server Inventory のインストール中に SSL 設定オプションを選択したかどうかに基づいて、LDAP グループオブジェクトの LDAP Clear Text Password 属性を true または false に設定します。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 ConsoleOne で、[LDAP Server] オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 2 [General] タブで [LDAP Group General] をクリックし、[LDAP Group] フィールドの値を読み取ります。
- 3 [Cancel] をクリックします。
- 4 ConsoleOne で、[LDAP Group] オブジェクトを右クリックし、[Properties] をクリックします。
- 5 [General] タブの [LDAP Group General] オプションをクリックします。

インストール中に SSL の設定を選択した場合、[Allow Clear Text Passwords] オプションを選択します。

1159: *entry* エントリをファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) に追加できません

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： zfs.ncf、ted.ncf、zfssrv.cfg、またはtedsrv.cfg ファイルの classpath を変更しているときにエラーが発生しました。

解決法： 次の操作を行います。

◆ NetWare の場合：

◆ エラーが zfs.ncf ファイルで発生した場合は、
pds_installation_directory\smanager\zfs.ncf ファイルを編集して、ENVSET セクションの最後に次の行を追加します。

```
envset
smclasses=$smclasses;zws_installation_directory\zenwebserverres.jar
envset smclasses=$smclasses
zws_installation_directory\xmlrpcextres.jar
```

- エラーが ted.ncf ファイルで発生した場合は、
`pds_installation_directory\$ted\$ted.ncf` ファイルを編集して、envset セクションの最後に次の行を追加します。

```
envset
  tedpath=$tedpath;zws_installation_directory\$zenwebserverres.jar;
envset
  smclasses=$smclasses;zws_installation_directory\$xmlrpcextres.jar
```

注： Pds_installation_directory は、 sys:system\\$zenworks.properties ファイル内の PDSPATH サブキーの値です。 zws_installation_directory は、 sys:\\$system\\$zenworks.properties ファイル内の zwspath の値です。

- Windows で、エラーが zfssrv.cfg ファイルまたは tedsrv.cfg ファイルで発生した場合は、
`pds_installation_directory\$bin\$zfssrv.cfg` ファイルおよび
`pds_installation_directory\$bin\$tedsrv.cfg` ファイルを編集して、各ファイルの最後に次の行を追加します。

```
classpath=%classpath%;zws_installation_directory\$xmlrpcextres.jar;zws_installation_directory\$zenwebserverres.jar
```

注： Pds_installation_directory は、 hkey_local_machine\\$software\\$novell\\$zenworks の下の pdspath サブキーの値です。 zws_installation_directory は、 hkey_local_machine\\$software\\$novell\\$zenworks の下の zwspath サブキーの値です。

1160: Unable to replace *entry1* with *entry2*, in the file *filename*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Proxy Service のインストール

問題の重要度： 重大

説明： Proxy Service の再インストール時に、インストールプログラムは zws.properties ファイル内のプロキシポート値を新しい値に置換します。このエラーは、インストールプログラムがプロキシポート値を新しい値に置換できない場合に発生します。

解決法： `ZWS_installation_directory\$zws.properties` ファイルに、プロキシポートの新しい値を手動で入力します。

1161: サーバ *server_name* でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが検出されました。インストールでは Inventory Service を自動的に開始できません。ポリシーサービスと配布サービスを開始した後、Inventory Service を開始してください

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバおよび Windows サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度： 情報

説明： ZENworks 6.5 のインストール時に Standalone Preconfiguration を選択した場合、インストールプログラムはスタンドアロンサーバの設定を行い、Inventory Service および ZENworks Web サーバサービスを自動的に起動します。ただし、ZENworks 6.5 Server Management のポリシーサービスと配布サービスがすでにインストールされている場合、ZENworks 6.5 インストールプログラムは Inventory Service および ZENworks Web サーバサービスを自動的に起動しません。

解決法： Inventory Service を起動する前に、ポリシーサービスと配布サービスを手動で起動する必要があります。ポリシーサービスと配布サービスの起動方法に関する詳細については、 [ZENworks 6.5 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks) を参照してください。

1162: サーバ *server_name* でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください

ソース: ZENworks Server Management; NetWare サーバおよびWindows サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重大

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムは、ZWS サービスを起動する前に、zenworks.properties ファイルで ZWS のパスを検索します。このエラーは、インストールプログラムがこのパスを見つけることができないときに発生します。

解決法: Server Inventory を再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

1163: Unable to start the ZENworks Web Server on server *server_name*. 詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

ソース: ZENworks Server Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重大

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks Web サーバサービスを起動できませんでした。

解決法: サーバ上の sys:¥system¥zws.ncf ファイルを手動で実行します。

1164: サーバ *server_name* で Inventory Service を開始できません。 詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください

ソース: ZENworks Server Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重要

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムが Inventory Service を起動できませんでした。

解決法: サーバ上の sys:¥system¥startinv.ncf ファイルを手動で実行します。

1166: Unable to create zwssearch.ncf file on the server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

問題の重要度: 重要

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムは、sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルをエントリ SEARCH ADD ZENworks_Web_server_installation path. でサーバ上に作成します。

解決法: サーバ上に sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを手動で作成します。

1167: Unable to add a search path to the ZENworks Web Server on server *server_name*

ソース: ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Server Inventory またはプロキシサービスのインストール

問題の重要度: 重要

説明: ZENworks 6.5 のインストールプログラムが、サーバ上の sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを起動できません。

解決法: サーバ上の sys:¥system¥zwssearch.ncf ファイルを手動で実行します。これにより、ZENworks Web サーバに検索パスが自動的に追加されます。

1168: サーバ *server_name* 上のレジストリにバージョン情報を書き込めません

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 のインストールプログラムが、レジストリにバージョン情報を書き込めませんでした。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1169: ファイル *filename* (サーバ *server_name* 上) から以前のインベントリエントリを削除できません

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Sybase インベントリデータベース のインストール

問題の重要度： 重要

説明： ZENworks for Servers 3.x から ZENworks 6.5 Server Management にアップグレードする場合は、ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks for Servers 3.x インベントリのエントリを削除します。

このエラーは、ZENworks 6.5 のインストールプログラムが ZENworks for Servers 3.x インベントリのエントリを削除できない場合に発生します。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： ZENworks 6.5 インストールプログラムが、バージョン情報およびインストールパスを zenworks.properties ファイルに書き込めませんでした。

解決法： Server Inventory を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

1171: Unable to add the ZENworks Web Server entries to the file *filename*, on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよびWindows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： このエラーは、インストールプログラムが NetWare および Windows 用の invenv.ncf ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

可能な起因： ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の操作を行います。

NetWare で、次のエントリが `invenv.ncf` ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
envset tmppath=$tmppath;$zws_install_dir\xmlpcextRes.jar
```

Windows で、次のエントリが `inventory_install_path\wminv\bin\invenv.bat` ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
tmppath=%tmppath%;%zws_install_dir%\xmlpcextRes.jar
```

2701: Unable to create the `zwsstart.ncf` file on the server `server_name`

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Server Inventory またはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムは、ZENworks Web サーバを起動するために `sys:\system\zwsstart.ncf` ファイルを作成します。このエラーは、インストールプログラムが `zwsstart.ncf` ファイルを作成できないときに発生します。

可能な起因： `zwsstart.ncf` ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、
`sys:\system\zenworks.properties` ファイル内の `ZWSPPath` キーの値をメモします。

- 2 (条件付き) `zwsstart.ncf` が存在しない場合は、`sys:\system` ディレクトリに `zwsstart.ncf` ファイルを作成します。

- 3 ファイルに次のエントリを追加します。

`ZENworks_Web_Server_installation_path\zwsenv.ncf`

`ZENworks_Web_Server_installation_path\zws\zws.ncf`

2702: Unable to remove the entries from the load script on the server `server_name`

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Server Inventory データベースまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： ZENworks 6.5 Server Management を ZENworks for Servers または ZENworks for Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

2703: Unable to remove the entries from the unload script on server `server_name`

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバでの Server Inventory データベースまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： ZENworks 6.5 Server Management を ZENworks for Servers または ZENworks for Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法： ConsoleOne を使用して、Unload スクリプトからエントリ dbsrv8.nlm を削除します。

2704: Unable to append entries to zfs.ncf file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベントリ サーバまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重大

説明： このエラーは、ZENworks 6.5 Server Management インストールが ZEN ローダエントリを zfs.ncf に追加できないときに発生します。

可能な起因： zfs.ncf を修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： ZENworks 6.5 Server Management の Inventory サーバコンポーネント、および Inventory Proxy サーバコンポーネント (XML Proxy) を再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

2707: Unable to create dbconfig.properties file on the server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベントリ サーバまたはプロキシサービスのインストール

問題の重要度： 重要

説明： このエラーは、インストールプログラムが invenv.ncf ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

可能な起因： ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： invconfig.properties ファイルが
Inventory_database_volume\zenworks\database\inventory にあることを確認します。
ファイルがない場合は、次のエントリで手動で作成します。
DBObjectDN=DN of the inventory database object in eDirectory

2708: Unable to assign rights to the directory *directory_name* on server *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムで scandir ディレクトリまたは dictdir ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

可能な起因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。[31 ページの「インストールユーザの権利」](#)を参照してください。

可能な起因： インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法： Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。[40 ページの「インストール固有のコンピュータの要件」](#)を参照してください。

解決法： ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法： 次の操作を行います。

1 Inventory Service を停止します。

2 scandir ディレクトリまたは dictdir ディレクトリに権限を割り当てます。

- ◆ Scandir: *inventory_installation_drive*\zenworks\inv\scandir ディレクトリを "ScanDir" として共有し、作成権をすべてのユーザに割り当てます。

- ◆ Dictdir: *inventory_installation_drive*\zenworks\inv\dictdir ディレクトリを "DictDir" として共有し、フルアクセス権をすべてのユーザに割り当てます。

3 Inventory Service を起動します。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Error(s) occurred while installing the Inventory Agent on *server_name*. Reinstall the Inventory Agent

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Inventory Agent のインストール

問題の重要度： 重大

説明： このエラーは、インストールプログラムが、選択したサーバに Inventory Agent をインストールできない場合に発生します。

解決法： ターゲットコンピュータに Subscriber がインストールされていることを確認します。Subscriber がインストールされていない場合は、Subscriber をインストールしてから Inventory Agent を再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

可能な起因： Inventory Agent ファイルのコピー先として指定したディレクトリが、他のプロセスによってロックされています。

解決法： ロックを解除し、Inventory Agent を再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

解決法： エラーログファイルのエラーコードをチェックして、エラーの詳しい説明を参照してください。

Error(s) occurred while installing the Inventory ConsoleOne components on *server_name*. Reinstall the Inventory ConsoleOne components

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： ConsoleOne バージョン 1.3.6 がターゲットサーバにインストールされていることを確認します。詳細については、[42 ページの「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」](#)を参照してください。

解決法： NetWare クラスタサーバにインストール中の場合は、クラスタサーバのすべてのノードが適切に設定されていることを確認します。

可能な起因： Inventory Agent ファイルのコピー先として指定したディレクトリが、他のプロセスによってロックされています。

解決法： ディレクトリのロックを解除し、Inventory ConsoleOne コンポーネントを再インストールします。

解決法： エラーログファイルのエラーコードをチェックして、エラーの詳しい説明を参照してください。

Error(s) occurred while installing the Inventory database on *server_name*. Reinstall the Inventory database

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： Windows サーバに ZENworks Server Management の Server Inventory をインストール中、 Sybase データベースがシャットダウンされません。

解決法： Sybase を終了し、インベントリデータベースを再インストールします。

可能な起因： 他のプロセスがターゲットディレクトリをロックしています。

解決法： ロックを解除し、インベントリデータベースを再インストールします。インベントリデータベースの再インストール方法の詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

解決法： NetWare クラスタサーバにインストール中の場合は、クラスタサーバのすべてのノードが適切に設定されていることを確認します。

解決法： エラーログファイルのエラーコードをチェックして、エラーの詳しい説明を参照してください。

Error(s) occurred while installing the Inventory server on *server_name*. Reinstall Inventory server

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： NetWare クラスタサーバにインストール中の場合は、クラスタサーバのすべてのノードが適切に設定されていることを確認します。

解決法： 再インストール中にこのメッセージが表示される場合、再インストール時に Inventory Service が実行していないことを確認します。NetWare サーバに再インストールしている場合、JVM がアンロードされていることも確認します。

解決法： エラーログファイルのエラーコードをチェックして、エラーの詳しい説明を参照してください。

Error(s) occurred while installing the proxy server on *server_name*. Reinstall the Proxy server

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでのプロキシサーバのインストール

問題の重要度： 重大

解決法： プロキシサーバを再インストールします。詳細については、[61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#)を参照してください。

解決法： NetWare クラスタサーバにインストール中の場合は、クラスタサーバのすべてのノードが適切に設定されていることを確認します。

可能な起因： Proxy Service ファイルのコピー先として指定したディレクトリが、他のプロセスによってロックされています。

解決法： ディレクトリのロックを解除し、プロキシサービスを再インストールします。プロキシサービスの再インストール方法の詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： エラーログファイルのエラーコードをチェックして、エラーの詳しい説明を参照してください。

Some of the Inventory Agent or Inventory Server files are locked during copying files to *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 他のアプリケーションがファイルをロックしているか、使用しています。

解決法： ファイルのロックを解除し、Server Inventory コンポーネントを再インストールします。Server Inventory コンポーネントの再インストール方法については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

説明： 問題が解決しない場合は、サーバを再起動して、Server Inventory コンポーネントを再インストールします。Server Inventory コンポーネントの再インストール方法については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Unable to copy the file *filename*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 他のアプリケーションがファイルをロックしているか、使用しています。

解決法： 実行中のすべてのプログラムを終了し、Server Inventory を再インストールします。Server Inventory コンポーネントの再インストール方法については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、サーバを再起動します。

Unable to find zfssrv.cfg on *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Inventory Agent のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 指定したサーバでの Policy and Distribution Services のインストールに失敗しました。

解決法： Policy and Distribution Services と Server Inventory コンポーネントを再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Unable to get the install response filename. Install will now exit

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： 次の手順を実行します。

1 Windows の ¥temp ディレクトリからすべてのファイルを削除します。

2 実行中のすべてのプログラムを終了します。

3 Server Inventory を再インストールします。 詳細については、 [61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#) を参照してください。

Unable to load the DLL *DLL_name*. The install will exit now

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、指定された DLL をロードできません。

解決法： 次の手順を実行します。

1 Windows の ¥temp ディレクトリからすべてのファイルを削除します。

2 ワークステーションを再起動します。

3 Server Inventory を再インストールします。 詳細については、 [61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」](#) を参照してください。

解決法： 指定された DLL が、 *ZENworks 6.5 Server Management Program* CD の ¥zfs¥rminv¥libs¥dll ディレクトリに存在することを確認します。 ファイルが存在しない場合、 [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

インストール先パスが長すぎます。

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバおよび Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： インストールパスに指定する文字が 169 文字を超えないようにします。

share_name 共有を *server_name* (*directory_path*) に作成できません

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Server Inventory のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 共有を作成するコンピュータにアクセスできません。

解決法： そのコンピュータにアクセスできることを確認します。 Ping を実行して、 コンピュータの接続状態を確認します。

解決法： Windows エクスプローラを使用して、そのコンピュータ上の他の共有へのアクセスを試みます。

Remote Management のインストールエラー

次の節では、Remote Management のインストール中に表示される可能性のあるエラーメッセージについて詳しく説明します。

Error(s) occurred while installing the Remote Management Agent on *server_name*. Reinstall the Remote Management Agent.
Some of the Remote Management files are locked during copying files to *server_name*
Unable to copy the file *filename*
Unable to create the password file on *server_name*. You must manually set the password on the server. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>
Unable to create the Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>
Unable to find *zfssrv.cfg* on *server_name*
Unable to get the install response filename. Install will now exit
Unable to load the DLL *DLL_name*. The install will exit now
Unable to start the Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>
Unable to stop the ZENworks for Servers 2 Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>
Unable to stop the ZfS 3 Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

Error(s) occurred while installing the Remote Management Agent on *server_name*. Reinstall the Remote Management Agent.

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： NetWare クラスタサーバにインストール中の場合は、クラスタサーバのすべてのノードが適切に設定されていることを確認します。

可能な起因： Remote Management Agent ファイルのコピー先として指定したディレクトリが、他のプロセスによってロックされています。

解決法： ディレクトリのロックを解除し、Remote Management Agent を再インストールします。 詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Some of the Remote Management files are locked during copying files to *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 情報

説明： インストール中、Windows の ¥system ディレクトリに含まれる一部の Remote Management ファイルがロックされています。これは致命的なエラーではありません。 インストールプログラムは、ロックされたファイルをターゲットサーバのレジストリに登録し、ロックされたファイルを上書きするための参照用として新しいファイルを保持します。

解決法： サーバを再起動します。

Unable to copy the file *filename*

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 他のアプリケーションがファイルをロックしているか、使用しています。

解決法： 実行中のすべてのプログラムを終了し、Remote Management を再インストールします。 詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、サーバを再起動します。

Unable to create the password file on *server_name*. You must manually set the password on the server. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 管理対象サーバで、パスワードファイルが使用中です。

解決法： Remote Management をインストールした後、管理対象サーバで手動でパスワードを設定します。

管理対象サーバでパスワードを設定するには

- 1 [Remote Management Agent] アイコンを右クリックします。
- 2 [Set Password] をクリックします。
- 3 パスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

Unable to create the Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： Novell ZFS Remote Management サービスが使用できない状態にあります。

解決法： 管理対象サーバを再起動し、Remote Management コンポーネントを再インストールします。 詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Unable to find zfssrv.cfg on *server_name*

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 指定したサーバでの Policy and Distribution Services のインストールに失敗しました。

解決法： Policy and Distribution Services を再インストールしてから、Remote Management を再インストールします。 詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Unable to get the install response filename. Install will now exit

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 Windows の ¥temp ディレクトリからすべてのファイルを削除します。
- 2 実行中のすべてのプログラムを終了します。
- 3 Remote Management を再インストールします。 詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

Unable to load the DLL *DLL_name*. The install will exit now

ソース： ZENworks Server Management: NetWare サーバまたは Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

説明： インストールプログラムが、指定された DLL をロードできません。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 Windows の ¥temp ディレクトリからすべてのファイルを削除します。
- 2 ワークステーションを再起動します。
- 3 Remote Management を再インストールします。 詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

解決法： 指定された DLL が、ZENworks 6.5 Server Management Program CD の ¥zfs¥rminv¥libs¥d11 ディレクトリに存在することを確認します。 ファイルが存在しない場合、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

Unable to start the Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 管理対象サーバ上にある 1 つ以上の Remote Management ファイルが破損しているか、ファイルが存在しません。

解決法： 管理対象サーバを再起動し、Remote Management コンポーネントを再インストールします。 詳細については、61 ページの「[NetWare および Windows へのインストール](#)」を参照してください。

Unable to stop the ZENworks for Servers 2 Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： ZENworks for Servers 2 の Remote Management サービスが、指定された時間内にサービスコントロールマネージャに応答しません。

解決法： 次の手順を実行します。

1 ZENworks for Servers 2 の Remote Management サービスを停止します。

Windows 2000 管理対象サーバの場合、コントロールパネルの [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックして、[ZfS 2 Remote Management service] を選択し、[停止] をクリックします。

2 ZENworks Server Management の Remote Management を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Unable to stop the ZfS 3 Remote Management service on *server_name*. For more information, see the online ZENworks error message documentation at <http://www.novell.com/documentation>

ソース： ZENworks Server Management: Windows サーバでの Remote Management のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： ZENworks 6.5 Remote Management サービスが、指定された時間内にサービスコントロールマネージャに応答しません。

解決法： 次の手順を実行します。

1 Remote Management サービスを停止します。

Windows 2000 管理対象サーバの場合、コントロールパネルから [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックして、[Novell ZFS Remote Management Agent] を選択し、[停止] をクリックします。

2 Remote Management を再インストールします。詳細については、61 ページの「NetWare および Windows へのインストール」を参照してください。

Management and Monitoring Services のインストールエラー

Management and Monitoring Services コンポーネントのインストールに失敗した場合、インストールプログラムにより、ログファイル (mwinssum.wri, instrace.txt, rbs.ini、および license.ini) にエラーメッセージが記録されます。インストールの最後に表示されるサマリファイルで、これらのログファイルの場所が指定されます。ログファイルは、お使いのコンピュータの ¥temp ディレクトリにも保存されます。

103: Specified document cannot be selected or deselected

108: Insufficient disk space

112: Specified file cannot be opened

113: Specified file cannot be opened as read-only

115: Specified file cannot be opened as write

136: Unable to allocate memory

103: Specified document cannot be selected or deselected

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 現在選択されているコンポーネントで必要とされるコンポーネントの選択または選択解除を実行するために ComponentSelectItem が呼び出されました。

解決法： Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

108: Insufficient disk space

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 対象にするディスクまたはディレクトリに充分な空き容量が存在しないか、TARGETDIRが無効のためディスク容量を確認できません。または、スクリプトにより定義されたコンポーネントディレクトリが設定されていません。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

112: Specified file cannot be opened

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： 指定したファイルまたは data1.cab (または、他のデータ CAB ファイルの 1 つ) 内のファイルが見つからないか、壊れています。または、未圧縮のデータファイルが CD で見つかりません。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

113: Specified file cannot be opened as read-only

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： ファイル data1.cab (または、他のデータ CAB ファイルの 1 つ) が見つからないか、壊れています。または、圧縮されていないデータファイルが CD で見つかりません。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

115: Specified file cannot be opened as write

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： Potentially Locked プロパティまたは Shared プロパティが Yes に設定されていないファイルグループに属している、ロックされたファイルを上書きしようとしました。

可能な起因： 16 ビットセットアップで、長いファイル名が設定されたファイルをインストールしようとしましたが、長いパス名が設定されたディレクトリにファイルをインストールしようとしました。

可能な起因： ターゲットディレクトリへのパスが無効です。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

136: Unable to allocate memory

ソース： ZENworks Server Management: Management and Monitoring Services のインストール

問題の重要度： 重大

可能な起因： セットアップに利用できるメモリ容量が不足しています。

解決法： 他のアプリケーションをすべて終了します。

解決法： セットアップをキャンセルし、システムを再起動してから、セットアップを再開します。

H

XMLRPC のライセンス契約

Novell® ZENworks® Server Management ソフトウェアで使用されているサードパーティ XMLRPC コードのライセンス契約は次のとおりです。

- ◆ 415 ページの「HELMA のライセンス」
- ◆ 416 ページの「John Wilson のライセンス」
- ◆ 416 ページの「Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス」

HELMA のライセンス

Copyright (c) 1999–2001, Hannes Wallnofer (hannes@helma.at).
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。

このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、Helma またはその貢献者の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、Hannes WALLNOFER から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。事由のいかんを問わず、損害発生の原因いかんを問わず、責任の根拠が契約であるか厳格責任であるか（過失その他の）不法行為であるかを問わず、HANNES WALLNOFER は、仮にそのような損害が発生する可能性を知らされていたとしても、このソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害のいずれに対しても（代替品またはサービスの提供、使用機会、データまたは利益の損失の補償、または業務の中止に対する補償を含め）責任をいつさい負いません。

John Wilson のライセンス

Copyright (c) 1999, John Wilson (tug@wilson.co.uk).
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。

このソフトウェアの機能や使用に言及するすべての広告材料には、次の告知を表示する必要があります。

この製品には、John Wilson が開発したソフトウェアが含まれています。このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、John Wilson の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、John Wilson から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。

John Wilson は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中断など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されても、責任を負わないものとします。

Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス

Copyright (C) 2001 Brett McLaughlin & Jason Hunter.
All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。
3. このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、「JDOM」の名称を、書面による事前の許可なく使用することはできません。書面による許可については、license@jdom.org にお問い合わせください。
4. JDOM Project Management (pm@jdom.org) からの書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生する製品を「JDOM」と呼ぶことや、その名称または名称の一部に「JDOM」を使用することはできません。

また、再配布物やソフトウェア自体に付属するエンドユーザドキュメントには、以下と同等の告知を含めることを要望します（ただし、必須ではありません）。

「この製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。」

テキストで告知する代わりに、ロゴを使用することもできます (<http://www.jdom.org/images/logos>)。

このソフトウェアは、「現状のまま」 提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。JDOMの作成者またはJDOM Projectの貢献者は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中止など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されていても、責任を負わないものとします。

このソフトウェアは多くの個人から JDOM Project のために自発的に提供された作品から構成されており、オリジナルは Brett McLaughlin <brett@jdom.org> および Jason Hunter <jhunter@jdom.org> によって作成されました。JDOM Project の詳細については、<<http://www.jdom.org/>> を参照してください。

Java 2 Runtime Environment のライセンス契約

Novell® ZENworks® Server Management ソフトウェアで使用されているサードパーティ JRE (Java 2 Runtime Environment) コードのライセンス契約は、以下のとおりです。

ソフトウェア配布のための使用許諾 本補足条項の第4条 (Java テクノロジーに関する制約事項) を含むが、この限りではない本契約の条項を条件として、Sun はお客様に対し、ソフトウェアを複製および配布する非独占的で譲渡不能な、制限された使用権を、以下の (i) から (vii) を条件として許諾します。 (i) ソフトウェアを完全な状態で修正せずに (該当する readme ファイルで別途特定されない限り)、お客様のプログラムを実行することを唯一の目的としてまたお客様のプログラムの一部としてバンドルされた状態でのみ頒布すること、 (ii) プログラムが重要かつ主要な機能をこのソフトウェアに追加すること、 (iii) このソフトウェアのコンポーネントを取り替えることを目的として追加的なソフトウェアを配布しないこと (該当する readme ファイルで別途特定されない限り)、 (iv) このソフトウェアに記載されているいかなる所有権に関するレジェンドまたは通知を削除または変更しないこと、 (v) 本契約に含まれる条項に従い、 Sun の利益を保護するライセンス契約に準拠してのみこのソフトウェアを配布すること、 (vi) プログラムおよびソフトウェアの一部またはすべての使用あるいは配布に起因した、第三者からのあらゆる請求、裁判、または訴訟に関連して生じるいかなる損害、経費、義務、調停の金額および / または費用 (弁護士費用を含む) から Sun およびその許諾者を保護および免責することに同意すること、 (vii) 製品文書 (ハードウェアコピーまたは電子文書を問わない) の一部として、または、著作権もしくは所有権告知ページの一部として、 "About" ボックスまたは、このソフトウェアのユーザに見えるように合理的にデザインされた形態で「本製品は RSA Security, Inc. からライセンス付与されたコードを含んでいます。」との一節を含めること、並びに (vii) 「IBM からライセンス付与されたものは <http://oss.software.ibm.com/icu4j/> にてご覧いただけます。」との一節を含めること。

J

UCD-SNMP および NET-SNMP のライセンス契約

Novell® ZENworks® Server Management で使用されているサードパーティ UCD-SNMP および NET-SNMP コードのライセンス契約は、以下のとおりです。

- ◆ 421 ページの「CMU/UCD の著作権に関する通知 (BSD)」
- ◆ 422 ページの「Networks Associates Technology, Inc の著作権に関する通知 (BSD)」
- ◆ 422 ページの「Cambridge Broadband Ltd. の著作権に関する通知 (BSD)」

CMU/UCD の著作権に関する通知 (BSD)

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

上記の著作権表示がすべての複製に表示され、その著作権表示と本許可告知がサポート文書に表示されており、CMU と The Regents of the University of California の名前が特定の事前の書面による許可なしで広告または配布に付属する発行物に使われない限りにおいて、目的にかかわらず、このソフトウェアおよび文書を、使用、複製、変更、配布することは無料で許可されます。

CMU および The Regents of the University of California は、商品性および適合性のすべての默示的な保証を含む、このソフトウェアに関する一切の保証を行いません。CMU および The Regents of the University of California は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用または実行により発生する、使用機会、データ、利益の損失から生じるいかなる特別被害、間接被害、結果的被害責任に対して、それが契約であるか、過失、または不法行為のいずれに基づくものであれ、責任を負わないものとします。

Networks Associates Technology, Inc の著作権に関する通知 (BSD)

Copyright (c) 2001-2002, Networks Associates Technology, Inc

All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ◆ ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。
- ◆ バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。
- ◆ このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、Networks Associates Technology, Inc. またはその貢献者の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、著作権保持者および貢献者から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。所有権保持者または貢献者は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中止など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知していても、責任を負わないものとします。

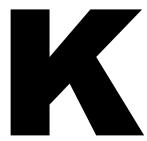
Cambridge Broadband Ltd. の著作権に関する通知 (BSD)

本製品には、Cambridge Broadband Ltd. によって開発されたコードが含まれています。
Copyright (c) 2001-2002, Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ◆ ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。
- ◆ バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。
- ◆ このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、Cambridge Broadband Ltd. の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、著作権保持者から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。著作権保持者は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害（代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中止など）に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任（過失責任を含む）のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知していても、責任を負わないものとします。



正規表現の実装に関するライセンス契約

Novell® ZENworks® Server Management ソフトウェアで使用されている、正規表現の実装に関するサードパーティコードのライセンス契約は、以下のとおりです。

Copyright 1992, 1993, 1994 Henry Spencer.

All rights reserved.

本ソフトウェアは、American Telephone and Telegraph Company または Regents of the University of California のいずれのライセンス規定にも属していません。

以下に示す制約への準拠を条件に、任意の個人 / 団体が、任意のコンピュータシステム上で任意の目的で本ソフトウェアを使用、改変、再配布することを許可します。

1. 作成者は、本ソフトウェアの使用に起因する結果に対し、問題の重大性に関わらず、たとえソフトウェアの欠陥によって生じた問題であった場合でも、一切責任を負いません。
2. 本ソフトウェアの提供元を、明示による主張または省略によって、不正確に伝えることを禁止します。ほとんどのユーザはソースをまったく読まないため、提供者へのクレジットを資料内に必ず提示してください。
3. 改変されたバージョンは、それと認識できるよう、明確に提示されている必要があり、それをオリジナルのソフトウェアであるとして不正確に伝えることを禁止します。ほとんどのユーザはソースをまったく読まないため、提供者へのクレジットを資料内に必ず提示してください。
4. この告知を削除または変更することはできません。

L

ドキュメントの更新

この節では、Novell® ZENworks® 6.5 Server Management の最初のリリース以降に、『インストール』ガイドに加えられたドキュメント内容の変更について説明します。お使いのドキュメントを最新の状態に更新するために、この情報を役立ててください。

この節で列挙する変更はすべてドキュメントにも反映されているものです。マニュアルは、Web 上で HTML と PDF の 2 つの形式で提供されています。HTML および PDF ドキュメントは、ここに示すドキュメントの変更に基づいて最新の状態になっています。

ドキュメントの変更が発行された日付ごとに、更新情報をグループ化しています。日付の付いた節の中では、ZENworks 6.5 Server Management の目次に記載されている節名に基づいて、アルファベット順に変更を示しています。

使用している PDF ドキュメントのコピーが最新の内容であるかどうかを確認するには、PDF ドキュメントのタイトルページ、またはタイトルページのすぐ後ろの法的通知の欄で、発行された日付を参照してください。

ドキュメントは次に示す日付で更新されました。

- ◆ 425 ページの「2004 年 2 月 11 日」
- ◆ 428 ページの「2004 年 11 月 24 日」
- ◆ 428 ページの「2004 年 9 月 2 日」
- ◆ 430 ページの「2004 年 7 月 28 日」

2004 年 2 月 11 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

- ◆ [準備](#)
- ◆ [インストール](#)
- ◆ [アップグレード](#)
- ◆ [相互運用性](#)
- ◆ [アンインストール](#)
- ◆ [付録](#)

準備

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
2 章 27 ページの 「必要な情報」 および	「ZENworks」ツリーの情報が追加されました。この情報は、『ZENworks Desktop Management 管理ガイド』の付録にも記載されています。ZENworks オブジェクトに専用のツリーを使用してツリー管理を容易にすることをお勧めしています。
32 ページの 「Novell eDirectory の要 件」	
36 ページの「専 用の ZENworks ツ リー」	専用の ZENworks ツリーに関する節が追加されました。また、その節の前後で 2 つの節が再構成されました。
5 章 43 ページの 「サーバの要件」	2 つのオペレーティングシステム (Novell Open Enterprise Server (OES) と Citrix* Metaframe への新しいサポートで、この節が更新されました。

インストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
98 ページの 「Policy and Distribution Services」	「ネットワークオペレーティングシステムが混在する環境での Distributor の設定」節は該当しなくなったため削除しました。ZENworks 6.5 SP1 Distributors は、eDirectory 8.x が稼動するサーバ上でのみ有効です。これにより、eDirectory 8.x の認証ができなかった Distributor サーバの問題が解決されます。

アップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
119 ページの 「アップグレ ード」	「Interim Release 1」のすべての参照箇所を「Interim Release 2」に置き換えました。Interim Release 2 は、ZENworks for Servers 3.0.2 を最低限サポートしたリリースです。
125 ページの 「ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップ グレード」	ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップグレードについて説明するために、この新しい節が追加されました。
145 ページの 「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」	ZENworks 6.5 SP1 の変更点と新機能について説明したこの新しい節が追加されました。

場所	変更
10 章 151 ページの「ZENworks 6.5 Server Management Support Pack 1」	ZENworks 6.5 Server Management の SP1 へのアップグレードについて説明するために、この新しい節が追加されました。 この節には、すべての Server Management コンポーネントを SP1 にアップグレードするための手順が含まれています。

相互運用性

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
269 ページの「相互運用性」	「Interim Release 1」のすべての参照箇所を「Interim Release 2」に置き換えました。Interim Release 2 は、ZENworks for Servers 3.0.2 を最低限サポートしたリリースです。
17 章 273 ページの「インベントリの相互運用性」	Support Pack 1 に対する多数の変更で、この節が更新されました。

アンインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
298 ページの「Web コンポーネントのアンインストール」	iManager 2.0.2 の修正と iManager 2.5 の新しい手順についてこの節を書き換えました。

付録

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
335 ページの「クラスタ環境での ZENworks Server Management」	Novell Cluster Services 環境への Server Inventory のインストールに関する情報についてこの節を更新しました。

2004 年 11 月 24 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

- ◆ アップグレード
- ◆ 相互運用性

アップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
242 ページの 「Server Software Package を使用し た Server Inventory コン ポーネントのアッ プグレード」	Server Inventory の説明のために、この節が追加されました。
252 ページの 「Server Software Package を使用し たアップグレード」	Remote Management の説明のために、この節が追加されました。
259 ページの 「Server Software Package を使用し たアップグレード」	Management and Monitoring Services の説明のために、この節が追加され ました。

相互運用性

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
17 章 273 ページ の「インベントリ の相互運用性」	次の前提条件が追加されました。 ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management とが同 一サーバにインストールされている場合、ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントは、ZENworks 6.5 Desktop Management の Workstation Inventory コンポーネントとの間でのみ相互運用できます。

2004 年 9 月 2 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

- ◆ 準備
- ◆ インストール
- ◆ 付録

準備

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
33 ページの 「eDirectory の バージョンの確認」	Linux および Solaris で eDirectory バージョンを決定する方法に関する情報が追加されました。
34 ページの 「Linux または Solaris サーバで の eDirectory のイ ンストールまたは アップグレード」	Linux サーバまたは Solaris サーバで eDirectory をインストールまたはアップグレードする方法を説明するために、この節が追加されました。
42 ページの 「ConsoleOne 1.3.6 のインストール」	Linux および Solaris が動作するコンピュータに ConsoleOne をインストールする方法に関する情報が追加されました。

インストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
106 ページの「 サーバに対するボ リシーの設定」	この節は更新されました。

付録

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更
375 ページの 「Server Inventory のインストールエ ラー」	Server Inventory インストールのエラーメッセージを格納するログファイルの場所が修正されました。

2004 年 7 月 28 日

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
375 ページの 「Server Inventory のインストールエ ラー」	この節は新しいエラーメッセージで更新されました。
410 ページの 「Remote Management のイン ストールエラー」	この節は新しいエラーメッセージで更新されました。